茨城県教育財団文化財調査報告第127集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3

高野台遺跡
前田村遺跡D・F区
(上　巻)

作業室用

平成9年9月

茨　城　県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第127集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３

高野台遺跡
前田村遺跡Ｄ・Ｆ区
（上　巻）

平成９年９月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

前田村遺跡出土土器（Ｄ区）

前田村遺跡出土土器（Ｆ区）

序

茨城県は，周辺環境との調和を重視し，多様な住居ニーズに対応した住居環境を整備しつつ，新しいまちの形成を図るために，公共施設の整備改善と宅地の利用増進を進めております。

その一環として,「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業」を進めており，その予定地内に埋蔵文化財包蔵地である高野台遺跡，西ノ脇遺跡，前田村遺跡が確認されております。

財団法人茨城県教育財団は，茨城県と開発地域内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託契約を結び，平成４年４月から発掘調査を実施してまいりました。その成果の一部は，既に「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１・２」として刊行しました。

本書は，平成６年度に調査を行った高野台遺跡，前田村遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が，研究の資料としてはもとより，郷土の歴史の理解を深めると共に，教育，文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，伊奈町教育委員会，谷和原村教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに，衷心より感謝の意を表します。

平成９年９月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

例　　言

1　本書は，平成６年度に茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が発掘調査を実施した茨城県筑波郡伊奈町大字小張字高野台3,116－１ほかに所在する高野台遺跡と筑波郡谷和原村大字田字白ハタ817ほかに所在する前田村遺跡の発掘調査報告書である。

2　高野台遺跡と前田村遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		礒田　勇	昭和63年６月 ～ 平成７年３月
		橋本　昌	平成７年４月 ～
副理事長		小林秀文	平成６年４月 ～ 平成８年３月
		中島弘光	平成７年４月 ～
		齋藤佳郎	平成８年４月 ～
専務理事		中島弘光	平成５年４月 ～ 平成７年３月
常務理事		梅澤秀夫	平成８年４月 ～ 平成９年３月
		齋藤紀彦	平成９年４月 ～
事務局長		藤枝宣一	平成４年４月 ～ 平成７年３月
		小林隆郎	平成８年４月 ～ 平成９年３月
		西村敏一	平成９年４月 ～
埋蔵文化財部長		安藏幸重	平成５年４月 ～ 平成８年３月
		沼田文夫	平成８年４月 ～
埋蔵文化財部長代理		河野佑司	平成６年４月 ～
企画管理課	課長	水飼敏夫	平成４年４月 ～ 平成８年３月
	課長	小幡弘明	平成８年４月 ～ 平成９年３月
	課長	河崎孝典	平成９年４月 ～
	課長代理	根本達夫	平成７年４月 ～
	課長代理	清水　薫	平成９年４月 ～(平成８年４月～平成９年３月係長)
	主任調査員	海老沢　稔	平成６年４月 ～ 平成８年３月
	主任調査員	小高五十二	平成８年４月 ～
経理課	課長	小幡弘明	平成５年４月 ～ 平成８年３月
	課長	河崎孝典	平成８年４月 ～ 平成９年３月
	課長	鈴木三郎	平成９年４月 ～(平成７年４月～平成８年３月主査)
	主査	田所多佳男	平成８年４月 ～
	課長代理	大高春夫	平成７年４月 ～ 平成９年３月(平成６年４月～平成７年３月係長)
	主任	小池　孝	平成７年４月 ～
	主任	宮本　勉	平成９年４月 ～
	主事	軍司浩作	平成５年４月 ～ 平成８年３月
	主事	柳澤松雄	平成８年４月 ～ 平成９年３月
	主事	小西孝典	平成９年４月 ～

調査課	課長(部長兼務)	安藏幸重	平成5年4月 ～ 平成8年3月
	班長	根本康弘	平成6年4月 ～ 平成7年3月
	主任調査員	大森雅之	平成6年4月 ～ 平成7年3月　調査
	主任調査員	吉原作平	平成6年4月 ～ 平成7年3月　調査
	調査員	土生朗治	平成6年4月 ～ 平成6年9月　調査
	調査員	宮﨑修士	平成6年10月 ～ 平成7年3月　調査
整理課	課長	山本静男	平成7年4月 ～ 平成9年3月
	課長	小泉光正	平成9年4月 ～
	首席調査員	川井正一	平成8年4月 ～
	主任調査員	吉原作平	平成8年4月 ～ 平成9年3月　整理・執筆
	主任調査員	宮﨑修士	平成9年4月 ～ 平成9年9月　整理・執筆・編集

3　本書で使用した記号等については，凡例を参照されたい。なお，第1章から4章までの整理・執筆は吉原が，第4章の整理・執筆及び編集は宮崎が担当した。

4　本書の作成にあたり，陶磁器の年代と生産地については，出光美術館学芸員の荒川正明氏から，地下式壙と墓域については江崎武氏から，古墳時代後期の遺物については埼玉県埋蔵文化財調査事業団の坂野和信氏から御指導をいただいた。人骨，獣骨は国立歴史民俗博物館助教授の西本豊弘氏から鑑定・分析をいただき，福島県の縄文時代中期の土器の実見に当たっては，福島県文化センターの鈴木良一氏，並びに福島市振興公社の原充広氏，植村泰徳氏，高荒淳氏に御協力を得た。

5　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

6　遺跡の概略

ふりがな	いな・やわらきゅうりょうぶとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	高野台遺跡，前田村遺跡D・F区
巻次	3
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第127集
著者名	吉原作平　宮﨑修士
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029－225－6587
発行日	1997（平成9）年9月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こうやだい 高野台遺跡	いばらきけんつくばぐんいなまち 茨城県筑波郡伊奈町 おおあざおばりあざこうやだい 大字小張字高野台 3，116－1ほか	084824 －20	35度 59分24秒	140度 2分43秒	19940401 ～ 19950331	6，584㎡	伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業に伴う事前調査
まえだむら 前田村遺跡	いばらきけんつくばぐんやわらむら 茨城県筑波郡谷和原村 おおあざたあざしらはた 大字田字白ハタ 817ほか	08483 －19	36度 0分08秒	140度 2分15秒		17，357㎡	

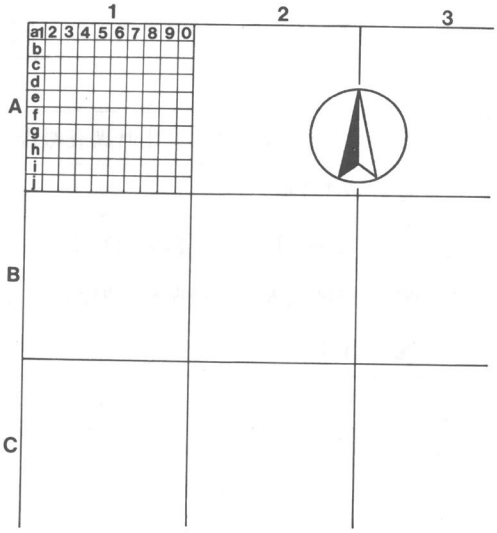
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高野台遺跡	包蔵地 包蔵地 包蔵地	旧石器 縄文 弥生 不明	 竪穴状遺構　1基 土坑　54基 溝　4条 その他	剥片 縄文土器 石製品，石器 弥生土器	旧石器時代，縄文時代早期から中期，弥生時代にかけての遺跡である。
前田村遺跡	集落跡 集落跡 集落跡 墓地跡 墓地跡	縄文 古墳 平安 中世 近世 不明	竪穴住居跡　63軒 土坑　714基 墓壙　1基 遺物包含層2か所 竪穴住居跡　4軒 竪穴住居跡　3軒 地下式壙　16基 墓壙　1基 井戸　6基 墓壙　3基 溝　43条 墓壙　9基 井戸　6基 道路状遺構　1条	縄文土器 石器・土製品 土師器・須恵器 土師器・須恵器 土製品 陶器 土師質土器 磁器・五輪塔 古銭・金属製品	縄文時代から平安時代の集落跡及び中世から近世の墓跡等の複合遺跡である。

凡　　例

1　地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，高野台遺跡はX軸＝－960m，Y軸＝＋19,200m，前田村遺跡はX軸＝＋500m，Y軸＝＋17,480mの交点を基準点とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C……，西から東へ1，2，3……とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c……j，西から東へ1，2，3……0とし，名称は，大調査区の名称を冠し，「A1a1区」，「B2b2区」のように呼称した。



第1図　調査区呼称方法概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構	住居跡－ＳＩ	土坑－ＳＫ	溝－ＳＤ	井戸－ＳＥ	不明遺構－ＳＸ
遺物	土器・陶器－Ｐ	土製品－ＤＰ	石製品－Ｑ	金属製品・古銭－Ｍ	拓本土器－ＴＰ
土層	撹乱－Ｋ				

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

竈・炉・繊維　粘土　焼土　黒色処理　赤彩　釉薬

●　土器　★　土製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺跡の全体図は縮尺200分の1，住居跡や土坑，不明遺構は60分の1に縮尺し掲載した。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，個々にＳ＝1／○と表示した。

(3)　「主軸方向」は長径方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E，　N－10°－W)。なお，［　］を付したものは推定である。

(4)　土器の計測値は，A－口径　B－器高　C－底径　D－高台径　E－高台高　とし，単位は㎝である。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

(5)　遺物観察表の備考の欄は，土器の残存率，実測（P）番号，出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目　　次

── 上　　巻 ──

序
例　言
凡例
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　高野台遺跡 …… 9
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　基本層序 …… 9
　第３節　遺構と遺物 …… 10
　　1　竪穴状遺構 …… 10
　　2　土坑 …… 11
　　3　溝 …… 18
　　4　遺構外出土遺物 …… 20
　第４節　まとめ …… 23
第４章　前田村遺跡 …… 24
　第１節　遺跡の概要 …… 24
　第２節　基本層序 …… 24
　第３節　遺構と遺物 …… 26
　　D区
　　1　竪穴住居跡 …… 26
　　2　土坑 …… 125
　　（1）袋状土坑 …… 125
　　（2）地下式壙 …… 140
　　（3）墓壙 …… 159
　　（4）粘土張り遺構 …… 167
　　（5）その他 …… 175
　　3　井戸 …… 222
　　4　溝 …… 231
　　5　遺構外出土遺物 …… 238

―― 下　　巻 ――

F区
1　竪穴住居跡跡 …… 1
(1)　縄文時代 …… 1
(2)　古墳時代 …… 43
(3)　平安時代 …… 63
2　土坑 …… 69
(1)　土　坑 …… 69
(2)　地下式壙 …… 72
(3)　墓　壙 …… 75
(4)　粘土張り遺構 …… 76
(5)　その他 …… 77
3　井　戸 ……109
4　道路状遺構 ……113
5　溝 ……114
6　遺物包含層 ……116
7　遺構外出土遺物 ……130
第4節　まとめ ……143
付章
前田村遺跡出土の人骨と動物遺体 ……147
写真図版

挿　図　目　次

―― 上　　巻 ――

第1図　調査区呼称方法概念図
第2図　高野台遺跡調査区割図…… 3
第3図　前田村遺跡調査区割図…… 4
第4図　高野台・前田村遺跡周辺遺跡分布図…… 8
（高野台遺跡）
第5図　高野台遺跡基本土層図…… 9
第6図　第1号竪穴状遺構実測図……10
第7図　第1号竪穴状遺構出土遺物実測・拓影図……10
第8図　土坑実測図(1)……15
第9図　土坑実測図(2)……16
第10図　土坑・溝出土遺物実測・拓影図(1)……19
第11図　土坑・溝出土遺物実測・図(2)……20
第12図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)……21
第13図　遺構外出土遺物実測図(2)……22
（前田村遺跡）
第14図　前田村遺跡D区基本土層図……24
第15図　前田村遺跡F区基本土層図……25
D区
第16図　第240号住居跡実測図 ……26
第17図　第240号住居跡出土遺物実測・拓影図 …27
第18図　第241号住居跡実測図 ……29
第19図　第241号住居跡出土遺物実測・拓影図 …30
第20図　第242号住居跡実測図 ……31
第21図　第242号住居跡出土遺物実測・拓影図 …31
第22図　第243・244号住居跡実測図……33

第23図　第243・244号住居跡炉実測図……34
第24図　第243号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) 35
第25図　第243号住居跡出土遺物実測・拓影図(2) 36
第26図　第244号住居跡出土遺物実測・拓影図 …37
第27図　第245号住居跡実測図 ……39
第28図　第245号住居跡出土遺物実測・拓影図 …40
第29図　第246号住居跡実測図 ……41
第30図　第246号住居跡出土遺物実測・拓影図 …42
第31図　第247号住居跡実測図 ……44
第32図　第247号住居跡出土遺物実測・拓影図 …44
第33図　第248号住居跡実測図 ……46
第34図　第248号住居跡出土遺物実測・拓影図 …47
第35図　第249号住居跡実測図 ……48
第36図　第250号住居跡実測図 ……50
第37図　第250号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1) …… 51
第38図　第250号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2)……52
第39図　第251号住居跡実測図 ……53
第40図　第251号住居跡出土遺物実測・拓影図 …53
第41図　第252・253号住居跡実測図……55
第42図　第252号住居跡出土遺物実測・拓影図 …55
第43図　第253号住居跡出土遺物実測・拓影図 …56
第44図　第254号住居跡実測図 ……58
第45図　第254号住居跡出土遺物実測・拓影図 …59
第46図　第255号住居跡実測図 ……60
第47図　第255号住居跡出土遺物実測・拓影図 …60
第48図　第256号住居跡実測図 ……62
第49図　第256号住居跡出土遺物実測・拓影図 …62
第50図　第260号住居跡実測・出土遺物位置図 …63
第51図　第260号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1)……64
第52図　第260号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2)……65
第53図　第261号住居跡実測図 ……66
第54図　第261号住居跡出土遺物実測・拓影図 …67
第55図　第262号住居跡実測図 ……68
第56図　第262号住居跡出土遺物実測・拓影図 …69
第57図　第264号住居跡実測図 ……70
第58図　第264号住居跡出土遺物実測・拓影図 …71
第59図　第265号住居跡実測図 ……72
第60図　第265号住居跡出土遺物実測・拓影図 …73
第61図　第266号住居跡実測図 ……74
第62図　第266号住居跡出土遺物実測・拓影図 …74
第63図　第267号住居跡実測図 ……76
第64図　第267号住居跡出土遺物実測・拓影図 …76
第65図　第268号住居跡実測・出土遺物位置図 …78
第66図　第268号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1)……79
第67図　第268号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2)……80
第68図　第269号住居跡実測図 ……82
第69図　第269号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1)……83
第70図　第269号住居跡出土遺物実測図(2) ……84
第71図　第271・272号住居跡実測図……85
第72図　第271号住居跡出土遺物実測・拓影図 …85
第73図　第272号住居跡出土遺物実測・拓影図 …87
第74図　第273号住居跡実測図 ……88
第75図　第273号住居跡出土遺物実測・拓影図 …89
第76図　第281号住居跡実測図 ……90
第77図　第283号住居跡実測図 ……91
第78図　第283号住居跡出土遺物実測・拓影図 …91
第79図　第285号住居跡実測図 ……92
第80図　第285号住居跡出土遺物実測・拓影図 …92
第81図　第287・291号住居跡実測図……93
第82図　第288号住居跡実測図 ……94
第83図　第288号住居跡出土遺物実測・拓影図 …94
第84図　第289号住居跡実測図 ……96
第85図　第289号住居跡出土遺物実測・拓影図 …97
第86図　第290号住居跡実測図 ……98
第87図　第290号住居跡出土遺物位置図 ……99
第88図　第290号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1) ……100
第89図　第290号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2) ……101

第 90 図　第290号住居跡出土遺物実測図(3) ……102
第 91 図　第291号住居跡出土遺物実測・拓影図…103
第 92 図　第292号住居跡実測図 ……105
第 93 図　第292号住居跡出土遺物実測・拓影図 105
第 94 図　第293号住居跡実測図 ……106
第 95 図　第293号住居跡出土遺物実測・拓影図 107
第 96 図　第294号住居跡実測図 ……108
第 97 図　第294号住居跡出土遺物実測・拓影図 108
第 98 図　第295号住居跡実測図 ……109
第 99 図　第296号住居跡実測図 ……110
第100図　第297号住居跡実測図 ……111
第101図　第297号住居跡出土遺物実測・
拓影図 ……112
第102図　第299号住居跡実測・
出土遺物実測図 ……113
第103図　第300Ａ・Ｂ号住居跡実測図 ……115
第104図　第300Ａ号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1) ……116
第105図　第300Ａ号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2) ……117
第106図　第301号住居跡実測図 ……119
第107図　第310号住居跡実測図 ……120
第108図　第310号住居跡出土遺物実測・
拓影図(1) ……121
第109図　第310号住居跡出土遺物実測・
拓影図(2) ……122
第110図　袋状土坑実測図(1)……129
第111図　袋状土坑実測図(2)……130
第112図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(1)……133
第113図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(2)……134
第114図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(3)……135
第115図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(4)……136
第116図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(5)……137
第117図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(6)……138
第118図　第 8 号地下式壙実測図……141
第119図　第 8 号地下式壙出土遺物実測図……141
第120図　第 9 号地下式壙実測図……142
第121図　第 9 号地下式壙出土遺物実測図……142
第122図　第10号地下式壙実測図……144
第123図　第11号地下式壙実測図……145
第124図　第12号地下式壙実測図……146
第125図　第12号地下式壙出土遺物実測・拓影図 147
第126図　第13号地下式壙実測図……148
第127図　第14号地下式壙実測図……149
第128図　第15号地下式壙実測図……150
第129図　第15号地下式壙出土遺物実測図……151
第130図　第16号地下式壙実測図……152
第131図　第17号地下式壙実測図……153
第132図　第18号地下式壙実測・
出土遺物実測図 ……154
第133図　第19号地下式壙実測図……155
第134図　第20号地下式壙実測図……156
第135図　第20号地下式壙出土遺物実測・
拓影図 ……156
第136図　第21号地下式壙実測・
出土遺物実測図 ……158
第137図　第1158号土坑実測図……159
第138図　第1158号土坑出土遺物実測・拓影図…160
第139図　第1605号土坑出土遺物実測・拓影図…162
第140図　墓壙実測図……166
第141図　第1757号粘土張り遺構出土遺物
実測図 ……172
第142図　粘土張り遺構実測図(1)……174
第143図　粘土張り遺構実測図(2)……175
第144図　その他の土坑実測図(1)……176
第145図　その他の土坑実測図(2)……177
第146図　その他の土坑実測図(3)……178
第147図　その他の土坑実測図(4)……179
第148図　その他の土坑出土遺物実測・
拓影図(1) ……180
第149図　その他の土坑出土遺物実測・
拓影図(2) ……181
第150図　その他の土坑出土遺物実測・
拓影図(3) ……182
第151図　その他の土坑出土遺物実測・
拓影図(4) ……183

第152図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(5) ……184
第153図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(6) ……185
第154図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(7) ……186
第155図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(8) ……187
第156図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(9) ……188
第157図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(10) ……189
第158図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(11) ……190
第159図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(12) ……191
第160図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(13) ……192
第161図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(14) ……193
第162図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(15) ……194
第163図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(16) ……195
第164図　その他の土坑出土遺物実測図(17)……196
第165図　その他の土坑出土遺物実測図(18)……197
第166図　その他の土坑出土遺物実測図(19)……198
第167図　その他の土坑出土遺物実測図(20)……199
第168図　その他の土坑出土遺物実測図(21)……200
第169図　その他の土坑出土遺物実測図(22)……201
第170図　その他の土坑出土遺物実測図(23)……202
第171図　第７・８・９・10号井戸実測図 ……225
第172図　第11・12・16号井戸実測図……226
第173図　第13号井戸実測図……227
第174図　第７・９号井戸出土遺物実測・拓影図…228
第175図　第９・10号井戸出土遺物実測・拓影図…229
第176図　第13号井戸出土遺物実測・拓影図……230
第177図　溝出土遺物実測・拓影図(1)……233
第178図　溝出土遺物実測・拓影図(2)……234
第179図　溝出土遺物実測図(3)……235
第180図　溝出土遺物実測図(4)……236
第181図　溝出土遺物実測図(5)……237
第182図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)……240
第183図　遺構外出土遺物実測・拓影図(2)……241
第184図　遺構外出土遺物実測・拓影図(3)……242
第185図　遺構外出土遺物実測・拓影図(4)……243
第186図　遺構外出土遺物実測・拓影図(5)……244
第187図　遺構外出土遺物実測図(6)……245
第188図　遺構外出土遺物実測図(7)……246
第189図　遺構外出土遺物実測図(8)……247
第190図　遺構外出土遺物実測・拓影図(9)……248
第191図　遺構外出土遺物実測図(10)……249
第192図　遺構外出土遺物実測・拓影図(11)……250

— 下　巻 —

F区

第193図　第318号住居跡実測・出土遺物位置図… 2
第194図　第318号住居跡出土遺物実測・拓影図… 3
第195図　第319号住居跡実測図…… 5
第196図　第319号住居跡出土遺物実測・拓影図… 6
第197図　第320号住居跡実測図…… 7
第198図　第320号住居跡出土遺物実測・拓影図… 8
第199図　第321号住居跡実測図 …… 10
第200図　第321号住居跡出土遺物位置図 …… 11
第201図　第321号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) …… 12
第202図　第321号住居跡出土遺物実測・拓影図(2) …… 13
第203図　第322号住居跡実測図 …… 15
第204図　第322号住居跡出土遺物実測・拓影図　16
第205図　第323号住居跡実測図 …… 17
第206図　第323号住居跡出土遺物実測・拓影図　18
第207図　第324号住居跡実測図 …… 20

第208図　第324号住居跡出土遺物実測・拓影図　21
第209図　第325・329号住居跡実測図…… 22
第210図　第325号住居跡出土遺物実測・拓影図　23
第211図　第326号住居跡実測図 …… 25
第212図　第326号住居跡出土遺物実測・拓影図　26
第213図　第327号住居跡実測図 …… 27
第214図　第327号住居跡出土遺物実測・拓影図　28
第215図　第328号住居跡実測図 …… 29
第216図　第328号住居跡出土遺物実測・拓影図　30
第217図　第329号住居跡出土遺物実測・拓影図　32
第218図　第330号住居跡実測図 …… 33
第219図　第330号住居跡出土遺物実測・拓影図　33
第220図　第331号住居跡実測図 …… 35
第221図　第331号住居跡出土遺物実測・拓影図　35
第222図　第332号住居跡実測図 …… 36
第223図　第332号住居跡出土遺物実測・拓影図(1) …… 37
第224図　第332号住居跡出土遺物実測・拓影図(2) …… 38
第225図　第333号住居跡実測図 …… 40
第226図　第333号住居跡出土遺物実測・拓影図　41
第227図　第335号住居跡実測図 …… 42
第228図　第335号住居跡出土遺物実測・拓影図　42
第229図　第313号住居跡実測図 …… 44
第230図　第313号住居跡実測・出土遺物位置図　45
第231図　第313号住居跡出土遺物実測図(1) …… 47
第232図　第313号住居跡出土遺物実測図(2) …… 48
第233図　第313号住居跡出土遺物実測・拓影図(3) …… 49
第234図　第314号住居跡実測図 …… 51
第235図　第314号住居跡出土遺物実測・拓影図　53
第236図　第315号住居跡実測図 …… 55
第237図　第315号住居跡実測・出土遺物位置図　56
第238図　第315号住居跡出土遺物実測図(1) …… 58
第239図　第315号住居跡出土遺物実測図(2) …… 59
第240図　第315号住居跡出土遺物実測図(3) …… 60
第241図　第316号住居跡実測図 …… 61
第242図　第316号住居跡出土遺物実測・拓影図　62
第243図　第311号住居跡実測図 …… 64
第244図　第311号住居跡出土遺物実測図 …… 64
第245図　第312号住居跡実測図 …… 65
第246図　第312号住居跡出土遺物実測・拓影図　65
第247図　第334号住居跡実測図 …… 67
第248図　第334号住居跡出土遺物実測図 …… 67
第249図　土坑実測図…… 70
第250図　土坑出土遺物実測・拓影図…… 71
第251図　第22号地下式壙実測図…… 73
第252図　第23号地下式壙実測図…… 74
第253図　墓壙実測図…… 75
第254図　墓壙出土遺物拓影図…… 75
第255図　粘土張り遺構実測図…… 76
第256図　その他の土坑実測図(1)…… 77
第257図　その他の土坑実測図(2)…… 78
第258図　その他の土坑実測図(3)…… 79
第259図　その他の土坑実測図(4)…… 80
第260図　その他の土坑実測図(5)…… 81
第261図　その他の土坑実測図(6)…… 82
第262図　その他の土坑実測図(7)…… 83
第263図　その他の土坑実測図(8)…… 84
第264図　その他の土坑実測図(9)…… 85
第265図　その他の土坑実測図(10)…… 86
第266図　その他の土坑実測図(11)…… 87
第267図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(1) …… 93
第268図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(2) …… 94
第269図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(3) …… 95
第270図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(4) 96
第271図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(5) 97
第272図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(6) 98
第273図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(7) 99
第274図　その他の土坑出土遺物実測図(8) …… 100
第275図　その他の土坑出土遺物実測図(9) …… 101
第276図　その他の土坑出土遺物実測図(10) …… 102
第277図　井戸実測図 …… 111

第278図　井戸出土遺物実測図 …… 112
第279図　第１号道路状遺構実測図 …… 113
第280図　溝出土遺物実測図 …… 114
第281図　第１遺物包含層実測図 …… 118
第282図　第１遺物包含層出土遺物実測・拓影図(1)…… 119
第283図　第１遺物包含層出土遺物実測・拓影図(2)…… 120
第284図　第１遺物包含層出土遺物実測・拓影図(3)…… 121
第285図　第１遺物包含層出土遺物実測図(4) … 122
第286図　第２遺物包含層実測図 …… 125
第287図　第２遺物包含層出土遺物実測・拓影図(1)…… 126
第288図　第２遺物包含層出土遺物実測・拓影図(2)…… 127
第289図　第２遺物包含層出土遺物実測・拓影図(3)…… 128
第290図　第２遺物包含層出土遺物実測・拓影図(4)…… 129
第291図　第２遺物包含層出土遺物実測図(5) … 130
第292図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1) …… 134
第293図　遺構外出土遺物実測・拓影図(2) …… 135
第294図　遺構外出土遺物実測・拓影図(3) …… 136
第295図　遺構外出土遺物実測・拓影図(4) …… 137
第296図　遺構外出土遺物実測・拓影図(5) …… 138
第297図　遺構外出土遺物実測・拓影図(6) …… 139
第298図　遺構外出土遺物実測図(7) …… 140
第299図　遺構外出土遺物実測図(8) …… 141
第300図　遺構外出土遺物実測図(9) …… 142

付　　図

付図１　高野台遺跡遺構配置図
付図２　前田村遺跡Ｄ区遺構配置図
付図３　前田村遺跡Ｆ区遺構配置図

表　目　次

— 上　巻 —

表１　高野台・前田村遺跡周辺遺跡一覧表 …… 7
表２　高野台遺跡土坑一覧表 …… 17
表３　高野台遺跡溝一覧表 …… 18
表４　前田村遺跡Ｄ区住居跡一覧表…… 123
表５　前田村遺跡Ｄ区土坑一覧表…… 209
表６　前田村遺跡Ｄ区溝一覧表…… 237

— 下　巻 —

表７　前田村遺跡Ｆ区住居跡一覧表 …… 68
表８　前田村遺跡Ｆ区土坑一覧表 ……107
表９　前田村遺跡Ｆ区溝一覧表 ……115

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

伊奈・谷和原丘陵部土地の区画利用は，常磐新線による伊奈町，谷和原村の玄関口として都市性の高い街を計画的に整備するために，駅を中心とした商業・業務機能や住宅地及び誘致施設などを中心として計画された。

この事業に先立ち，茨城県常磐新線整備推進課は，茨城県教育委員会（以下，「県教育委員会」とする。）に，伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会した。これに対し県教育委員会は，伊奈町教育委員会，谷和原村教育委員会と埋蔵文化財所在の有無及びその取り扱いについて協議した。その結果，伊奈町には高野台遺跡が，谷和原村には西ノ脇遺跡，前田村遺跡が所在することを確認し，県教育委員会は常磐新線整備推進課に開発地域内に埋蔵文化財の包蔵地が所在することを回答した。平成3年11月，常磐新線整備推進課は，県教育委員会と伊奈，谷和原丘陵部地内における埋蔵文化財包蔵地の範囲の確認及びその取り扱いについて協議を重ねた結果，記録保存の措置を講ずることとし，県教育委員会は平成3年度末に事務手続きが常磐新線整備推進課から移った土浦土木事務所に対し，調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

平成4年度からは，伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業の取り扱いについては，土浦土木事務所から今回の開発のための組織された茨城県県南都市建設事務所に移行された。

茨城県教育財団は，茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け，平成4年4月1日から西ノ脇遺跡，前田村遺跡の発掘調査を実施することになった。

第2節　調査経過

高野台遺跡と前田村遺跡D区とF区とG区（遺構確認まで）の発掘調査は，平成6年4月1日から平成7月3月31日までの1年間にわたって実施した。以下，調査経過について，その概要を記述する。

4月　8日から調査のための諸準備を行った。11日に県南都市建設事務所区画整理課と今後の調査についての打ち合わせを行った。同日から補助員を投入し，D区の遺構確認作業及び調査を開始した。

5月　4月に引き続きD区の竪穴住居跡，土坑の発掘調査をした。13日から16日までF区の除草作業及び篠竹伐開を行い，17日からグリットを設定し，24日から試掘を開始した。同時にG区の試掘も行った。さらに，高野台遺跡のグリット設定を25日から開始した。

6月　前月に引き続き，D区の竪穴住居跡，土坑の発掘調査をした。6日に高野台遺跡の試掘を行った。

7月　前月に引き続き，D区の竪穴住居跡，土坑の発掘調査をした。4日からG区の重機による表土除去を開始し，8日から遺構確認作業を併せて行った。19日からF区の重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。26日にG区の表土除去及び遺構確認作業を終了した。

8月　前月に引き続き，D区の竪穴住居跡，土坑の発掘調査及びF区の重機による表土除去及び遺構確認作業をした。8日から高野台遺跡の補助員の駐車場確保のため松林伐開及び整地を開始した。17日に高野台遺跡発掘調査のために休憩用のテント一張り，トイレ，現場倉庫一棟を設置し，併せて発掘調査の諸準備をした。

24日にF区の遺構確認作業を終了し，竪穴住居跡24軒，土坑120基，地下式壙2基，溝18条を確認し

た。25日から高野台遺跡に補助員を投入し，重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。

9月　前月に引き続き，D区の竪穴住居跡，土坑の発掘調査及び高野台遺跡の重機による表土除去及び遺構確認作業をした。13日に高野台遺跡の遺構確認作業を終了し，竪穴状遺構1基，土坑51基，溝4条を確認した。19日から高野台遺跡の発掘調査も平行して開始した。

10月　前月に引き続き，D区の竪穴住居跡，土坑，溝の発掘調査及び高野台遺跡の竪穴状遺構，土坑の発掘調査をした。7日から平行してF区の発掘調査を開始した。

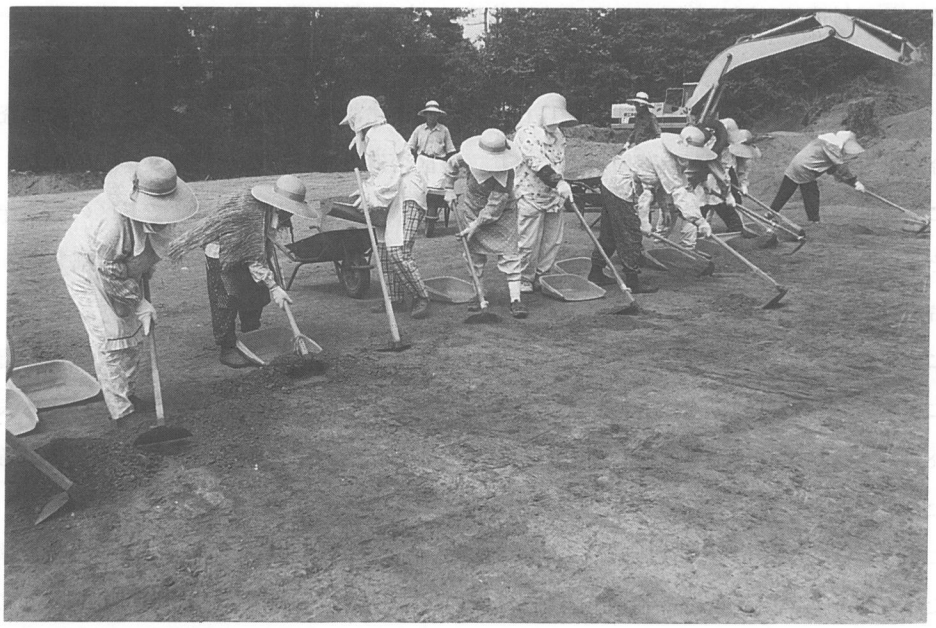
11月　前月に引き続き，D区とF区の竪穴住居跡，土坑，地下式壙，溝の発掘調査をした。中旬までに高野台遺跡の発掘調査はほぼ終了したため，補足調査を行った。下旬に高野台遺跡の遺構を清掃し全景の写真撮影を行った。

12月　前月に引き続き，D区とF区の竪穴住居跡，土坑，地下式壙，溝の発掘調査をした。中旬にD区の発掘調査がほぼ終了したため，遺構を清掃し全景の写真撮影を行った。調査の結果D区の遺構数は，竪穴住居跡47軒，土坑680基，地下式壙17基，井戸11基，溝18条，その他3基である。

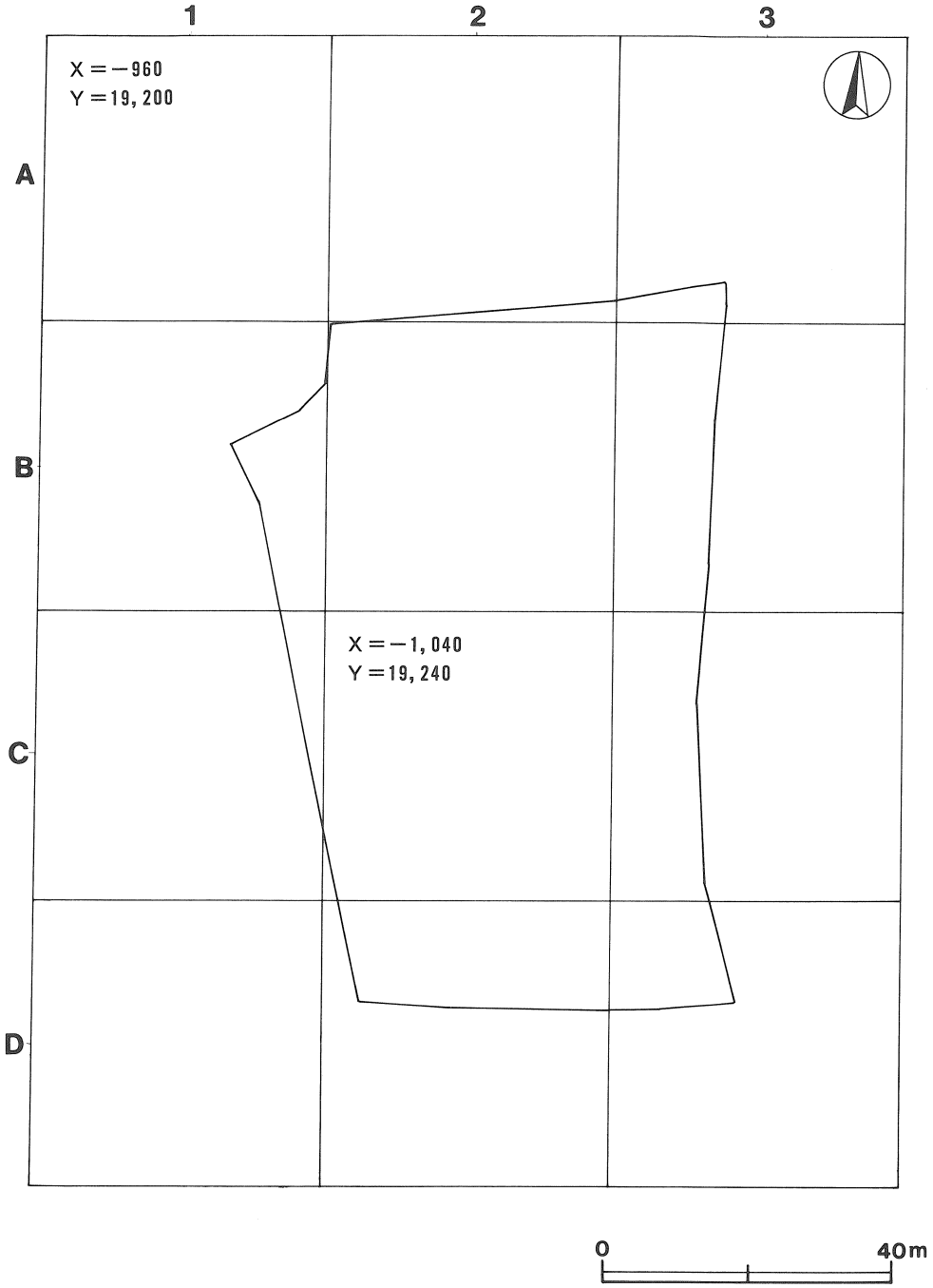
1月　5日からF区の竪穴住居跡，土坑，地下式壙，溝の発掘調査をした。中旬に遺物包含層の調査を実施した。

2月　前月に引き続き，F区の竪穴住居跡，土坑，地下式壙，溝，遺物包含層の発掘調査をした。

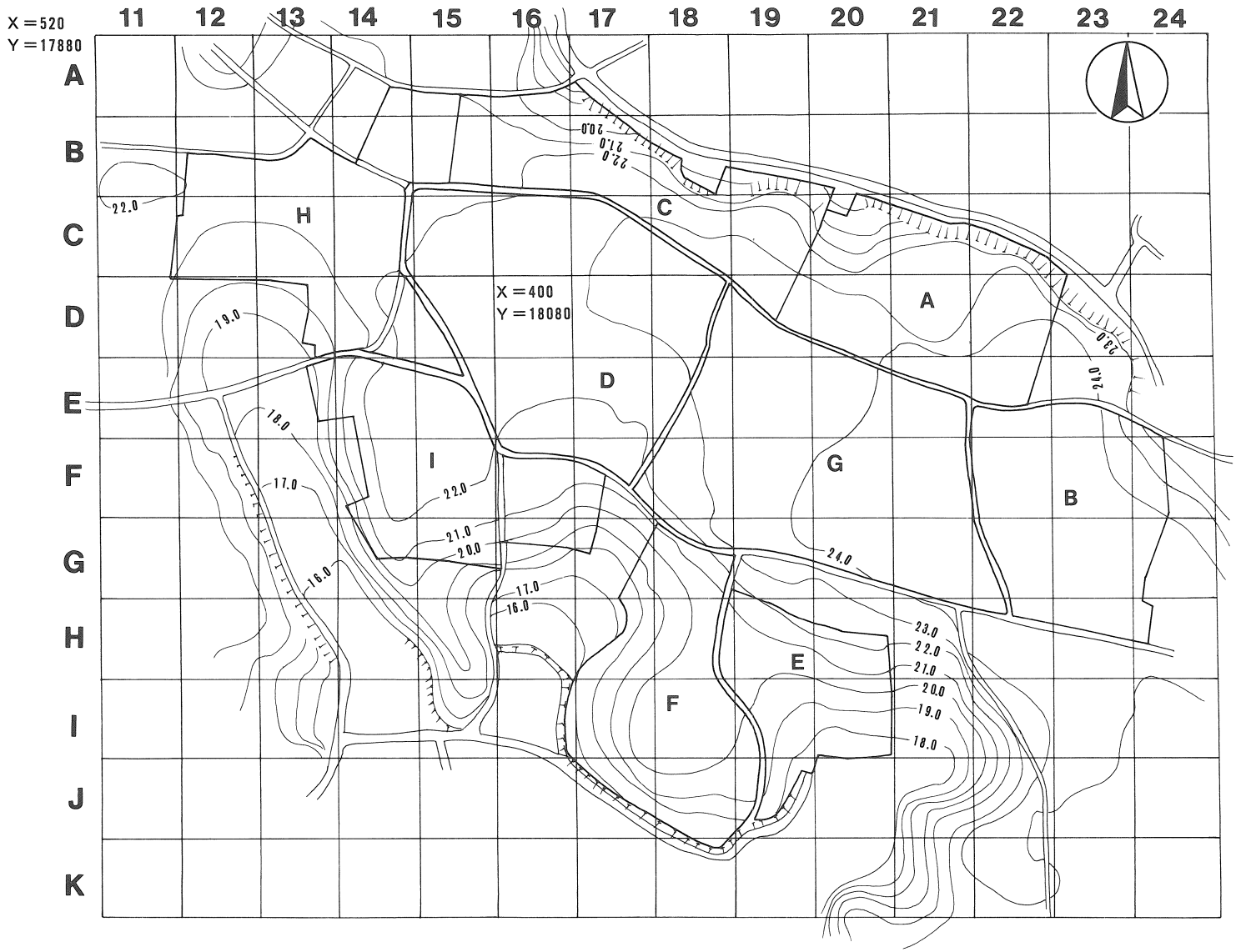
3月　2日に委託者に対する報告会を行い，11日に現地説明会を開催し，遺構，遺物を公開した。13日から補足調査を行い，15日に調査を終了した。16日に遺跡全景を写真撮影し，17日に航空写真撮影を実施した。23日までに遺跡内の危険個所の安全対策を行い，24日に現地の調査を終了した。



高野台遺跡遺構確認作業



第２図　高野台遺跡調査区割図



第３図　前田村遺跡調査区割図

0　80m

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

高野台遺跡は，茨城県筑波郡伊奈町大字小張字高野台3,116－1ほかに所在し，前田村遺跡は，茨城県筑波郡谷和原村大字田字白ハタ817ほかに所在する。

伊奈町は，茨城県の南西部に位置し，北部はつくば市に，南部は藤代町，取手市，守谷町に接している。谷和原村は，同じく茨城県の南西部に位置し，西部は水海道市，北部はつくば市，南部は守谷町，東部は伊奈町に接している。両遺跡の所在する周辺地形は，栃木県から本県にかけて南流する鬼怒川とこれに平行して南流する小貝川によって造られた沖積低地と，北東側から続く筑波，稲敷台地及び西側の猿島，北相馬台地の一部から成り立っている。この台地の標高は，南東部が26～29mで，北西部はやや低い。台地面はいずれも北西から南東方向に流れる小野川・東谷田川・西谷田川とその支谷の浸食が進み，下流部には牛久沼をはじめ多くの沼沢池があって潅漑水源となり，その一部は干拓して水田化されている。谷和原村の大部分は沖積低地であり，この低地は鬼怒川水路の幾多の変遷と造盆地運動の作用と考えられている。

なお，鬼怒川は江戸時代以前に北相馬台地北端の小絹地先で東流し，小貝川と合流していたため洪水の原因となっていたが，江戸時代初期に治水事業が行われ，猿島，北相馬台地の一部を開削し小貝川と分流させたことにより，当遺跡の北部で大きく南西に曲がりながら流下し，利根川に注ぎ込むようになった。

筑波，稲敷台地の地層は，貝化石を産する見和層（成田層）を基盤層として，その上に砂まじりのロームから，クロスラミナの顕著な砂ないし砂礫層である竜ケ崎砂礫層へ漸移する。そして，その上層は所によってさまざまに変化するが，総じてローム層下に火山灰質粘土層である常総粘土層がみられる。その上は褐色の関東ローム層におおわれており，ローム層中の下位に厚さ10～20cmの黄色軽石層が観察される。

高野台遺跡，前田村遺跡とも小貝川流域に広がる水田を南西方に見下ろす洪積台地の端にあたる。高野台遺跡は西側に谷津を望む平坦な台地上に，前田村遺跡は北と南側に谷津が入り込み，谷津に挟まれた平坦な台地上に位置している。標高は高野台遺跡が22～23m，前田村遺跡は20～23mで，どちらも主に畑地と平地林で形成されている。近年では，ゴルフ場や工場の進出がめざましく，宅地化の波が伊奈町や谷和原村周辺地区に押し寄せている。

参考文献

・茨城県　『茨城県史　市町村編II』　1975年3月
・茨城県　『土地分類基本調査　龍ヶ崎』　1975年12月
・水海道市史編さん委員会　『水海道市史　上巻』　1983年3月
・谷田部町教育委員会　「谷田部の歴史」　谷田部の歴史編さん委員会　1975年9月
・蜂須　紀夫　『茨城県　地学のガイド』　1991年7月

第2節　歴史的環境

高野台遺跡，前田村遺跡の周辺に所在する遺跡を，伊奈町，谷和原村を中心として時代毎に記載し，歴史的変遷について述べることにする。

旧石器時代の遺跡としては，伊奈町の高野台遺跡〈1〉，谷和原村の筒戸（つつど）A・B遺跡[1]〈18・19〉がある。高野

台遺跡からは旧石器の集中地点が2か所確認され，筒戸A・B遺跡ではチャート，黒色流紋岩製のナイフ形石器2点や黒曜石の剝片などが出土している。平成4年度に調査した前田村遺跡(2)〈2〉B区からも安山岩製の尖頭器やメノウの剝片などが出土している。

縄文時代の遺跡は，谷和原村では早期から晩期まで確認されている。早期の遺跡としては，西下宿遺跡〈17〉がある。西下宿遺跡からは，主として早期の田戸式から茅山式期の土器片が出土している。伊奈町の高野台遺跡からも早期の土器片が出土している。前期の遺跡は，関山式期の田村貝塚〈5〉や浅間山貝塚〈14〉が知られているだけであったが，高野台遺跡からも前期の遺物が出土している。中期になると遺跡の数は増加し，前田村遺跡をはじめ大谷津A遺跡(4)〈15〉，大谷津B遺跡(5)〈16〉，筒戸A・B遺跡がある。大谷津A遺跡は，中期の阿玉台から加曽利E式期の集落跡である。大谷津B遺跡は，加曽利EⅡ～Ⅳ式期の集落跡である。また，大谷津B遺跡の南側に隣接する筒戸A・B遺跡もほぼ同時期の集落跡である。これらの4遺跡は，いずれも谷津に沿った台地上の平坦地に所在している。前田村遺跡は，縄文時代中期から晩期（加曽利EⅢ～安行Ⅲa式期）にかけての大集落跡である。これらの住居跡は，遺跡の北側に入り込む谷津に沿い，南側の窪地を中心として，台地上の平坦地に馬蹄形状に所在しており，前田村遺跡の立地条件も，前述した4遺跡と同じくしている。その他，伊奈町には，鹿島神社遺跡〈9〉，上街道遺跡〈22〉，神生貝塚〈24〉，勘兵衛神田遺跡，小張貝塚〈10〉，南太田貝塚〈28〉，東栗山貝塚〈29〉，東栗山南貝塚〈30〉，足高貝塚〈31〉，前久保貝塚〈36〉が確認されている。高野台遺跡からも中期（五領ヶ台，阿玉台Ⅰb，加曽利EⅢ式期）の遺物が出土している。後晩期の遺跡としては，洞坂畑遺跡(3)〈12〉，がある。

弥生時代の遺跡は，現在のところ谷和原村では確認されていないが，伊奈町には高野台遺跡から中期の土器片が数点出土しているほか後期の勘兵衛新田遺跡がある。その他，隣接するつくば市谷田部には，熊の山遺跡，高山遺跡，境松遺跡など後期の遺跡が確認されている。(7)

古墳時代の遺跡は，谷和原村では西ノ脇遺跡〈3〉をはじめ並木古墳〈4〉，福岡南古墳群〈6〉，東楢戸古墳(8)〈8〉，茶畑古墳〈13〉などが，台地丘陵部で確認されている。また，平成6年度に調査した前田村遺跡F区からも，古墳時代後期の住居跡が確認されている。伊奈町には，宮後古墳〈23〉，勘兵衛新田遺跡，野堀古墳〈25〉，神生古墳群〈26〉，大房地遺跡〈27〉，高岡古墳が確認されている。(9)

奈良・平安時代の遺跡は，伊奈町には確認されていないが，谷和原村では大谷津A遺跡や筒戸A・B遺跡から数軒の竪穴住居跡が確認されている。新たに，平成6年度に調査した前田村遺跡F区から，平安時代の住居跡が3軒確認されており，ここに当時期の集落が存在したことがうかがわれる。

中・近世の遺跡は，谷和原村では筒戸城跡〈11〉が確認されている。また，前田村遺跡A区では中世の五輪塔や，中世から近世の粘土を貼った墓壙が多数確認されている。さらに，前田村遺跡のC・D・E・F区から中世の地下式壙や方形竪穴遺構が確認されている。特に，平成6年度に調査したD区の南側低地からF区にかけては，中央の墓壙を囲むように，北西から南にかけ，弧を描くように地下式壙が配置されており，墓域であったことをうかがわせる。前田村遺跡付近には，田村の北部にあった田村城〈21〉と呼ばれる城（現在の城山運動公園）と関連した古屋敷が八幡神社前にあったとの古くからの伝承があり，これらと墓地との関係が考えられる。また，西ノ脇遺跡からも，遺跡中央部から北部にかけて中世の地下式壙7基が確認されているので，当時墓域として利用されていたと考えられる。伊奈町には，中世の足高城跡〈32〉，三條院城跡〈33〉，板橋城跡〈34〉，小張城跡〈35〉が確認されている。(10)

※　本文中の〈　〉内の番号は，表1・第4図中の該当番号と同じである。

表１　高野台・前田村遺跡周辺遺跡一覧表

図中番号	遺跡名	遺跡の時代						図中番号	遺跡名	遺跡の時代					
		旧	縄	弥	古	奈･平	中･近			旧	縄	弥	古	奈･平	中･近
1	高野台遺跡	○	○	○				19	筒戸Ｂ遺跡	○	○			○	
2	前田村遺跡	○	○		○	○	○	20	豊岡Ａ遺跡		○				
3	西ノ脇遺跡		○		○		○	21	田村城跡						○
4	並木古墳				○			22	上街道遺跡		○				
5	田村貝塚		○					23	宮後古墳				○		
6	福岡南古墳群				○			24	神生貝塚		○				
7	下長沼貝塚		○					25	野堀古墳				○		
8	東楢戸古墳				○			26	神生古墳群				○		
9	鹿島神社遺跡		○					27	大房地遺跡				○		
10	小張貝塚		○					28	南太田貝塚		○				
11	筒戸城跡						○	29	東栗山貝塚		○				
12	洞坂畑遺跡		○					30	東栗山南貝塚		○				
13	茶畑古墳				○			31	足高貝塚		○				
14	浅間山貝塚		○					32	足高城跡						○
15	大谷津Ａ遺跡		○		○	○		33	三條院城跡						○
16	大谷津Ｂ遺跡		○					34	板橋城跡						○
17	西下宿遺跡		○					35	小張城跡						○
18	筒戸Ａ遺跡	○	○			○		36	前久保貝塚		○				

注

(1)　茨城県教育財団「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２　筒戸Ａ・Ｂ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』　第24集　1984年３月

(2)　茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１　西ノ脇遺跡　前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』　第87集　1994年３月

(3)　洞坂畑遺跡発掘調査会『洞坂畑遺跡』　1979年９月

(4)　茨城県教育財団「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３　大谷津Ａ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』　第28集　1985年３月

(5)　茨城県教育財団「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１　大谷津Ｂ遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』　第18集　1981年３月

(6)　茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図」1990年３月

(7)　(6)に同じ

(8)　茨城県教育財団「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　東楢戸古墳」　『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅺ』　1981年３月

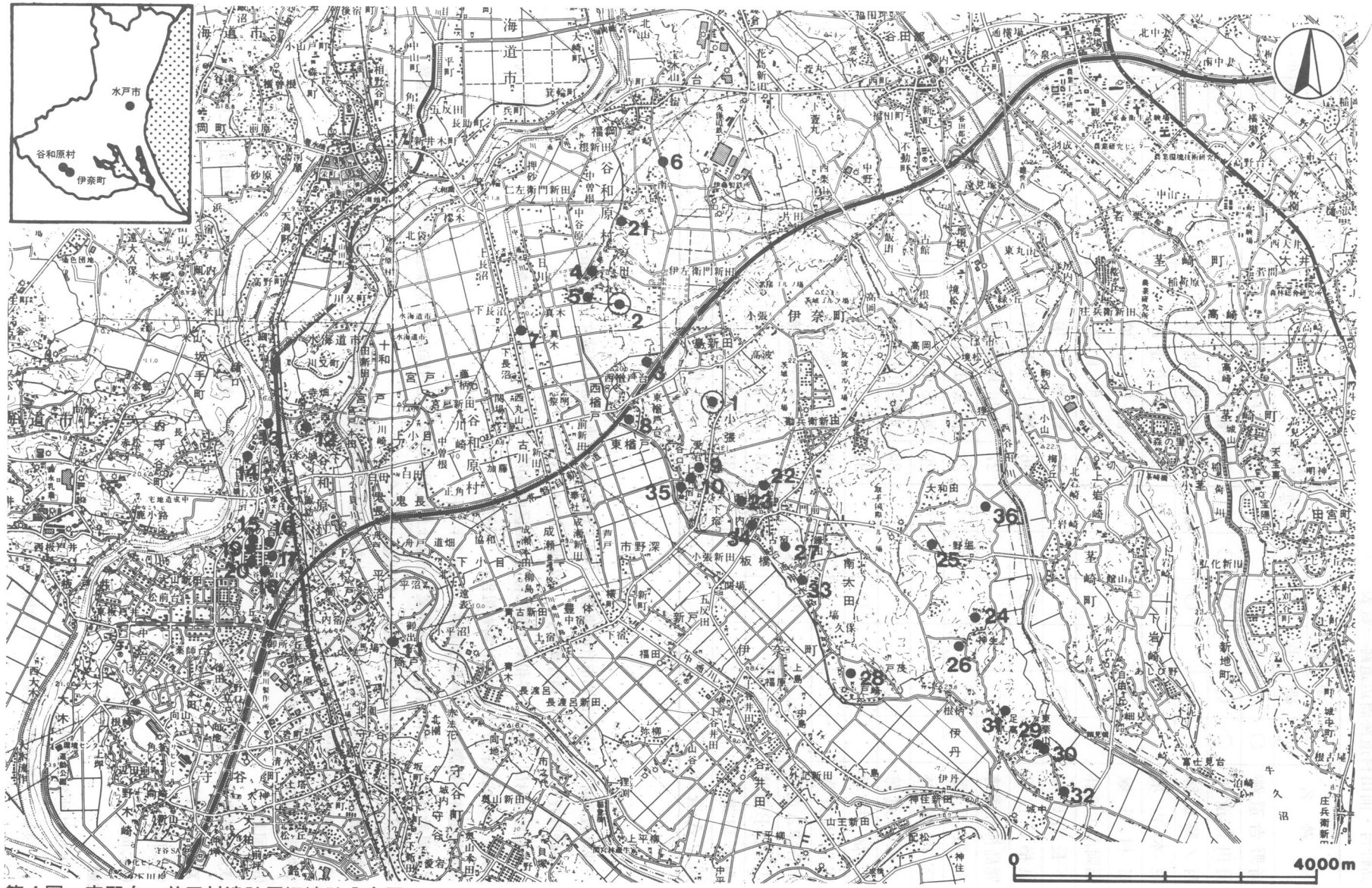
(9)　(6)に同じ

(10)　(6)に同じ

参考文献

・　『茨城県地名大辞典』　角川書店　1983年12月

・　塙　泉嶺　『筑波郡郷土史』　賢美閣　1979年12月



第４図　高野台・前田村遺跡周辺遺跡分布図

第3章　高野台遺跡

第1節　遺跡の概要

高野台遺跡は，伊奈町の北西部，小貝川左岸の標高22～23mの台地縁辺部に位置している。調査区は，東西約68m，南北約97m，面積6,584m²で，現況は畑地，山林である。

調査の結果，当遺跡は旧石器時代から縄文時代早・前・中期，弥生時代のものであることが確認できた。

今回の調査によって，竪穴状遺構1基，土坑54基，溝4条を確認した。遺構は，調査全域にわたって確認できた。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に3箱出土している。遺物は，細石刃，剥片，縄文土器片，石鏃，磨石，敲石，石錘，弥生土器片などである。

第2節　基本層序

調査区内にテストピットを掘り，基本土層の観察を行った（第5図）。

第1層は，40cm前後の厚さの耕作土層で，黒褐色をしている。

第2層は，14～25cmの厚さで，褐色をしたハードローム層である。

第3層は，40cm前後の厚さで，暗褐色でローム粒子を中量，炭化粒子を極少量含み，粘性，締まりともに強い。いわゆる，ブラックバンドと呼ばれる層である。

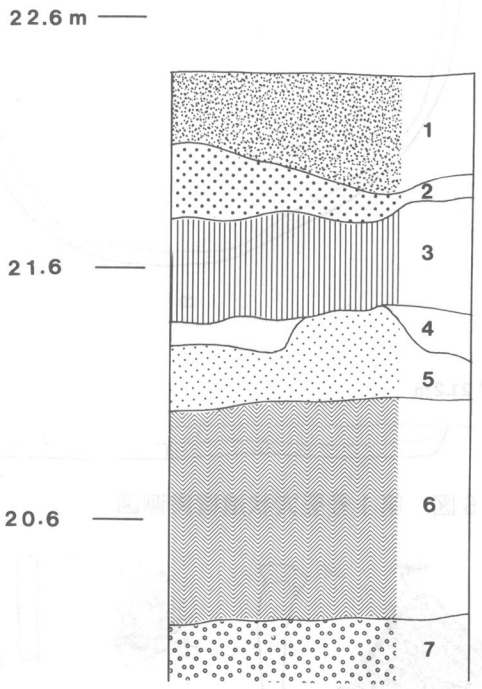
第4層は，8～20cmの厚さで，にぶい褐色をしたハードローム層で，粘性，締まりとも強い。

第5層は，30～40cmの厚さで，黄褐色で炭化粒子を少量含むソフトローム層である。

第6層は，80cm前後の厚さで，黄褐色土をした粘土層である。

第7層は，黄灰色土をした粘土層である。厚さ30cm以上あるが，未掘のため本来の厚さは不明である。

第6・7層とも粘性，締まりが極めて強い。遺構は，第2層上面で確認した。



第5図　高野台遺跡基本土層図

第３節　遺構と遺物

調査区から確認された遺構は，竪穴状遺構１基，土坑54基，溝４条である。

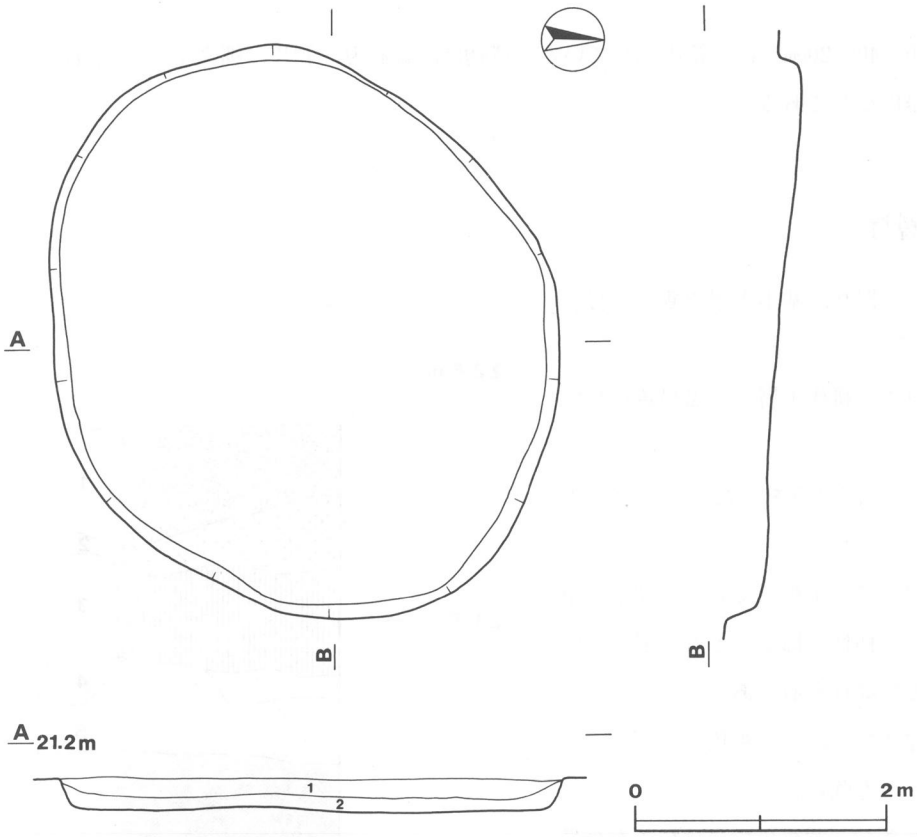
１　竪穴状遺構

第１号竪穴状遺構（第６図）

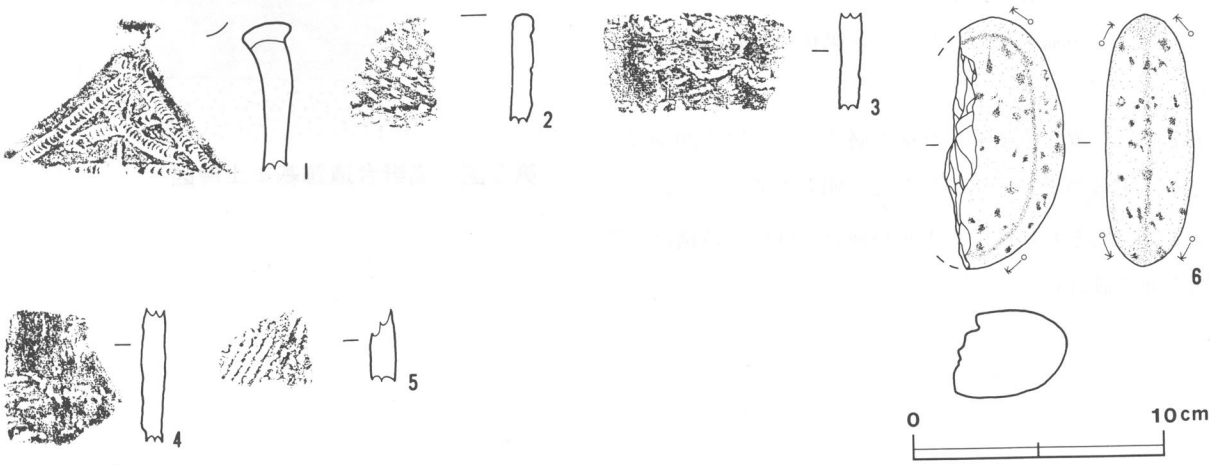
位置　調査区の北西部，B1i₀区。

規模と平面形　長径4.71m，短径4.00mの楕円形。

長径方向　N－51°－W



第６図　第１号竪穴状遺構実測図



第７図　第１号竪穴状遺構出土遺物実測・拓影図

壁　壁高16～25cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，あまり硬くない。

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子極少量，焼土極少量，粘性・締まりあり
2　褐　　色　ローム粒子中量，締まりあり

遺物　覆土中から混入と思われる縄文土器片が少量出土している。器形のわかる土器はなく，ほとんど細片である。第7図6の磨石は覆土中から出土している。1から5は，覆土中から出土した縄文時代前期の土器片の拓影図である。1は，浮島II式の口縁部片で，無文地に押引爪形文を施している。2は，興津式の口縁部片で，刺突文を施している。3～5は，粟島台式の胴部片で，縄文施文による綾繰文を施している。

所見　本跡の時期は，不明である。

第1号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第7図6	磨　石	10.0	(4.9)	3.4	(210.0)	安山岩	Q1　半欠　PL5

2　土坑

調査区から土坑54基を確認したが，調査の結果，時期や性格は不明である。遺物は，遺構の表土から出土しているものが多い。ここでは，覆土中から遺物が出土している土坑について解説し，その他の土坑については一覧表で記載する。

第15号土坑（第8図）

位置　B2i_5区。

規模と平面形　長径2.04m，短径1.88mの円形で，深さ38cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　3層からなり，人為堆積と思われる。特に，1層から縄文土器片が出土している。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
3　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量

遺物　混入と思われる縄文土器片（27点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第18号土坑（第8図）

位置　C2j_5区。

規模と平面形　長径2.00m，短径1.28mの楕円形で，深さ30cmである。

長径方向　N－90°

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　2層からなり，自然堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，暗褐色土中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　混入と思われる縄文土器片（19点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第19号土坑（第８図）

位置　C2f_5区。

規模と平面形　長径3.31m，短径2.55mの楕円形で，深さ30cmである。

長径方向　N－32°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　４層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子極少量
3　橙　　色　ローム粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子極少量

遺物　混入と思われる縄文土器片（15点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第24号土坑（第８図）

位置　C2a_5区。

規模と平面形　長径1.33m，短径0.76mの楕円形で，深さ40cmである。

長径方向　N－80°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　凹凸。

覆土　６層からなる人為堆積である。

土層解説
1　にぶい橙色　ローム粒子少量，炭化物多量
2　にぶい橙色　ローム粒子少量，炭化粒子少量
3　にぶい橙色　ローム粒子極少量，炭化物多量
4　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量
6　明　褐　色　ローム粒子中量

遺物　混入と思われる縄文土器片（４点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第27号土坑（第８図）

位置　C2d_7区。

規模と平面形　長径2.36m，短径1.37mの楕円形で，深さ30cmである。

長径方向　N－90°

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　３層からなり，人為堆積と思われる。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子極少量
3　明　褐　色　ローム粒子中量

遺物　混入と思われる縄文土器片（6点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第32号土坑（第8図）

位置　C2b7区。

規模と平面形　長径2.10m，短径1.80mの楕円形で，深さ42cmである。

長径方向　N－39°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　やや起伏がある。ほぼ中央に焼土ブロックが確認できた。

覆土　5層からなる人為堆積である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量，炭化粒子極少量
2　明　褐　色　ローム粒子少量，黒色土少量含む
3　明　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック中量
4　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
5　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量

遺物　混入と思われる縄文土器片（6点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第33号土坑（第9図）

位置　C2a8区。

規模と平面形　長径2.24m，短径2.16mの円形で，深さ32cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説
1　にぶい褐色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量

遺物　混入と思われる縄文土器片（12点），第10図37の敲石（1点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第36号土坑（第9図）

位置　B2j7区。

規模と平面形　長径1.43m，短径0.98mの楕円形で，深さ25cmである。

長径方向　N－80°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子多量
2　褐　　色　ローム粒子中量

遺物　混入と思われる縄文土器片（40点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第38号土坑（第９図）

位置　C2a0区。

規模と平面形　長径1.95m，短径1.55mの楕円形で，深さ27cmである。

長径方向　N－35°－W

壁面　ほぼ垂直に立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　４層からなる人為堆積である。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量
2　明　褐　色　ローム粒子中量
3　にぶい褐色　ローム粒子少量，黒色粒子少量
4　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

遺物　混入と思われる縄文土器片（５点），第10図１の尖底土器の底部片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第39号土坑（第９図）

位置　B2j8区。

規模と平面形　長径2.78m，短径2.55mの楕円形で，深さ30cmである。

長径方向　N－０°

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　２層からなり，人為堆積と思われる。１層から縄文土器片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック少量，黒色土少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子極少量

遺物　混入と思われる縄文土器片（12点），第10図39の剥片（１点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

第44号土坑（第９図）

位置　C2e1区。

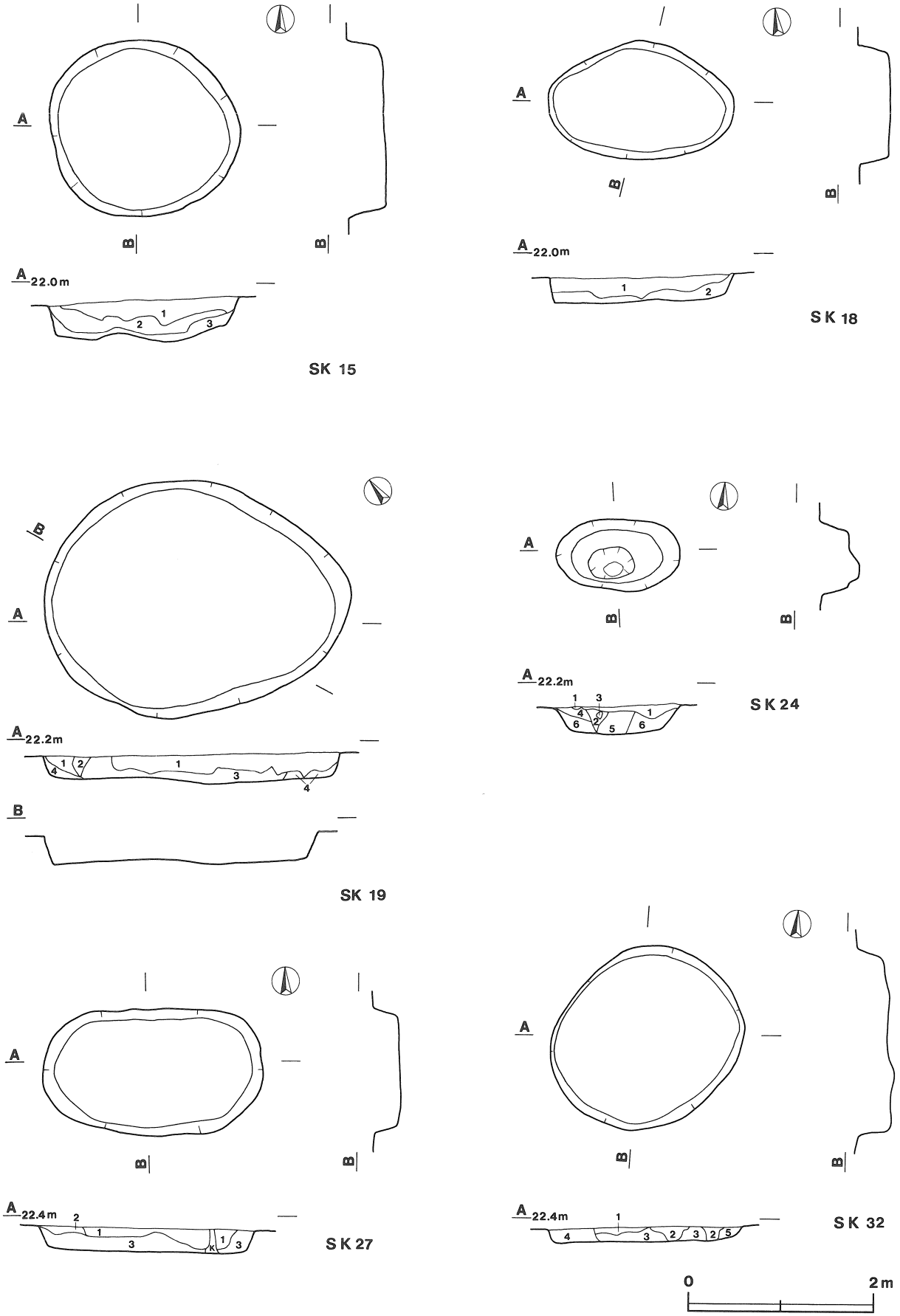
規模と平面形　長径3.42m，短径2.92mの楕円形で，深さ18cmである。

長径方向　N－25°－W

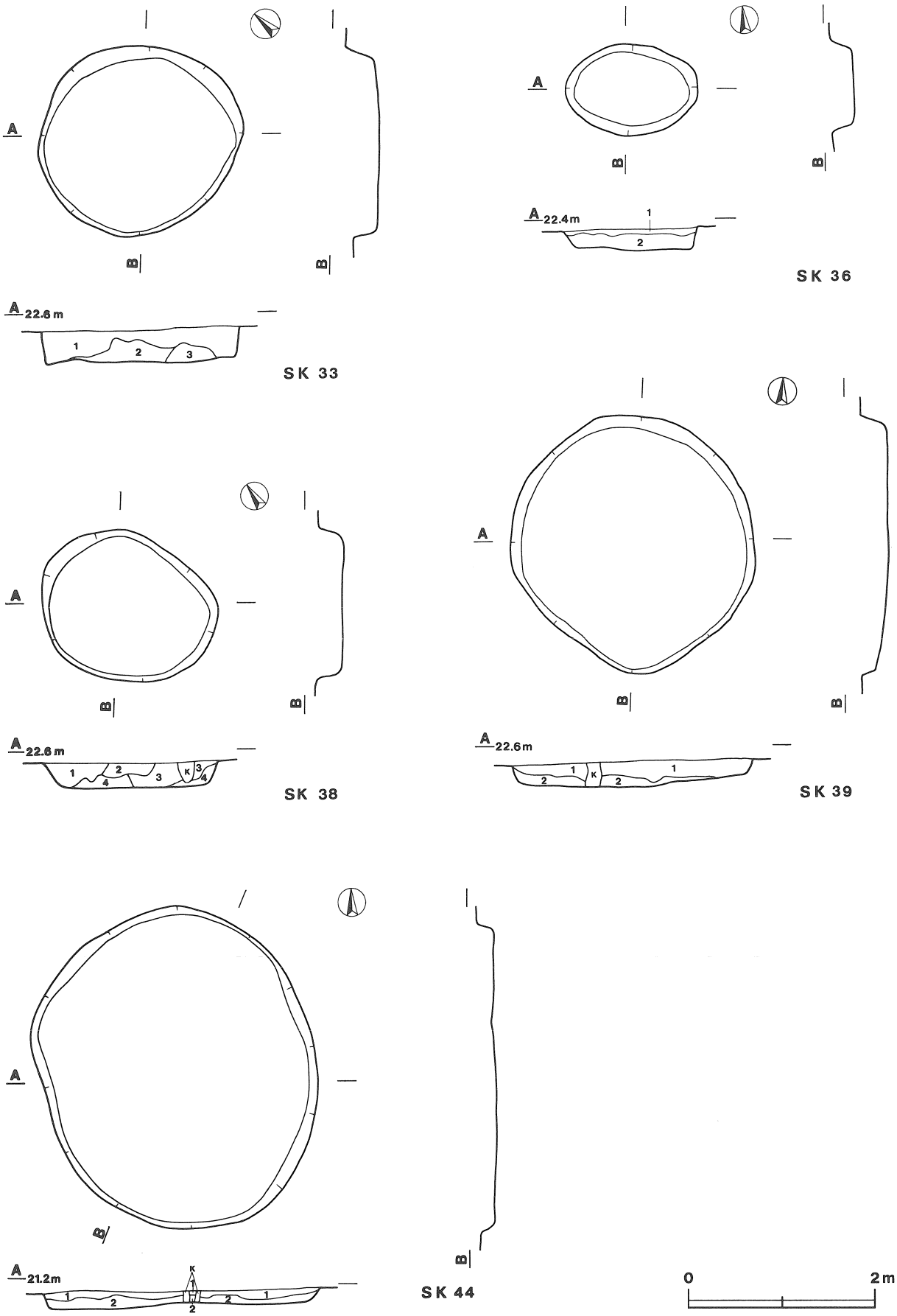
壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　２層からなり，自然堆積と思われる。



第８図　土坑実測図(1)


A
B
A 22.6m
1
2
3
SK 33
A
B
A 22.4m
1
2
SK 36
A
B
A 22.6m
1
2
3
4
K
SK 38
A
B
A 22.6m
1
2
K
SK 39
A
B
A 21.2m
K
1
2
SK 44
0
2m

第９図　土坑実測図(2)

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子極少量

2　褐　　色　ローム粒子中量

遺物　混入と思われる縄文土器片（17点）が出土している。

所見　本跡の時期と性格は，不明である。

表２　高野台遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	C3i3	N−90°	楕円形	1.00 × 0.88	42	垂直	平坦	自然		
2	C2i8		円形	1.34 × 1.30	30	外傾	平坦	自然	縄文土器	
3	C3j3	不明	〔楕円形〕	3.00 ×(1.40)	32	外傾	平坦	自然		
4	C2j0		円形	1.00 × 0.90	60	緩傾	凹凸	自然	縄文土器	
5	C3f1		円形	1.30 × 1.25	30	緩傾	平坦	自然		
6	C3j1	N−50°−W	楕円形	2.45 × 1.55	30	緩傾	平坦	人為		
7	D3a1	N−60°−E	楕円形	2.00 × 1.55	16	緩傾	平坦	人為		
8	C2h0		円形	1.08 × 1.08	35	緩傾	起伏	自然		
9	C2h8	N−0°	楕円形	1.47 × 0.90	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	
10	C2j9	N−85°−E	楕円形	1.32 × 1.12	40	垂直	平坦	自然	縄文土器	
11	C3i3		円形	1.15 × 1.12	34	外傾	平坦	自然	縄文土器	
12	C2i7	N−54°−W	楕円形	0.93 × 0.82	38	外傾	平坦	自然	縄文土器	
13	C2j0		円形	0.91 × 0.87	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	
14	D2c5	N−53°−W	楕円形	0.87 × 0.62	24	外傾	平坦	人為		
15	B2i5		円形	2.04 × 1.88	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	
16	C2h7	N−5°−W	楕円形	1.37 × 1.10	34	外傾	平坦	人為		
17	C2h6	N−38°−E	楕円形	1.79 × 1.38	36	外傾	平坦	人為	縄文土器	
18	C2j5	N−90°	楕円形	2.00 × 1.28	30	外傾	平坦	自然	縄文土器	
19	C2f5	N−32°−W	楕円形	3.31 × 2.55	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	
20	D2a6	N−15°−E	楕円形	1.55 × 1.27	30	外傾	平坦	自然		
21	C2j6	N−45°−E	楕円形	0.85 × 0.73	48	垂直	起伏	人為	縄文土器	
22	C2f8	N−32°−W	楕円形	3.05 × 1.49	38	段状	平坦	人為	縄文土器	
23	C3j1	N−64°−E	楕円形	1.85 × 1.50	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	
24	C2a5	N−80°−E	楕円形	1.33 × 0.76	40	外傾	凹凸	人為	縄文土器	
25	C2e7	N−53°−W	楕円形	1.76 × 1.36	26	垂直	平坦	人為	縄文土器	
26	C2d6	N−46°−E	楕円形	1.14 × 0.89	34	外傾	皿状		縄文土器	
27	C2d7	N−90°	楕円形	2.36 × 1.37	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	
28	C2c4	N−90°	楕円形	1.77 × 1.00	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	
29	C2c8	N−55°−W	楕円形	1.37 × 1.07	26	垂直	平坦	自然	縄文土器	
30	C2c6		円形	1.04 × 0.95	37	外傾	皿状	自然		
31	C2b7	N−90°−E	楕円形	2.12 × 1.55	27	外傾	平坦	人為	縄文土器	
32	C2b7	N−39°−E	楕円形	2.10 × 1.80	42	外傾	起伏	人為	縄文土器	
33	C2a8		円形	2.24 × 2.16	32	外傾	平坦	人為	縄文土器，敲石	
34	C2b7	N−80°−W	楕円形	2.11 × 1.76	38	外傾	平坦	人為	縄文土器，磨石	
35	C2b6	N−87°−E	楕円形	2.34 × 1.51	20	外傾	皿状	自然	縄文土器，石鏃	
36	B2j7	N−80°−W	楕円形	1.43 × 0.98	25	外傾	平坦	自然	縄文土器	
37	C2a9	N−80°−E	楕円形	1.62 × 1.29	40	外傾	皿状	人為	縄文土器	

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
38	C2a0	N−35°−W	楕円形	1.95 × 1.55	27	垂直	平坦	人為	縄文土器	
39	B2j8	N−0°	楕円形	2.78 × 2.55	30	外傾	平坦	人為	縄文土器，剝片	
40	B2j6		円形	0.96 × 0.89	32	外傾	平坦	自然	縄文土器	
41	C3a2	N−21°−W	楕円形	2.94 × 2.17	21	外傾	平坦	自然	縄文土器	
42	B2j5	N−80°−W	楕円形	1.56 × 1.13	30	外傾	平坦	自然	縄文土器	
43	B2h0	N−31°−E	不整形	2.10 × 1.95	22	外傾	平坦		縄文土器	
44	C2e1	N−25°−W	楕円形	3.42 × 2.92	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	
45	C2c2	N−74°−W	楕円形	1.15 × 1.00	30	垂直	平坦	自然	縄文土器	
46	B2h0		円形	1.85 × 1.85	45	外傾	段状	自然	縄文土器	
47	C3j2	N−90°	楕円形	2.95 × 1.57	32	外傾	平坦	自然		SD−1と重複
48	B2h6	N−37°−E	楕円形	1.92 × 1.62	31	外傾	平坦	自然	縄文土器	
50	B2i5	N−80°−W	楕円形	2.23 × 1.84	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	
51	B2j5	N−86°−E	楕円形	1.04 × 0.77	45	外傾	起伏	人為		
52	B2i3	N−0°	楕円形	1.58 × 0.71	31	外傾	皿状	自然		
53	B2h5	N−87°−W	楕円形	2.89 × 1.36	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	
54	B2h5		円形	2.20 × 2.14	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	

3　溝（付図1）

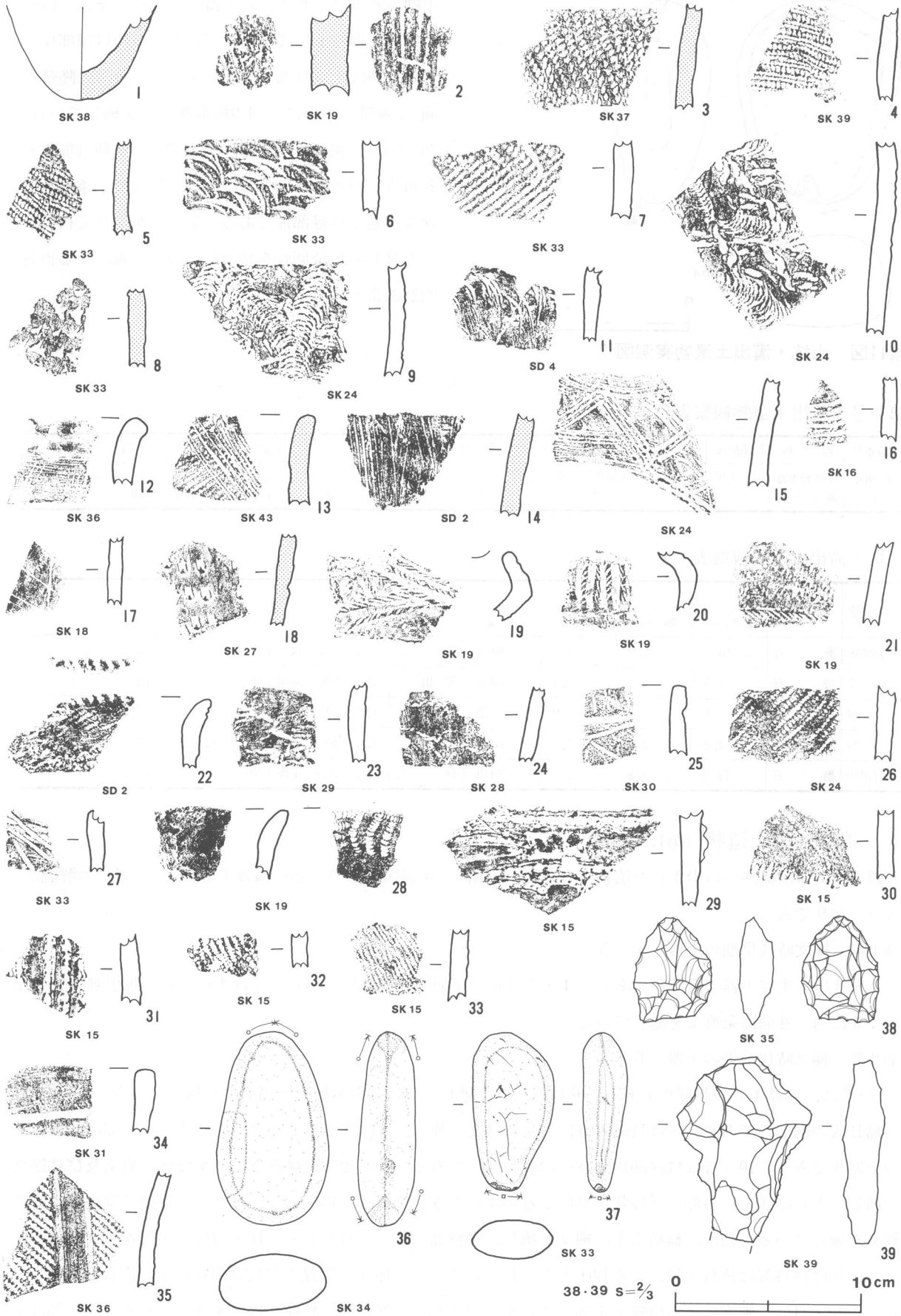
調査区から溝4条を確認したが，調査の結果，時期や性格は不明である。ここでは，溝4条について，一覧表で記載する。

表3　高野台遺跡溝一覧表

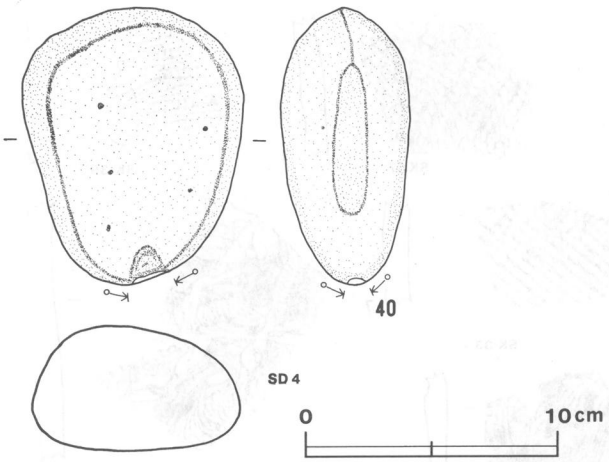
溝番号	位置	方向	断面	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					
1	B3	N−90°	皿状	8.6	0.8〜1.4	0.6〜1.1	0.27	緩傾	平坦	自然	縄文土器	SK−47と重複
2	B3	N−84°−E	皿状	9.2	0.6〜1.2	0.4〜0.9	0.26	緩傾	平坦	自然	縄文土器	
3	B2	N−80°−E	皿状	16.4	0.2〜0.6	0.1〜0.5	0.18	緩傾	皿状	自然		
4	B3	N−62°−W	皿状	5.8	1.0〜1.6	0.8〜1.4	0.30	緩傾	平坦	自然	縄文土器，磨石	

土坑，溝から出土した遺物について，実測図・拓影図（第10図）でその一部を掲載する。縄文土器片の解説は，次のとおりである。

1は，早期の尖底土器の底部片である。2は，早期（茅山上層式）の胴部片で条痕文を施している。3〜5は，前期（黒浜式）の縄文を施した胴部片である。6〜8は，前期（浮島Ⅲ式）の胴部片で，6は波状貝殻文を，8は三角刺突文と言われるような文様を施している。9〜18は，前期（興津式）の土器片である。9と10は絡条体圧痕に刺突爪形文を施し，同一個体の胴部片と考えられる。11は，貝殻腹縁による波状文の胴部片である。12〜17は，平行沈線文を施した土器片である。12は，口縁部片で口唇部に棒状工具の押圧を施している。13は，単節縄文を地文とした胴部片である。18は，半截竹管による連続刺突文を施した胴部片である。19〜21は，前期（諸磯b式）の沈線文上にキザミ目を施した土器片で，19は浅鉢の口縁部片と考えられ，20・21は胴部片である。22〜24は，前期（粟島台式）の土器片である。22は，口縁部に単節縄文を施し，口唇上に縄紐の圧痕による文様を施している。23・24は，胴部片である。25〜27は，中期（五領ヶ台式）の土器片である。25は口縁部片で，26・27は胴部片である。26は単節縄文を施し，27は棒状による沈線を施している。28〜33は，



第10図　土坑・溝出土遺物実測・拓影図(1)



第11図　土坑・溝出土遺物実測図(2)

中期（阿玉台Ｉｂ式）の土器片である。28は，口縁部内面に押引爪形文を施している浅鉢の口縁部片である。29は，口縁部に断面が尖った三角形の隆帯を施し，隆帯の上下に一列の結節沈線文を施している。30～33は，胴部片である。34・35は，中期（加曽利ＥⅢ式）の土器片である。34は，無文で一条の太い沈線が巡る口縁部片である。35は，胴部片で複節縄文ＬＲＬの縦位回転を地文に二条の沈線による直線的磨消帯が垂下する。

第38号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第10図 1	深鉢形土器 縄文土器	B (5.0)	尖底土器の底部片。無文。	にぶい赤褐色 白色細砂粒　普通	P1　5%　PL3 早期

土坑・溝出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第10図36	磨　石	10.5	5.9	3.1	280.0	砂　岩	Q3　SK－34覆土中	PL5
37	敲　石	8.5	4.4	2.4	110.0	安山岩	Q2　SK－33覆土中	PL5
38	石　鏃	2.8	2.1	0.9	5.2	チャート	Q4　SK－35覆土中	PL5
39	剥　片	(4.9)	3.6	1.1	(10.0)	メノウ	Q5　SK－39覆土中　一部欠損	PL5
第11図40	磨　石	11.0	8.8	5.2	680.0	砂　岩	Q6　SD－4覆土中	PL5

4　遺構外出土遺物（第12・13図）

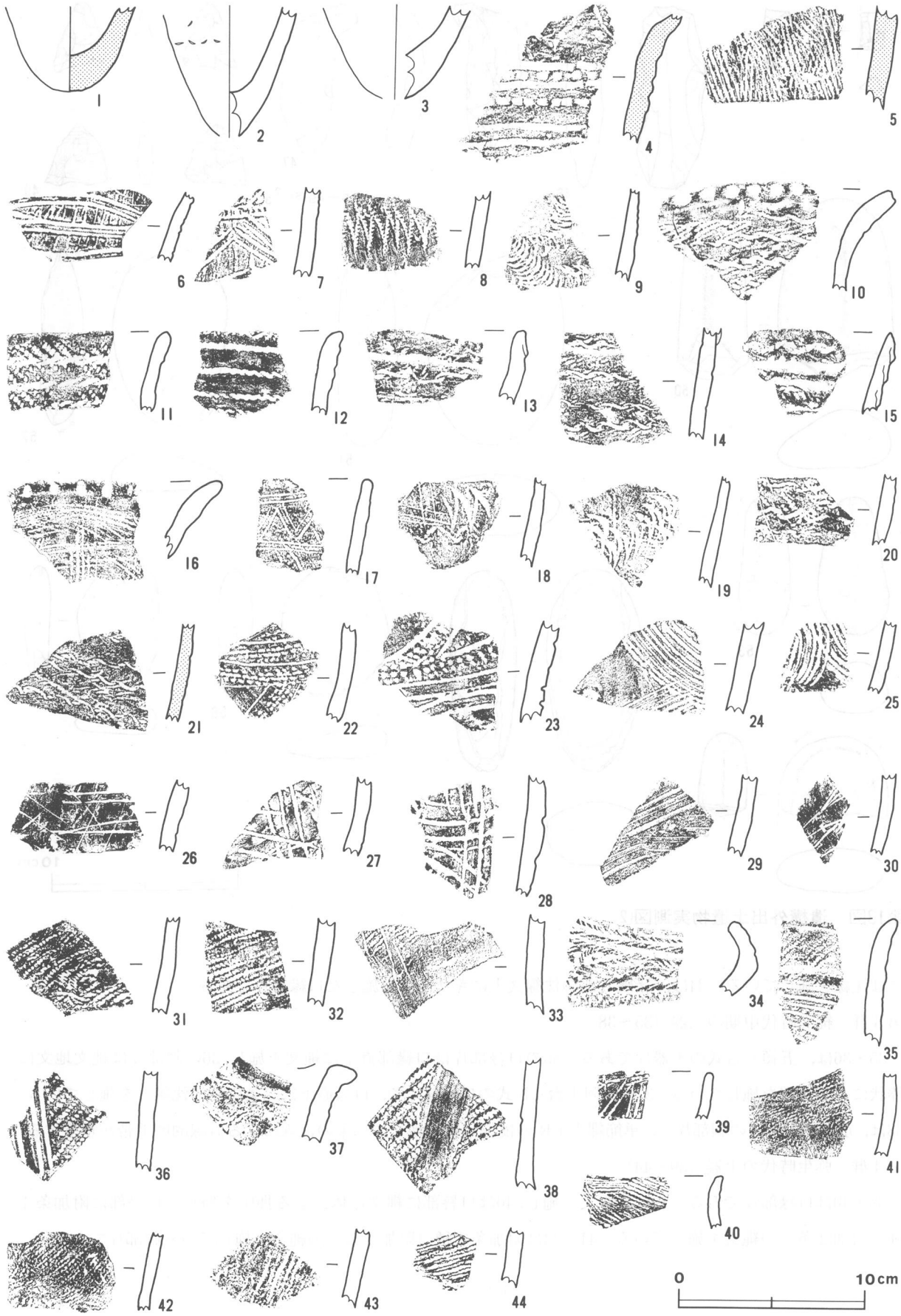
調査区内の遺構外から出土した遺物について，実測図・拓影図でその一部を掲載する。縄文土器片の解説は，次のとおりである。

第１群　縄文時代早期の土器（１～５）

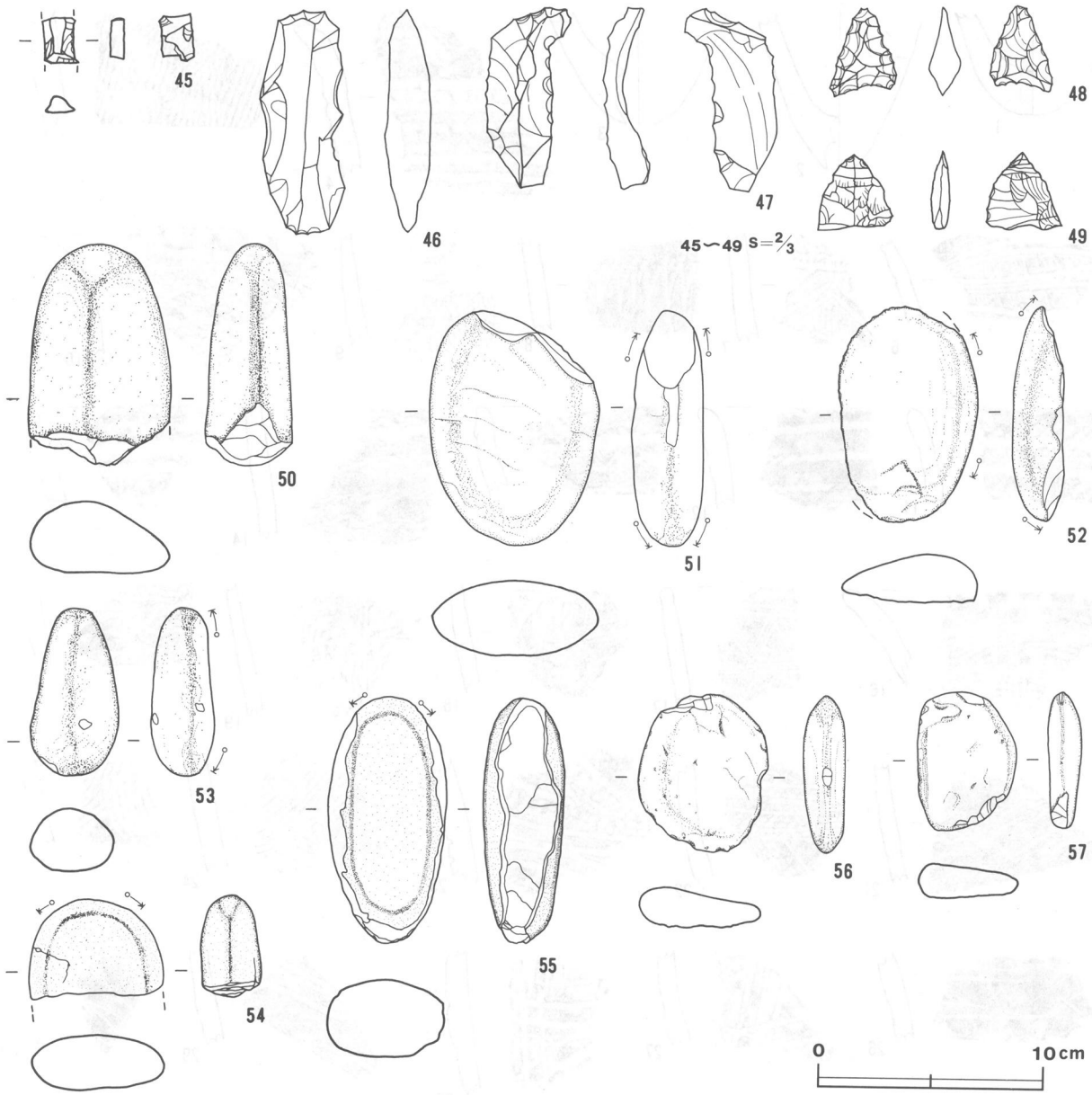
１～３は，尖底土器の底部片である。４・５は田戸下層式の胴部片である。４は太い沈線と押引刺突文を施し，５は内・外面に条痕文を施している。

第２群　縄文時代前期の土器（６～34）

６・７は，浮島Ｉ式の胴部片である。６は弧状文を施し，７は押引爪形文と山形文を施している。８・９は，浮島II式の胴部片である。８は貝殻腹縁による波状文を施し，９は変形爪形文が見られる。10～33は，興津式の土器片である。10～17は口縁部片，18～33は胴部片である。10～12は口縁直下に縄文原体圧痕文及び結節文を施し，さらに10の口唇部には棒状工具による押圧がなされている。13・14は，折り返し口縁で縄文による綾繰文を施している。15は，輪積文上に縄文を施し，口唇部にキザミ目がある。16・17は，平行沈線文を施し，さらに16は口唇部に棒状工具による押圧がなされている。18・19は，沈線文と貝殻腹縁による波状文を施している。20・21は，縄文による綾繰文を施している。22・23は，沈線間に結節沈線文を施している。24・25は条線文，26～28は多方向の沈線文，29・30は斜行する沈線文を施している。31～33は，縄文を施文し，さらに33



第12図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)



第13図　遺構外出土遺物実測図(2)

には沈線を施している。34は，諸磯ｂ式の沈線文上にキザミ目を施した口縁部片である。

第３群　縄文時代中期の土器（35～38）

35・36は，五領ヶ台式の土器片である。35の口縁部片は口縁部直下に縄文を施し，36の胴部片は縄文地文に棒状による沈線を施している。37は，阿玉台Ｉｂ式の口縁部片で，口縁直下に二条の結節沈線文を施している。38は，加曽利EⅢ式の胴部片で，単節縄文ＬＲの縦位回転を地文に二条の沈線による直線的磨消帯が垂下する。

第４群　弥生時代の土器（39～44）

39・40は口縁部片である。39は沈線文を施し，40は口唇部に縄文原体による押圧を施し，口縁部に附加条１種（附加２条）の縄文を施している。41～44は附加条１種（附加２条）の縄文を施している胴部片である。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第12図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(4.5)	尖底土器の底部片。無文。	にぶい赤褐色 白色細砂粒　普通	P2　5%　PL3 早期
2	深鉢形土器 縄文土器	B(7.0)	尖底土器の底部片。無文。	にぶい赤褐色 白色細砂粒　普通	P3　5%　PL3 早期
3	深鉢形土器 縄文土器	B(5.0)	尖底土器の底部片。無文。	にぶい赤褐色 白色細砂粒　普通	P4　5%　PL3 早期

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第13図45	細石刃	(0.9)	0.7	0.3	(0.2)	黒曜石	Q15　表採　一部欠損　PL5
46	剥片	4.9	2.0	1.0	10.0	チャート	Q17　表採　PL5
47	剥片	4.0	1.9	0.9	3.2	チャート	Q18　表採　PL5
48	石鏃	1.9	1.5	0.6	0.9	チャート	Q16　表採　PL5
49	石鏃	1.7	1.7	0.4	0.9	チャート	Q19　表採　PL5
50	磨石	(9.8)	6.2	3.9	(320.0)	安山岩	Q7　表採　半欠
51	磨石	(10.4)	7.5	3.2	(360.0)	砂岩	Q8　表採　一部欠損　PL5
52	磨石	9.5	6.1	(2.3)	(170.0)	ホルンフェルス	Q9　表採　半欠
53	磨石	7.5	3.8	2.7	100.0	安山岩	Q10　表採
54	磨石	(4.4)	5.9	2.6	(90.0)	安山岩	Q11　表採　半欠
55	磨石	10.8	5.2	3.6	310.0	砂岩	Q14　表採　一部欠損　PL5
56	石錘	7.0	5.7	1.8	90.0	安山岩	Q12　表採　一部欠損　PL5
57	石錘	6.0	4.4	1.5	50.0	安山岩	Q13　表採

第4節　まとめ

当調査区からは，旧石器時代から縄文時代早・前・中期，弥生時代の遺物が出土している。しかし，遺構に伴う遺物は出土していないため，時期や性格を特定することができなかった。

旧石器時代に関しては，特に調査区中央から北側にかけて遺物が出土している。遺物は，細石刃，その他黒曜石，メノウ，頁岩，チャートなどの石質の剥片である。

縄文時代や弥生時代に関して考えてみると，炉の有無と柱穴は，住居跡の構成要件として重要な一要素となる。第1号竪穴状遺構については，遺構確認で規模から住居跡の可能性があると考えた。しかし，調査の結果炉と柱穴と思われるものがなく，床面の踏み固められた形跡がないことから，住居跡とは区別して，竪穴状遺構という名称を付した。

調査区西側が緩やかな傾斜であることから，縄文土器片や弥生土器片は東側から流れ込んだもので，縄文時代や弥生時代の集落は，遺跡東側に広がる台地平坦部に形成されていた可能性が考えられる。

第4章　前田村遺跡

第1節　遺跡の概要

前田村遺跡は，総面積約130，000m²の規模をもち，筑波郡谷和原村の西部，筑波・稲敷台地の西端の標高23．0mの台地上に所在し，現況は畑地，山林である。平成6年度に調査したD・F地区の面積は，17，357m²である。

今回の調査結果では，縄文時代中期・後期，古墳時代後期，平安時代の集落跡，中近世の墓地跡の複合遺跡であることが確認できた。遺構は，竪穴住居跡70軒（縄文時代63軒，古墳時代4軒，平安時代3軒），土坑714基，地下式壙16基，井戸12基，溝43条を確認した。古墳時代と平安時代の集落跡は，F区のほぼ中央に確認できた。中近世の墓地跡は，D区の中央から南側に確認できた。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に339箱出土している。縄文時代の遺物は，縄文土器（深鉢形土器，浅鉢形土器，注口土器など），土製品，石器（石鏃，磨石，敲石，石皿，磨製石斧，打製石斧など）が出土している。古墳時代と平安時代の遺物は，土師器，須恵器（坏，甕など）が出土している。中近世の遺物は，土師質土器（内耳鍋，擂鉢，皿），陶器，磁器，五輪塔，古銭，煙管，砥石などが出土している。

第2節　基本層序

（D区）

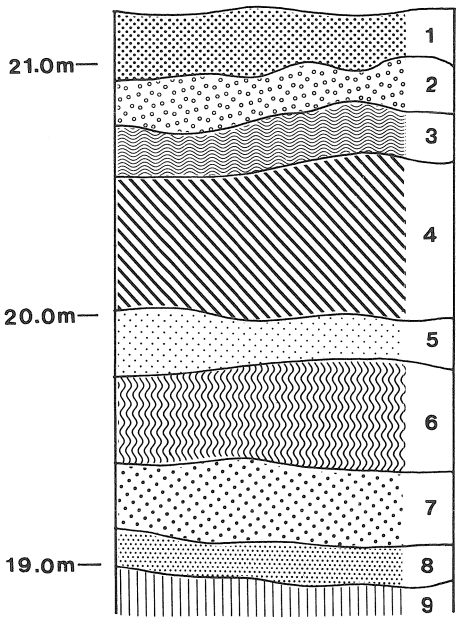
第1層は，暗褐色の耕作土で，厚さは40～50cmである。

第2層は，ソフトローム層への漸移層で，厚さ10～20cmの褐色である。ローム小・中ブロックを少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子を極少量含み，締まりがある。

第3層は，厚さ10～30cmの明褐色土のソフトローム層で，ローム小・中ブロックを少量含み，締まりがあり，粘性は弱い。

第4層は，40～70cmの暗褐色土で，ローム中ブロック多量，ローム小ブロック少量含み，粘性，締まりともに強い。いわゆるブラックバンドと呼ばれる層である。

第5・6層はともにハードローム層である。第5層は，厚さ20～25cmの明褐色土で，ローム小・中ブロック少量含み，粘性，締まりともに強い。第6層は，厚さ35～55cmの明褐色土で，中・下層に灰黄褐色の粘土が少量含まれ，粘性，締まりともに強い。



第14図　前田村遺跡D区基本土層図

第7層は，厚さ30cmほどの明黄褐色土で，灰黄色の粘土を多量に含んでいる。また，黄褐色の鉄分を含んだ斑点が中層に見られ，粘性が強く，やや締まりがある。

第8層は，厚さ20cm弱の鈍い黄褐色土の粘土層である。粘性，締まりともに極めて強い。

第9層は，黄灰色土の粘土層である。厚さ20cm以上であるが，未掘のため本来の厚さは不明である。粘性，締まりともに極めて強い。

遺構は，表土下40～50cmの第２層上面から確認されている。

（Ｆ区）

第１層は，45cm前後の厚さの耕作土層で，褐色をしている。

第２層は，30cm前後の厚さの暗褐色で，粘性，締まりともに強い。いわゆる，ブラックバンドと呼ばれる層である。

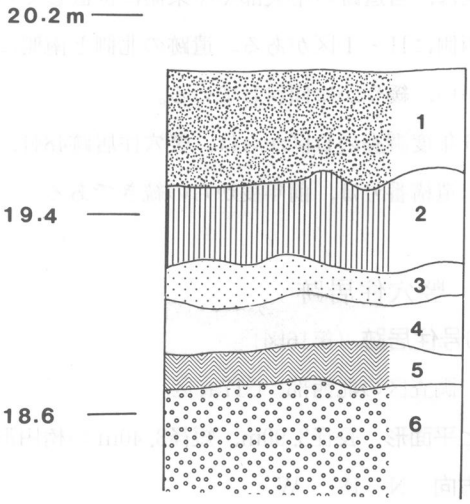
第３層は，20cm前後の厚さの鈍い褐色で，炭化粒子，スコリアを少量含み，粘性，締まりともに強い。

第４層は，20cm前後の厚さの赤色粘土層で，スコリアを多量に含み，硬い。

第５層は，10～18cmの厚さの赤色粘土層で，スコリア，灰色粘土を多量に含み，粘性が強い。

第６層は，40cm前後の厚さの灰色粘土層で，スコリアを多量に含み，硬い。

遺構は，第２層上面で確認した。



第15図　前田村遺跡Ｆ区基本土層図

遺構掘り込み作業

第３節　遺構と遺物

Ｄ区

Ｄ区は，当遺跡の中央部やや東側に位置している。Ｄ区の北側にＣ区，東側にＡ・Ｂ・Ｇ区，南側にＥ・Ｆ区，西側にＨ・Ｉ区がある。遺跡の北側と南側に谷津が入り込んでいることは前述したが，Ｄ区は南側の谷津に向かい，緩やかに傾斜している。

平成６年度調査のＤ区からは，竪穴住居跡48軒，地下式壙14基，井戸８基，土坑629基，溝16条を検出した。なお，遺構番号は，前年度からの続きである。

１　竪穴住居跡

第240号住居跡（第16図）

位置　調査区の北西部，C17a$_4$区。

規模と平面形　長径3.90m，短径3.40mの楕円形。

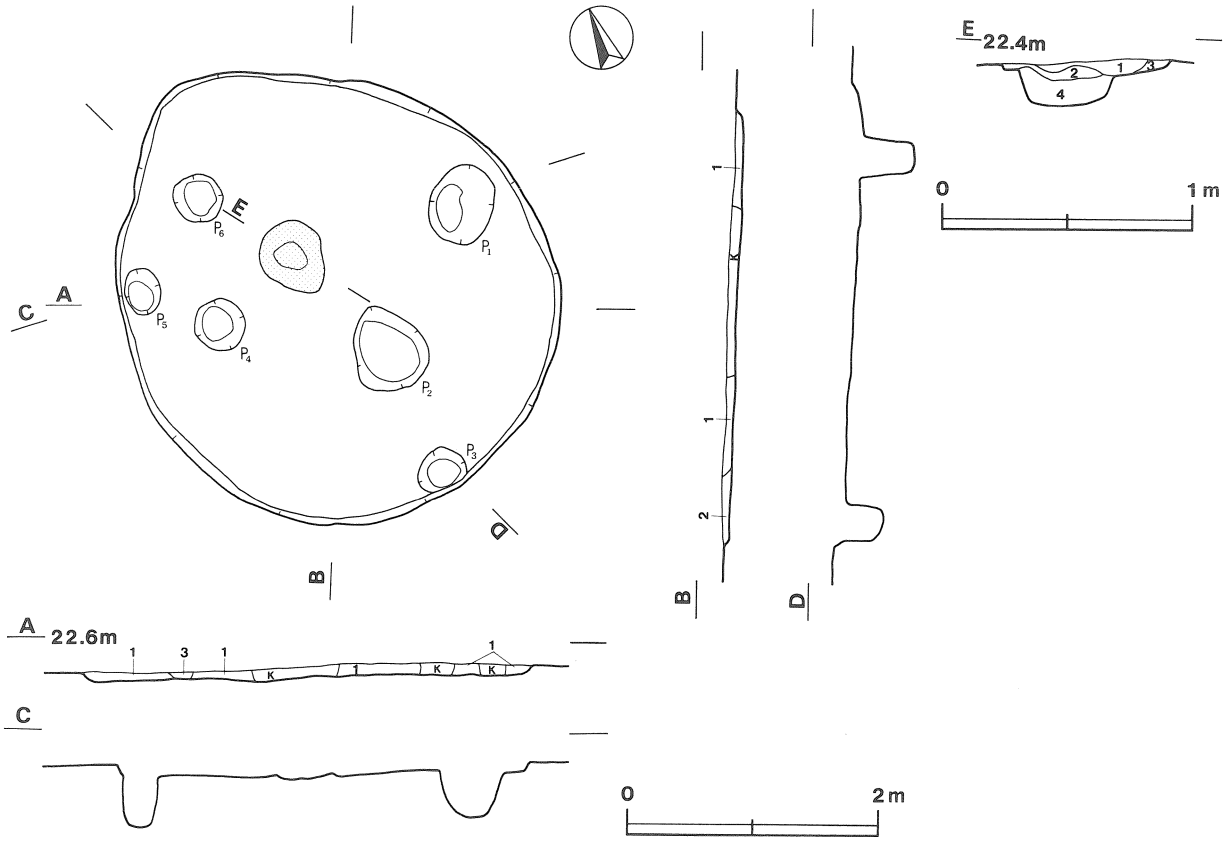
長径方向　N－18°－W

壁　壁高４～10cmで，外傾して立ち上がる。

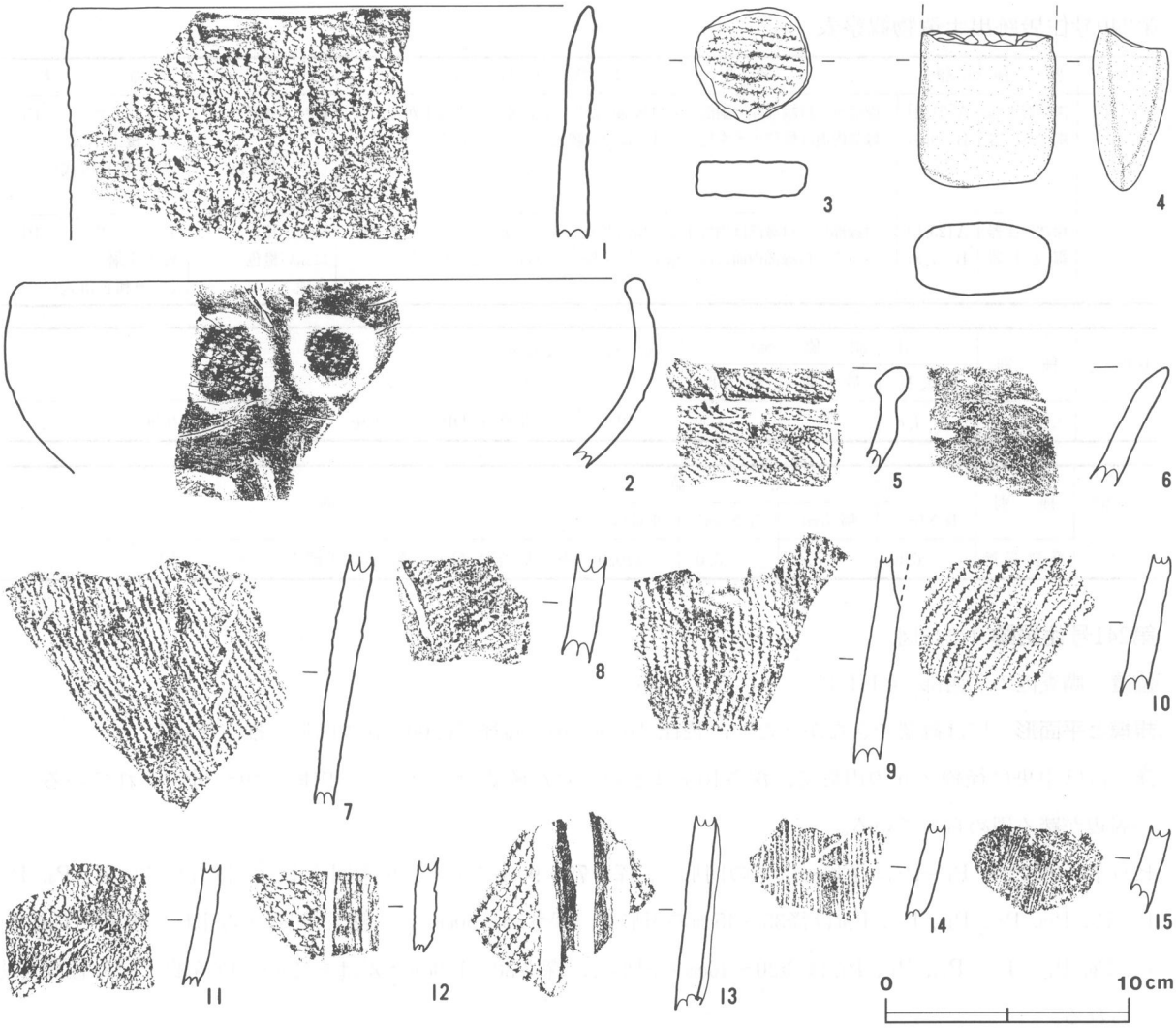
床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　６か所。P_1，P_2，P_4，P_6は径40～60cmの円形で，深さ40～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。壁際のP_3，P_5は径35～40cmの円形で，深さ32～44cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。

炉　中央からやや北側に付設されている。長径60cm，短径50cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床



第16図　第240号住居跡実測図



第17図　第240号住居跡出土遺物実測・拓影図

炉である。2層底面のロームがレンガ状に赤変硬化している。

炉土層解説

1　褐　　色　焼土小ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　赤　褐　色　焼土小・中・大ブロック多量
3　赤　褐　色　焼土中ブロック少量，小ブロック・粒子多量，ローム中ブロック少量，小ブロック多量
4　赤　褐　色　熱を受けている層

覆土　3層からなる。1層が大半を占め，土器片が出土している。トレンチャーによる撹乱を受けている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，暗褐色土中量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小ブロック少量，炭化粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部3点，胴部74点，底部4点）が出土している。

第17図1と2は，覆土中層から出土した深鉢形土器の口縁部である。3の土製円板，4の磨製石斧は確認面から出土している。5～15は縄文土器片の拓影図である。5は阿玉台Ⅳ式の口縁部片で，単節縄文を地文にし，口縁直下に一条の沈線が巡る。6は後期の口縁部片で無文である。7～15は胴部片である。7・8は加曽利EⅠ式で，縄文に沈線を施している。9は無節縄文を施し，10は単節縄文を施している。11は後期のものと考えられる。12・13は加曽利EⅢ式で，磨消帯が垂下する。14は加曽利EⅢ式で，条線文を施している。15は無文である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利EⅢ式期）と考えられる。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第240号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第17図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[21.2] B(9.5)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。口縁部内面は横位ナデを施し，外面は単節縄文を施文している。	砂粒・長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1　5％　PL29 3区覆土中層 (加曽利E Ⅲ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[25.0] B(7.8)	口縁部片。口縁部は内彎する。楕円形の口縁部文様帯内に縄文を充填している。口縁部内面には，横位ナデを施している。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P 2　5％　PL29 覆土中層 (加曽利E Ⅲ式)

図版番号	種　別	計測値 (cm)			重　量 (g)	現存率 (%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
3	土製円板	4.8	4.7	1.4	40.0	100	DP 1　覆土中　PL56

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	磨製石斧	(6.6)	5.6	3.0	(170.0)	凝灰岩	Q 1　確認面　刃部片　PL57

第241号住居跡（第18図）

位置　調査区の北西部，C17f_8区。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［6.50］m，短径［6.00］mの円形と推定される。

床　ほぼ中央に径約2mの円形で，深さ10cmほどの段差が確認できた。その内側に炉が付設されている。炉の周辺が踏み固められている。

ピット　20か所。P_1～P_3は径40cmほどの円形で，深さ75～90cmであり，炉を回るように位置している。P_4，P_5，P_6，P_8，P_{13}，P_{16}，P_{18}，P_{19}，P_{20}は径35～45cmの円形で，深さ35～60cmで，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_7，P_9，P_{10}～P_{12}，P_{14}，P_{15}，P_{17}は径20～40cmの円形で，深さ30～100cmと差はあるが，位置的に補助柱穴と考えられる。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径80cm，短径50cmの楕円形で，床面を20cmほど掘りくぼめた石囲い炉である。2層底面のロームがレンガ状に赤変硬化している。

炉土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子極少量
4　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
5　熱を受けたロームブロック

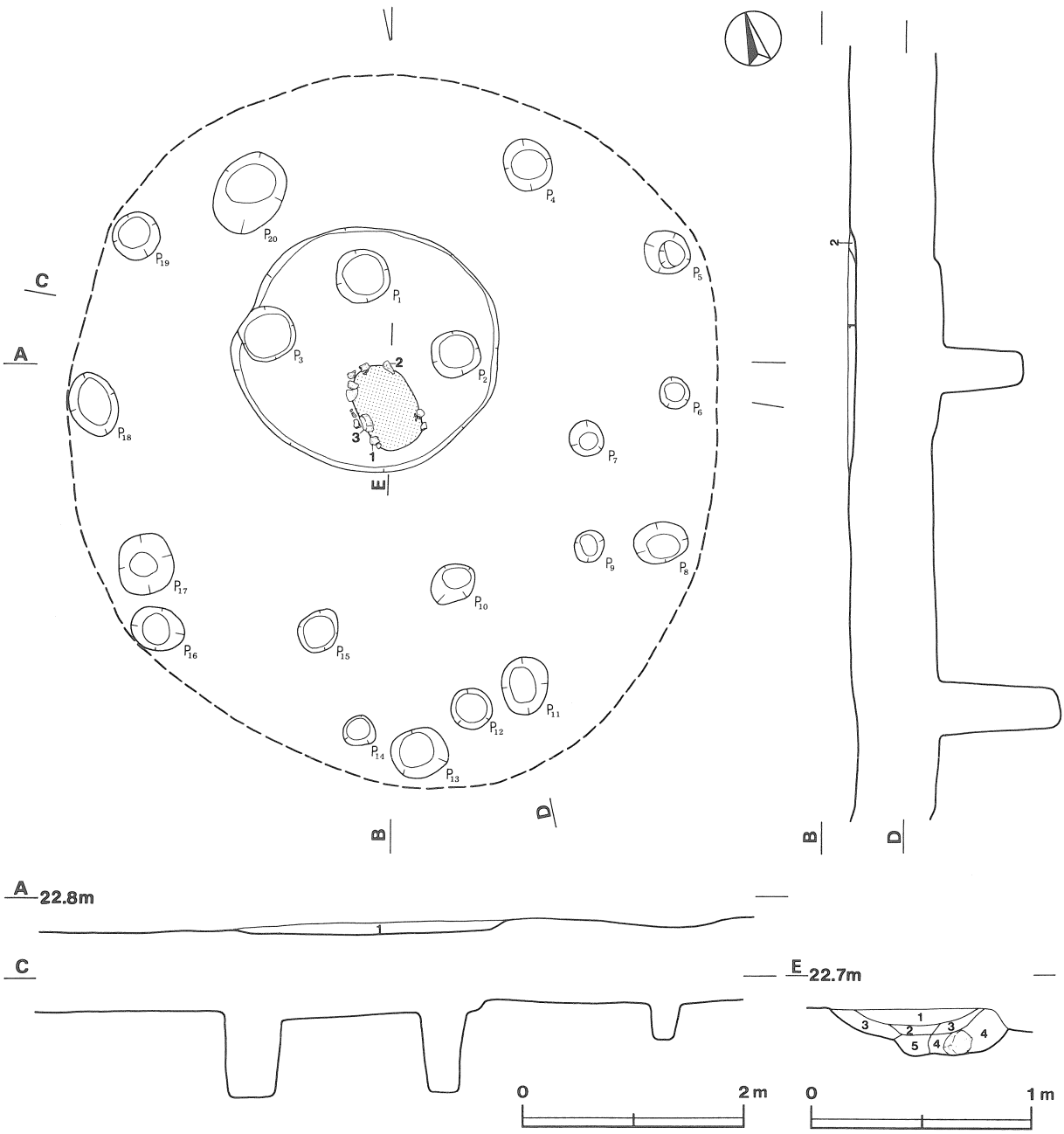
覆土　住居跡中央部の掘りくぼんだ段差の覆土

土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子多量，炭化粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック少量

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部16点，胴部137点，底部7点）が出土している。

第19図1と2の磨石と3の凹石は，石囲い炉に転用したものである。4～13は縄文土器片の拓影図である。4～8は口縁部片である。4は阿玉台Ⅲa式で口縁直下に結節状沈線文が巡る。5は大木8a式で口縁部無文である。口縁直下に二条の沈線が巡る。6は安行Ⅲa式の粗製土器である。7は安行式で2つの孔が認められる。8は安行Ⅱ式である。9は大木8a式の胴部片で，波状沈線と直線的な沈線を施している。10は加曽利EⅣ式の胴部片である。11は称名寺式の胴部片で，沈線を施している。12は堀之内式の胴部片である。13は加曽利EⅠ式の胴部片で撚糸文を地文に幅の広い沈線が垂下する。

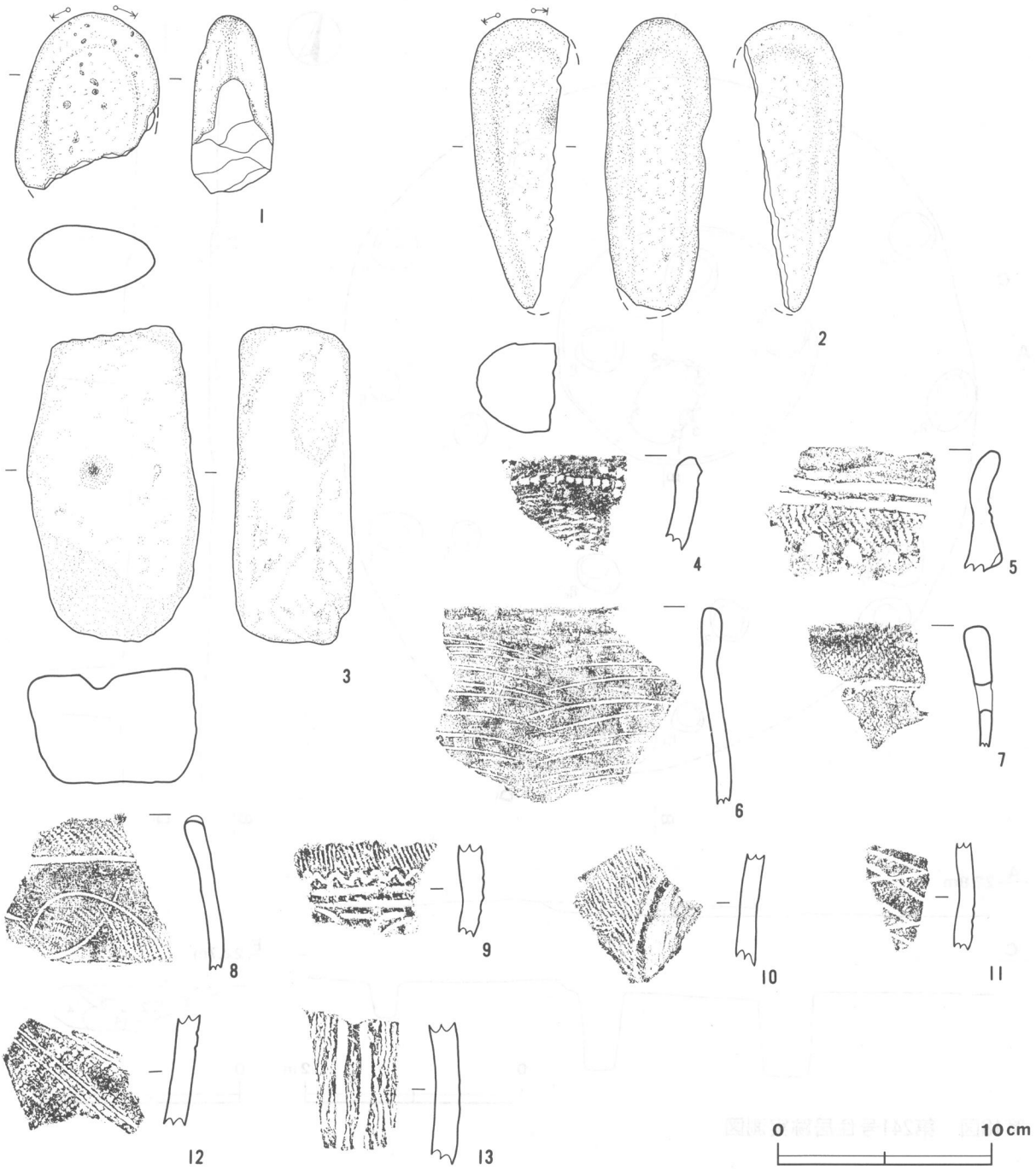


第18図　第241号住居跡実測図

所見　本跡は，壁は確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。縄文土器片の中に後・晩期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第241号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第19図1	磨　石	(8.4)	6.5	3.0	(260.0)	安山岩	Q2　石囲い炉転用　半欠
2	磨　石	13.5	(4.2)	4.2	(320.0)	安山岩	Q3　石囲い炉転用　半欠
3	凹　石	14.7	8.2	5.3	(1030.0)	安山岩	Q4　石囲い炉転用　一部欠損



第19図　第241号住居跡出土遺物実測・拓影図

第242号住居跡（第20図）

位置　調査区の北西部，C17i_7区。

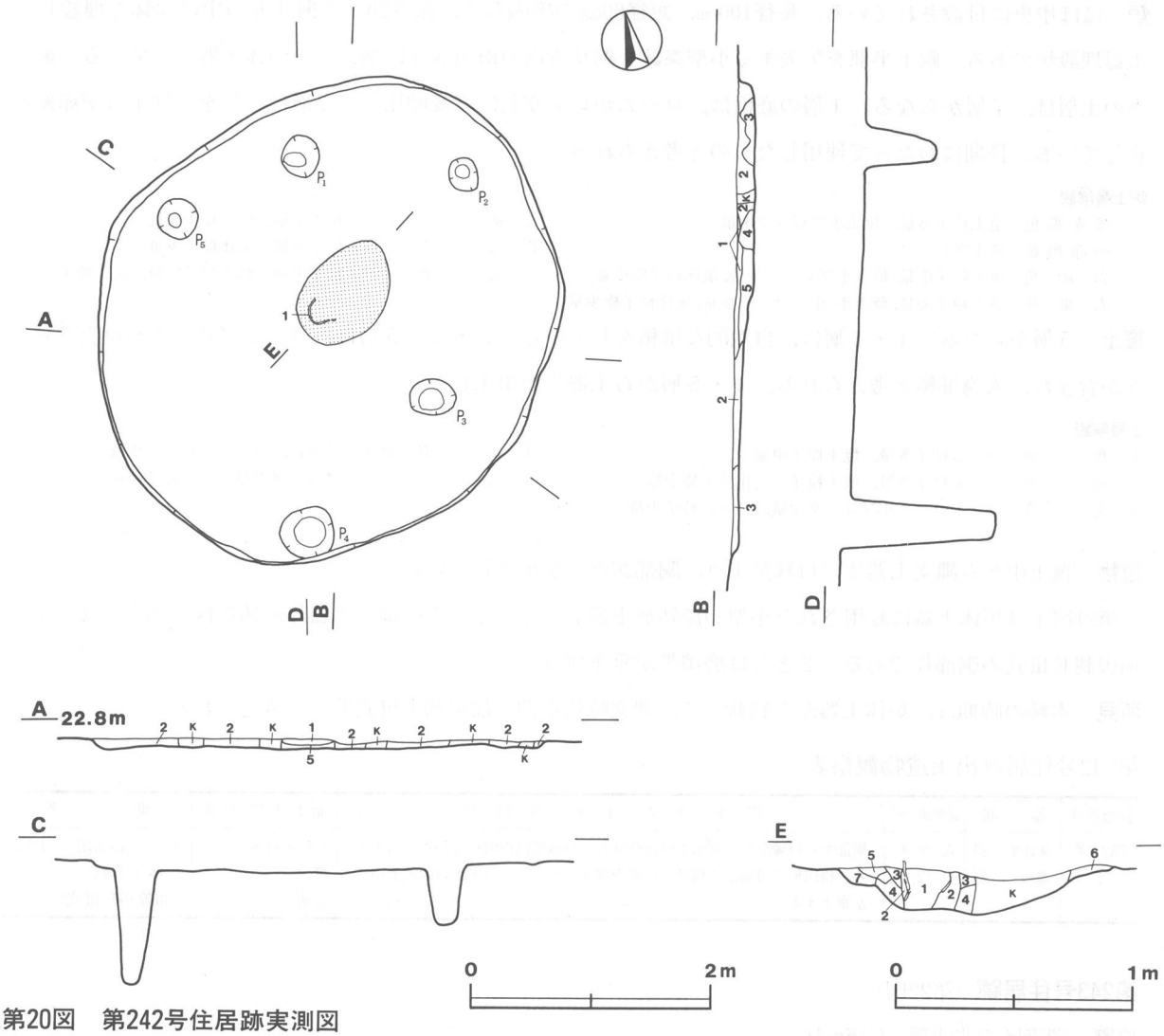
規模と平面形　長径4.20m，短径3.74mの楕円形。

長径方向　N－48°－E

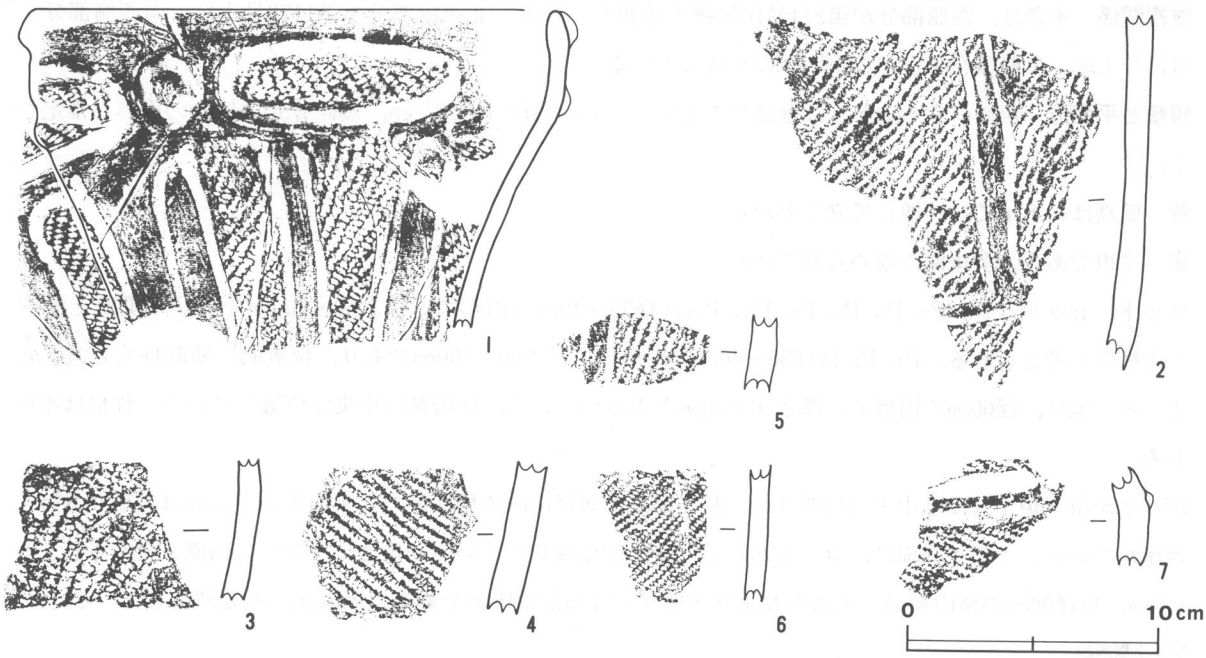
壁　壁高1～8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　5か所。P_1～P_3，P_5は径が約30cmの円形で，深さ50～98cmであり，規模や配列から主柱穴と考えられる。南側の壁際にあるP_4は，径40cmの円形で，深さ125cmと深いが，性格は不明である。



第20図　第242号住居跡実測図



第21図　第242号住居跡出土遺物実測・拓影図

炉　ほぼ中央に付設されている。長径100cm，短径60cmの楕円形で，深さ20cmの掘り方の中に深鉢を埋設した土器埋設炉である。胴下半部を欠失する小型深鉢を掘り方内の南西寄りに据えて，炉体土器としている。掘り方の土層は，７層からなる。１層の底面は，ロームがレンガ状に赤変硬化し，２層は，熱を受け土層が赤変硬化している。長期にわたって使用したものと考えられる。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
2　明赤褐色　焼土ブロック
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子極少量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小・中ブロック少量，炭化粒子極少量
5　褐　　色　ローム粒子小量，焼土粒子中量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子中量，炭化粒子少量

覆土　５層からなる。１・２層は，自然的な堆積をしている。３・４・５層は，ロームブロックや焼土ブロックが含まれ，人為堆積と考えられる。４・５層から土器片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　　色　ソフトローム小ブロック中量，ローム粒子少量
4　褐　　色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　褐　　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子中量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部１点，胴部26点）が出土している。

第21図１は炉体土器に転用された小型の深鉢形土器である。２～７は縄文土器片の拓影図である。２～７は加曽利ＥⅢ式の胴部片である。２と５は磨消帯が垂下する。

所見　本跡の時期は，炉体土器から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第242号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第21図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 20.8 B(12.6)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し，口縁部は内彎しながら立ち上がる。楕円形の口縁部文様帯内に単節縄文を充填し，以下に直線的磨消帯が垂下する。	砂粒・石英 橙色 普通	P３　45%用　PL29 炉体土器転 (加曽利ＥⅢ式)

第243号住居跡（第22図）

位置　調査区の北西部，C16c_0区。

重複関係　本跡は，西側部分が第244号住居跡と重複している。北西側部分を第1172号土坑，南西側部分を第1171号土坑，東壁際を第1173号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　西壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［5.23］m，短径［5.10］mの円形と推定される。

壁　壁高は約７cmで，外傾して立ち上がる。

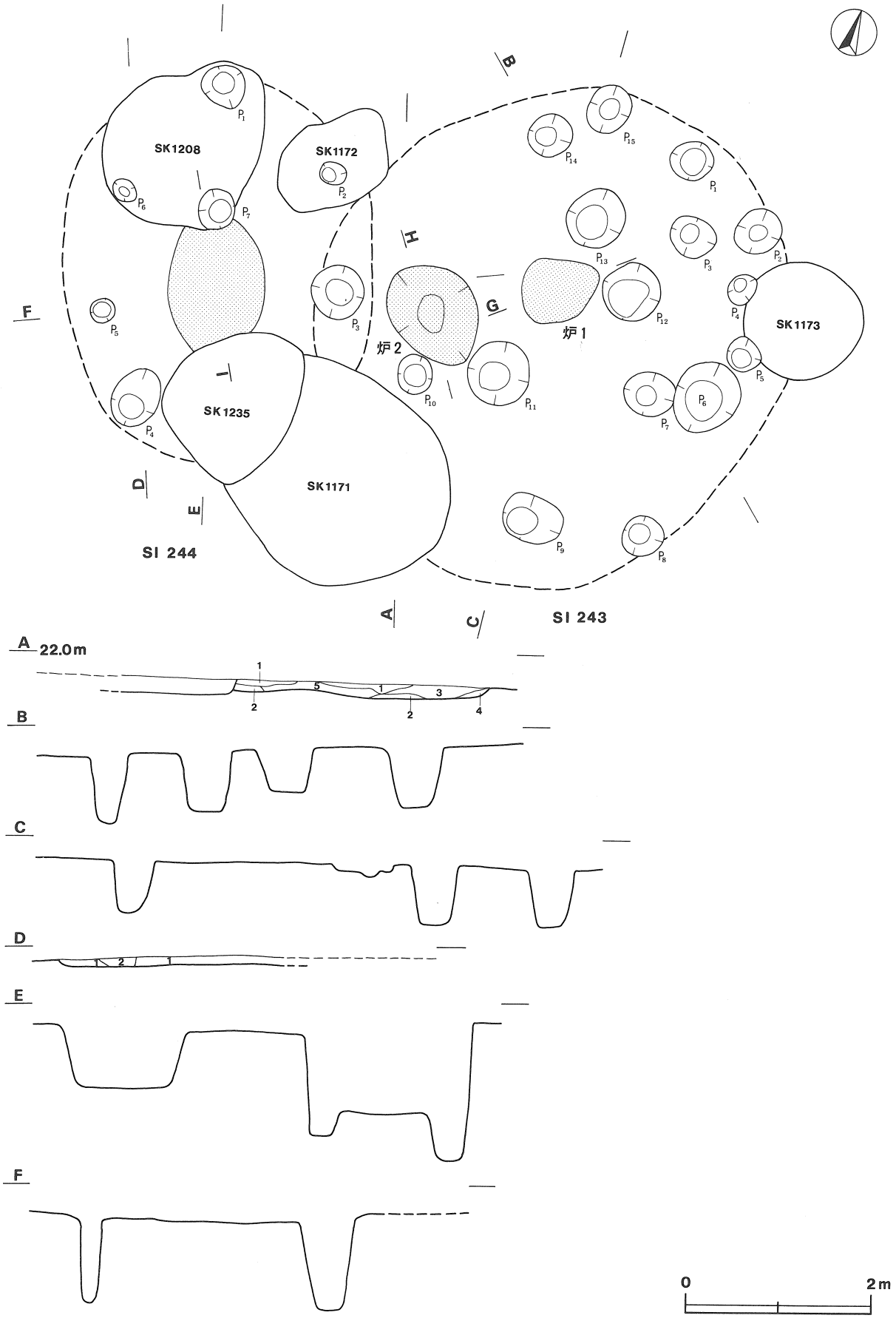
床　平坦である。全域踏み固められている。

ピット　15か所。P_1，P_2，P_5，P_8，P_9，P_{10}，P_{14}は径35～40cmの円形で，深さ60～100cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_4，P_{15}は径35～40cmの円形で，深さ60～100cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は，径60cmの円形で，深さ50～70cmと大きいもので，住居跡の中央に位置している。性格は不明である。

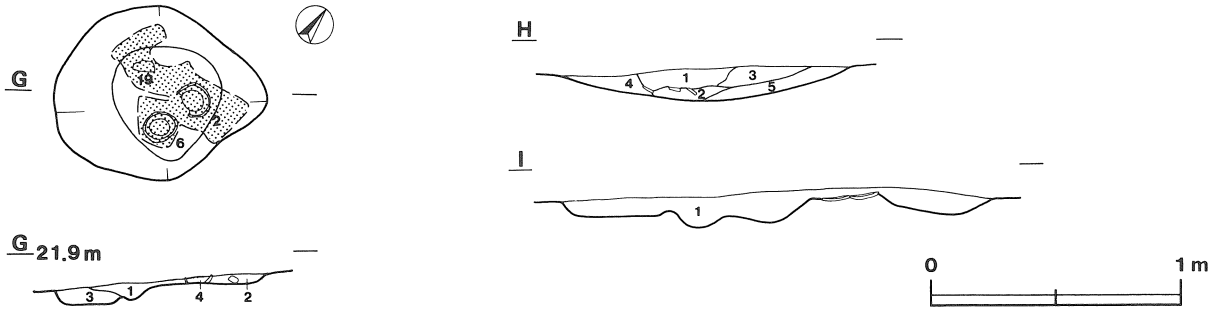
炉　２か所。炉１はほぼ中央に付設され，長径80cm，短径60cmの楕円形で，床面を深さ５cmほど掘りくぼめた地床炉である。１層の底面は，ロームがレンガ状に赤変硬化している。炉２は中央から西側に付設され，長径120cm，短径90cmの楕円形で，床面を20cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，赤変硬化している。

炉１土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子・ローム小・中ブロック極少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量



第22図　第243・244号住居跡実測図



第23図　第243・244号住居跡炉実測図

3　褐　　色　焼土粒子少量，炭化粒子極少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・小ブロック中量，炭化粒子少量

炉２土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・小ブロック中量，炭化粒子中量
2　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・小ブロック中量，炭化粒子少量
3　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・小ブロック中量，炭化粒子少量
5　にぶい赤褐色　焼土小・中ブロック中量

覆土　５層からなる人為堆積である。いずれの層にも焼土粒子，炭化粒子が含まれている。５層から土器片が出土している。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・小ブロック少量

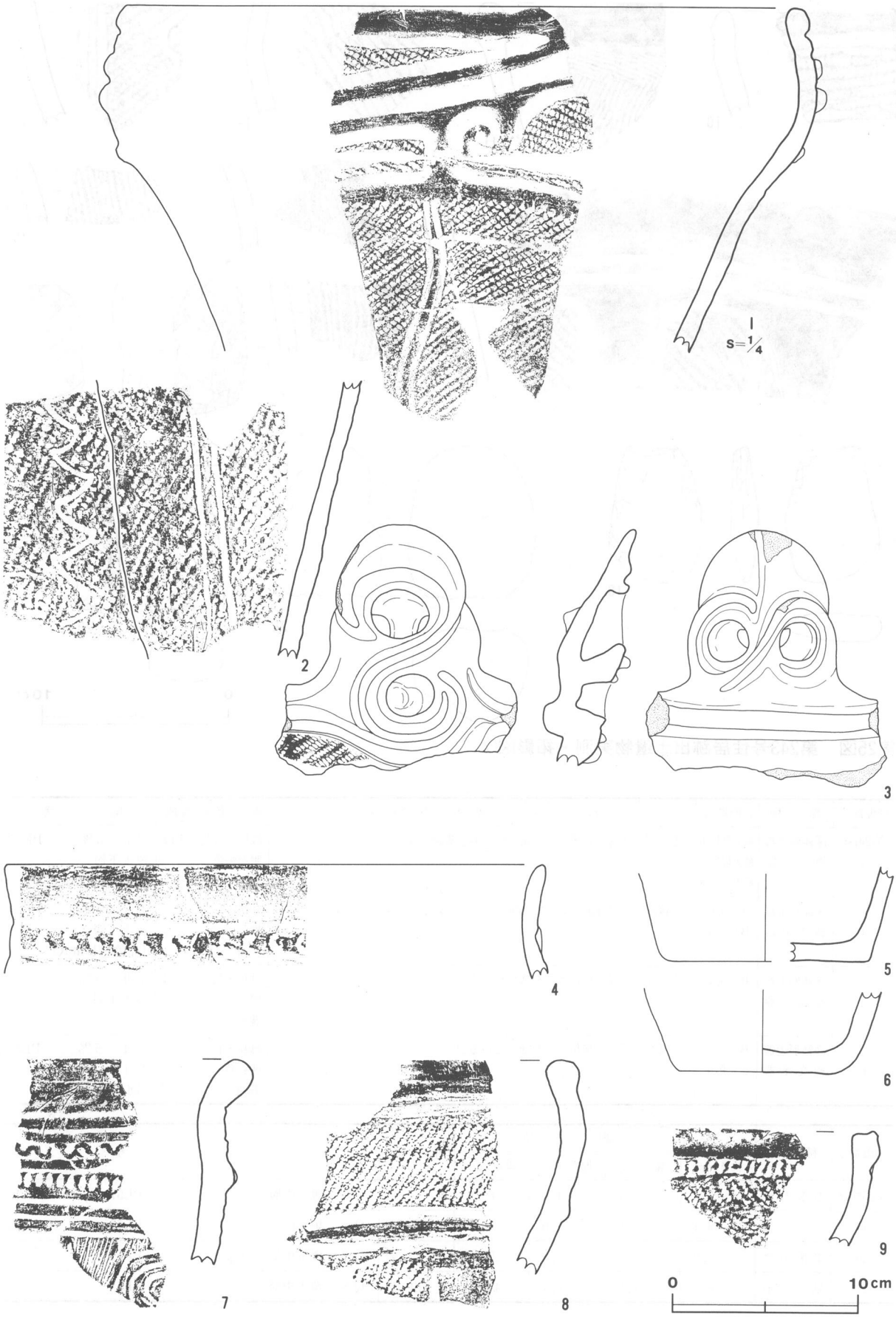
遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部31点，胴部244点，底部７点）が出土している。

第24図１と３～５は覆土下層から出土した深鉢形土器である。２と６は炉１内から出土した深鉢形土器である。覆土中層から18の打製石斧，20の磨製石斧，21の敲石が出土している。19は炉１内から出土した黒曜石の石器である。７～17は縄文土器片の拓影図である。７～11は口縁部片である。７と９は中峠式で口縁部無文帯直下に交互刺突文とキザミ目を施した隆帯が巡る。８と10は加曽利ＥⅢ式のものである。11は阿玉台Ⅳ式で口縁部無文帯直下に無節縄文を充塡している。12～17は胴部片である。12と13は加曽利ＥⅢ式で，12は磨消帯が垂下する。14と17は堀之内Ⅰ式で，14は沈線を施し，17は単節縄文ＬＲを地文に沈線を施している。15と16は加曽利ＥⅠ式で，15は複節縄文ＬＲＬを地文に蛇行沈線と直線的な沈線を施し，16は撚糸文を施文している。

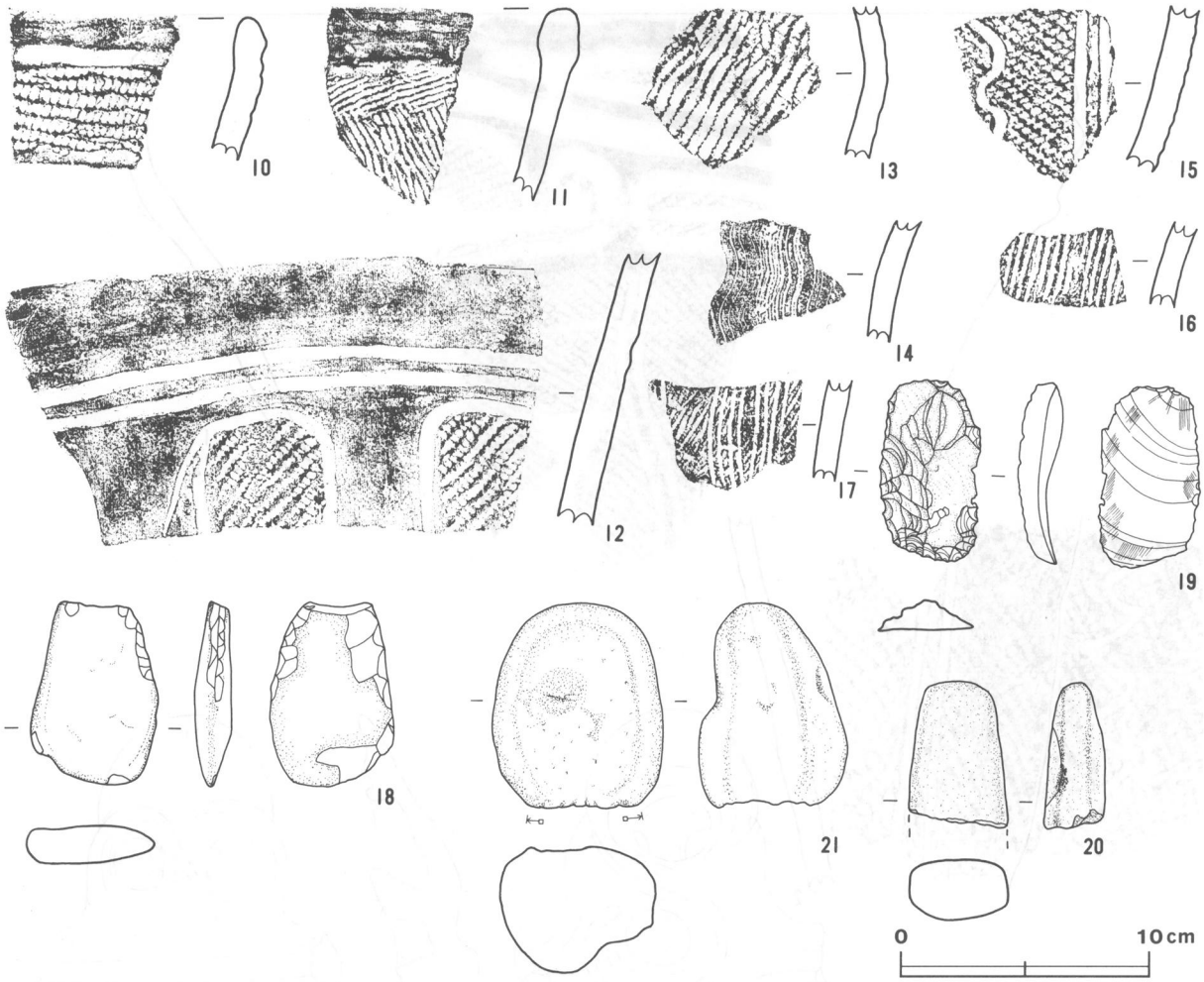
所見　本跡の時期は，炉内から出土した土器から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。重複している第244号住居跡と同時期であるが，新旧関係は不明である。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第243号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第24図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[47.4] B(25.0)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部には，隆帯による渦巻文を描いている。以下に，単節縄文ＲＬの縦位回転を地文に，二条の沈線を施している。	砂粒・石英・パミス にぶい橙色　普通	Ｐ５　10%　PL29 覆土下層 (加曽利ＥⅠ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(15.0)	胴部片。胴部は外傾しながら立ち上がる。縄文を地文に沈線を施している。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	Ｐ６　40%　PL29 炉１内 (加曽利ＥⅠ式)



第24図　第243号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第25図　第243号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第24図 3	深鉢形土器 縄文土器	最大長13.6 最大幅13.0 最大厚 4.8	把手片。外面に縦S字，内面に横S字を基調する。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 7　5%　PL29 覆土下層 (加曽利E I 式)
4	深鉢形土器 縄文土器	A(29.0) B(5.9)	口縁部片。口縁直下3cmほど無文帯とし，以下に一条の刺突文が巡る。	砂粒 橙色 普通	P 8　5%　PL29 覆土下層 (加曽利E III 式)
5	深鉢形土器 縄文土器	B(5.1) C[11.4]	底部片。平底。横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P 9　5% 覆土下層
6	深鉢形土器 縄文土器	B(4.5) C　9.0	底部片。平底。横位ナデを施している。	砂粒・長石 明褐色 普通	P 4　5%　PL30 炉1内 (阿玉台式)

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第25図18	打製石斧	7.4	5.1	1.6	80.0	砂　岩	Q 5　覆土中層	PL57
19	石　器	4.1	2.6	1.0	40.0	黒曜石	Q 6　炉1内	PL58
20	磨製石斧	(5.9)	3.9	2.4	(90.0)	砂　岩	Q 7　覆土中層　刃部欠	PL57
21	敲　石	8.2	6.9	6.1	440.0	安山岩	Q 8　覆土中層	PL59

第244号住居跡（第22・23図）

位置　調査区の北西部，C16c9区。

重複関係　東側部分が第243号住居跡と重複している。北西側部分を第1208号土坑，北東側部分を第1172号土坑，南東側部分を第1235，1171号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　北壁，南壁および東壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［4.13］m，短径［3.19］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－18°－W］

壁　西壁が残存しており，壁高は約5㎝で，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　7か所。P_1～P_6は径20～40㎝の円形で，深さ90～120㎝であり，壁内際を回るように位置し，規模と配列から主柱穴と考えられる。配列を考えると第1235号土坑内に主柱穴があった可能性が考えられる。P_7は径38㎝の円形で，深さ119㎝であり，炉2の北寄りに位置している。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径約120㎝，短径100㎝の楕円形で，床面を15㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。覆土中から縄文土器片が出土している。炉床は，火熱によりロームが赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土小・大ブロック多量

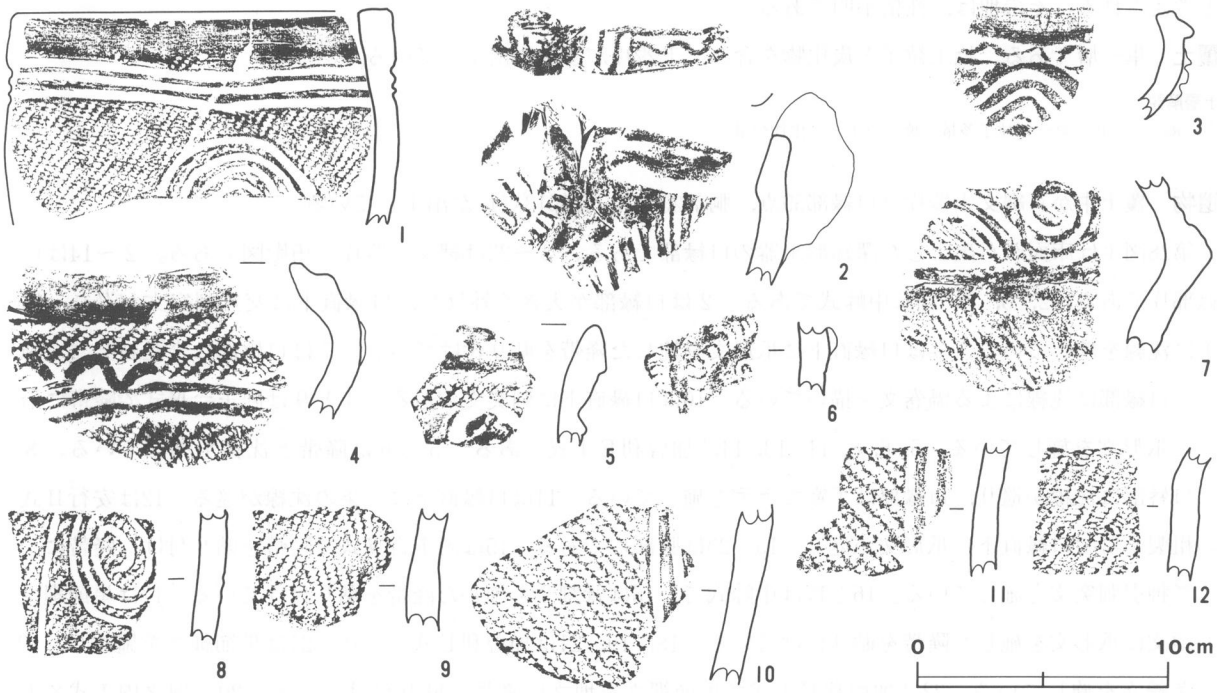
覆土　2層からなる。1層が大部分を占め，土器片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部8点，胴部40点，底部2点）が出土している。

第26図1は覆土中から出土した深鉢形土器である。2～12は縄文土器片の拓影図である。2～5は口縁部片である。2と3は中峠式で，2は口唇部に交互刺突文を施し，口縁部には沈線を施している。3は交互刺突文が



第26図　第244号住居跡出土遺物実測・拓影図

巡る。4は加曽利ＥＩ式で単節縄文ＲＬを地文に粘土紐を貼り付けている。5は堀之内Ⅰ式である。6～12は胴部片である。6は勝坂式で隆帯に沿って爪形文を施している。7～9と12は加曽利ＥＩ式で，7は胴部上位に沈線による渦巻文を描いている。8は単節縄文を地文に沈線による渦巻文を描いている。9と12は単節縄文を施文している。10と11は加曽利ＥⅡ式で磨消帯が垂下する。

所見　本跡の時期は，炉内覆土中から出土した遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥＩ式期）と考えられる。重複している第243号住居跡と同時期であるが，新旧関係は不明である。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第244号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第26図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[15.2] B(8.5)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部は，ほぼ垂直に立ち上がる。口縁直下は横位ナデを施し，以下に三条の沈線が巡る。胴部は，単節縄文ＲＬの縦位回転を地文に，同心円状の沈線を施している。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P10　5％　PL29 覆土中 (加曽利ＥＩ式)

第245号住居跡（第27図）

位置　調査区の北西部，C17i_4区。

重複関係　本跡は，南東側部分が第247号住居跡と重複している。北側壁際部分を第1212，1218，1223号土坑が，南西側部分を第1170号土坑，南側部分を第1169号土坑，中央西側部分を第1228号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　北東壁と南西壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［6.55］m，短径［6.42］mの円形と推定される。

壁　北西壁と南東壁が残存しており，壁高は約8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全域が踏み固められている。

ピット　15か所。P_{12}，P_4，P_5，P_7，P_8，P_{15}は径35～40cmの円形で，深さ30～50cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_9，P_6，P_{13}，P_{14}，P_3は径20～40cmの円形で，深さ約50cmの規模であり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は，性格不明である。

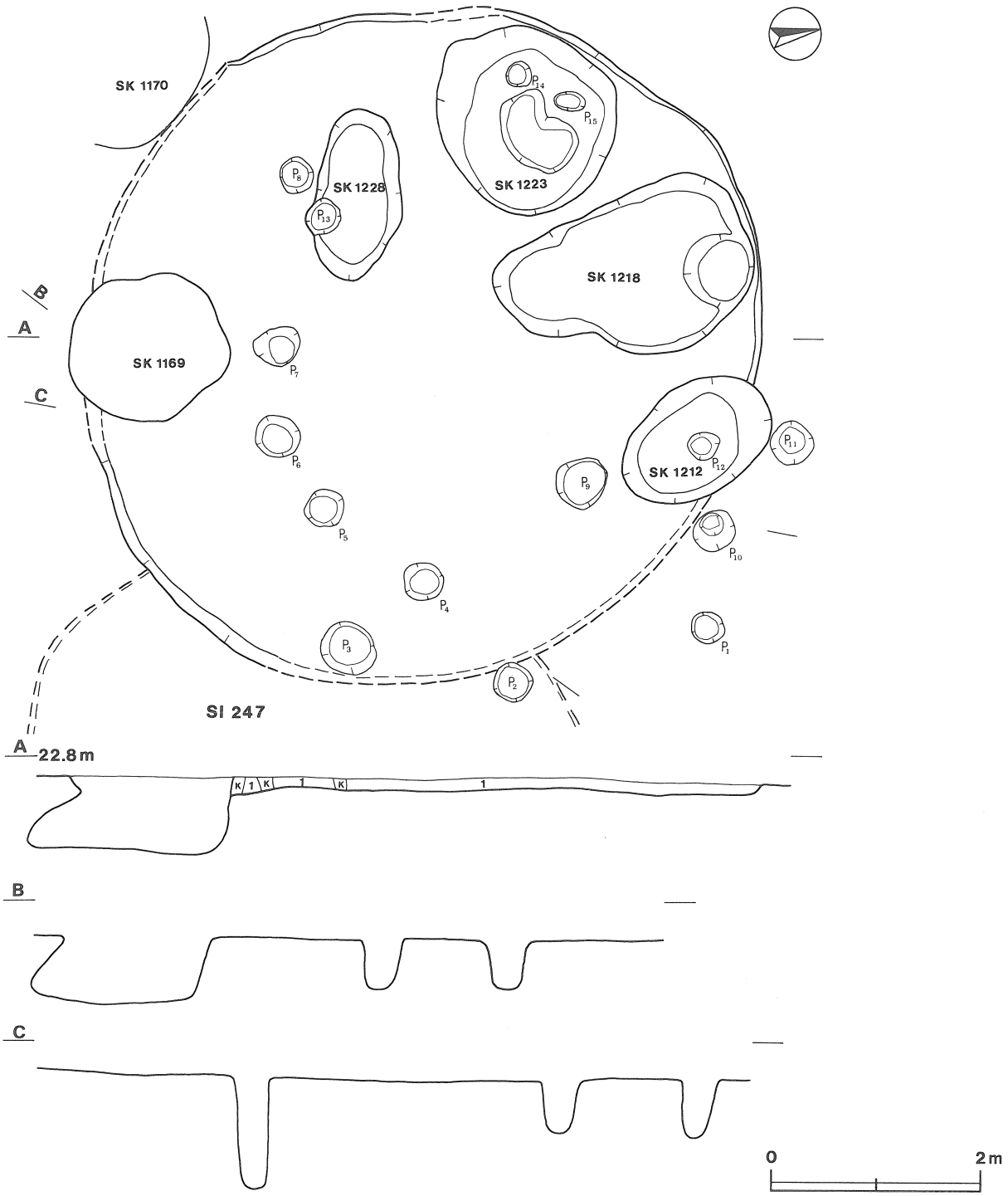
覆土　単一層である。焼土粒子と炭化物を含み，土器片が多量に出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物少量

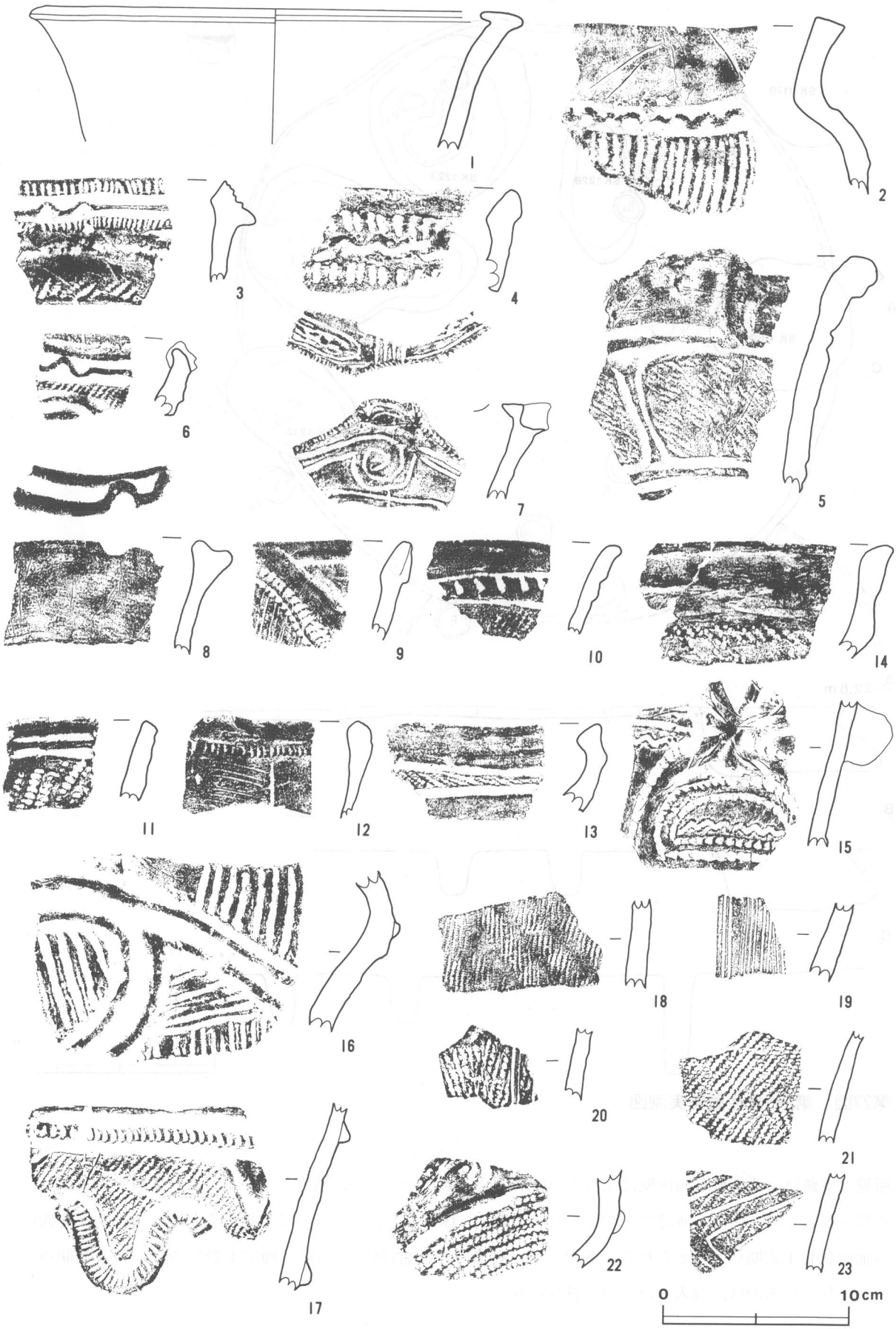
遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部59点，胴部254点，底部13点）が出土している。

第28図1は床面から出土した深鉢形土器の口縁部である。2～23は縄文土器片の拓影図である。2～14は口縁部片である。2，3，7，10は中峠式である。2は口縁部が大きく外反し，口縁直下に交互刺突文が巡り，以下に沈線を施している。3は口縁直下に爪形文を施した隆帯を貼り付けている。7は口唇部に交互刺突文を施し，口縁部に沈線による渦巻文を描いている。10は口縁直下に刺突文が巡る。4と9は阿玉台Ⅳ式で隆帯に沿って爪形文を施している。5，6，8，11，13，14は加曽利ＥＩ式である。5と6は隆帯と沈線を施している。8は口唇部に沈線が巡り，口縁部は丁寧なナデを施している。11は口縁直下に二条の沈線が巡る。12は安行Ⅱ式の粗製土器で口縁直下に爪形文が巡る。15～23は胴部片である。15は阿玉台Ⅳ式で隆帯を貼り付け，隆帯に沿って押引刺突文を施している。16と17は中峠式で，16は背割りを施した隆帯を貼り付けている。17は単節縄文を地文に爪形文を施した隆帯を貼り付けている。18，19，21は加曽利Ｅ式で，18，21は単節縄文を施文し，19は条線文を施している。22は加曽利ＥＩ式で単節縄文を地文に隆帯を貼り付けている。20は堀之内Ⅰ式である。23は堀之内Ⅱ式で縄文を地文に沈線を施している。



第27図　第245号住居跡実測図

所見　本跡は，北東壁と南西壁は立ち上がりが確認できなかったが，残存している壁及び床質から規模及び平面形を推定した。炉は，確認できなかった。時期は，床面から出土している遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。重複している第247号住居跡より古い。縄文土器片の中に後・晩期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。



第28図　第245号住居跡出土遺物実測・拓影図

第245号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第28図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[26.4] B(7.3)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がる。口唇部にナデを施している。 口縁部内・外面に横位ナデを施している。	砂粒・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P11　10% 床面 (加曽利E I式)

第246号住居跡（第29図）

位置　調査区の北西部，C17a$_4$区。

重複関係　本跡は，南側部分が第250号住居跡と重複している。北側部分を第1168号土坑が掘り込んでいる。

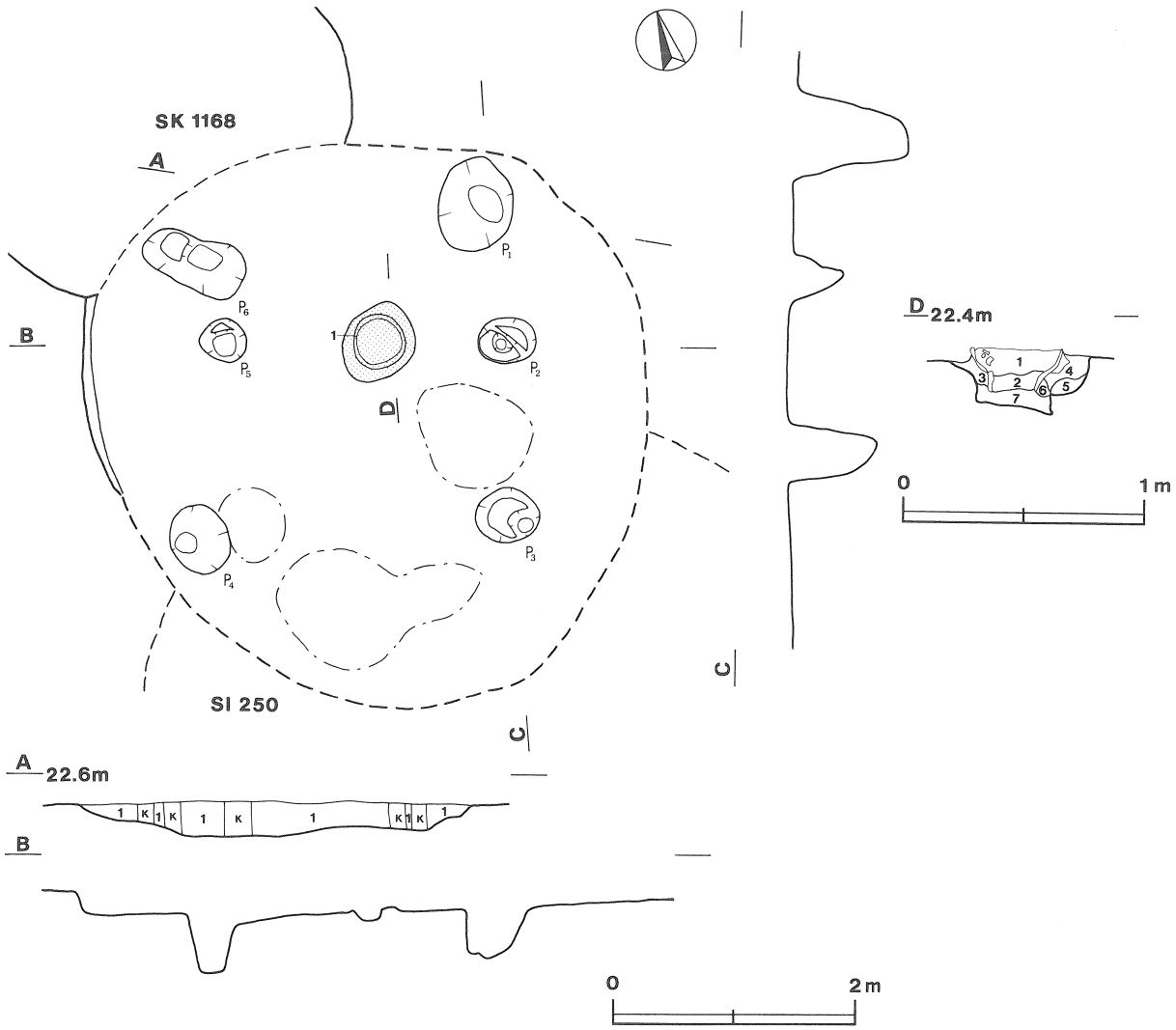
規模と平面形　北西壁の立ち上がりしか確認できなっかたが，長径［4.72］m，短径［4.52］mの円形と推定される。

壁　北西壁が残存しており，壁高は約20cmで，外傾して立ち上がる。

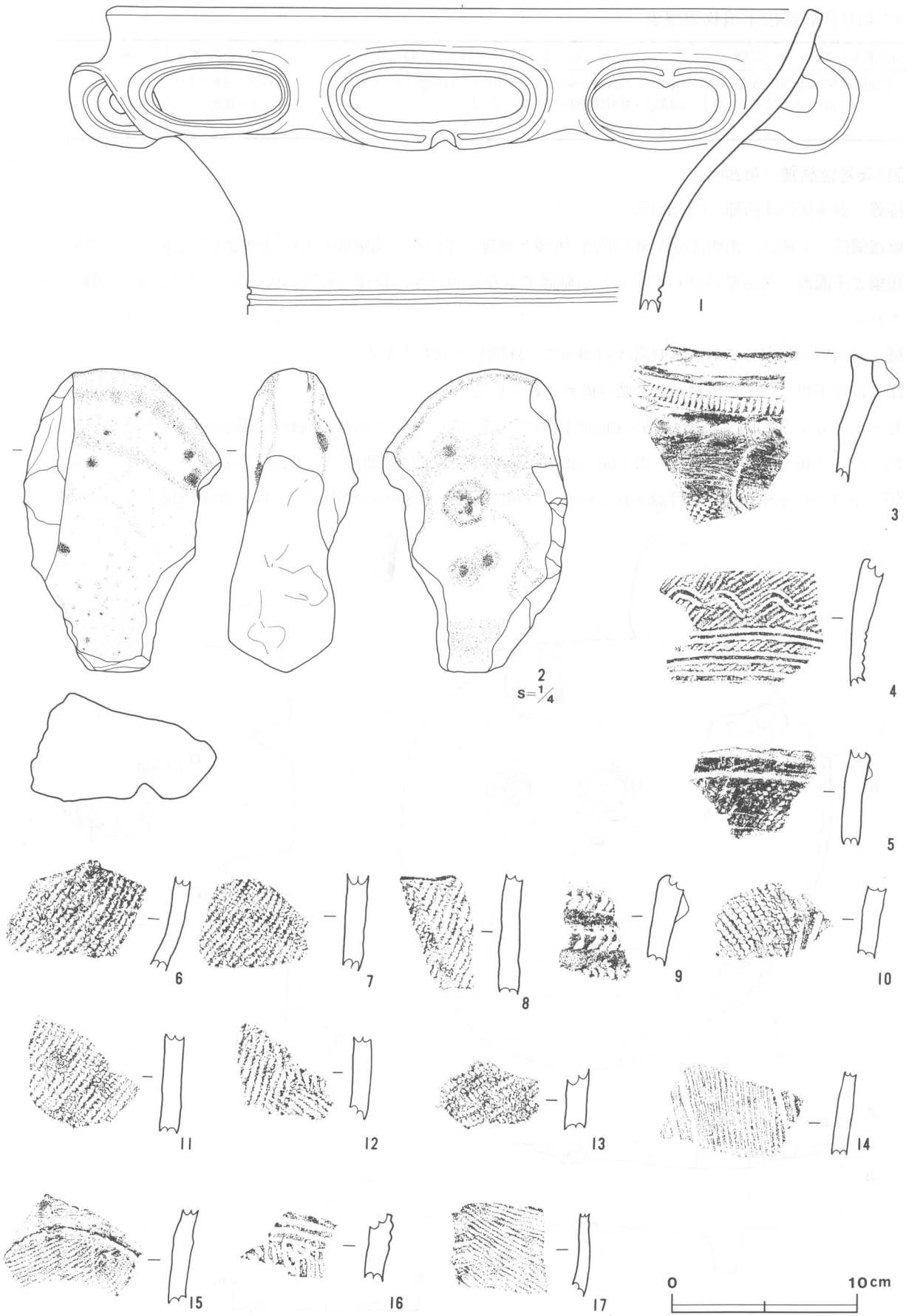
床　ほぼ平坦で，炉の南側が特に踏み固められている。

ピット　6か所。P_2～P_5は径35～40cmの円形で，深さ50～80cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_1, P_6は径40～60cmの円形で，深さ66～90cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。

炉　中央からやや西寄りに付設されている。長径90cm，短径80cmの楕円形で，深さ30cmの掘り方の中に深鉢形



第29図　第246号住居跡実測図



第30図　第246号住居跡出土遺物実測・拓影図

土器を埋設した土器埋設炉である。胴部下半部を欠失する深鉢形土器を掘り方内のほぼ中央に据えて，炉体土器としている。炉内覆土に焼土ブロック・焼土粒子を含み，炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子中量
3　赤　褐　色　焼土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子極少量
4　赤　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子少量
5　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子極少量
6　赤　褐　色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量，ローム小・中ブロック少量
7　暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子中量，硬い

覆土　単一層である。土器片が出土している。トレンチャーによる撹乱を受けている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子中量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部12点，胴部113点，底部４点）が出土している。

第30図１は炉体土器に転用した深鉢形土器である。２はP_3の南側床面から出土した石皿である。３～17は縄文土器片の拓影図である。３は中峠式の口縁部片である。口縁直下に爪形文を施した隆帯を貼り付けてある。４～17は胴部片である。４と16は大木８ａ式で縄文を地文に２本単位の波状沈線と半截竹管による沈線を施している。５～８と11～13は加曽利ＥⅠ式で単節縄文を施文している。９は勝坂式で隆帯に沿って爪形文を施している。10と14は加曽利ＥⅡ式で，10は複節縄文を施文し縦位の懸垂文を施している。14は条線文を施している。15と17は加曽利ＥⅣ式で単節縄文を施文している。

所見　本跡は，北東壁しか確認できなかったが，床質から規模及び平面形を推定した。時期は，炉体土器から判断して，縄文時代中期（大木８ａ式期）と考えられる。重複している第250号住居跡との新旧関係は，不明である。縄文土器片の中に加曽利ＥⅣ式の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第246号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第30図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[37.8] B(16.3)	胴部から底部欠損。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部に中空の把手が巡り，胴部上位に二条の沈線が巡る。大木8a式の影響がある。	砂粒・長石 にぶい橙色 良好	P12　40%　PL29 炉体土器転用 (縄文時代中期中葉)

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
2	石　皿	(21.8)	(14.1)	9.0	(2000.0)	凝灰岩	Q9　南側床面　一部欠損　PL58

第247号住居跡（第31図）

位置　調査区の北西部，C17i_5区。

重複関係　本跡は，北西側部分が第245号住居跡，南側部分が第252号住居跡と重複している。

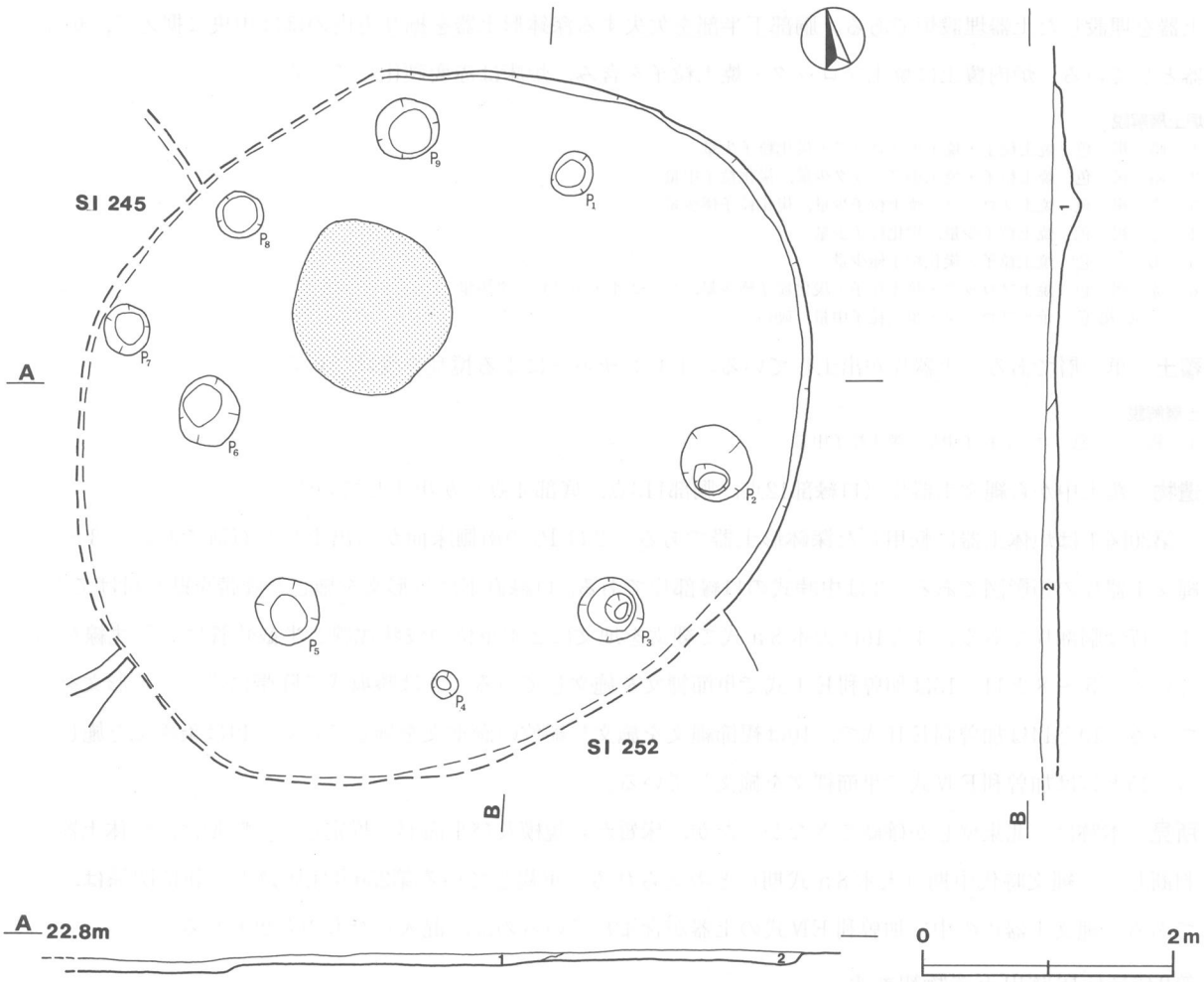
規模と平面形　西壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［6.91］m，短径［5.35］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－57°－E］

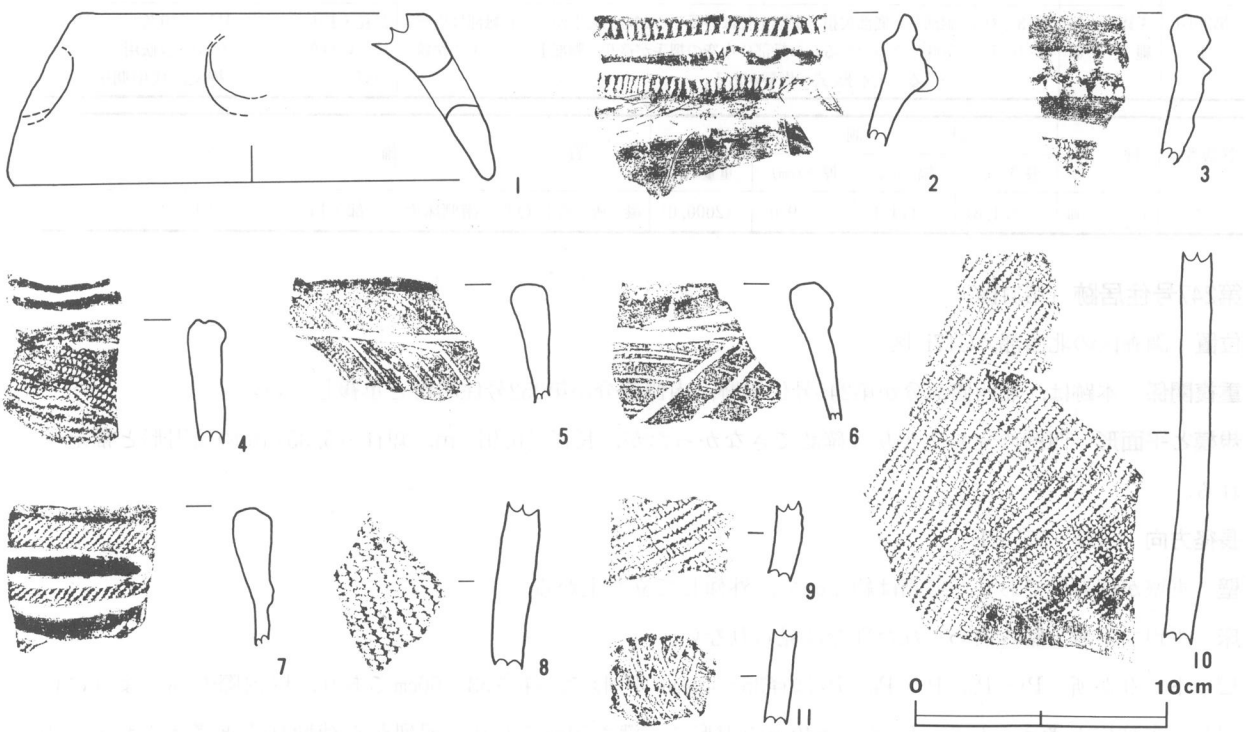
壁　東壁が残存しており，壁高は約４cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。踏み固められた部分は見られない。

ピット　９か所。P_1～P_3，P_5，P_6，P_8は径35～40cmの円形で，深さ53～66cmであり，壁内際を回るように位置し，主柱穴と考えられる。P_7は，径40cmの円形で，深さ50cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。南側壁際に位置するP_4は，径20cmの円形で，深さ55cmであり，他のピットと比べ規模が小さいものである。性



第31図　第247号住居跡実測図



第32図　第247号住居跡出土遺物実測・拓影図

格は不明である。

炉　中央からやや北西寄りに付設されている。長径140cm，短径120cmの楕円形の地床炉である。炉内覆土には，焼土小ブロックや焼土粒子が含まれている。炉床は，硬くなく露出している。短期間使用のものと考えられる。

覆土　2層からなる。2層はロームブロックが多量に含まれ，土器片が出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム中・大ブロック多量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部25点，胴部91点，底部5点）が出土している。

第32図1は覆土中から出土した器台である。2～11は縄文土器片の拓影図である。2～7は口縁部片である。2は中峠式で，口縁直下に爪形文を施した隆帯を貼り付けている。3と4は加曽利EⅡ式で，3は口縁直下に二列の円形の刺突文が巡り，4は口唇部に沈線が巡る。5～7は安行式で，6は粗製土器である。7は隆起帯縄文を施している。8～10は加曽利EⅡ式の胴部片である。8は複節縄文を施文し，9と10は単節縄文を施文している。11は後期の胴部片で，斜位の沈線を施している。

所見　本跡は，東壁しか確認できなかったが，床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。重複している第245号住居跡より新しいが，第252号住居跡との新旧関係は，不明である。縄文土器片の中に後・晩期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第247号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第32図 1	器　台 縄文土器	B(6.6) D[19.0]	器台片。孔が2か所確認される。	砂粒・スコリア にぶい橙色 普通	P13　10%　PL29 覆土中 (加曽利EⅡ～Ⅲ式)

第248号住居跡（第33図）

位置　調査区の北西部，D17a7区。

重複関係　本跡の東側部分を第1180号土坑，南側部分を第1181号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　東壁と南壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［5.42］m，短径［4.63］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－13°－W］

壁　西壁が残存しており，壁高は約8cmで，外傾して立ち上がる。

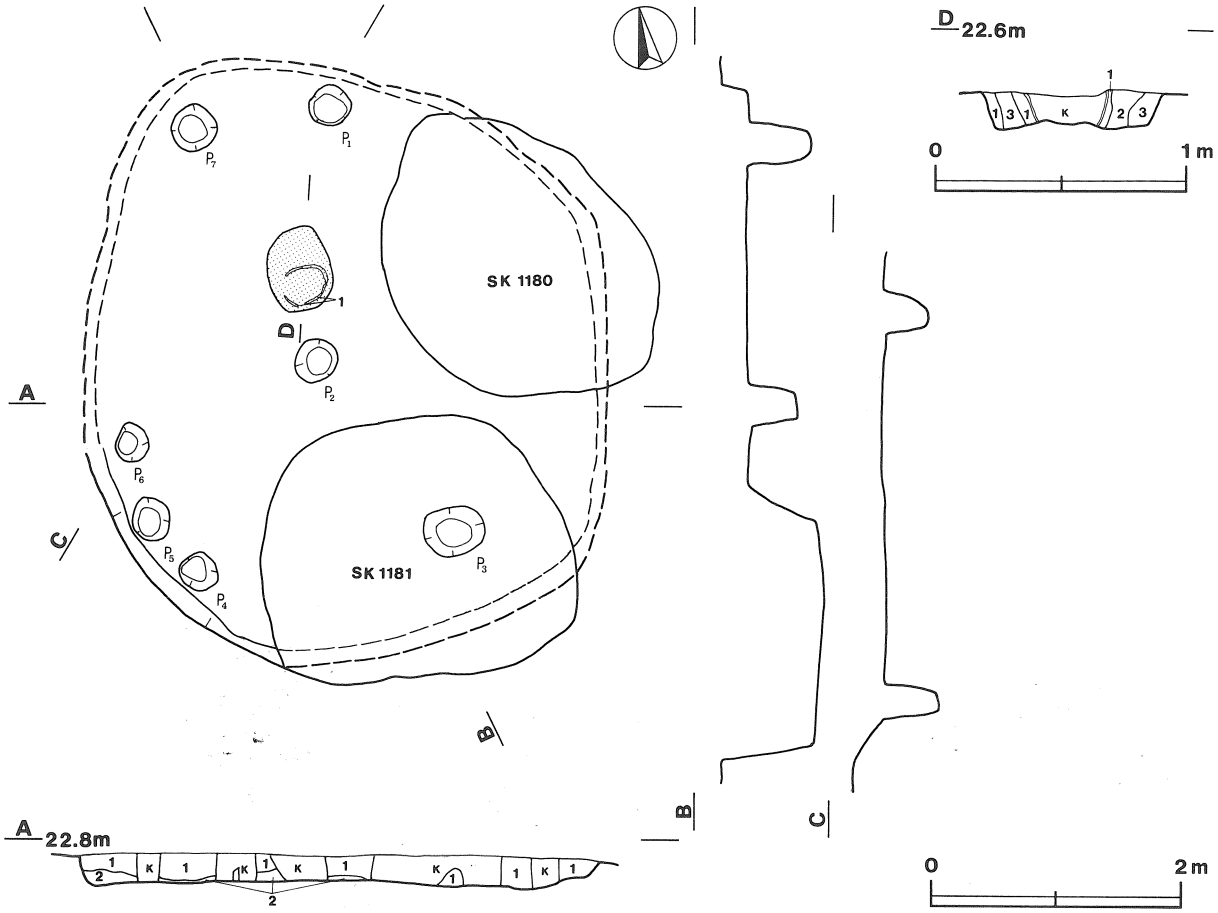
床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　7か所。P_1，P_3～P_7は径約30cmの円形で，深さ38～58cmであり，壁内際を回るように位置し，主柱穴と考えられる。炉の南側に位置するP_2は，径30cmの円形で，深さ41cmである。性格は不明である。

炉　中央からやや北寄りに付設されている。長径70cm，短径50cmの楕円形で，深さ15cmの掘り方の中に深鉢形土器を埋設した土器埋設炉である。口縁部と胴下半部を欠失する深鉢形土器を掘り方内の南寄りに据えて，炉体土器としている。土器埋設炉内が撹乱されている。掘り方の土層は3層に分層される。炉体土器に接する1層は，熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤　褐　色　熱を受けたロームブロック多量
2　赤　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ハードローム中ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子極少量



第33図　第248号住居跡実測図

覆土　2層からなる。1層が大部分を占める。2層には，焼土粒子や炭化物が含まれている。

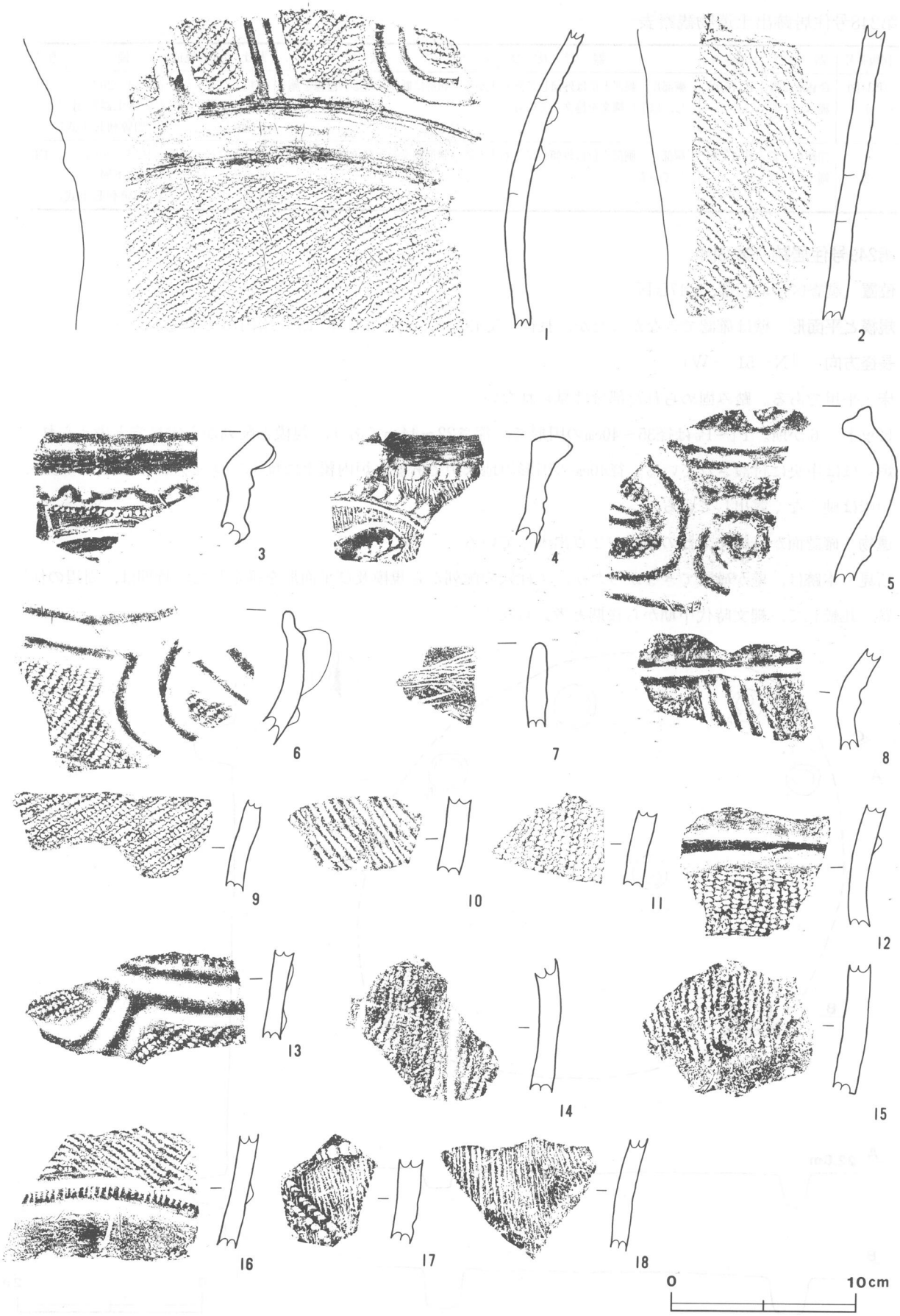
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部12点，胴部115点，底部2点）が出土している。

第34図1は炉体土器に転用された深鉢形土器である。2は覆土下層から出土した深鉢形土器の胴部である。3～18は縄文土器片の拓影図である。3～7は口縁部片である。3は中峠式で口縁直下に交互刺突文が巡る。4は阿玉台Ⅲ式で爪形文と沈線を施している。5と6は加曽利ＥⅠ式で単節縄文を地文に隆帯を貼り付けている。7は後期のものと考えられる。8～18は胴部片である。8～16は加曽利ＥⅠ式である。8は半截竹管による沈線を施している。9と11は単節縄文を施文している。10，14，15は無節縄文を施文し，14には沈線が垂下する。12と13は単節縄文を地文に隆帯を貼り付けている。16はキザミ目を施した隆帯が巡る。17は阿玉台Ⅲ式で爪形文と縦位の沈線を施している。18は後期で条線文を施している。

所見　本跡は，西側に壁が一部確認出来ただけだが，床質から規模及び平面形を推定した。時期は，炉体土器から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。



第34図　第248号住居跡出土遺物実測・拓影図

第248号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第34図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(16.0)	胴部片。胴部上位は外傾して立ち上がる。頸部に断面三角形の隆線を施し，以下に縄文を施文している。	砂粒・石英・パミス　明赤褐色 普通	P14　20%　PL30 炉体土器転用 (加曽利ＥⅠ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(15.7)	胴部片。胴部上位は外傾して立ち上がる。無節縄文Ｒを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P15　40%　PL30 覆土下層 (加曽利ＥⅠ式)

第249号住居跡（第35図）

位置　調査区の北西部，C17f_5区。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［5.12］m，短径［4.58］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－51°－W］

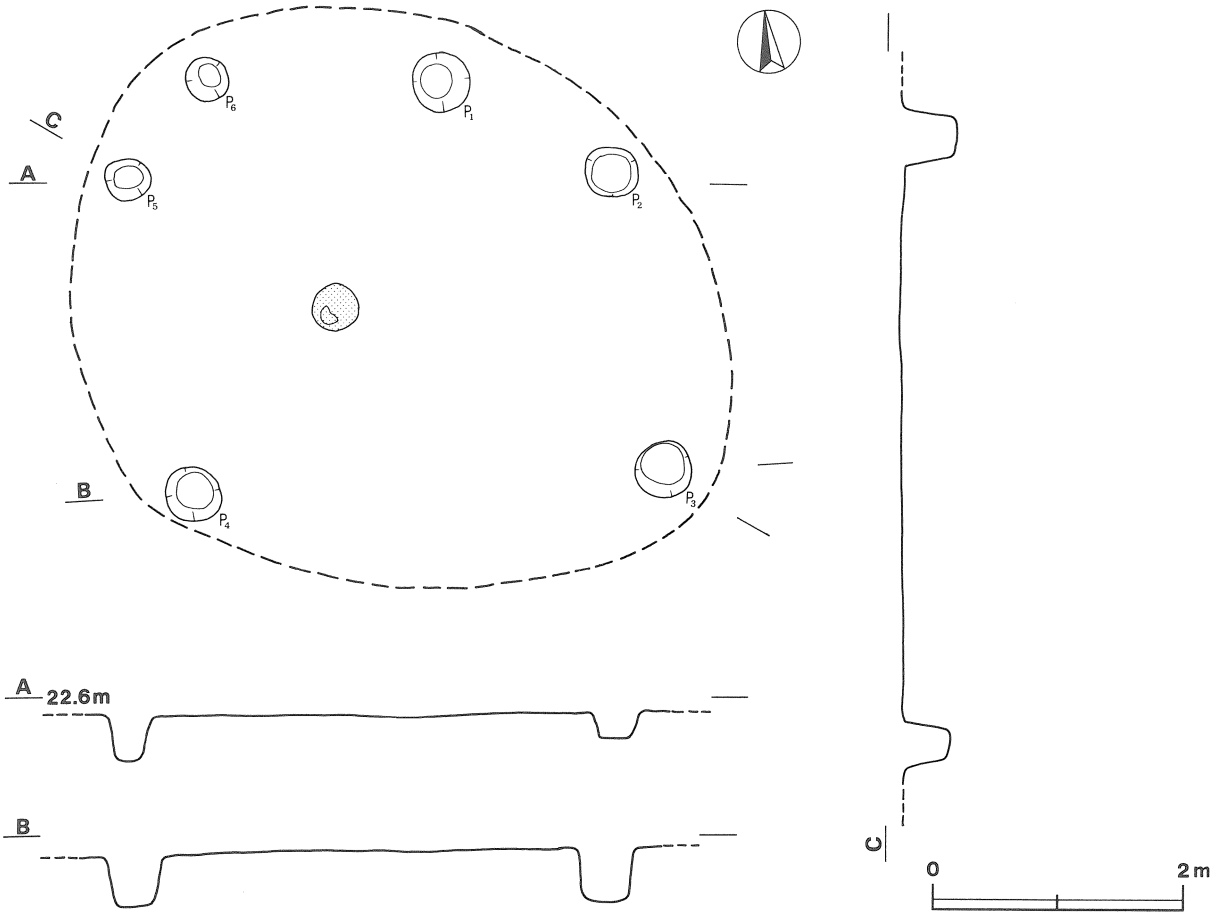
床　平坦である。踏み固められた部分は見られない。

ピット　6か所。P_1～P_6は径35～40cmの円形で，深さ22～44cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉　ほぼ中央に付設されている。径40cmの円形の地床炉である。炉内覆土に焼土ブロックが含まれているが，炉床は硬くなく露出している。

遺物　確認面から縄文土器の細片が2点出土している。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，主柱穴の配列から規模及び平面形を推定した。時期は，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。



第35図　第249号住居跡実測図

第250号住居跡（第36図）

位置　調査区の北部，C17b4区。

重複関係　本跡は，北側部分が第246号住居跡と南側部分が第292号住居跡と重複している。西側壁際を第1190号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　南壁の立ち上がりしか確認できなかったが，長径［6.35］m，短径［4.70］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－53°－W］

壁　南壁が残存しており，壁高は約26cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　9か所。P_1～P_5は径40～50cmの円形で，深さ50～100cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_6～P_9は径20cmの円形で，深さ約60cmである。性格は不明である。

炉　2か所。2つの炉は，ほぼ中央に東西に並んだ状態で付設されている。いずれも長径100cm，短径90cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉であり，炉床は赤変硬化している。

炉1土層解説

1　明赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・焼土小ブロック中量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量

炉2土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量

覆土　単一層である。覆土中には，土器片やロームブロック・焼土ブロックが含まれている。

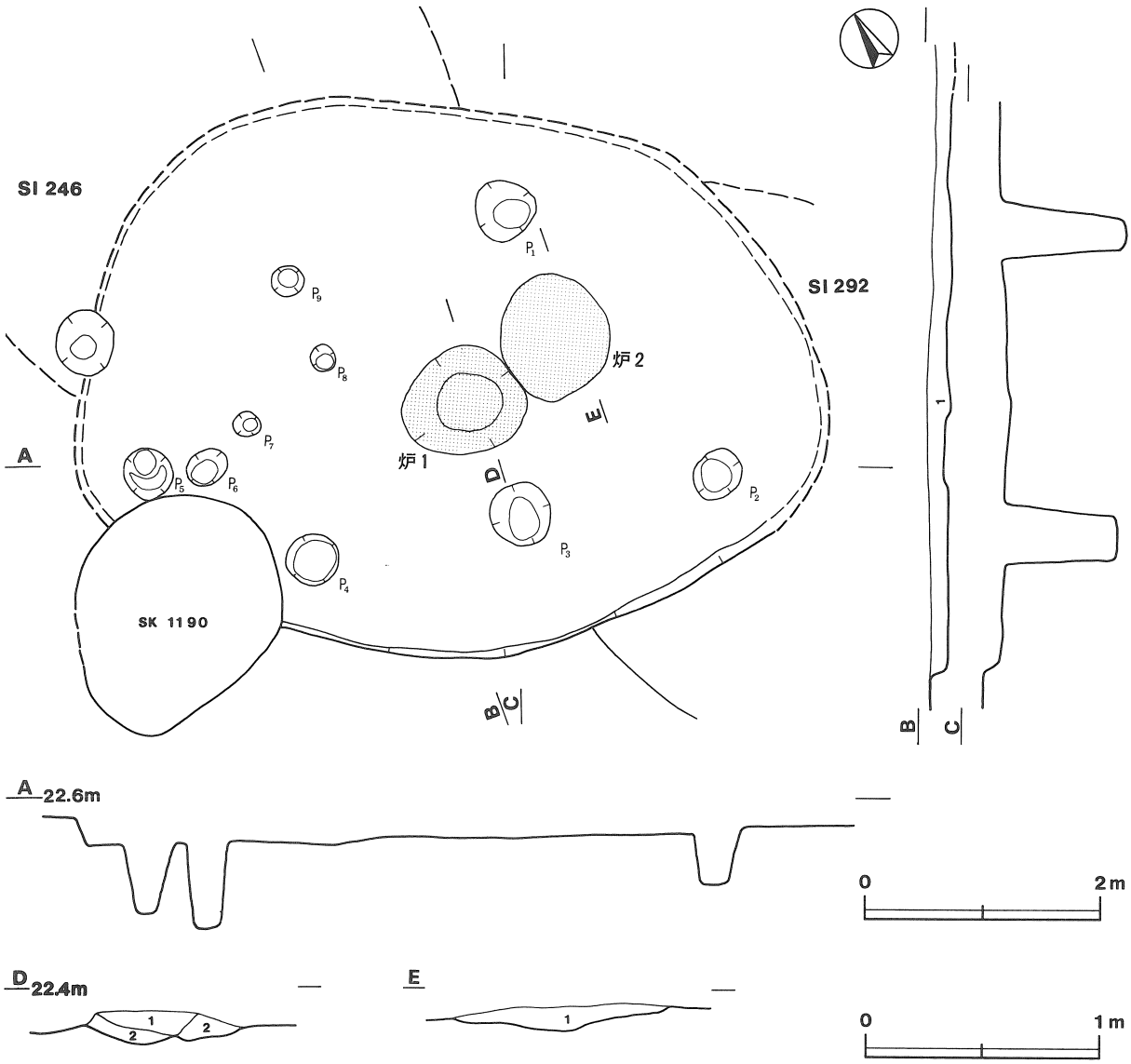
土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，ロームブロック・焼土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部90点，胴部524点，底部15点）が出土している。

第37・38図1～3は覆土中層から出土した土製円板である。51の浮子，52の石皿，53の磨石が覆土下層から出土している。4～50は縄文土器片の拓影図である。4～12は口縁部片である。4，5，7は中峠式である。4は口縁部無文帯で以下に交互刺突文と沈線が巡り，さらに沈線による渦巻文を描いている。5は口縁直下に沈線が巡り，以下にキザミ目を施した隆帯を貼り付け，さらに沈線による渦巻文を描いている。7は口縁直下に交互刺突文が巡り，以下は単節縄文を施文している。6は加曽利EⅢ式で半截竹管による縦位の沈線を施している。8～10は加曽利EⅠ式で，いずれも単節縄文を地文に隆帯を貼り付けて文様を描いている。8は半円，9は楕円形，10は渦巻文を描いている。11は加曽利EⅢ式で隆帯による楕円区画が見られる。12は安行Ⅰ式の粗製土器で条線文が斜行している。13～40，42～50は胴部片である。15と44は阿玉台Ⅲ式で沈線を施している。13，14，16～37，39，43は加曽利EⅠ式である。13は単節縄文を地文に粘土紐を波状に貼り付けている。17は縄文地文に沈線を施している。14，18～25，29～32，35は単節縄文を施文している。26は撚糸文を施している。27は無節縄文を施文している。28，33，36は複節縄文を施文している。34は二条の円形刺突文が巡る。37は単節縄文を地文に三条の沈線が垂下する。41と42は加曽利EⅡ式である。41は口縁部片で二条の円形刺突文が巡る。42は撚糸文を施している。50は加曽利EⅢ式で外面を丁寧に磨いている。さらに，赤彩を施している。40，45，47は堀之内Ⅰ式である。40は半截竹管による沈線を施している。45と47は沈線を施している。49は堀之内Ⅱ式である。

所見　本跡は，南壁しか確認できなかったが，床質から規模及び平面形を推定した。並んだ状態で確認できた2つの炉は，切り合いのないことから併用していた可能性が考えられる。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。重複している第246・292号住居跡との新旧関係は，不明である。縄文土器片の中に



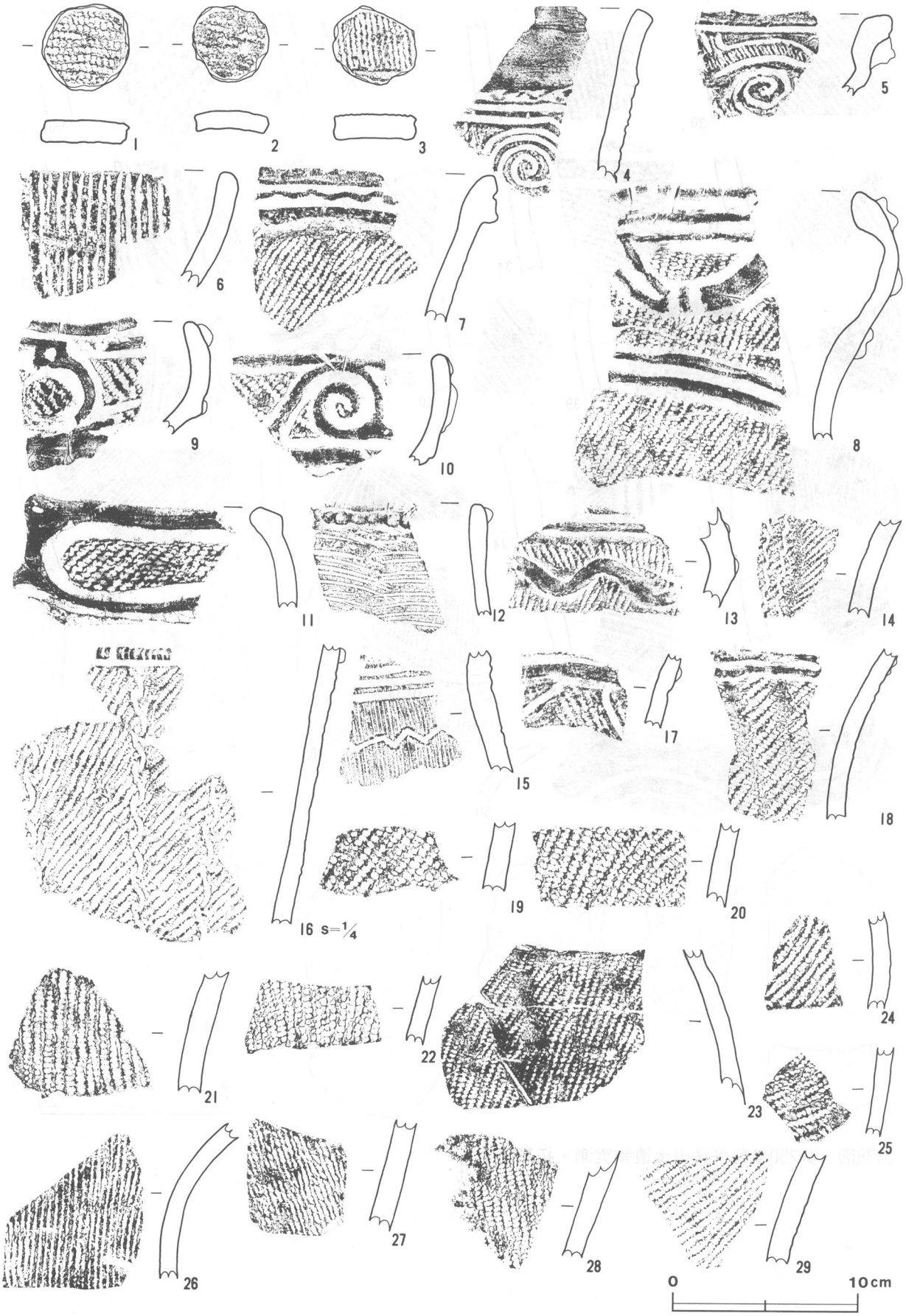
第36図　第250号住居跡実測図

後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

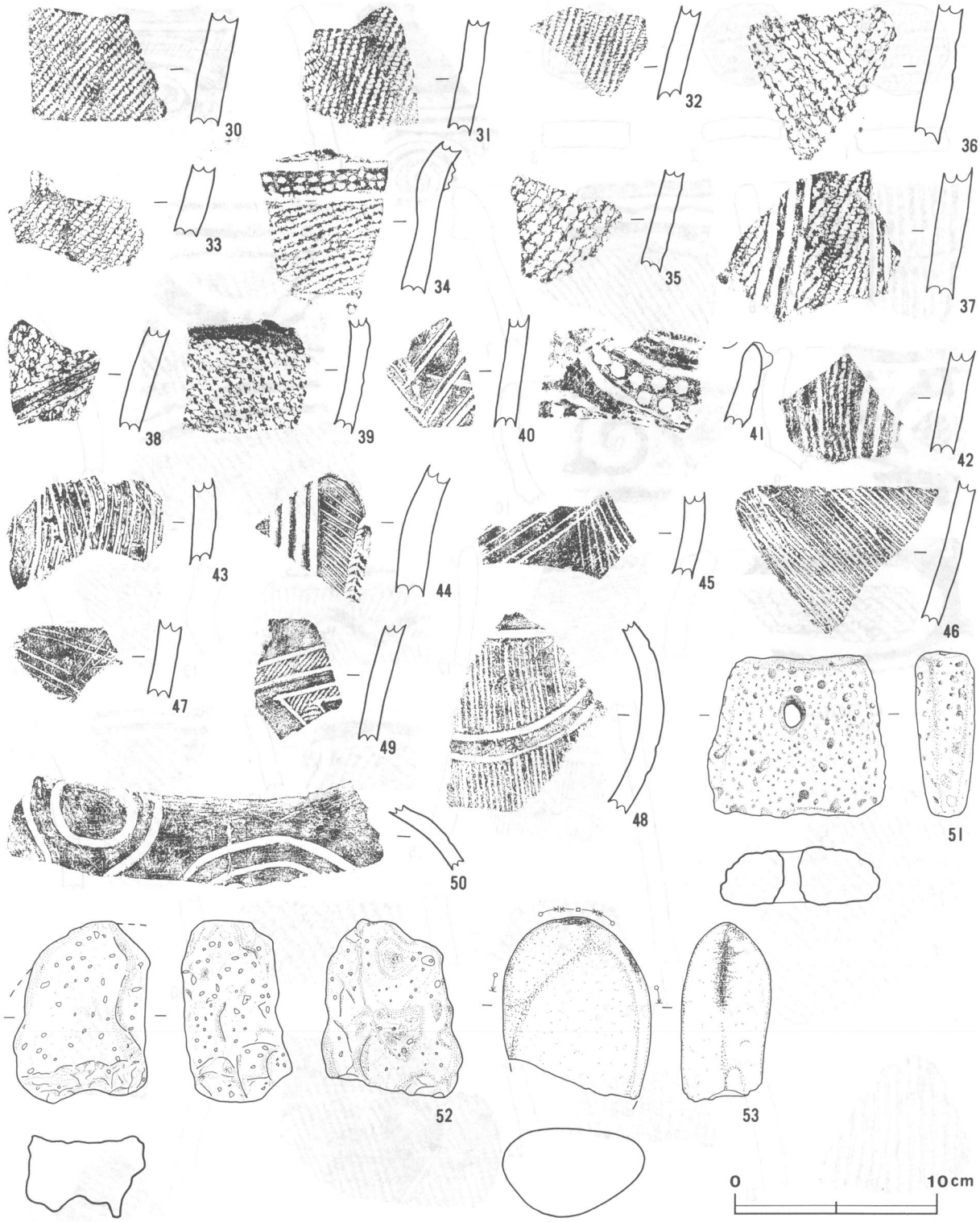
第250号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計　測　値（cm）			重　量	現存率	備　　考	
		最大長	最大幅	最大厚	（g）	（%）		
第37図1	土製円板	4.7	4.7	1.2	30.0	100	ＤＰ２　覆土中層	PL56
2	土製円板	4.2	4.1	0.9	20.0	100	ＤＰ３　覆土中層	PL56
3	土製円板	4.5	4.4	1.3	30.0	100	ＤＰ４　覆土中層	PL56

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	備　　考	
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)			
第38図51	浮　子	8.0	8.8	2.3	20.0	流紋岩	Q10　覆土下層　穿孔されている。	PL57
52	石　皿	(8.9)	(6.9)	5.4	(170.0)	安山岩	Q11　覆土下層　一部欠損	
53	磨　石	(8.9)	7.4	4.4	(420.0)	砂　岩	Q12　覆土下層　一部欠損　敲石転用	



第37図　第250号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第38図　第250号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第251号住居跡（第39図）

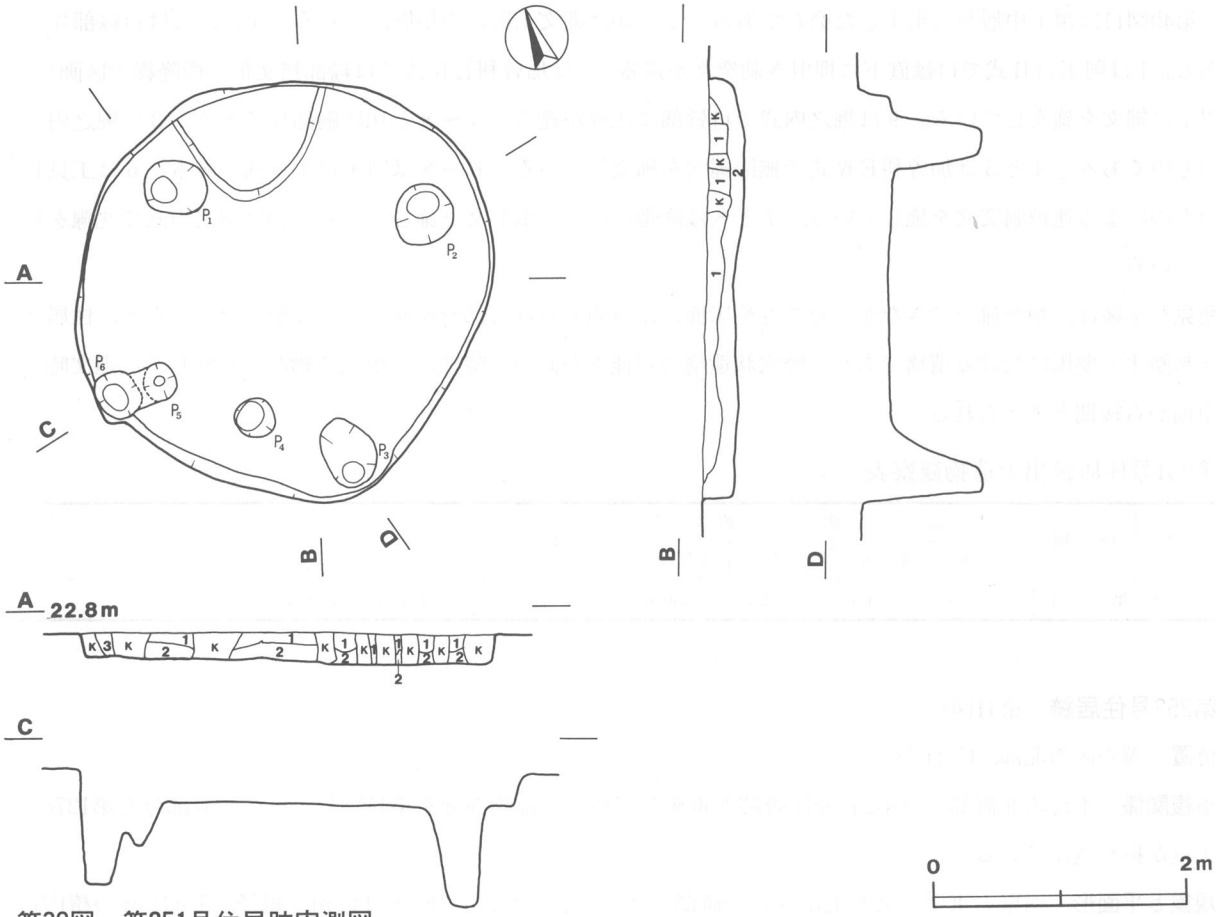
位置　調査区の北部，C17i₀区。

規模と平面形　長径3.29m，短径3.18mの円形。

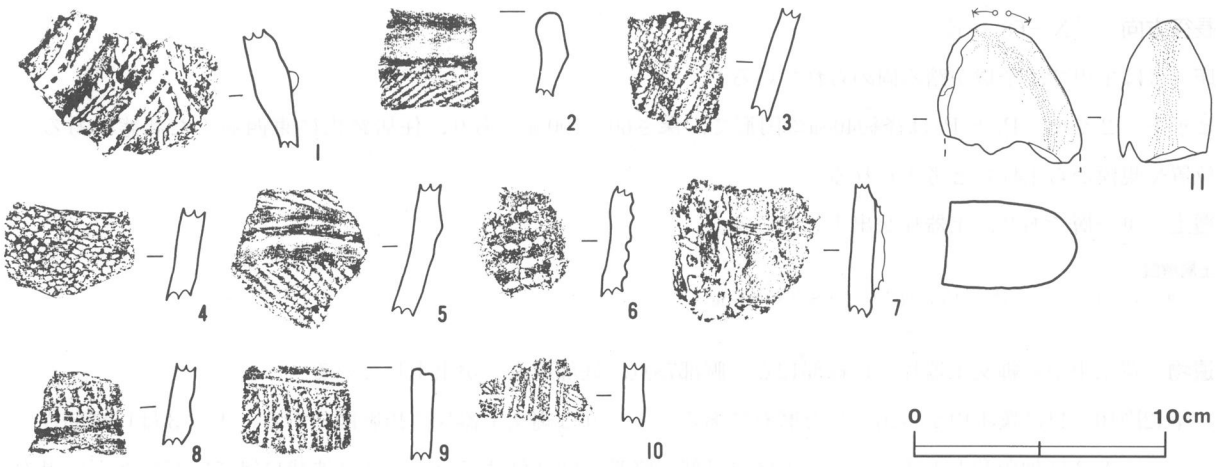
壁　壁高は24cmで，外傾して立ち上がる。

床　やや起伏がある。踏み固められた部分は見られない。北壁際にテラス状の段が確認できたが，性格不明である。

ピット　6か所。P_1～P_3，P_6は径35～40cmの円形で，深さ66～80cmであり，壁内際を回るように位置し，主



第39図　第251号住居跡実測図



第40図　第251号住居跡出土遺物実測・拓影図

柱穴と考えられる。P_4，P_5は径25～30cmの円形で，深さ35～55cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。

覆土　3層からなる。1・2層が大部分を占めている。3層にはロームブロックが含まれ，人為的に堆積している。トレンチャーによる撹乱を受けている。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム小ブロック中量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部7点，胴部51点，底部2点）が出土している。

第40図11は覆土中層から出土した磨石である。1～10は縄文土器片の拓影図である。1，2，9は口縁部片である。1は阿玉台Ⅱ式で口縁直下に押引き刺突文が巡る。2は加曽利EⅣ式で口縁部無文帯を微隆線で区画し，以下に縄文を施文している。9は堀之内式で口唇部に沈線が巡る。3～8と10は胴部片である。3は堀之内式のものである。4と5は加曽利EⅣ式で無節縄文を施文している。6～8は阿玉台Ⅰb式である。6は工具状のものによる連続刺突文を施している。7と8は隆帯に沿って爪形文を施している。10は堀之内式で沈線を施している。

所見　本跡は，炉が確認できなかったことや床面に踏み固められた部分が確認できなかったことなど，住居跡と判断する要因に欠ける遺構であり，竪穴状遺構の可能性が高い。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。

第251号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第40図11	磨　石	(5.5)	(5.7)	3.7	(130.0)	砂　岩	Q13　覆土中層　一部欠損

第252号住居跡（第41図）

位置　調査区の北部，C17j_5区。

重複関係　本跡の北側部分が第247号住居跡と重複している。南側部分を第1178号土坑，西側部分を第1278号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　西壁と東壁の立ち上がりしか確認できなかったが，長径［6.14］m，短径［5.03］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－68°－E］

床　ほぼ平坦で，全域が踏み固められている。

ピット　2か所。P_1とP_2は径約40cmの円形で，深さ60～100cmであり，住居跡内に東西並んだ状態にある。位置や規模から主柱穴と考えられる。

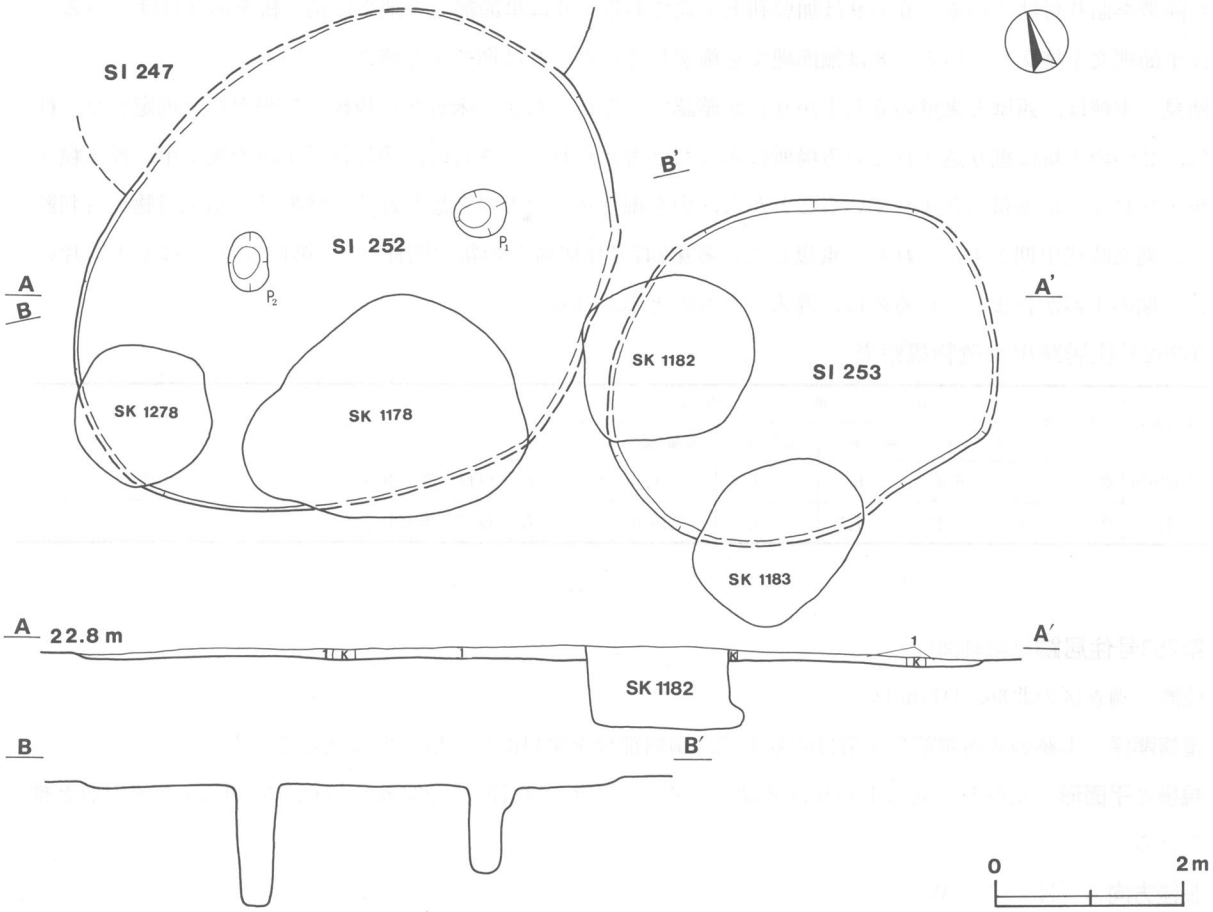
覆土　単一層であり，土器片が出土している。

土層解説

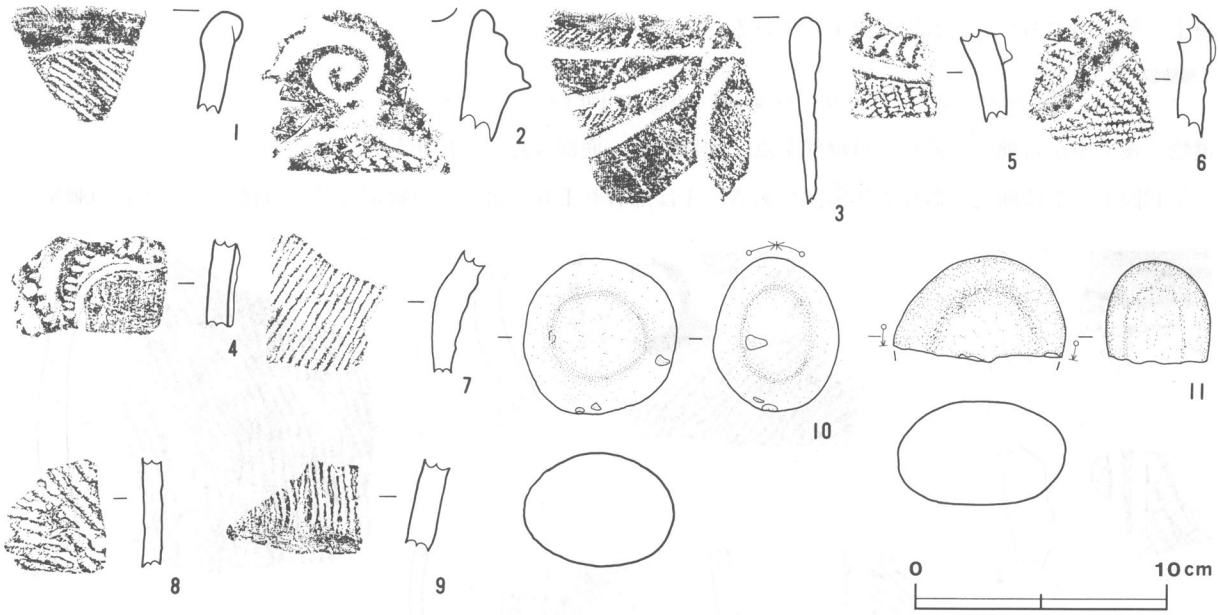
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部12点，胴部78点，底部2点）が出土している。

第42図10と11は覆土中から出土した磨石である。1～9は縄文土器片の拓影図である。1～3は口縁部片である。1と2は加曽利EⅠ式である。1は口縁部に隆帯を貼り付けている。2は波状口縁で突起の外面に渦巻文を描いている。3は安行Ⅲa式の粗製土器である。4～9は胴部片である。4と5は中峠式で爪形文を施し



第41図　第252・253号住居跡実測図



第42図　第252号住居跡出土遺物実測・拓影図

た隆帯を貼り付けている。6～9は加曽利ＥＩ式である。6は単節縄文を地文に粘土紐を貼り付けている。7は単節縄文を施文している。8は無節縄文を施文している。9は撚糸文を施文している。

所見　本跡は，西壁と東壁の立ち上がりしか確認できなかったが，床質から規模及び平面形を推定した。柱穴は，2つの土坑に掘り込まれている場所にあったと考えられる。さらに，第1278号土坑の覆土中に焼土粒子，焼土ブロックが多量に含まれていることから，炉を掘り込んだものと思われる。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。重複している第247号住居跡との新旧関係は，不明である。縄文土器片の中に晩期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第252号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第42図10	磨　石	6.4	6.2	4.8	250.0	砂　岩	Q14　覆土中	PL59
11	磨　石	(4.2)	7.0	4.2	(170.0)	砂　岩	Q15　覆土中　半欠	

第253号住居跡（第41図）

位置　調査区の北部，D17a6区。

重複関係　本跡の北西側部分を第1182号土坑，南側部分を第1183号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　北西壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［4.23］m，短径［3.50］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－84°－W］

壁　北壁と南壁が残存しており，壁高は約9cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。踏み固められた部分は見られない。

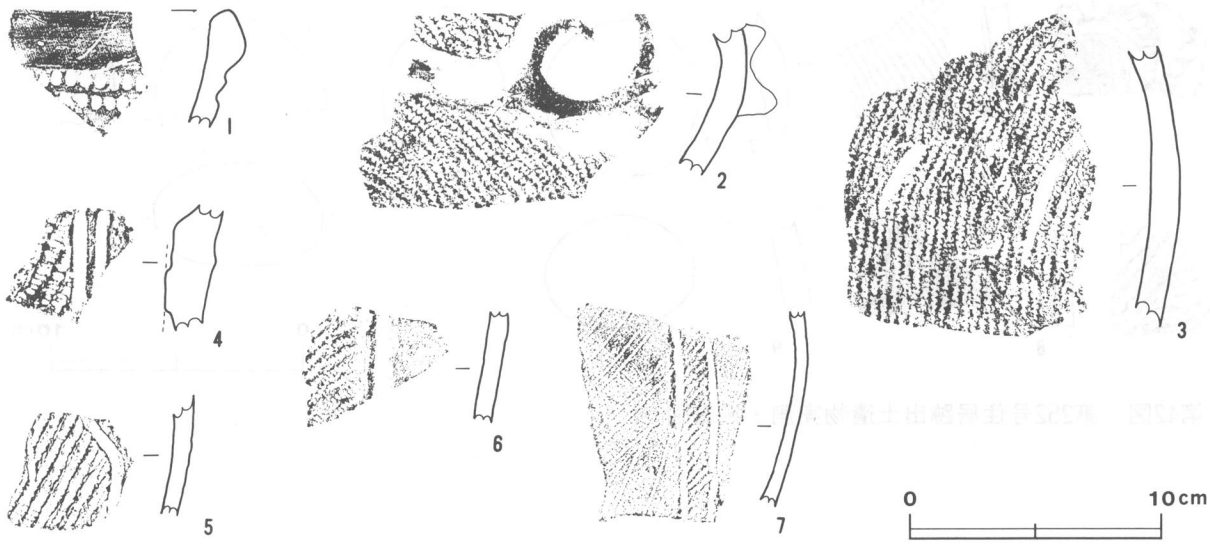
覆土　単一層であり，土器片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，締まりあり

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部7点，胴部50点，底部3点）が出土している。

第43図1～7は縄文土器片の拓影図である。1は加曽利ＥII～III式の口縁部片で，口縁直下に2条の刺突文



第43図　第253号住居跡出土遺物実測・拓影図

が巡る。2～7は胴部片である。2～6は加曽利EII～III式である。2は単節縄文を地文に隆帯による渦巻文を描いている。3は単節縄文を施文している。4は単節縄文を地文に二条の沈線を施している。5は無節縄文を地文に沈線を施している。6は微隆線で磨消帯を区画している。7は安行II～IIIa式である。

所見　本跡は，炉と柱穴が確認できなかったことや，床面に踏み固められた部分が見られなかったことなどから住居跡と判断する要因に欠ける遺構であり，竪穴状遺構の可能性が高い。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。縄文土器片の中に晩期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第254号住居跡（第44図）

位置　調査区の北部，D17c$_4$区。

重複関係　本跡の西側部分が第301号住居跡と，北東側部分が第292号住居跡と重複している。

規模と平面形　長径6.49m，短径6.20mの円形。

壁　壁高は約4cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。特に，炉の西側と東側が硬化している。東壁際の床面が赤く焼けた状態である。

ピット　7か所。P$_2$，P$_4$～P$_7$は径約30cmの円形で，深さ75～110cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_1$は径30cmの円形で，深さ10cmと浅いのもであり，位置的に補助柱穴と考えられる。南東壁際のP$_3$は，性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径90cm，短径80cmの楕円形で，深さ25cmの掘り方の中に深鉢形土器を埋設した土器埋設炉である。口縁部と胴下半部を欠失する深鉢形土器を掘り方内の南西寄りに据えて，炉体土器としている。掘り方の土層は10層に分層される。炉体土器に接する1層と2層は，熱を受けてロームが赤変硬化している。炉床は，焼土ブロックがゴツゴツしている。長期間使用したものと考えられる。

炉土層解説

1	明赤褐色	火熱したロームブロック
2	橙色	火熱したロームブロック多量，褐色土少量
3	褐色	ハードローム中・大ブロック多量，焼土小ブロック・ローム粒子少量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐色	焼土粒子少量，炭化粒子極少量
6	褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
7	明褐色	ローム粒子多量，焼土粒子中量
8	褐色	ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小・中ブロック中量
9	褐色	焼土小ブロック多量，炭化粒子少量
10	暗赤褐色	ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量

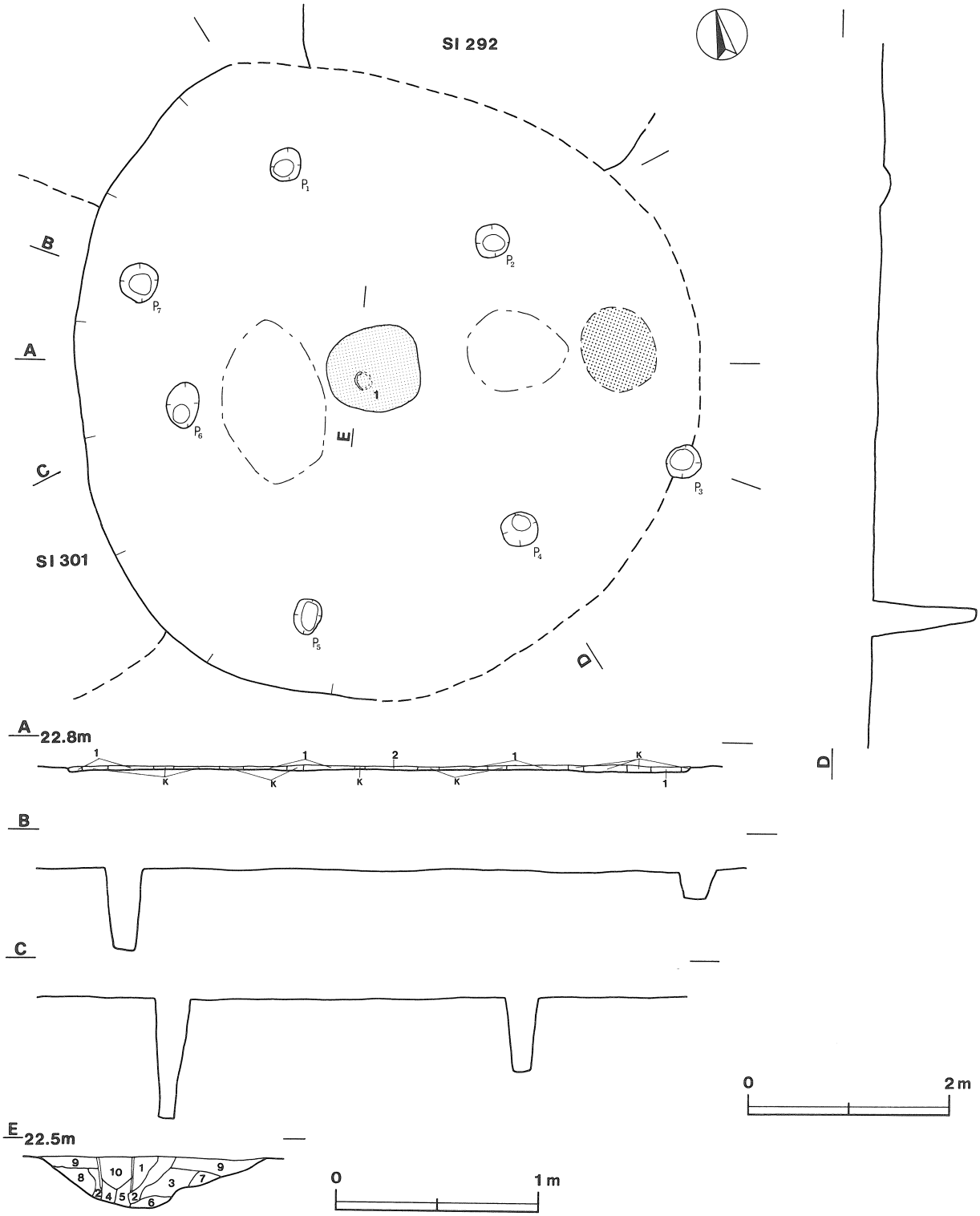
覆土　2層からなる。2層の底部が炉に当たる。トレンチャーによる撹乱を受けている。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2	にぶい赤褐色	焼土小ブロック中量，炭化粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部6点，胴部133点，底部7点）が出土している。

第45図1は炉体土器に転用された深鉢形土器である。2は覆土中から出土した土製円板である。14は覆土中から出土した磨石である。3～13は縄文土器片の拓影図である。3，4，8は口縁部片である。3は加曽利EI式で隆帯による渦巻文を描いている。4と8は加曽利EII式である。4は口縁直下に沈線が巡り，以下に単節縄文RLを施文している。8は口縁部に沈線を施している。5は加曽利EI式である。6，7，9～13は加曽利EII～III式である。5は単節縄文を地文に背割れを施した隆帯を貼り付けている。6，9，10，11は単節縄文を施文している。7は撚糸文を地文に横位の磨消帯を施している。12は磨消帯が垂下する。13は縦位の条線文を施している。

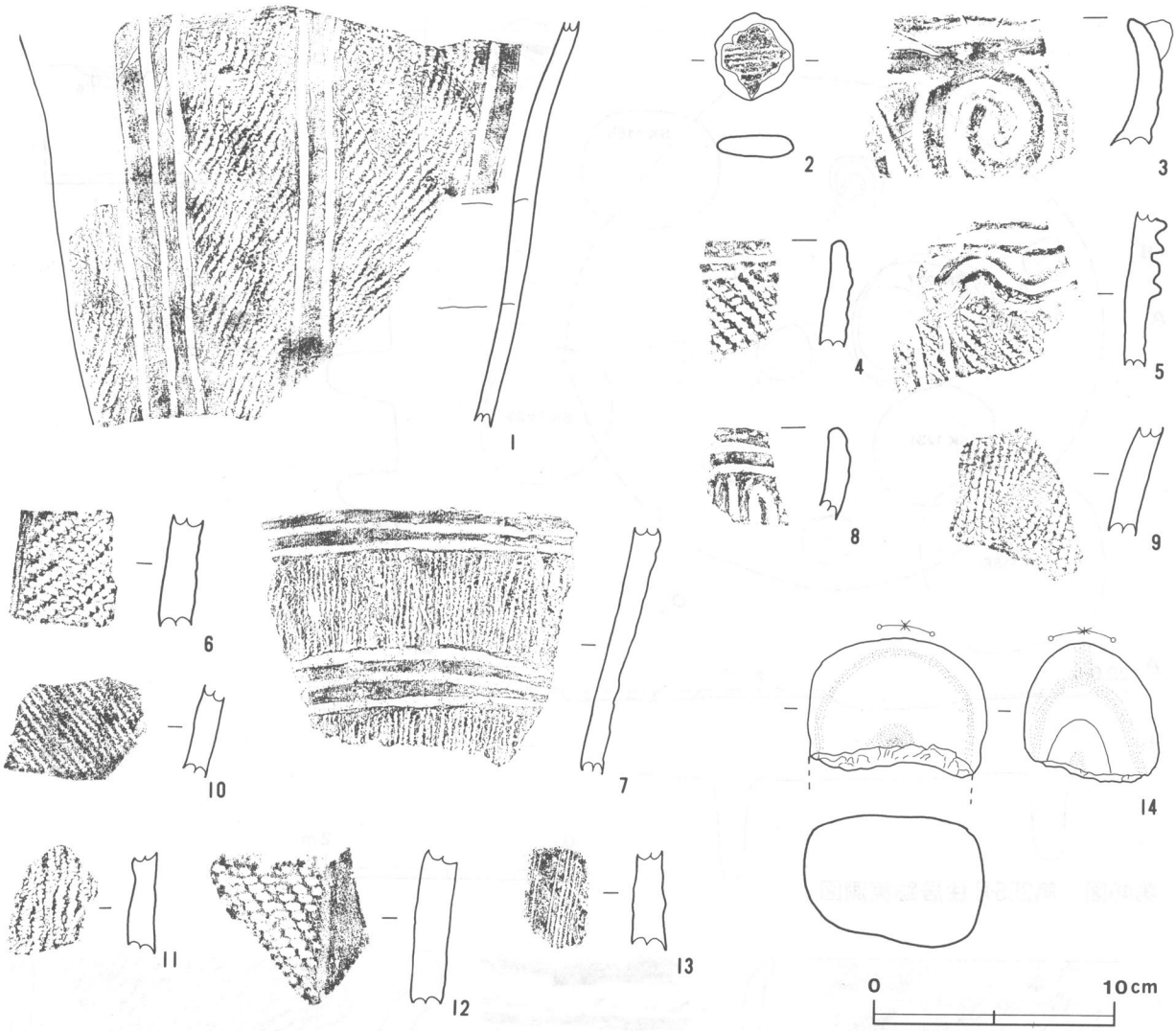


第44図　第254号住居跡実測図

所見　本跡の時期は，炉体土器から判断して，縄文時代中期（加曽利EIII式期）と考えられる。重複している第292号住居跡より新しいが，第301号住居跡との新旧関係は，不明である。

第254号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第45図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(17.0)	胴部片。胴部上位は外反しながら立ち上がる。外面に直線的磨消帯が垂下し，区画間に単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・ スコリア 明褐色　普通	P16　20%　PL59 炉体土器転用 (加曽利EIII式)



第45図　第254号住居跡出土遺物実測・拓影図

図版番号	種　別	計　測　値（cm）			重　量	現存率	備　　考
		最大長	最大幅	最大厚	（g）	（%）	
第45図2	土製円板	3.2	3.7	1.3	10.0	90	ＤＰ５　覆土中　PL56

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	備　　考
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)		
第45図14	磨　石	(6.0)	7.5	5.4	(320.0)	安山岩	Q16　覆土中　半欠

第255住居跡（第46図）

位置　調査区の北部，C17h8区。

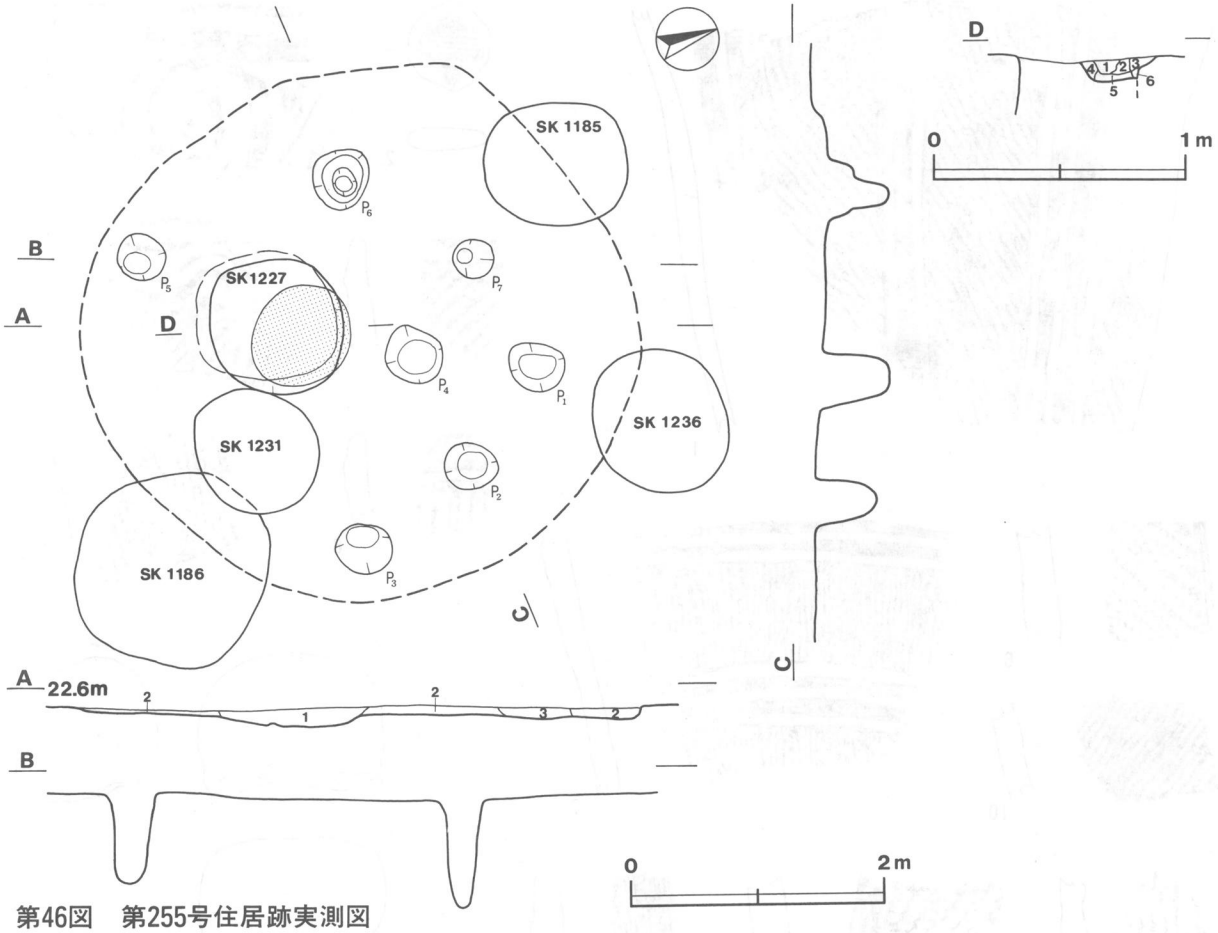
重複関係　本跡は，第1227号土坑を掘り込んでいる。北側部分を第1185，1236号土坑，南東側部分を第1231号土坑，南東壁を第1186号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　径［4.22］mの円形と推定される。

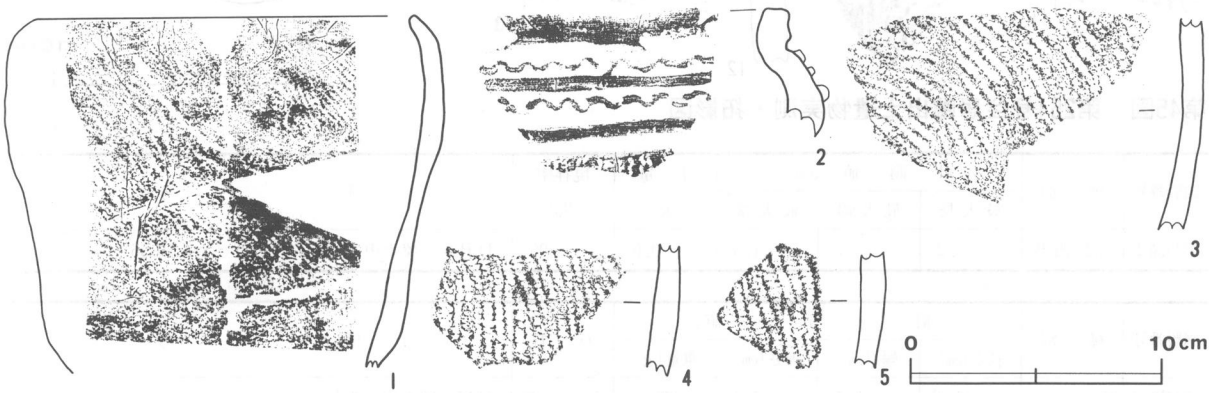
壁　壁高は約10cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　7か所。P_1～P_3，P_5～P_7は径30～40cmで，深さ42～80cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられ



第46図　第255号住居跡実測図



第47図　第255号住居跡出土遺物実測・拓影図

る。P_1の覆土中から土器片が出土している。P_4は径45cmの円形で，深さ54cmであり，炉の北側に位置する。

炉　中央からやや南寄りに付設されている。長径80cm，短径70cmの楕円形で，床面を20cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉内覆土に焼土ブロック・焼土粒子を含むが，炉床は硬くない。

炉土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子極少量
3　にぶい褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック極少量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量

覆土　3層からなり，人為的な堆積をしている。1層の底部が炉に当たり，土器片が出土している。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部３点，胴部10点，底部１点）が出土している。

第47図１はP_1の覆土中から出土した深鉢形土器である。２～５は縄文土器片の拓影図である。２は中峠式の口縁部片で，口縁直下に二条の交互刺突文が巡る。３～５は加曽利ＥⅣ式の胴部片で，単節縄文を施文している。

所見　本跡は，南東壁際を第1186号土坑によって掘り込まれているが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。第1227号土坑は，上部に炉が確認できたことから，本跡より古い土坑である。時期は，P_1の覆土中から出土した深鉢形土器から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅣ式期）と考えられる。

第255号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第47図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[15.0] B(17.0)	胴部から口縁部片。胴部上位はやや外傾して立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部外面は横位ナデを施し，以下は無文である。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P17　25%　PL30 P_1覆土中 (加曽利ＥⅣ式)

第256号住居跡（第48図）

位置　調査区の北部，C18j_2区。

規模と平面形　長径3.72m，短径3.67mの円形。

壁　壁高は約44cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。踏み固められた部分は見られない。

ピット　２か所。P_1は，住居跡のほぼ中央に位置し，径50cmの円形で，深さ100cmである。P_2は，径20cmの円形で，深さ７cmである。いずれも性格は不明である。

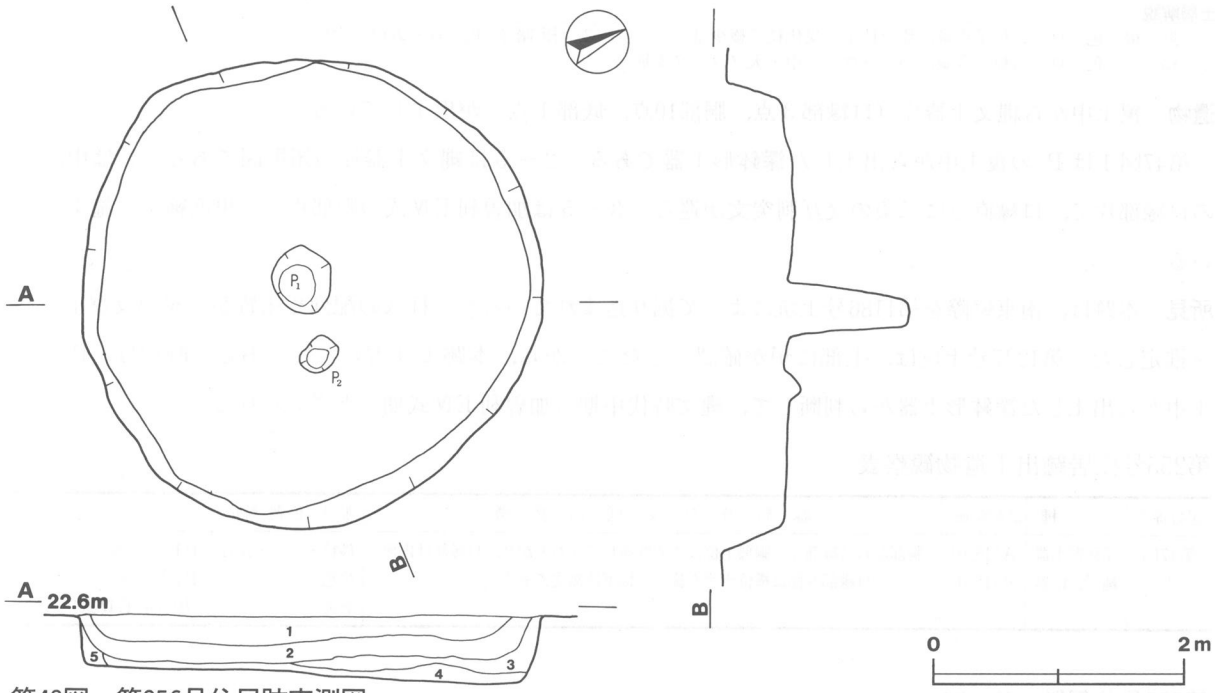
覆土　５層からなり，自然的な堆積をしている。１層と２層が堆積の大半を占め，土器片も出土している。５層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
5　にぶい褐色　ローム粒子多量，ローム小・中・大ブロック少量

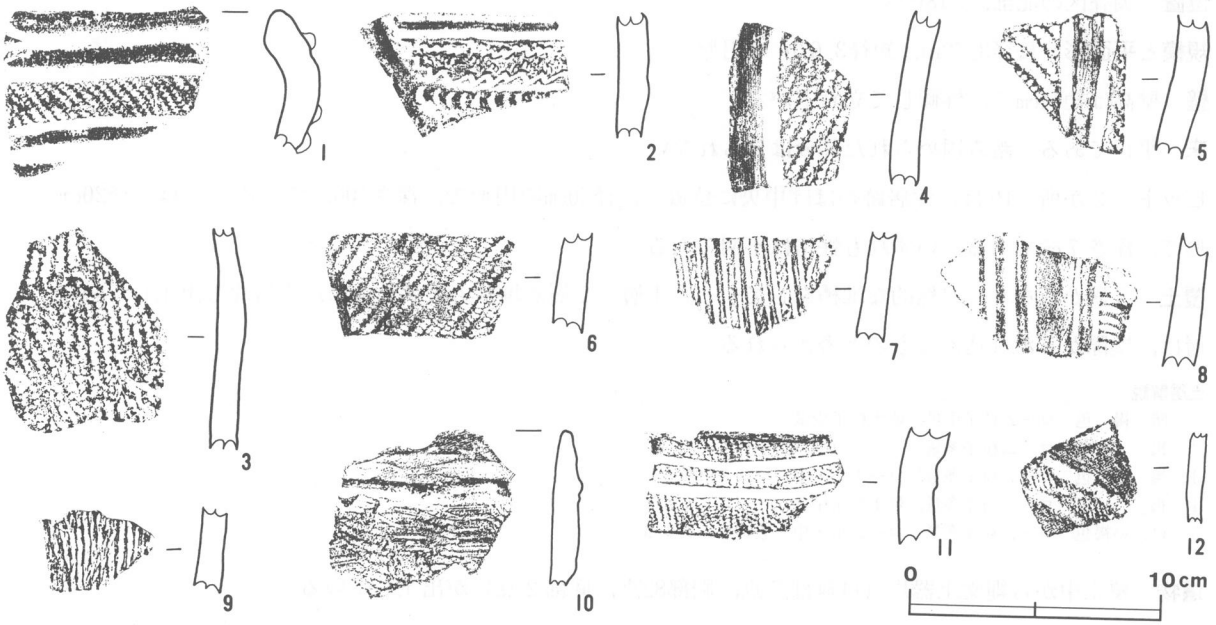
遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部７点，胴部82点，底部２点）が出土している。

第49図１～12は縄文土器片の拓影図である。１と10は口縁部片である。１は加曽利ＥⅠ式で隆帯によって口縁部無文帯を区画している。10は後期初頭で口縁部無文帯を微隆線で区画している。２～9，11，12は胴部片である。２は阿玉台Ⅲ式で山形沈線文や爪形文を施している。3，6，7，11は加曽利ＥⅠ式である。３と６は単節縄文を施文している。７は縦位の条線文を施している。11は単節縄文を地文に沈線を施している。４と５は加曽利ＥⅢ式で磨消帯が垂下する。８は勝坂式で半截竹管による棒状沈線を施している。９は撚糸文を施文している。12は称名寺Ⅰ式である。

所見　本跡は，炉と柱穴が確認できないことや床面に踏み固められた部分が見られないことから，住居跡と判断する要因に欠ける遺構であり，竪穴状遺構の可能性が高い。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。



第48図　第256号住居跡実測図



第49図　第256号住居跡出土遺物実測・拓影図

第260号住居跡（第50図）

位置　調査区の北部，D18b6区。

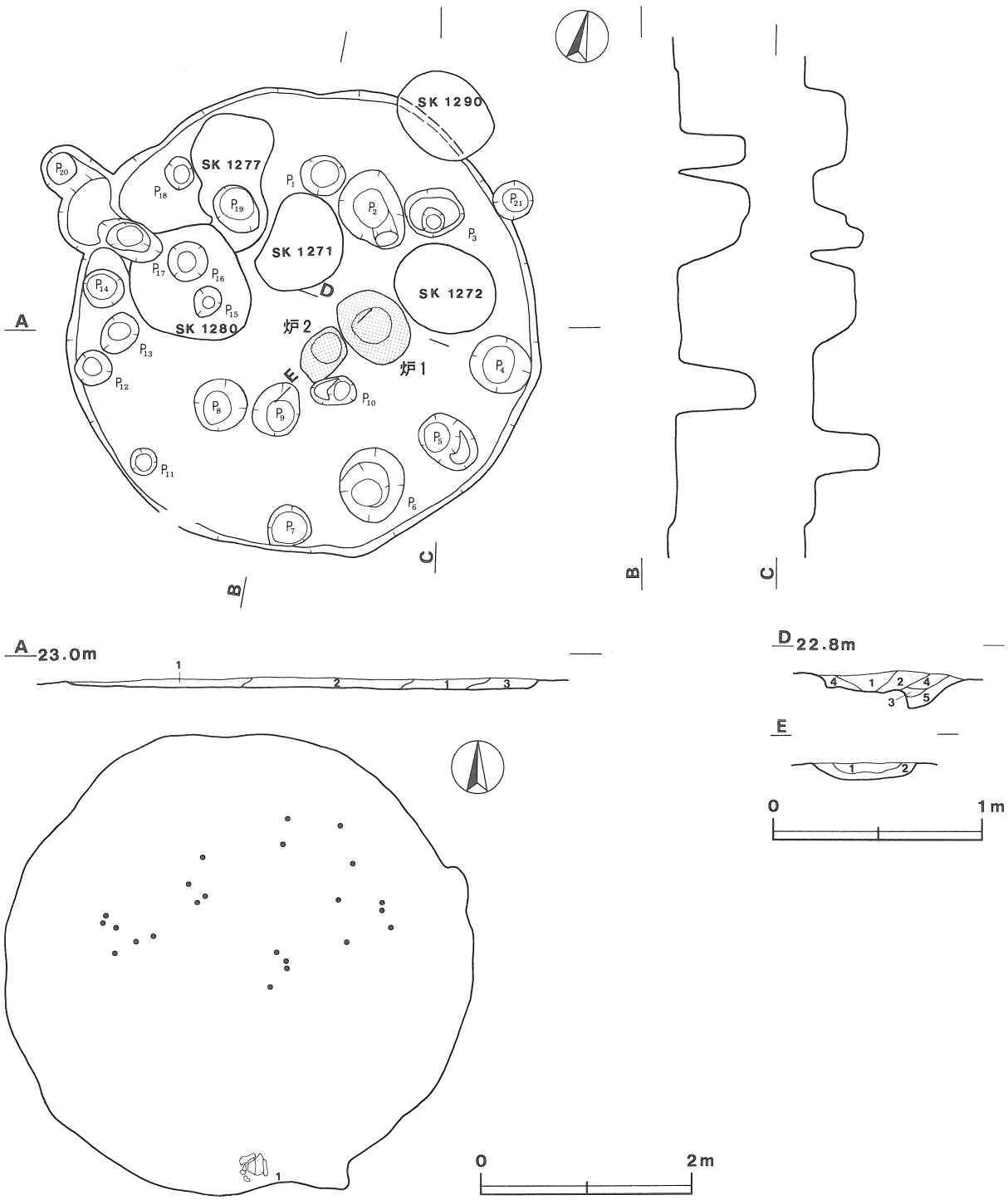
重複関係　本跡の北壁を第1290号土坑，北西側部分を第1277号土坑，西側部分を第1280号土坑，東側部分を第1272号土坑，中央よりやや北側部分を第1271号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径4.50m，短径4.47mの円形。

壁　壁高は3～8cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

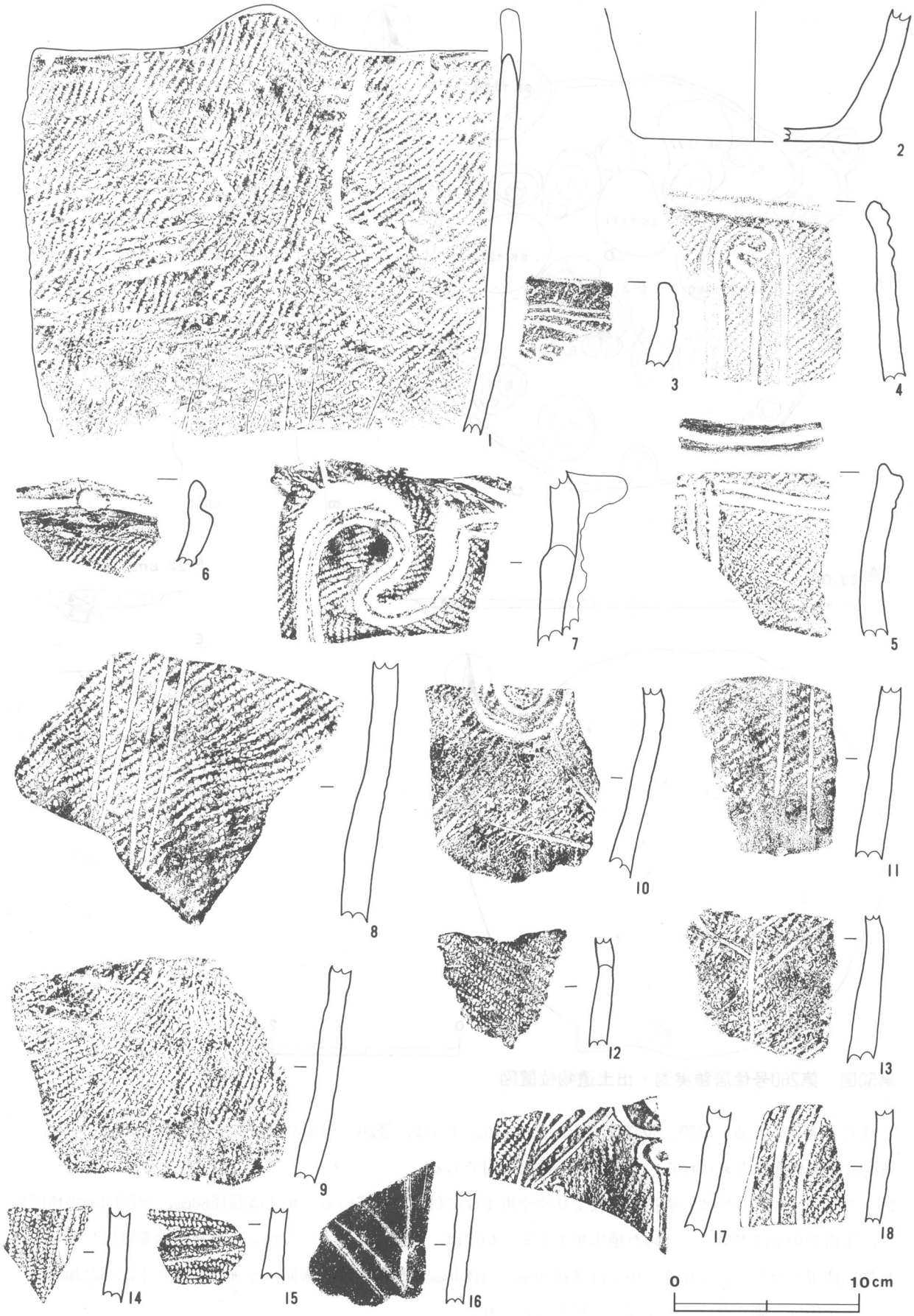
ピット　21か所。P_1，P_3，P_4～P_6，P_8，P_{17}は径40～60cmの円形で，深さ60～140cmであり，規模と配列から



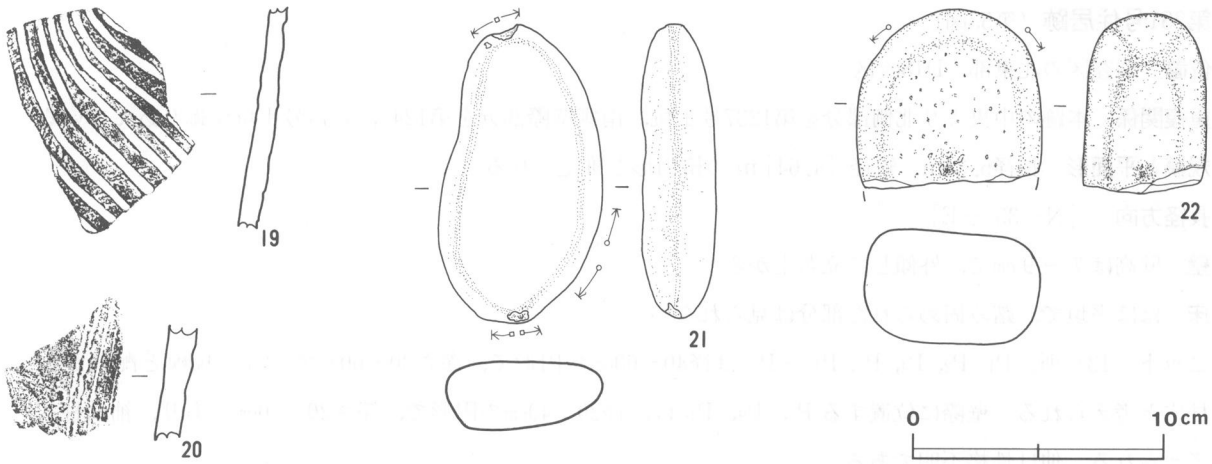
第50図　第260号住居跡実測・出土遺物位置図

主柱穴と考えられる。壁際に位置するP_7，P_{11}～P_{14}，P_{18}は，径20～30cmの円形で，深さ10～20cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は，性格不明である。

炉　2か所。炉1と炉2は隣接し中央よりやや東よりに付設されている。炉1は長径80cm，短径60cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，火熱によりロームがレンガ状に赤変硬化している。長期間使用したと考えられる。炉2は長径50cm，短径40cmの楕円形で，床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，硬くない。短期間の使用と考えられる。



第51図　第260号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第52図　第260号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

炉1土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量，炭化粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・小ブロック中量，炭化粒子少量
5　赤褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

炉2土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
2　暗赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・小ブロック中量

覆土　3層からなる人為堆積である。2層から土器片が多量に出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　にぶい褐色　ハードローム中・大ブロック多量，褐色土中量

遺物　床面と覆土中から縄文土器片（口縁部56点，胴部347点，底部19点）が出土している。

第51図1は南壁際の床面から出土した深鉢形土器である。床面から堀之内Ⅰ式の縄文土器片が多量に出土している。2はP_6の覆土中から出土した深鉢形土器の底部である。21と22は覆土中から出土した磨石である。3～20は縄文土器片の拓影図である。3～6は堀之内Ⅰ式の口縁部片である。4と5は縄文地文に沈線を施している。6は口縁直下に沈線が巡る。7は阿玉台Ⅳ式の胴部片で単節縄文を施した隆帯を貼り付けている。8～20は堀之内Ⅰ式の胴部片である。8，10，11，13，15，17，18は単節縄文を地文に沈線を描いている。9，12，14は単節縄文を施文している。16，20は沈線を施している。

所見　本跡の時期は，床面とP_6の覆土中からの出土遺物から判断して，縄文時代後期（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。縄文土器片の中に中期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第260号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第51図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 25.5 B(23.0)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部から口縁部は，ほぼ直立に立ち上がる。胴部外面に単節縄文を施文し，内面はナデを施している。	砂粒・雲母・スコリア 明赤褐色　普通	P18　40%　PL30 南部床面 (堀之内Ⅰ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	B(7.3) C[13.8]	底部片。底面近くに横位ナデを施している。	石英・長石 橙色 普通	P19　5%　PL30 覆土中 (堀之内Ⅰ式)

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第52図21	磨　石	11.8	6.6	2.9	320.0	安山岩	Q19　覆土中　敲石転用
22	磨　石	(7.2)	7.4	4.9	(390.0)	安山岩	Q20　覆土中　半欠　PL59

第261号住居跡（第53図）

位置　調査区の北東部，D18c5区。

重複関係　本跡の中央より北側部分を第1237号土坑，南側壁際部分を第1241，1274号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径5.34m，短径［4.64］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－35°－E］

壁　壁高は7～9cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，踏み固められた部分は見られない。

ピット　13か所。P_1，P_2，P_4，P_5，P_{11}～P_{13}は径40～60cmの円形で，深さ30～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。壁際に位置するP_3，P_9，P_{10}は，径20～40cmの円形で，深さ20～40cmであり，補助柱穴と考えられる。他は性格不明である。

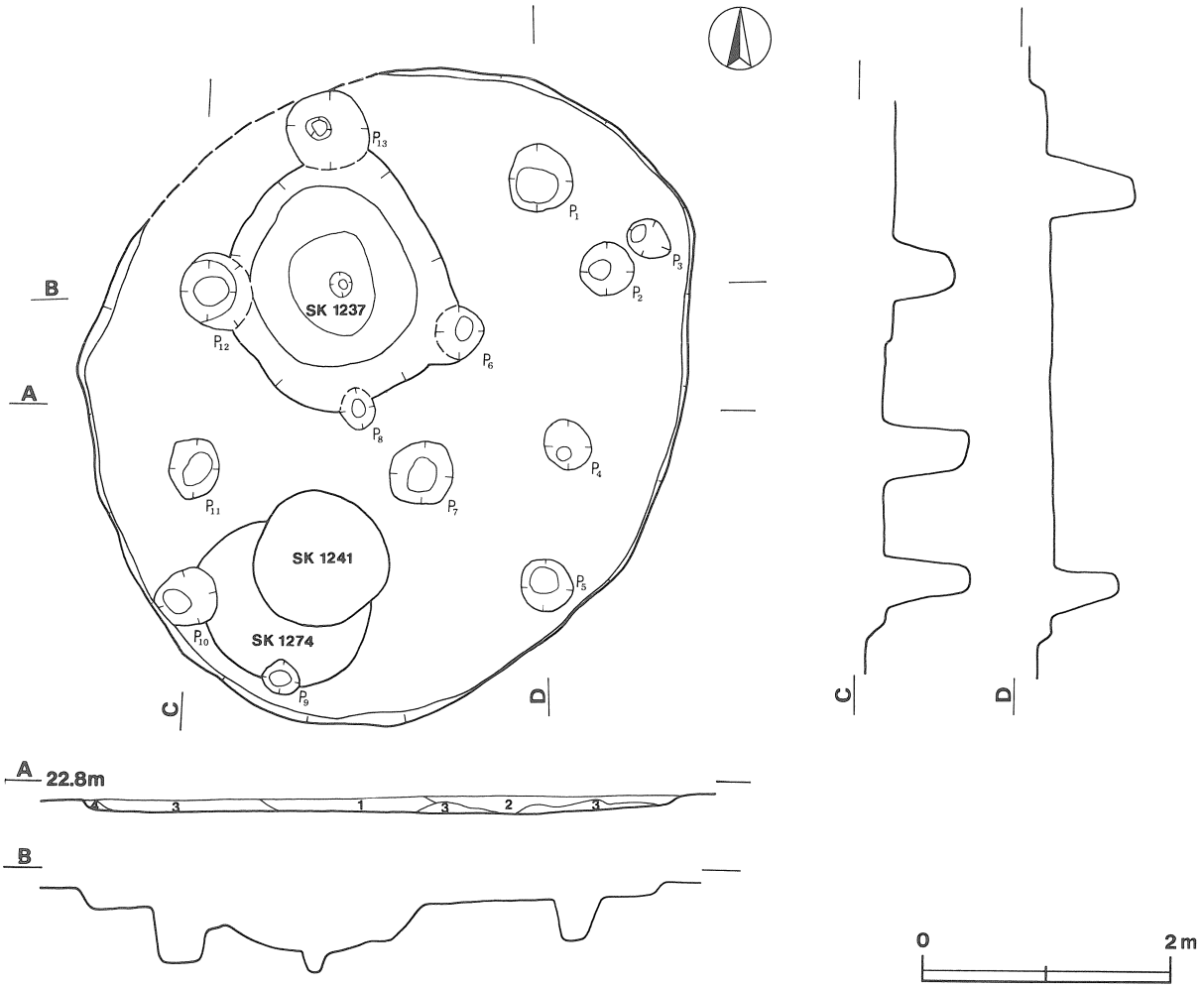
覆土　4層からなり，人為的な堆積をしている。

土層解説

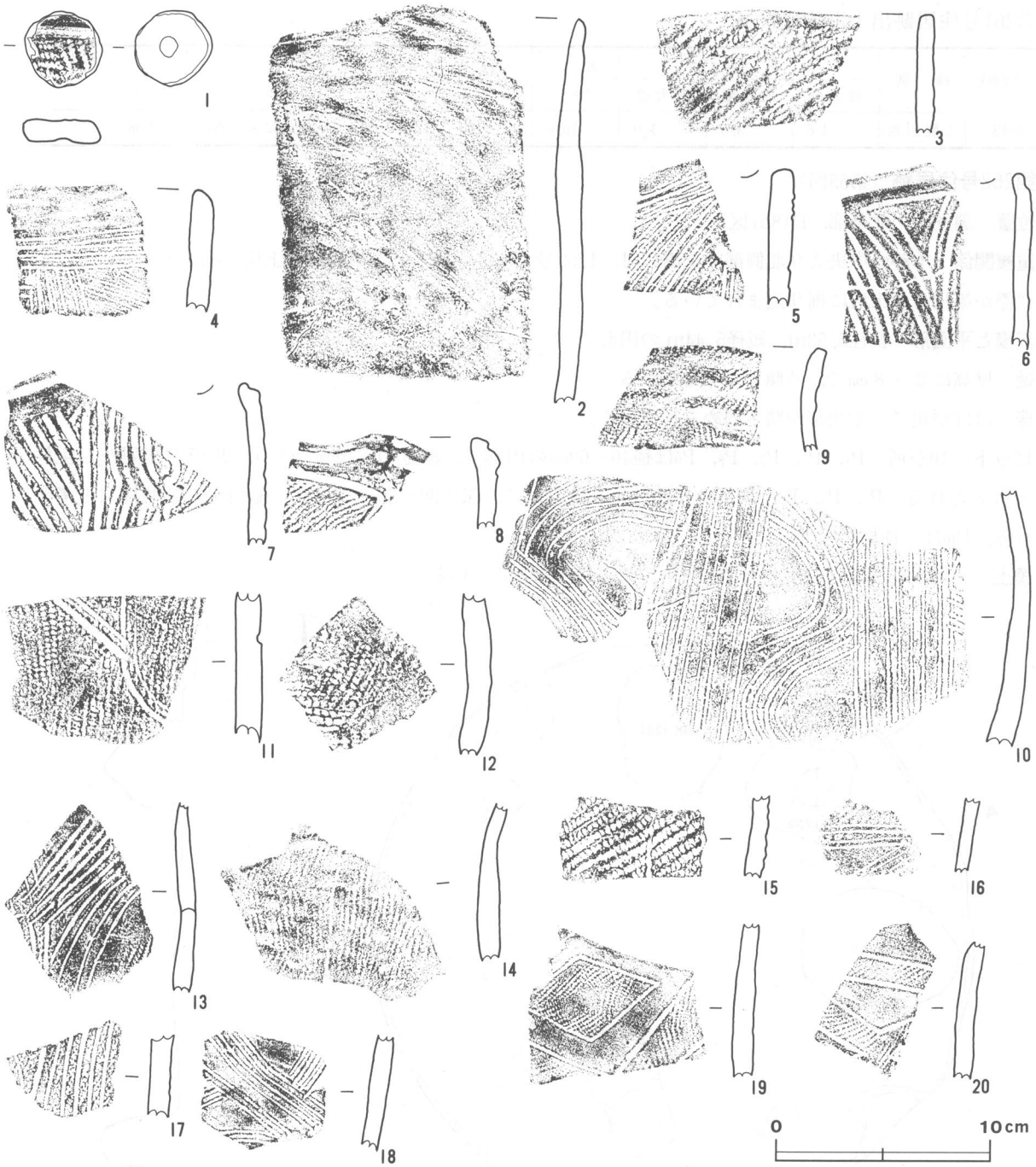
1　黒　褐　色　　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　　ローム粒子多量，黒褐色土中量
3　褐　　色　　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック中量
4　褐　　色　　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ハードローム中ブロック多量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部44点，胴部491点，底部26点）が出土している。

第54図1は覆土中から出土した土製円板である。2～20は縄文土器片の拓影図である。2～9は堀之内Ⅰ式



第53図　第261号住居跡実測図



第54図　第261号住居跡出土遺物実測・拓影図

の口縁部片である。2は胴部から口縁部片で無文である。3は無節縄文を施文している。4～7は沈線を施している。8は口縁直下に沈線が巡り，以下に単節縄文を施文している。10～18は堀之内Ⅰ式の胴部片である。10は縦位の沈線と蛇行する沈線で文様を描いている。11は単節縄文を地文に沈線を施している。12は無節縄文を施文している。13，16～18は沈線を施している。14と15は単節縄文を施文している。19と20は堀之内Ⅱ式の胴部片で，磨消縄文で菱形の文様を構成している。

所見　第1237号土坑の覆土中に焼土ブロックが多量に含まれていることから，本跡の炉を掘り込んだ可能性が考えられる。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代後期と考えられる。

第261号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計　測　値（cm）			重　量（g）	現存率（%）	備　　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第54図1	土製円板	3.6	3.6	1.0	10.0	100	DP 6　覆土中　裏面に未貫通孔　PL56

第262号住居跡（第55図）

位置　調査区の北東部，D18b$_4$区。

重複関係　本跡の中央より北側部分を第1251，1252号土坑，西側部分を第1253号土坑が掘り込んでいる。北西壁際が第1291号土坑に掘り込まれている。

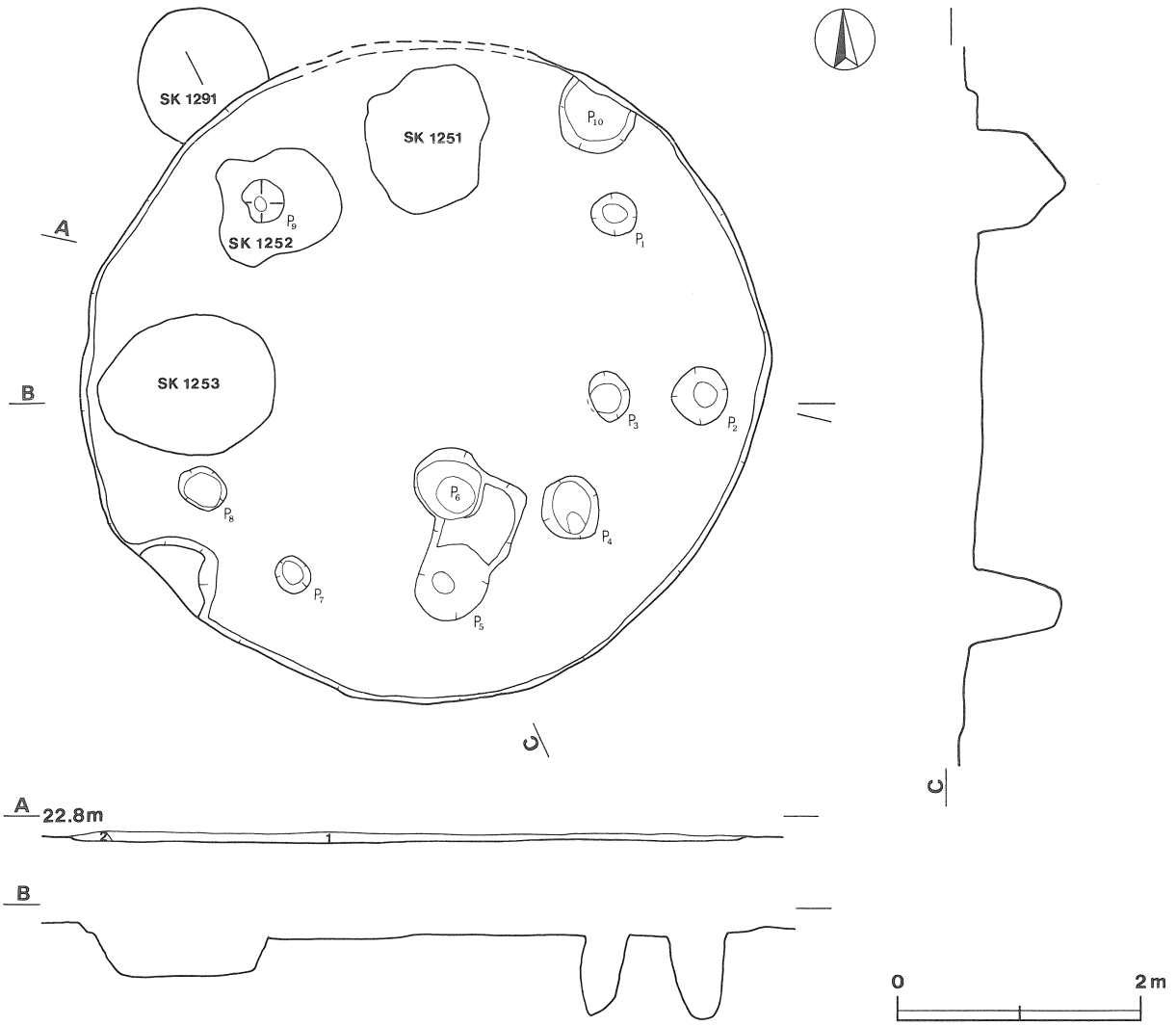
規模と平面形　長径5.53m，短径5.44mの円形。

壁　壁高は2～8cmで，外傾して立ち上がる。

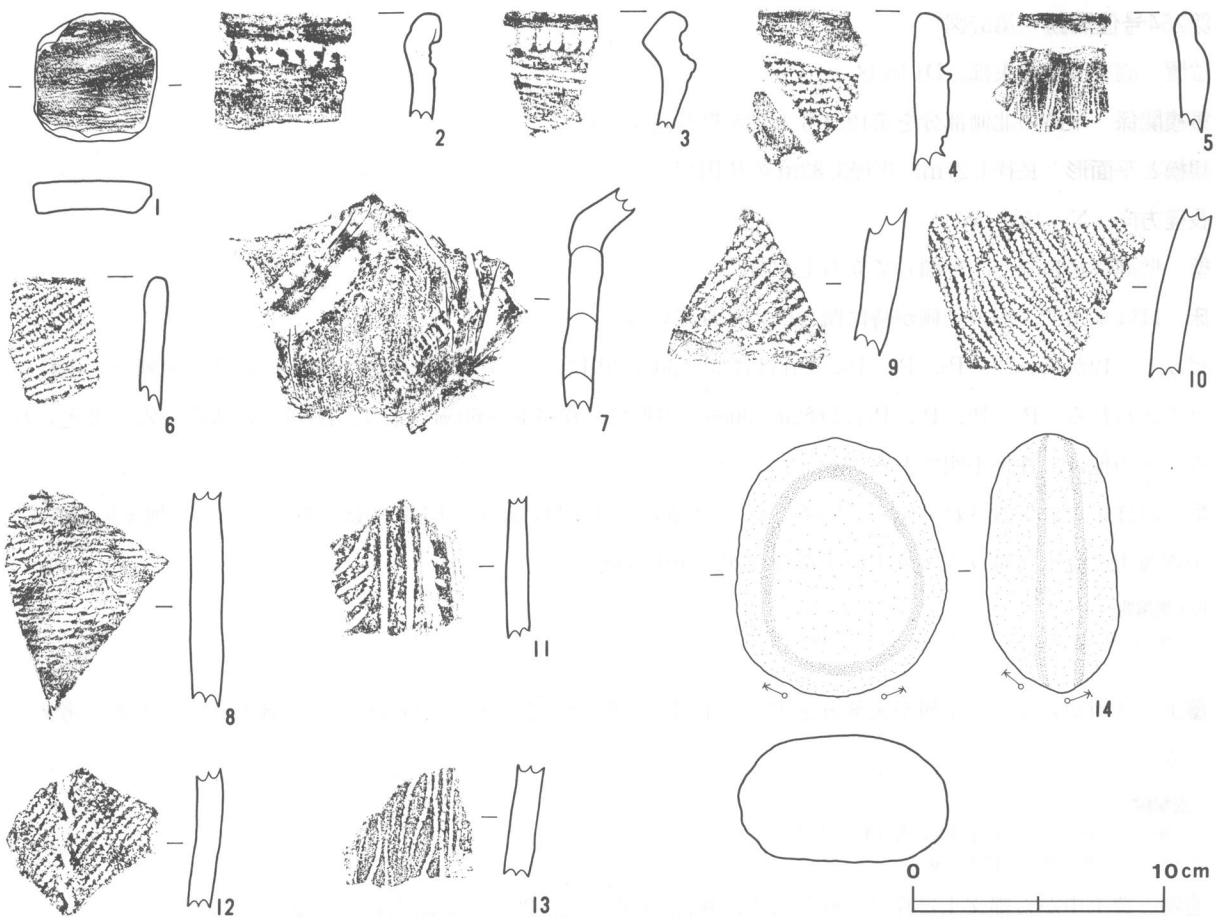
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　10か所。P_1，P_2，P_5，P_8，P_9は径40～60cmの円形で，深さ40～70cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_4，P_6，P_7は，径20～40cmの円形で，深さ30～50cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。P_{10}は，性格不明である。

覆土　2層からなる。1層が大半を占め，土器片が出土している。



第55図　第262号住居跡実測図



第56図　第262号住居跡出土遺物実測・拓影図

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子中量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部３点，胴部44点，底部３点）が出土している。

第56図１は覆土中から出土した土製円板である。14は覆土中から出土した磨石である。２～13は縄文土器片の拓影図である。２～６は口縁部片である。２と３は阿玉台Ⅲ式で口縁直下に押引き刺突文が巡る。４は称名寺式で沈線を施している。５と６は堀之内Ⅰ式で，５は沈線を，６は単節縄文を施している。７～13は胴部片である。７は阿玉台Ⅲ式で隆帯を貼り付け，隆帯に沿って爪形文を施している。８～10，12は加曽利ＥⅠ式である。８は無節縄文を施文している。９と10は単節縄文を施文している。12は複節縄文を施文している。11と13は堀之内Ⅰ式で，11は沈線，13は撚糸文を施している。

所見　第1251号土坑の覆土中に焼土粒子・焼土ブロックが多量に含まれていることから，本跡の炉を掘り込んだ可能性が考えられる。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。

第262号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計　測　値（cm）			重　量（g）	現存率（%）	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第56図１	土製円板	5.2	4.7	1.2	40.0	90	DP７　覆土中　PL56

図版番号	種　別	計　測　値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)		
14	磨　石	10.4	8.3	5.1	650.0	安山岩	Q21　覆土中　PL59

第264号住居跡（第57図）

位置　調査区の北東部，D18c6区。

重複関係　本跡の北側部分を第1221号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径4.27m，短径3.83mの楕円形。

長径方向　N－19°－W

壁　壁高は約14cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉の東側が特に踏み固められている。

ピット　12か所。P_1，P_3，P_6，P_9，P_{11}は径30～50cmの円形で，深さ70～90cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_5，P_7，P_{12}は径20～30cmの円形で，深さ40～60cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。その他は，性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径60cm，短径55cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉内覆土に焼土ブロック・焼土粒子を含むが，炉床は硬くない。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量

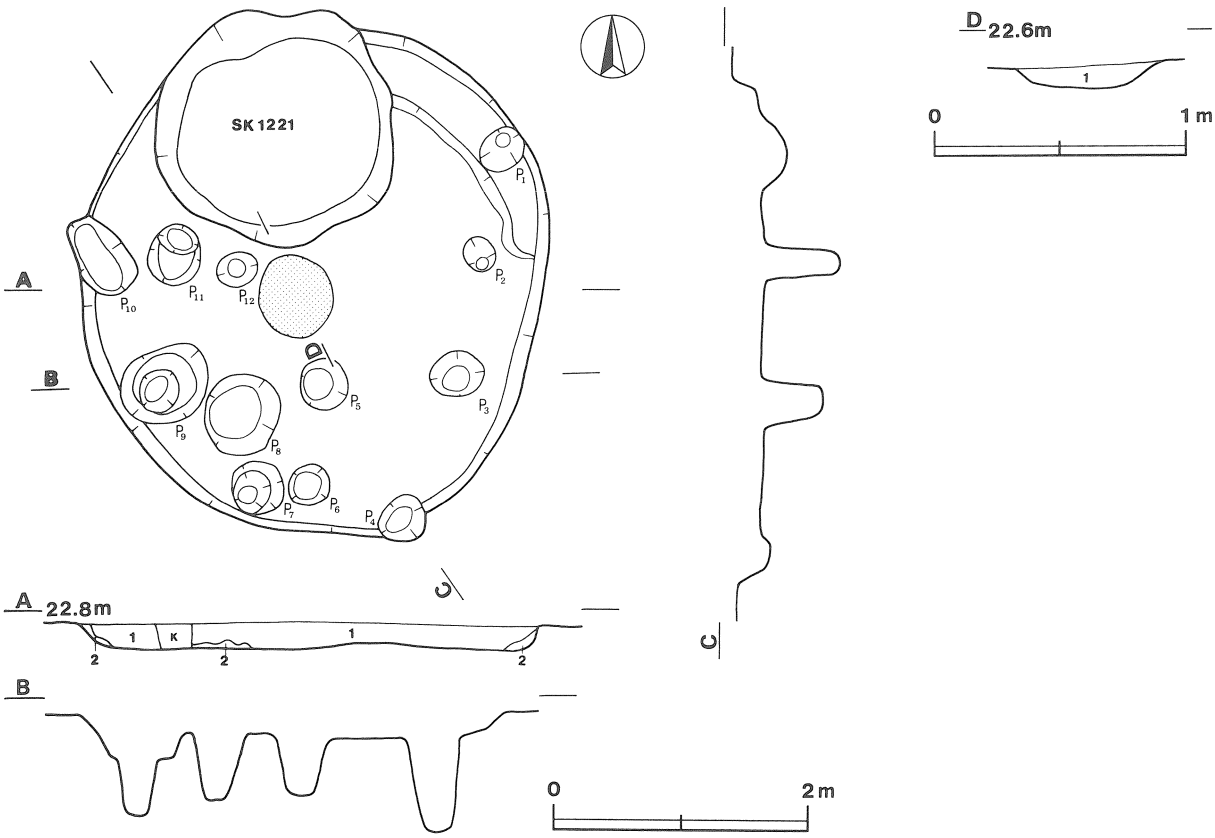
覆土　2層からなる。1層が大部分を占め，土器片が出土している。2層は壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

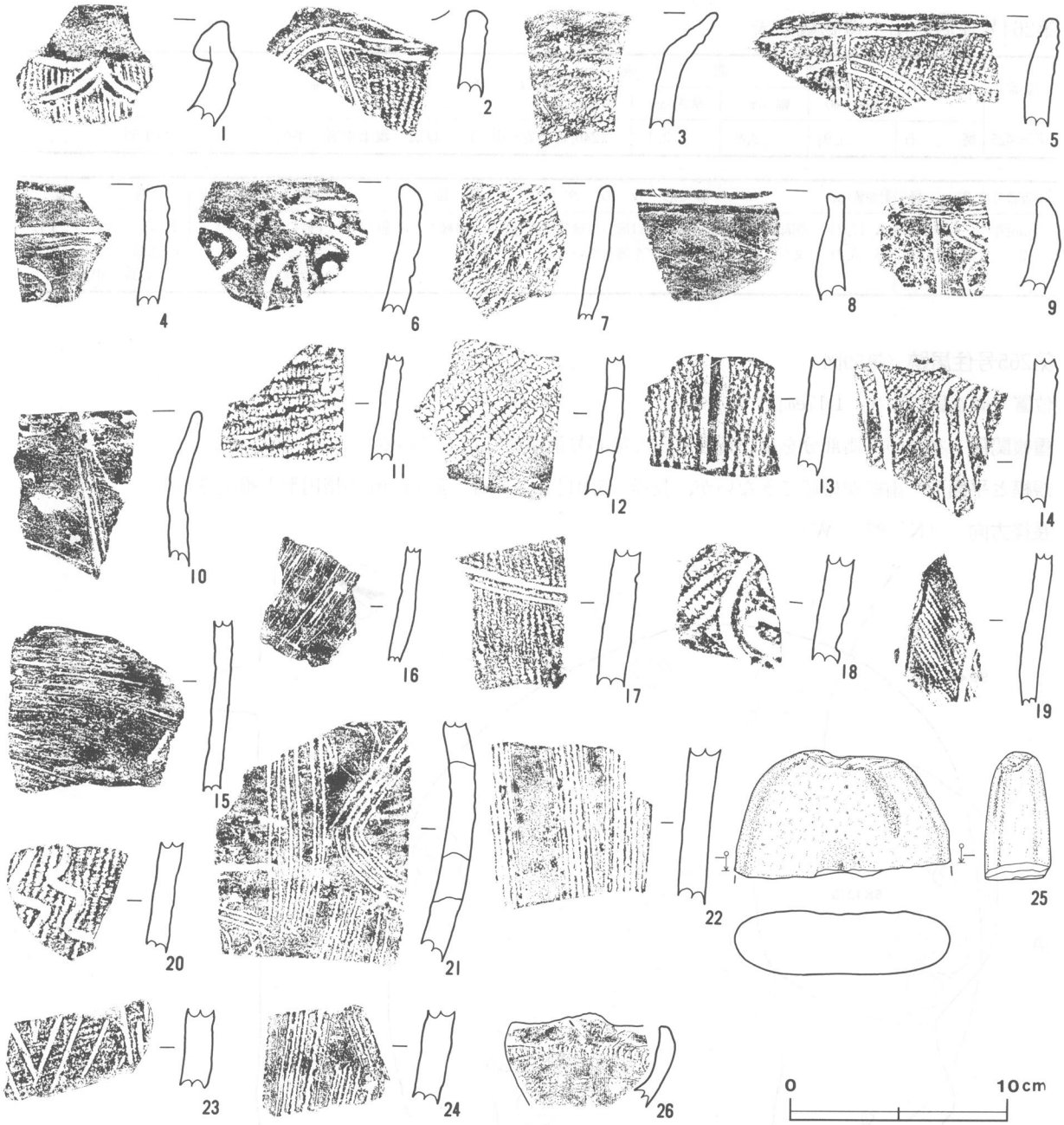
1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量

2　褐　　色　ローム粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部44点，胴部364点，底部22点）が出土している。



第57図　第264号住居跡実測図



第58図　第264号住居跡出土遺物実測・拓影図

第58図25は覆土中層から出土した磨石である。1～24は縄文土器片の拓影図である。1～10は口縁部片である。1は加曽利ＥⅠ式で，口縁部無文帯を隆帯で区画し，以下に撚糸文を地文に背割りを施した隆帯を貼り付けている。4，6，9は称名寺式で沈線を施している。2，3，5，7，8，10は堀之内Ⅰ式である。2と5は縄文地文に沈線を描いている。7は縄文を充塡している。8は口唇部に沈線が巡る。10は沈線を施している。11～24は胴部片である。13は加曽利ＥⅡ式で撚糸文を地文に複列の沈線が垂下する。15は称名寺式である。11，12，14，16～24は堀之内Ⅰ式である。11と12は単節縄文を施文している。14，17～20，23は単節縄文を地文に沈線を施している。21，22，24は沈線を描いている。26は確認面から出土したミニチュア土器である。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代後期（堀之内Ⅰ式期）と考えられる。縄文土器片の中に中期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第264号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第58図25	磨　石	(5.9)	9.9	3.1	(240.0)	安山岩	Q22　覆土中層　半欠　PL59

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第58図26	ミニチュア縄文土器	A [7.2] B (3.8)	胴部から口縁部片。波状口縁。口縁部は内彎する。口縁直下に連続爪形文が巡る。以下は，ナデを施している。	砂粒・スコリア・パミス 橙色　普通	P275　30%　PL30 確認面 (縄文時代中期)

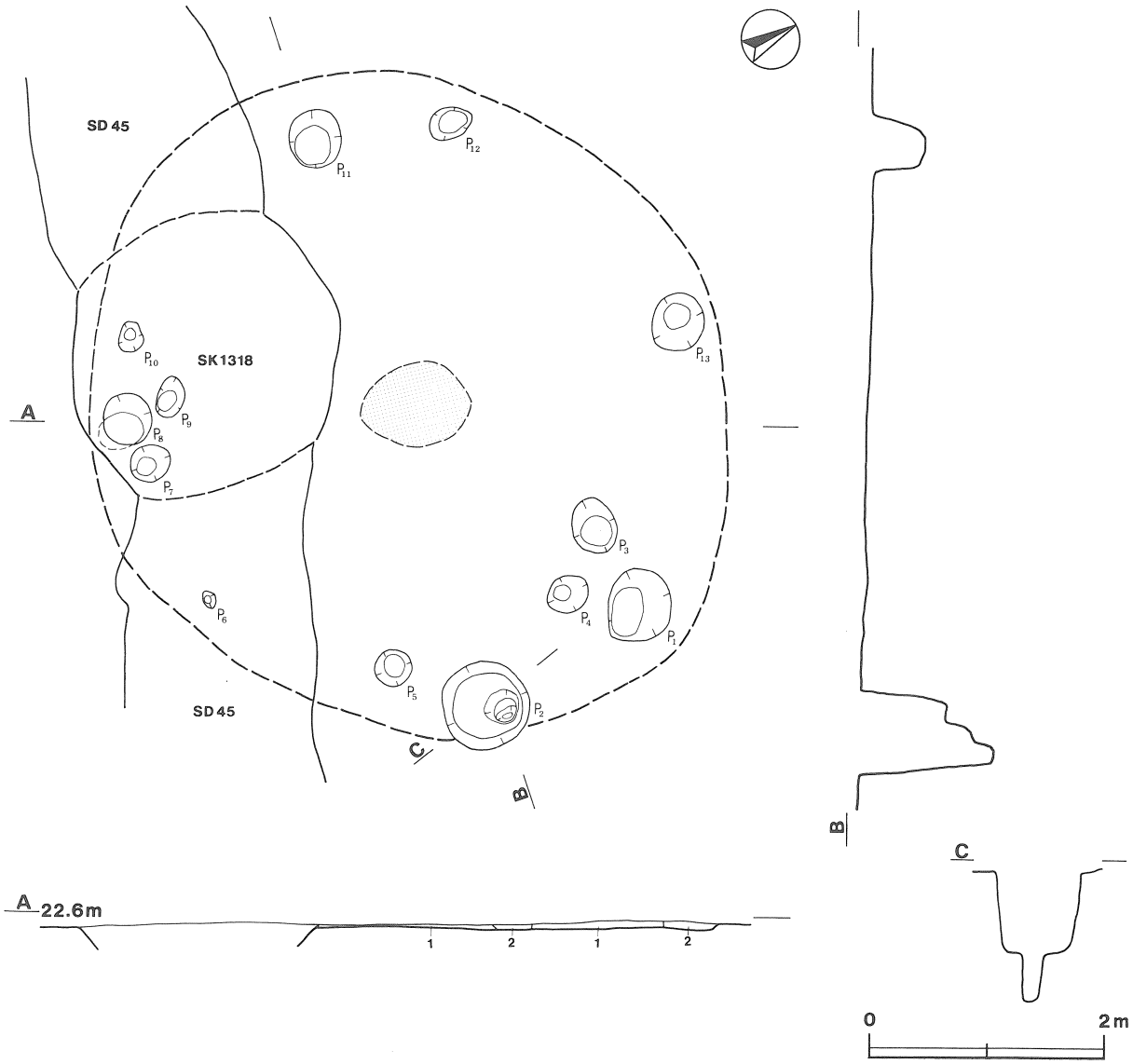
第265号住居跡（第59図）

位置　調査区の中央，D17e0区。

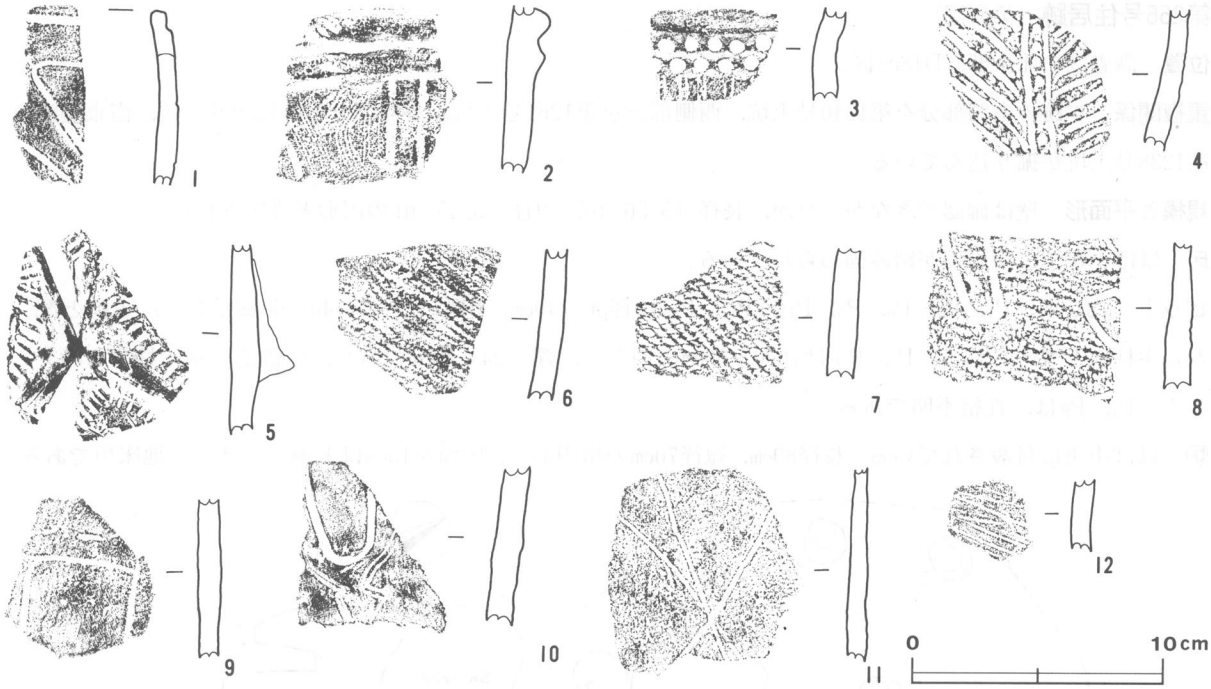
重複関係　本跡の南側部分を第1318号土坑と第45号溝が掘り込んでいる。

規模と平面形　南壁が確認できないが，長径［5.91］m，短径［5.45］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－87°－W］



第59図　第265号住居跡実測図



第60図　第265号住居跡出土遺物実測・拓影図

壁　壁は南壁以外確認できたが，壁高は約4cmと非常に浅い。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　13か所。P_1，P_5，P_8，P_{11}，P_{12}，P_{13}は径約30～40cmの円形で，深さ40～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_4，P_7，P_9，P_{10}は径20～30cmの円形で，深さ8～18cmと浅いのもであるが，位置的に補助柱穴と考えられる。東壁際のP_2は，径50cmの円形で，深さ118cmと深い。性格は不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径90cm，短径70cmの楕円形で，床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，ロームが火熱を受けて赤変硬化しゴツゴツしている。長期間使用したと考えられる。

覆土　2層からなる。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部8点，胴部82点，底部8点）が出土している。

第60図1～12は縄文土器片の拓影図である。1は称名寺Ⅰ式の口縁部片で，沈線を施している。2～12は胴部片である。2，3，7は加曽利EⅡ～Ⅲ式である。2と3は胴部上位で，2は隆帯が巡り，3は複列の円形刺突文が巡る。7は複節縄文を施文している。9～11は称名寺Ⅱ式で沈線を施している。5は阿玉台Ⅲ式で断面三角形の隆帯に沿って爪形文を施している。4，6，8，12は堀之内Ⅰ式である。4は沈線と刺突文を施している。6は単節縄文を施文している。8は縄文地文に沈線を描いている。12は条線文を施している。

所見　本跡は，南側壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。

第266号住居跡（第61図）

位置　調査区の北東部，D18c2区。

重複関係　本跡の南側部分を第1240号土坑，西側部分を第1261号土坑，東側部分を第1239号土坑，南東壁際を第1238号土坑が掘り込んでいる。

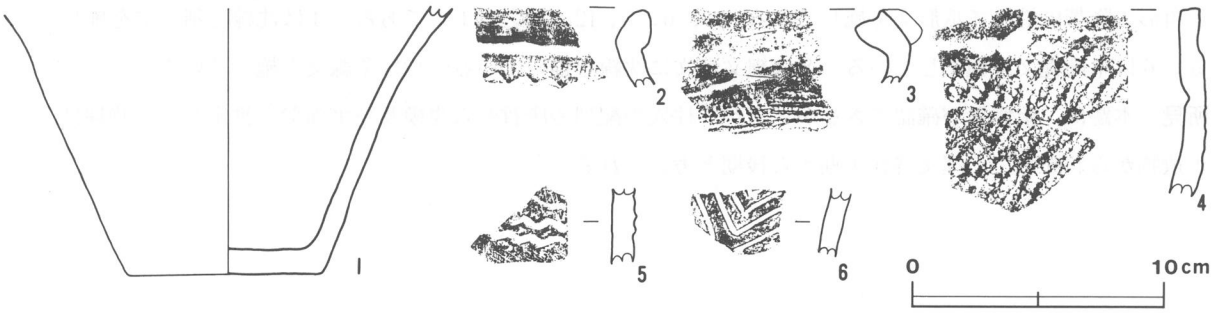
規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［5.36］m，短径［5.45］mの円形と推定される。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　13か所。P_1，P_3～P_6，P_8，P_{11}，P_{12}，P_{13}は径30～40cmの円形で，深さ40～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_{10}は径20～50cmの円形で，深さ24～40cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_7，P_9は，性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径80cm，短径70cmの楕円形で，床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。

第61図　第266号住居跡実測図



第62図　第266号住居跡出土遺物実測・拓影図

炉の底部から下半部の欠失した深鉢形土器が出土している。炉床は，赤変硬化している。

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部１点，胴部25点，底部２点）が出土している。

第62図１は炉内から出土した深鉢形土器である。２～６は縄文土器片の拓影図である。２～４は口縁部片である。２は阿玉台Ⅲ式で口縁直下に縦位の沈線と山形状の沈線が巡る。３は加曽利ＥⅠ式で撚糸文を施文している。４は堀之内Ⅰ式で単節縄文を施文している。５と６は胴部片である。５は阿玉台Ⅲ式で波状沈線を描いている。６は堀之内Ⅰ式で沈線を施している。

所見　本跡は，壁は確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，炉内から出土した深鉢形土器から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第266号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第62図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(10.5) C　7.8	底部から胴部片。底部から胴部下位にかけて外傾して立ち上がる。胴部外面に直線的磨消帯が垂下し，底面から10cm程のところに，縄文が施されているが，摩滅が著しい為，原体は不明である。以下は縦位ナデを施している。	砂粒・長石 橙色 普通	P21　20%　PL30 炉内 (加曽利ＥⅢ式)

第267号住居跡（第63図）

位置　調査区の北東部，D17e6区。

規模と平面形　壁が確認できなかったが，長径［4.88］m，短径［4.45］mの円形と推定される。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

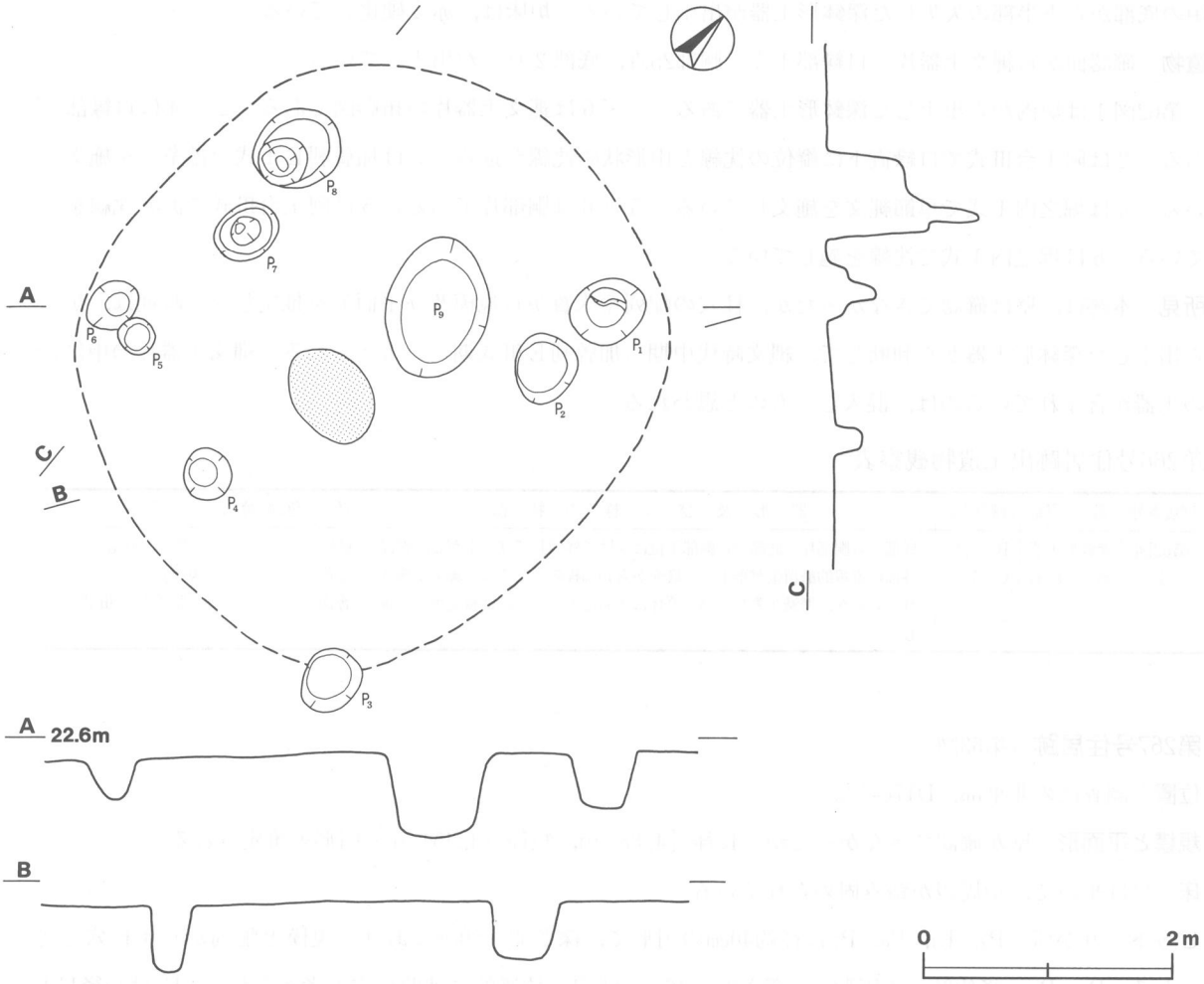
ピット　９か所。P_2，P_4，P_6，P_7は径約40cmの円形で，深さ32～50cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_5は径約30cmの円形で，深さ25～46cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_9は長径110cm，短径80cmの楕円形で，深さ72cmであり，覆土中から土器片が出土している。規模と位置から貯蔵穴の可能性が考えられる。その他は性格不明である。

炉　中央からやや南寄りに付設されている。長径80cm，短径60cmの楕円形の地床炉である。炉床は，赤変硬化し露出している。

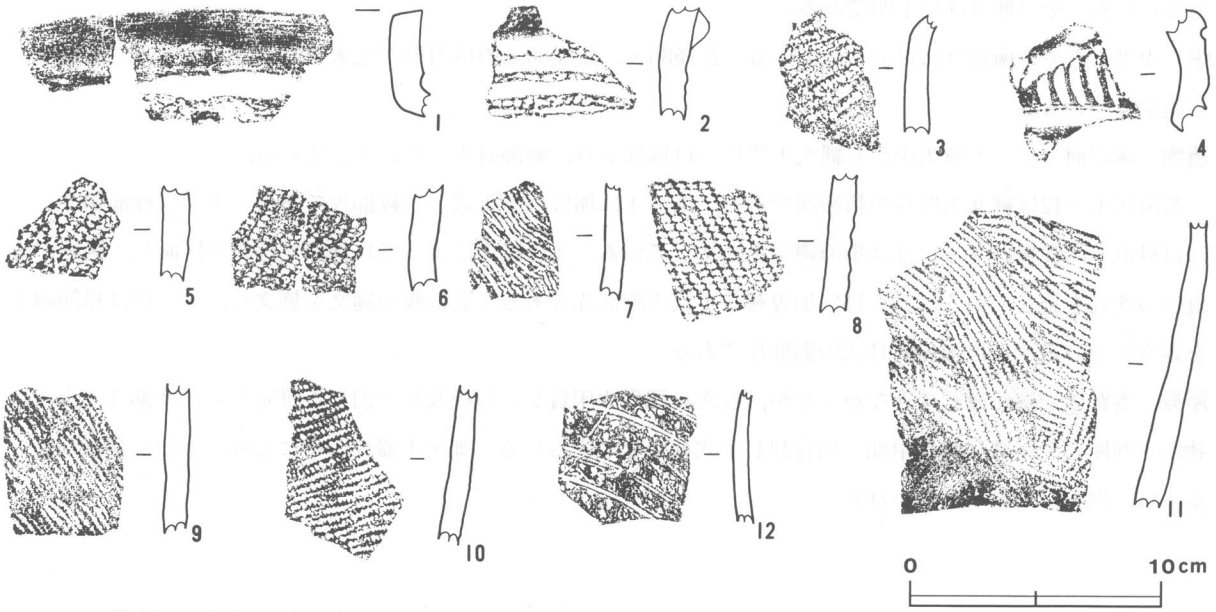
遺物　確認面とピット覆土中から縄文土器片（口縁部７点，胴部41点）が出土している。

第64図１～12は縄文土器片の拓影図である。１～４は加曽利ＥⅠ式の口縁部片である。１は口縁部無文。２は口縁直下に沈線が巡る。３は単節縄文を施文している。４は隆帯によって口縁部文様帯を区画し，区画内に縦位の沈線を施している。５～11は加曽利ＥⅠ式の胴部片である。５は複節縄文を施文し，６～11は単節縄文を施文している。12は加曽利Ｂ式の胴部片である。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。



第63図　第267号住居跡実測図



第64図　第267号住居跡出土遺物実測・拓影図

第268号住居跡（第65図）

位置　調査区の北東部，D18g_6区。

重複関係　本跡の北側部分を第1335，1287号土坑，西側部分を第1288号土坑，南東壁を第1403号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径5.51m，短径4.20mの楕円形。

長径方向　N－52°－W

壁　壁高は9～13cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺と南東コーナーが踏み固められている。

ピット　15か所。P_1，P_3，P_5，P_7，P_9，P_{14}は径20～40cmの円形で，深さ60～90cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4，P_6，P_8，P_{10}，P_{15}は径20～30cmの円形で，深さ30～50cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_{12}とP_{13}は，炉を掘り込んでいるため，新しいものと考えられる。P_{11}は，性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径80cm，短径70cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。覆土には，焼土ブロック・焼土粒子を多量に含まれている。炉内南寄りのロームが赤変硬化しているため，炉床と考えられる。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土小ブロック中量
2　にぶい赤褐色　焼土小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
3　にぶい赤褐色　焼土小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子中量，炭化粒子極少量

埋設土器　炉の南寄り床面から埋設土器が出土している。出土状況は，正位に埋設されている。掘り方の土層は，4層に分層される。5層の褐色土を入れてよく締めた後，胴下半部を欠失した深鉢形土器を埋設している。土器の中から遺物は出土していない。

埋設土器土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック極少量
5　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子・ローム小・中ブロック中量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

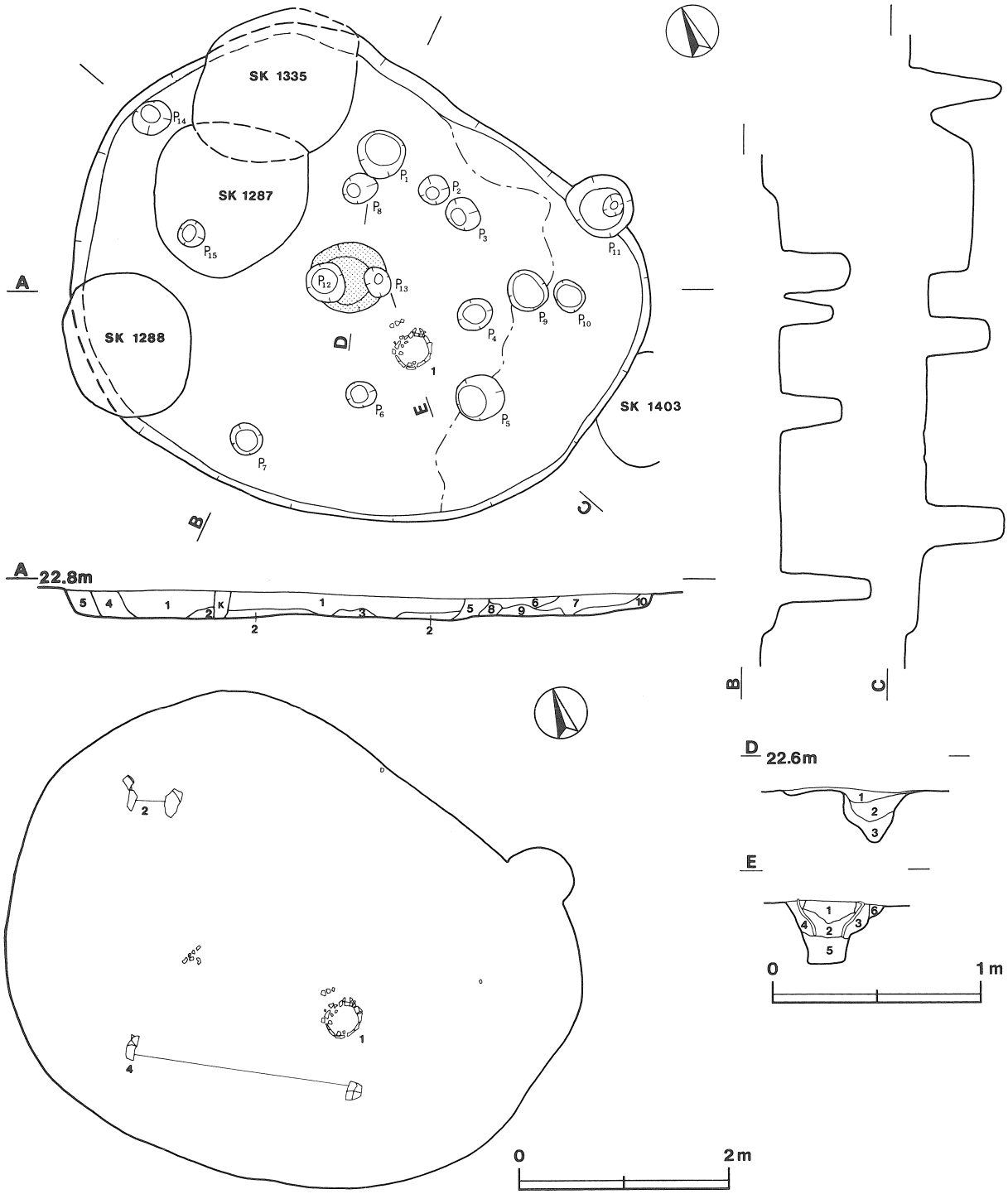
覆土　10層からなる人為堆積である。1層が大半を占める。5層と10層は，壁際からの流れ込みと考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・ソフトローム土中量
6　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極少量
7　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・ソフトローム土中量，炭化粒子極少量
8　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
9　にぶい褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子極少量
10　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土中ブロック・炭化物極少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部27点，胴部122点，底部2点）が出土している。

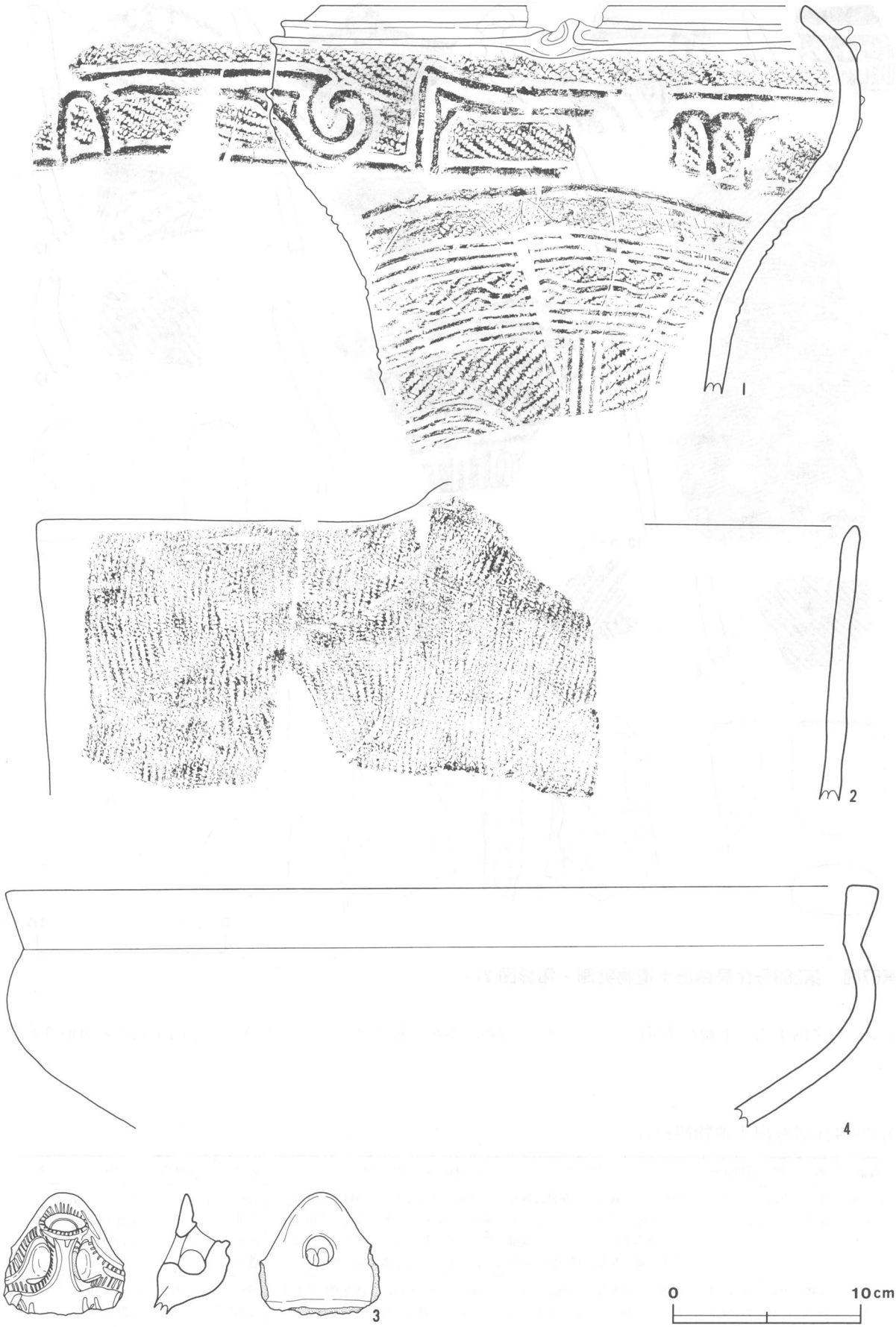
第66図1は埋設土器に使用した深鉢形土器である。2は北側床面から出土した深鉢形土器である。3は覆土中から出土した深鉢形土器の把手の部分である。4は南側床面から出土した浅鉢形土器の口縁部である。第67図17はP_7の覆土中から出土した磨製石斧である。18は南東側床面から出土した磨製石斧である。19は覆土中から出土した打製石斧である。20は覆土中から出土した磨石である。5～16は縄文土器片の拓影図である。5～10は口縁部片である。5は中峠式で口縁直下に沈線と交互刺突文が巡る。6は単節縄文を地文に背割れを施した隆



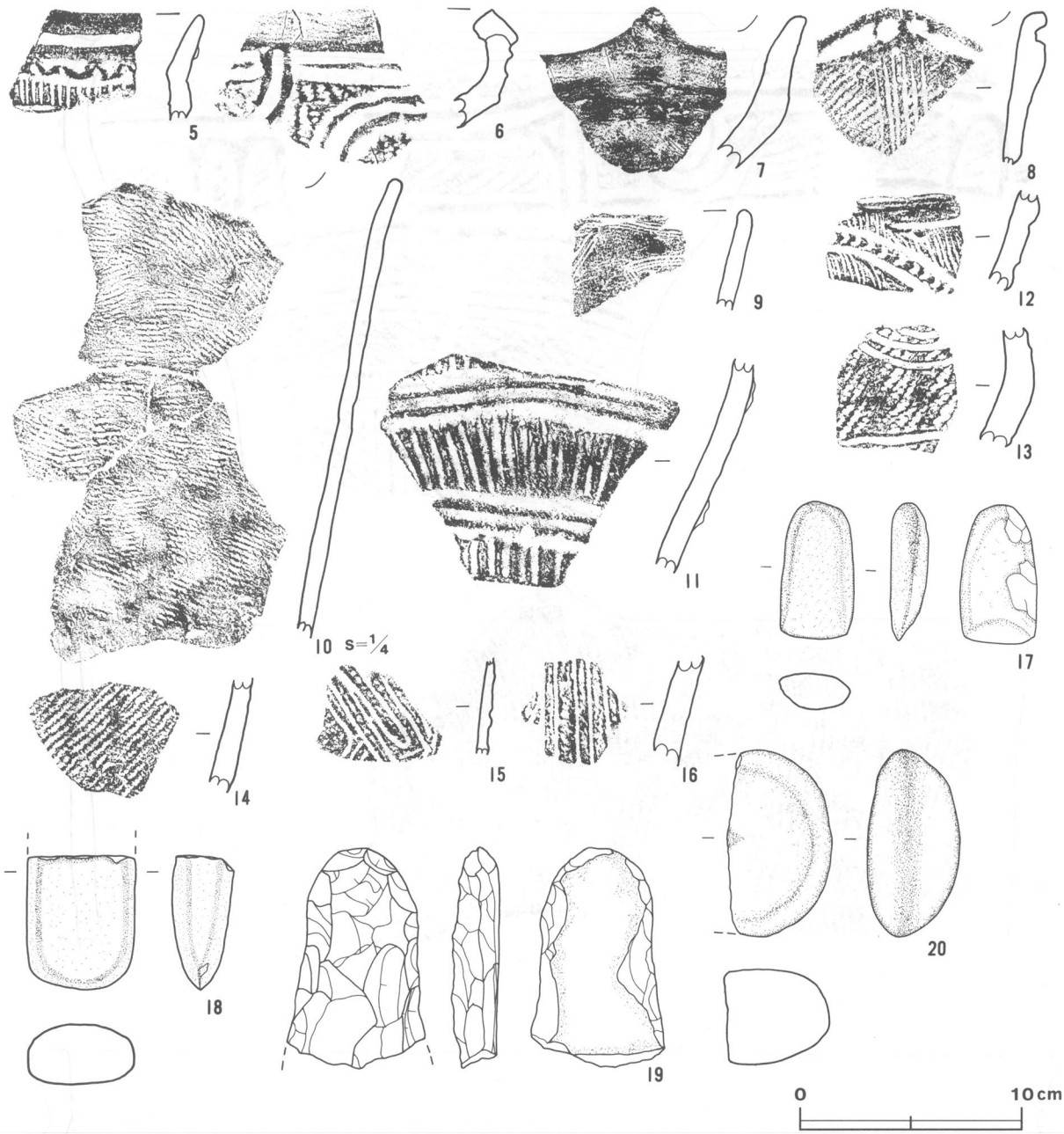
第65図　第268号住居跡実測・出土遺物位置図

帯を貼り付けている。7は阿玉台式の浅鉢形土器で無文である。8，9，10は堀之内Ⅰ式である。8は波状口縁で口縁部に円形刺突を施し，以下に縄文地文に沈線を施している。9は沈線を施している。10は波状口縁の胴部から口縁部片で，無節縄文を施文している。11～16は胴部片である。11，13，14は加曽利ＥⅠ式である。11は背割れを施した隆帯で区画し，区画内に縦位の沈線を施している。13は単節縄文を地文に沈線を描いている。14は単節縄文を施文している。12は阿玉台Ⅲ式で刺突文を施した隆帯と沈線を施している。15と16は堀之内Ⅰ式で沈線を施している。

所見　本跡の時期は，埋設土器から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。縄文土器片の



第66図　第268号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第67図　第268号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

中から堀之内Ⅰ式の土器が多量に出土しているため，本跡を掘り込んでいる土坑は堀之内Ⅰ式期の可能性が高い。

第268号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第66図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[25.6] B(22.7)	胴部から口縁部片。胴部は外反し，口縁部は内彎する。口縁部無文帯を二本の隆帯で区画し，以下に単節縄文ＬＲの横位回転を地文に隆帯と沈線で渦巻文を描いている。胴部上位に半截竹管による沈線が巡り，以下に単節縄文ＲＬの横位回転を地文に，半截竹管による沈線が垂下する。	砂粒・長石・石英・雲母 褐色 普通	P22　40%　PL30 埋設土器 (加曽利ＥⅠ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[41.2] B(14.6)	胴部から口縁部片。胴部上位から口縁部にかけては，ほぼ垂直に立ち上がる。口縁部に波状の突起を有する。胴部に縄文を施文している。	砂粒・長石・石英 赤褐色 普通	P23　10%　PL31 北部床面 (堀之内Ⅰ式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第66図 3	深鉢形土器 縄文土器	最大長6.5 最大幅6.5 最大厚4.0	把手片。中空の把手。孔の周囲には，キザミ目を施している。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P24　5％　PL30 覆土中 (中峠式)
4	深鉢形土器 縄文土器	A[45.6] B(12.8)	胴部から口縁部片。胴部から頸部にかけて内彎しながら立ち上がり，口縁部は外傾する。無文である。	砂粒・長石・石英 明褐色 普通	P25　5％　PL31 南部床面 (加曽利ＥⅠ式)

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第67図17	磨製石斧	6.3	3.5	1.8	(50.0)	砂　岩	Q23　覆土中　一部欠損　PL57
18	磨製石斧	(6.0)	4.9	2.7	(120.0)	砂　岩	Q24　南東部床面　刃部片　PL57
19	打製石斧	(10.0)	6.2	2.2	(170.0)	安山岩	Q25　覆土中　一部欠損　PL57
20	磨　石	8.6	(4.9)	4.5	(220.0)	安山岩	Q26　覆土中　半欠

第269号住居跡（第68図）

位置　調査区の北東部，D18e2区。

重複関係　本跡は，北側部分が第281号住居跡と重複している。西側部分を第1273号土坑，南側部分を第1281号土坑と第45号溝が掘り込んでいる。

規模と平面形　北壁と西壁の立ち上がりしか確認できなかったが，長径［7.04］m，短径［4.91］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－25°－W］

壁　壁高は約21cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　21か所。P_1，P_3，P_{10}，P_{11}，P_{14}，P_{16}，P_{18}，P_{19}は径20～40cmの円形で，深さ50～90cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4，P_8，P_{12}，P_{13}，P_{15}，P_{17}，P_{20}は径30～40cmの円形で，深さ30～40cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

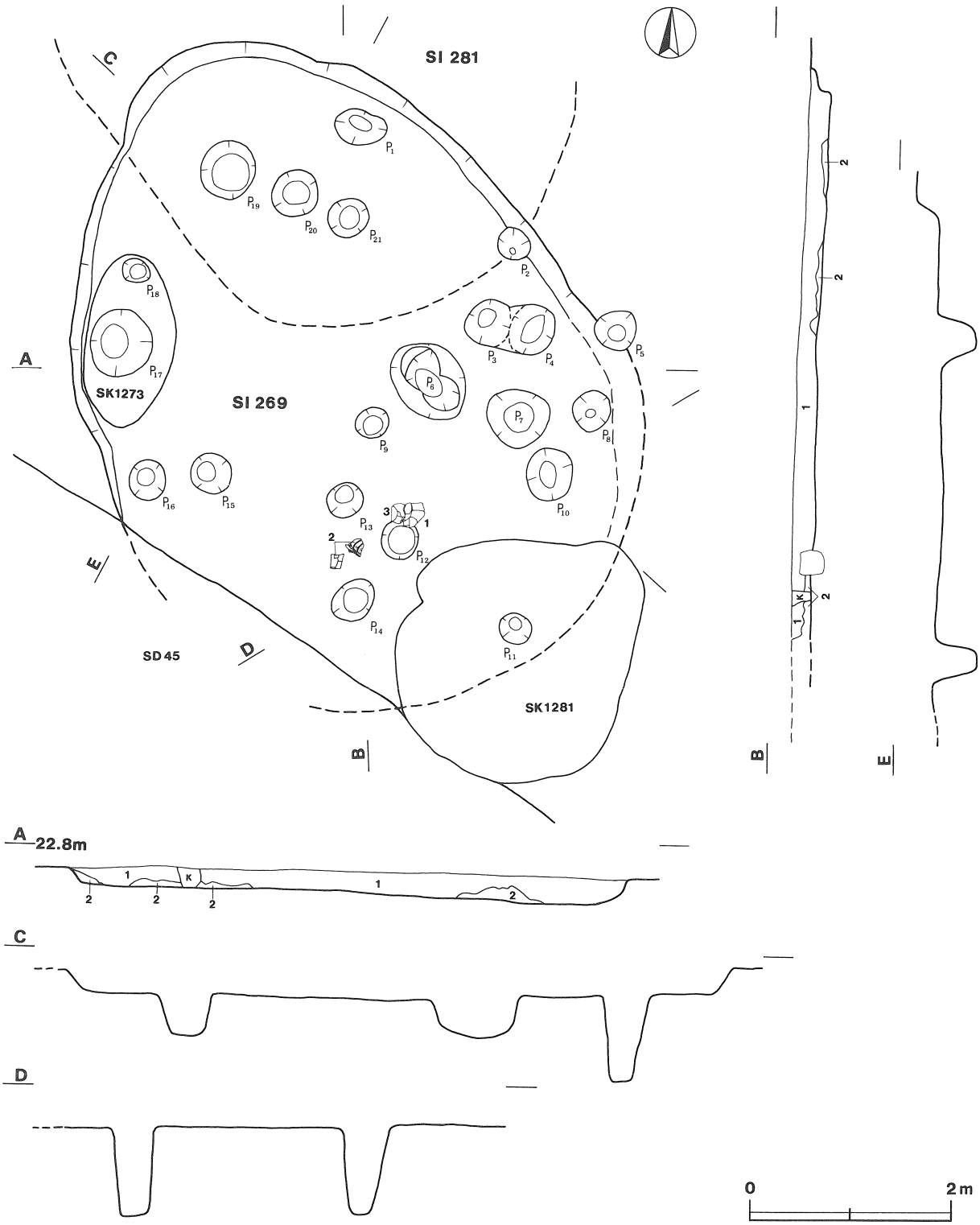
覆土　2層からなる。1層が大半を占め，土器片が多量に出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
2　褐　　色　ローム小・中ブロック中量

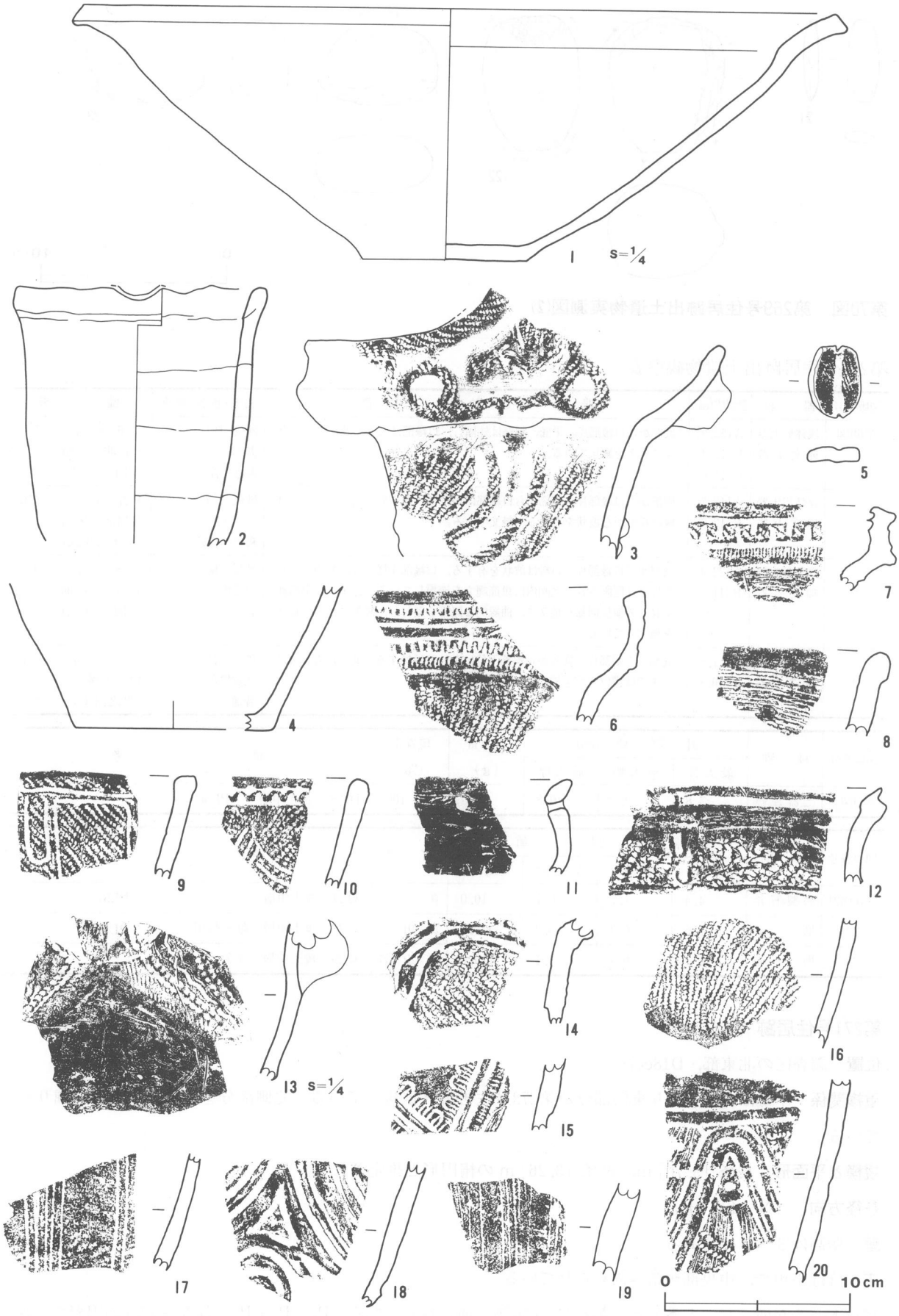
遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部118点，胴部594点，底部26点）が出土している。

第69図1はP_{12}の北側床面から出土した浅鉢形土器である。2と3はP_{14}の北側床面から出土した小型の深鉢形土器である。覆土中層から4の深鉢形土器の底部，5の土器片錘，第70図21の磨製石斧，22と23の磨石が出土している。6～20は縄文土器片の拓影図である。6～13は口縁部片である。6，7，9，11は勝坂式である。6は口縁直下に二条の交互刺突文と爪形文が巡り，7は一条の交互刺突文と爪形文が巡る。9は単節縄文を地文に沈線が描かれている。11は小型壺形土器で1単位の穿孔が認められる。8は阿玉台Ⅳ式で口縁直下に横位の条線文を施している。10は加曽利ＥⅢ式で口縁直下に二条の円形刺突文が巡る。12は堀之内Ⅰ式で口唇部に円形刺突文を施し，沈線が巡る。13は阿玉台Ⅲ式の波状口縁で，隆帯によって口縁部文様帯を区画している。隆帯に沿って刺突文を施し，区画内に波状沈線を施している。14～20は胴部片である。14は大木8a式の胴部上位で単節縄文を地文に沈線を描いている。15，18，20は勝坂式である。15は半截竹管による刺突文や爪形文を施している。18は隆帯によって文様を描いている。20は沈線で文様を描いている。16は加曽利ＥⅠ式の胴部下位で単節縄文を施文している。17と19は沈線を施している。

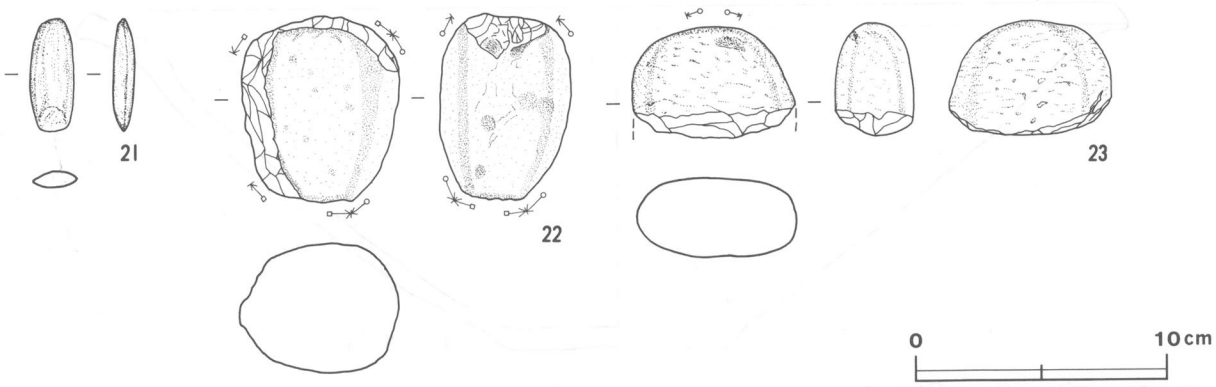


第68図　第269号住居跡実測図

所見　本跡は，第281号住居跡を掘り込んでいるため，第281号住居跡より新しい。炉は確認できなかった。時期は，床面から出土した遺物から判断して，縄文時代中期（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。



第69図　第269号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第70図　第269号住居跡出土遺物実測図(2)

第269号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第69図 1	浅鉢形土器 縄文土器	A[53.9] B 18.2 C 11.6	底部から口縁部片。平底。胴部は外傾し，口縁部は大きく外反する。全面に磨きを施している。	砂粒・長石・石英・雲母 褐色　普通	P26　60%　PL31 P12北部床面 (阿玉台Ⅳ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[13.3] B(13.9)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。口縁に緩やかな波状を有する。無文である。	砂粒・長石・石英・スコリア 褐色　普通	P27　40%　PL31 P14北部床面 (阿玉台Ⅳ式)
3	深鉢形土器 縄文土器	A[22.4] B(11.7)	胴部から口縁部片。口縁は波状を有する。口縁部文様帯は，幅の広い隆帯により区画され，区画内に単節縄文を充填している。以下は，単節縄文RLの横位回転を地文に，曲線的な隆帯を貼付し，隆帯に沿って縄文を施文している。	砂粒・長石 明褐色 普通	P28　5%　PL31 P14北部床面 (阿玉台Ⅰ式)
4	浅鉢形土器 縄文土器	B(7.8) C[10.8]	底部から胴部片。底部から胴部下位にかけて外傾する。底面から5cmほどまでは横位ナデを施している。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P29　20%　PL31 覆土中層 (堀之内Ⅰ式)

図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第69図5	土器片錘	3.8	2.9	0.8	10.0	100	DP8　覆土中層　PL56

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第70図21	磨製石斧	4.4	1.7	0.7	10.0	頁　岩	Q27　覆土中層　PL57
22	磨　石	7.5	6.3	5.2	330.0	安山岩	Q28　覆土中層　敲石転用　PL59
23	磨　石	(4.5)	6.4	3.1	(110.0)	安山岩	Q29　覆土中層　半欠

第271号住居跡（第71図）

位置　調査区の北東部，D18e6区。

重複関係　本跡は，中央より東側部分が第272号住居跡と重複している。北側部分を第1302号土坑が掘り込んでいる。

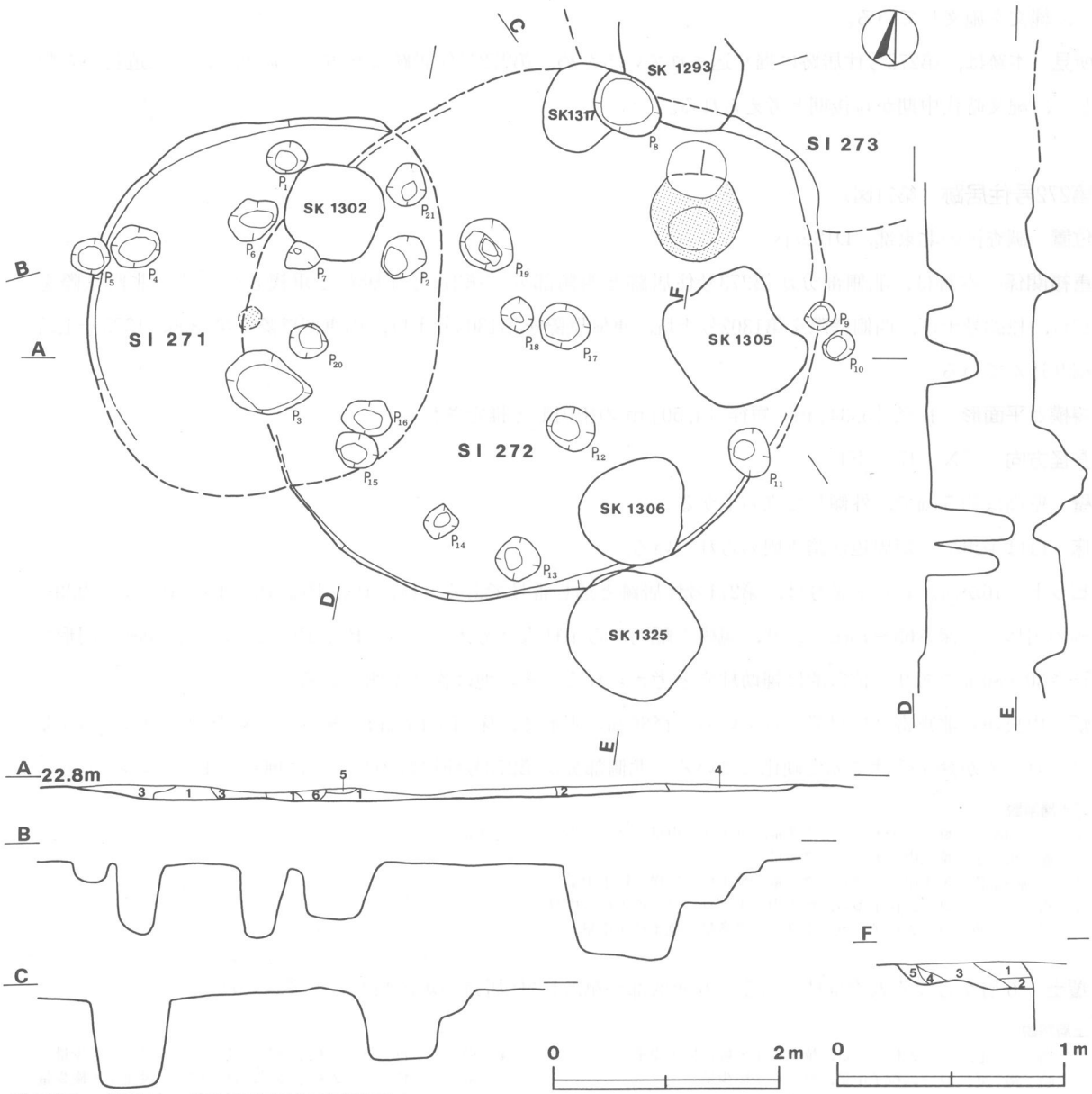
規模と平面形　長径［3.70］m，短径［3.26］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－40°－E］

壁　壁高は3～4cmである。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　5か所。ピット番号は，第272号住居跡と通し番号である。P_1，P_2，P_4は径30～40cmの円形で，深さ50～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。壁際に位置するP_5は，径30cmの円形で，深さ18cmで



第71図　第271・272号住居跡実測図

第72図　第271号住居跡出土遺物実測・拓影図

あり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_3は，性格不明である。

炉　第272号住居跡に掘り込まれているが，焼土ブロックが多量に確認できたため，炉と考えられる。

覆土　土層番号は，第272号住居跡と通し番号である。本跡は，1層と3層しか確認できなかった。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小ブロック中量

遺物　覆土中から縄文土器片（胴部2点，底部1点）が出土している。

第72図1と2は縄文土器片の拓影図である。1は中峠式の胴部片で，無文である。2は堀之内Ⅰ式の胴部片

で，縄文を施文している。

所見　本跡は，第272号住居跡に掘り込まれているため，第272号住居跡より古い。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。

第272号住居跡（第71図）

位置　調査区の北東部，D18e7区。

重複関係　本跡は，北側部分が第273号住居跡と西側部分が第271号住居跡と重複している。北側壁際を第1317，1293号土坑，西側壁際を第1302号土坑，東側壁際を第1305号土坑，南東側壁際を第1306，1325号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径［5.34］m，短径［4.50］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－47°－E］

壁　壁高は約5㎝で，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　16か所。ピット番号は，第271号住居跡と通し番号である。P_9，P_{11}，P_{13}，P_{15}，P_{20}，P_{21}は径約30～40㎝の円形で，深さ65～75㎝であり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_{10}，P_{14}，P_{16}は径約30㎝の円形で，深さ30～80㎝であり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　中央から北東寄りに付設されている。径80㎝の円形で，床面を15㎝ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，ロームが熱を受けて赤変硬化している。北側部分が第273号住居跡のピットに掘り込まれている。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土中・大ブロック多量，焼土粒子中量，ローム小ブロック少量
2　赤　褐　色　焼土中・大ブロック多量
3　暗赤褐色　焼土中・大ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土中・大ブロック・焼土粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土小ブロック多量，焼土粒子中量

覆土　6層からなる人為堆積である。6層底部が第271号住居跡の炉に当たると考えられる。

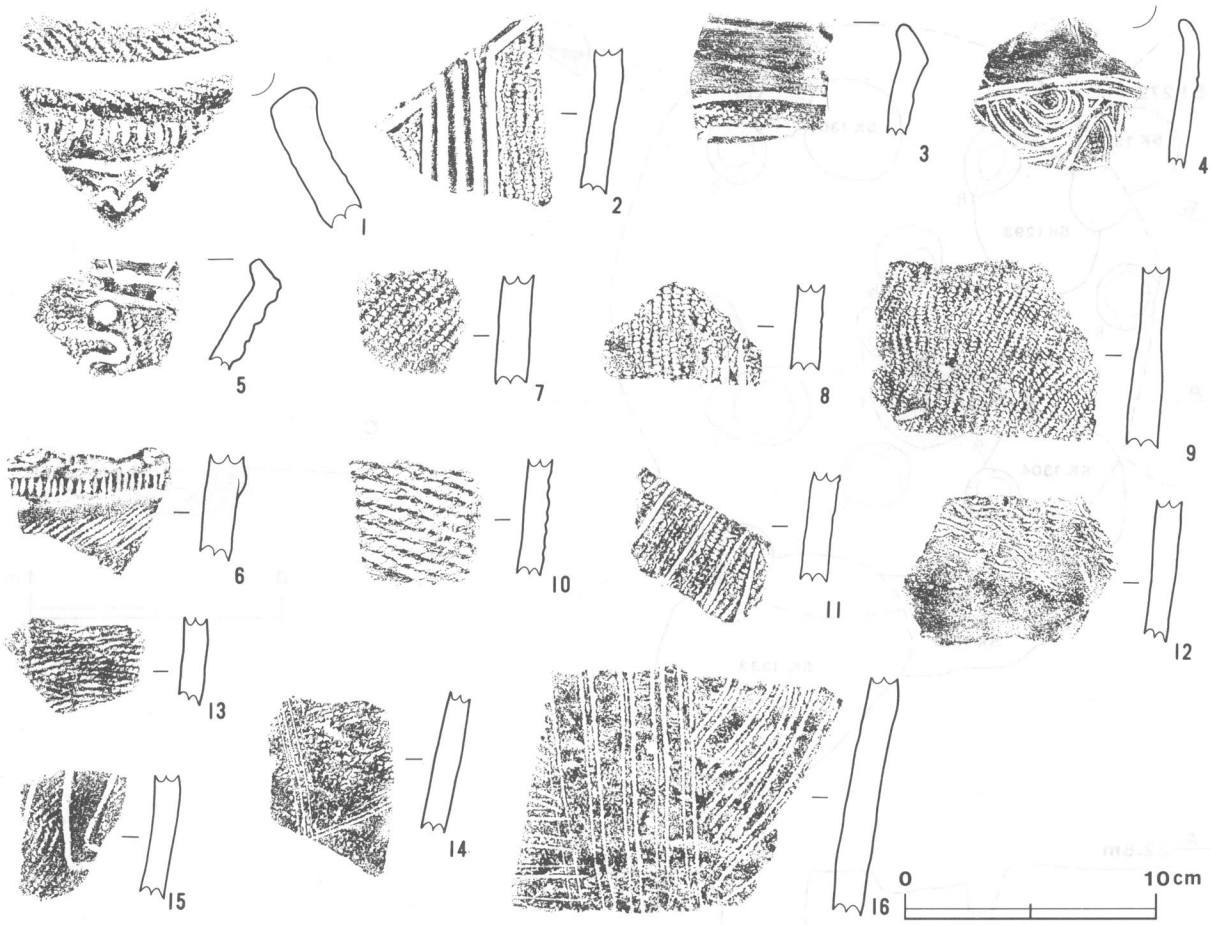
土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子極少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，焼土粒子極少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子中量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部10点，胴部59点，底部4点）が出土している。

第73図1～16は縄文土器片の拓影図である。1～5は口縁部片である。1は阿玉台Ⅳ式の波状口縁で，口唇部に単節縄文を充塡し，口縁直下には刺突文が巡る。2は加曽利E-Ⅰ式で単節縄文を地文に半截竹管による棒状沈線を施している。3～5は堀之内Ⅰ式である。3は横位の沈線を施している。4は波状口縁で沈線を描いている。5は口唇部に沈線を施し，口縁直下に円形刺突文を施している。以下に蛇行沈線が垂下する。6～16は胴部片である。6は中峠式でキザミ目を施した隆帯を貼り付けている。以下に撚糸文を施文している。7と8は加曽利EⅠ式で単節縄文を施文している。10は中期で無節縄文を施文している。9，11～14，16は堀之内Ⅰ式である。9と13は単節縄文を施文している。11は単節縄文を地文に沈線を施している。14と16は沈線を描いている。15は称名寺式で磨消縄文を沈線で区画している。

所見　本跡は，南側壁と東側壁際の一部しか確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。第271号住居跡を掘り込んでいるため，本跡の方が新しい。第273号住居跡のピットに炉が掘り込まれているため，本跡の方が古い。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。



第73図　第272号住居跡出土遺物実測・拓影図

第273号住居跡（第74図）

位置　調査区の北東部，C18d7区。

重複関係　本跡は，南側部分が第272号住居跡と重複している。中央から北西側部分を第1301号土坑，南西側部分を第1317，1293号土坑，南側部分を第1304号土坑，東側部分を第1332，1333号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［4.64］m，短径［4.32］mの円形と推定される。

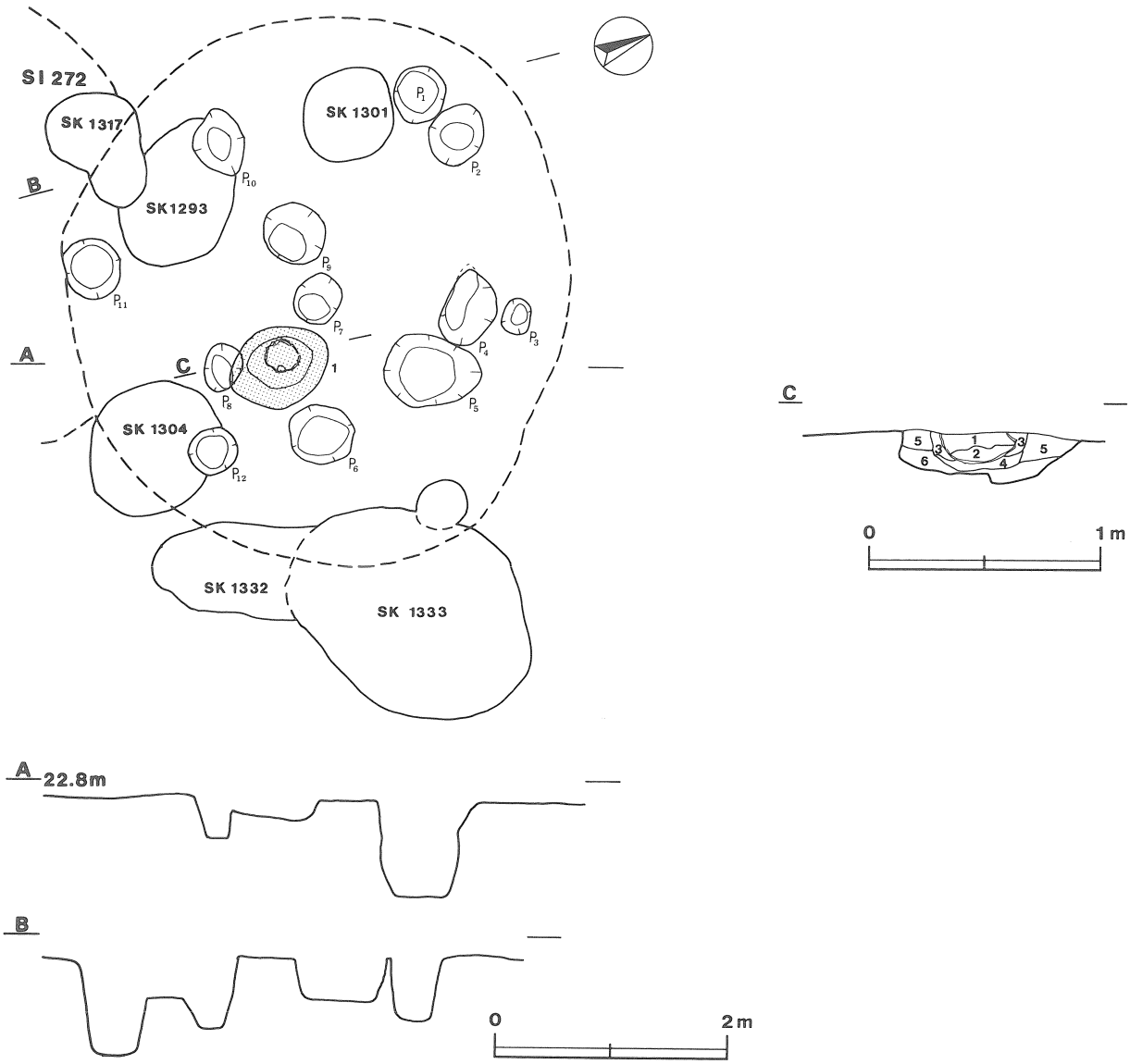
床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　12か所。P_1，P_3，P_{10}，P_{11}，P_{12}は径約40～50cmの円形で，深さ40～70cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2は径40cmの円形で，深さ30cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　中央からやや南東寄りに付設されている。長径90cm，短径70cmの楕円形で，深さ25cmの掘り方の中に深鉢形土器を埋設した土器埋設炉である。口縁部を欠失する深鉢形土器を掘り方内のほぼ中央に据えて，炉体土器としている。掘り方の土層は4層に分層される。炉体土器に接する3層と4層は，熱を受けて赤変硬化し，焼土ブロックがゴツゴツしている。長期間使用したと考えられる。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物少量
2　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量
3　赤　褐　色　焼土ブロック
4　赤　褐　色　熱を受けたロームブロック
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子極少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・ローム小ブロック少量



第74図　第273号住居跡実測図

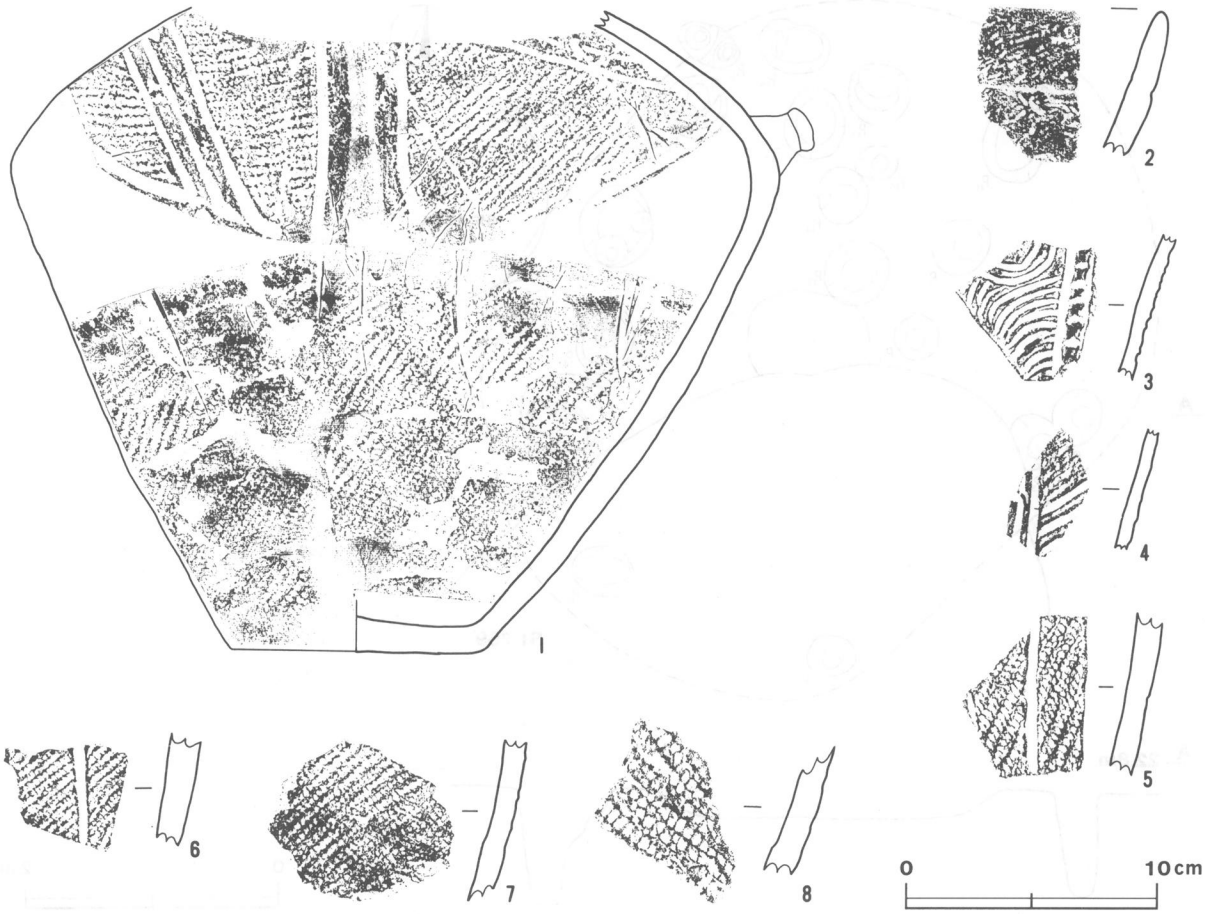
遺物　確認面から縄文土器片（口縁部３点，胴部33点，底部１点）が出土している。

第75図１は炉体土器に転用された深鉢形土器である。２～８は縄文土器片の拓影図である。２は堀之内Ⅰ式の口縁部片である。３～８は堀之内Ⅰ式の胴部片である。３と４は沈線により文様を描いている。５と６は縄文地文に沈線が垂下する。７と８は単節縄文を施文している。

所見　P_{11}が第272号住居跡の炉を掘り込んでいるため，本跡の方が新しい。時期は，炉体土器から判断して，縄文時代後期(称名寺Ⅱ式期)と考えられる。縄文土器片の中に堀之内Ⅰ式の土器が多量に出土しているため，掘り込んでいる土坑は堀之内Ⅰ式期の可能性が高い。

第273号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第75図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(20.5) C 10.2	口縁部欠損。平底。胴部上位にかけて外傾して立ち上がり，上位で大きく内彎する。胴部上位に最大径を持つ。胴部上位に橋状把手を有する。以下は無節縄文を地文に，沈線と隆帯で直線や曲線を描いている。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P30　75%　PL32 炉体土器転用 (称名寺Ⅱ式)



第75図　第273号住居跡出土遺物実測・拓影図

第281号住居跡（第76図）

位置　調査区の北東部，D18d$_2$区。

重複関係　本跡は，南側部分が第269号住居跡と重複している。東壁際を第1234号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁が確認できなかったが，長径［5.85］m，短径［4.49］mの楕円形と推定される。

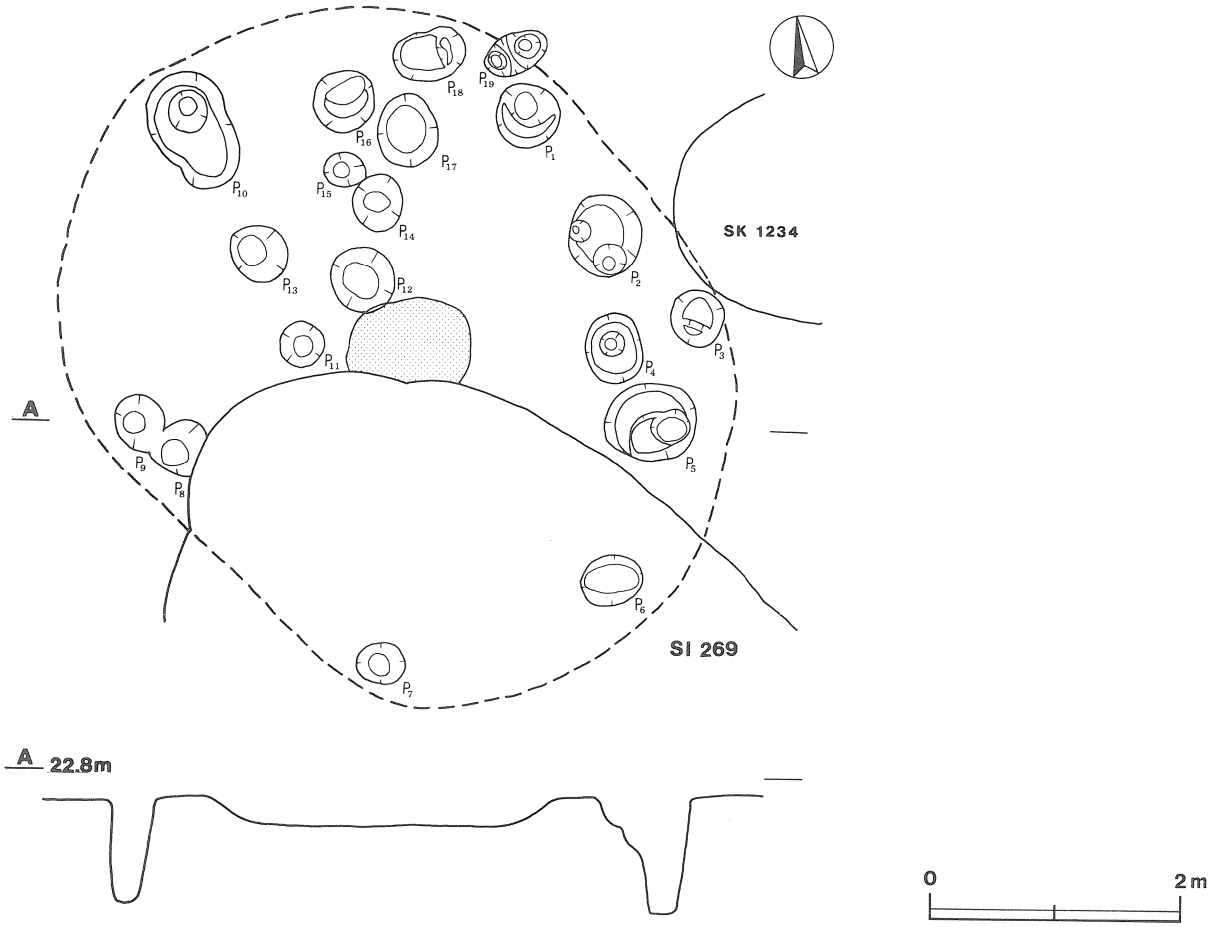
長径方向　［N－41°－W］

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　19か所。P_1，P_2，P_5，P_6，P_7，P_9，P_{10}は径約40～60cmの円形で，深さ40～80cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_4，P_8，P_{17}は径約40cmの円形で，深さ20～60cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。一部第269号住居跡に掘り込まれている。炉床は，赤変硬化し，露出している。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。第269号住居跡に掘り込まれているため，本跡の方が古い。時期は，出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。



第76図　第281号住居跡実測図

第283号住居跡（第77図）

位置　調査区の北東部，D18b7区。

重複関係　中央からやや東側部分を第1286号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁は確認できないが，長径［3.88］m，短径［3.69］mの円形と推定される。

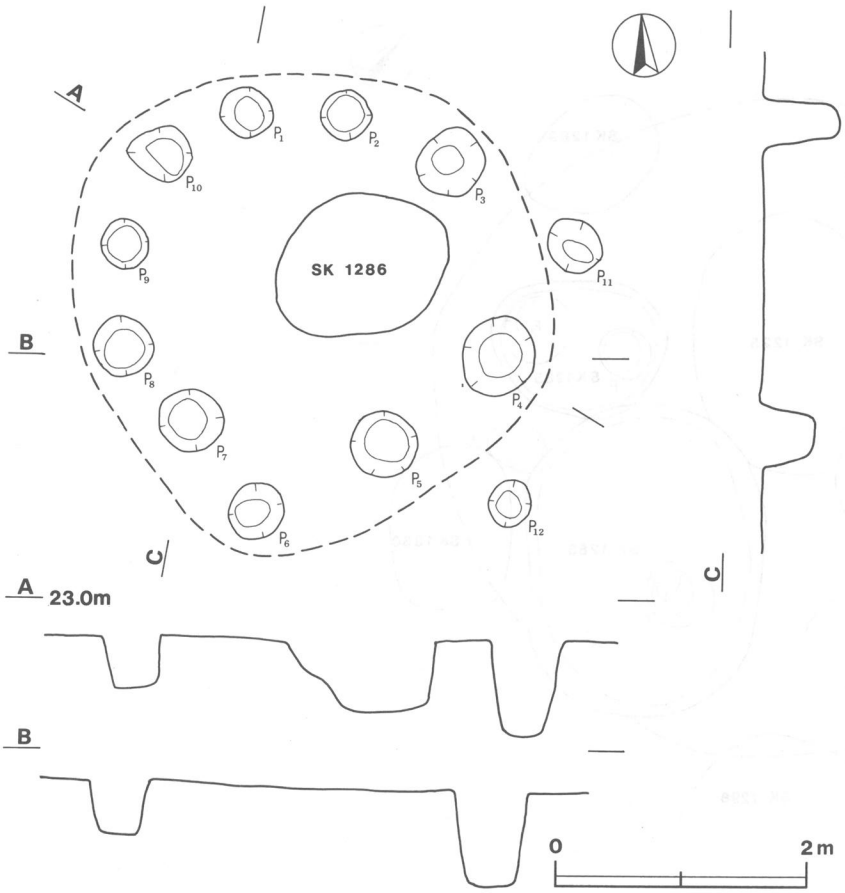
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　12か所。P_1～P_{10}は径40～50cmの円形で，深さ40～100cmであり，等間隔に配列している。規模と配列から主柱穴と考えられる。P_{11}とP_{12}は径約40cmの円形で，深さ約35cmである。性格は不明である。

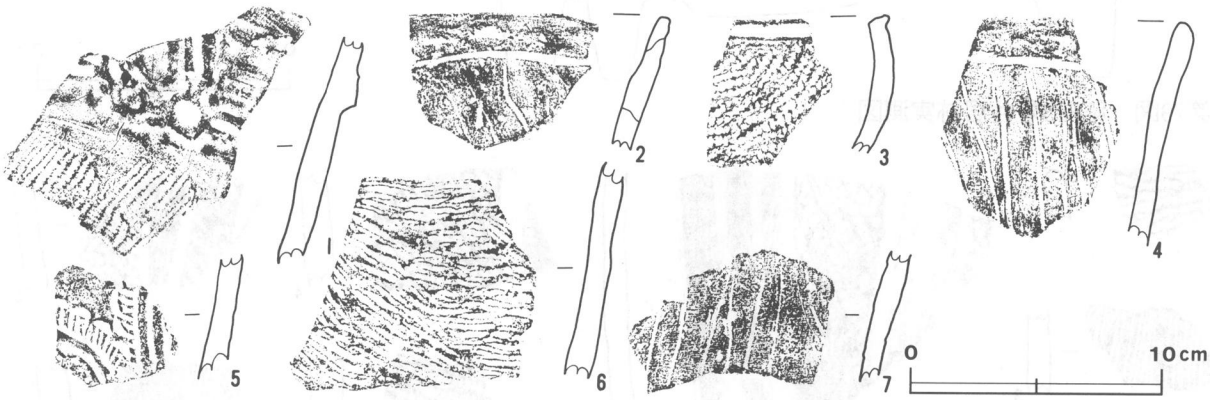
遺物　確認面から縄文土器片（口縁部4点，胴部27点）が出土している。

第78図1～7は縄文土器片の拓影図である。1～4は称名寺II式の口縁部片である。1は綱取式の影響を受けている。2は無文で口縁直下に沈線が巡る。3は口縁直下に沈線が巡り，以下に単節縄文を施文している。4は口縁直下に沈線が巡り，以下に縦位の沈線を施している。5～7は胴部片である。5は勝坂式で爪形文を施している。6と7は称名寺II式で，6は無節縄文を施文し，7は沈線を施している。

所見　第1286号土坑の覆土中から焼土ブロックが中量出土しているため，本跡の炉を掘り込んだ可能性がある。時期を判断する出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。



第77図　第283号住居跡実測図



第78図　第283号住居跡出土遺物実測・拓影図

第285号住居跡（第79図）

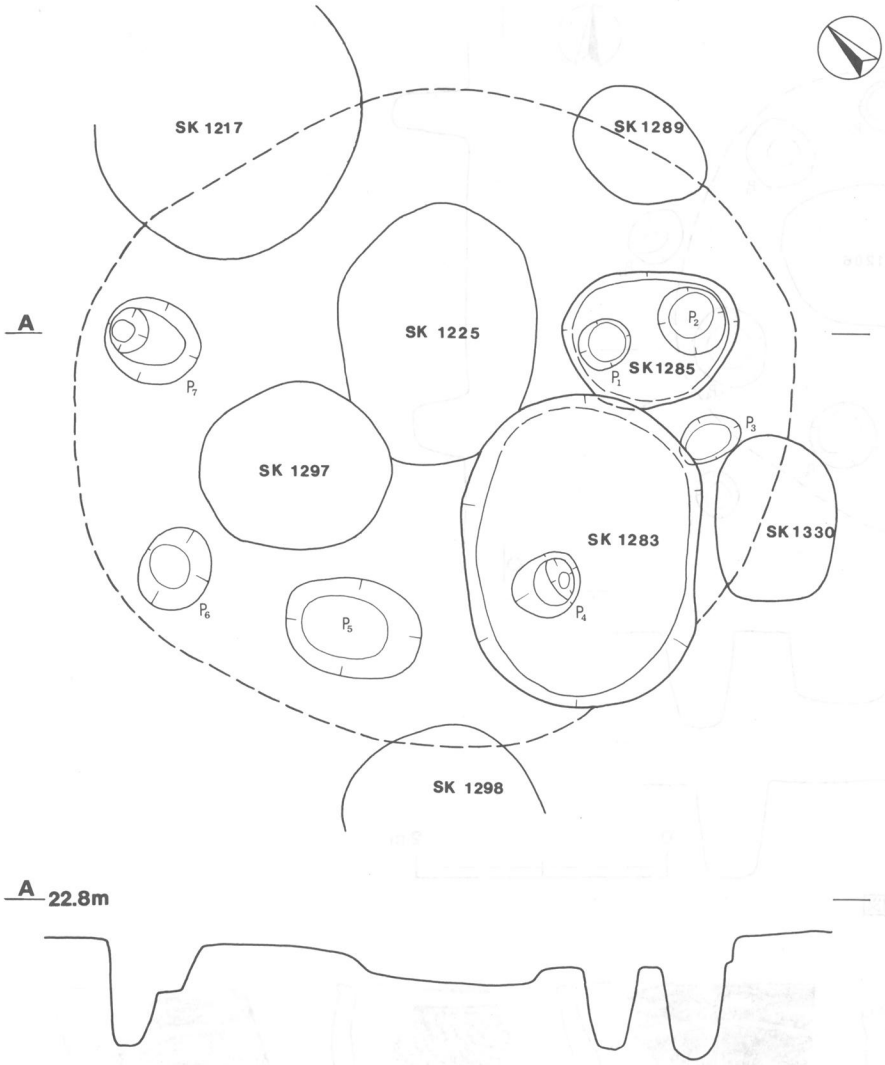
位置　調査区の北東部，C18j5区。

重複関係　本跡の北側部分を第1217号土坑，中央部分を第1225号土坑，中央からやや西側部分を第1297号土坑，東側部分を第1289号土坑，南側部分を第1283，1285，1298，1330号土坑が掘り込んでいる。

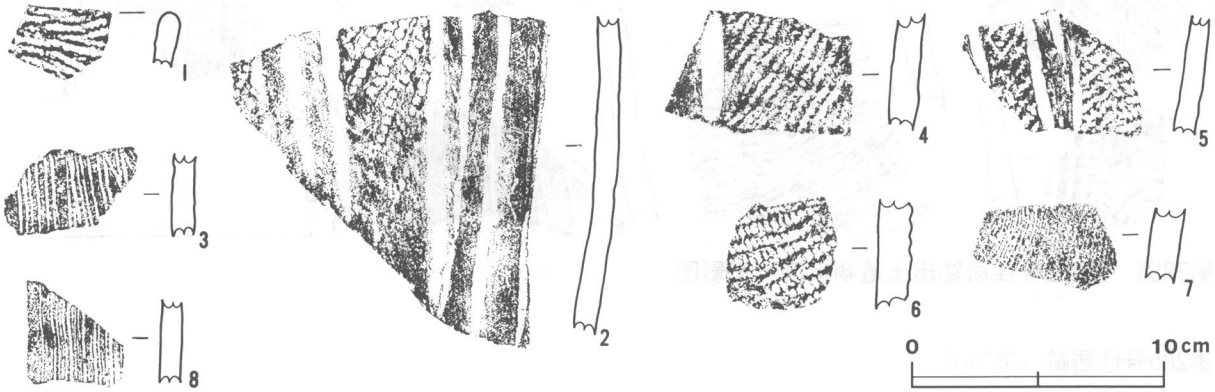
規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［5.65］m，短径［5.12］mの円形と推定される。

床　土坑による撹乱が甚だしいが，踏み固められた部分が確認できた。

ピット　7か所。P_2，P_3，P_4，P_6，P_7は径40～60cmの円形で，深さ60～80cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_1は径40cmの円形で，深さ60cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_5は，性格不明であ



第79図　第285号住居跡実測図



第80図　第285号住居跡出土遺物実測・拓影図

る。

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部４点，胴部22点，底部２点）が出土している。

第80図１～８は縄文土器片の拓影図である。１は加曽利ＥⅢ式の口縁部片で，単節縄文を充塡している。２～８は加曽利ＥⅢ式の胴部片である。２，４，５は磨消帯が垂下する。６は単節縄文を施文している。３，７，８は条線文を施している。

所見　本跡は，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。炉は確認できなかった。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。

第287号住居跡（第81図）

位置　調査区の北東部，D18e8区。

重複関係　本跡は，北側部分が第291号住居跡と重複している。中央部分を第1389号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　東側半分が調査区域外のため確認できないが，長径［3.90］m，短径［1.65］mの円形と推定される。

壁　壁高は約15cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

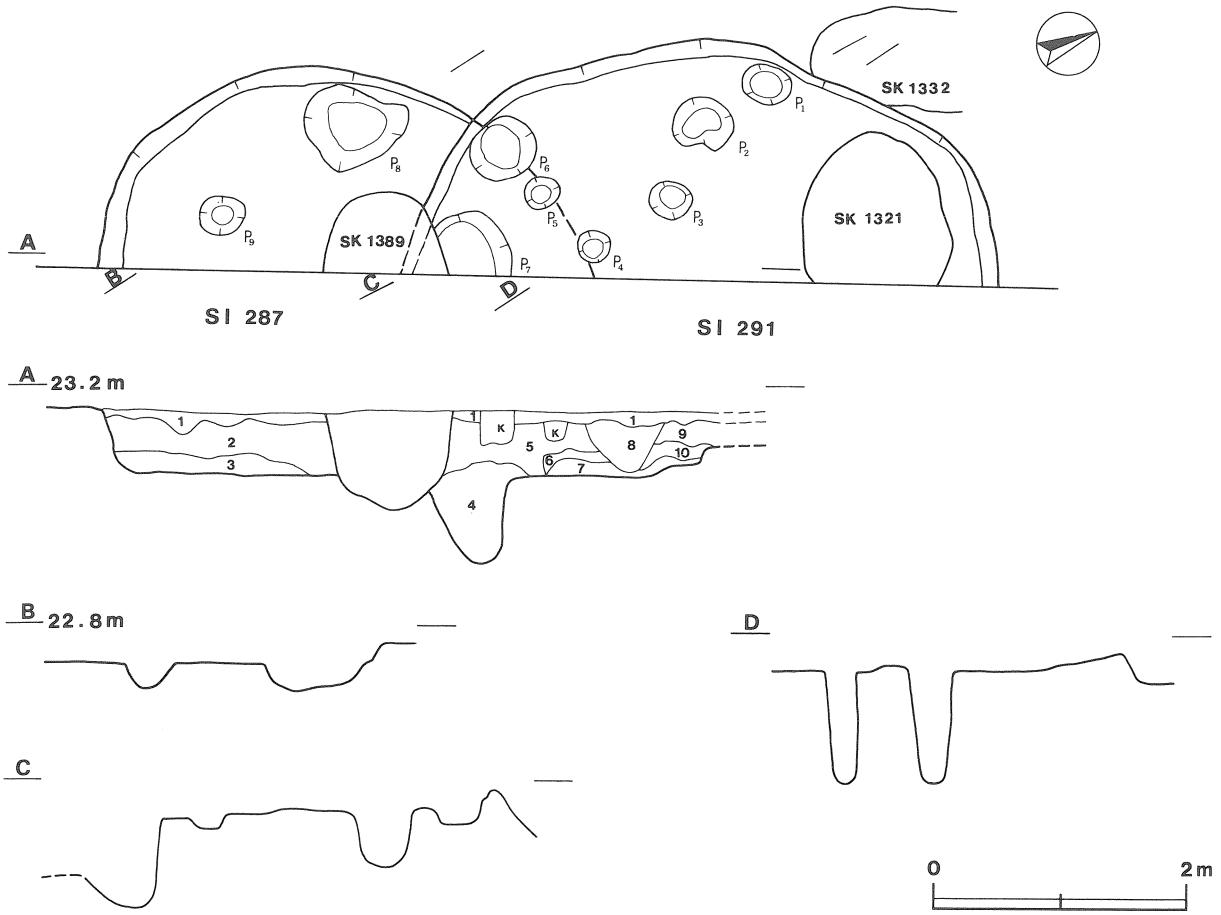
ピット　4か所。ピット番号は，第291号住居跡と通し番号である。P_4，P_5，P_9は径20～30cmの円形で，深さ約20cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_8は，性格不明である。

覆土　3層からなる。土層番号は，第291号住居跡と通し番号である。1層は耕作土である。

土層解説

1　耕　作　土
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小・中ブロック中量

遺物　覆土中から縄文土器片数点が出土している。いずれも細片である。



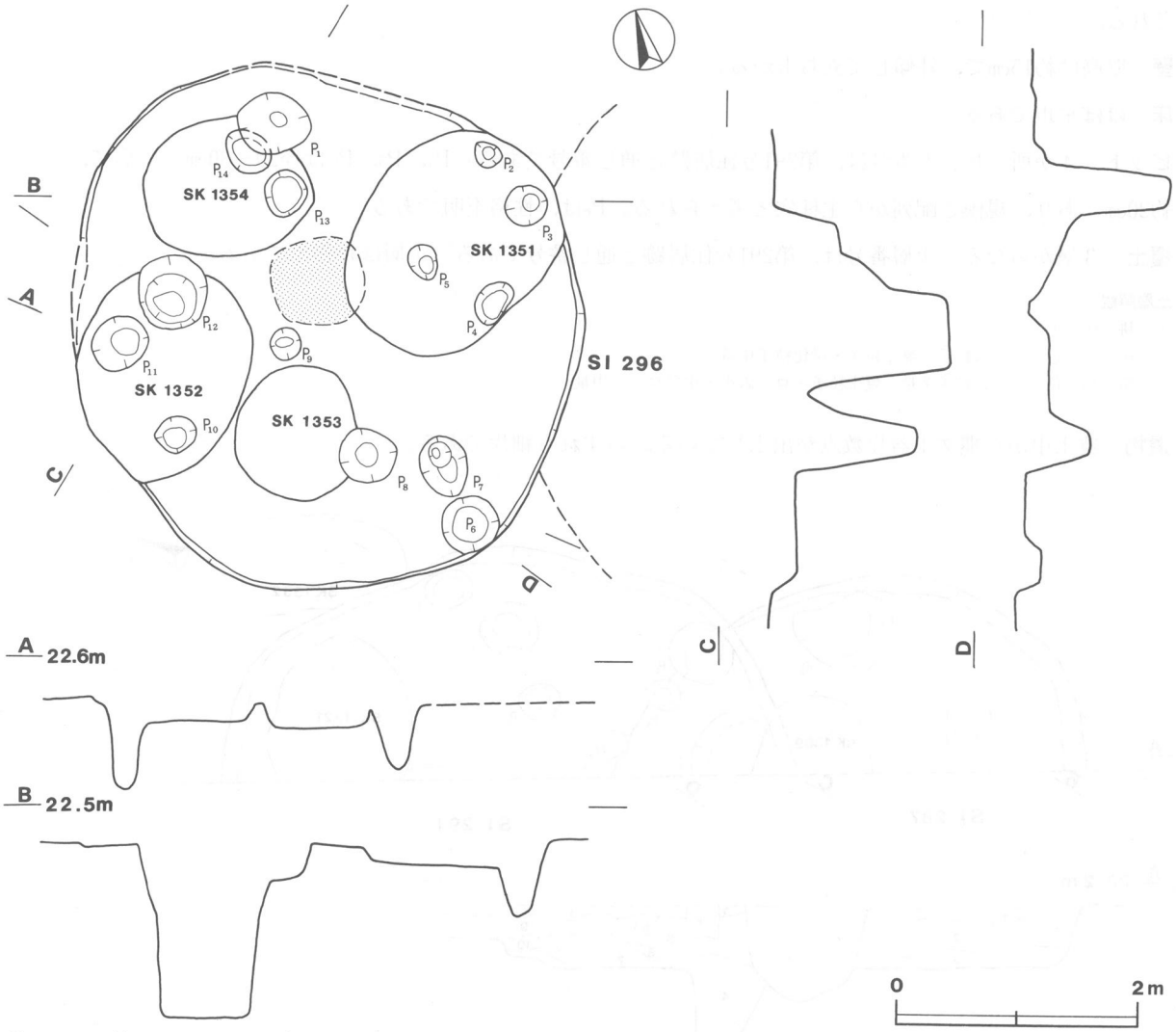
第81図　第287・291号住居跡実測図

所見　本跡は，東側半分が調査区域外のため，確認できなかった。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。重複している第291号住居跡との新旧関係は，不明である。

第288号住居跡（第82図）

位置　調査区の北部，D17d1区。

重複関係　本跡は，東側部分が第296号住居跡と重複している。中央から北側部分の第1354号土坑，西側部分の第1352号土坑，南側部分の第1353号土坑，東側部分の第1351号土坑を掘り込んでいる。



第82図　第288号住居跡実測図

第83図　第288号住居跡出土遺物実測・拓影図

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［4.40］m，短径［4.20］mの円形と推定される。

床　土坑の上面を踏み固めて床面にしている。特に，炉周辺が踏み固められている。

ピット　14か所。P_1，P_3，P_8，P_{10}，P_{11}は径30～60cmの円形で，深さ50～100cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_7は径40cmの円形で，深さ48cmであり，南側から掘り込まれている。P_4，P_5，P_{12}～P_{14}は，径30～60cmの円形で，深さ60～80cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_{12}は第1352号土坑を掘り込んでいる。その他は性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。径約80cmの円形の地床炉である。炉床は，赤変硬化し露出している。

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部３点，胴部４点）が出土している。

第83図１～４は縄文土器片の拓影図である。１～３は口縁部片である。１と２は加曽利ＥⅠ式で，１は隆帯による渦巻文を描き，２は口縁直下に隆帯が巡る。３は阿玉台Ⅳ式で無節縄文を地文に押引き刺突文を施している。４は加曽利ＥⅠ式の胴部片で，単節縄文を充塡している。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期を判断する出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第296号住居跡との新旧関係は，不明である。

第289号住居跡（第84図）

位置　調査区の中央部，D17f_4区。

重複関係　本跡は，南側部分が第297号住居跡と重複している。北西壁際を第1363号土坑，西側部分を第1440号土坑，南側部分を第1374号土坑，炉の東側部分を第1439号土坑，東側部分を第1372号土坑，南東壁際を第1373号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径［5.90］m，短径［5.00］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－75°－W］

壁　北壁と東壁が残存しており，壁高は６～７cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉の北側部分が踏み固められている。土坑による撹乱が甚だしい。

ピット　13か所。P_1～P_3，P_5，P_7，P_{10}，P_{12}は径30～40cmの円形で，深さ40～70cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_4，P_6，P_8は径20～30cmの円形で，深さ40～80cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　２か所。炉１は，ほぼ中央に付設されている。長径120cm，短径80cmの楕円形で，床面を13cmほど掘りくぼめた地床炉である。東側部分を第1439号土坑に掘り込まれている。炉床は赤変硬化している。炉２は，北西コーナーに付設されている。径約90cmの円形の地床炉である。炉床は，赤変硬化し露出している。

炉１土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
2　橙　　色　焼土ブロック多量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子中量
6　褐　　色　焼土粒子中量
7　赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
8　にぶい褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
9　にぶい褐色　焼土粒子中量

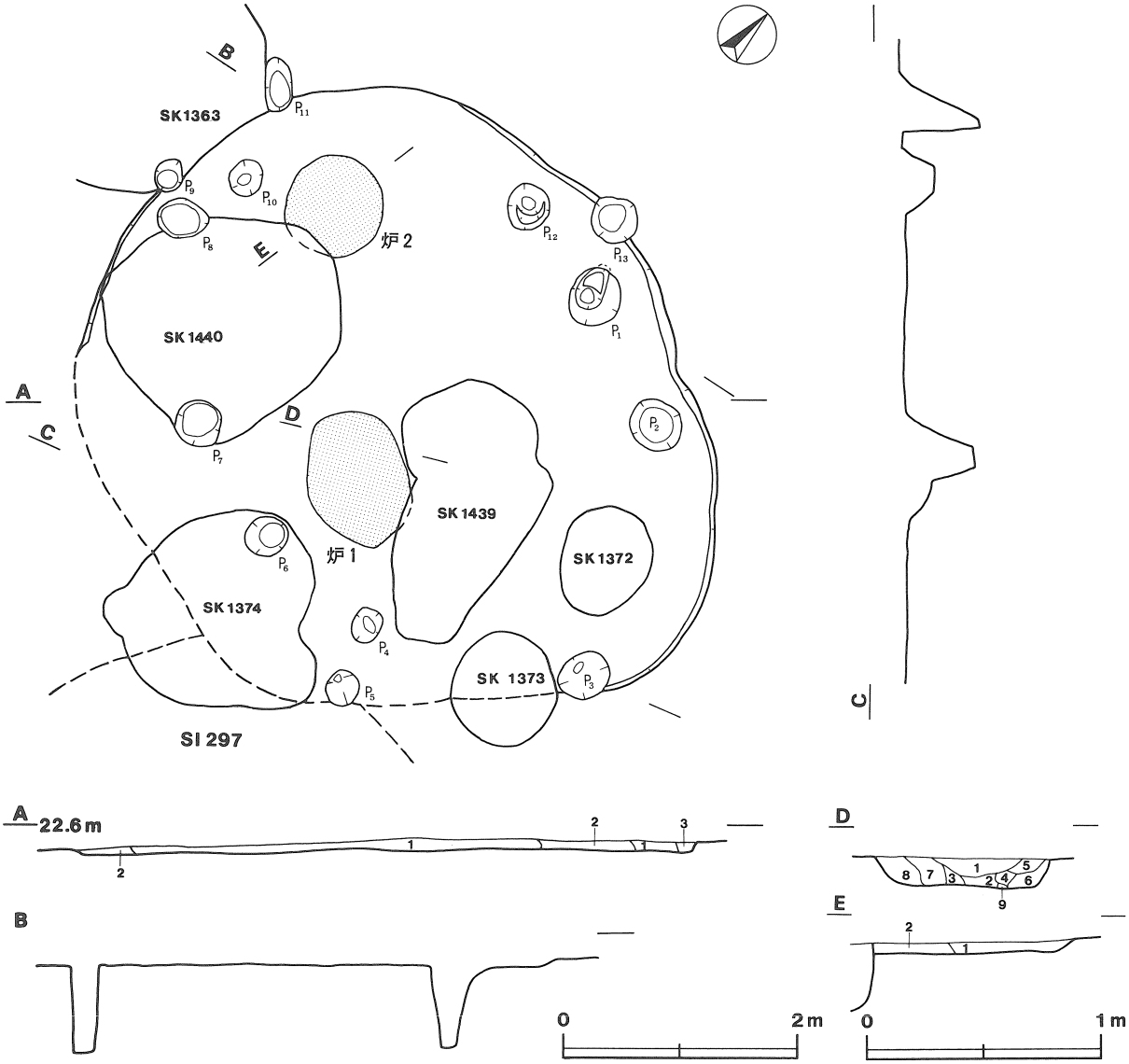
炉２土層解説

1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量

覆土　３層からなり，人為堆積と考えられる。１層が大半を占め，土器片が出土している。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
3　褐　　色　ローム小・中ブロック中量

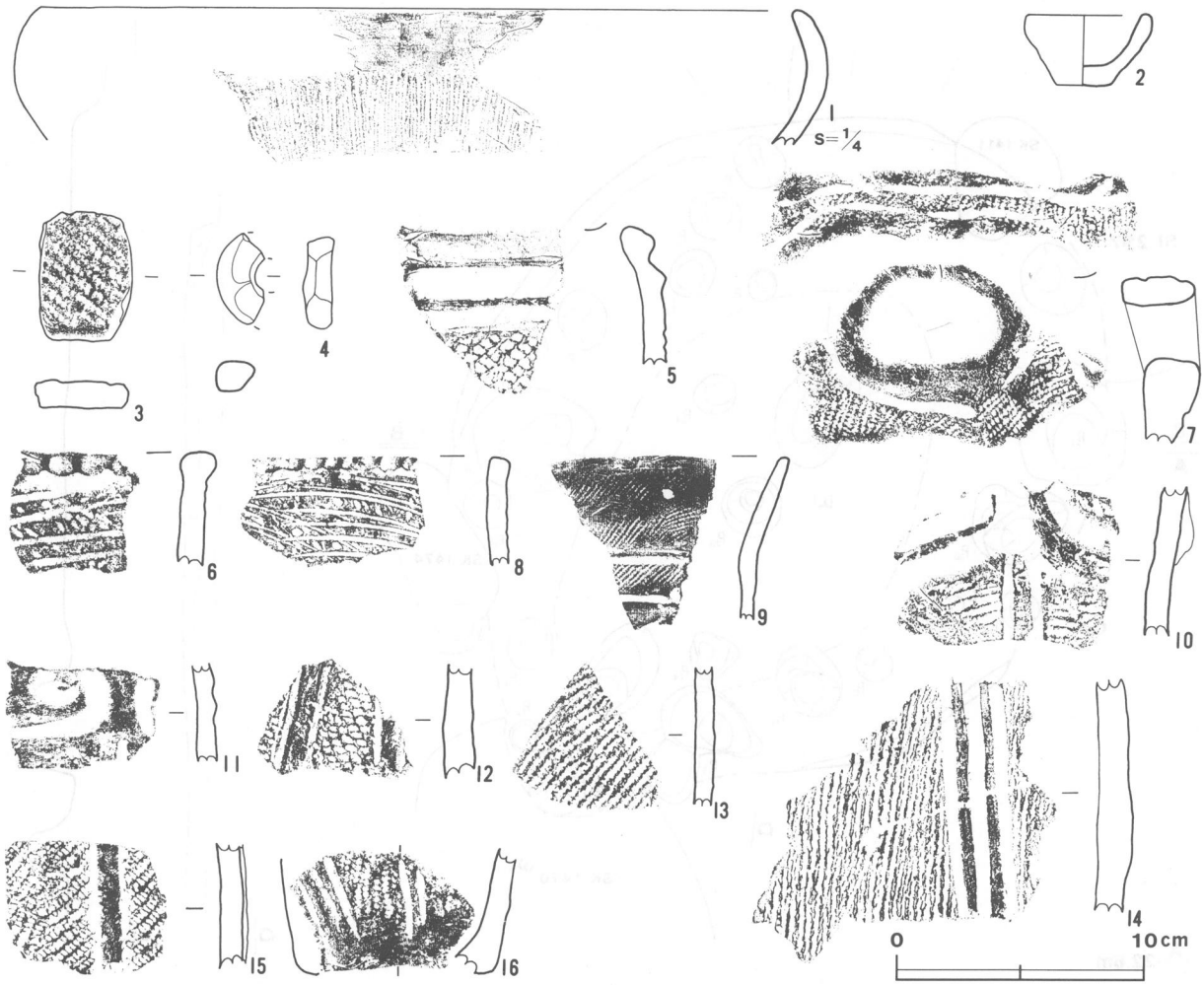


第84図　第289号住居跡実測図

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部22点，胴部80点，底部４点）が出土している。

覆土中層から第85図１の深鉢形土器の口縁部，２のミニチュア土器，３の土錘，４の土製円板が出土している。５～16は縄文土器片の拓影図である。５～９は口縁部片である。５は加曽利ＥⅢ式で口縁直下に幅の広い沈線が巡る。以下は複節縄文を施文している。７は称名寺式で有孔把手を有する。６と８は加曽利Ｂ式の粗製土器である。９は加曽利ＢⅢ式で縄文に沈線を施している。内面は丁寧に磨いている。10～15は胴部片である。10～13は加曽利ＥⅡ～Ⅲ式である。10と11は胴部上位で隆帯を貼り付けている。12は磨消帯が垂下する。13は無節縄文を施文している。14と15は加曽利ＥⅠ式で，14は撚糸文を地文に隆帯を縦位に貼り付け，15は単節縄文を地文に隆帯を縦位に貼り付けている。16は加曽利ＥⅡ式の底部片で，磨消帯が垂下し，底面から１cmほどまではナデを施している。

所見　本跡は，北壁と東壁しか確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅢ式期）と考えられる。重複している第297号住居跡より新しい。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。



第85図　第289号住居跡出土遺物実測・拓影図

第289号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第85図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[40.6] B(7.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。内面横位ナデを施している。外面は櫛歯状工具による縦位の条線文を施している。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P31　5%　PL31 覆土中層 (加曽利EⅢ式)
2	ミニチュア 縄文土器	A　5.1 B　2.8 C　2.2	平底。底部から口縁部にかけて，外傾して立ち上がる。内・外面に縦位ナデを施している。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P32　100%　PL32 覆土中層 (加曽利EⅢ式)

図版番号	種　別	計測値(cm)			重　量	現存率	備　考
		最大長	最大幅	最大厚	(g)	(%)	
第85図3	土器片錘	5.2	3.8	1.1	30.0	100	DP9　覆土中層　PL56
4	土製円板	(3.6)	(1.9)	1.2	(10.0)	30	DP10　覆土中層　貫通孔　一部欠損　PL56

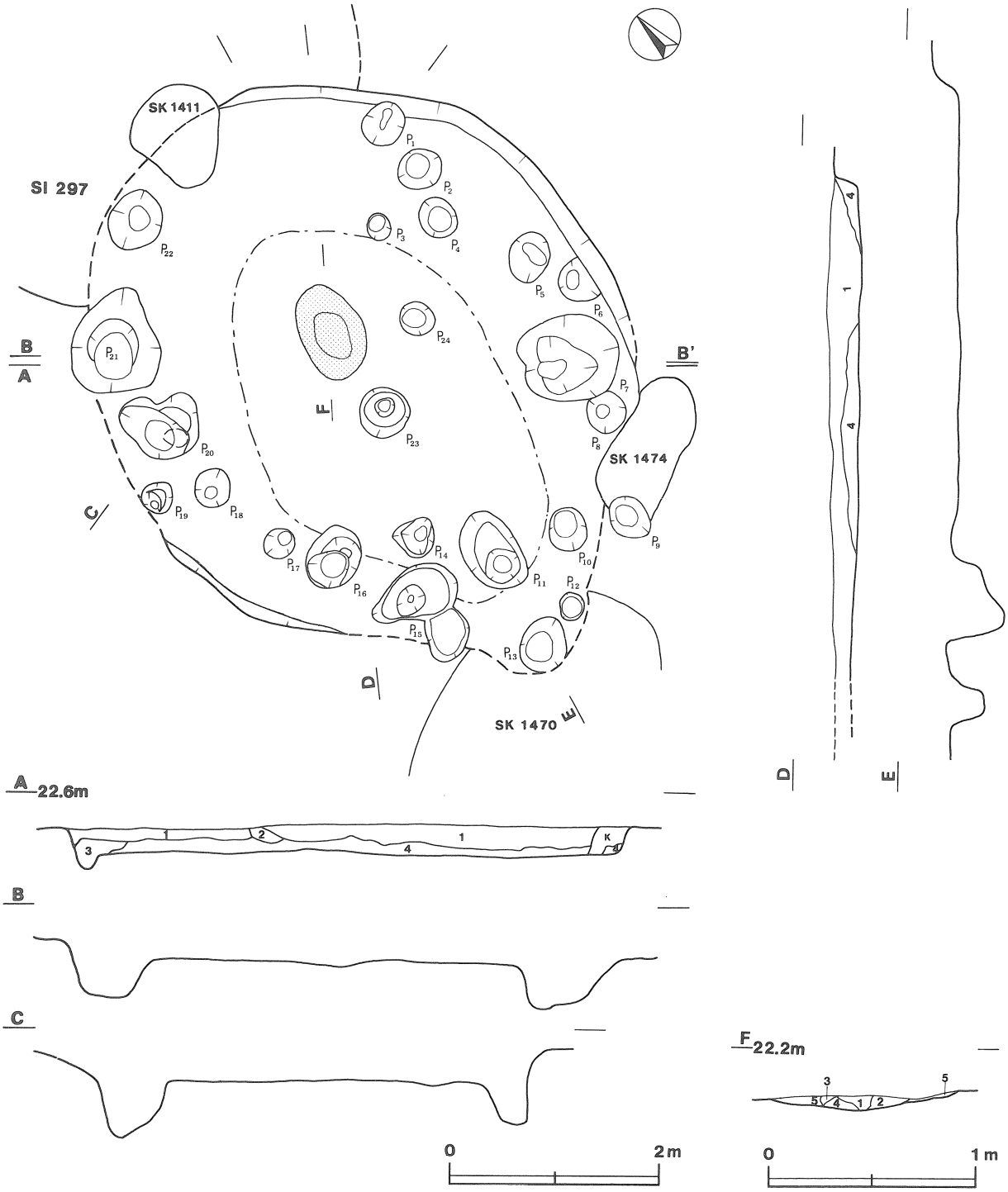
第290号住居跡（第86図）

位置　調査区の中央部，D17h4区。

重複関係　本跡は，北側部分が第297号住居跡と重複している。北壁際を第1411号土坑，南東壁際を第1474号土坑，南側部分を第1470号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径［6.60］m，短径5.10mの楕円形。

長軸方向　N－10°－E



第86図　第290号住居跡実測図

壁　壁高は20～26cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　24か所。P_1，P_5，P_8，P_{16}，P_{18}，P_{21}，P_{22}は径40～60cmの円形で，深さ40～50cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_4，P_6，P_{17}は径20～30cmの円形で，深さ40～80cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_9～P_{15}は，ピット間が踏み固められているため，入口に伴うものと考えられる。P_{20}の覆土中から焼土ブロックが出土している。その他は性格不明である。

炉　ほぼ中央に付設されている。長径90cm，短径60cmの楕円形で，床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。

第87図　第290号住居跡出土遺物位置図

炉床は，赤変硬化している。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量
2　橙　　色　焼土ブロック多量
3　赤　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子小・中ブロック中量
4　赤　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子小・中ブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子中量

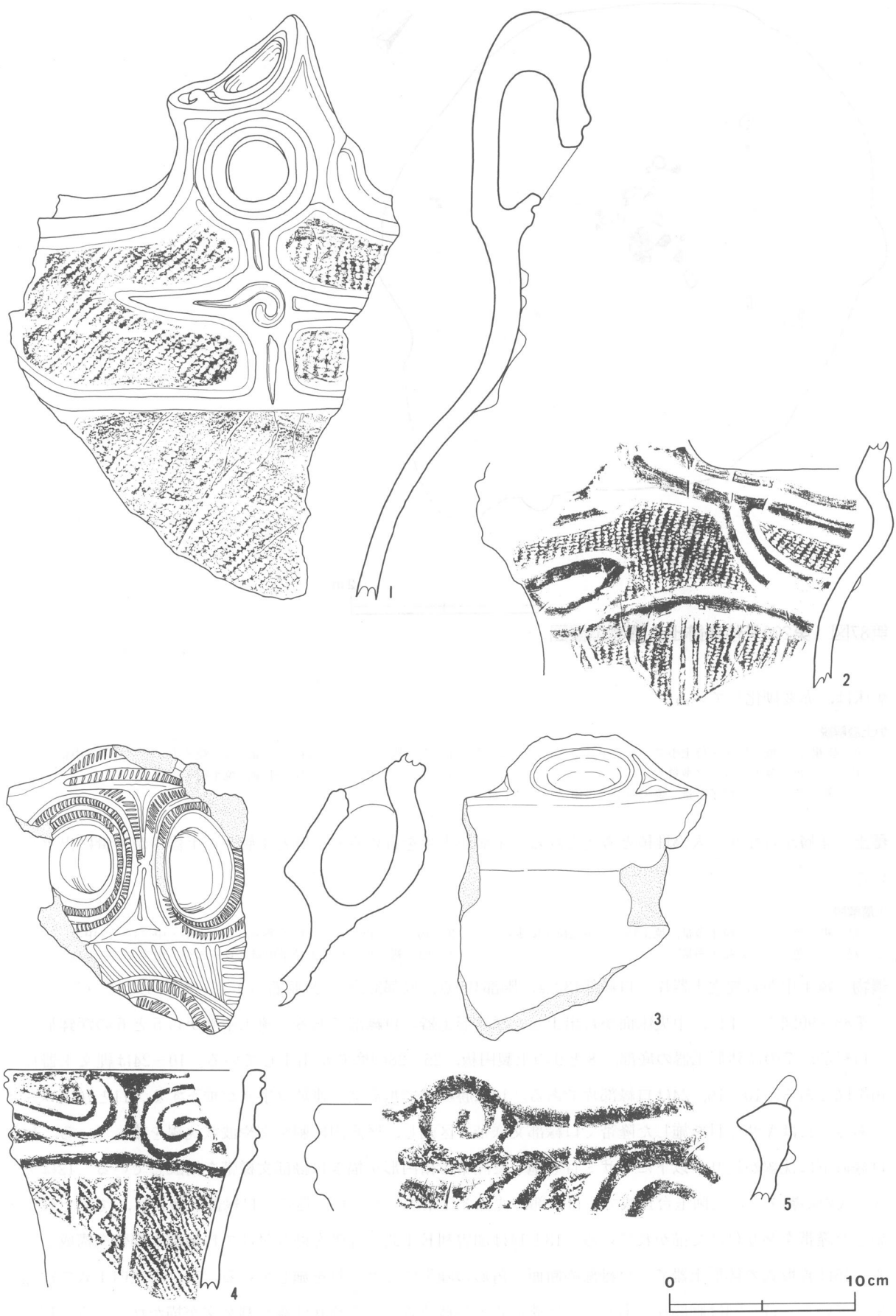
覆土　4層からなり，人為堆積と考えられる。1層が大半を占める。1層と4層から土器片が多量に出土している。

土層解説

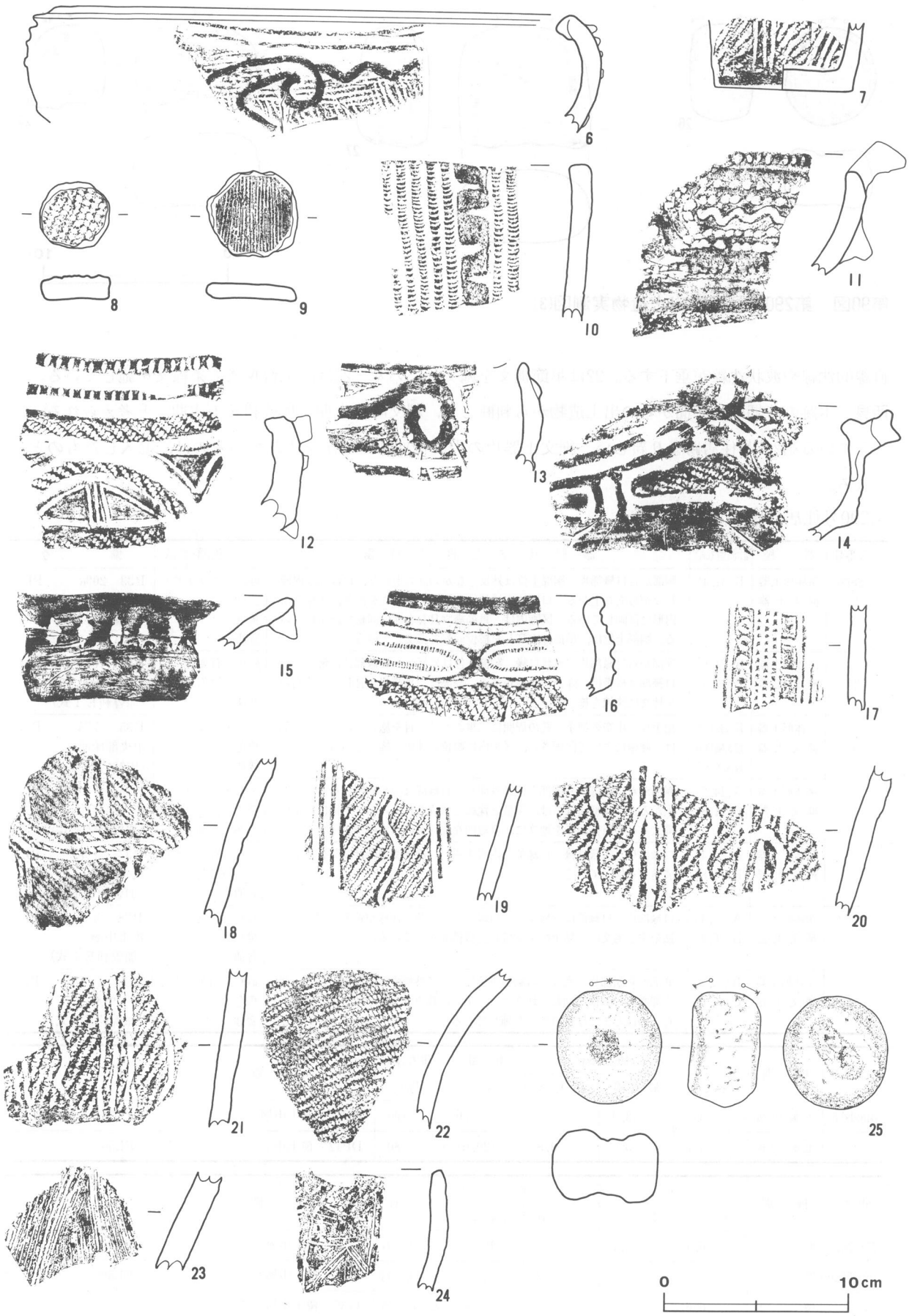
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部132点，胴部499点，底部32点），黒曜石（1点）が出土している。

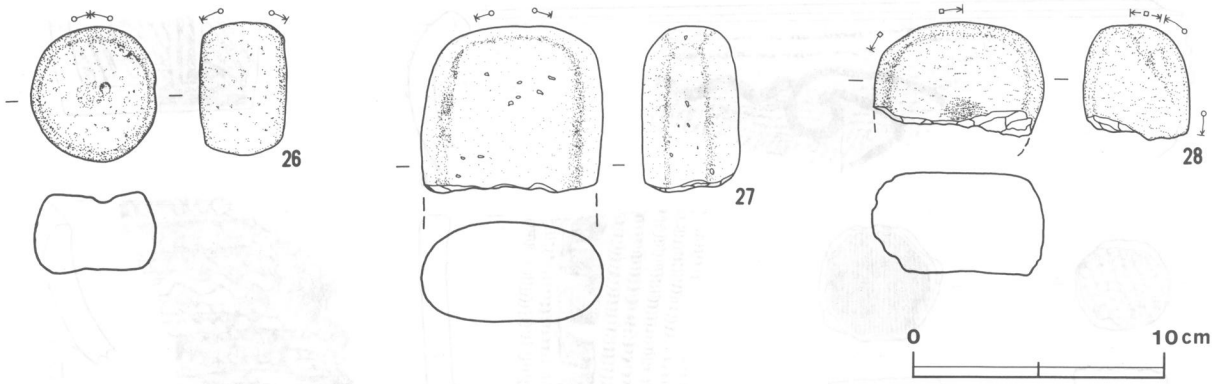
第88～90図1～4は，中央床面から出土した深鉢形土器の口縁部である。覆土中層から5と6の深鉢形土器の口縁部，7の深鉢形土器の底部，8と9の土製円板，25～28の磨石が出土している。10～24は縄文土器片の拓影図である。10～16，24は口縁部片である。10は勝坂式で爪形文，連続コ字文が垂下する。11と16は中峠式である。11はキザミ目を施した隆帯で口縁部文様帯を区画し，区画内に刺突文や波状沈線を施している。16は口縁直下に沈線が巡り，以下にキザミ目を施した隆帯で楕円形を描き口縁部文様帯を構成している。12は大木8a式の影響をうけた阿玉台Ⅳ式で，口唇部に沈線と2条のキザミ目が巡る。口縁部文様帯は，沈線と縄文を施した隆帯を貼り付けて描かれている。13と14は加曽利EⅠ式で隆帯を貼り付けて口縁部文様帯を構成している。15は勝坂式の鉢形土器で，口縁部の断面三角形の隆帯にキザミ目を施している。24は堀之内Ⅰ式で沈線を施している。17～23は胴部片である。17は勝坂式で半截竹管による棒状沈線や刺突文が描かれている。18は大木8a式で無節縄文を地文に沈線が描かれている。19～22は加曽利EⅠ式である。19～21は単節縄文を地文に



第88図　第290号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第89図　第290号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)



第90図　第290号住居跡出土遺物実測図(3)

直線的沈線や波状沈線が垂下する。22は単節縄文を施文している。23は阿玉台Ⅳ式で条線文を施している。

所見　本跡の時期は，床面からの出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ式期）と考えられる。重複している第297号住居跡より新しい。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第290号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第88図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(31.4)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部文様帯は，隆帯で渦巻文を描き，沈線で楕円形に区画している。区画内は，単節縄文ＲＬを横位回転で施文している。胴部上位は，単節縄文ＲＬを横位回転で施文している。	砂粒・スコリア・雲母 褐色 普通	P33　20%　PL32 中央部床面 (加曽利ＥⅠ式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[21.6] B(12.8)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は外反し，口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，隆帯と沈線が巡る。胴部は，単節縄文ＲＬの縦位回転を地文に沈線を施している。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P34　10%　PL32 中央部床面 (加曽利ＥⅠ式)
3	深鉢形土器 縄文土器	最大長15.8 最大幅13.0 最大厚 8.1	把手片。中空の把手。孔の周囲に二重のキザミ目を施している。口縁部は，隆帯によって区画され，区画内に縦位の沈線を施している。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P35　5%　PL32 中央部床面 (中峠式)
4	深鉢形土器 縄文土器	A[14.2] B(11.8)	胴部から口縁部片。胴部上位は外傾し，口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。口縁部文様帯は，隆帯と沈線で構成されている。胴部は，単節縄文ＬＲの横位回転を地文に，直線的な沈線と波状沈線が垂下する。	砂粒・スコリア・雲母・長石 橙色　普通	P36　5%　PL32 中央部床面 (加曽利ＥⅠ式)
5	深鉢形土器 縄文土器	A[24.4] B(6.8)	口縁部片。波状口縁。口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，隆帯による渦巻文を描いている。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P37　5%　PL32 覆土中層 (加曽利ＥⅠ式)
第89図 6	深鉢形土器 縄文土器	A[27.4] B(6.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁直下に一条の沈線が巡る。以下に，撚糸文を地文に，粘土紐を貼付し文様構成をしている。	砂粒・石英 橙色 普通	P38　5%　PL32 覆土中層 (加曽利ＥⅠ式)
7	深鉢形土器 縄文土器	B(3.7) C[7.6]	底部から胴部片。底部から胴部下位にかけて外傾する。胴部下位は，単節縄文ＲＬの横位回転を地文に，三条の沈線を垂下させている。底面から５㎜ほどまでは横位ナデを施している。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P39　5%　PL32 覆土中層 (加曽利ＥⅠ式)

図版番号	種　別	計測値(cm)			重　量	現存率	備　考
		最大長	最大幅	最大厚	(g)	(%)	
第89図８	土製円板	3.6	3.9	1.3	20.0	100	DP11　覆土中層　PL56
9	土製円板	4.7	5.0	0.8	(20.0)	80	DP12　覆土中層　PL56

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第89図25	磨　石	6.1	5.7	3.8	190.0	安山岩	Q30　覆土中層　PL59
第90図26	磨　石	5.2	4.9	3.3	110.0	安山岩	Q31　覆土中層　PL59
27	磨　石	(6.6)	7.2	3.9	(350.0)	安山岩	Q32　覆土中層　半欠
28	磨　石	(4.5)	6.8	4.1	(170.0)	安山岩	Q33　覆土中層　敲石転用　半欠

第291号住居跡（第81図）

位置　調査区の北東部，D18e8区。

重複関係　本跡は，南側部分が第287号住居跡と重複している。北側部分を第1321号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　東側半分が調査区域外のため確認できないが，長径［4.80］m，短径（1.90）mの楕円形と推定される。

壁　壁高は12～14cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦である。

ピット　5か所。ピット番号は，第287号住居跡と通し番号である。P_1，P_6は径約35cmの円形で，深さ約20cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2は径40cmの円形で，深さ48cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_7は東側が調査区域外のため，規模は確認できなかった。P_3は，性格不明である。

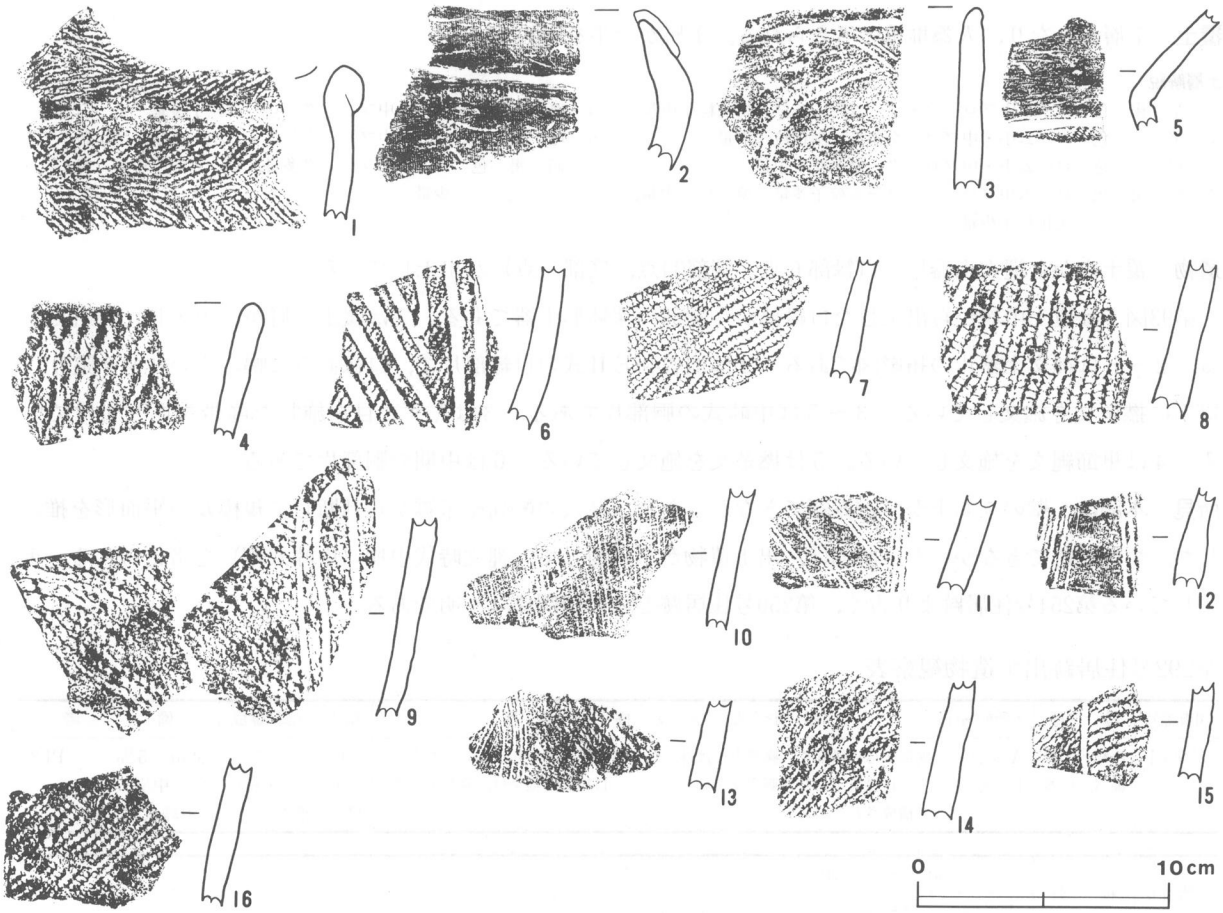
覆土　8層からなる人為堆積である。土層番号は，第287号住居跡と通し番号である。1層は，耕作土である。8層は，一括して埋め戻されたものと考えられ，覆土中から土器片が出土している。4層は，P_7の土層である。

土層解説

1　耕　作　土
4　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，暗褐色土中量
9　にぶい褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部7点，胴部29点，底部3点）が出土している。

第91図1～16は縄文土器片の拓影図である。1～4は口縁部片である。1は阿玉台Ⅳ式の波状口縁で，無節



第91図　第291号住居跡出土遺物実測・拓影図

縄文を充塡している。2は加曽利ＥＩ式の浅鉢形土器である。3と4は堀之内Ｉ式である。3は沈線を施し，4は無節縄文を施文している。5～16は堀之内Ｉ式の胴部片である。5は胴部上位で無文である。6は単節縄文を地文に幅の広い沈線を描いている。7，8，16は単節縄文を施文している。9は縄文を地文に沈線を描いている。10～13は沈線を施している。15は単節縄文を地文に縦位の沈線を施している。

所見　本跡の東側半分が調査区域外のため，確認できなかった。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第287号住居跡との新旧関係は，不明である。

第292号住居跡（第92図）

位置　調査区の中央部，D17b$_4$区。

重複関係　本跡は，南西側部分が第254号住居跡と北側部分が第250号住居跡と重複している。東側部分を第1206号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　壁の立ち上がりが確認できなかったが，長径［4.60］m，短径［4.00］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－8°－E］

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット　10か所。P$_2$, P$_4$, P$_6$, P$_8$, P$_9$は径30～40cmの円形で，深さ30～50cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P$_1$, P$_3$, P$_7$, P$_{10}$は径20～30cmの円形で，深さ20～40cmであり，配列から補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

覆土　7層からなり，人為堆積と考えられる。1層が大半を占める。

土層解説

1　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子中量
2　褐色　ローム小・中ブロック多量，炭化粒子中量
3　褐色　ローム小・中ブロック・焼土粒子中量
4　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量
6　暗褐色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量
7　暗褐色　ローム中ブロック多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部6点，胴部34点，底部4点）が出土している。

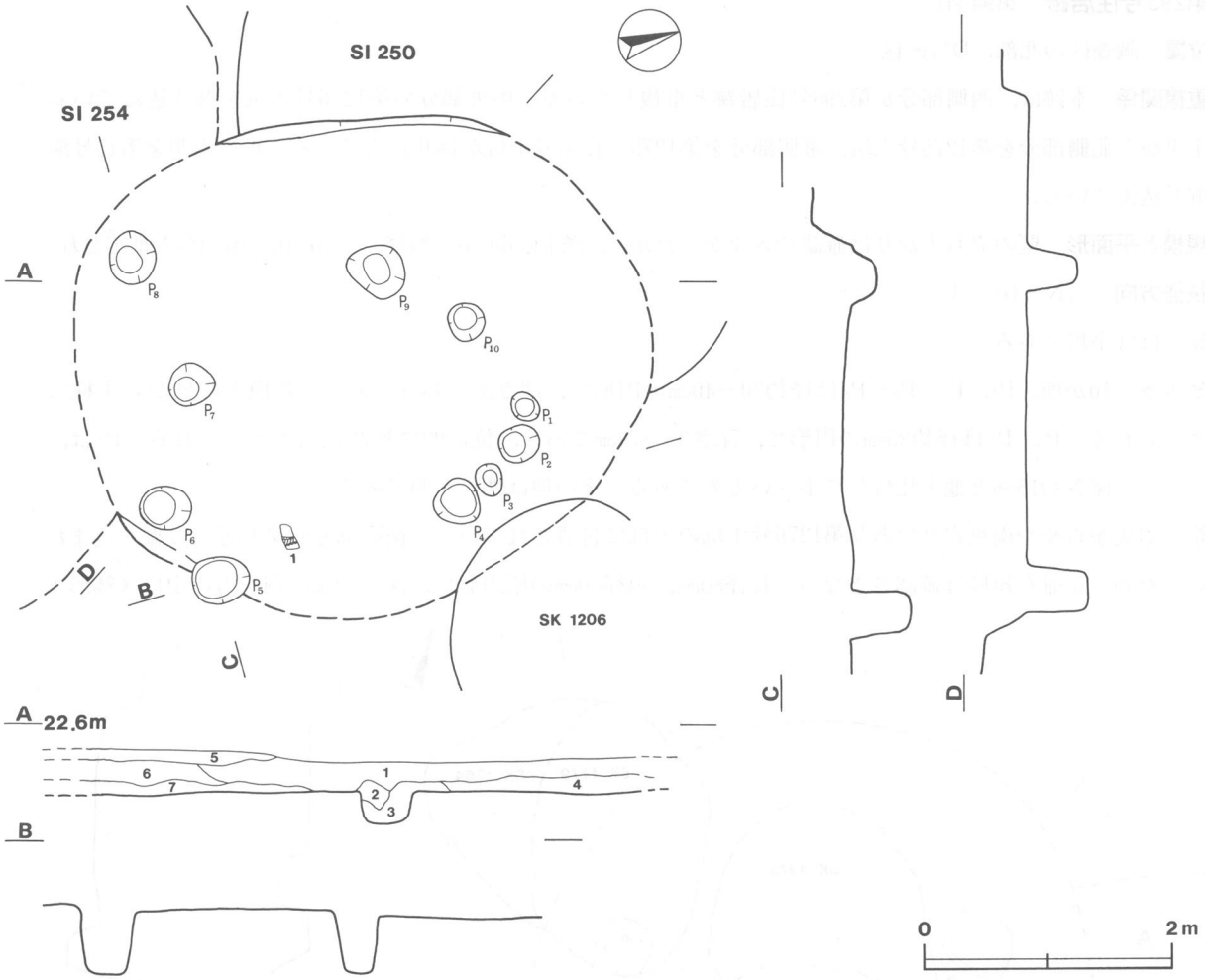
第93図1は覆土中層から出土した口縁部から胴部の深鉢形土器である。7は覆土下層から出土した磨石である。2～6は縄文土器片の拓影図である。2は加曽利ＥII式の口縁部片で，口縁直下に幅の広い沈線が巡り，以下に撚糸文を施文している。3～5は中峠式の胴部片である。3はキザミ目を施した隆帯を貼り付けている。4は単節縄文を施文している。5は撚糸文を施文している。6は中期の胴部片である。

所見　本跡は，壁の立ち上がりが確認できなかったが，柱穴の配列や床質から判断して規模及び平面形を推定した。炉は確認できなかった。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（中峠式期）と考えられる。重複している第254号住居跡より古く，第250号住居跡との新旧関係は不明である。

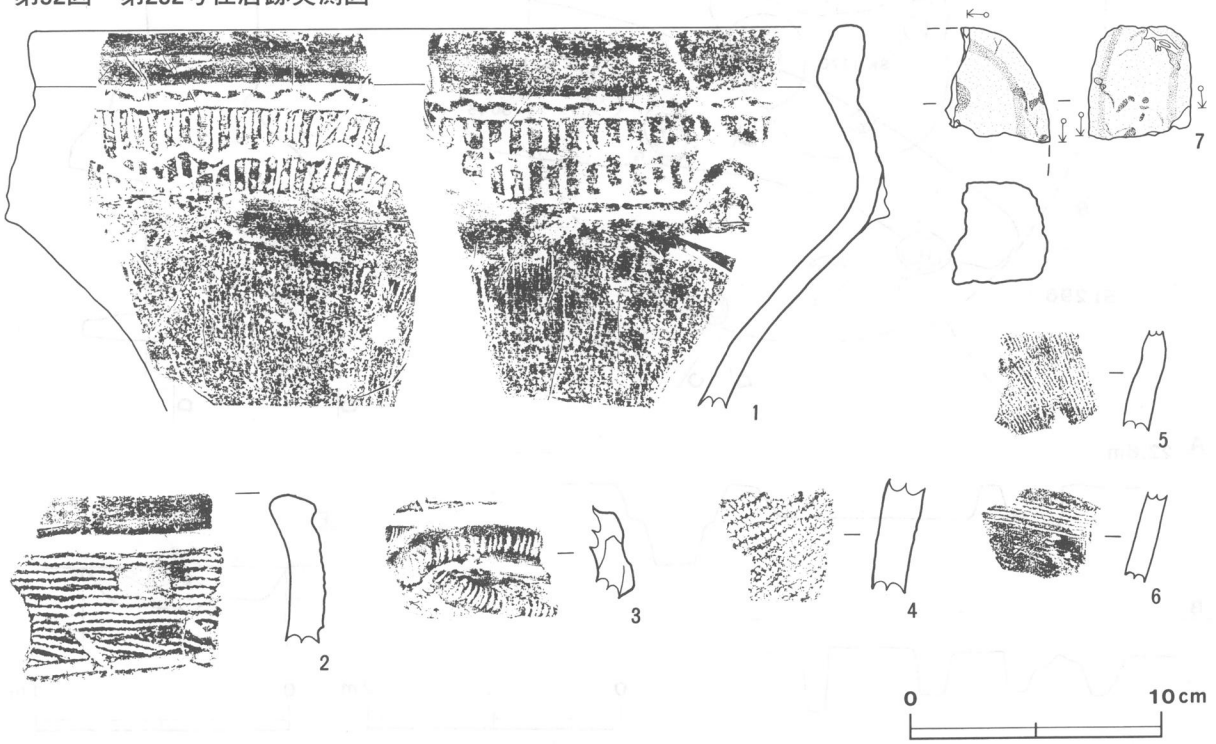
第292号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図1	深鉢形土器 縄文土器	A[33.2] B(15.2)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し，口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁直下に交互刺突文を施している。口縁部文様帯は，隆帯と沈線で構成されている。	砂粒・スコリア・石英・雲母・長石 橙色　普通	P40　5％　PL33 覆土中層 (中峠式)

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第93図7	磨石	(4.7)	(4.1)	4.2	(100.0)	安山岩	Q34　覆土下層　一部欠損



第92図　第292号住居跡実測図



第93図　第292号住居跡出土遺物実測・拓影図

第293号住居跡（第94図）

位置　調査区の北部，D17e3区。

重複関係　本跡は，西側部分が第296号住居跡と重複している。中央部分の第1276号土坑を掘り込んでいる。中央から北側部分を第1275号土坑，東側部分を第1279，1254号土坑が掘り込んでいる。炉の南側を第45号溝が掘り込んでいる。

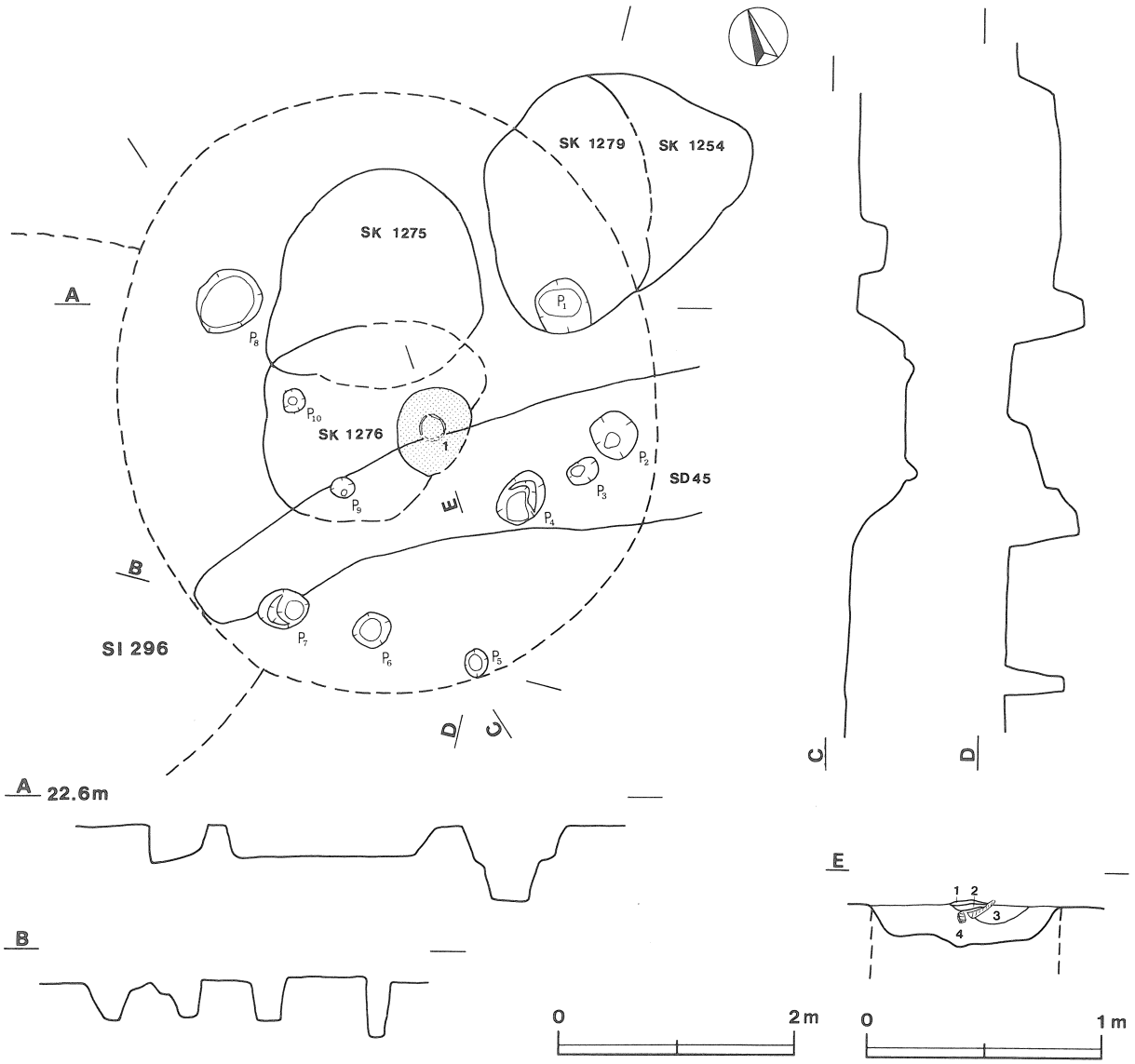
規模と平面形　壁の立ち上がりは確認できなかったが，長径［4．60］m，短径［5．20］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－10°－E］

床　ほぼ平坦である。

ピット　10か所。P_1，P_2，P_6～P_8は径約30～40cmの円形で，深さ30～40cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_5は径約25cmの円形で，深さ35～70cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_9は，径20cmで，深さ約15cmと他と比較して小さいものである。その他は性格不明である。

炉　中央からやや南東寄りにあり第1276号土坑の上部に付設されている。南側部分が第45号溝に掘り込まれているため，正確な規模は確認できない。長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さ20cmの掘り方の中に深鉢形土器



第94図　第293号住居跡実測図

を埋設した土器埋設炉である。口縁部と胴部下半部を欠失する深鉢形土器を掘り方内のほぼ中央に据えて，炉体土器としている。第1276号土坑に4層の土を埋めた後，炉体土器を据えたものと考えられる。炉体土器に接する3層は，火熱を受けて赤変硬化し，焼土ブロックがゴツゴツしている。長期間使用したものと考えられる。

炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，炭化物少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量
3　赤　褐　色　焼土ブロック
4　赤　褐　色　熱を受けたロームブロック

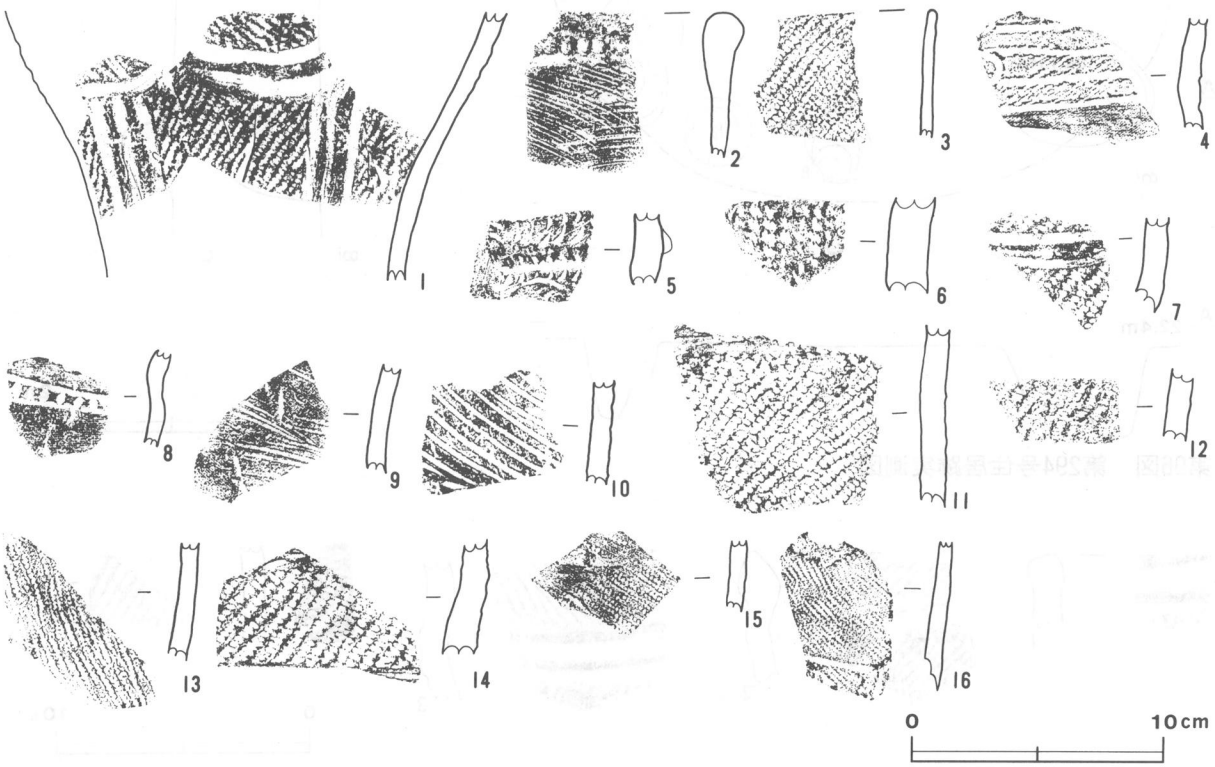
遺物　確認面から縄文土器片（口縁部4点，胴部20点，底部2点）が出土している。

第95図1は炉体土器に転用された深鉢形土器である。2～16は縄文土器片の拓影図である。2と3は口縁部片である。2は安行式で粗製土器である。3は堀之内II式で複節縄文を施文している。4～16は胴部片である。5は阿玉台式で隆帯に沿って，爪形文を施している。6，7，11，12，14は加曽利EIII式である。6は複節縄文を施文している。7は単節縄文を地文に沈線を施している。11,12,14は単節縄文を施文している。4，9，10は加曽利B式である。4は縄文帯を沈線により横位に区切っている。9と10は沈線を施している。8，13，15，16は安行式である。8は刺突文を施している。13，15，16は単節縄文を施文している。

所見　第1276号土坑の上部に炉を付設しているため，本跡の方が新しい。土坑や溝による撹乱が甚だしいため，床質の確認は困難であった。そのため，柱穴の配列から規模や平面形を判断した。時期は，炉体土器から判断して，縄文時代中期（加曽利EIII式期）と考えられる。重複している第296号住居跡との新旧関係は，不明である。縄文土器片の中に後期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第293号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第95図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(10.7)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。外面は単節縄文RLの横位回転を地文に，三条の沈線が垂下する。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P41　20%　PL33 炉体土器転用 (加曽利EIII式)



第95図　第293号住居跡出土遺物実測・拓影図

第294号住居跡（第96図）

位置　調査区の北東部，D17h8区。

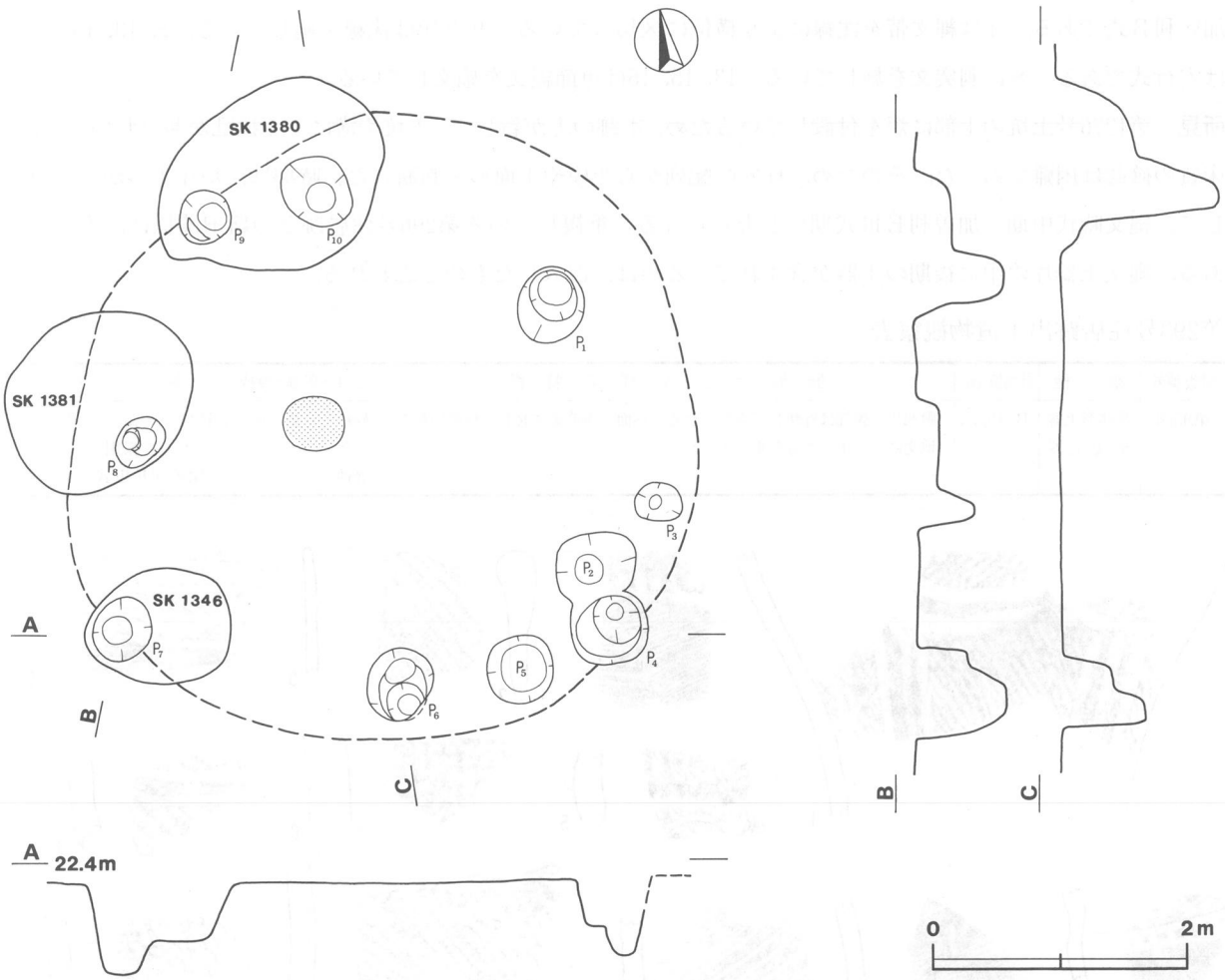
重複関係　北側部分を第1380号土坑，西側部分を第1381号土坑，南西側部分を第1346号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，径［5.00］mの円形と推定される。

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　10か所。P_1，P_2，P_7，P_9は径40～60cmの円形で，深さ70～90cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3，P_4，P_8，P_{10}は径約40cmの円形で，深さ60～70cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　中央からやや西寄りに付設されている。径約40cmの円形の地床炉である。炉床は，赤変硬化し露出している。



第96図　第294号住居跡実測図

第97図　第294号住居跡出土遺物実測・拓影図

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部５点，胴部25点）が出土している。

第97図１～５は縄文土器片の拓影図である。１と２は口縁部片である。１は阿玉台Ⅲ式で口縁直下に刺突文を施している。２は阿玉台Ⅳ式で単節縄文を施文し，隆帯を貼り付けている。３～５は胴部片である。３と５は加曽利ＥⅠ式で単節縄文を施文している。４は加曽利EⅢ式で沈線を施している。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。

第295号住居跡（第98図）

位置　調査区の中央部，D17f1区。

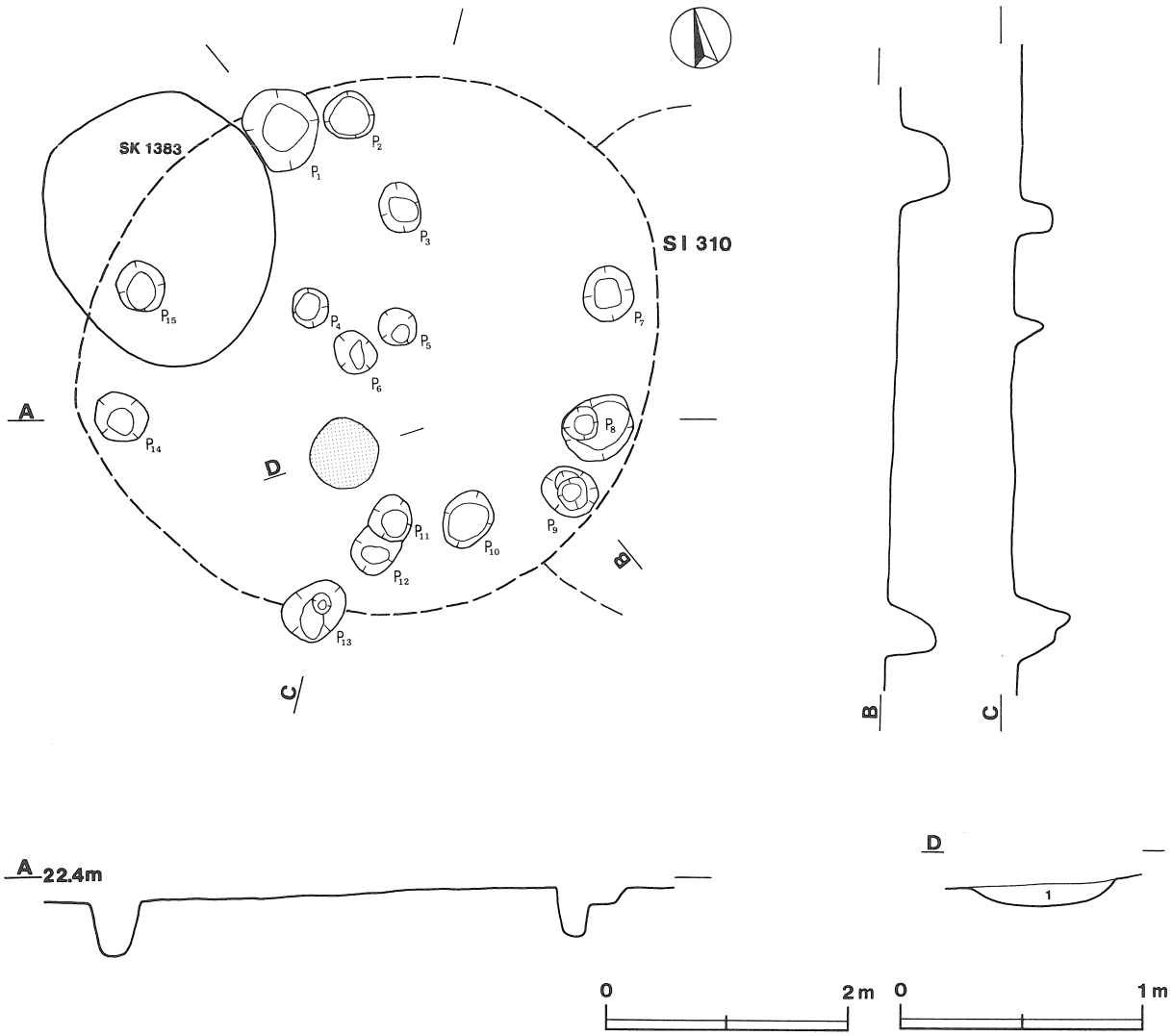
重複関係　本跡は，東側部分が第310号住居跡と重複している。北西側部分を第1383号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［4.80］m，短径［4.40］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－78°－W］

床　ほぼ平坦で，炉の東側が踏み固められている。

ピット　15か所。P_2，P_9，P_{11}，P_{15}は径約40cmの円形で，深さ40～50cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_8，P_{10}，P_{12}～P_{14}は径20～30cmの円形で，深さ20～40cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。そ



第98図　第295号住居跡実測図

の他は性格不明である。

炉　中央から南寄りに付設されている。径50cmの円形で，床面を５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　明赤褐色　焼土粒子・焼土小・中ブロック多量

遺物　炉の東側床面から緑泥片岩の破片（１点）が出土している。

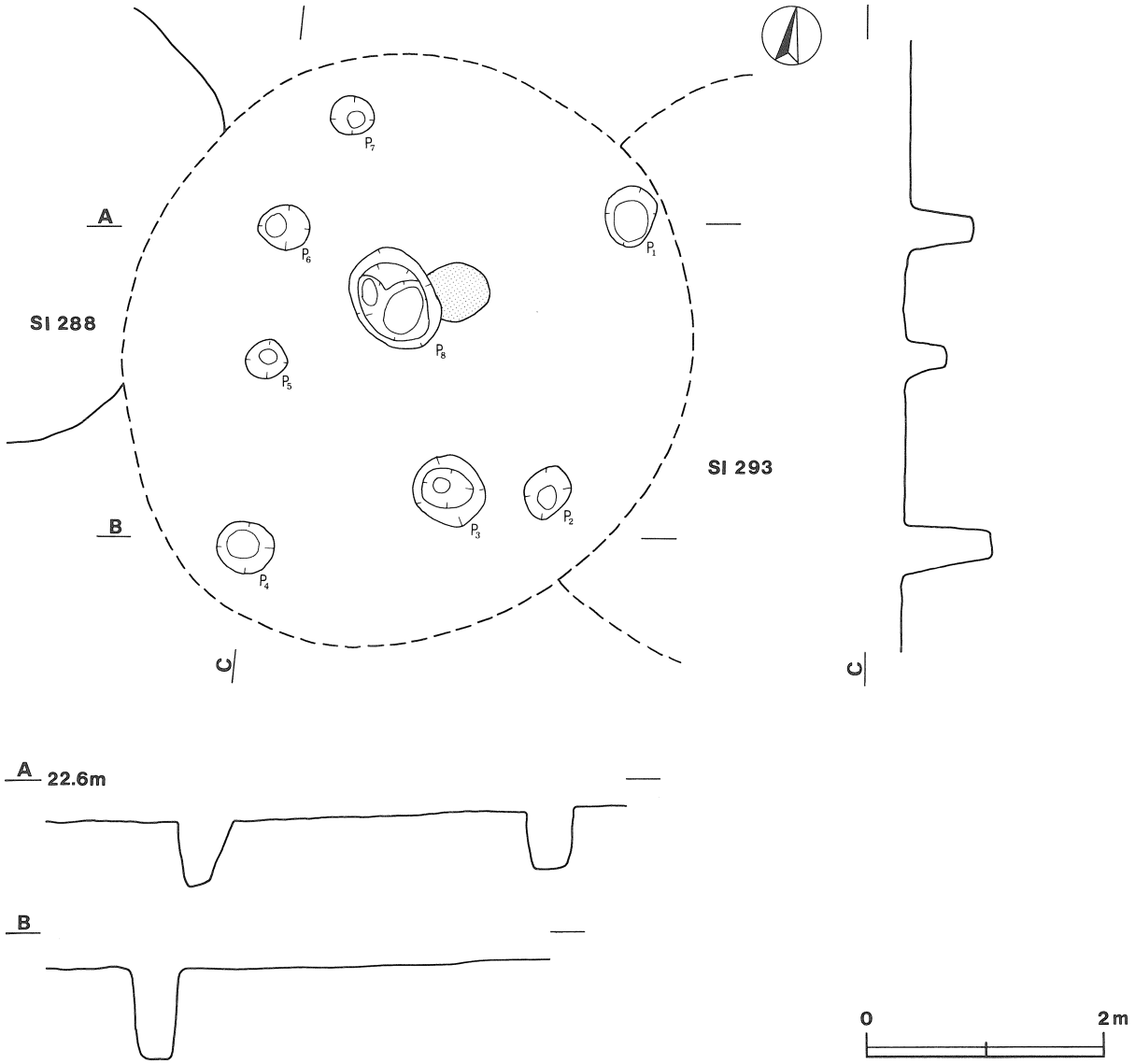
所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期を判断する出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第310号住居跡との新旧関係は，不明である。

第296号住居跡（第99図）

位置　調査区の北部，D17e2区。

重複関係　本跡は，西側部分が第288号住居跡と東側部分が第293号住居跡と重複している。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［5.00］m，短径［4.00］mの楕円形と推定される。



第99図　第296号住居跡実測図

長径方向　[N－8°－E]

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　8か所。P_1，P_2，P_4～P_7は径約40cmの円形で，深さ50～70cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_3は径60cmの円形で，深さ92cmと他と比べてやや大きいものである。性格は不明である。P_8は，長径80cm，短径60cmの楕円形で，炉を掘り込んでいるため，本跡より新しいものと考えられる。

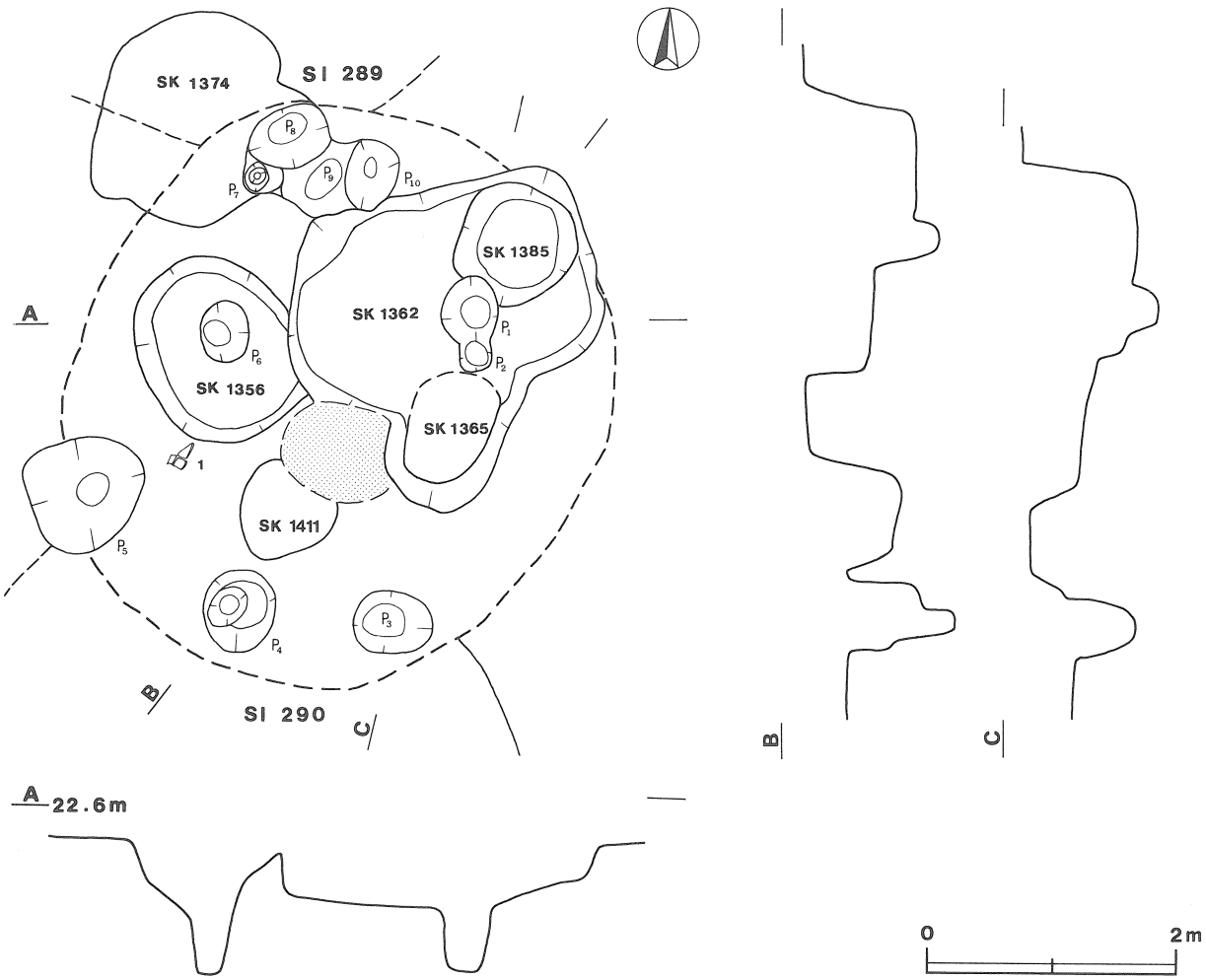
炉　中央からやや北寄りに付設されている。径約80cmの円形の地床炉である。炉床は，赤変硬化し露出している。西側部分がP_8に掘り込まれている。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期を判断する出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第288号住居跡と第293号住居跡との新旧関係は，不明である。

第297号住居跡（第100図）

位置　調査区の北部，D17g_4区。

重複関係　本跡は，北側部分が第289号住居跡，南側部分が第290号住居跡と重複している。北西側部分を第1374号土坑，西側部分を第1356号土坑，中央からやや北東側部分を第1362，1365号土坑，炉の南側部分を第1411号土坑が掘り込んでいる。



第100図　第297号住居跡実測図

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［4.61］m，短径［4.23］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－26°－E］

床　土坑による撹乱が甚だしいが，ほぼ平坦である。炉の周辺が踏み固められている。

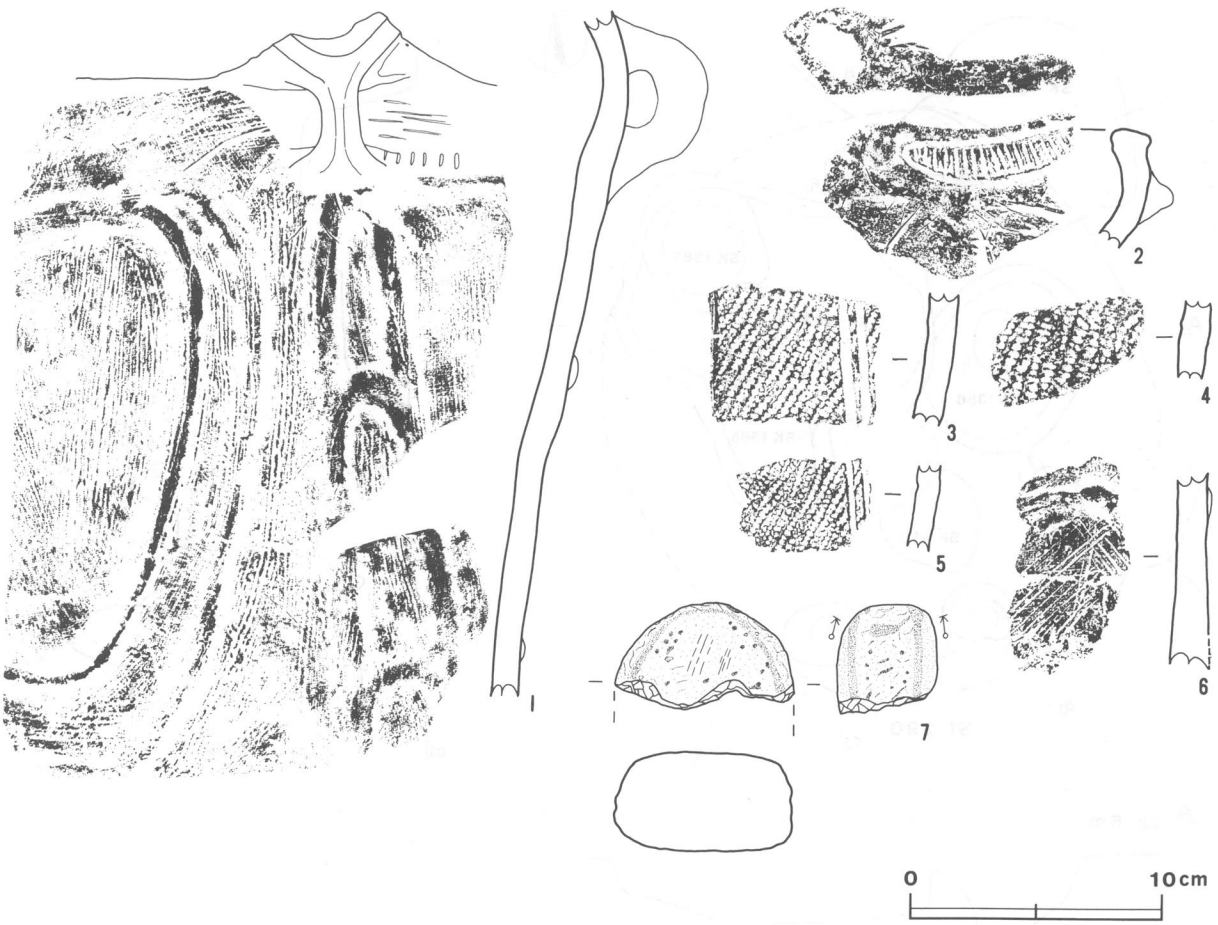
ピット　10か所。P_1，P_3～P_6，P_{10}は径40～60cmの円形で，深さ50～90cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_2，P_7は径20cmの円形で，深さ28～40cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　中央からやや南側寄りに付設されている。土坑により南側部分が撹乱されている。長径約100cm，短径約80cmの楕円形の地床炉である。炉床は，赤変硬化し露出している。

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部３点，胴部18点，底部１点）が出土している。

第101図１はP_5の東側床面から出土した深鉢形土器である。７はP_2の覆土中から出土した磨石である。２～６は縄文土器片の拓影図である。２は中峠式の口縁部片で，隆帯による区画内に縦位の沈線を施している。３～５は加曽利ＥⅠ式の胴部片で，単節縄文を地文に沈線を施している。６は阿玉台Ⅲ式の胴部片で，条線文を施している。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，床面からの出土遺物から判断して，縄文時代中期（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。重複している第289号住居跡と第290号住居跡より古い。



第101図　第297号住居跡出土遺物実測・拓影図

第297号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第101図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(27.2)	胴部片。胴部上位にかけてやや外傾して立ち上がる。中位に橋状把手を有する。条線文を地文に，隆帯を施している。	砂粒・雲母・長石 暗褐色 普通	P42　5%　PL33 東部床面 (阿玉台Ⅳ式)

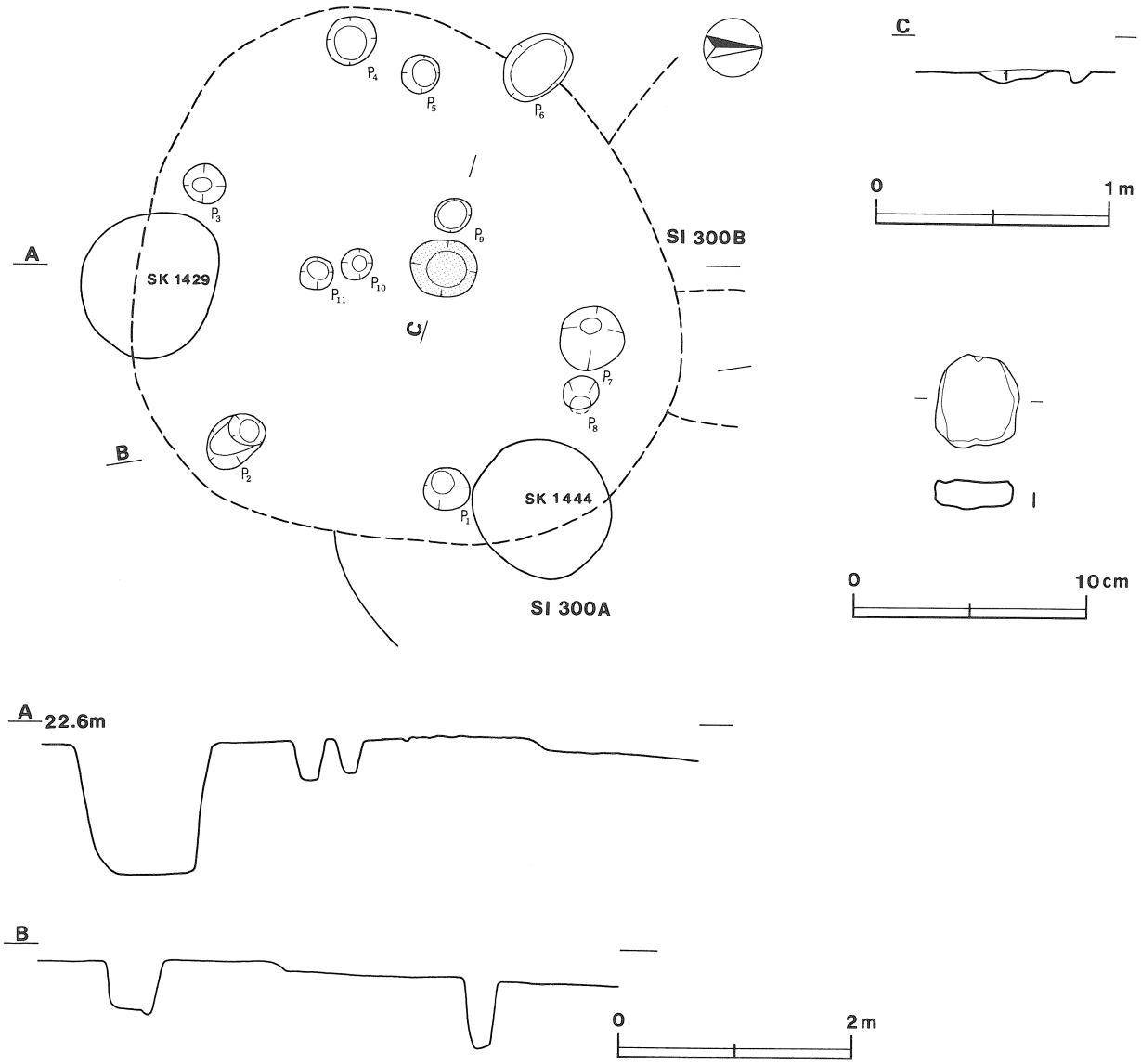
図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第101図7	磨　石	(4.3)	7.2	4.0	(130.0)	安山岩	Q35覆土中　半欠

第299号住居跡（第102図）

位置　調査区の北東部，D18i2区。

重複関係　本跡は，北側部分が第300A・B号住居跡と重複している。北東側部分を第1444号土坑，南側部分を第1429号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［5.00］m，短径［4.53］mの楕円形と推定される。



第102図　第299号住居跡実測・出土遺物実測図

長径方向　[N－42°－E]

床　ほぼ平坦で，炉の周辺が踏み固められている。

ピット　11か所。P_1～P_4，P_7は径30～40cmの円形で，深さ36～50cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5，P_8は径20cmの円形で，深さ40～60cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。P_9～P_{11}は径約20cmの円形で，深さ約35cmと他より規模が小さいもので，炉の周辺から確認できた。その他は性格不明である。

炉　中央からやや北側寄りに付設されている。長径60cm，短径50cmの楕円形で，床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は，赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤 褐 色　焼土粒子・焼土小・中ブロック中量

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部1点，胴部1点，底部1点）が出土している。すべて細片である。

第102図1は確認面から出土した土器片錘である。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期を判断する出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第300A・B号住居跡との新旧関係は，不明である。

第299号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計　測　値（cm）			重　量（g）	現存率（%）	備　考	
		最大長	最大幅	最大厚				
第102図1	土器片錘	4.0	3.6	1.2	(20.0)	90	DP13　確認面	PL56

第300A号住居跡（第103図）

位置　調査区の北東部，D18i_3区。

重複関係　本跡は，南側部分が第299号住居跡，西側部分が第300B号住居跡と重複している。中央から南側部分を第1444号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　南壁から西壁にかけて立ち上がりが確認できなかったが，長径［5.55］m，短径［4.25］mの楕円形と推定される。

長径方向　[N－10°－E]

壁　北壁から東壁にかけてしか確認できなかったが，壁高は14～20cmで，外傾して立ち上がる。

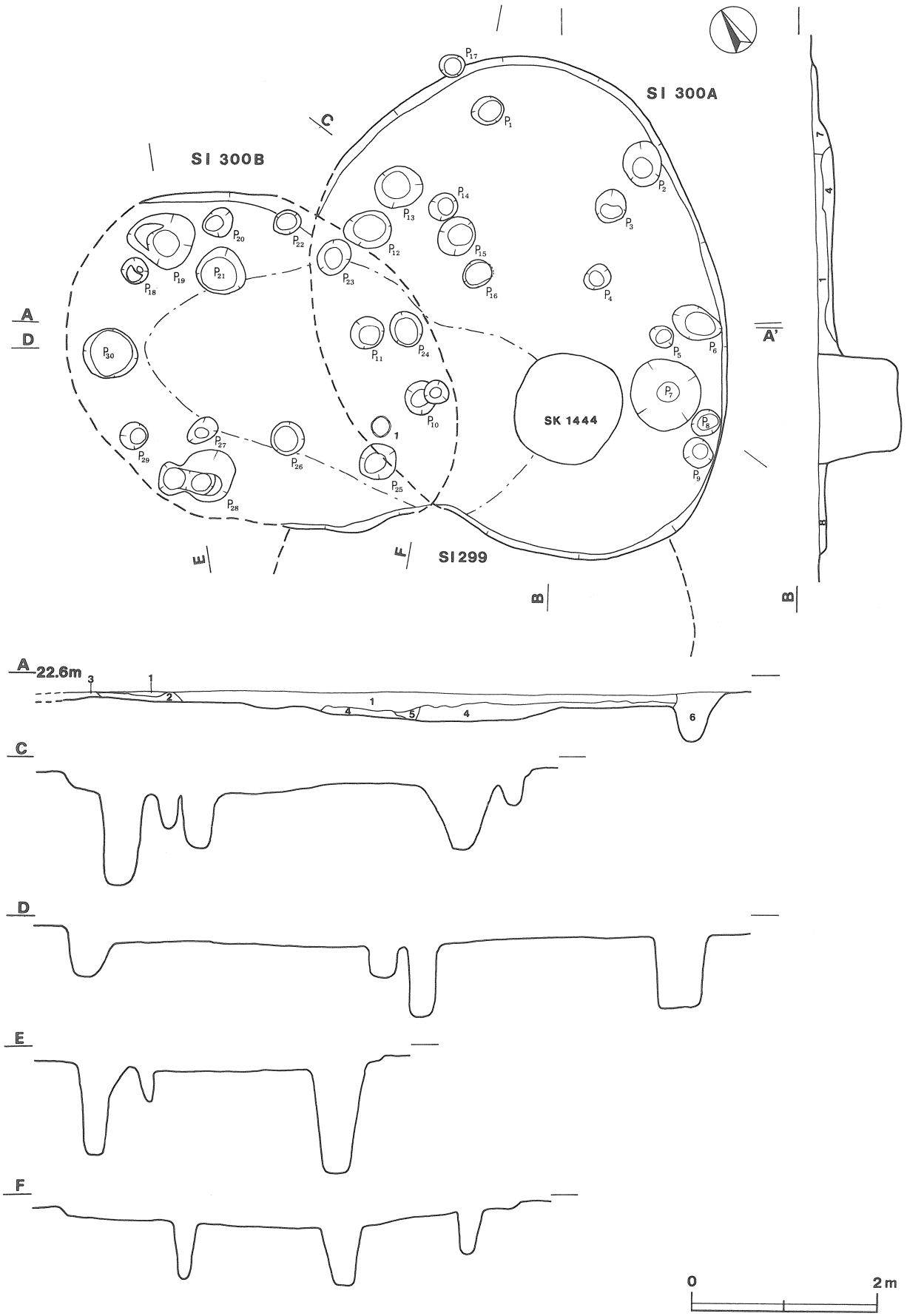
床　ほぼ平坦で，全域が踏み固められている。

ピット　17か所。ピット番号は，第300B号住居跡と通し番号である。P_1，P_2，P_8，P_{10}～P_{12}は径20～40cmの円形で，深さ30～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_5，P_9，P_{13}は径30～50cmの円形で，深さ50～100cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。南東壁際にあるP_7は，径80cmの円形で，深さ72cmと他のものより大きいものである。P_{14}～P_{16}は径30～40cmの円形で，深さ40～60cmであり，中央から北寄りに南北に並んだ状態に確認できた。P_6は，性格不明である。

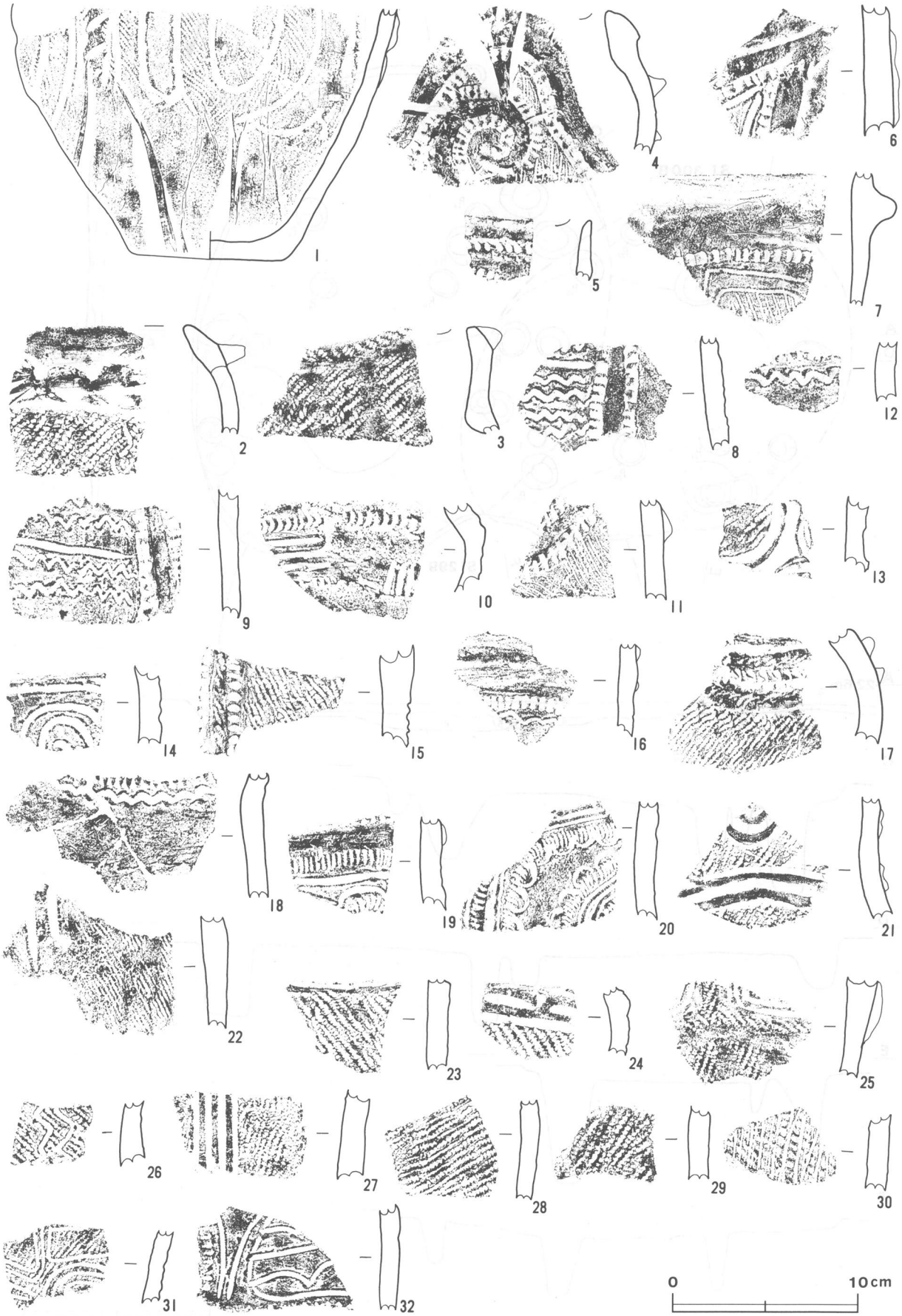
覆土　第300B号住居跡との新旧関係が確認できなかったため，通し番号で解説した。6層は，P_6の覆土である。

土層解説

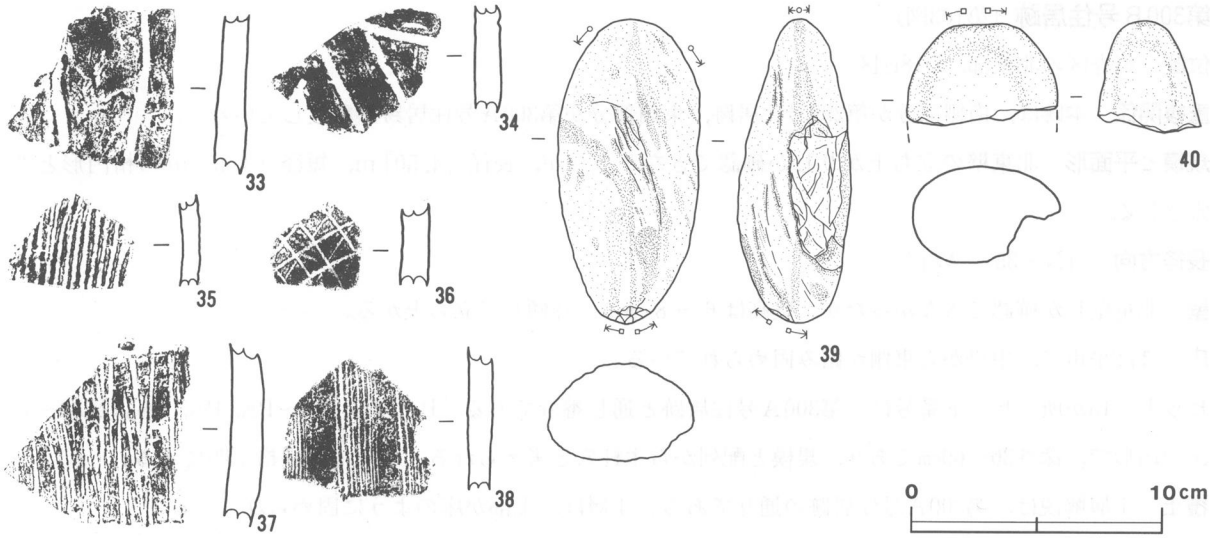
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ソフトローム小・中ブロック中量
3　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック中量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量
8　褐　　色　ハードローム中ブロック多量



第103図　第300Ａ・Ｂ号住居跡実測図



第104図　第300Ａ号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第105図　第300A号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

遺物　覆土中から縄文土器片（口縁部27点，胴部113点，底部15点）が出土している。

第104図1は西側壁際床面に正位の状態で出土した深鉢形土器である。第105図39はP_{14}の覆土中から出土した敲石である。40は覆土下層から出土した敲石である。2～38は縄文土器片の拓影図である。2～5は大木8a式の影響を受けた加曽利EⅢ～Ⅳ式の口縁部片である。2は口縁直下に押圧した隆帯を貼り付け，以下に単節縄文を施文している。3は単節縄文を施文している。4は波状口縁の突起の部分で隆帯に沿って押引刺突文を施している。5は口縁直下に刺突文が巡る。6～38は胴部片である。6と7は阿玉台Ⅳ式で隆帯に沿って押引爪形文を施している。8，9，19，20は勝坂式である。9と10は隆帯に沿って押引刺突文と山形状沈線を施している。19と20は爪形文や沈線を施している。10～12，14～18，25は阿玉台Ⅳ式である。10～12，15～18は隆帯に沿って爪形文を施している。14は沈線を描いている。25は単節縄文を施文している。13と26は大木8a式の影響を受けている。21～24，27～29，35，37は加曽利EⅠ式である。21は背割れを施した隆帯を貼り付けている。22～24は単節縄文に沈線を施している。27は単節縄文を地文に半截竹管による棒状沈線を施している。28と29は単節縄文を施文している。35は撚糸文を施文している。37は条線文を施している。33と34は称名寺式で，沈線を施している。30，31，36，38は堀之内式で，沈線を描いている。

所見　本跡は，北壁と東壁の立ち上がりしか確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。炉は確認できなかった。時期は，床面からの出土遺物から判断して，縄文時代後期（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。重複している第299号住居跡と第300B号住居跡との新旧関係は，不明である。縄文土器片の中に中期の土器が含まれているのは，混入したものと思われる。

第300A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第104図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(19.2) C　8.3	底部から胴部片。底部から胴部にかけて内彎気味に立ち上がる。文様は沈線を施し，沈線間に磨消縄文と単節縄文を施している。	砂粒・長石・スコリア　にぶい橙色 普通	P43　60%　PL33 西部壁際床面 (称名寺Ⅰ式)

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第105図39	敲　石	12.1	5.6	3.9	310.0	安山岩	Q36　覆土中　磨石転用
40	敲　石	(4.1)	6.0	4.2	(110.0)	凝灰岩	Q37　覆土下層　半欠

第300Ｂ号住居跡（第103図）

位置　調査区の北東部，D18i_2区。

重複関係　本跡は，南側部分が第299号住居跡，東側部分が第300Ａ号住居跡と重複している。

規模と平面形　北東壁の立ち上がりしか確認できなかったが，長径［4.50］m，短径［3.45］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－35°－W］

壁　北東壁しか確認できなかったが，壁高は６～８cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央から東側が踏み固められている。

ピット　13か所。ピット番号は，第300Ａ号住居跡と通し番号である。P_{18}，P_{20}，P_{22}～P_{25}，P_{28}，P_{29}は径30～40cmの円形で，深さ30～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

覆土　土層解説は，第300Ａ号住居跡の通りである。４層は，上部が床のように固められている。

所見　本跡は，北東壁の立ち上がりしか確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。炉は確認できなかった。時期を判断する出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第299号住居跡と第300Ａ号住居跡との新旧関係は，不明である。

第301号住居跡（第106図）

位置　調査区の北部，D17c_3区。

重複関係　本跡は，東側部分が第254号住居跡と重複している。南側部分を第1184号土坑，中央からやや南東側部分を第1452号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［6.35］m，短径［5.64］mの楕円形と推定される。

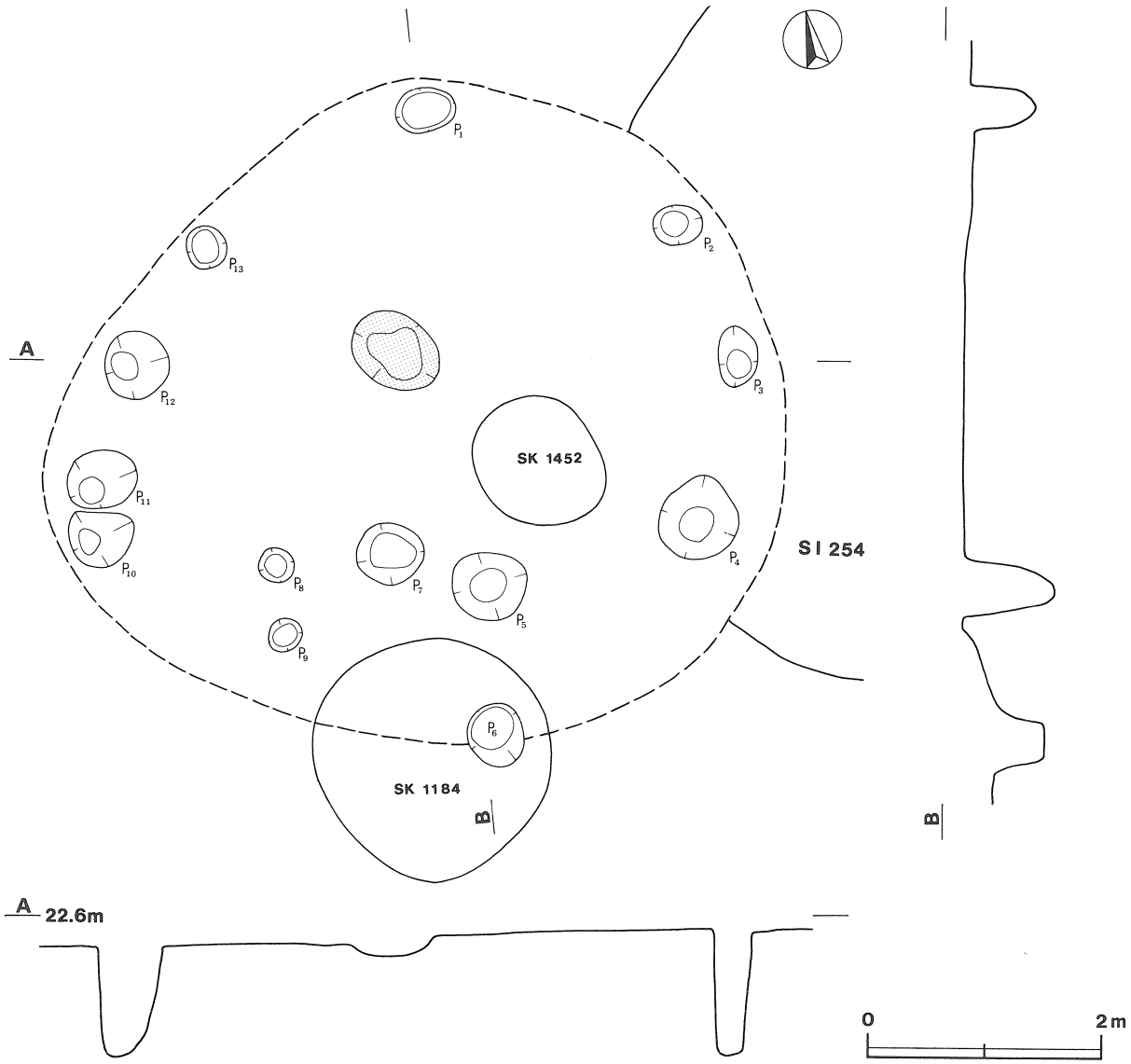
長径方向　［N－82°－W］

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　13か所。P_1～P_4，P_6，P_9，P_{11}，P_{12}，P_{13}は径30～50cmの円形で，深さ60～100cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_{10}は径50cmの円形で，深さ25cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。その他は性格不明である。

炉　中央からやや北寄りに付設されている。長径80cm，短径60cmの楕円形であり，床面を約５cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉内覆土中から焼土ブロックが多量に出土している。炉床は，ロームがレンガ状に赤変硬化しゴツゴツしている。長期間使用したものと考えられる。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，出土遺物がないため，周辺の住居跡と比較して，縄文時代中期から後期と考えられる。重複している第254号住居跡との新旧関係は，不明である。



第106図　第301号住居跡実測図

第310号住居跡（第107図）

位置　調査区の中央部，D17f_2区。

重複関係　本跡は，西側部分が第295号住居跡と重複している。北東側部分を第1513，1516号土坑，東側部分を第1388号土坑が掘り込んでいる。

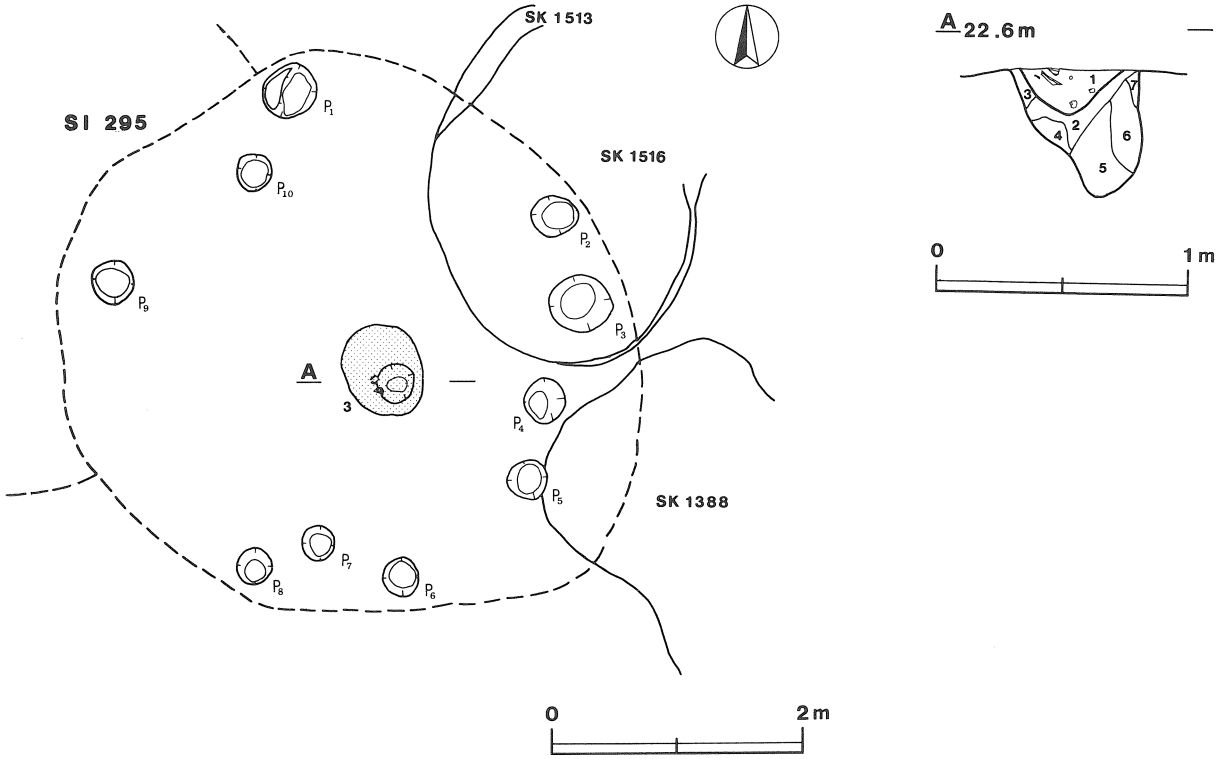
規模と平面形　壁は確認できなかったが，長径［4.60］m，短径［4.45］mの楕円形と推定される。

長径方向　［N－35°－W］

床　ほぼ平坦で，炉周辺が踏み固められている。

ピット　10か所。P_2，P_3，P_5，P_6，P_8～P_{10}は径20～40cmの円形で，深さ50～60cmであり，規模と配列から主柱穴と考えられる。P_1，P_4，P_7は径20～40cmの円形で，深さ20～50cmであり，位置的に補助柱穴と考えられる。

炉　中央からやや東寄りに付設されている。長径80cm，短径60cmの楕円形で，床面を20cmほど掘りくぼめた地床炉である。1層の底面の焼土ブロックがレンガ状に赤変硬化しゴツゴツしているため，炉床と考えられる。覆土中から土器片が出土している。土層から判断して，炉は2～7層の土を埋めた後に付設したものと考えら



第107図　第310号住居跡実測図

れる。

炉土層解説

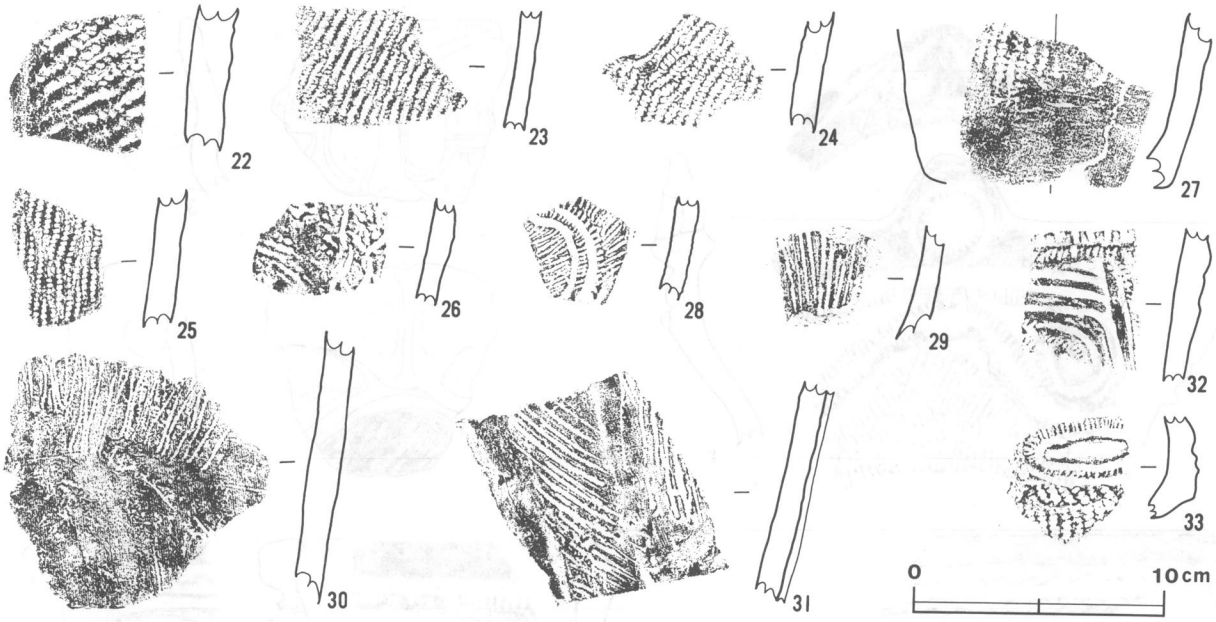
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・焼土ブロック多量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・粒子中量
3　赤　褐　色　焼土ブロック・粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，締まりあり
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，締まりあり
7　褐　　色　ロームブロック

遺物　確認面から縄文土器片（口縁部30点，胴部142点，底部13点）が出土している。

第108図１～５は炉内覆土中から出土した深鉢形土器の口縁部である。６～33は縄文土器片の拓影図である。６～13は口縁部片である。６，７，13は中峠式である。６と７は口縁直下に交互刺突文が巡る。13は口縁直下に二条の沈線が巡り，口縁部にキザミ目を施した隆帯で文様を描いている。８，９，11は加曽利ＥⅡ式である。10は加曽利ＥⅠ式で口唇部に沈線が巡り，口縁部文様帯は隆帯で区画している。12は阿玉台Ⅳ式で無文である。14～33は胴部片である。14は勝坂式で爪形文を施している。15と16は阿玉台Ⅳ式で隆帯に沿って爪形文を施している。17～27，29，30は加曽利ＥⅡ式である。17～19は単節縄文を地文に懸垂文間に磨消部分が見られる。20は撚糸文を施文している。21～25は単節縄文を施文している。27は胴部下位で横位のナデを施している。29は条線文を施している。30は胴部下位で撚糸文を施文し，以下はナデを施している。28は中峠式で沈線を施している。31は加曽利ＥⅢ式で縦位に隆帯を貼り付け，隆帯間に沈線を施している。32は勝坂式でキザミ目を施している。33は中峠式である。

所見　本跡は，壁が確認できなかったが，柱穴の配列や床質から規模及び平面形を推定した。時期は，炉内覆土中からの出土遺物から判断して，縄文時代中期（中峠式期）と考えられる。重複している第295号住居跡との新旧関係は，不明である。

第108図　第310号住居跡出土遺物実測・拓影図(1)



第109図　第310号住居跡出土遺物実測・拓影図(2)

第310号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第108図 1	深鉢形土器 縄文土器	A[22.0] B(11.7)	胴部から口縁部片。胴部上位から口縁部は内彎する。口縁部は突起し，突起の内面に渦巻文を描いている。口縁部文様帯は，キザミ目を有する隆帯で渦巻文を描いている。以下は，撚糸文を施している。	砂粒・長石・石英 明赤褐色 普通	P44　5％　PL33 炉内 (中峠式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[24.4] B(6.1)	頸部から口縁部片。頸部に交互刺突文と沈線が巡る。	砂粒・雲母 赤褐色 普通	P45　5％　PL33 炉内 (中峠式)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(7.0)	口縁部片。有孔把手を有する。孔の周囲に沈線を施している。	砂粒・長石・スコリア　にぶい橙色 普通	P46　5％　PL33 炉内 (中峠式)
4	深鉢形土器 縄文土器	B(8.3)	口縁部片。有孔把手を有する。	砂粒・長石・スコリア　にぶい橙色 普通	P47　5％　PL33 炉内 (阿玉台Ⅳ式)
5	深鉢形土器 縄文土器	B(7.9)	口縁部片。突起の内・外面にキザミ目を有する。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P48　5％　PL33 炉内 (中峠式)

表４　前田村遺跡Ｄ区住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口				
240	C17a$_4$	N－18°－W	楕円形	3.90 × 3.40	4～10	平坦	無	4	－	6	－	1	自然	縄文土器，磨製石斧，土製円板	
241	C17f$_8$		[円形]	[6.50 × 6.00]	－	段状	無	9	－	20	－	1	自然	縄文土器，磨石，凹石	
242	C17i$_7$	N－48°－E	楕円形	4.20 × 3.74	1～8	平坦	無	4	－	5	－	1	人為	縄文土器	
243	C16c$_0$		[円形]	[5.23 × 5.10]	7	平坦	無	7	－	15	－	2	人為	縄文土器，打製石斧，敲石	ＳＩ－244，ＳＫ－1171，1172，1173
244	C16c$_9$	[N－18°－W]	[楕円形]	[4.13 × 3.19]	5	平坦	無	6	－	7	－	1	人為	縄文土器	ＳＩ－243，ＳＫ－1171，1172，1208，1235
245	C17i$_4$		[円形]	[6.55 × 6.42]	8	平坦	無	6	－	15	－	－	自然	縄文土器	ＳＩ－247，ＳＫ－1212，1218，1223，1228，1169，1170
246	D17a$_4$		[円形]	[4.72 × 4.52]	20	平坦	無	4	－	6	－	1	自然	縄文土器，石皿	ＳＩ－250，ＳＫ－1168
247	C17i$_5$	[N－57°－E]	[楕円形]	[6.91 × 5.35]	4	平坦	無	6	－	9	－	1	自然	縄文土器	ＳＩ－245，252
248	D17a$_7$	[N－13°－W]	[楕円形]	[5.42 × 4.63]	8	平坦	無	6	－	7	－	1	自然	縄文土器	ＳＫ－1180，1181
249	C17f$_5$	[N－51°－W]	[楕円形]	[5.12 × 4.58]	－	平坦	無	6	－	6	－	1	－	縄文土器	
250	D17b$_4$	[N－53°－W]	[楕円形]	[6.35 × 4.70]	26	平坦	無	5	－	9	－	2	自然	縄文土器，土製円板，浮子，石皿，磨石	ＳＩ－246，292，ＳＫ－1190
251	C17i$_0$		円形	3.29 × 3.18	24	起伏	無	4	－	6	－	－	人為	縄文土器	竪穴状遺構
252	C17j$_5$	[N－68°－E]	[楕円形]	[6.14 × 5.03]	4～9	平坦	無	2	－	2	－	－	－	縄文土器，磨石	ＳＩ－247，ＳＫ－1178，1278
253	D17a$_6$	[N－84°－W]	[楕円形]	[4.23 × 3.50]	9	平坦	無	－	－	－	－	－	自然	縄文土器	ＳＫ－1182，1183，竪穴状遺構
254	D17c$_4$		円形	6.49 × 6.20	4	平坦	無	5	－	7	－	1	自然	縄文土器，土製円板，磨石	ＳＩ－292，301
255	C17h$_8$		[円形]	[4.22 × 4.22]	10	平坦	無	6	－	7	－	1	人為	縄文土器	ＳＫ－1185，1186，1227，1231，1236
256	C18j$_2$		円形	3.72 × 3.67	44	平坦	無	－	－	2	－	－	自然	縄文土器	竪穴状遺構
260	D18b$_6$		円形	4.50 × 4.47	3～8	平坦	無	7	－	20	－	2	人為	縄文土器，打製石斧，敲石，磨石	ＳＫ－1271，1272，1277，1280，1290
261	D18c$_5$	[N－35°－E]	楕円形	5.34 ×[4.64]	7～9	平坦	無	7	－	13	－	－	人為	縄文土器，土製円板	ＳＫ－1237，1241，1274
262	D18b$_4$		円形	5.53 × 5.44	2～8	平坦	無	5	－	10	－	－	自然	縄文土器，土製円板，磨石	ＳＫ－1251，1252，1253，1291
264	D18c$_6$	N－19°－W	楕円形	4.27 × 3.83	14	平坦	無	5	－	12	－	1	自然	縄文土器，磨石	ＳＫ－1221
265	D17e$_0$	N－87°－W	[楕円形]	[5.91 × 5.45]	－	平坦	無	6	－	13	－	1	人為	縄文土器	ＳＫ－1318，ＳＤ－45
266	D18c$_2$		[円形]	[5.36 × 5.45]	－	平坦	無	9	－	13	－	1	－	縄文土器	ＳＫ－1238，1239，1240，1261
267	D17e$_6$		[円形]	[4.88 × 4.45]	－	平坦	無	4	－	9	－	1	－	縄文土器	

住居跡番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m)(長軸×短軸)	壁高(cm)	床面	内部施設					炉竈	覆土	出土遺物	備考(重複関係)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口				
268	D18g6	N−52°−W	楕円形	5.51 × 4.20	9～13	平坦	無	6	−	15	−	1	人為	縄文土器,磨製石斧,打製石斧,磨石	SK−1287, 1288, 1335, 1403
269	D18e2	[N−25°−W]	[楕円形]	[7.04 × 4.91]	21	平坦	無	8	−	21	−	−	自然	縄文土器, 磨製石斧, 磨石	SI−281, SK−1273, 1281, SD−45
271	D18e6	[N−40°−E]	[楕円形]	[3.70 × 3.26]	3～4	平坦	無	3	−	5	−	−	人為	縄文土器	SI−272, SK−1302
272	D18e7	[N−47°−E]	[楕円形]	[5.34 × 4.50]	5	平坦	無	6	−	16	−	1	人為	縄文土器	SI−271, 273, SK−1293, 1302, 1305, 1306, 1317, 1325
273	D18d7		[円形]	[4.64 × 4.32]	−	平坦	無	5	−	12	−	1	人為	縄文土器	SI−272, SK−1293, 1301, 1304, 1317, 1332, 1333
281	D18d2	[N−41°−W]	[楕円形]	[5.85 × 4.49]	−	平坦	無	7	−	19	−	1	−		SI−269, SK−1234
283	D18b7		[円形]	[3.88 × 3.69]	−	平坦	無	10	−	12	−	−	−	縄文土器	SK−1286
285	C18j5		[円形]	[5.65 × 5.12]	−	−	無	5	−	7	−	−	−	縄文土器	SK−1217, 1225, 1283, 1285, 1289, 1297, 1298, 1330
287	D18e8		[円形]	[3.90]×(1.65)	15	平坦	無	[3]	−	[4]	−	−	自然	縄文土器	SI−291, SK−1389
288	D17d1		[円形]	[4.40 × 4.20]	−	平坦	無	5	−	14	−	1	−	縄文土器	SI−296, SK−1351, 1352, 1353, 1354
289	D17f4	[N−75°−W]	[楕円形]	[5.90 × 5.00]	6～7	平坦	無	7	−	13	−	2	人為	縄文土器,ミニチュア土器,土錘,円板	SI−297, SK−1363, 1372, 1373, 1374, 1439, 1440
290	D17h4	N−10°−E	楕円形	6.60 × 5.10	20～26	平坦	無	7	−	24	1	1	人為	縄文土器, 土製円板, 磨石	SI−297, SK−1441, 1470, 1474
291	D18e8	不明	[楕円形]	[4.80]×(1.90)	12～14	平坦	無	[2]	−	[5]	−	−	人為	縄文土器	SI−287, SK−1321
292	D17b4	[N−8°−E]	[楕円形]	[4.60 × 4.00]	−	平坦	無	5	−	10	−	−	人為	縄文土器, 磨石	SI−250, 254, SK−1206
293	D17e3	[N−10°−E]	[楕円形]	[5.20 × 4.60]	−	平坦	無	5	−	10	−	1	−	縄文土器	SI−296, SK−1254, 1275, 1276, 1279, SD−45
294	D17h8		[円形]	[5.00 × 5.00]	−	平坦	無	4	−	10	−	1	−	縄文土器	SK−1346, 1380, 1381
295	D17f1	[N−78°−W]	[楕円形]	[4.80 × 4.40]	−	平坦	無	4	−	15	−	1	−	緑泥片岩	SI−310, SK−1383
296	D17e2	[N−8°−E]	[楕円形]	[5.00 × 4.00]	−	平坦	無	6	−	8	−	1	−		SI−288, 293
297	D17g4	[N−26°−E]	[楕円形]	[4.61 × 4.23]	−	平坦	無	6	−	10	−	1	−	縄文土器, 磨石	SI−289, 290, SK−1356, 1362, 1365, 1374, 1385, 1411
299	D18i2	[N−42°−E]	[楕円形]	[5.00 × 4.53]	−	平坦	無	5	−	11	−	1	−	縄文土器	SI−300A・B, SK−1429, 1444
300A	D18i3	[N−10°−E]	[楕円形]	[5.55 × 4.25]	14～20	平坦	無	6	−	17	−	−	人為	縄文土器, 敲石	SI−299, 300B, SK−1444
300B	D18i2	[N−35°−W]	[楕円形]	[4.50 × 3.45]	6～8	平坦	無	8	−	13	−	−	自然		SI−299, 300A
301	D17c3	[N−82°−W]	[楕円形]	[6.35 × 5.64]	−	平坦	無	9	−	13	−	1	−		SI−254, SK−1184, 1452
310	D17f2	[N−35°−W]	[楕円形]	[4.60 × 4.45]	−	−	無	7	−	10	−	1	−	縄文土器	SI−295, SK−1388, 1513, 1516

2　土　坑

ここでは，特に時期や性格の分かるものについて解説を加え，その他の土坑については，一覧表に記載する。また，出土遺物については実測図でその一部を掲載する。

(1)　袋状土坑

当遺跡から袋状土坑12基を検出した。

第1170号土坑（第110図）

位置　C17i_3区。

重複関係　第245号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.85m，短径1.82mのほぼ円形で，深さ92cmである。

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位でほぼ垂直に立ち上がる。

底面　平坦。南及び北の壁際に2か所のピット（P_1・P_2）が確認されている。いずれも径約40cmの円形で，深さ約30cmである。

覆土　5層からなる人為堆積である。1層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム小・中ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4　褐　　色　ローム中・大ブロック多量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物　第112・113図1，3，4の深鉢形土器，2の口唇部に赤彩を施した浅鉢形土器が底面から出土している。6の土製円板，縄文土器片が覆土中から出土している。混入したと思われる5の深鉢形土器が覆土上層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（阿玉台式期）と考えられる。

第1172号土坑（第110図）

位置　C16c_0区。

重複関係　第243，244号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径0.96m，短径0.66mの楕円形で，深さ105cmである。

長径方向　N－19°－E

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。

底面　平坦。中央からやや南寄りにピット（P_1）が確認されている。径約20cmの円形で，深さ40cmである。

覆土　15層からなる人為堆積である。3層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小・中ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
4　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム中・大ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
7　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
10　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ソフトローム中・大ブロック少量
11　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ソフトローム中・大ブロック少量
13　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
14　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，締まりあり
15　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，締まりあり

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。

第1174号土坑（第110図）

位置　C16b0区。

規模と平面形　長径1.3m，短径（0.7）mの円形と推定され，深さ94cmである。

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　4層からなる人為堆積である。1・2層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム小・中ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム大ブロック中量，締まりあり

遺物　第113図7の深鉢形土器が底面から出土している。9の土製円板，縄文土器片が覆土中から出土している。混入したと思われる8の深鉢形土器が覆土上層から出土している。

所見　本跡は，北側半分が調査区域外のため確認できなかった。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（阿玉台Ⅰb式期）と考えられる。

第1179号土坑（第110図）

位置　C16b8区。

規模と平面形　長径2.3m，短径1.82mの楕円形で，深さ116cmである。

長径方向　N－63°－E

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位でほぼ垂直に立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　10層からなる人為堆積である。1・2・6層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小・中ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム中・大ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　にぶい褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ソフトローム中・大ブロック少量

遺物　第113図10の深鉢形土器の口縁部，縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（勝坂式期）と考えられる。

第1185号土坑（第110図）

位置　C17h8区。

重複関係　第255号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.24m，短径0.93mの楕円形で，深さ152cmである。

長径方向　N－13°－E

壁面　内傾して立ち上がる。

底面　皿状。

覆土　9層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物
2　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム大ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・ソフトローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小・中ブロック少量
9　極暗褐色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　第113図11の土製円板，縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。

第1189号土坑（第110図）

位置　D17b3区。

規模と平面形　長径1.6m，短径1.44mの楕円形で，深さ128cmである。

長径方向　N－77°－W

壁面　下位から中位にかけては内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　10層からなる人為堆積である。5層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　褐　　色　焼土粒子・ブロック・炭化粒子多量，炭化物
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小・中ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
8　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小・中ブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量，ソフトローム中・大ブロック少量

遺物　第113図12，第114図13～18の深鉢形土器が底面から出土している。覆土中から縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（中峠式期）と考えられる。

第1194号土坑（第111図）

位置　D17c5区。

規模と平面形　長径1.38m，短径1.35mのほぼ円形で，深さ69cmである。

壁面　内傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　5層からなる人為堆積である。底部に堆積したロームは，壁上部の崩落土と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ハードローム中・大ブロック中量
4　褐　　色　ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物　第114図20の深鉢形土器が覆土下層から出土している。19と21の深鉢形土器の胴部，第115図22の深鉢形土器の口縁部，23の磨石及び縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期中葉と考えられる。

第1244号土坑（第111図）

位置　D18i_7区。

重複関係　第45号溝に掘り込まれている。

規模と平面形　長径1.72m，短径1.42mの楕円形で，深さ88cmである。

長径方向　N－65°－W

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　6層からなる人為堆積である。1・2層から縄文土器片が出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
5　褐　　色　ローム粒子中量，暗褐色土少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・褐色土多量，炭化物

遺物　第115図24～26，第116図27の深鉢形土器，28の浅鉢形土器が覆土下層から出土している。覆土中から縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期中葉と考えられる。

第1254号土坑（第111図）

位置　D17d_4区。

規模と平面形　長径1.34m，短径1.22mの不整円形で，深さ70cmである。

長径方向　N－90°－E

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　7層からなる人為堆積である。4層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ハードローム中・大ブロック中量
4　褐　　色　ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物　第116・117図29の浅鉢形土器，31～34の深鉢形土器が覆土下層から出土している。30の深鉢形土器，縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期中葉と考えられる。

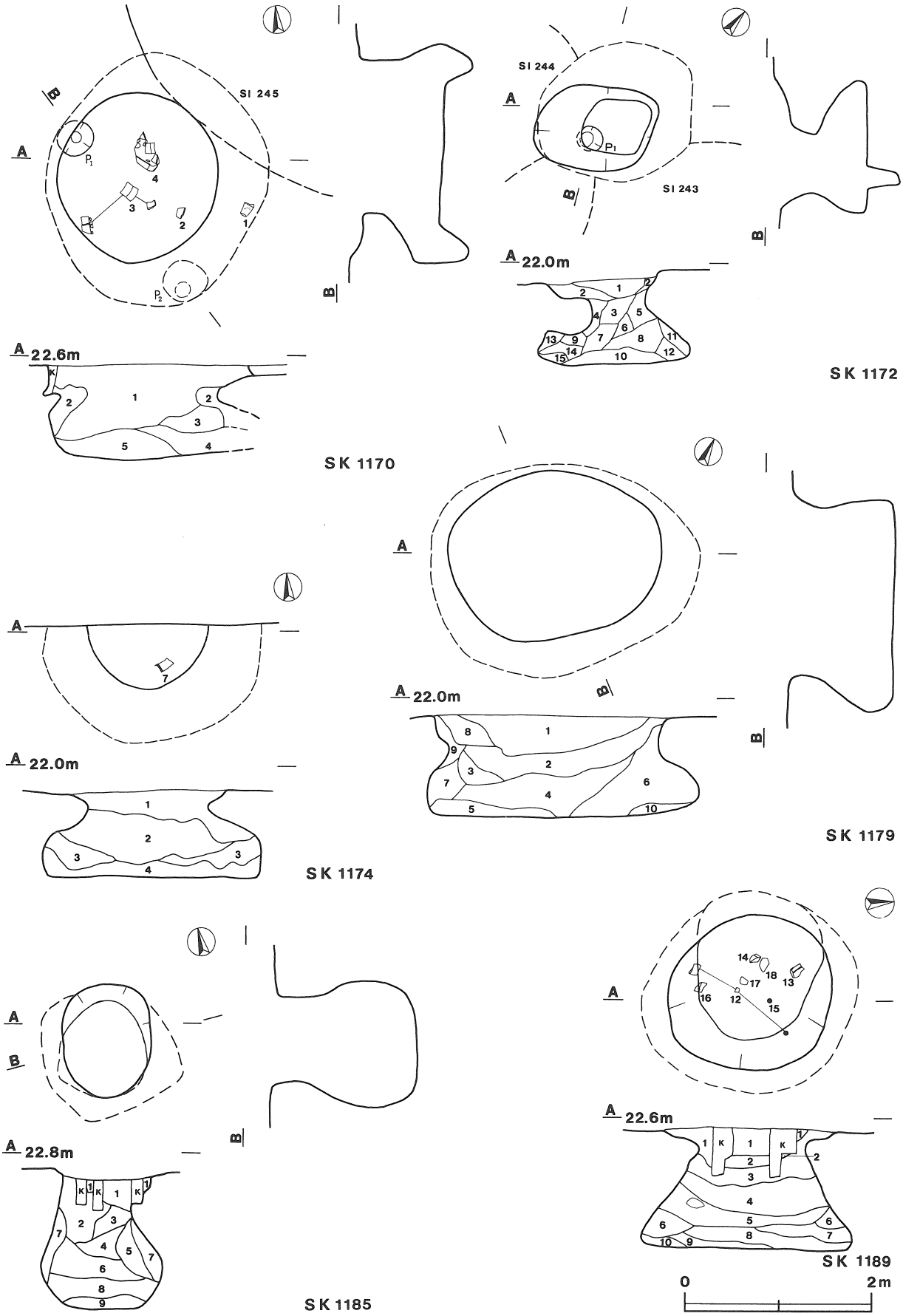
第1288号土坑（第111図）

位置　D18g_6区。

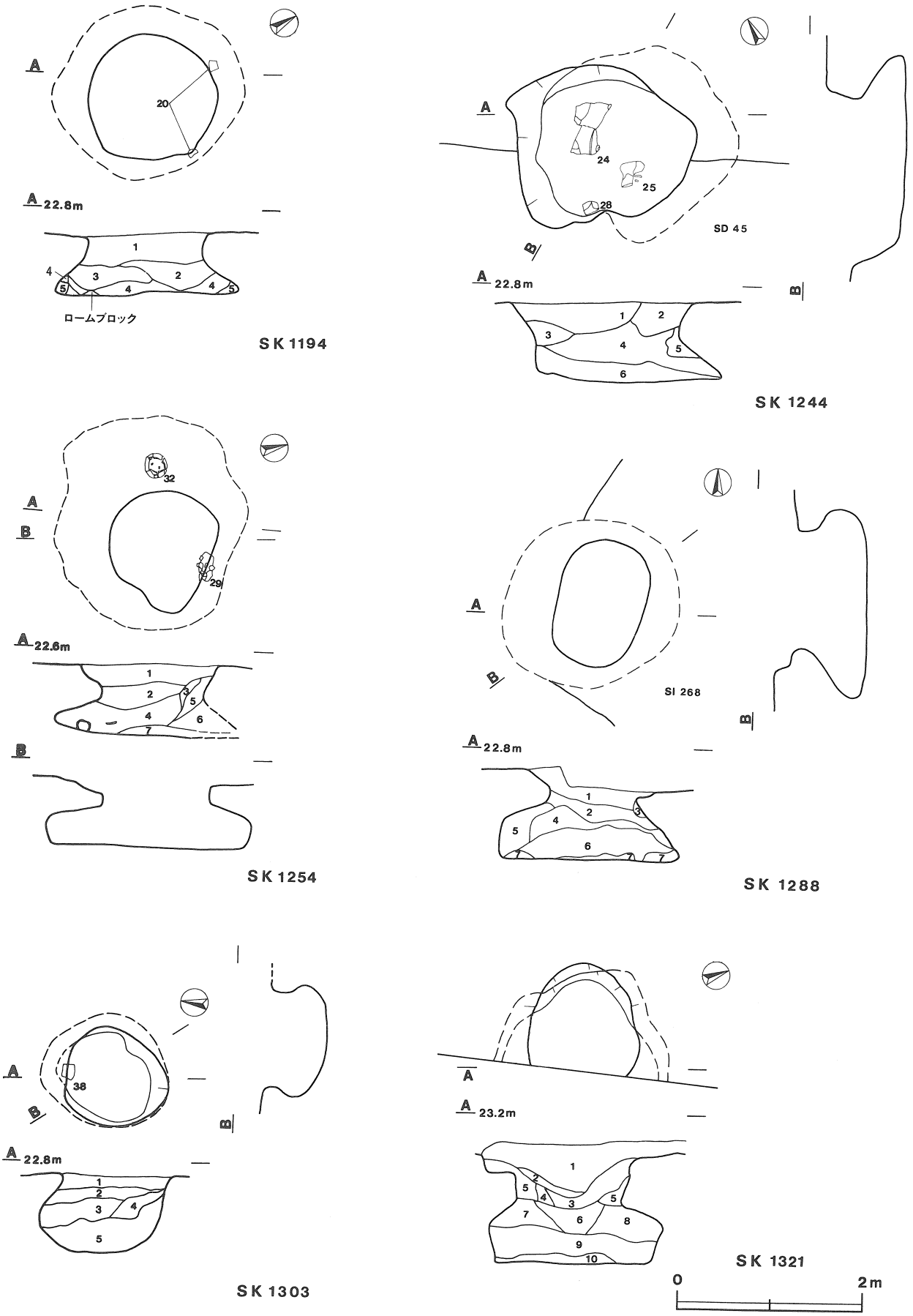
重複関係　第268号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.43m，短径1.24mの楕円形で，深さ100cmである。

長径方向　N－5°－W



第110図　袋状土坑実測図(1)



第111図　袋状土坑実測図(2)

壁面　内傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　7層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子・ハードローム中・大ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　褐　　色　ハード・ソフトローム中・大ブロック多量，暗褐色土中量

遺物　第117図35，36の深鉢形土器の底部，縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（加曽利ＥＩ式期）と考えられる。

第1303号土坑（第111図）

位置　D18f_7区。

規模と平面形　長径1.02m，短径0.8mの楕円形で，深さ72cmである。

長径方向　N－10°－E

壁面　下位から中位にかけて，内傾して立ち上がり，上位でほぼ垂直に立ち上がる。

底面　皿状。

覆土　5層からなる人為堆積である。3層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
3　黒褐色　ローム小・中ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量

遺物　第117図38の深鉢形土器が底面から出土している。37の深鉢形土器，縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期（中峠式期）と考えられる。

第1321号土坑（第111図）

位置　D18d_8区。

重複関係　第291号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径（1.2）m，短径1.22mの楕円形と推定され，深さ104cmである。

長径方向　N－68°－W

壁面　下位から中位にかけて，外傾した後内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　10層からなる人為堆積である。1層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小・中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
6　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子極少量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・ブロック少量，炭化粒子極少量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中・大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　覆土中から縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，東側半分が調査区域外のため確認できなかった。時期は，出土遺物から判断して，縄文時代中期と考えられる。

第1170号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第112図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 13.0 B 14.3 C 7.0	平底。底面から胴部上位はほぼ垂直に立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部に1単位の突起を有する。内・外面ともにナデを施している。	砂粒・長石・雲母 スコリア にぶい褐色　普通	P59　100%　PL34 底面 (阿玉台Ⅱ式)
2	浅鉢形土器 縄文土器	A 12.0 B 6.7 C 7.9	平底。底部から口縁部にかけて外傾する。口唇部に三条の沈線と刺突文を施している。口縁直下に2か所の穿孔が認められる。胴部は，内・外面ともにナデを施している。口唇部に赤彩を施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P60　80%　PL35 底面 (勝坂式)
3	深鉢形土器 縄文土器	A 22.0 B 30.5 C 11.0	平底。底部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁部，胴部，底部を爪形文を施した隆帯によって区画している。区画内は撚糸文を地文に，爪形文を施した隆帯で円形と半截竹管による弧線文を描いている。底面から5cmほどまでは，磨消縄文を施している。	砂粒 にぶい褐色 普通	P61　70%　PL34 底面 (勝坂式)
4	深鉢形土器 縄文土器	A 27.0 B 31.1	底部欠損。胴部下位から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁部に隆帯が巡る。胴部は縦位のナデを施している。	砂粒・長石 褐色 普通	P62　80%　PL34 底面 (阿玉台Ⅲ式)
5	深鉢形土器 縄文土器	A[24.0] B(15.6)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は外反気味に立ち上がる。口縁部は内彎する。口縁部には縄文を施し，胴部には太い沈線によるパネル的な区画を施している。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P63　20%　PL34 覆土上層 (称名寺Ⅰ式)

図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第113図6	土製円板	3.4	3.0	0.8	10.0	100	DP14　覆土中20　PL56

第1174号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 7	深鉢形土器 縄文土器	A[24.0] B(15.6)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。口縁部文様帯は隆帯によって区画し，隆帯に沿って連続刺突文を施している。胴部はナデを施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P67　70%　PL34 底面 (阿玉台Ⅰb式)
8	深鉢形土器 縄文土器	A 24.0 B(33.9) C[13.0]	底部から口縁部片。胴部下位は直線的に外傾し，中位で最大径をもち，上位で内傾する。いわゆる，樽形の器形をしている。口縁部に4単位の8字状の把手を有する。頸部に隆帯を巡らす。口縁部の内側には，大きく張り出す受け部状のものを有する。	砂粒・スコリア 浅黄橙色 普通	P66　40%　PL35 覆土上層 (綱取Ⅰ式)

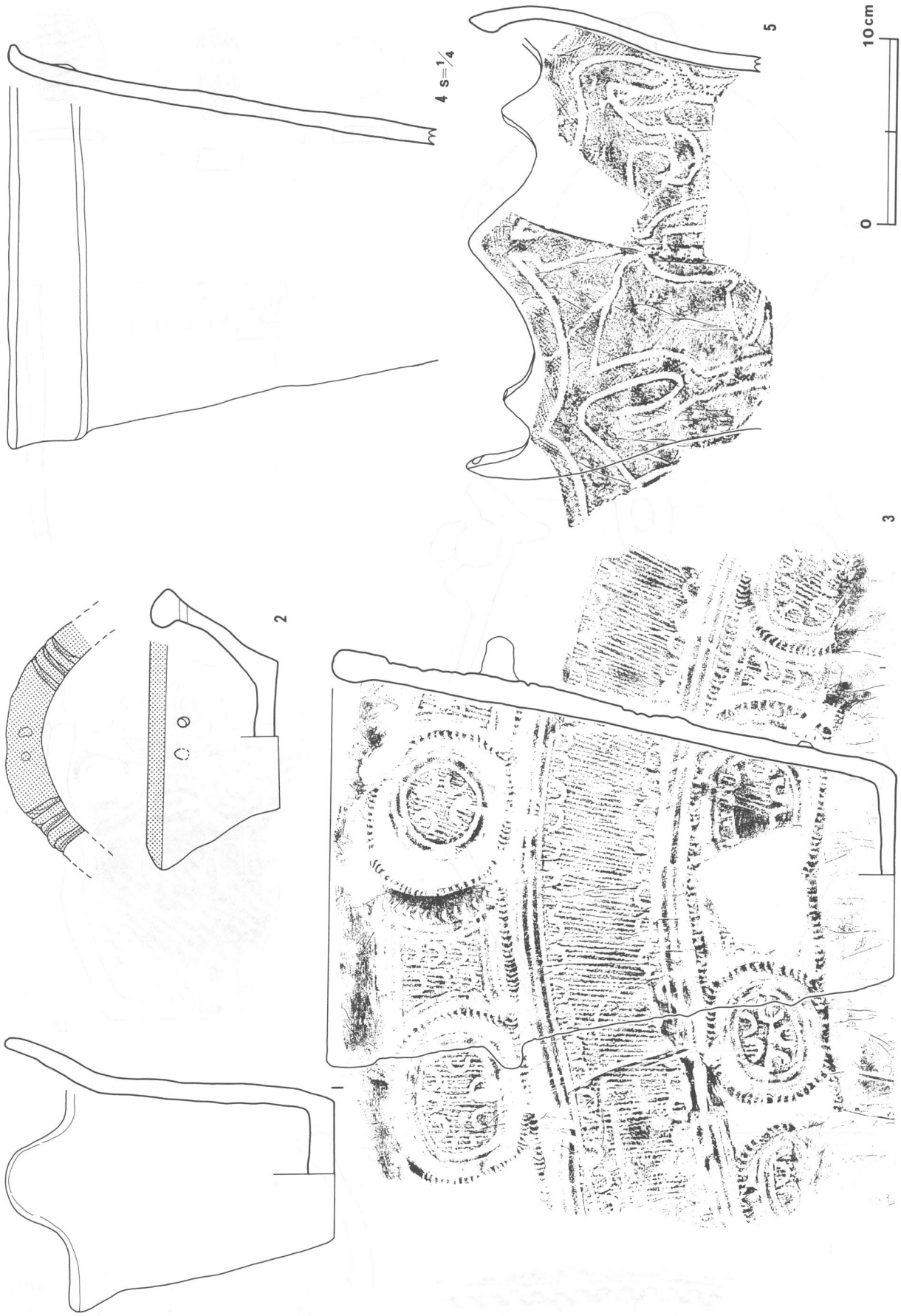
図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第113図9	土製円板	5.0	(2.6)	1.1	(20.0)	50	DP15　覆土中　一部欠損　PL56

第1179号土坑出土遺物観察表

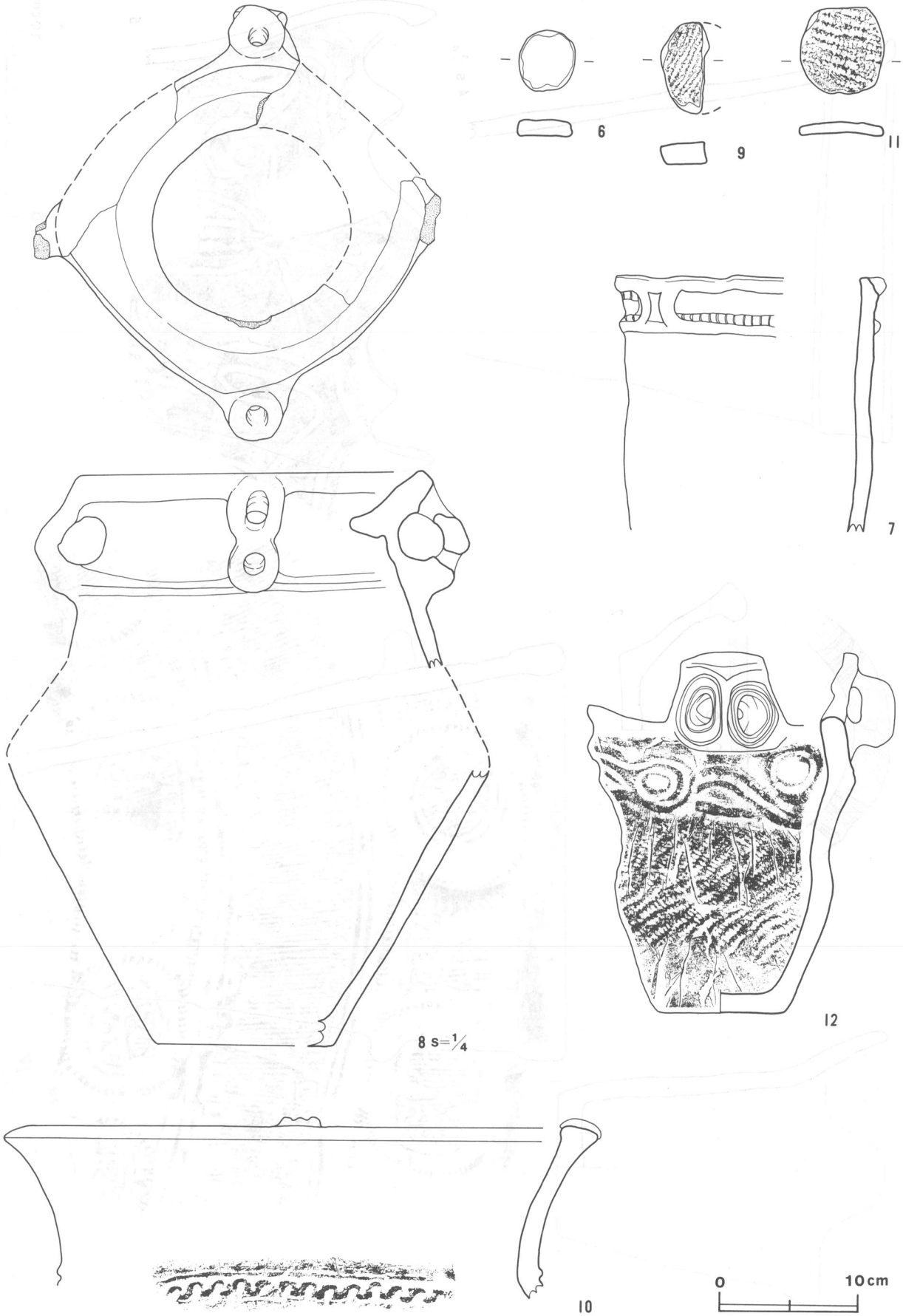
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 10	深鉢形土器 縄文土器	A[28.4] B (9.4)	口縁部片。口縁部は外反する。口唇部に，二条の沈線を施した隆帯が1単位認められる。口縁部は，横位ナデによる整形を施している。頸部に交互刺突文が巡る。	長石・雲母 褐色 普通	P74　5%　PL35 覆土中 (勝坂式)

第1185号土坑出土遺物観察表

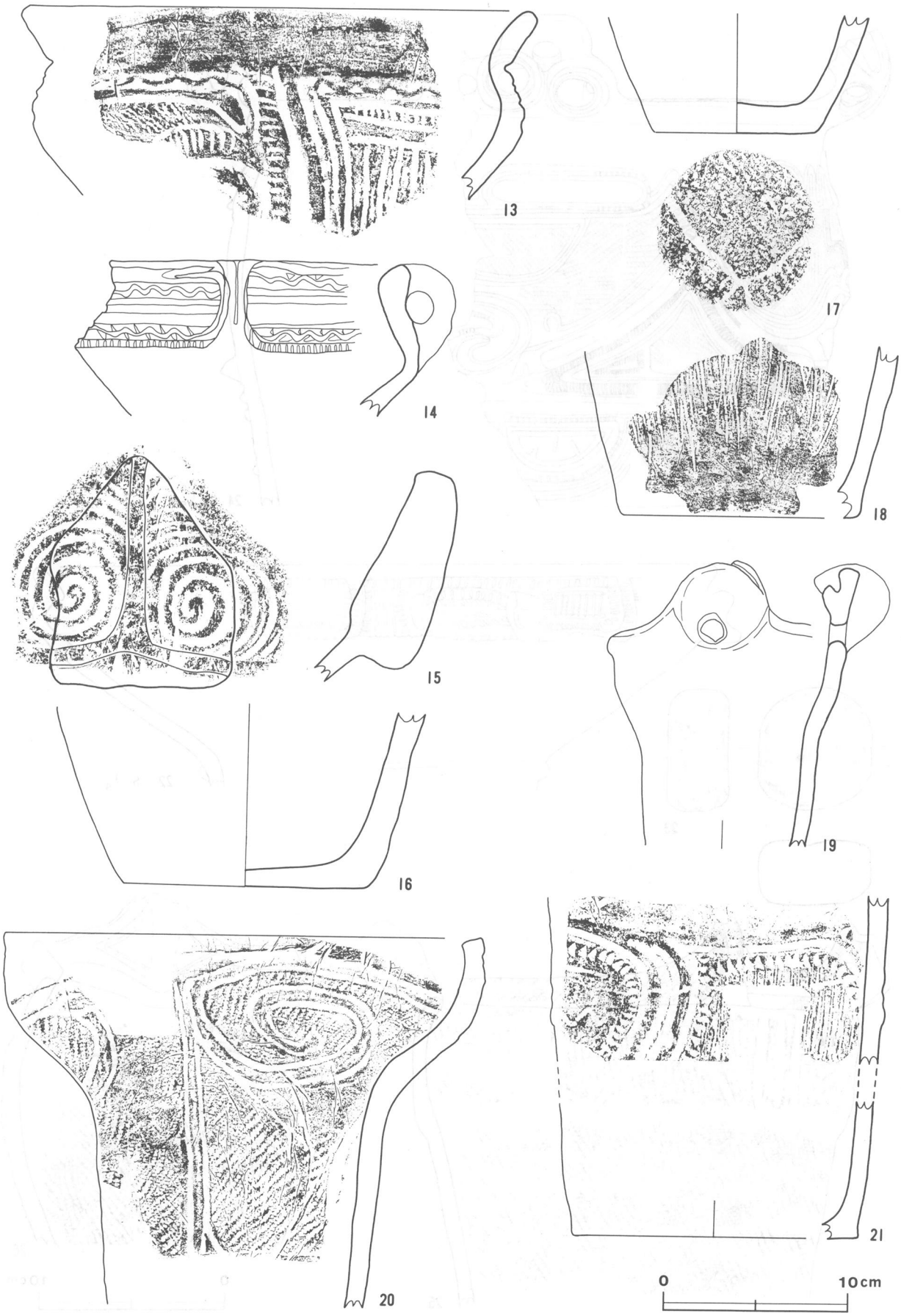
図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第113図11	土製円板	4.6	4.6	0.7	20.0	100	DP16　覆土中　PL56



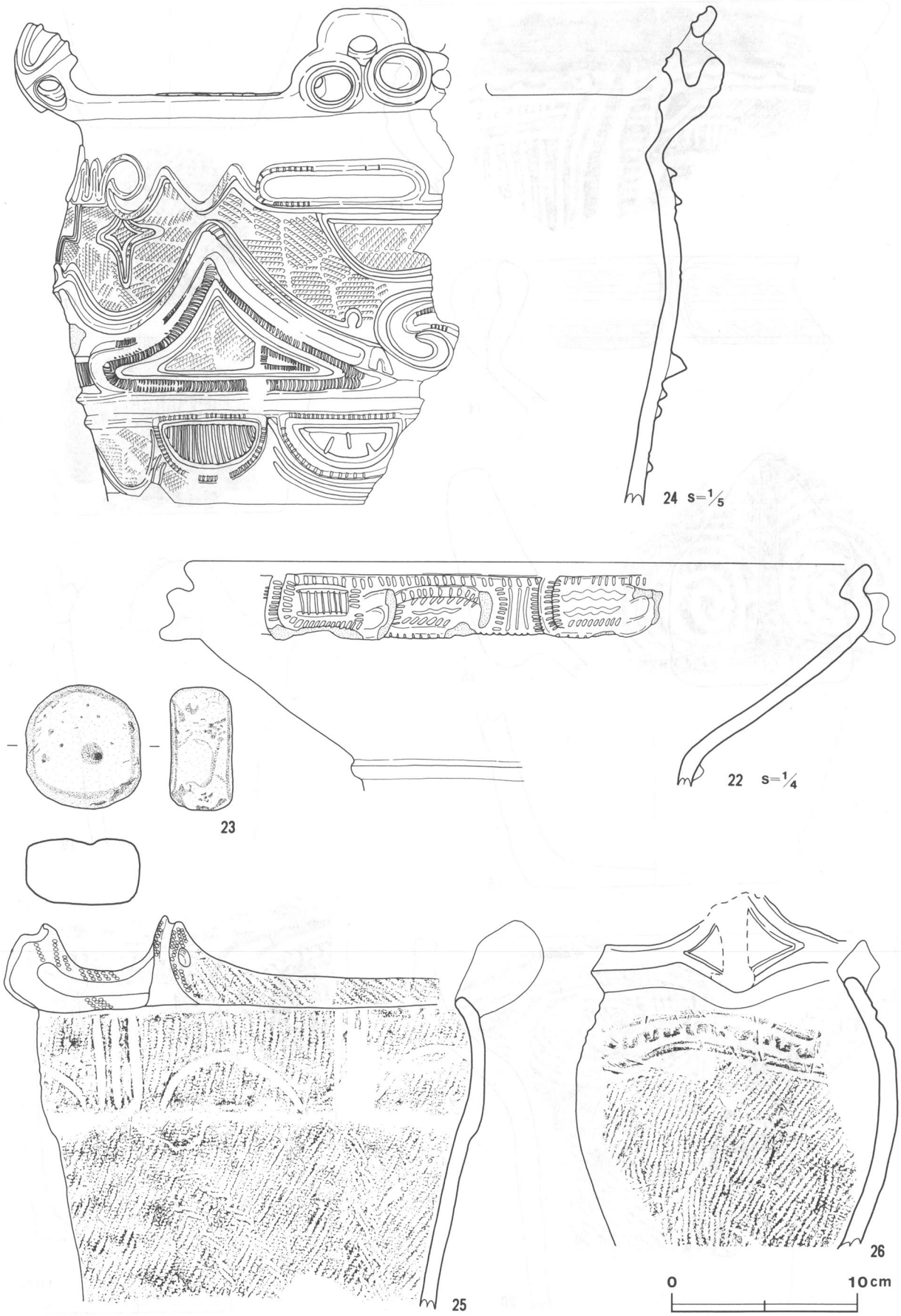
第112図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(1)



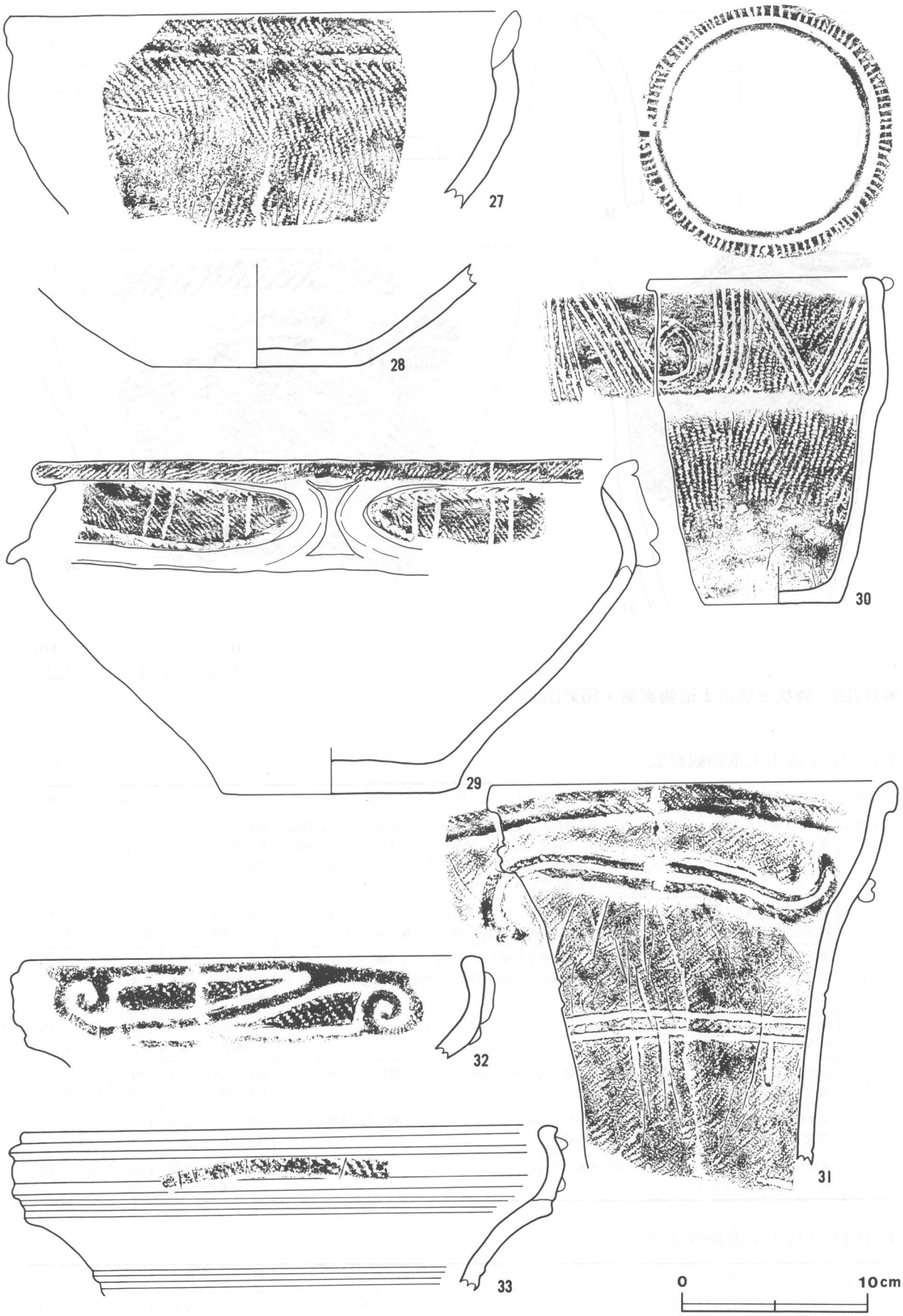
第113図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(2)



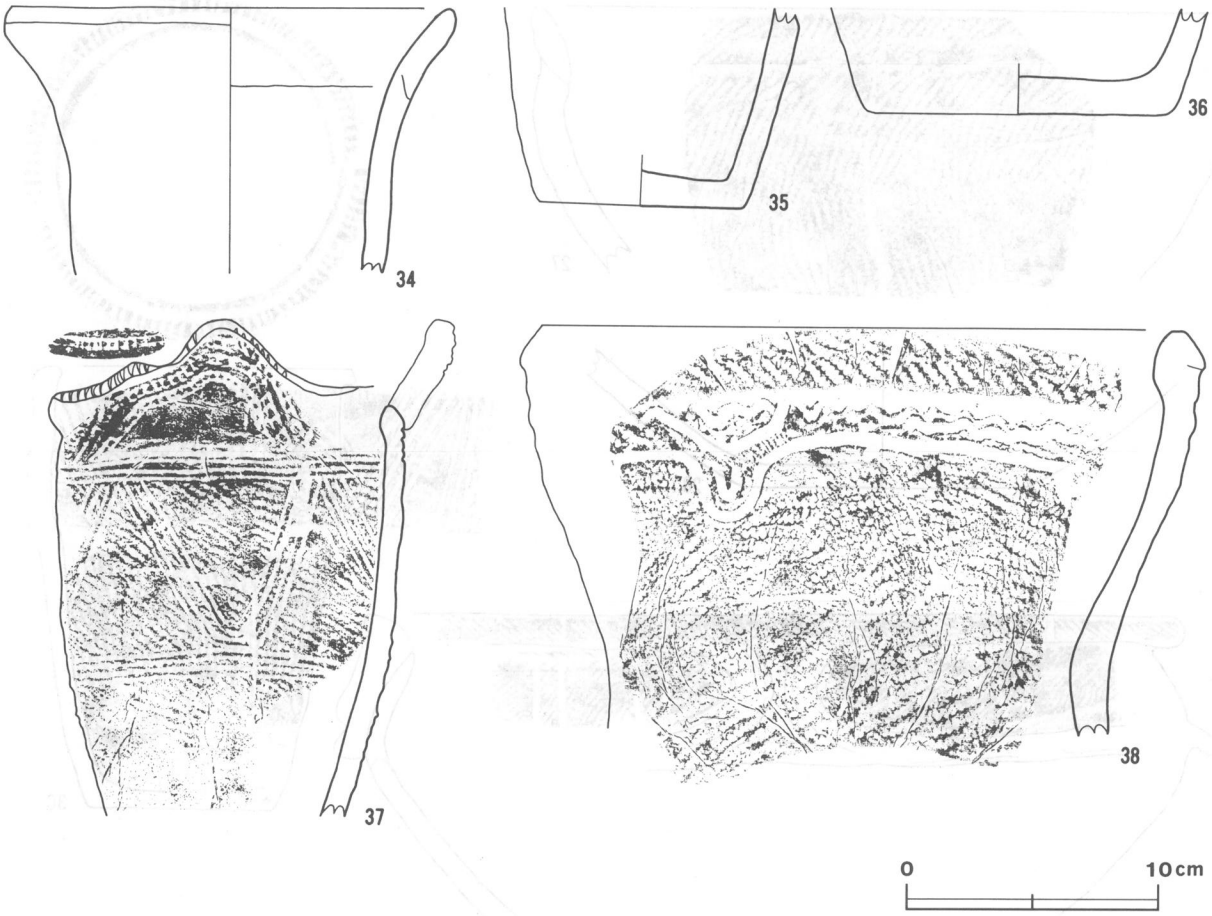
第114図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(3)



第115図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(4)



第116図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(5)



第117図　袋状土坑出土遺物実測・拓影図(6)

第1189号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 12	深鉢形土器 縄文土器	A 12.8 B 19.4 C 6.6	口縁部に突起する1単位の眼鏡状の把手を有する。頸部でくびれ，胴部が張る器形である。口縁部文様帯は，隆帯によって波状や渦巻文を描いている。胴部は，単節縄文RLを横位回転で施文している。底面から3cmほどまではナデを施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P80　100%あ　PL36 底面 (中峠式)
第114図 13	深鉢形土器 縄文土器	A[27.0] B(10.3)	胴部から口縁部片。頸部でくびれ，口縁部は外傾する。口縁部無文。頸部に交互刺突文が巡る。胴部は，縦位と横位の沈線を施している。	雲母・長石 にぶい橙色　普通	P81　10%　PL35 底面　(中峠式)
14	深鉢形土器 縄文土器	A[16.0] B(8.6)	胴部から口縁部片。橋状把手を有する。胴部上位は外傾して立ち上がり口縁部は内傾して立ち上がる。口縁部に二条の沈線と交互刺突文を描いている。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P82　10%　PL35 底面 (中峠式)
15	深鉢形土器 縄文土器	B(11.4)	山形把手。沈線により二つの渦巻文を描いている。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色　普通	P83　5%　PL35 底面　(中峠式)
16	深鉢形土器 縄文土器	B(9.5) C 13.0	底部から胴部片。平底。底面から8cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母 橙色　普通	P84　20% 底面　(中峠式)
17	深鉢形土器 縄文土器	B(6.3) C 8.6	底部から胴部片。平底。底面から5cmほどまでは，横位ナデを施している。底面に網代痕が残る。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色　普通	P85　10% 底面
18	深鉢形土器 縄文土器	B(9.4) C[13.0]	底部片。外面に条線文を施している。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色　普通	P86　10%　PL36 底面

第1194号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第114図 19	深鉢形土器 縄文土器	A[12.6] B(8.6)	胴部から口縁部片。有孔把手を有する。胴部上位はやや外反し，口縁部は内彎しながら立ち上がる。外面はナデを施している。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P90　30%　PL36 覆土中 (阿玉台Ⅲ式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第114図 20	深鉢形土器 縄文土器	A[25.8] B(20.0)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し，口縁部は内彎しながら立ち上がる。単節縄文ＲＬの縦位回転を地文に，口縁部には沈線による渦巻文を描き，胴部には複列の沈線が垂下する。	砂粒・雲母・ スコリア 橙色　普通	P91　30%　PL34 覆土下層 (中期中葉)
21	深鉢形土器 縄文土器	B(16.7) C[15.6]	底部から胴部片。胴部は沈線や隆帯による楕円形，長方形に区画され，区画内に爪形文や沈線を施している。底部無文。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P92　20%　PL36 覆土中 (勝坂式)
第115図 22	深鉢形土器 縄文土器	A[48.0] B(16.0)	頸部から口縁部片。頸部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁部文様帯は，隆帯により楕円形に区画され，区画内に爪形文や波状沈線を施している。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P93　10% 覆土中 (中峠式)

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第115図23	磨　石	6.6	6.3	3.4	260.0	砂　岩	Q49　覆土中　PL59

第1244号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第115図 24	深鉢形土器 縄文土器	A[55.0] B(44.1)	胴部から口縁部片。眼鏡状の把手を有する。胴部は内彎気味に立ち上がる。頸部でくびれ，口縁部で外反する。口唇部に交互刺突文を施している。胴部には縄文地文に隆帯と沈線で文様を描き，隆帯に沿って爪形文を施している。	砂粒・雲母 にぶい橙色 普通	P117　20%　PL37 覆土下層 (大木８ａ式並行)
25	深鉢形土器 縄文土器	A 24.0 B(21.0)	胴部から口縁部片。胴部は外傾し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部に２単位の突起が認められる。口唇部に単節縄文を施している。胴部上位は，単節縄文を地文に沈線による半円を描き，3本単位の沈線が垂下する。下位は，単節縄文を地文に斜位に押圧縄文を施している。	砂粒・雲母・石英 スコリア にぶい褐色 普通	P118　25%　PL37 覆土下層 阿玉台Ⅳ式 (大木８ａ式の影響)
26	深鉢形土器 縄文土器	A[14.0] B(16.6)	胴部から口縁部片。口縁部に１単位の突起を有する。胴部から口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部文様帯は，交互刺突文が巡る。胴部は単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。胴部下位は，横位のナデを施している。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P119　30%　PL36 覆土下層 (中峠式)
第116図 27	深鉢形土器 縄文土器	A[27.2] B(10.7)	胴部から口縁部片。胴部上位は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外反気味に立ち上がる。口縁に沿って隆帯が貼られ，隆帯上に単節縄文を施している。胴部は，単節縄文を施文している。	長石・雲母・ スコリア 明赤褐色　普通	P120　10% 覆土下層 (中峠式)
28	浅鉢形土器 縄文土器	B(4.4) C 11.6	底部片。平底。	砂粒・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P121　10% 覆土下層 (中峠式)

第1254号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第116図 29	浅鉢形土器 縄文土器	A 32.6 B 17.9 C 12.8	口縁部一部欠損。平底。胴部は外傾する。口縁部は内傾し，口縁端部で外反する。口縁部文様帯は，隆帯で区画され，隆帯の内側沿いに押引文を施している。区画内には，無節縄文が充填されている。胴部は，横位のナデを施している。	砂粒・雲母・長石 にぶい褐色 普通	P128　70%　PL38 覆土下層 (阿玉台Ⅳ式)
30	深鉢形土器 縄文土器	A 13.2 B 17.5 C 7.5	平底。口唇部に沈線とキザミ目が巡る。胴部上位に沈線を施し，下位には単節縄文ＲＬを横位回転で施文している。底面から３cmほどまでは，横位のナデを施している。	砂粒・雲母・ スコリア 橙色　普通	P129　100%　PL36 覆土中 (中峠式)
31	深鉢形土器 縄文土器	A 21.6 B(20.6)	底部欠損。胴部は外反し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部文様帯は，隆帯によるクランク文を施している。胴部は，複列の横位沈線と縦位沈線を施している。単節縄文を地文としている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P130　80%　PL36 覆土下層 (中峠式)
32	深鉢形土器 縄文土器	A 23.0 B(5.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，隆帯により渦巻文を描いている。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色 普通	P131　10%　PL37 覆土下層 (加曽利ＥⅠ式)
33	深鉢形土器 縄文土器	A[28.0] B(8.9)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，隆帯と沈線で構成されている。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P132　10%　PL38 覆土下層 (加曽利ＥⅠ式)
第117図 34	深鉢形土器 縄文土器	A[17.4] B(10.6)	胴部から口縁部片。胴部はほぼ垂直に立ち上がり，口縁部は外反する。内・外面ナデを施している。	砂粒・石英・雲母 橙色 普通	P133　10%　PL38 覆土下層 (阿玉台Ⅲ式)

第1288号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第117図 35	深鉢形土器 縄文土器	B(8.1) C 8.0	底部片。平底。胴部下位は，縦位のナデを施している。	砂粒・雲母・長石 明赤褐色　普通	P137　30%　PL38 覆土中(加曽利ＥⅠ式)
36	深鉢形土器 縄文土器	B(4.4) C 12.0	底部片。	砂粒・雲母・長石 橙色　普通	P138　10%　PL38 覆土中(加曽利ＥⅠ式)

第1303号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第117図 37	深鉢形土器 縄文土器	A[13.6] B(19.8)	胴部から口縁部片。胴部は内彎気味に立ち上がり，口縁部で外傾する。口縁部に１単位の突起が認められ，突起の周辺に半截竹管による押引き刺突文を施している。以下に，無節縄文を地文に，4本単位の沈線を施している。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P140　40%　PL38 覆土中 (中峠式)
38	深鉢形土器 縄文土器	A[25.6] B(16.0)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し，口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部文様帯は，複列の波状沈線を施している。胴部は，単節縄文を施文している。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P141　10% 底面 (中峠式)

(2)　地下式壙

当遺跡から地下式壙14基を検出した。

第８号地下式壙〔SK－1342〕(第118図)

位置　D17j_7区。

主軸方向　N－10°－W

竪坑　上面は，長軸2.7m，短軸1.16mの不整形で，深さ2.0mである。底面は，長軸0.78m，短軸0.64mの長方形である。

主室　底面は，長軸3.0m，短軸2.4mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，2.0mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

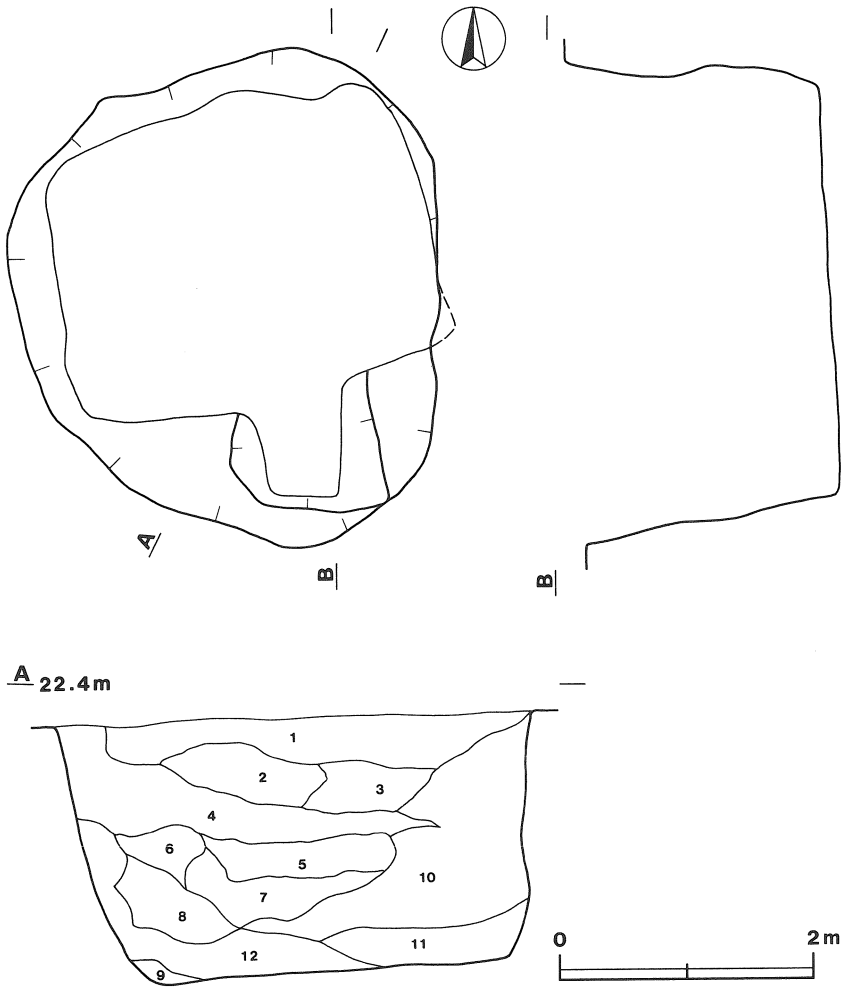
覆土　12層からなる。１～３層からは，縄文土器片が出土し，４～８層は，ローム小・中・大ブロックが多量に含まれており，いずれも人為的に埋め戻したものと思われる。９層は，初期の段階に堆積したものと考えられる。10層のロームは，天井部が崩落したものと考えられる。11層のロームは，天井部の初期の崩落土と思われる。12層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

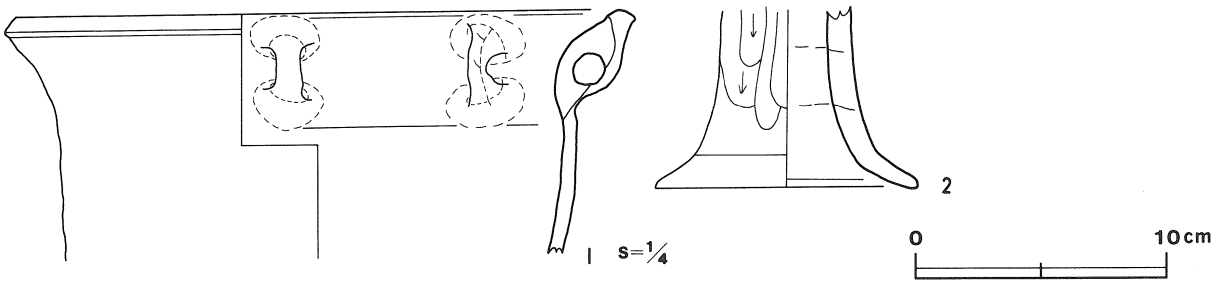
1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，柔らかい
4　褐　色　ローム中・大ブロック多量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
6　暗褐色　ローム小・中ブロック多量，褐色土中量
7　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
8　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量，褐色土少量
9　暗褐色　ローム中・大ブロック中量
10　ローム　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
11　ローム　ローム中ブロック多量，柔らかい
12　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量

遺物　第119図１の土師質土器（内耳鍋），混入したと思われる２の土師器（高坏）の脚部と縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，15世紀後半から16世紀前半と考えられる。土師器（高坏）の脚部については，Ｄ地区の南東側に隣接するＦ地区に古墳時代後期の集落跡があるため，そこからの混入と思われる。



第118図　第８号地下式壙実測図



第119図　第８号地下式壙出土遺物実測図

第８号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第119図 1	内耳鍋 土師質土器	A[31.6] B(13.0)	体部から口縁部片。体部はほぼ垂直に立ち上がり，口縁部は外傾する。	体部・口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P155　20%　PL39 覆土中 体部外面煤付着
2	高　坏 土師器	E (7.2) D[10.4]	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ，内面横ナデ。裾部内・外面丁寧な横ナデ。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色　普通	P156　20% 覆土中（混入） （古墳時代後期）

第９号地下式壙〔SK－1386〕（第120図）

位置　D17i8区。

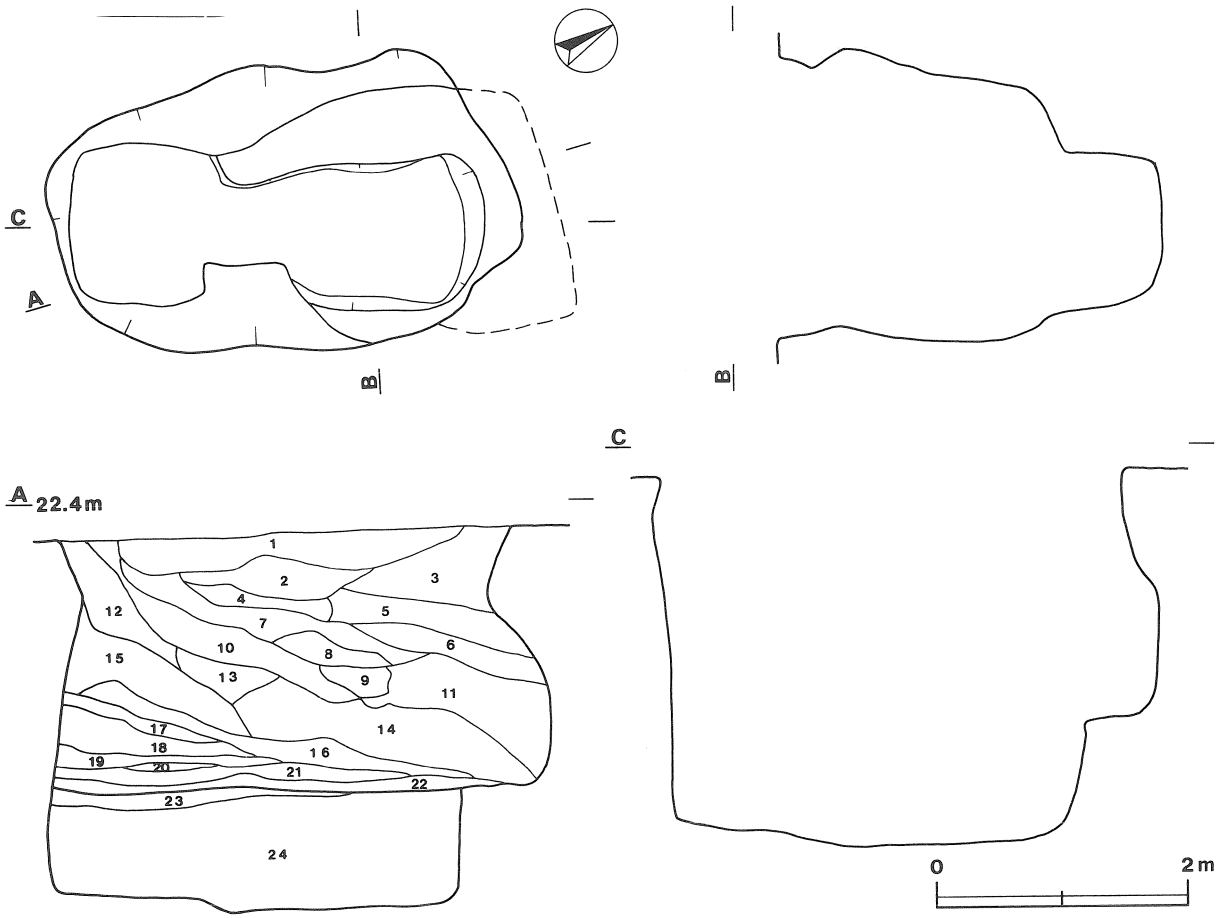
主軸方向　N－16°－E

竪坑　上面は，長軸2.0m，短軸1.74mの長方形で，深さ2.0mである。底面は，長軸1.7m，短軸1.3mの長方形である。

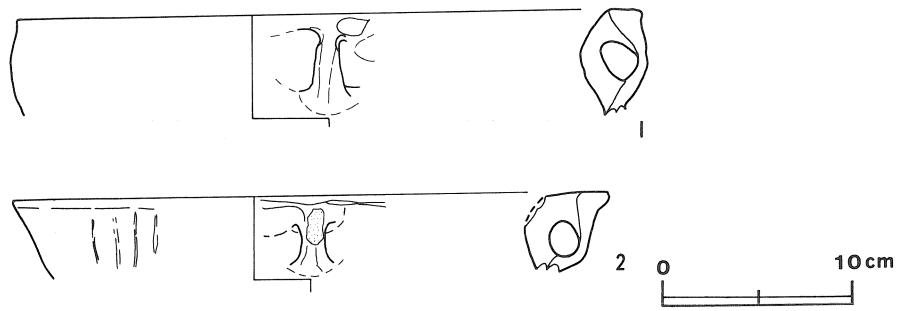
主室　底面は，長軸2.15m，短軸2.0mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，2.0mである。

壁　竪坑は，垂直に立ち上がる。主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。主室の天井部の一部が残存している。

覆土　24層からなる。１～５，７～10層は，ローム中・大ブロックが含まれ，いずれも人為的に埋め戻したものと思われる。12～20層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。６・11・14層のロームは，天井部が崩落したものと考えられる。21・22・23層間からは，炭化物が出土し，22層の上面は硬く締まりが確認できた。さ



第120図　第９号地下式壙実測図



第121図　第９号地下式壙出土遺物実測図

らに，24層はローム中・大ブロックが多量に含まれ，人為的に埋めたものと考えられる。上面は，硬く締まりが確認できた。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
4　暗褐色　ローム中・大ブロック多量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
6　ロ　ー　ム　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
7　暗褐色　ソフトローム中・大ブロック中量
8　褐　色　ローム中・大ブロック多量，褐色土中量
9　暗褐色　ローム中・大ブロック中量
10　褐　色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
11　ロ　ー　ム　ローム中ブロック多量，柔らかい
12　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
13　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，ローム中ブロック少量
14　ロ　ー　ム　ローム小・中ブロック多量，柔らかい
15　褐　色　暗褐色土中量，ローム小・中ブロック少量
16　褐　色　ローム小・中ブロック中量
17　暗褐色　ローム粒子多量
18　褐　色　暗褐色土中量，ローム小・中・大ブロック少量
19　褐　色　ローム小・中ブロック中量，柔らかい
20　褐　色　ローム小・中ブロック少量
21　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子極少量
22　褐　色　ローム小・中ブロック中量，炭化物，締まりあり
23　褐　色　ローム小・中ブロック中量，上面に炭化物少量
24　褐　色　ローム中・大ブロック多量，上面締まりあり

遺物　第121図1と2の土師質土器（内耳鍋），陶器片，混入したと思われる縄文土器片が覆土中層から出土している。

所見　本跡は，覆土の状況から判断して24層を埋めた後，固めて作ったものと考えられる。また，24層の底部を見ると竪坑から主室に向かって，緩やかなスロープ状になっていることがわかる。これらのことから，本跡は，第120図のBの部分を作った後，Aの部分を作ったものと考えられる。時期は，出土遺物から判断して，15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

第9号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第121図 1	内耳鍋 土師質土器	A[32.8] B(5.7)	口縁部片。口縁部は，内彎しながら立ち上がる。耳部の上位に吊したと考えられる紐ずれ痕が認められる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P163　5％ 覆土中 外面煤付着
2	内耳鍋 土師質土器	A[32.8] B(5.7)	口縁部片。口縁部は，内彎しながら立ち上がる。耳部は，やや小さい。	内面横ナデ。外面横ナデ後，縦位の工具痕が認められる。	長石・雲母・石英 明赤褐色 普通	P164　5％ 覆土中 外面煤付着

第10号地下式壙〔SK－1425〕（第122図）

位置　E17a6区。

主軸方向　N－2°－W

竪坑　上面は，長軸2.46m，短軸2.32mの不整形で，深さ2.04mである。底面は，長軸1.3m，短軸1.0mの長方形である。

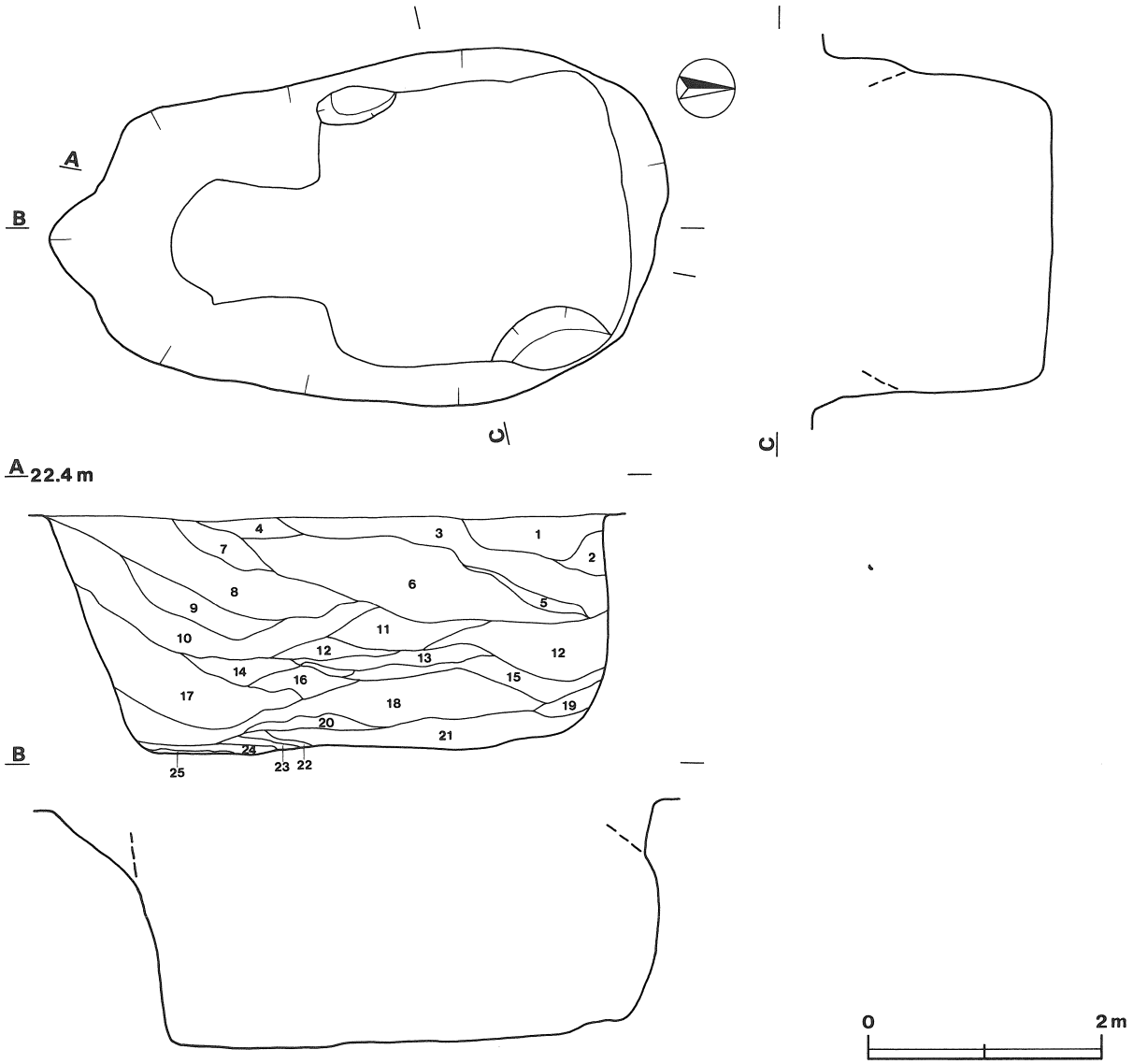
主室　底面は，長軸2.56m，短軸2.38mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，2.0mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　25層からなる。1～9層は，ローム中・大ブロックが含まれ，人為的に埋め戻したものと思われる。10層と17層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。12・18・19・21層のロームは，天井部が崩落したのもと考えられる。16層から縄文土器片が出土している。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，暗褐色土大ブロック中量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・大ブロック・明褐色土少量
4　褐　色　ローム中・大ブロック多量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
6　褐　色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
7　暗褐色　ローム粒子多量，ソフトローム中・大ブロック中量
8　にぶい褐色　ローム中・大ブロック多量，褐色土中量
9　褐　色　ローム中・大ブロック多量
10　暗褐色　ローム中・大ブロック多量，炭化粒子中量
11　褐　色　ローム中ブロック多量，柔らかい
12　ロ　ー　ム　ローム大ブロック多量
13　暗褐色　ローム粒子少量



第122図　第10号地下式壙実測図

14　ロ　ー　ム　ローム小・中ブロック多量，柔らかい
15　褐　　色　ローム小・中ブロック少量
16　褐　　色　ローム小・中ブロック中量
17　褐　　色　ローム粒子多量
18　ロ　ー　ム　ローム小・中・大ブロック少量
19　ロ　ー　ム　ローム大ブロック中量
20　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
21　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子極少量
22　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
23　褐　　色　ローム小・中ブロック中量
24　褐　　色　ローム中・大ブロック多量
25　暗　褐　色　褐色土中量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

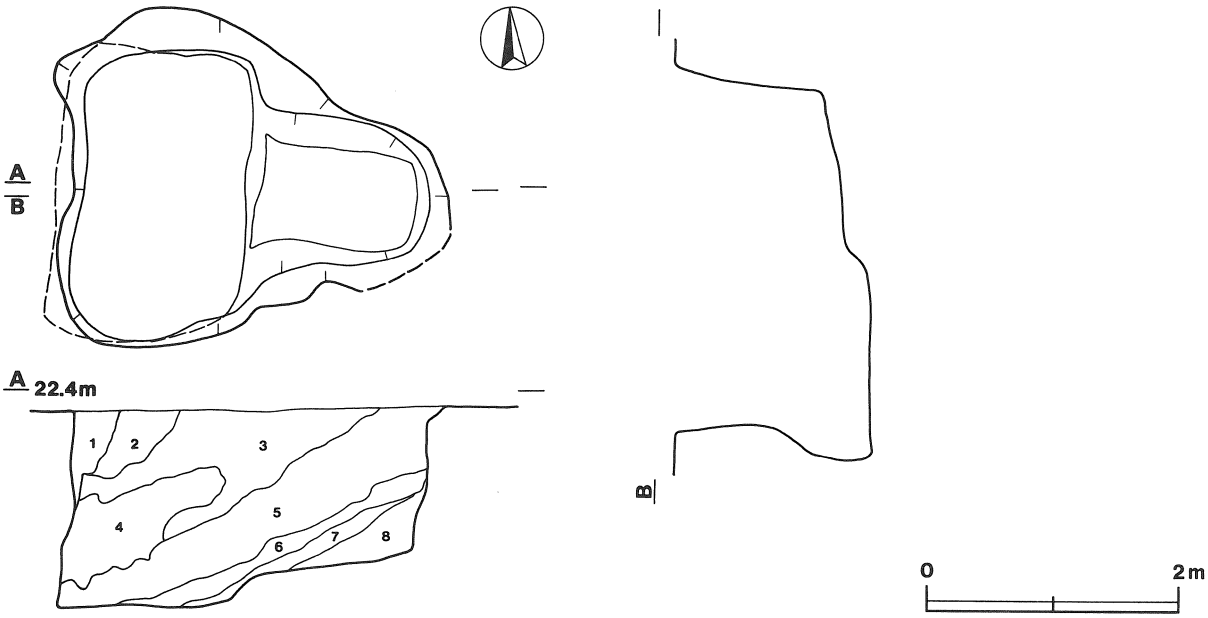
所見　本跡は，覆土の堆積状況から判断して，天井部は数回にわたって崩落したものと考えられる。時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第11号地下式壙〔SK－1433〕（第123図）

位置　D17i_3区。

主軸方向　N－83°－W

竪坑　上面は，長軸1.53m，短軸1.37mの不整形で，深さ1.36mである。底面は，長軸1.35m，短軸0.78mの長方形である。主室に向かって，緩やかなスロープ状になっており，主室との境に段をもつ。



第123図　第11号地下式壙実測図

主室　底面は，長軸2.35m，短軸1.5mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.56mである。

壁　竪坑と主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　8層からなる。1層は，天井部の残存部と考えられる。2・3層から縄文土器片が出土している。5層は，人為的に一挙に埋め戻したものと考えられる。4層は，天井部の崩落土と思われる。6～8層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

1　ハードロームブロック
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小・中ブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，褐色土中量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中・大ブロック中量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中・大ブロック中量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第12号地下式壙〔SK－1453〕（第124図）

位置　D17h2区。

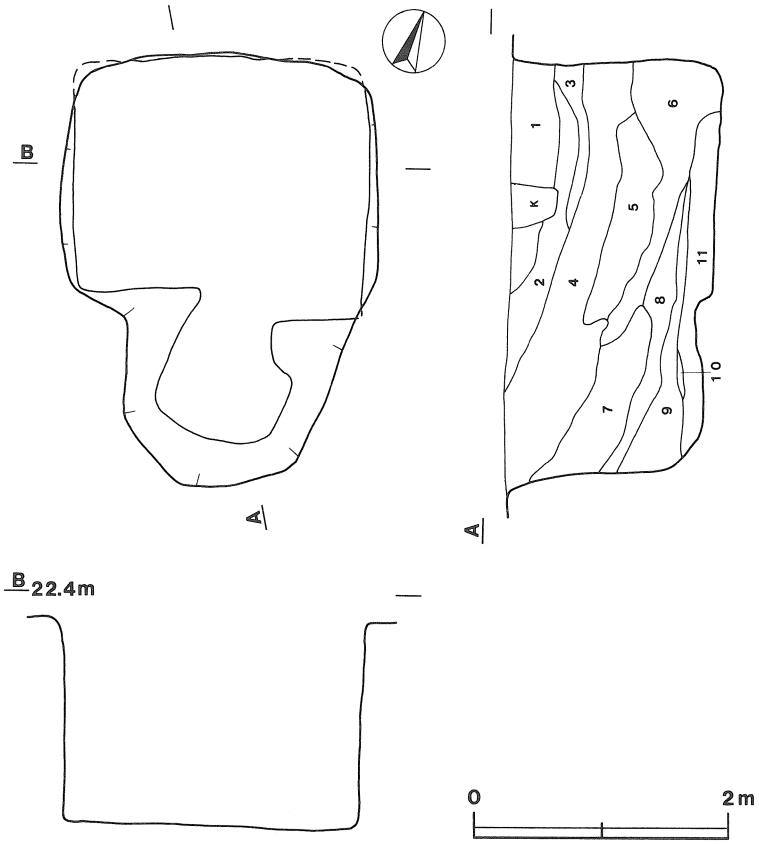
主軸方向　N－17°－W

竪坑　上面は，長軸1.62m，短軸1.32mの不整形で，深さ1.62mである。底面は，長軸1.1m，短軸0.98mの不整形である。主室との境に段をもつ。

主室　底面は，長軸2.47m，単軸2.08mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.62mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　11層からなる。1～3層は，ローム小・中・大ブロックが多量に含まれており，いずれも人為的に埋め戻したものと思われる。4・7～9層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。5・6層のロームは，天井部が崩落したものと考えられる。



土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小・中ブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，炭化物
5　明　褐　色　ローム中ブロック中量
6　ロ　ー　ム
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
8　褐　　色　ローム中・大ブロック中量，褐色土少量
9　暗　褐　色　ローム中・大ブロック中量
10　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
11　褐　　色　ローム中ブロック多量，柔らかい

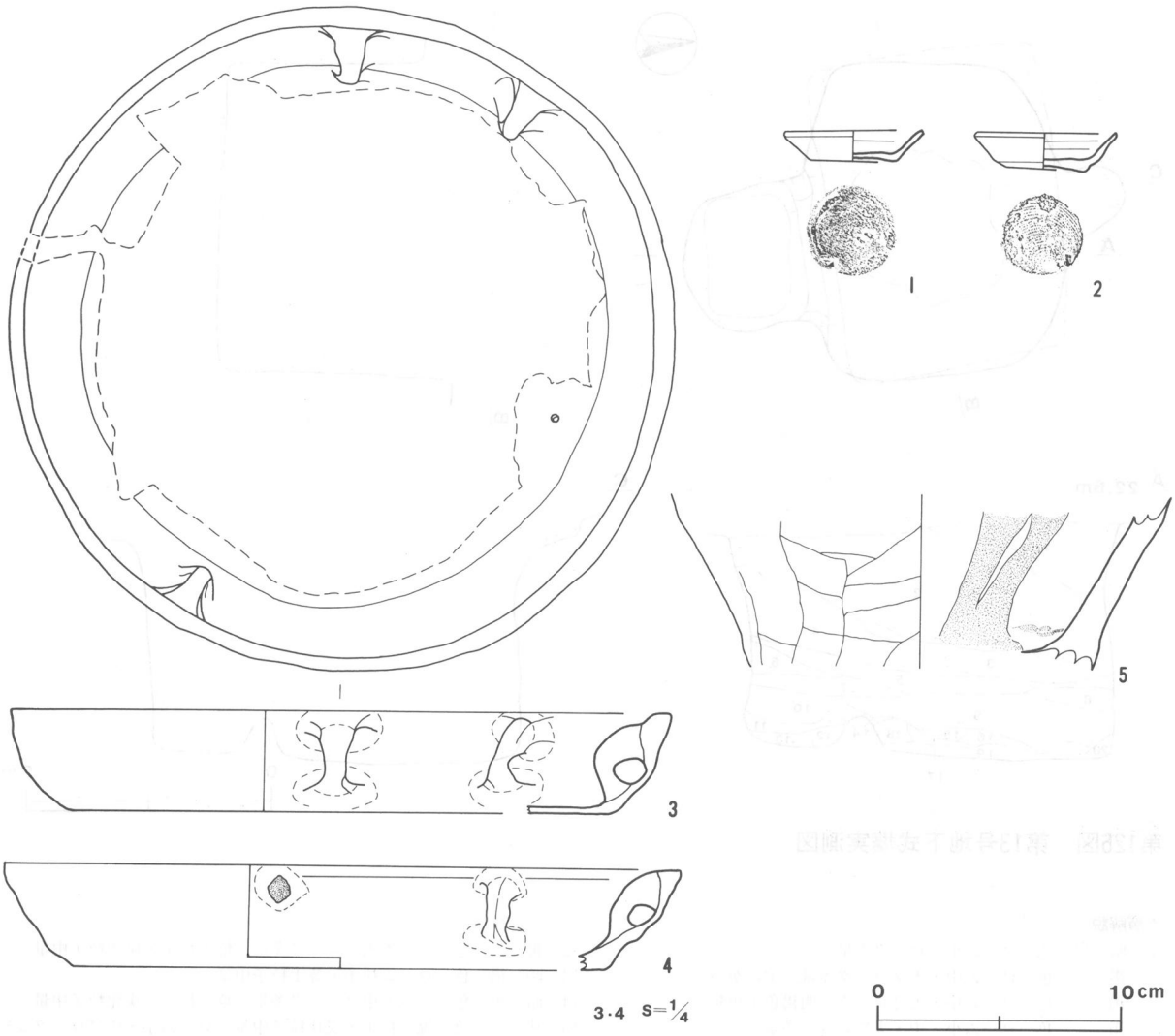
第124図　第12号地下式壙実測図

遺物　第125図１と２の土師質土器（皿），３と４の土師質土器（内耳鍋），５の常滑の鉢の胴部，土師質土器片，陶器片，混入したと思われる縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡は，竪坑から向かって主室が左に傾いて作られている。時期は，出土遺物から判断して，15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

第12号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第125図 1	皿 土師質土器	A 5.6 B 1.8 C 3.4	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P173 100% PL39 覆土中
2	皿 土師質土器	A 5.7 B 1.7 C 3.2	平底。体部・口縁部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P174 100% PL39 覆土中
3	内耳鍋 土師質土器	A 35.8 B 5.5 C 24.8	底部欠損。体部・口縁部は内彎気味に立ち上がる。耳部の中位に吊したと考えられる紐ずれ痕が認められる。	体部・口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P175 60% PL39 覆土中 外面煤付着
4	内耳鍋 土師質土器	A[36.6] B 5.6	体部から口縁部片。体部・口縁部はやや内彎しながら立ち上がる。耳部はやや小さい。	体部・口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・石英・雲母 橙色　普通	P176 30% 覆土中 外面煤付着
5	鉢 陶　器	B(7.1)	底部から体部片。体部下位は，外傾する。	体部下位外面ヘラナデ。内面に釉流れが見られる。	灰色外面暗赤褐色 鉄釉 普通	P177 30% PL39 覆土中 常滑産



第125図　第12号地下式壙出土遺物実測・拓影図

第13号地下式壙〔SK－1461〕（第126図）

位置　D17h2区。

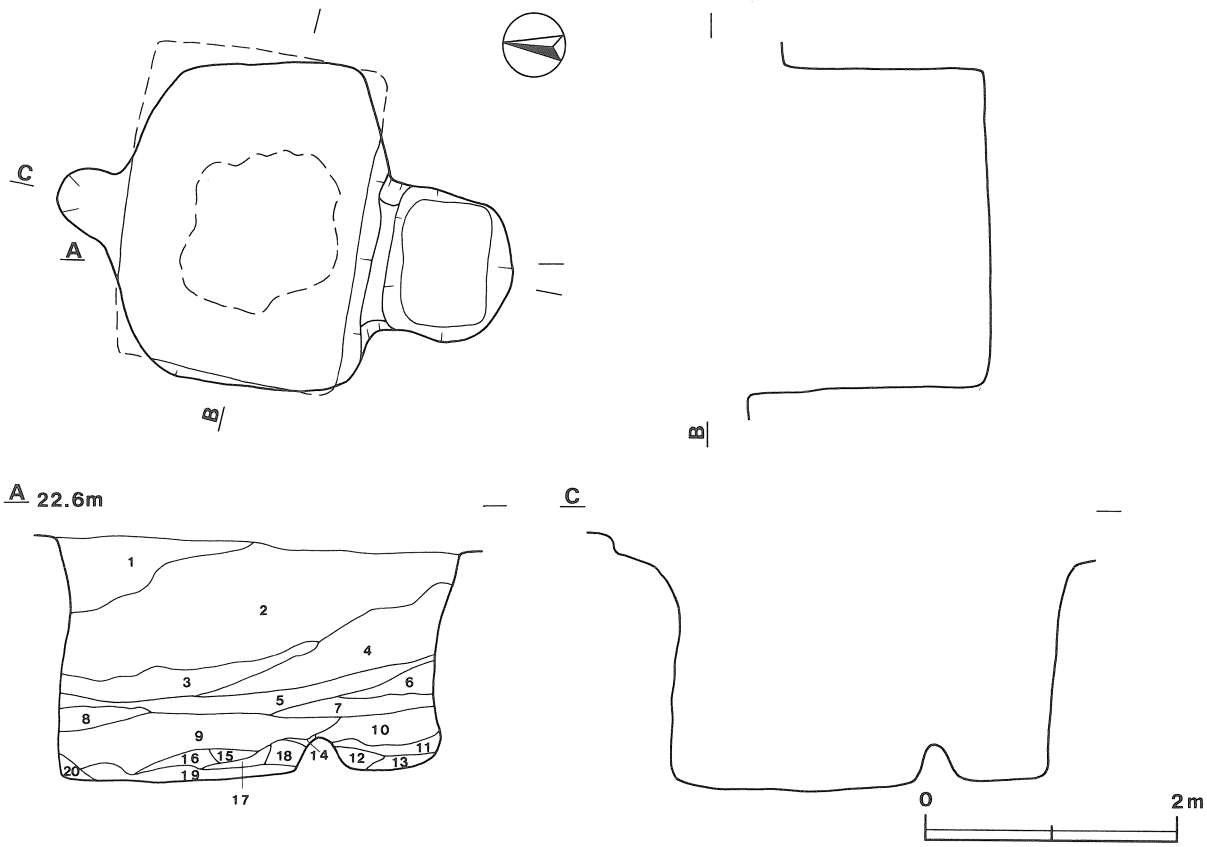
主軸方向　N－2°－E

竪坑　上面は，長軸1.2m，短軸1.0mの不整形で，深さ1.72mである。底面は，長軸1.0m，短軸0.65mの長方形である。主室との境に，高さ約30cm，幅約20cmの土手状の仕切が確認できた。

主室　底面は，長軸2.6m，短軸1.88mの長方形で，平坦である。ほぼ中央に，薄い板材と思われる炭化物が認められ，その上部から骨片や骨粉が出土している。確認面から底面までの深さは，1.9mである。

壁　竪坑と主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　20層からなる。2・3層は，ローム中・大ブロックが含まれ，天井部の崩落土と考えられる。4～7層は，人為的に埋め戻したものと思われる。9・10層から縄文土器片が出土している。19層から骨片と骨粉，炭化物が出土している。



第126図　第13号地下式壙実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
3　褐　　色　ローム中・大ブロック・明褐色土少量
4　褐　　色　ローム小・中・大ブロック多量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
6　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
7　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム中・大ブロック中量
8　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
10　暗　褐　色　ローム中・大ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
11　にぶい褐色　ローム中ブロック多量，柔らかい
12　褐　　色　ローム大ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量
14　暗　褐　色　ローム中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
15　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
16　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック中量
17　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量
18　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
19　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック中量
20　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，粘土小ブロック少量

遺物　覆土中から骨片，骨粉，炭化材，混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，竪坑と主室の境に土手状の仕切と思われるものが確認できた。覆土中から出土した炭化材については，性格不明である。底面から骨片や骨粉が出土していることから，墓壙と考えられる。時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第14号地下式壙〔SK－1482〕（第127図）

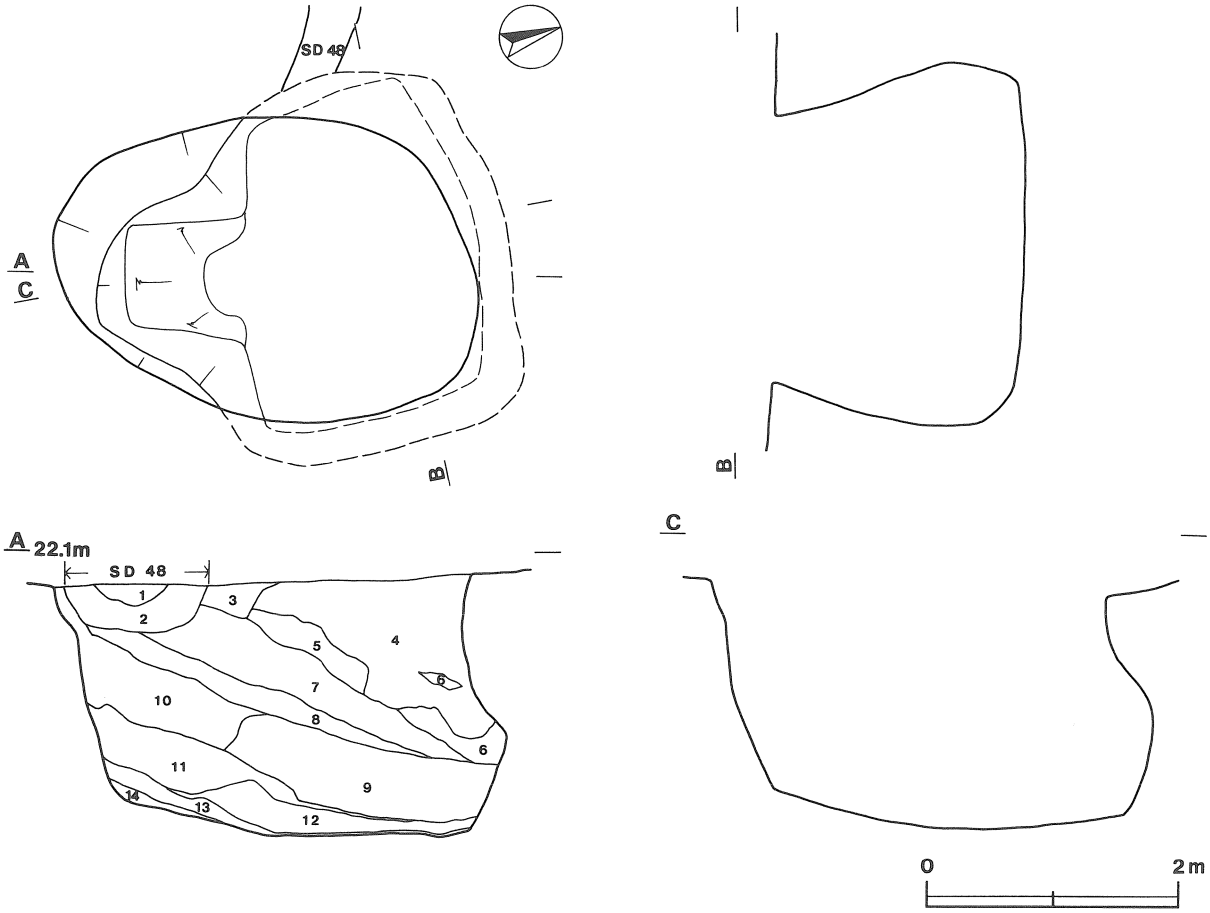
位置　E17c4区。

重複関係　竪坑の上部を第48号溝が掘り込んでいる。

主軸方向　N－8°－E

竪坑　上面は，長軸2.0m，短軸1.5mの不整形で，深さ1.7mである。底面は，長軸0.96m，短軸0.82mの長方形である。主室に向かって，緩やかなスロープ状になっている。

主室　底面は，長軸2.56m，短軸1.86mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，2.0mであ



第127図　第14号地下式壙実測図

る。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，内傾して立ち上がる。

覆土　14層からなる。1と2層は，第48号溝の土層である。3～5層は，人為的に埋め戻したものと考えられる。4層から縄文土器片が出土している。6と9層のロームは，天井部が崩落したのもと考えられる。9層と10層の間からハマグリの貝殻が多量に出土している。13・14層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

1	褐　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2	褐　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
3	明褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
5	褐　色	ハードローム中・大ブロック多量
6	ロ　ー　ム	
7	明褐色	炭化粒子中量
8	にぶい褐色	ハードローム中・大ブロック多量
9	褐　色	ローム中・大ブロック多量
10	暗褐色	ローム中・大ブロック多量，炭化粒子中量
11	褐　色	ローム中ブロック多量
12	褐　色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小・中ブロック少量
13	褐　色	炭化粒子中量
14	灰褐色	ローム粒子中量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第15号地下式壙〔SK－1486〕（第128図）

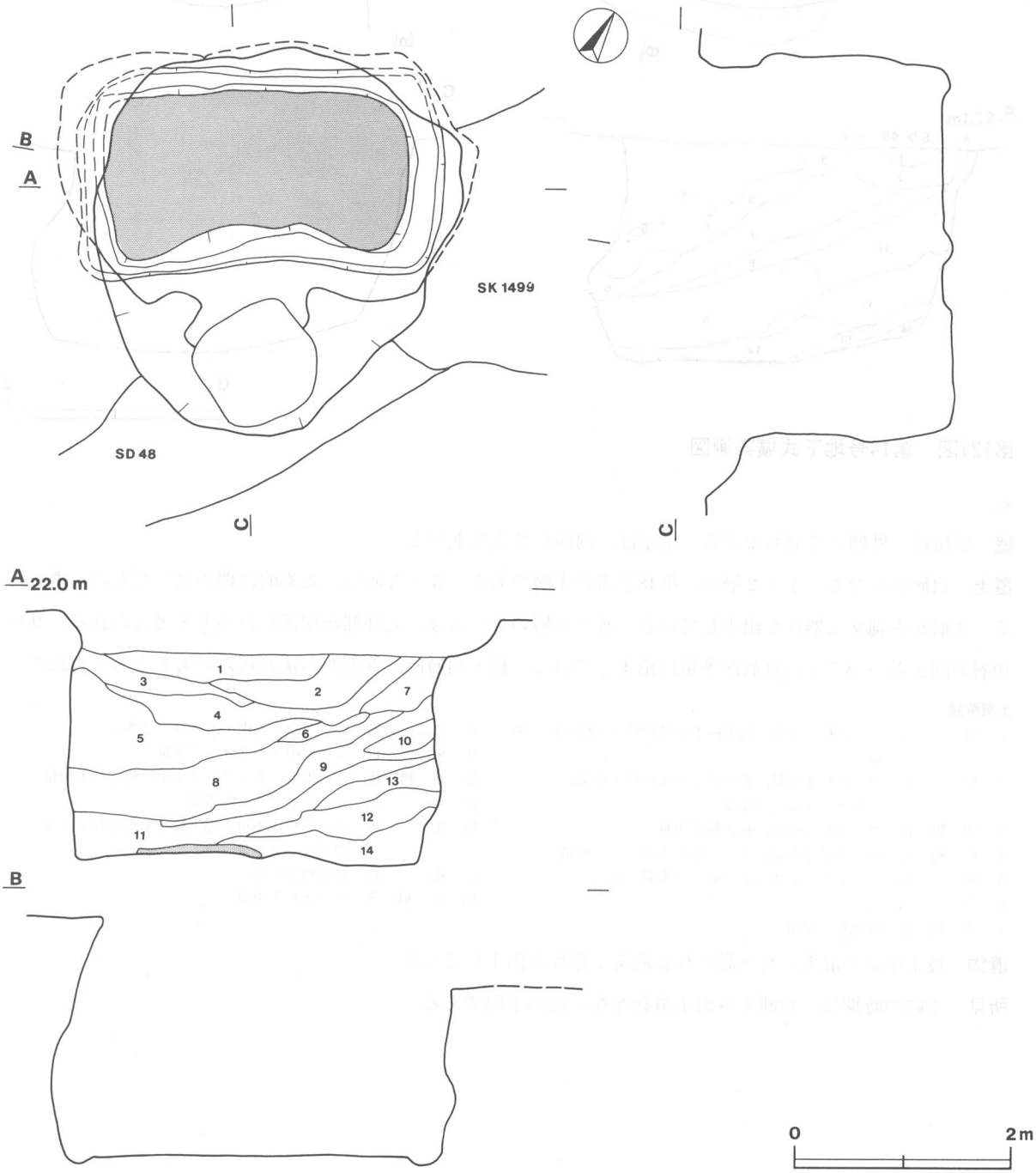
位置　E16d9区。

重複関係　竪坑の上部を第48号溝が掘り込み，主室の東側部分で第1499号土坑を掘り込んでいる。

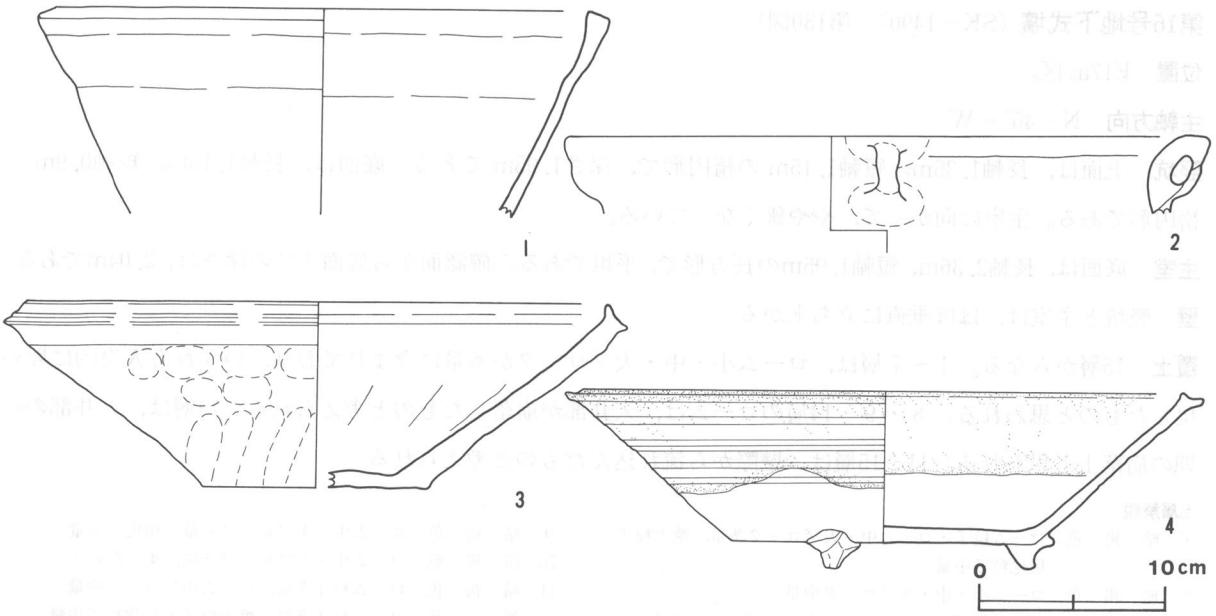
主軸方向　N－27°－W

竪坑　上面は，長軸2.17m，短軸1.36mの不整形で，深さ2.3mである。底面は，長軸1.22m，短軸1.16mの長方形である。

主室　底面は，長軸3.40m，短軸1.78mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，2.26mである。壁際を幅約30cm，深さ約10cmの溝が全周している。



第128図　第15号地下式壙実測図



第129図　第15号地下式壙出土遺物実測図

壁　竪坑は，垂直に立ち上がる。主室は，内傾して立ち上がる。

覆土　14層からなる。1～4層は，人為的に埋め戻したものと考えられる。4層から縄文土器片が出土している。6と9層のロームは，天井部が崩落したものと考えられる。9～14層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
2　褐　色　ローム粒子多量，暗褐色土中量
3　明褐色　ローム粒子・ハードローム中・大ブロック中量
4　明褐色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
5　ロ　ー　ム　ローム小・中ブロック中量
6　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック中量
7　褐　色　ローム粒子・ハードローム中ブロック中量
8　ロ　ー　ム
9　暗褐色　ローム中・大ブロック多量
10　明褐色　焼土粒子中量
11　褐　色　ローム中ブロック多量，暗褐色土少量
12　暗褐色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック少量
13　褐　色　暗褐色土・炭化粒子中量
14　褐　色　ソフトローム小・中ブロック中量，暗褐色土少量

遺物　第129図1と2の土師質土器（内耳鍋），3と4の鉢，混入したと思われる縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡は，主室の底面に溝が全周している。時期は，出土遺物から判断して，15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

第15号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 1	内耳鍋 土師質土器	A[28.0] B(11.1)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて外傾する。	体部・口縁部内・外面横ナデ。	雲母・石英・長石・スコリア にぶい褐色 普通	P188　10% 覆土中 外面煤付着
2	内耳鍋 土師質土器	A[33.6] B (4.1)	口縁部片。口縁部は，内彎気味に立ち上がる。耳部はやや小さい。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P189　5% 覆土中 外面煤付着
3	片口鉢 陶器	A[30.4] B 9.9 C[12.0]	平底。底部から口縁部にかけて，直線的に外傾する。	体部・口縁部内・外面横ナデ。体部外面に指頭痕有り。内面に縦位のナデ跡が残る。	砂粒・長石 灰色外面赤褐色 普通	P190　50%　PL39 覆土中 常滑産
4	鉢 陶器	A[33.6] B 9.4 C[16.0]	三足を付す。平底。底部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	足は，粘土をつまんで貼り付けている。体部下位は回転ヘラ削り。内・外面に灰釉を施している。	淡黄色 (釉)オリーブ黄色 普通	P191　20%　PL39 覆土中 古瀬戸

第16号地下式壙〔SK－1490〕（第130図）

位置　E17a7区。

主軸方向　N－45°－W

竪坑　上面は，長軸1.35m，短軸1.15mの楕円形で，深さ1.95mである。底面は，長軸1.15m，短軸0.9mの楕円形である。主室に向かって，やや狭くなっている。

主室　底面は，長軸2.36m，短軸1.95mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，2.04mである。

壁　竪坑と主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

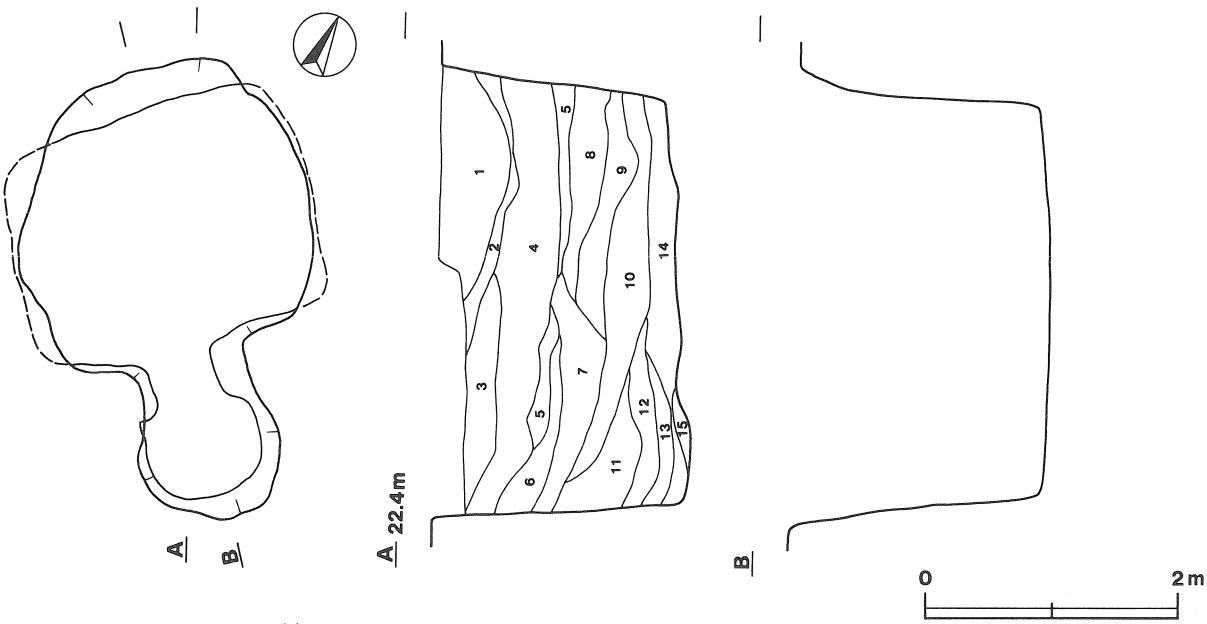
覆土　15層からなる。1～7層は，ローム小・中・大ブロックが多量に含まれており，いずれも人為的に埋め戻したものと思われる。8・9・14層のロームは，天井部が崩落したものと考えられる。14層は，天井部の初期の崩落土と思われる。11～15層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　暗褐色　ローム小・中・大ブロック中量
3　暗褐色　ローム粒子・ハードローム中・大ブロック多量
4　褐色　ローム中・大ブロック多量
5　褐色　ローム粒子多量，ローム小・中・大ブロック中量
6　暗褐色　ローム小・中ブロック多量
7　褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
8　褐色　ローム中・大ブロック多量
9　暗褐色　ローム中・大ブロック多量，褐色土少量
10　暗褐色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
11　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
12　褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
13　暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック中量
14　褐色　ローム小・中ブロック多量
15　暗褐色　ローム粒子・ローム中ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明である。



第130図　第16号地下式壙実測図

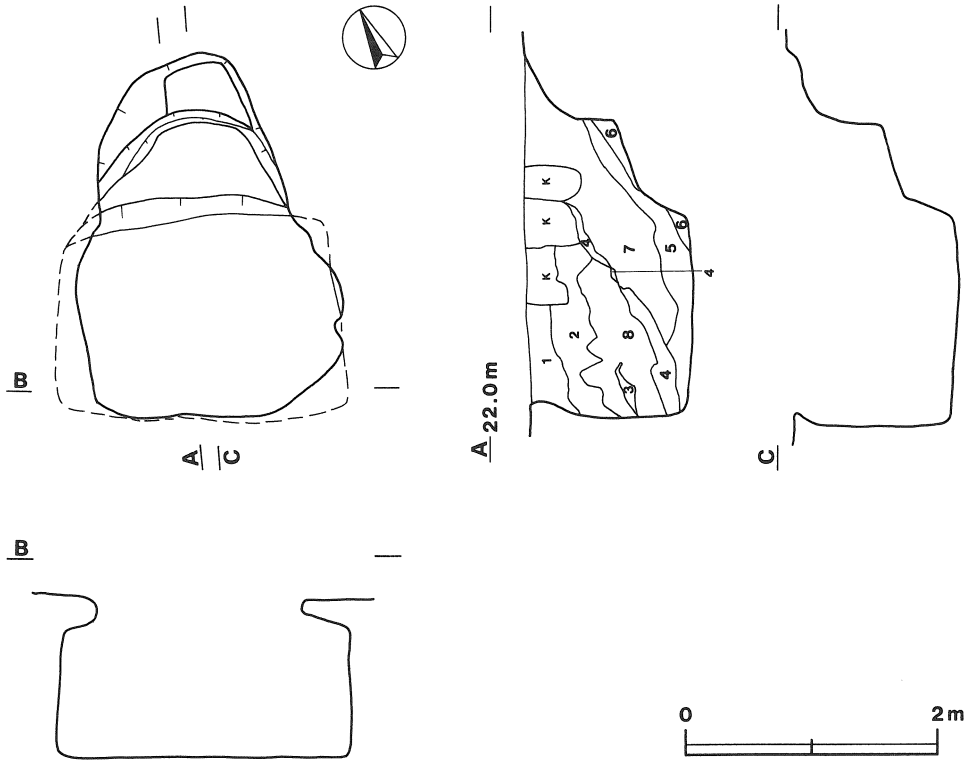
第17号地下式壙〔SK－1550〕（第131図）

位置　E17d1区。

主軸方向　N－27°－E

竪坑　上面は，長軸1.4m，短軸1.3mの不整形で，深さ0.85mである。主室に向かって，階段状になっている。

主室　底面は，長軸2.2m，短軸1.6mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.24mである。



第131図　第17号地下式壙実測図

天井部は，一部残存している。底面から天井部までの高さは，約1mである。

壁　竪坑と主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　8層からなる。1～2層は，ローム小・中・大ブロックが多量に含まれており，いずれも人為的に埋め戻したものと思われる。4～6層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。7層は，縄文土器片が出土し，人為的に一挙に埋め戻したものと考えられる。8層のロームは，天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

1	暗褐色　ローム粒子少量，ローム小・中ブロック中量	5	褐　色　ローム中ブロック中量，明褐色土少量
2	暗褐色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック中量	6	褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中ブロック少量
3	暗褐色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック中量	7	褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4	暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量	8	ロ　ー　ム

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，竪坑から主室に向かって，階段状に作られていることが特徴的である。周辺の地下式壙と比較して，規模はやや小型である。時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第18号地下式壙〔SK－1563〕（第132図）

位置　E17e1区。

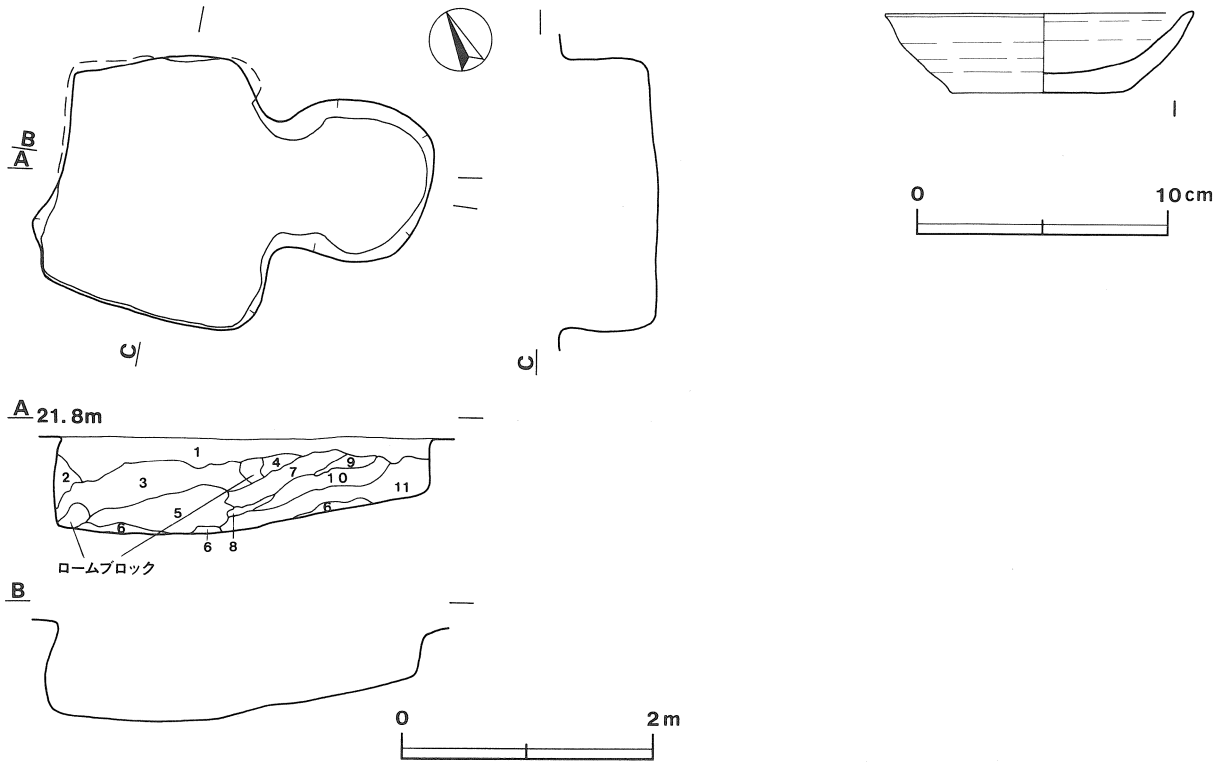
主軸方向　N－56°－W

竪坑　上面は，長軸1.26m，短軸1.2mの楕円形で，深さ0.56mである。底面は，長軸1.17m，短軸1.07mの楕円形である。主室に向かって，スロープ状になっている。

主室　底面は，長軸2.07m，短軸1.74mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，0.8mである。

壁　竪坑は，ほぼ垂直に立ち上がる。主室は，内傾して立ち上がる。

覆土　11層からなる。1・3層は，縄文土器片が出土し，人為堆積と考えられる。4・7～11層は，ロームブ



第132図　第18号地下式壙実測・出土遺物実測図

ロックが含まれており，いずれも人為的に埋め戻したものと思われる。5層は，天井部が崩落したのもと考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子中量
2　黒　褐　色　ローム中・大ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・ローム小・中ブロック中量
4　明　褐　色　ローム小・中ブロック中量
5　褐　　色　ローム中・大ブロック多量
6　暗　褐　色　ソフトハードローム中ブロック少量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
8　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム小・中ブロック少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック中量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック中量
11　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　第132図1の土師質土器（皿），混入したと思われる縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡は，竪坑から主室に向かってスロープ状につながっている。周辺の地下式壙と比較して，規模はやや小型である。時期は，出土遺物から判断して，15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

第18号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第132図 1	皿 土師質土器	A[12.4] B　3.2 C　6.8	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に外傾する。	ロクロ成形。	砂粒・雲母・スコリア 淡黄橙色　普通	P207　40% 覆土中

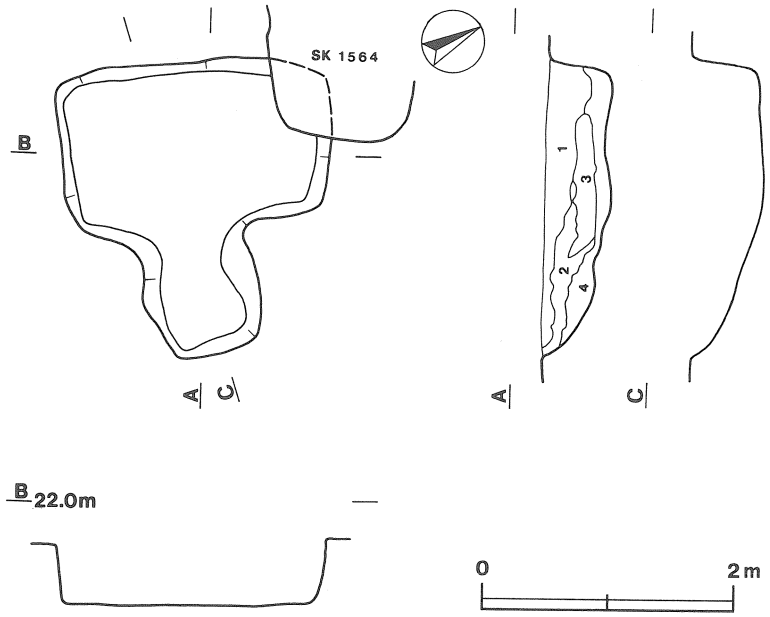
第19号地下式壙〔SK－1565〕（第133図）

位置　E17d3区。

重複関係　主室の北側部分が第1564号土坑に掘り込まれている。

主軸方向　N－73°－W

竪坑　上面は，長軸1.0m，短軸0.95mの不整形で，深さ0.35mである。主室に向かって，スロープ状になっている。



第133図　第19号地下式壙実測図

主室　底面は，長軸1.95m，短軸1.3mの長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，0.58mである。

壁　竪坑は，外傾して立ち上がる。主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

覆土　4層からなる。1・3層は，天井部が崩落したものと考えられる。2・4層は，壁際から流れ込んだものと考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ローム中・大ブロック多量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，柔らかい
4　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，竪坑から主室に向かってスロープ状につながっている。周辺の地下式壙と比較して，規模はやや小型である。時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第20号地下式壙〔SK－1568〕（第134図）

位置　E16g8区。

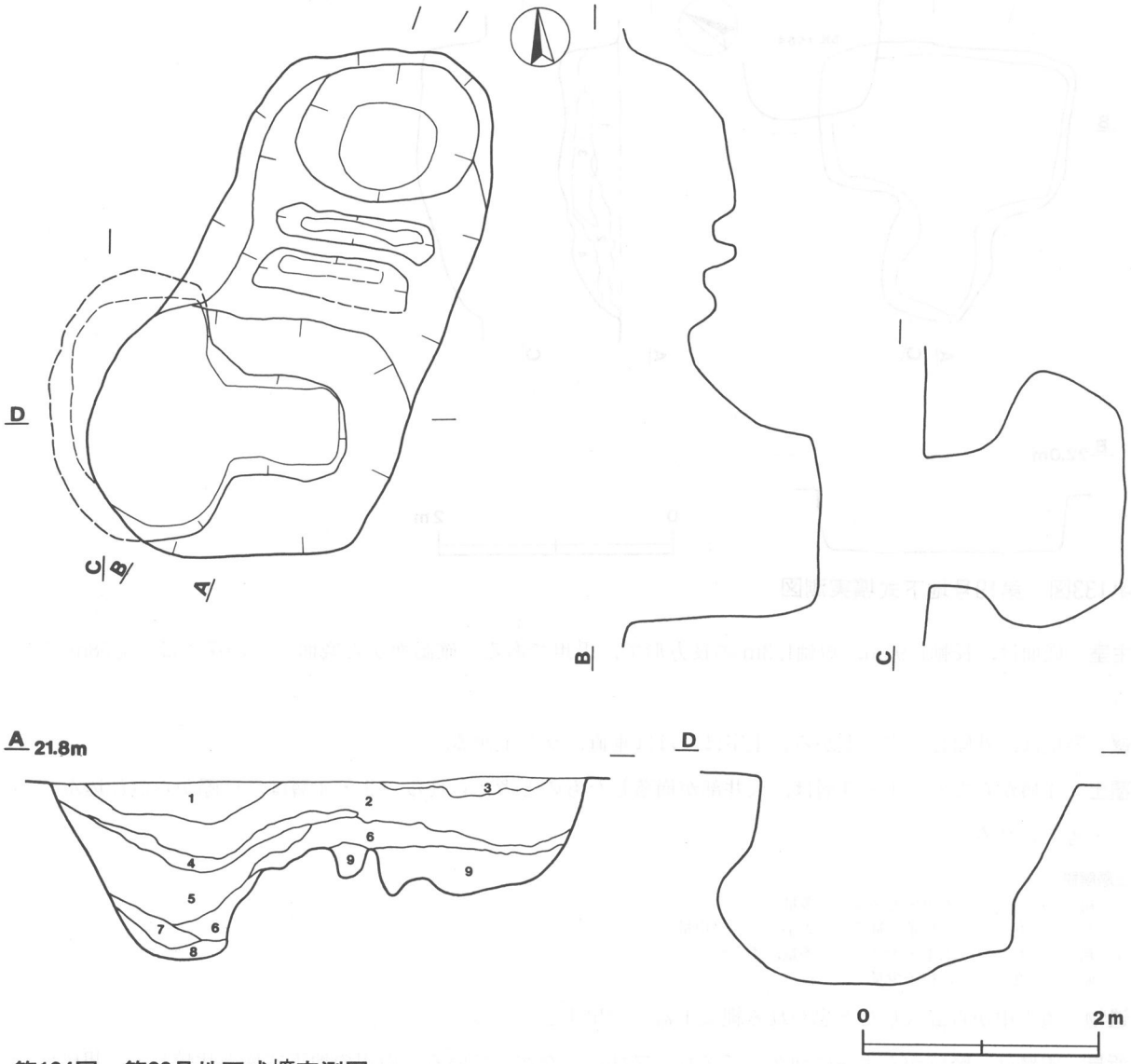
主軸方向　N－75°－W

竪坑　底面は，長軸0.95m，短軸0.65mの長方形で，深さ1.65mである。主室に向かって，スロープ状になっている。竪坑から北側にかけて長軸約3m，短軸約2mの長方形で，深さ0.6～1mの掘り込みが確認されている。

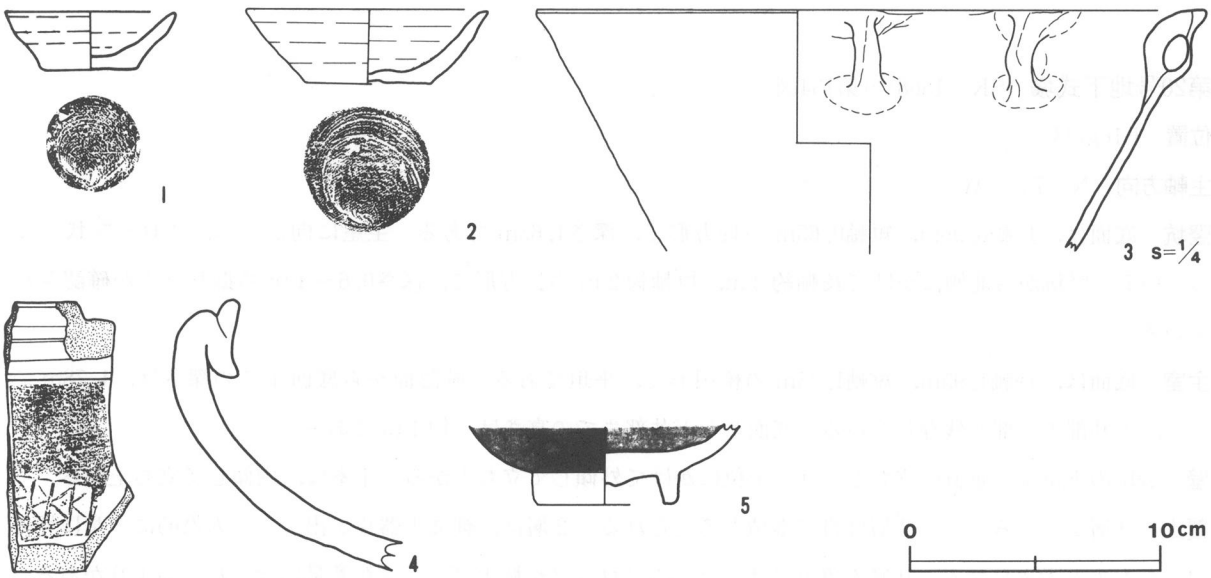
主室　底面は，長軸1.95m，短軸1.35mの楕円形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.78mである。天井部の一部が残存している。底面から天井部までの高さは，約1mである。

壁　竪坑の下位は，垂直に立ち上がり，上位にかけて外傾して立ち上がる。主室は，内傾して立ち上がる。

覆土　9層からなる。1・3層は自然堆積と考えられる。2層は，縄文土器片が出土し，人為的に一挙に埋め戻したものと考えられる。9層の覆土には，ロームブロックや粘土ブロックが多量に含まれ，締まりがある。



第134図　第20号地下式壙実測図



第135図　第20号地下式壙出土遺物実測・拓影図

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中・大ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・ローム小・中ブロック中量
4　褐　　色　ソフトローム小・中ブロック中量
5　暗　褐　色　ローム中・大ブロック多量，褐色土中量
6　暗　褐　色　ソフトハードローム中ブロック少量
7　褐　　色　ローム小・中ブロック中量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
9　褐　　色　ローム中ブロック・粘土ブロック多量，締まりあり

遺物　第135図1と2の土師質土器（皿），3の土師質土器（内耳鍋），4の常滑の大甕の口縁部，5の磁器碗の底部，混入したと思われる縄文土器片が覆土中から出土している。

所見　本跡の竪坑の北側にある長径約3m，短径約2m，深さ0.6～1mの長方形の掘り込みは，土層の堆積状況から判断して，地下式壙と同時期に存在したものと考えられる。時期は，出土遺物から判断して，15世紀から16世紀と考えられる。

第20号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第135図 1	皿 土師質土器	A 6.8 B 2.4 C 3.6	平底。体部・口縁部は外傾する。底部は，やや突出気味。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・長石 スコリア 橙色　普通	P208　100%　PL39 覆土中 口唇部油煙付着
2	皿 土師質土器	A 9.7 B 2.9 C 5.0	平底。体部は，内彎気味に立ち上がり，口縁部はやや外反する。底部内面が円盤状に盛り上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	雲母・砂粒 淡黄橙色 普通	P209　95%　PL39 覆土中
3	内耳鍋 土師質土器	A[35.6] B(12.7)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・長石・ スコリア 赤褐色　普通	P210　20%　PL39 覆土中 外面煤付着
4	甕 陶器	B(10.6)	肩部から口縁部片。口縁部は，N字状に折り返されている。	口縁部内・外面横ナデ。肩部にスタンプが押印されている。	暗赤褐色 良好	P211　5%　PL39 覆土中 常滑産（14C後半）
5	碗 磁器	B (3.0) D 5.5 E 1.0	底部片。高台は，直立する。	ロクロ成形。削り出し高台。	灰オリーブ色 (釉)緑灰色 良好	P212　40% 覆土中 青磁

第21号地下式壙〔SK－1687〕（第136図）

位置　E17h_0区。

主軸方向　N－44°－W

竪坑　上面は，長軸1.16m，短軸1.06mの不整形で，深さ0.65mである。底面は，長軸0.9m，短軸0.75mの長方形である。主室に向かって，スロープ状になっている。

主室　底面は，長軸1.84m，短軸1.36mの隅丸長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.25mである。天井部は，一部残存している。底面から天井部までの高さは，約0.95mである。

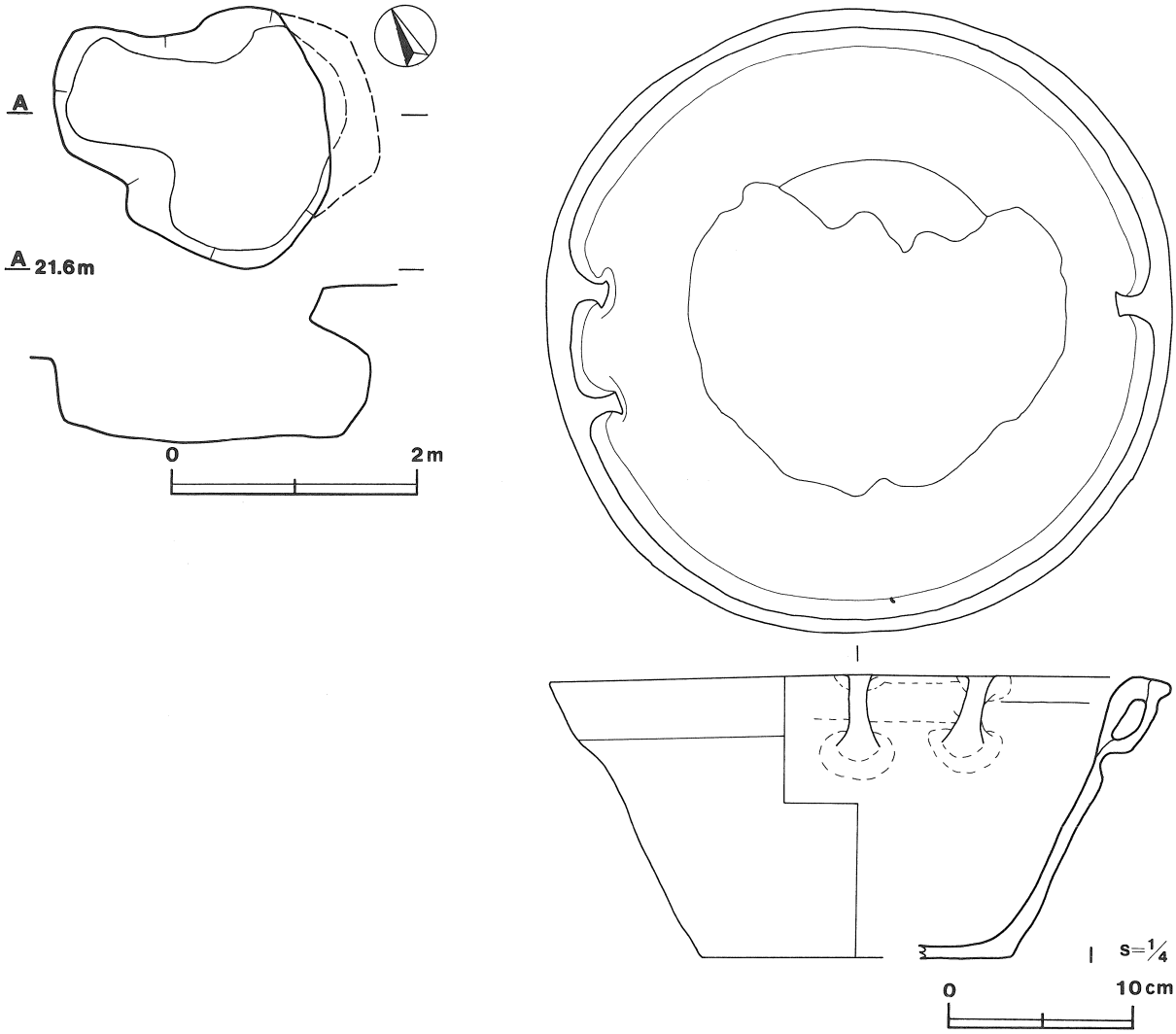
壁　竪坑と主室は，ほぼ垂直に立ち上がる。

遺物　第136図1の土師質土器（内耳鍋），混入したと思われる縄文土器片が覆土中層から出土している。

所見　本跡は，竪坑から主室に向かってスロープ状につながっている。周辺の地下式壙と比較して，規模はやや小型である。時期は，出土遺物から判断して，15世紀から16世紀と考えられる。

第21号地下式壙出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第136図 1	内耳鍋 土師質土器	A 34.0 B 15.2 C[16.9]	底部一部欠損。平底。体部は，外傾する。口縁部は，わずかに内彎しながら立ち上がる。体部と口縁部の境にくびれをつくる。	体部・口縁部内・外面横ナデ。	雲母・石英・長石・ スコリア 橙色 普通	P224　80%　PL40 覆土中 体部外面煤付着



第136図　第21号地下式壙実測・出土遺物実測図

(3) 墓壙

当遺跡から墓壙13基を検出した。内訳は縄文時代１基，中近世３基，時期不明９基である。

第1158号土坑（第137図）

位置　C16i6区。

重複関係　第215号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形　長径1.70m，短径0.80mの楕円形で，深さ72cmである。

長径方向　N－7°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　起伏。

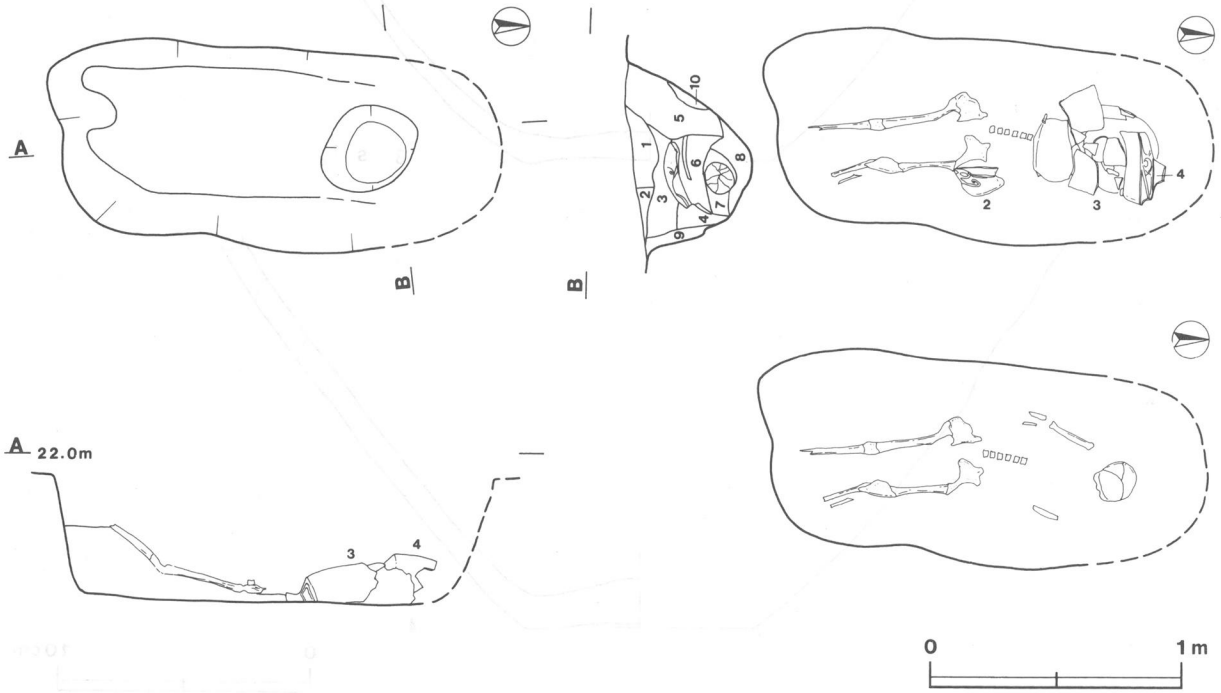
覆土　10層からなる人為堆積である。１・２層は第215号住居跡の炉の底部に当たる。３層の下層と６層の上層から鉢形土器が出土し，７層から頭蓋骨が出土している。

土層解説

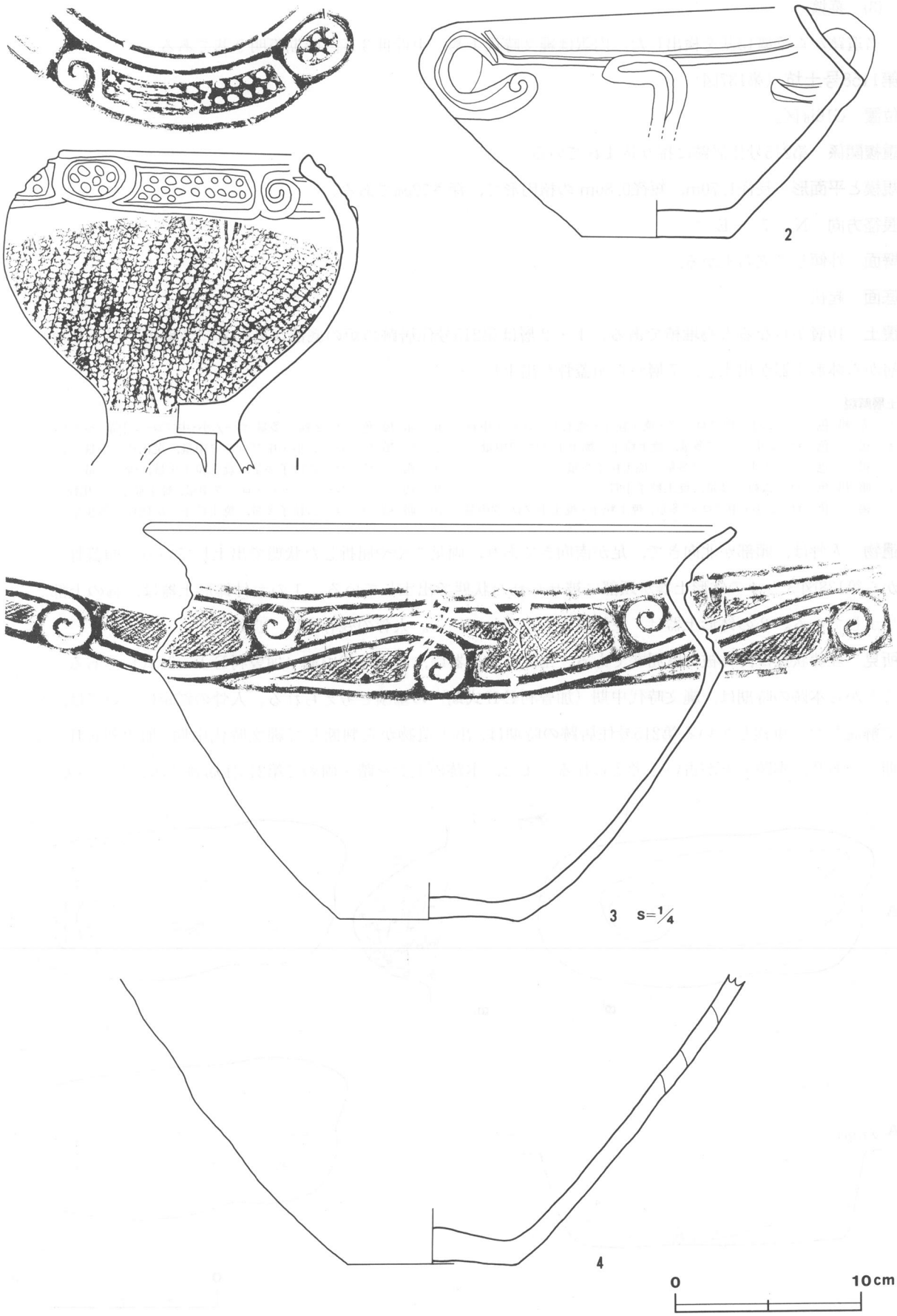
1	赤褐色	ローム小・中ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量	
2	褐色	ローム小ブロック多量，焼土粒子・焼土小ブロック中量	
3	褐色	ローム小ブロック多量，焼土粒子少量	
4	暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子中量	
5	褐色	ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・焼土小ブロック中量	
6	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量	
7	暗褐色	ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量，骨粉少量	
8	褐色	ローム粒子多量，焼土粒子少量，骨粉少量	
9	褐色	ローム中・大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量	
10	暗褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量	

遺物　人骨は，頭部が北向きで，足が南向きであり，両足をやや屈折した状態で出土している。頭蓋骨の上部から第138図３と４の鉢形土器が頭部に被せられた状態で出土している。１の台付鉢形土器は，胸の上部から出土している。２の鉢形土器は，左腰脇から出土している。人骨の残存率は，良好である。

所見　埋葬状態は，鉢被仰臥屈葬である。出土した土器は，縄文時代中期（加曽利ＥⅠ～Ⅱ式）である。このことから本跡の時期は，縄文時代中期（加曽利ＥⅡ式期）の墓壙と考えられる。人骨の鑑定については，付章で解説した。重複している第215号住居跡の時期は，出土遺物から判断して縄文時代中期（加曽利ＥⅡ～Ⅲ式期）であり，本跡の方が古いと考えられる。また，本跡の上面を踏み固めて第215住居跡の床としている。



第137図　第1158号土坑実測図



第138図　第1158号土坑出土遺物実測・拓影図

第1158号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第138図 1	台付鉢形土器 縄文土器	A 13.4 B(16.9)	台部一部欠損。底部から胴部中位にかけて，外傾しながら立ち上がり，口縁部にかけて内彎する。口縁直下に沈線を巡らす。口縁部文様帯は，隆帯による渦巻文と楕円形を描き，楕円形の区画内に円形の刺突文を施している。以下は，単節縄文ＲＬを横位回転で施文している。台部には，楕円形の孔３か所が認められる。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P49　90%　PL41 覆土中 (加曽利ＥII式)
2	鉢形土器 縄文土器	A 17.8 B 12.6 C 8.0	平底。底部から胴部にかけて外傾し，口縁部は内彎する。口縁部に有孔把手を有する。胴部には，クランク状の隆帯を貼付けている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P50　100%　PL41 覆土中 (加曽利ＥＩ式)
3	鉢形土器 縄文土器	A 17.8 B 12.6 C 13.0	平底。底部から胴部上位にかけて外傾し，上位で最大径をもつ。頸部でくびれ，口縁部で大きく外傾して開く。口縁部は，無文で丁寧な横位の磨きを施している。胴部上位の肩部に文様帯をもち，隆起線文による渦巻文を描き，槍先状に尖る。地文に縄文を施文している。以下は，丁寧な縦位の磨きを施している。	砂粒・長石・雲母 褐色 良好	P51　90%　PL41 覆土中 (加曽利ＥII式)
4	鉢形土器 縄文土器	B(15.2) C 9.0	平底。底部から胴部にかけて外傾する。内外面ともにナデを施している。	砂粒・スコリア・長石 にぶい橙色　普通	P52　50%　PL41 覆土中 (加曽利ＥII式)

第1493号土坑（第140図）

位置　E17b1区。

重複関係　第48号溝と重複している。

規模と平面形　長径0.76m，短径0.68mの不整形で，深さ52cmである。

長径方向　N－22°－W

壁面　垂直に立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　単一層からなる人為堆積である。覆土は，黒褐色土である。

遺物　底面北側から人骨片と歯が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1538号土坑（第140図）

位置　E16g6区。

規模と平面形　長径1.20m，短径0.84mの楕円形で，深さ42cmである。

長径方向　N－6°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　起伏。

覆土　４層からなる人為堆積である。３層から人骨片が出土している。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
3　極暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，極暗褐色土少量

遺物　底面の北側から頭蓋骨が，南側から人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1604号土坑（第140図）

位置　E15b9区。

重複関係　北西側部分が第1609号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形　長径［1.28］m，短径1.06mの楕円形で，深さ20cmである。

長径方向　N－27°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　3層からなる人為堆積である。3層から人骨片が出土している。土層番号は，第1609号土坑と通し番号である。

土層解説

1　褐　　色　焼土粒子中量，炭化粒子極少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量

遺物　底面から人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1605号土坑（第140図）

位置　E17g1区。

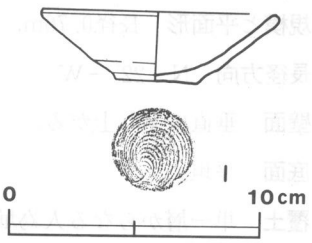
規模と平面形　長径1.32m，短径0.96mの楕円形で，深さ60cmである。

長径方向　N－18°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　2層からなる人為堆積である。



第139図　第1605号土坑出土遺物実測・拓影図

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量

遺物　底面北側から頭蓋骨と第139図1の土師質土器（皿）が出土している。1は，頭蓋骨の西側に逆位の状態で出土している。底面南側から下肢の部分と思われる人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，近世と考えられる。

第1605号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第139図 1	皿 土師質土器	A　9.2 B　2.9 C　3.3	平底。体部・口縁部は，直線的に外傾する。底部はやや突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P217　100%　PL40 底面

第1609号土坑（第140図）

位置　E15b9区。

重複関係　南東側部分で第1604号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.12m，短径1.02mのほぼ円形で，深さ48cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　5層からなる人為堆積である。5層と6層から人骨片が出土している。土層番号は，第1604号土坑と通し番号である。

土層解説

4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小・中ブロック中量
8　にぶい褐色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小・中ブロック少量

遺物　底面から人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1610号土坑（第140図）

位置　E15b_9区。

規模と平面形　長径1.42m，短径1.36mの不整形で，深さ38cmである。

長径方向　N－27°－E

壁面　垂直に立ち上がる。

底面　皿状。

覆土　3層からなる人為堆積である。2層から人骨片が出土している。

土層解説

1　にぶい褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量
2　にぶい褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量

遺物　底面西側から頭蓋骨と歯，東側から下肢と思われる人骨片が出土している。覆土中から土師質土器片（皿）が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中近世と考えられる。本跡は，人骨の出土状況から判断して，やや西向きに埋葬したものと思われる。

第1611号土坑（第140図）

位置　E18d_1区。

重複関係　北側部分で第1537号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.04m，短径0.78mの不整形で，深さ10cmである。

長径方向　N－10°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　皿状。

覆土　単一層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック極少量

遺物　底面北側から頭蓋骨と歯，中央部から人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1671号土坑（第140図）

位置　E17g2区。

重複関係　南東側部分を第1578号土坑が掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.06m，短径0.87mの円形で，深さ15cmである。

壁面　垂直に立ち上がる。

底面　平坦。粘土ブロックが確認できた。

覆土　単一層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　底面北側から頭蓋骨と歯，南側から下肢と思われる人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，底面に粘土ブロックが確認できたため，粘土張り墓壙の可能性が高い。時期は，形状から判断して近世と考えられる。

第1679号土坑（第140図）

位置　E17g1区。

規模と平面形　長径1.28m，短径0.82mの楕円形で，深さ23cmである。

長径方向　N－30°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　起伏。

覆土　単一層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ハードローム中・大ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量

遺物　底面北側から頭蓋骨，南側から下肢と思われる人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。頭蓋骨の北側に深さ20cmほどの掘り込みが確認できたが，性格は不明である。

第1690号土坑（第140図）

位置　E15c8区。

規模と平面形　長径1.69m，短径0.98mの楕円形で，深さ63cmである。

長径方向　N－27°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　5層からなる人為堆積である。4層から人骨片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子極少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子極少量
4　にぶい褐色　ローム小・中ブロック多量，焼土粒子中量
5　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量

遺物　底面北側から歯，中央部から人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1717号土坑（第140図）

位置　E15c9区。

重複関係　南側部分で第1718号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.08m，短径0.86mの楕円形で，深さ48cmである。

長径方向　N－30°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

覆土　単一層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム中・大ブロック中量

遺物　底面のほぼ中央部から人骨片が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，時期不明の墓壙である。

第1732号土坑（第140図）

位置　E17b8区。

規模と平面形　長径1.80m，短径1.78mのほぼ円形で，深さ77cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。

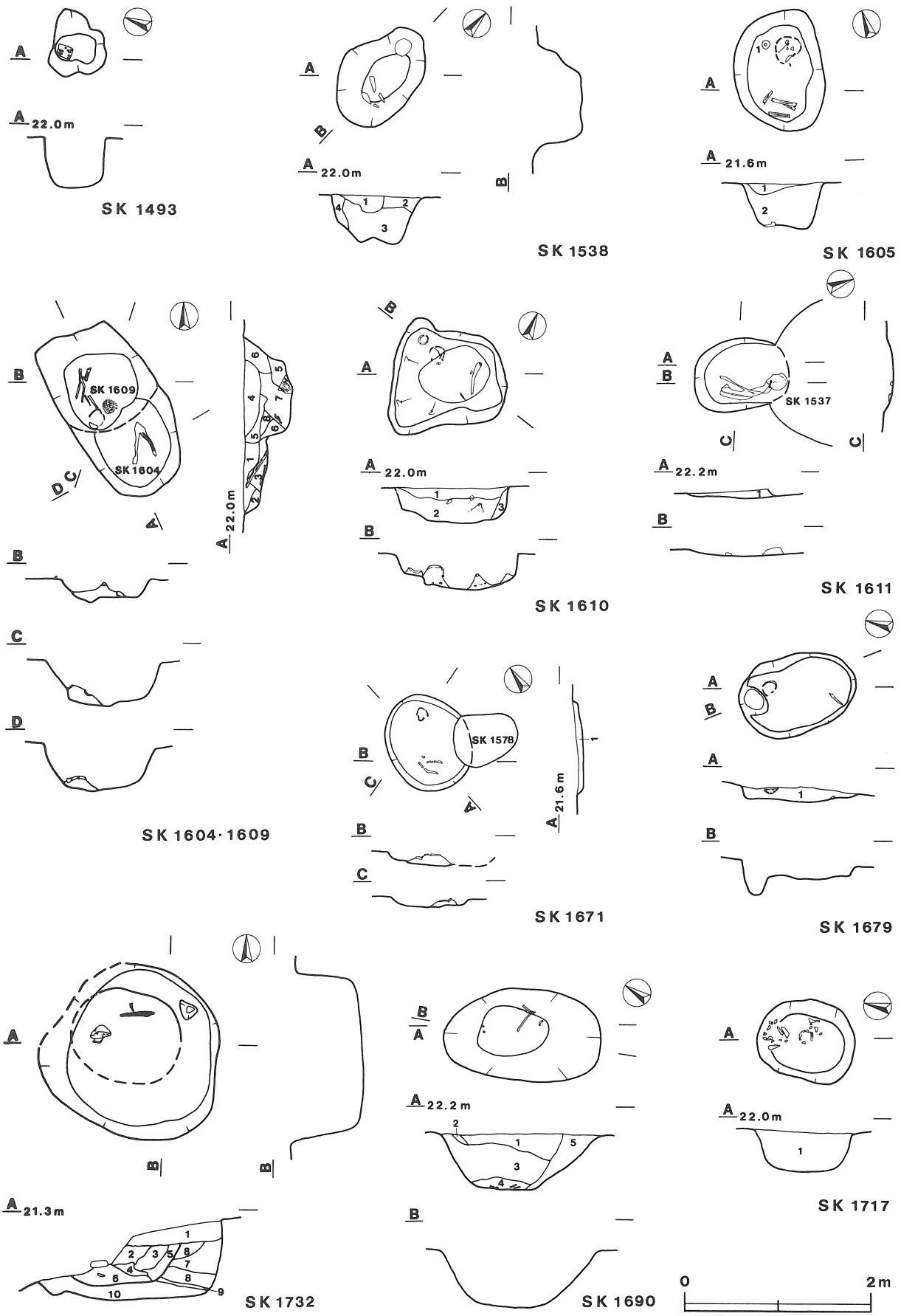
覆土　10層からなる人為堆積である。土層断面から判断して2～6層は，7～10層を切っているため，新しい堆積と考えられる。6層から人骨片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量，柔らかい
4　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム小・中・大ブロック中量
8　褐　　色　ローム中・大ブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
10　褐　　色　ローム大ブロック中量

遺物　覆土中層から人骨片，炭化物，火熱を受けた石が出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡は，覆土状況から判断して古い土坑を掘り込んで作ったものと思われる。すなわち，6層の底面が本跡の底面と考えられる。時期不明の墓壙である。


SK 1493
SK 1538
SK 1605
SK 1609
SK 1604
SK 1604·1609
SK 1610
SK 1537
SK 1611
SK 1578
SK 1671
SK 1679
SK 1717
SK 1732
SK 1690
0
2m

第140図　墓壙実測図

(4) 粘土張り遺構

当遺跡から粘土張り遺構15基を検出した。

第1612号土坑（第142図）

位置　E17f3区。

重複関係　東側部分が第1553号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径1.34m，短径1.20mの隅丸長方形で，深さ28cmである。

長径方向　N－90°－W

壁面　外傾して立ち上がる。粘土張りは，北壁に厚さ20cmほどであり，その他の壁には，確認できなかった。

底面　平坦。粘土は，中央から北側部分にかけて，厚さ2cmほどに張られている。

覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
3　にぶい褐色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量，粘土ブロック少量
4　にぶい褐色　ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量，粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1617号土坑（第142図）

位置　E18f2区。

規模と平面形　径1.08mの円形で，深さ15cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。粘土張りは，厚さ4cmほどである。

覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子多量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片，土師質土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1636号土坑（第142図）

位置　E17g3区。

重複関係　南側部分で第1637号土坑を掘り込み，東側部分が第1638号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径1.30m，短径1.10mの楕円形で，深さ20cmである。

長径方向　N－65°－W

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。中央部に粘土ブロックが出土している。

覆土　3層からなる人為堆積である。土層番号は，第1637号土坑と第1638号土坑の通し番号である。

土層解説
1　褐　　色　ローム小ブロック多量，炭化粒子中量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子中量，粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1637号土坑（第142図）

位置　E17h3区。

重複関係　北側部分が第1636号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　径［1.12］mの円形と推定され，深さ10cmである。

壁面　外傾して立ち上がる。粘土張りは，厚さ4cmほどで皿状である。

底面　平坦。粘土は，中央部に粘土ブロックが確認できた。

覆土　単一層からなる人為堆積である。土層番号は，第1636号土坑と第1638号土坑の通し番号である。

土層解説
4　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子多量，粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1638号土坑（第142図）

位置　E17g3区。

重複関係　南西部分で第1636号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形　長径1.30m，短径0.92mの長方形で，深さ34cmである。

長径方向　N－10°－E

壁面　垂直に立ち上がる。

底面　平坦。粘土張りは，厚さ4cmほどである。

覆土　2層からなる人為堆積である。土層番号は，第1636号土坑と第1637号土坑の通し番号である。

土層解説
5　褐　　色　ローム小ブロック多量，炭化粒子・焼土粒子中量
6　褐　　色　ローム小ブロック多量，炭化粒子・焼土粒子少量

遺物　粘土の覆土中から土師質土器片（内耳鍋）が出土している。覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中世と考えられる。性格は不明である。

第1639号土坑（第142図）

位置　E18h1区。

重複関係　南西部分で第1640号土坑を掘り込み，北側部分を第1572号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径［1.40］m，短径0.90mの隅丸長方形と推定され，深さ26cmである。

長径方向　N－40°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　皿状。粘土張りは，厚さ３cmほどである。

覆土　２層からなる人為堆積である。１層が大半を占める。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒子・焼土粒子中量
2　褐　　色　ローム小ブロック多量，粘土ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片，貝が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1647号土坑（第142図）

位置　E16h_0区。

規模と平面形　長径1.04m，短径1.02mの円形で，深さ14cmである。

壁面　垂直に立ち上がる。

底面　平坦。粘土張りは，厚さ３cmほどである。

覆土　５層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子中量，粘土小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子多量，ハードローム小・中・大ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・粘土ブロック少量
5　暗　褐　色　粘土粒子・ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片，陶器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1657号土坑（第142図）

位置　E17h_7区。

規模と平面形　長径2.12m，短径1.82mの楕円形で，深さ42cmである。

長径方向　N－49°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　凸凹。粘土張りは，厚さ23cmほどである。粘土張りの北側と東側と西側の三方に，径約30cmの円形で，深さ約10cmの落ち込みが確認できた。性格は不明である。

覆土　７層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量，炭化物
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ハードローム小・中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子多量，粘土ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・粘土ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ブロック少量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子・ブロック少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片，土師質土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1680号土坑（第142図）

位置　E16g_0区。

規模と平面形　長径1.82m，短径1.20mの楕円形で，深さ32cmである。

長径方向　N－68°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。粘土張りは，厚さ4cmほどである。粘土張りの周りが溝状に落ち込んでいる。

覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物極少量
2　褐　　色　ローム中・大ブロック多量
3　褐　　色　ローム粒子・ブロック多量
4　褐　　色　粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片，陶器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1721号土坑（第142図）

位置　E17i_6区。

重複関係　北側部分を第1706号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形　長径［0.96］m，短径0.83mの楕円形と推定され，深さ9cmである。

長径方向　N－9°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　平坦。粘土張りは，厚さ3cmほどである。

覆土　3層からなる人為堆積である。1層が大半を占める。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，炭化粒子・焼土粒子中量
2　褐　　色　ローム小ブロック多量，粘土ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子・ブロック多量，炭化粒子・焼土粒子少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1740号土坑（第142図）

位置　F17b_6区。

規模と平面形　長径1.45m，短径0.81mの隅丸長方形で，深さ25cmである。

長径方向　N－34°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　皿状。褐色土に粘土ブロックが含まれている。本跡の各コーナーにピットが確認できた。いずれも径約20cmの円形で，深さ約40cmである。

覆土　単一層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，ローム粒子中量

遺物　底面の北東側部分から炭化物と焼土が出土している。覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土

している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1757号土坑（第142図）

位置　E17j_1区。

規模と平面形　長径1.96m，短径1.48mの隅丸長方形で，深さ40cmである。

長径方向　N－40°－E

壁面　外傾して立ち上がる。遺構の上端を幅約10cm，厚さ約10cmの粘土が全周して張られている。

底面　平坦。褐色土に粘土ブロックが含まれている。

覆土　4層からなる人為堆積である。3層から縄文土器片が出土している。

土層解説

1　褐　　色　白色粘土ブロック少量
2　褐　　色　ローム中・大ブロック多量，白色粘土ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・粘土ブロック少量

遺物　第141図1と2の土師質土器（内耳鍋）が覆土下層から出土している。混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中世と考えられる。

第1757号土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第141図 1	内耳鍋 土師質土器	A 35.3 B 19.2 C 16.2	体部は外傾し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P228　60%　PL40 SK－1757　覆土下層 体部外面煤付着
2	内耳鍋 土師質土器	A[36.2] B(17.3)	体部から口縁部片。体部は外傾し口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。	雲母・石英・スコリア にぶい赤褐色 普通	P229　60%　PL40 SK－1757　覆土下層 外面煤付着

第1761号土坑（第143図）

位置　E17j_6区。

規模と平面形　長径1.32m，短径0.97mの楕円形で，深さ17cmである。

長径方向　N－31°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　凸凹。北東部に粘土ブロックが含まれている。

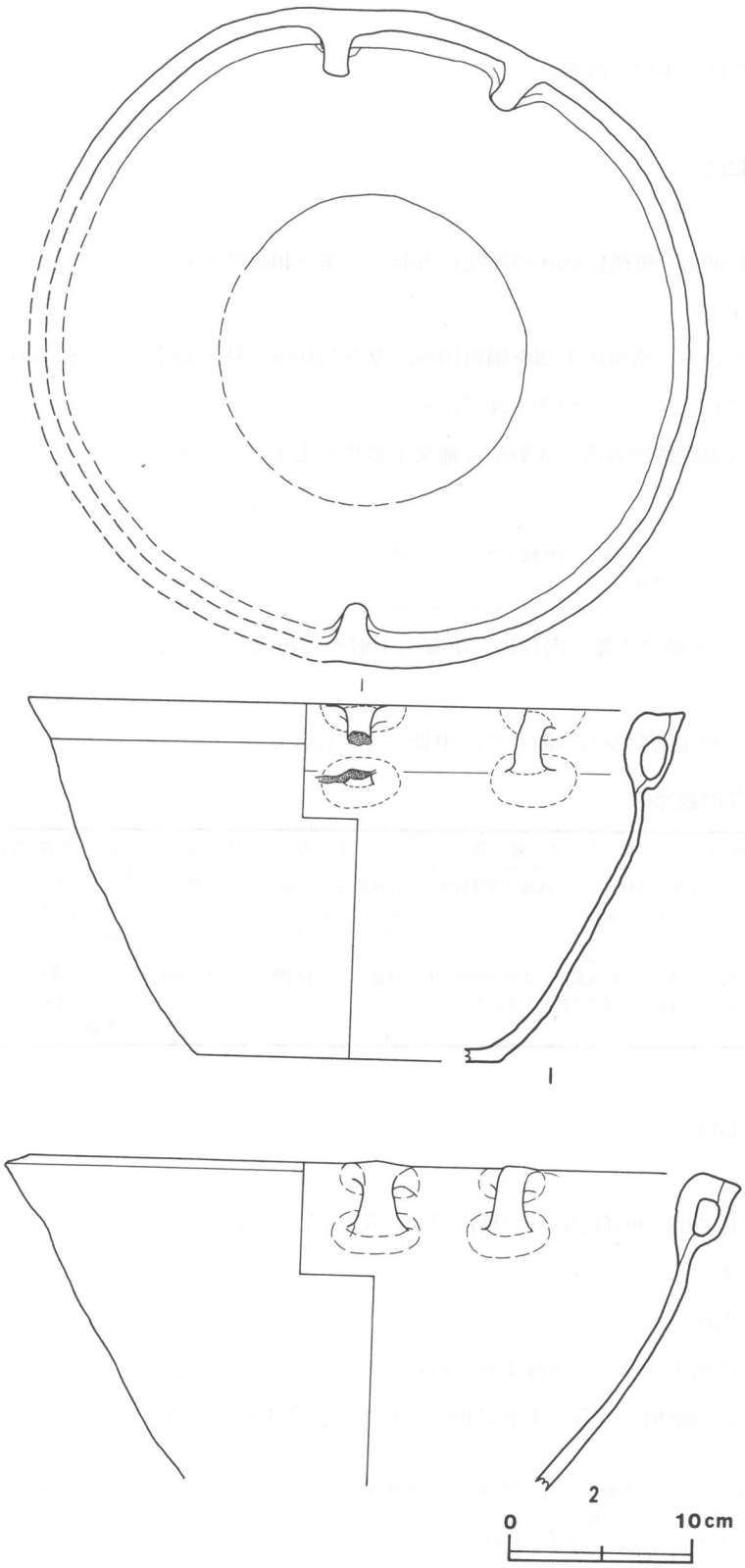
覆土　3層からなる人為堆積である。1層に粘土ブロックが含まれている。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，白色粘土ブロック少量，炭化物極少量
2　にぶい褐色　ローム粒子・ブロック中量
3　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。



第141図　第1757号粘土張り遺構出土遺物実測図

第1782号土坑（第143図）

位置　E17f7区。

規模と平面形　長径2.05m，短径0.85mの隅丸長方形で，深さ11cmである。

長径方向　N－73°－W

壁面　外傾して立ち上がる。本跡の上端を幅約10cm，厚さ約5cmの粘土が全周して張られている。

底面　平坦。褐色土に粘土ブロックが含まれている。東側部分に一辺25cmの方形で，深さ40cmの掘り込みが確認されている。性格は不明である。

覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム小・中ブロック中量，粘土ブロック少量
2　にぶい褐色　ローム中・大ブロック多量，粘土ブロック少量
3　褐　　色　炭化粒子・黒褐色土中量
4　褐　　色　炭化粒子・ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ソフトローム中ブロック中量，炭化粒子少量，締まりあり
6　にぶい褐色　ローム小・中ブロック中量，粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。

第1783号土坑（第143図）

位置　E17h7区。

規模と平面形　長径2.00m，短径1.29mの不整形で，深さ20cmである。

長径方向　N－30°－E

壁面　外傾して立ち上がる。

底面　皿状。粘土張りは，厚さ10cmほどである。

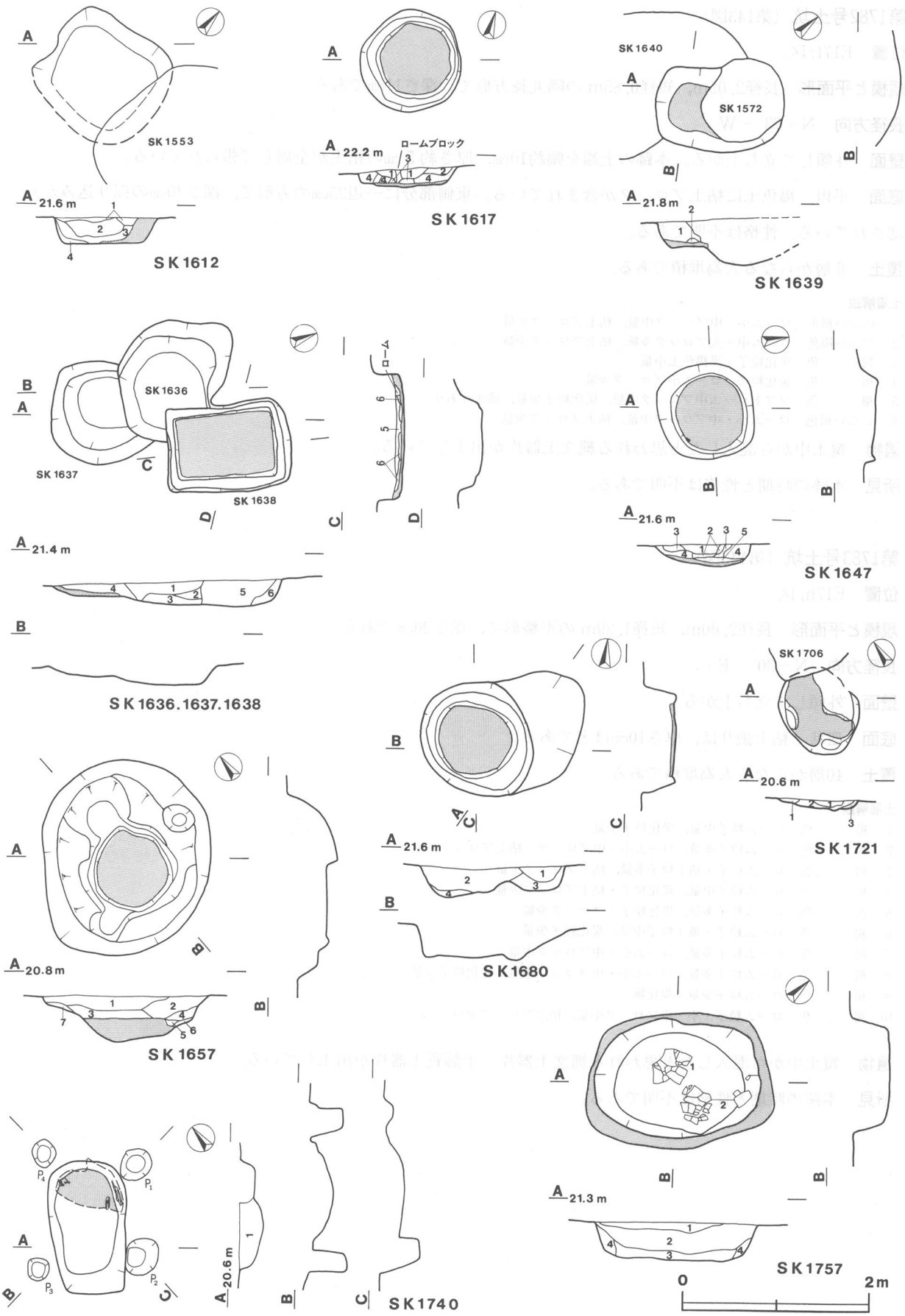
覆土　10層からなる人為堆積である。

土層解説

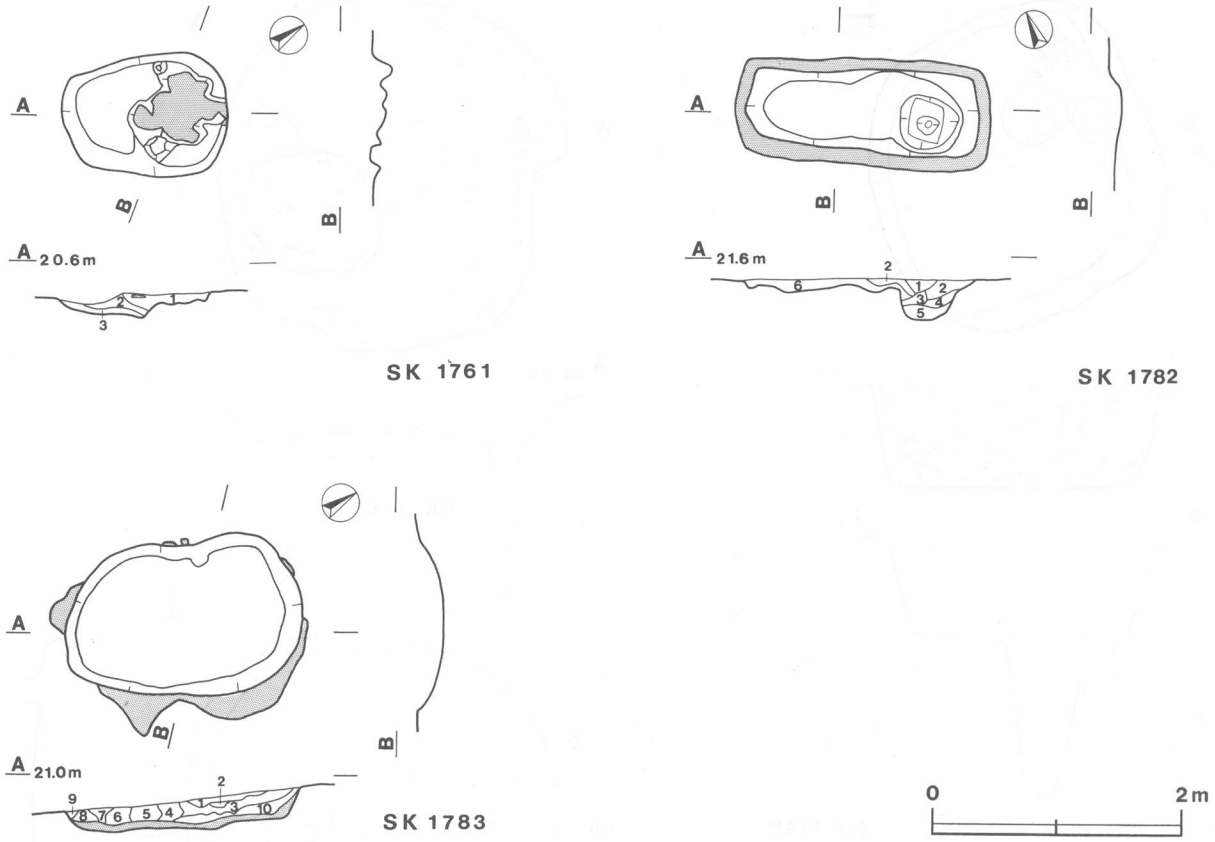
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック・粘土ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子多量，粘土ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子少量，炭化物
10　褐　　色　ローム粒子・小・中ブロック中量，粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片，土師質土器片が出土している。

所見　本跡の時期と性格は不明である。



第142図　粘土張り遺構実測図(1)



第143図　粘土張り遺構実測図(2)

(5)　その他

その他の土坑の中で，特に完形に近い土器や獣骨などが出土しているものに関しては，遺構実測図を掲載する。

土坑土層解説

第1246号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，ハードローム中・大ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量，焼土小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子中量，ハードローム中・大ブロック少量
7　褐　　色　ハードローム中・大ブロック多量，暗褐色土中量

第1393号土坑土層解説

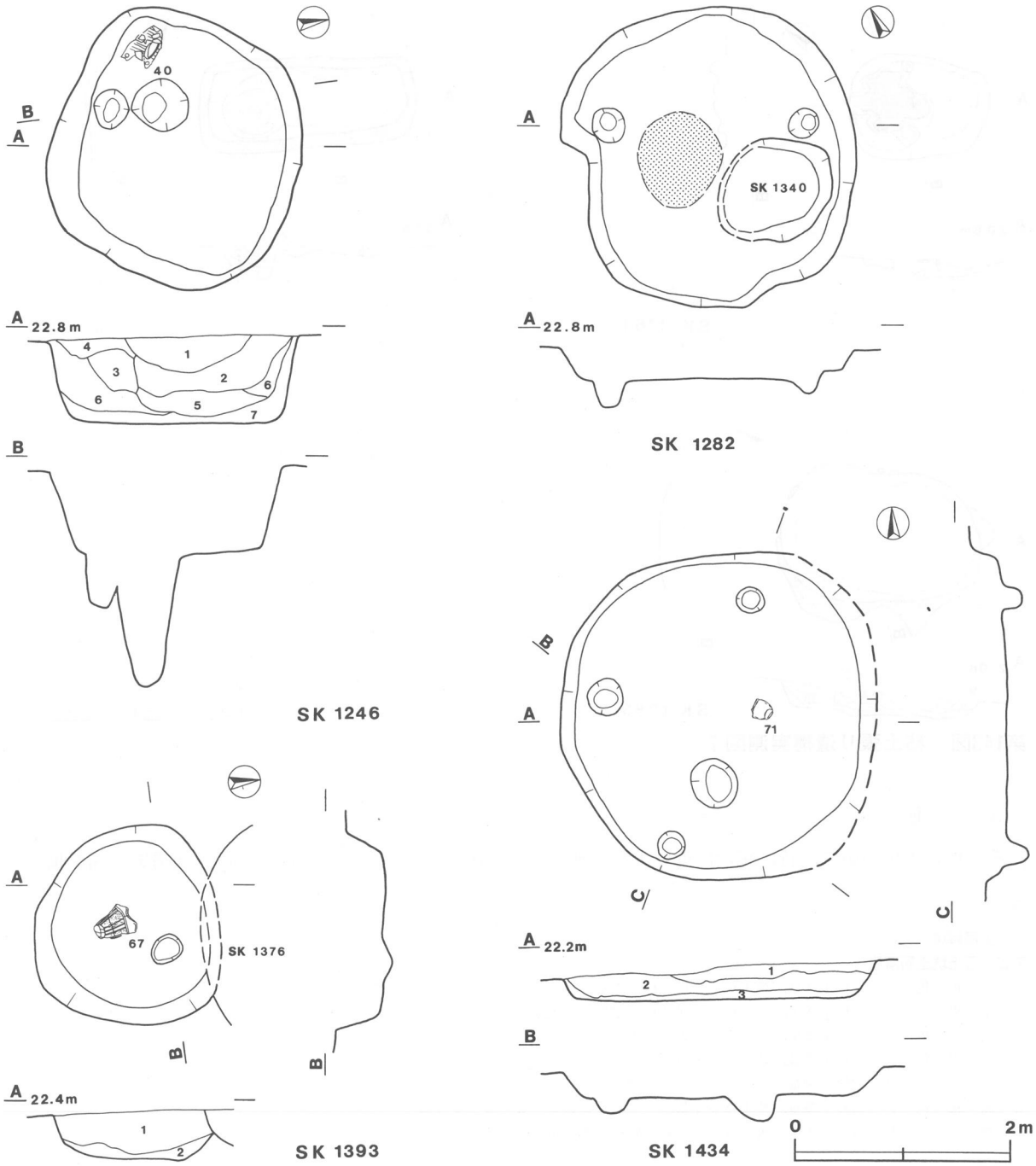
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極少量

第1434号土坑土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ハードローム中・大ブロック少量

第1435号土坑土層解説

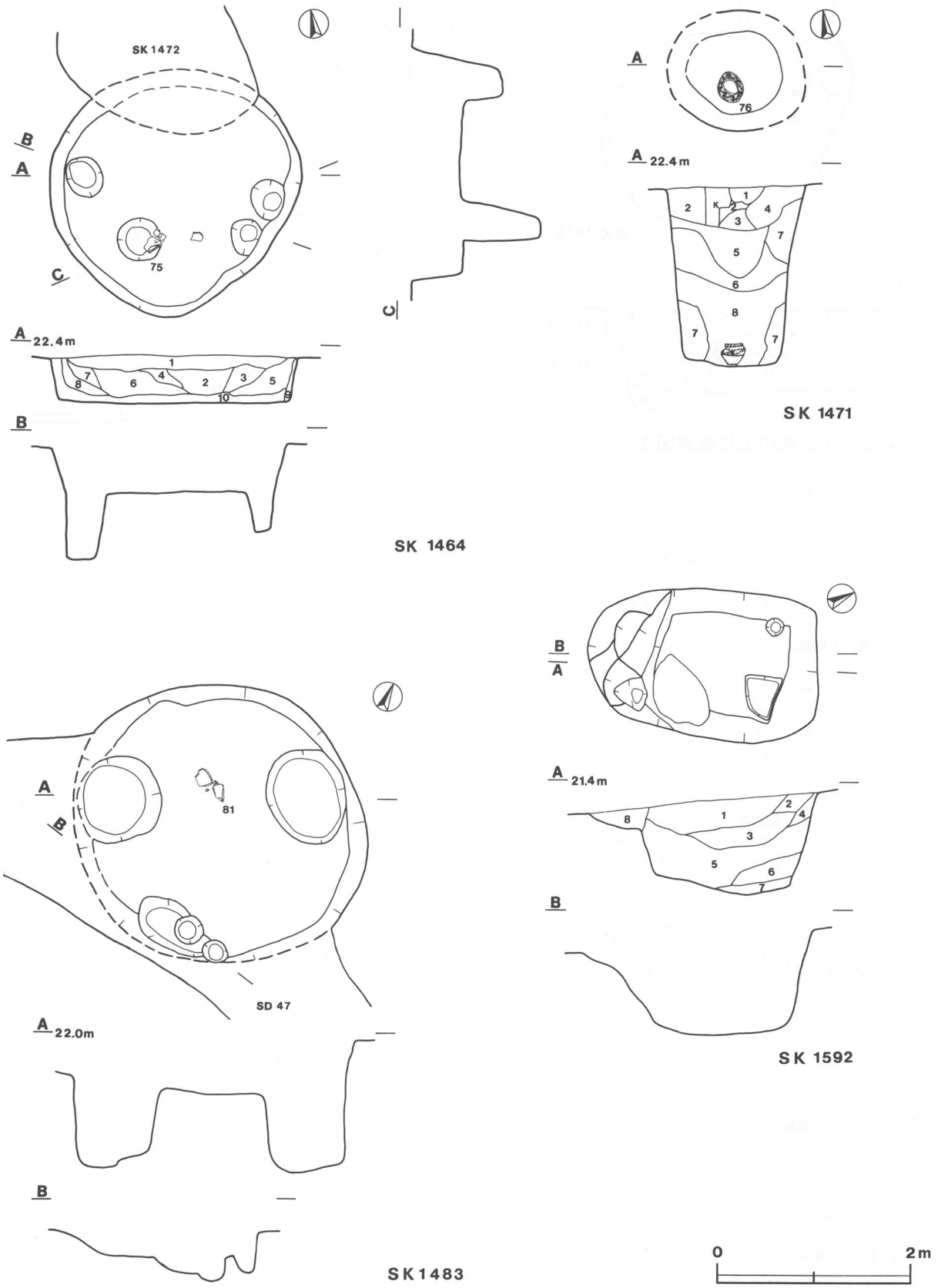
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ハードローム中・大ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物
6　明　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック中量
7　褐　　色　炭化粒子・ハードローム中・大ブロック多量
8　褐　　色　炭化粒子・ハードローム中・大ブロック多量，炭化物
9　褐　　色　炭化粒子・ハードローム中・大ブロック多量，ザクザクしている



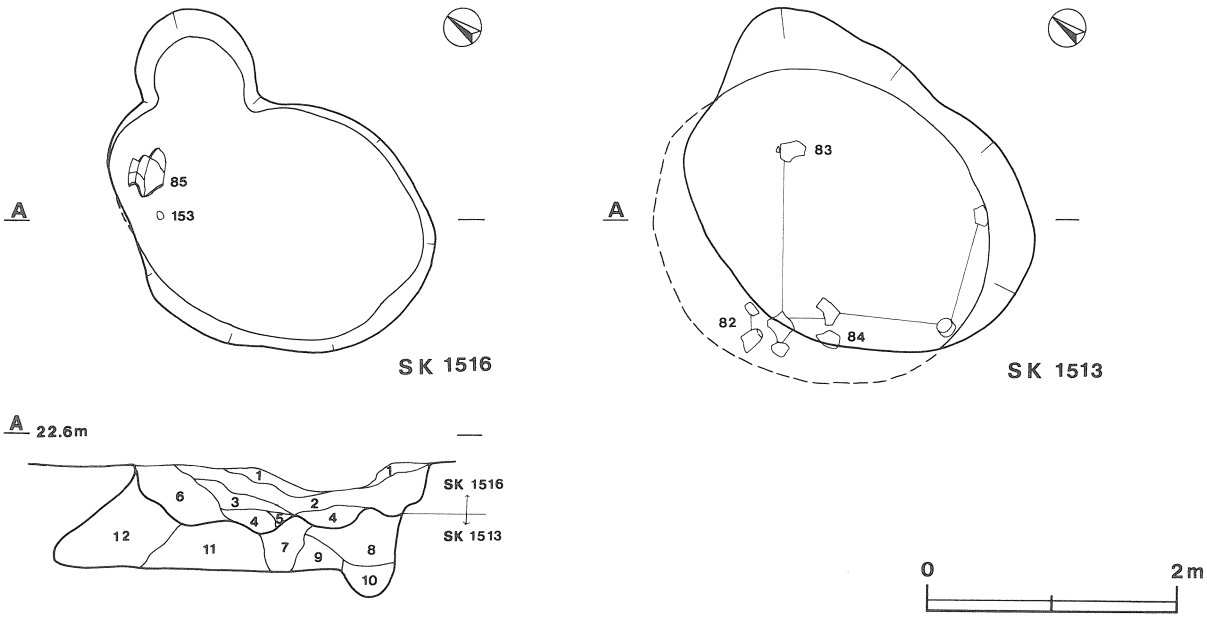
第144図　その他の土坑実測図(1)

第1464号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小・中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ハードローム中・大ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物
6　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ハードローム中・大ブロック少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック中量
10　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量



第145図　その他の土坑実測図(2)



第146図　その他の土坑実測図(3)

第1471号土坑土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ハードローム中・大ブロック・焼土粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ハードローム中・大ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ソフトローム小・中ブロック少量
7　明　褐　色　ハードローム中・大ブロック多量，ローム粒子中量
8　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量

第1495号土坑土層解説

1　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム中・大ブロック・焼土粒子中量，馬骨
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ハードローム中・大ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量，炭化物
5　褐　　色　ローム粒子・ソフトローム小・中ブロック中量，焼土粒子極少量
6　明　褐　色　褐色土多量
7　明　褐　色　褐色土多量，ローム粒子中量

第1513・1516号土坑土層解説（1～6は第1516号土坑，7～12は第1513号土坑）

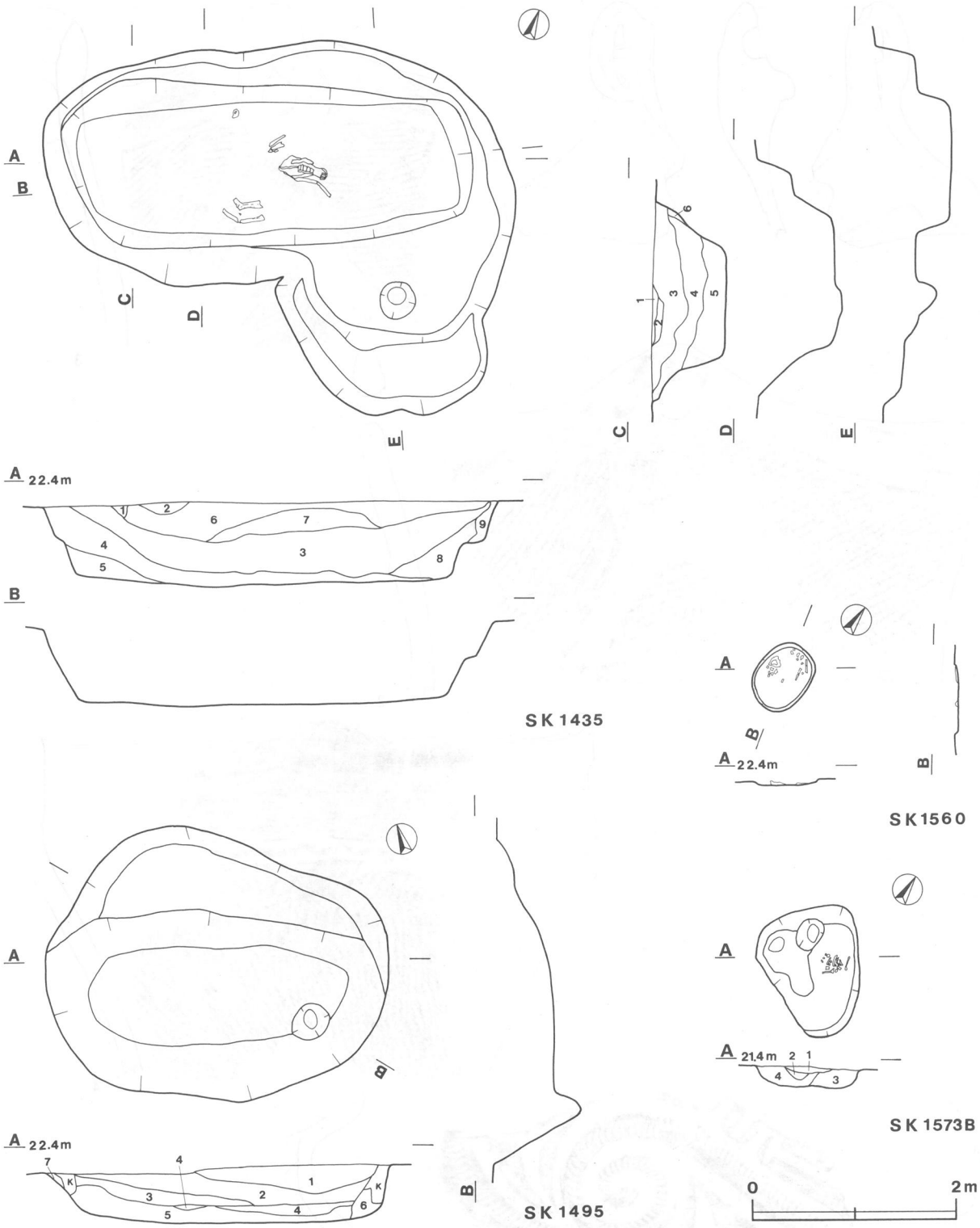
1　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・焼土小ブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5　明　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子極少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土小ブロック少量
9　褐　　色　ローム小・中ブロック多量，焼土小ブロック少量
10　褐　　色　ローム小・中ブロック多量，締まりあり
11　褐　　色　ローム小・中ブロック多量，暗褐色土中量，焼土小ブロック少量
12　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量

第1573Ｂ号土坑土層解説

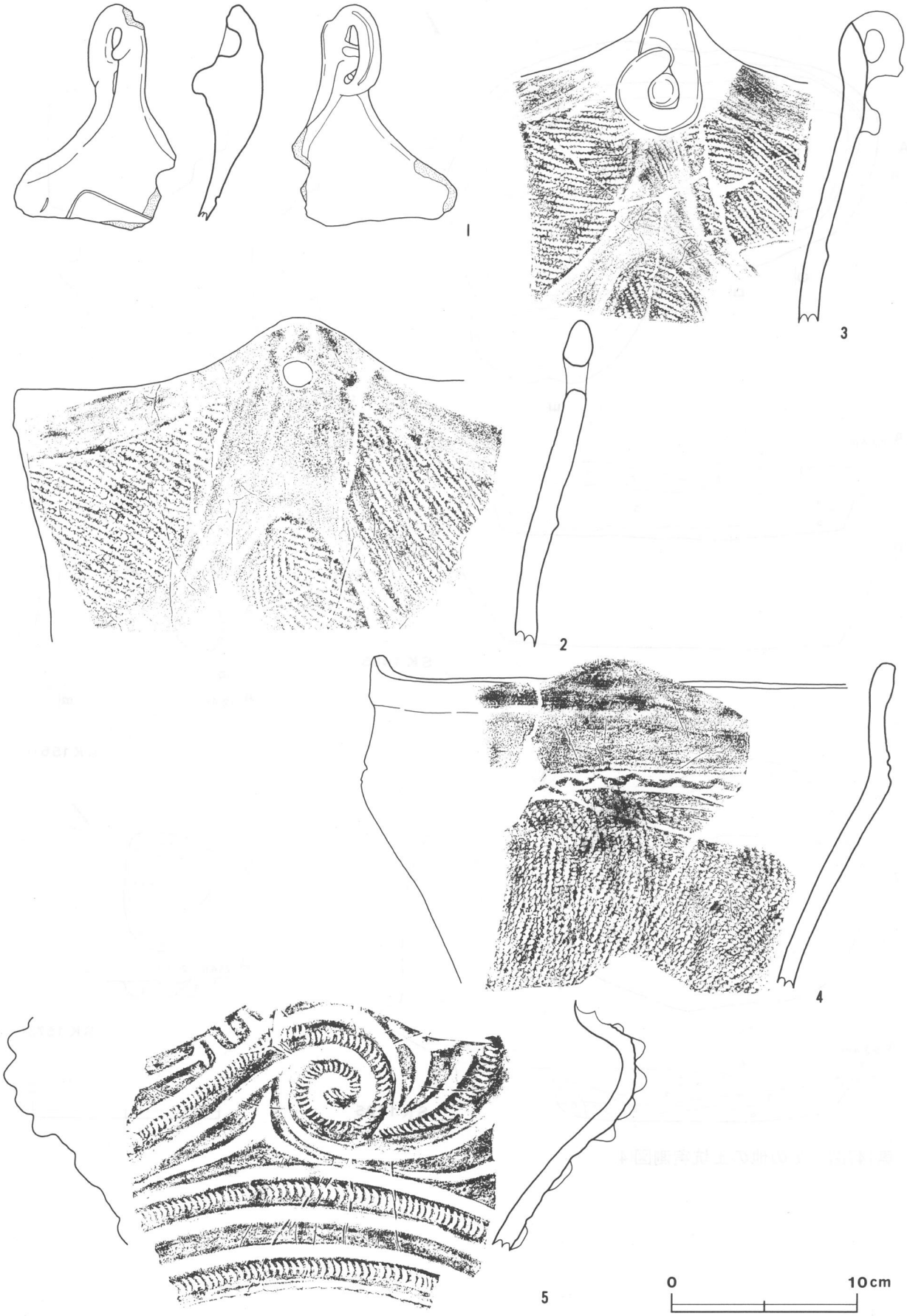
1　褐　　色　ローム小・中・大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，獣骨
2　褐　　色　ローム粒子中量，ソフトローム中・大ブロック・焼土粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ハードローム中・大ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量

第1592号土坑土層解説

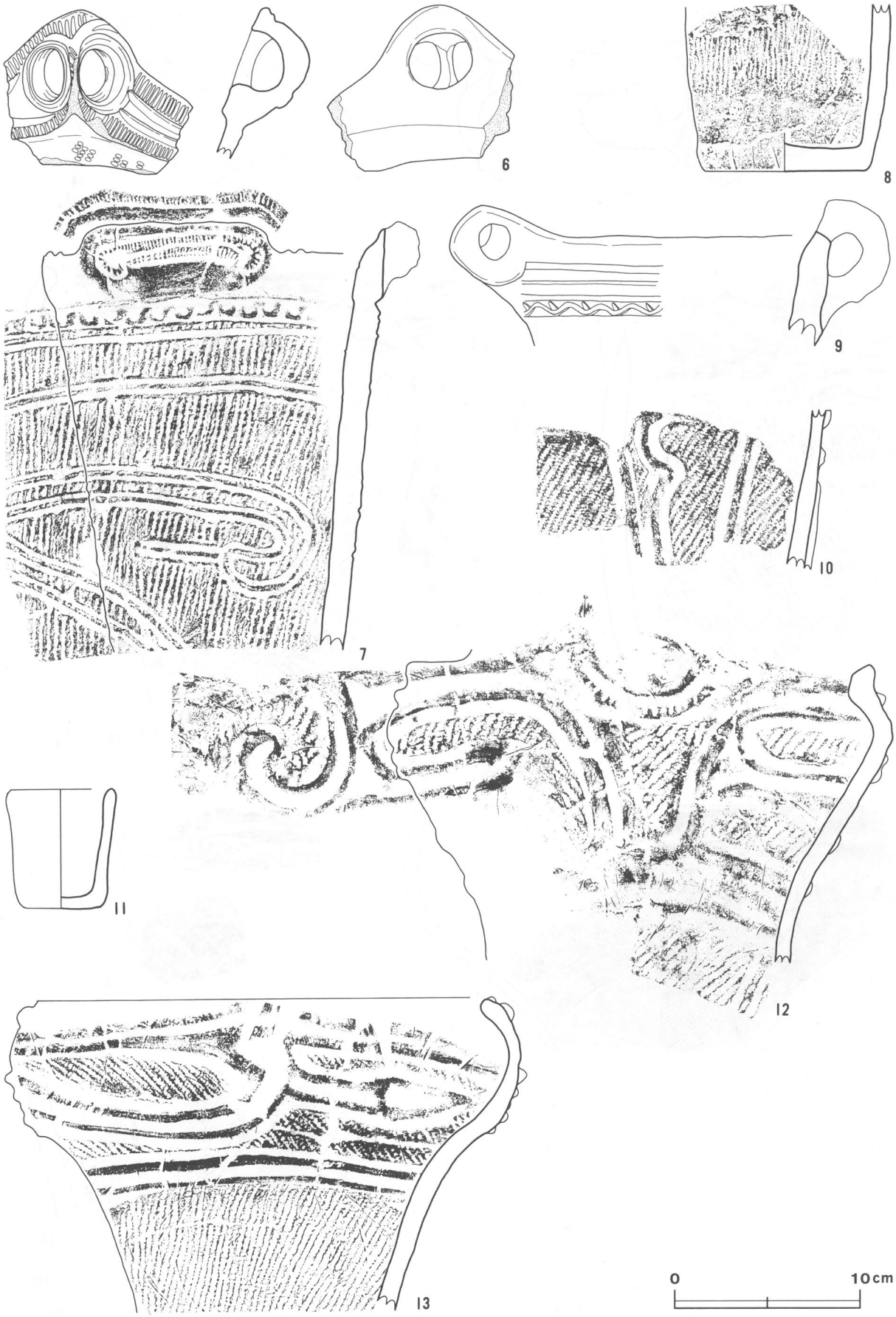
1　褐　　色　ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム中・大ブロック・焼土粒子中量，馬骨
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中・大ブロック少量
4　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・褐色土少量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック中量焼土粒子極少量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック少量
8　明　褐　色　ローム粒子多量，ハードローム中・大ブロック中量



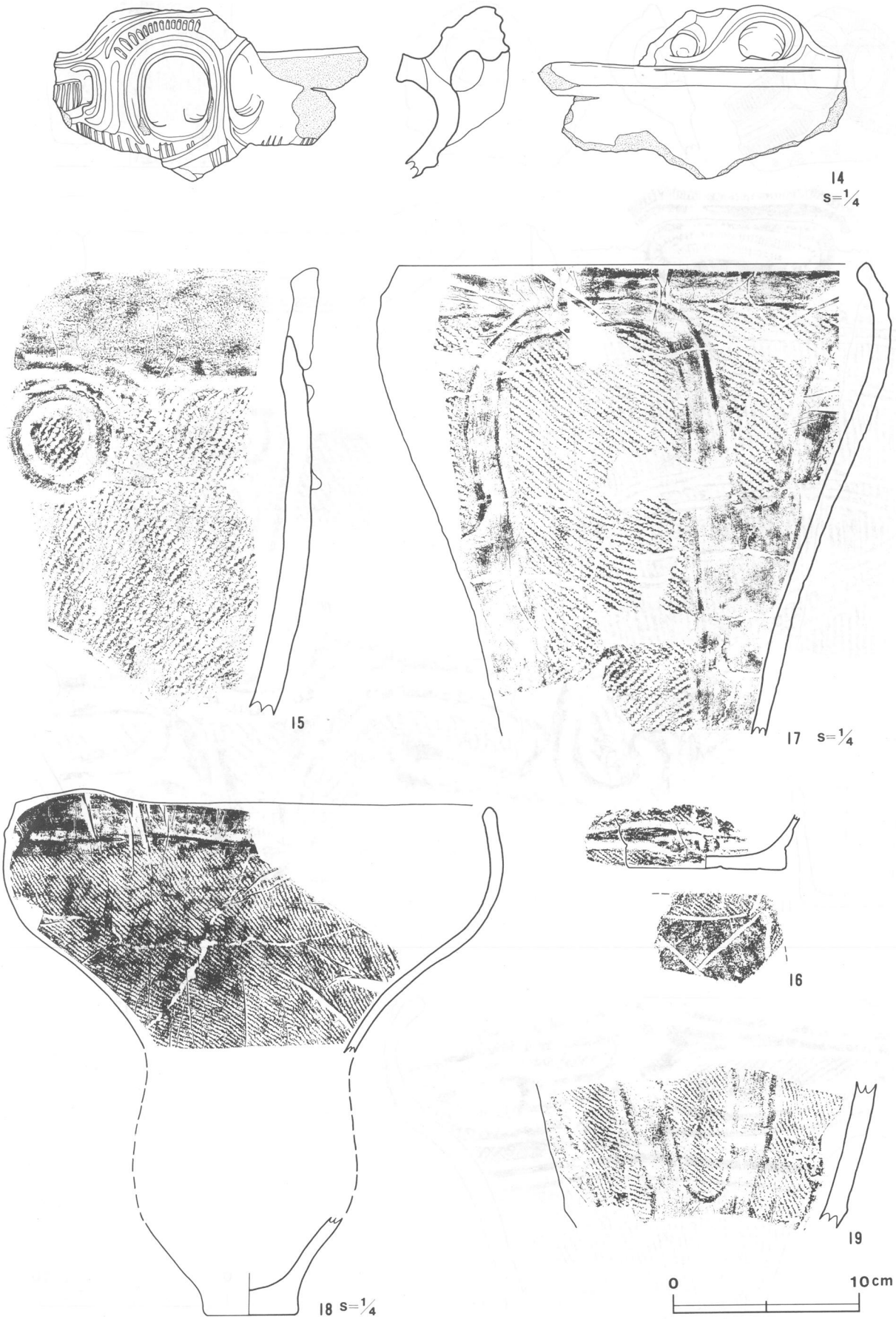
第147図　その他の土坑実測図(4)



第148図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(1)

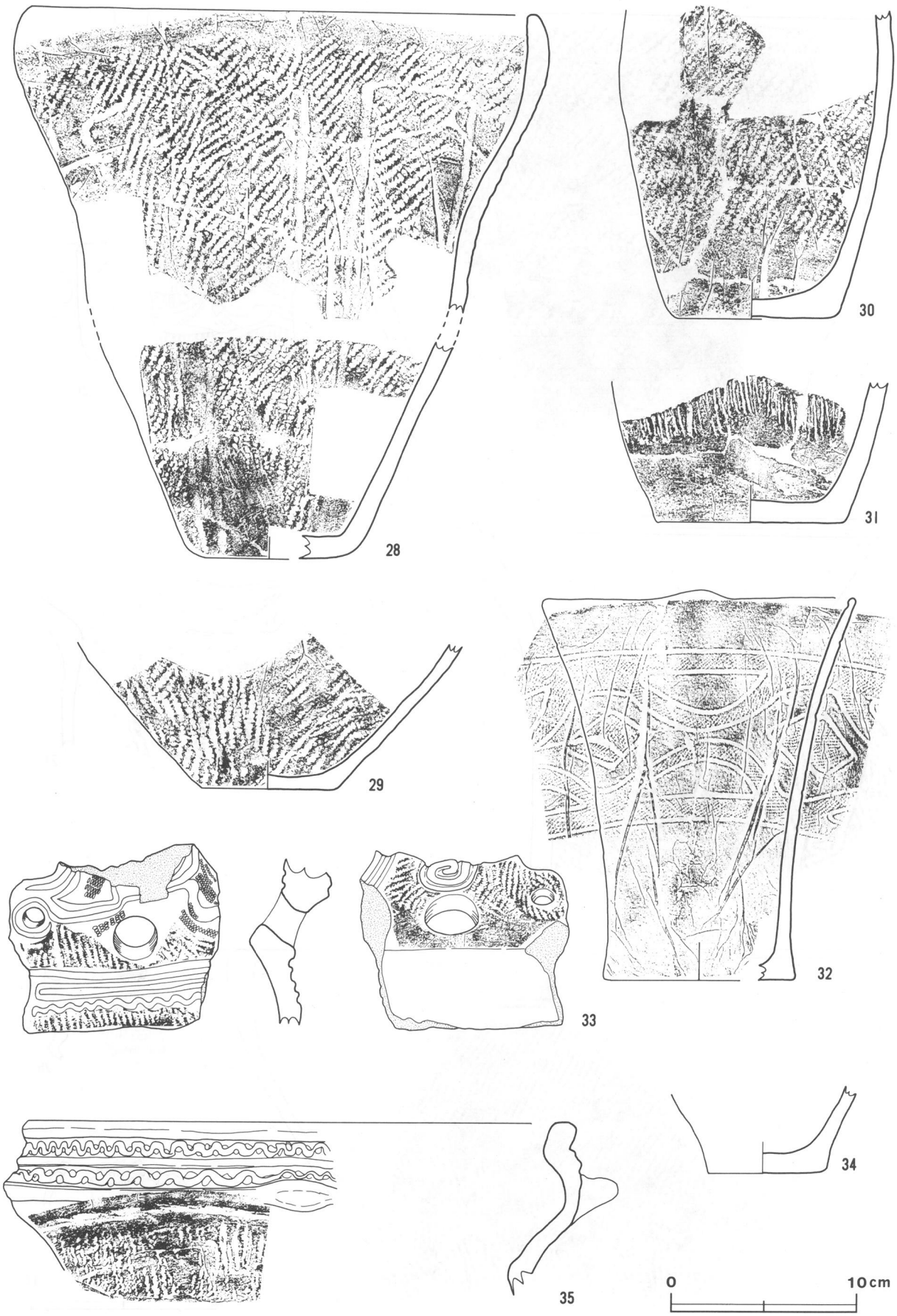


第149図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(2)

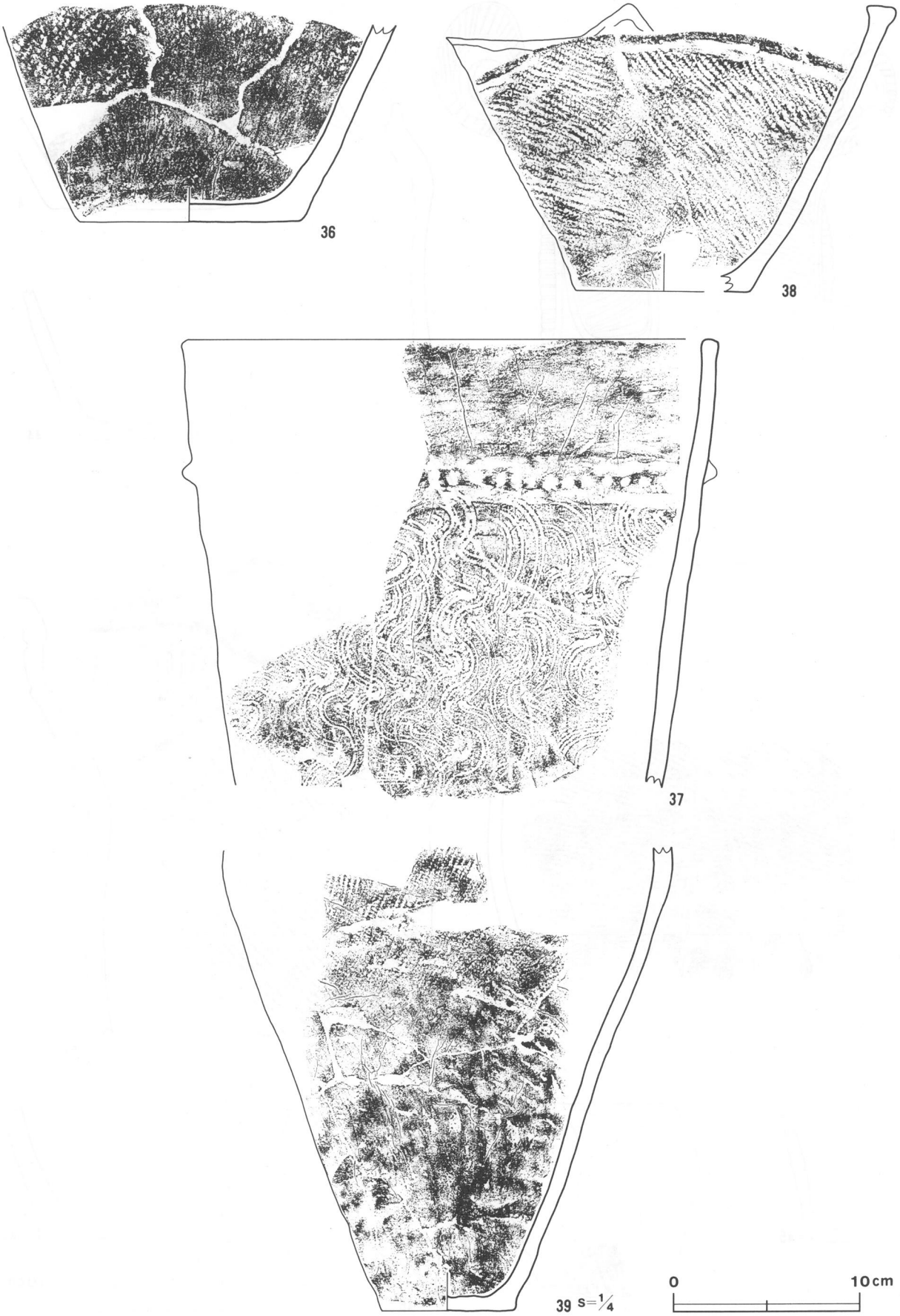


第150図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(3)

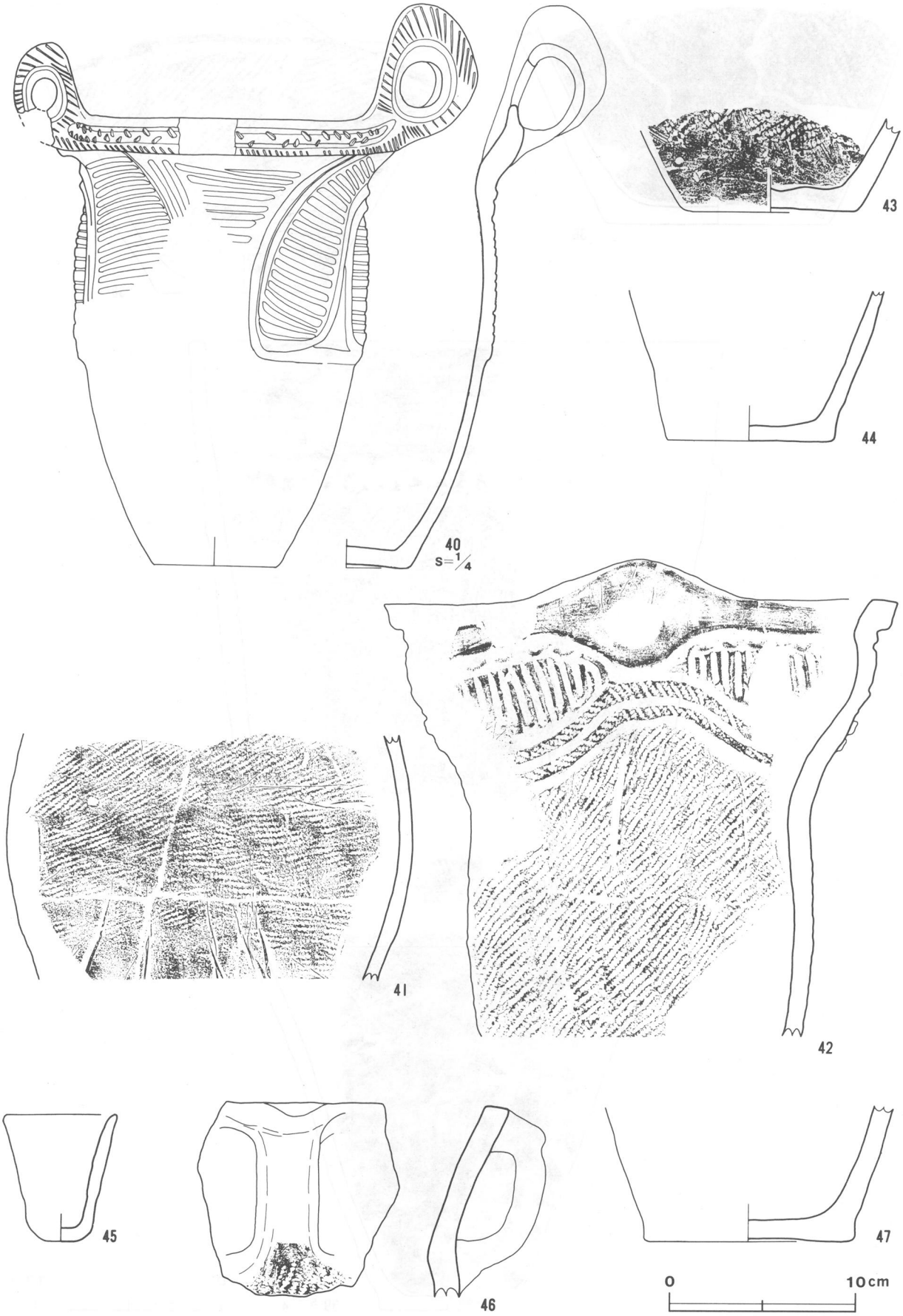
第151図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(4)



第152図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(5)

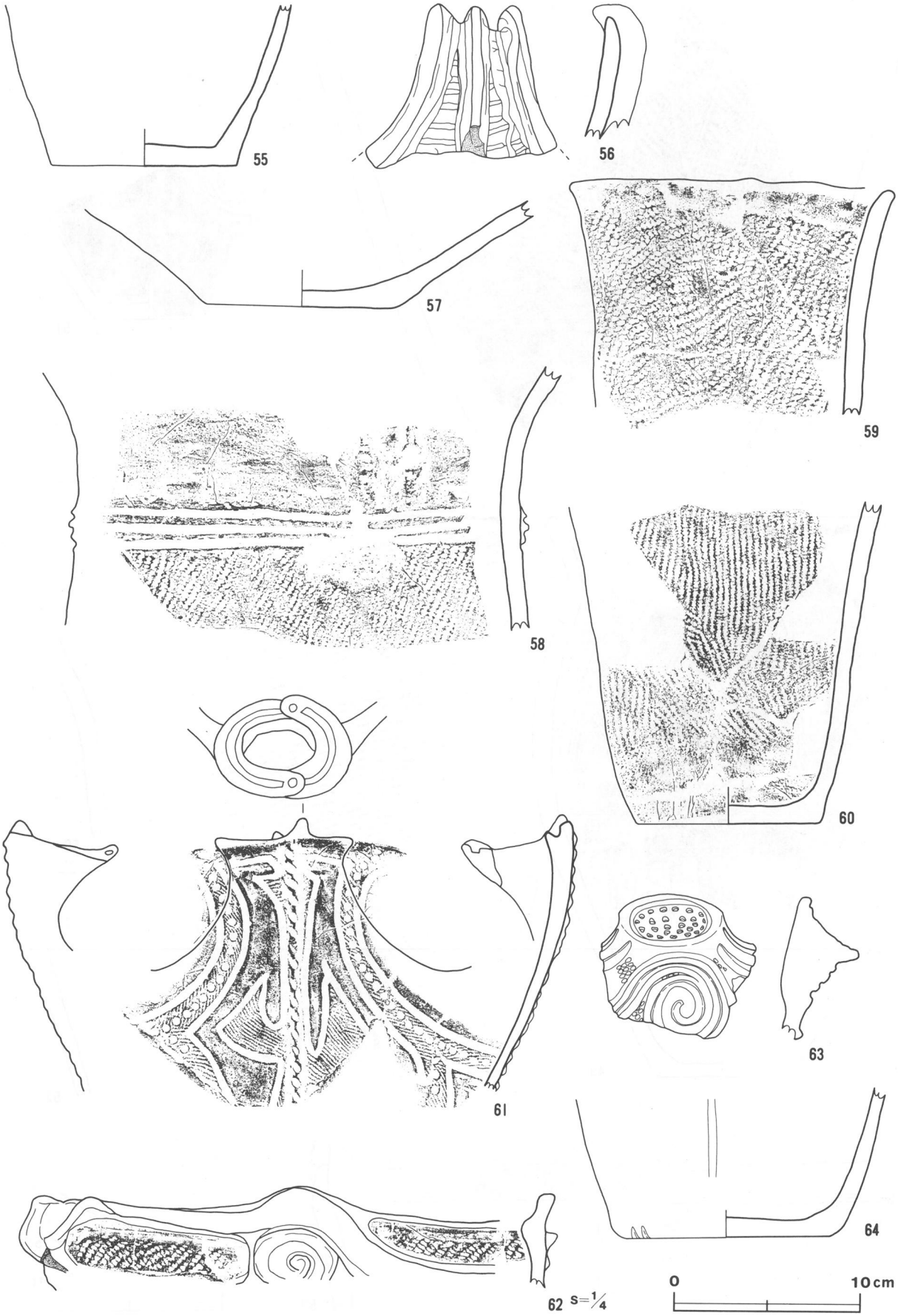


第153図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(6)

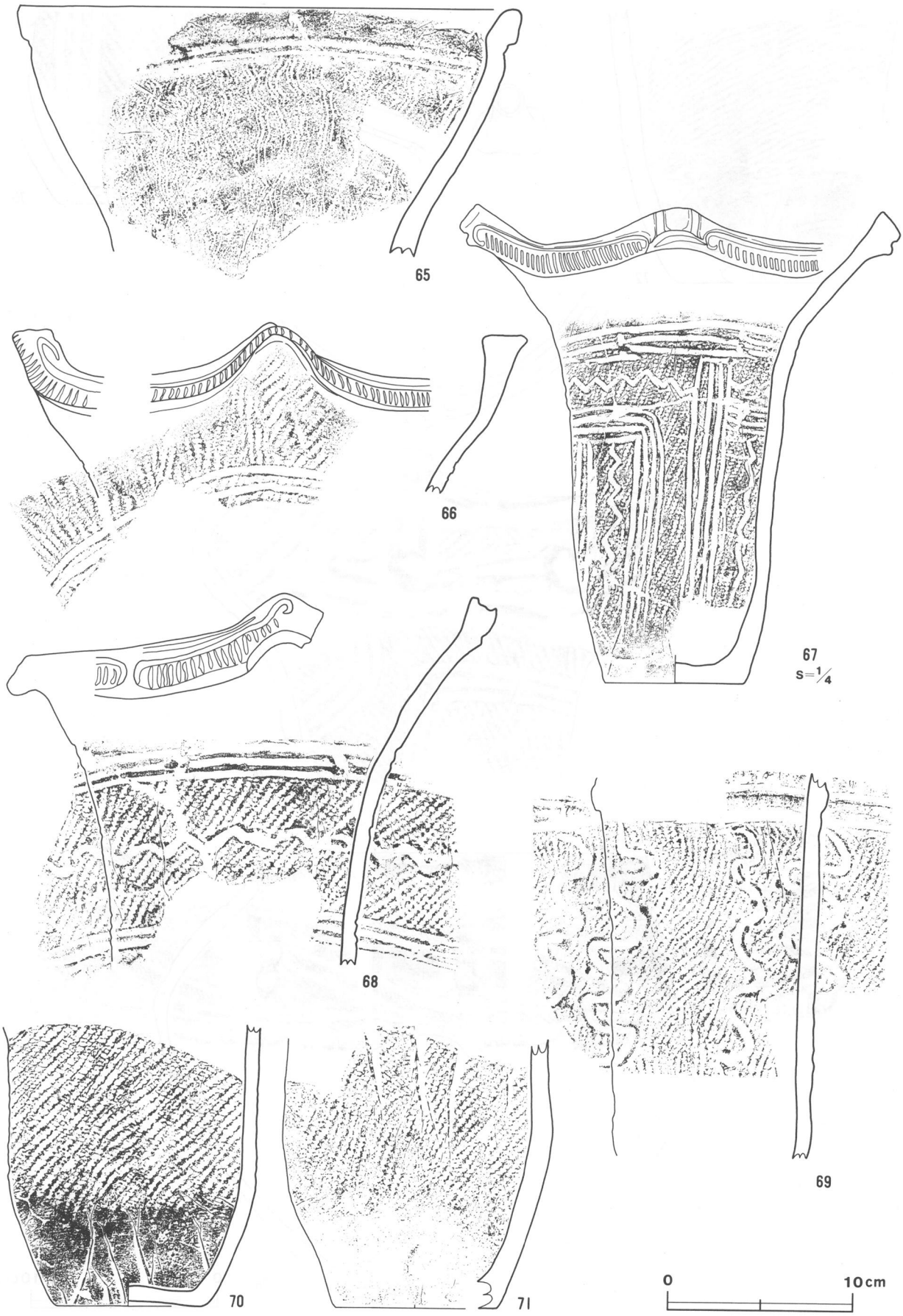


第154図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(7)

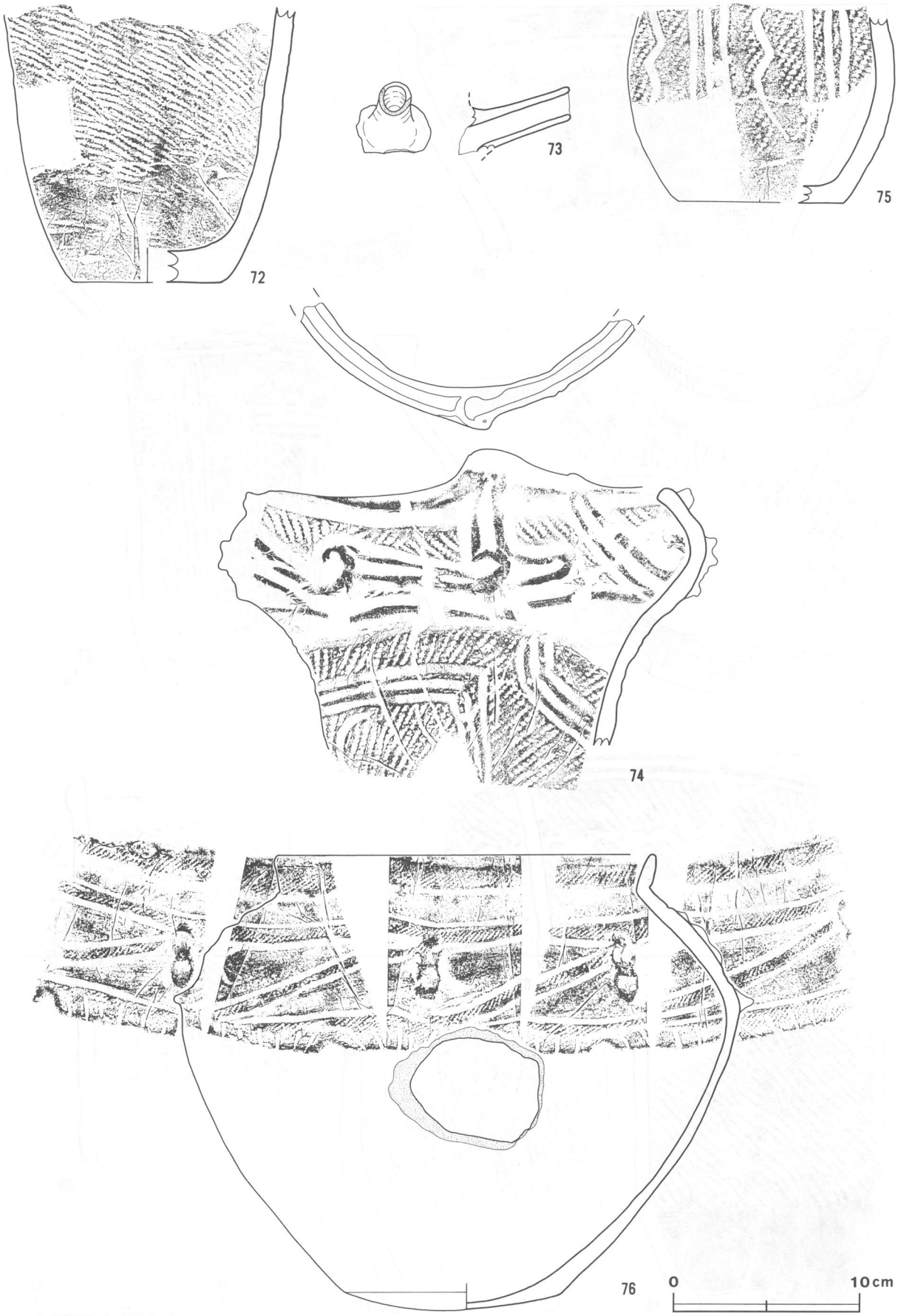
第155図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(8)



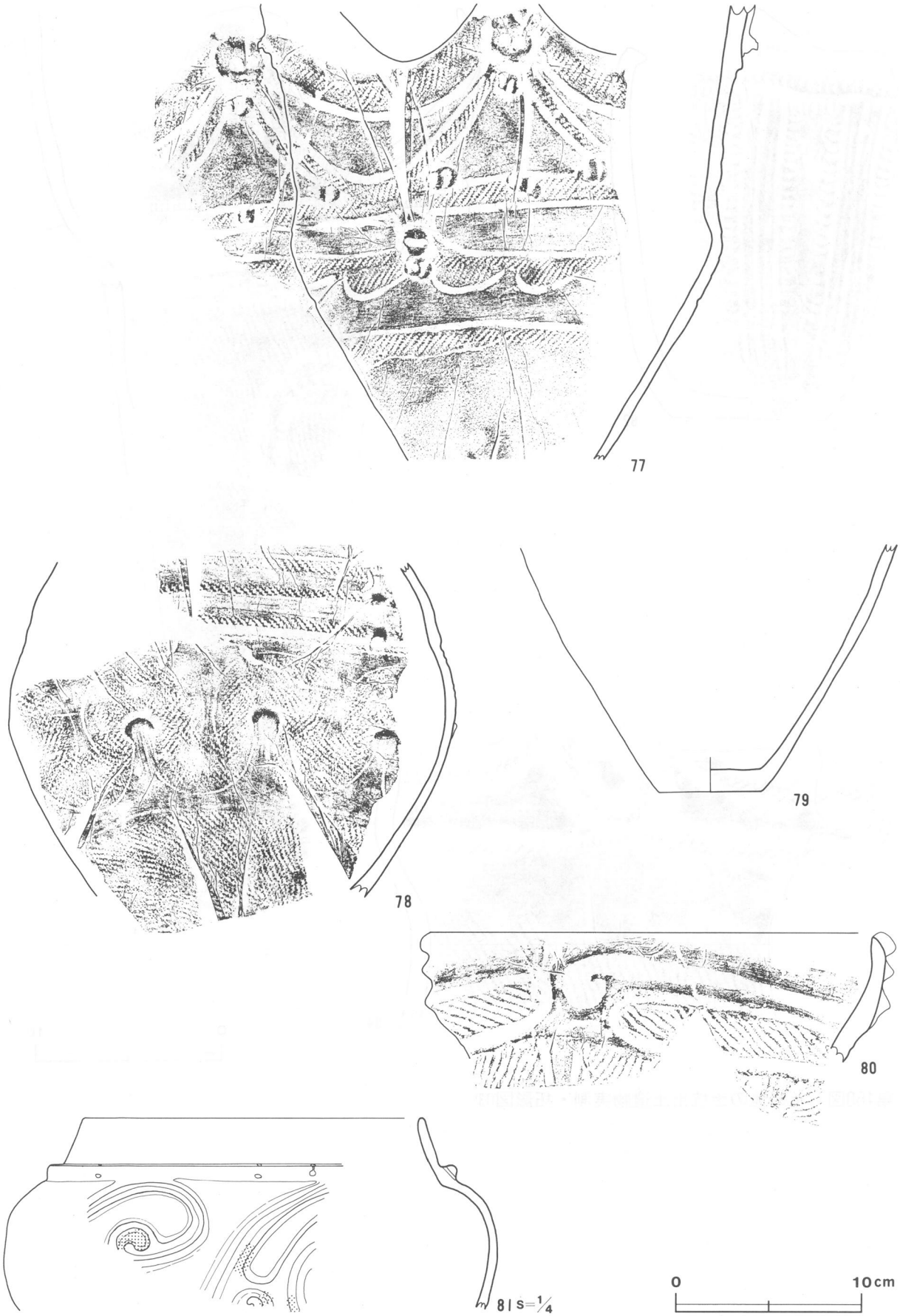
第156図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(9)



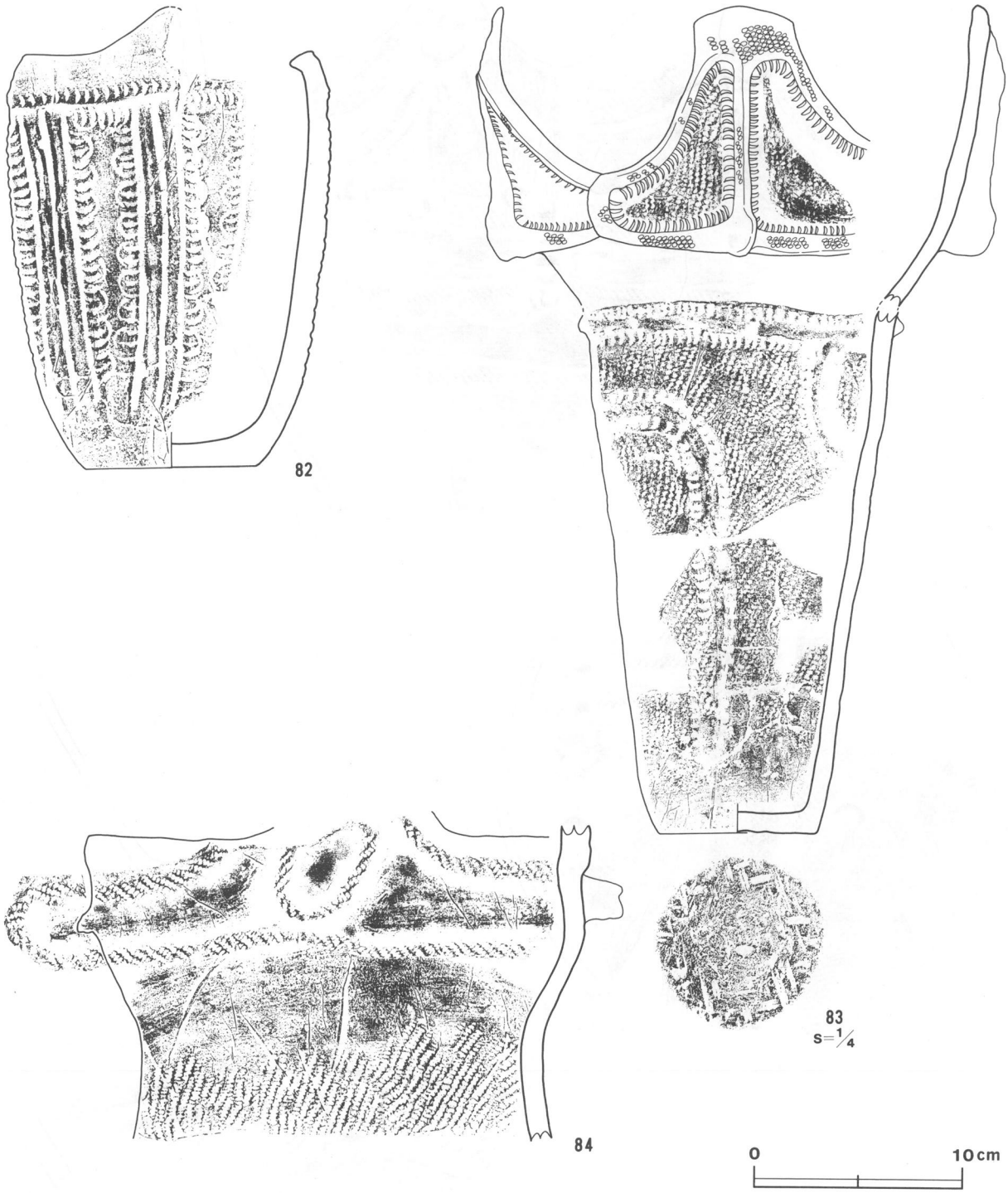
第157図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(10)



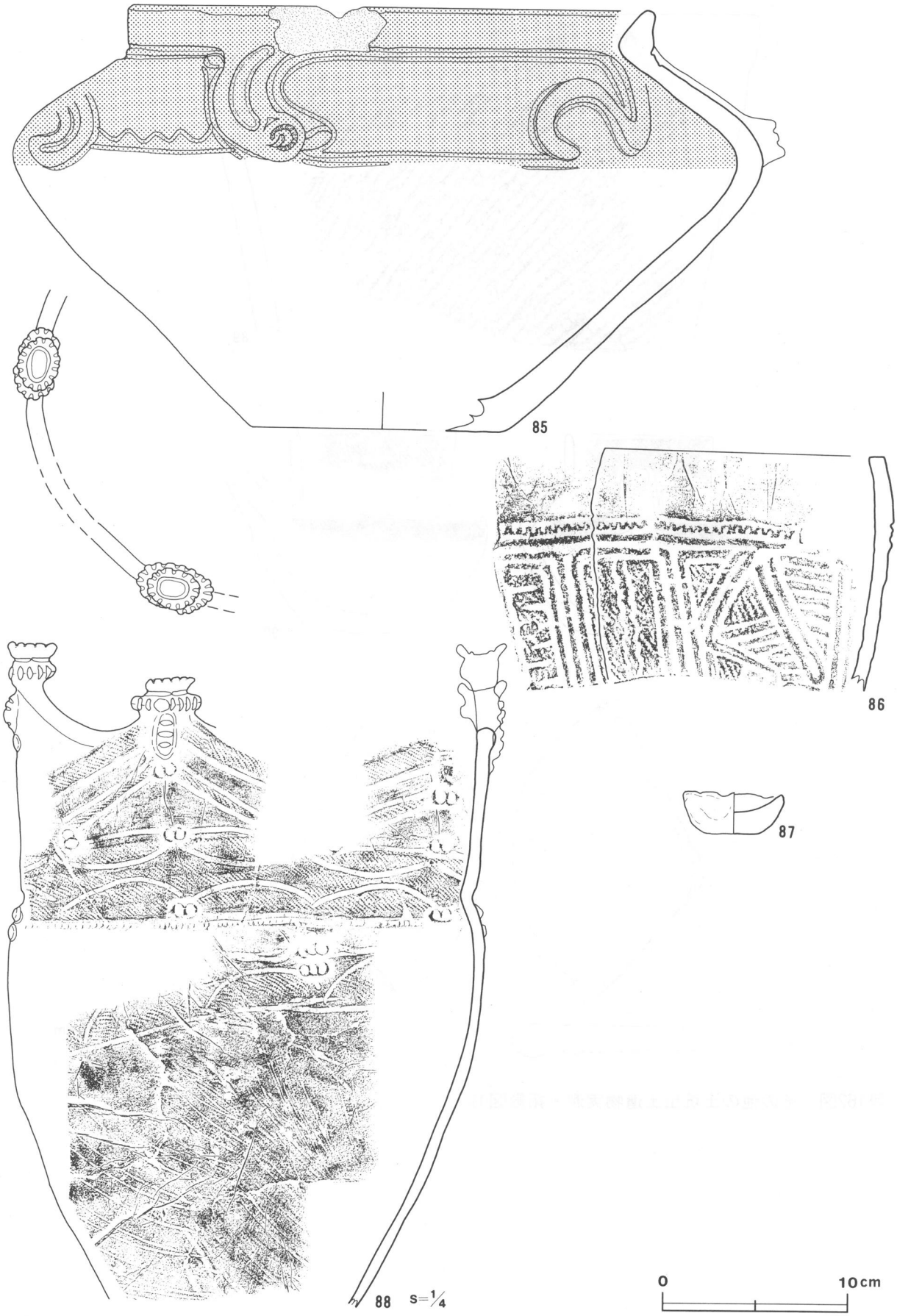
第158図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(11)



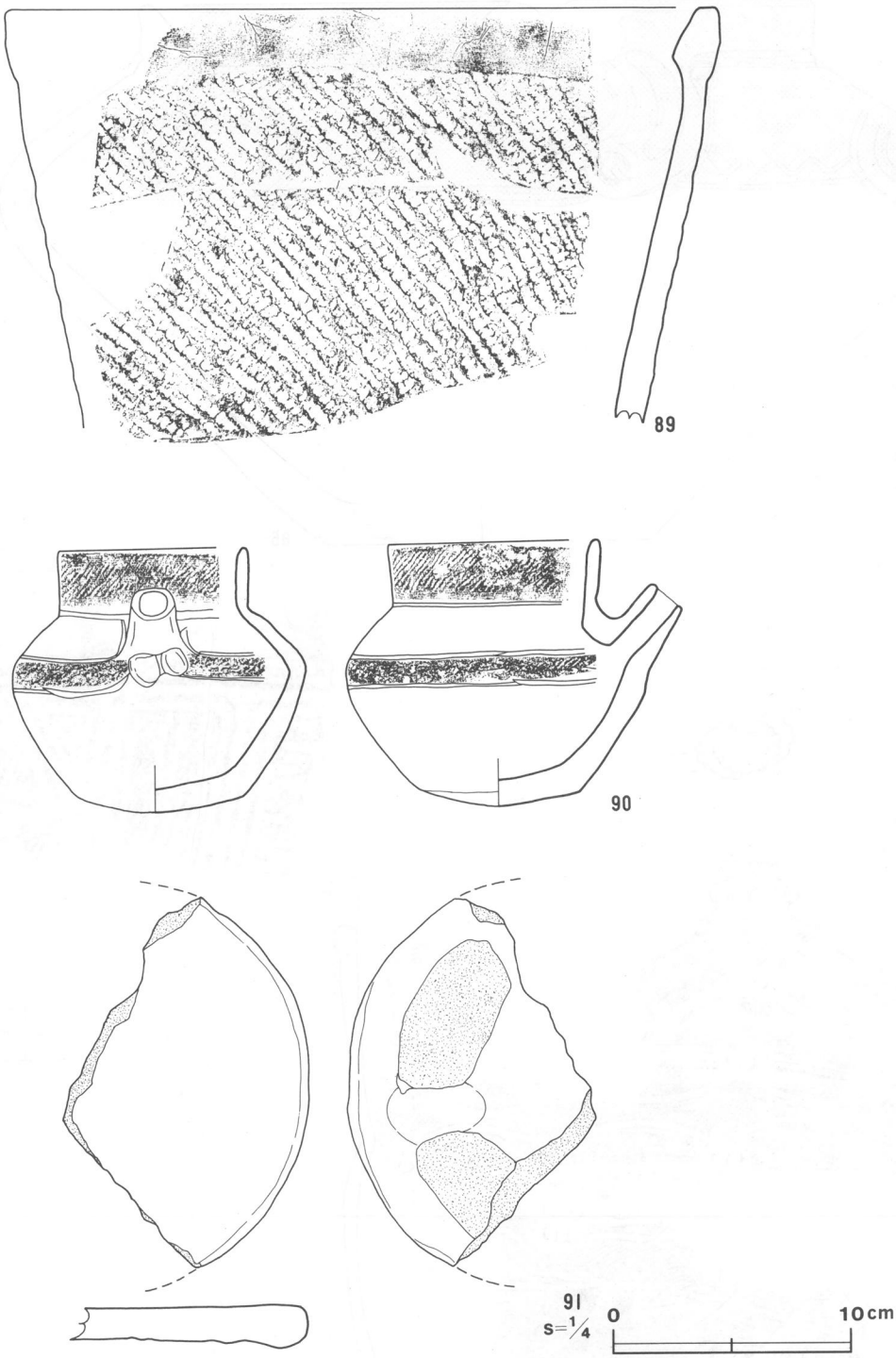
第159図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(12)



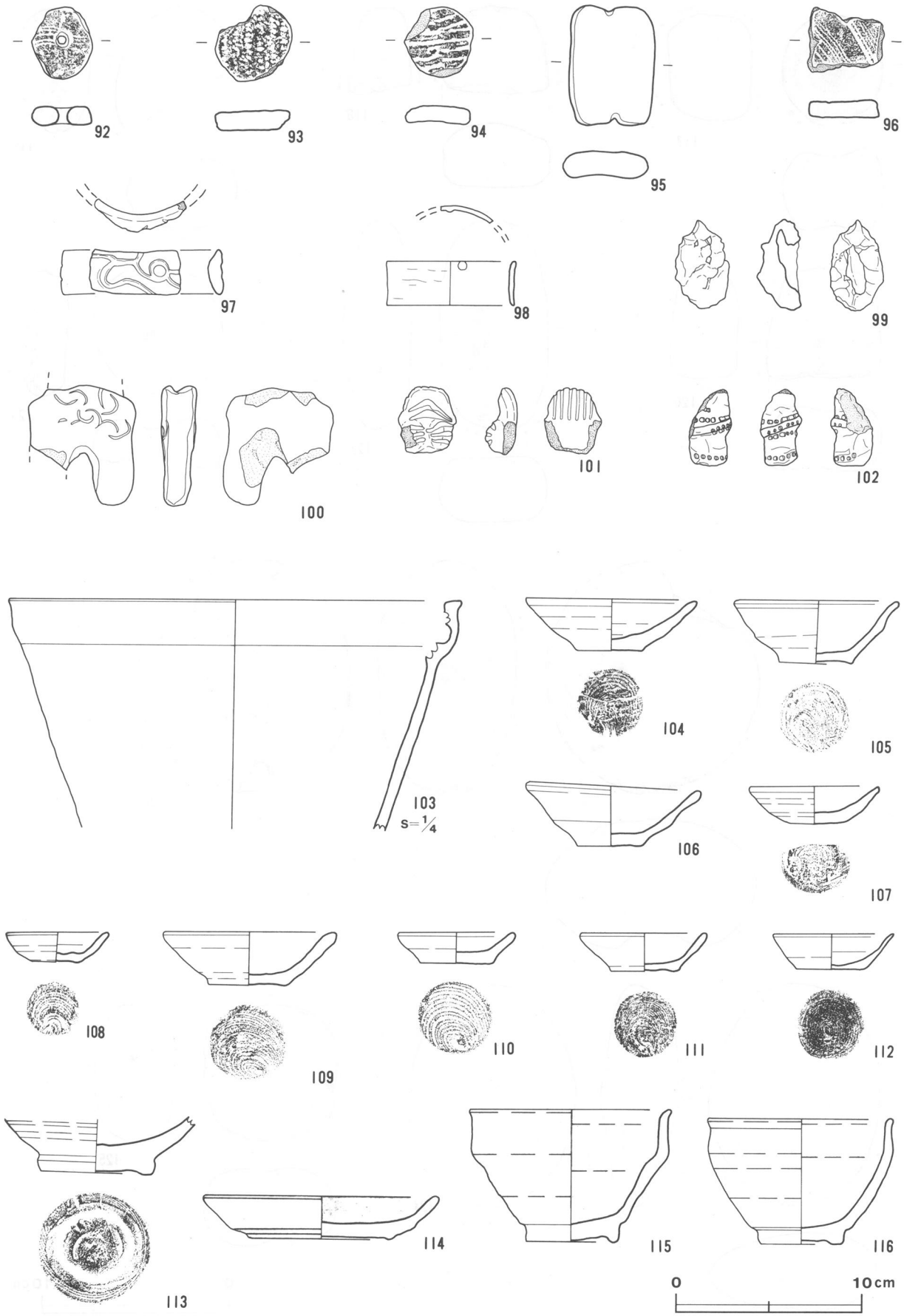
第160図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(13)



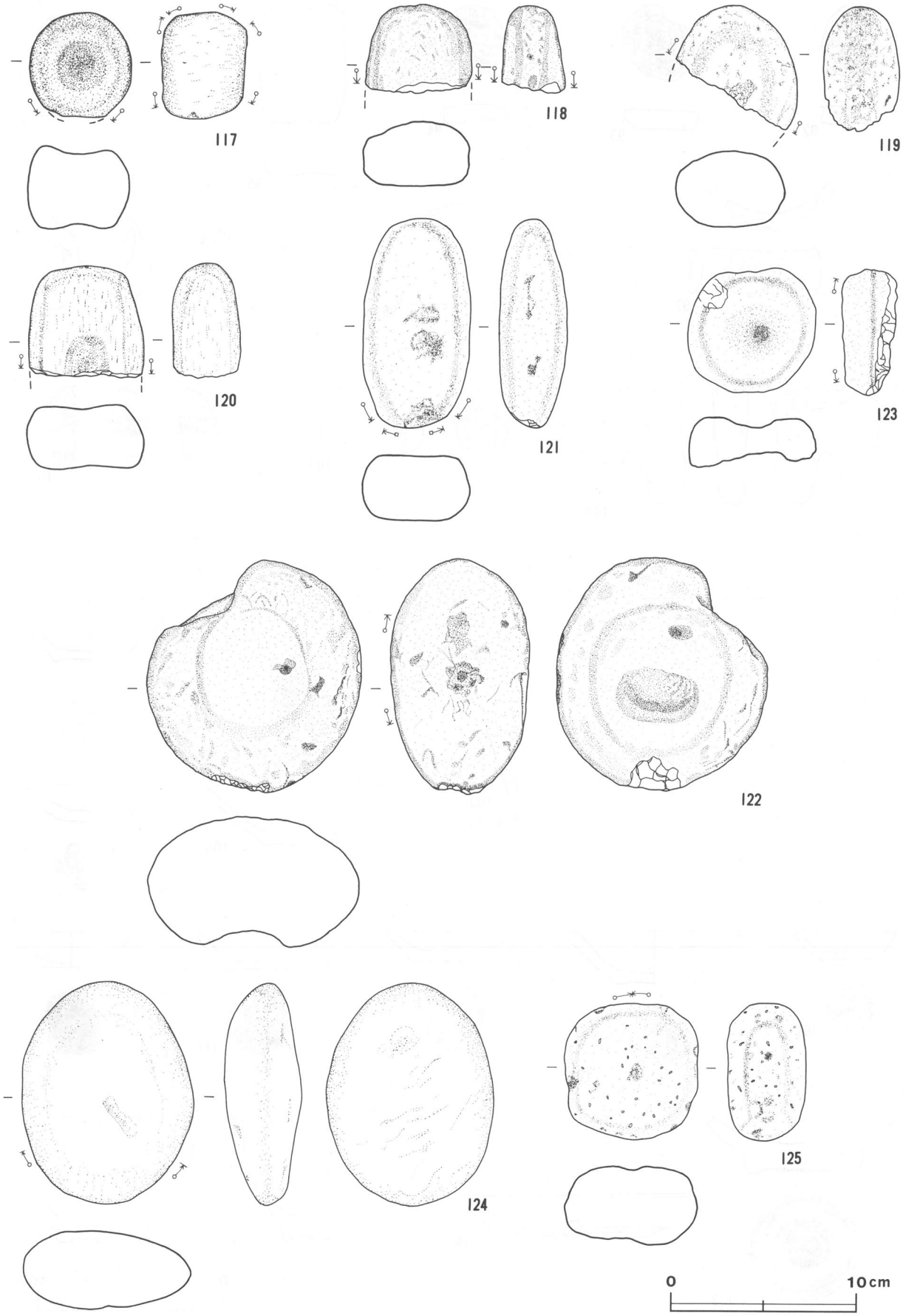
第161図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図⑭



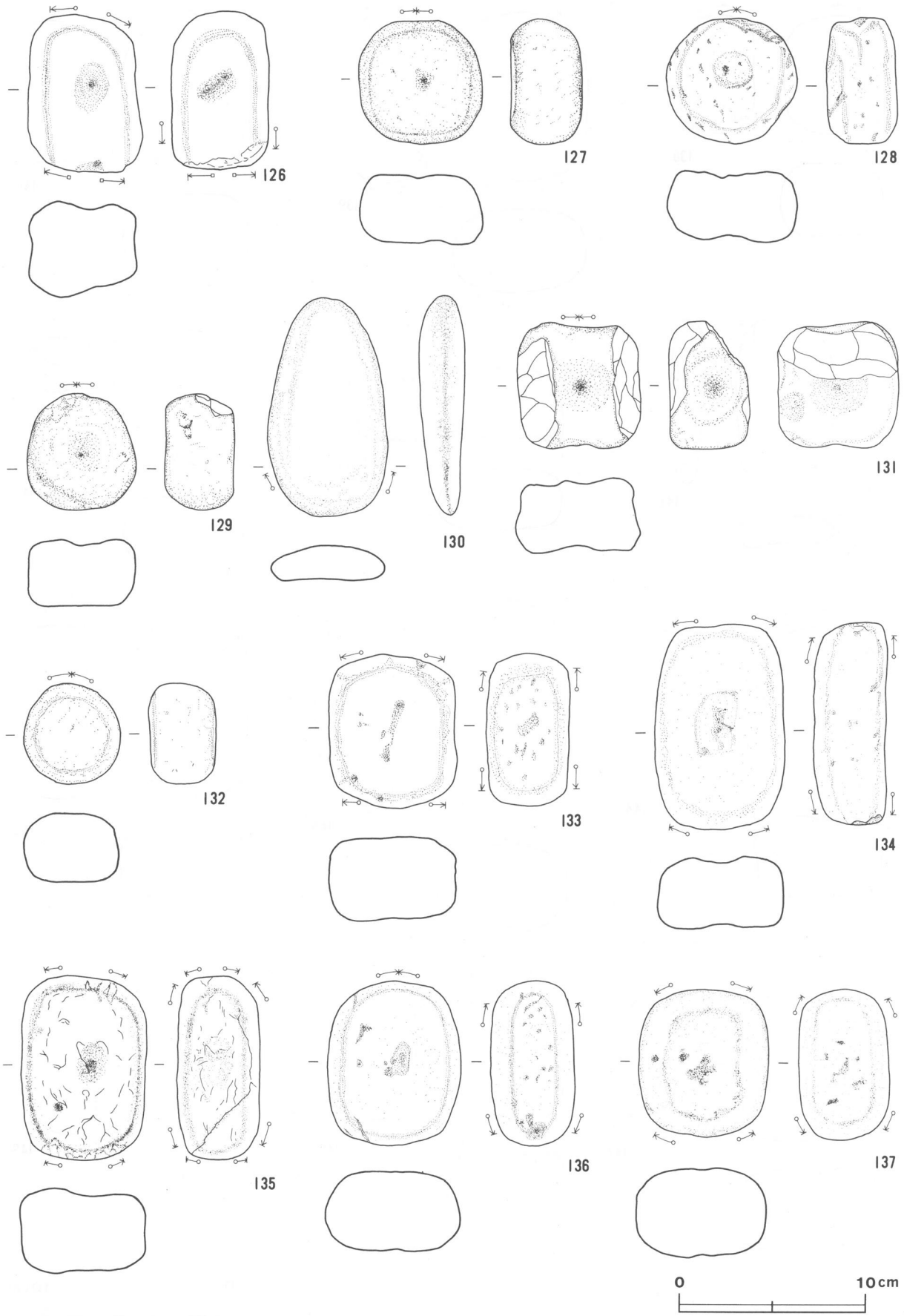
第162図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図⑮



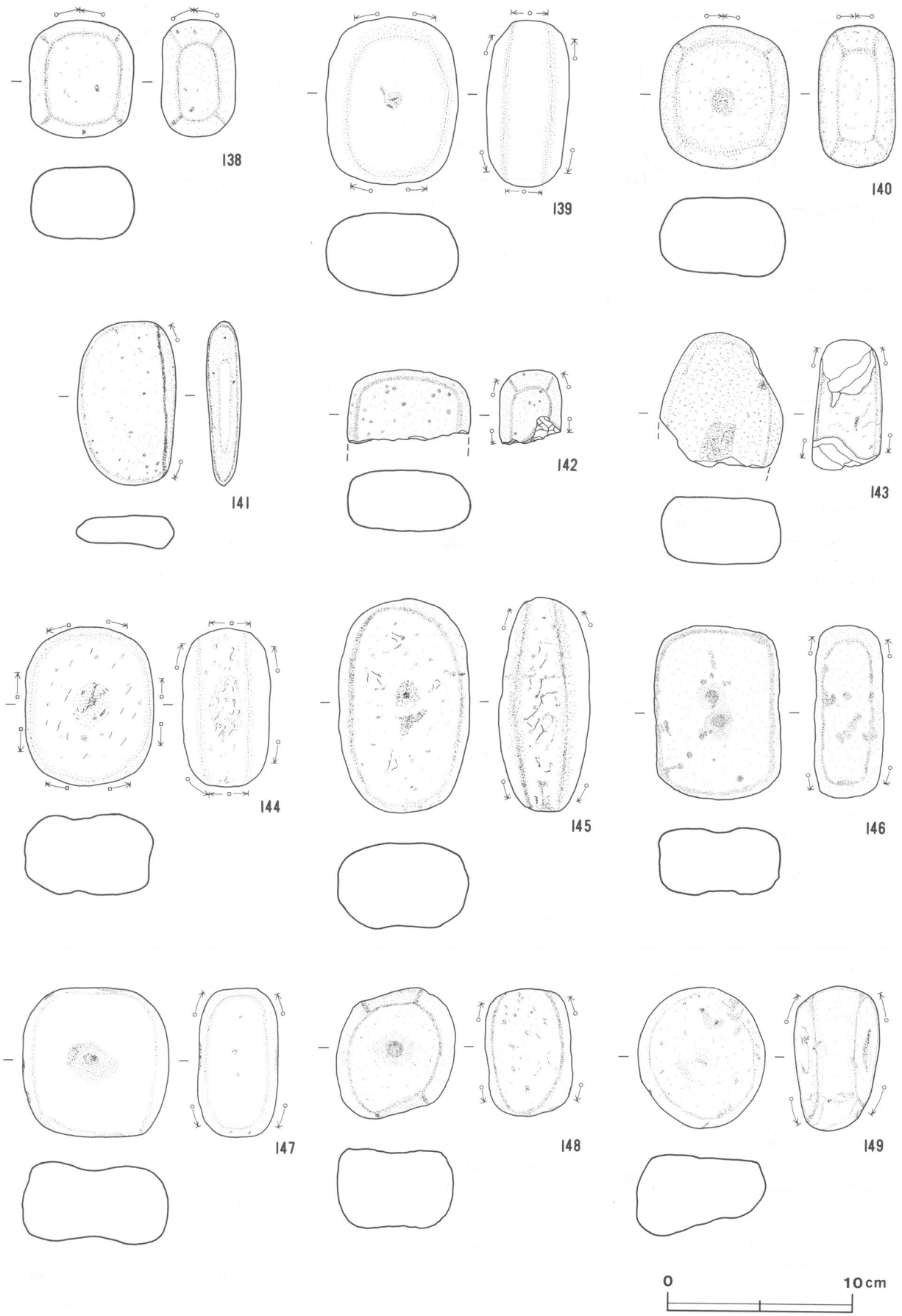
第163図　その他の土坑出土遺物実測・拓影図(16)



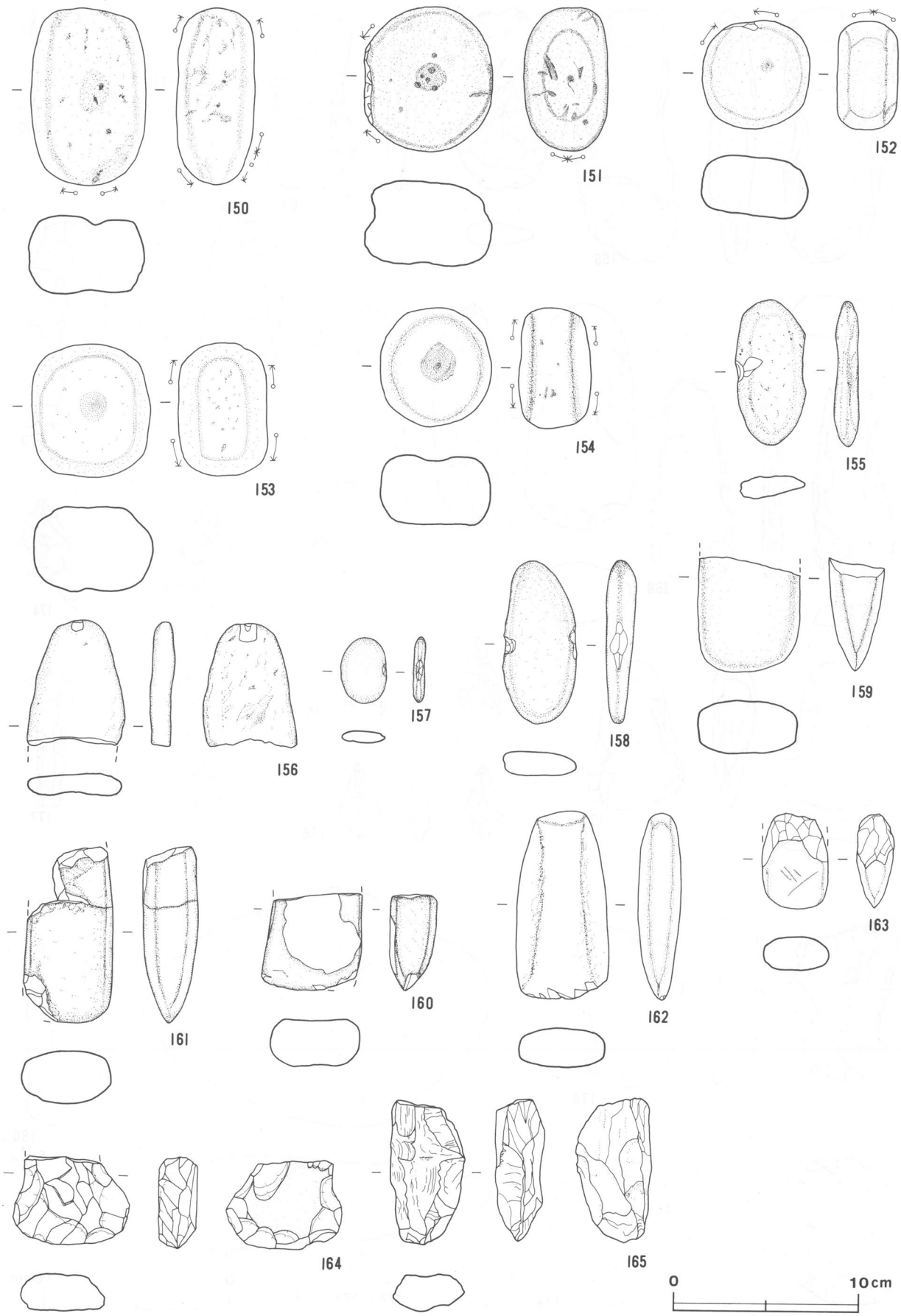
第164図　その他の土坑出土遺物実測図(17)



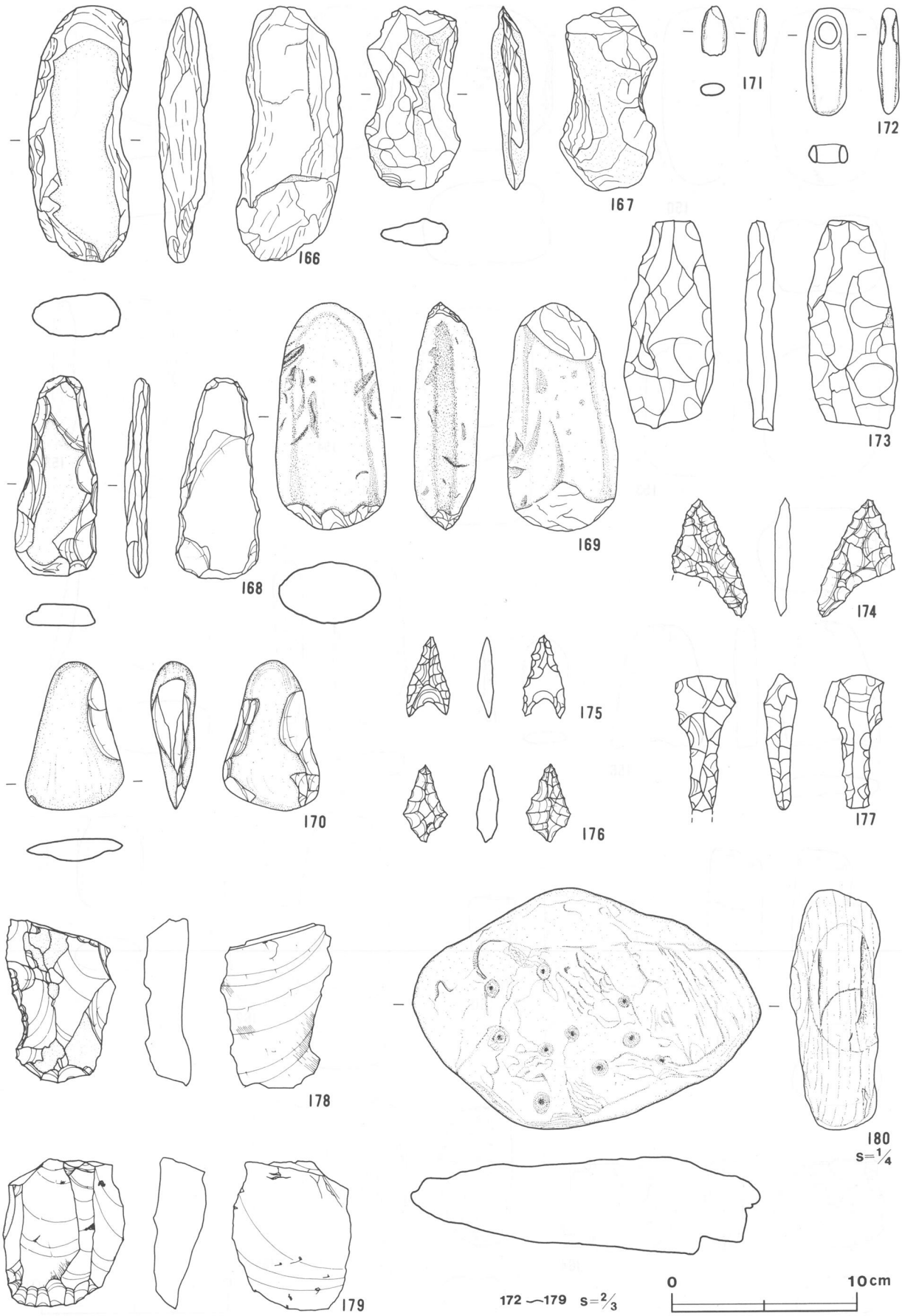
第165図　その他の土坑出土遺物実測図⑱



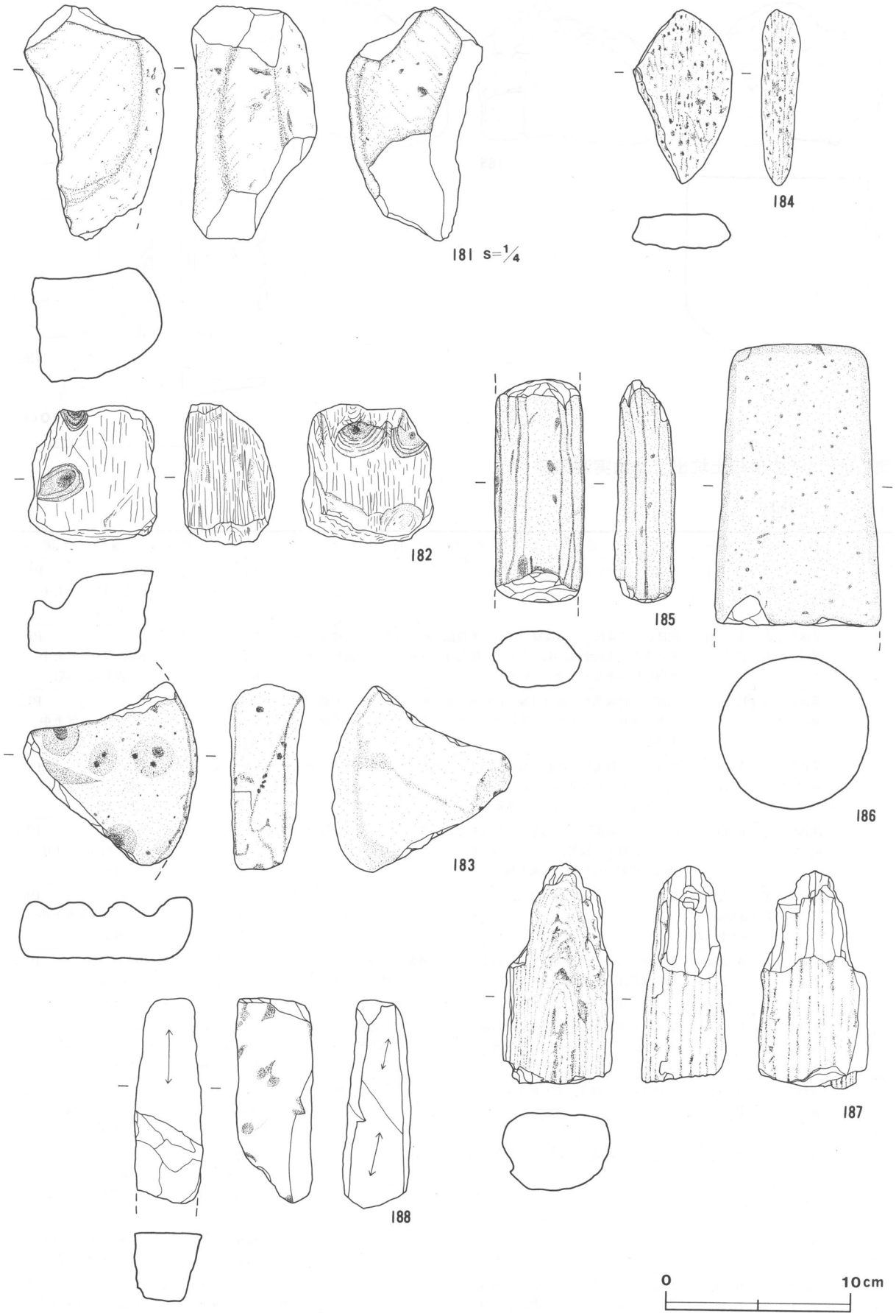
第166図　その他の土坑出土遺物実測図(19)



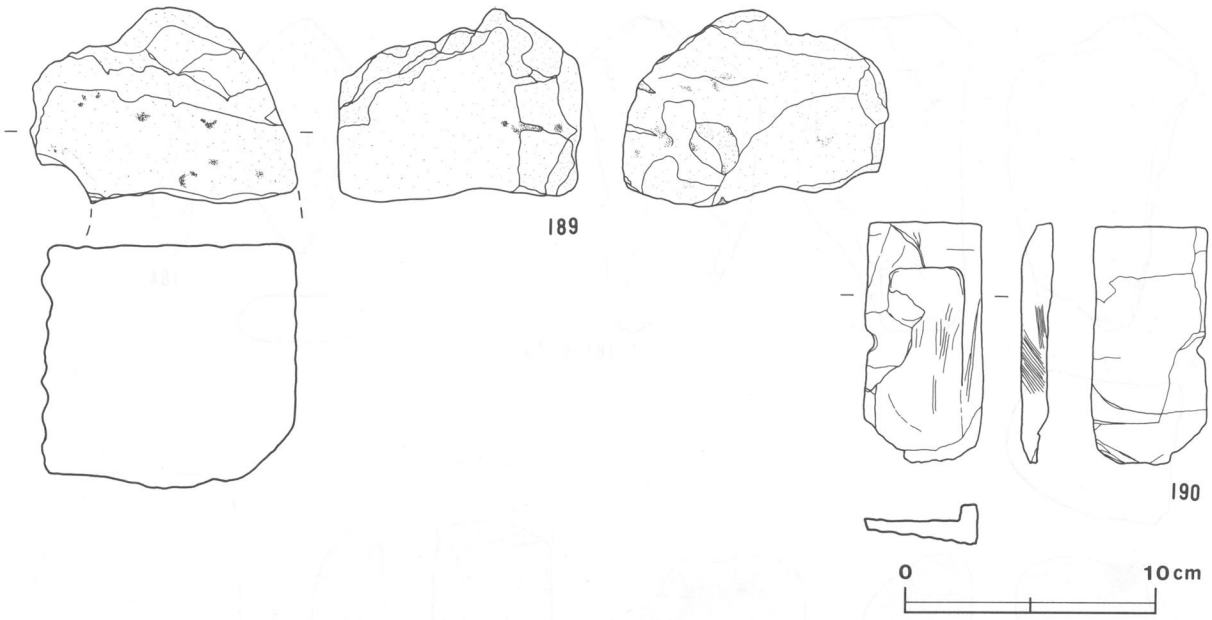
第167図　その他の土坑出土遺物実測図(20)



第168図　その他の土坑出土遺物実測図(21)



第169図　その他の土坑出土遺物実測図(22)



第170図　その他の土坑出土遺物実測図(23)

土坑出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第148図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(12.1)	把手片。上位が耳状の形をしている。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P53　5％　PL42 SK−1159覆土中 (称名寺II式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[30.2] B(17.4)	胴部から口縁部片。口縁部の山形の波頂部に孔を有する。口縁部無文帯を区画する隆線上は，丸みをもつ。胴部は，隆線によって逆U字状の区画内に単節縄文を充填している。	砂粒 橙色 普通	P54　10％　PL42 SK−1166覆土中 (加曽利EⅣ式)
3	深鉢形土器 縄文土器	B(16.7)	胴部から口縁部片。波状口縁。口縁部に橋状把手を有する。胴部上位は2本の隆線によりモチーフを描き，モチーフの内・外面に単節縄文RLを施している。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P55　5％　PL42 SK−1166覆土中 (加曽利EⅣ式)
4	深鉢形土器 縄文土器	A 28.0 B(17.5)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は外反し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部内・外面は，横位ナデを施している。以下に交互刺突文を施している。胴部は，単節縄文を施文している。	砂粒・長石・雲母 暗褐色 普通	P56　30％　PL42 SK−1169覆土中 (中峠式)
5	深鉢形土器 縄文土器	B(13.5)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，キザミ目を施した隆帯で渦巻文を描いている。頸部に複列の爪形文と沈線を施している。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P57　10％　PL42 SK−1169覆土中 (中峠式)
第149図 6	深鉢形土器 縄文土器	最大長 8.9 最大幅10.1 最大厚 5.0	眼鏡状の把手。孔の周囲には，キザミ目と沈線を施している。	砂粒・長石・雲母 明褐色 普通	P58　5％　PL42 SK−1169覆土中 (中峠式)
7	深鉢形土器 縄文土器	A[20.2] B(23.0)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。口縁部文様帯は，交互刺突文を施している。胴部には，撚糸文を地文に複列の沈線を施している。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P64　50％　PL42 SK−1171覆土中 (中峠式)
8	深鉢形土器 縄文土器	B(8.8) C　8.6	底部から胴部片。平底。底部から胴部上位にかけてほぼ垂直に立ち上がる。胴部下位は，縦位の沈線を密に施している。底部から5cmほどまでは，横位ナデを施している。	長石・雲母・ スコリア 橙色　普通	P65　10％ SK−1171覆土中 (中峠式)
9	深鉢形土器 縄文土器	A[20.0] B(7.6)	口縁部片。口縁部に有孔把手を有する。以下に交互刺突文が巡る。	砂粒・長石 明褐色 普通	P68　5％　PL43 SK−1176覆土中 (加曽利EⅠ式)
10	深鉢形土器 縄文土器	B(8.6)	胴部片。単節縄文を地文に，隆帯と沈線を施している。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P69　5％ SK−1176表採 (加曽利EⅠ式)
11	ミニチュア 縄文土器	A[5.3] B　6.4 C　4.0	外面に縦位ナデ整形を施している。	砂粒・石英 暗褐色 普通	P70　70％　PL43 SK−1178覆土中 (加曽利EⅠ式)
12	深鉢形土器 縄文土器	A 24.8 B(16.1)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は外反しながら立ち上がり口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，隆帯によって楕円形に区画する。区画内は，単節縄文RLを横位回転で施文している。胴部は，複列の沈線と波状沈線が垂下する。地文は，単節縄文RLを横位回転で施文している。	砂粒・長石・石英 にぶい褐色 普通	P71　30％　PL44 SK−1178覆土中 (加曽利EⅠ式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第149図 13	深鉢形土器 縄文土器	A[24.4] B(16.8)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し，口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，隆帯によって楕円形を構成している。楕円形の区画内に単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。頸部に複列の隆帯と沈線が巡る。以下は，単節縄文ＲＬを横位回転で施文している。	長石・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P72　30%　PL43 SK－1178覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
第150図 14	深鉢形土器 縄文土器	B(12.2)	把手。中空の把手。上面にＳ字状の文様を施している。孔の周囲に沈線が巡る。大木８ａ式の影響がある。	砂粒・雲母・長石・ スコリア にぶい褐色　普通	P73　5％　PL43 SK－1178覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
15	深鉢形土器 縄文土器	B(23.9)	胴部から口縁部片。口縁部は無文である。胴部上位に隆帯による円形文を施している。単節縄文を地文としている。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P75　5％　PL43 SK－1182覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
16	角底土器 縄文土器	B(3.2) C[8.2]	底部片。外面に単節縄文ＬＲの縦位回転を地文に，沈線が区画している。区画内には，磨消縄文を施している。	砂粒・雲母 にぶい褐色 普通	P76　10%　PL43 SK－1183覆土中 (安行Ⅲb式)
17	深鉢形土器 縄文土器	A[33.0] B(33.9)	胴部から口縁部片。胴部は外反気味に立ち上がり，口縁部は内彎する。口縁部無文帯を微隆線で区画する。胴部は２本の微隆線で逆Ｕ字状の連続のモチーフが描かれている。モチーフ間は磨り消され，モチーフ内は単節縄文ＬＲを横位回転で施文している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P87　40%　PL44 SK－1191覆土中 (加曽利ＥⅣ式)
18	深鉢形土器 縄文土器	A[33.6] B(17.9) C　6.0	底部から口縁部片。波状口縁。キャリパー状をしている。口縁部文様帯を一条の断面三角形の微隆線で区画している。胴部は，単節縄文ＬＲを横位回転で施文している。底部外面はナデを施している。	砂粒・長石・ スコリア 灰白色　普通	P88　20%　PL45 SK－1193覆土中 (加曽利ＥⅣ式)
19	深鉢形土器 縄文土器	B(7.9)	胴部片。微隆線により，Ｕ字状の区画内に単節縄文ＬＲを横位回転で施文している。	砂粒・長石・ スコリア 橙色　普通	P89　5％ SK－1193覆土中 (加曽利ＥⅣ式)
第151図 20	深鉢形土器 縄文土器	A[31.6] B(21.7)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて，外傾して立ち上がる外面は複節縄文ＲＬＲを縦位回転で施文している。	砂粒 にぶい橙色 普通	P95　10%　PL44 SK－1200覆土中 (堀之内Ⅰ式)
21	深鉢形土器 縄文土器	B(7.4)	把手片。橋状把手。孔の周囲に爪形文を施している。	砂粒・雲母・ スコリア 明赤褐色　普通	P96　5％ SK－1200覆土中 (中峠式)
22	有孔鍔付土器 縄文土器	B(2.6)	口縁部片。外面赤彩。頸部の横位隆帯に１つの孔が認められる。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P98　5％ SK－1203覆土中 (加曽利Ｅ式)
23	深鉢形土器 縄文土器	A 21.4 B(19.2)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反し，口縁部で外傾する。口唇部に段を有する。口縁部無文。胴部上位に橋状把手を２単位有し，沈線を施している。以下に単節縄文を地文に沈線と波状沈線が垂下する。	砂粒・雲母・ スコリア 灰褐色　普通	P99　70%　PL44 SK－1206覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
24	深鉢形土器 縄文土器	A[18.0] B(9.0)	胴部上位から口縁部片。波状口縁。胴部上位は内彎気味に立ち上がり，口縁部は大きく外傾する。口縁部に隆帯を貼り付け，以下は単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。大木８ａ式の影響がある。	砂粒・雲母・石英 にぶい褐色 普通	P100　20%　PL44 SK－1206覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
25	深鉢形土器 縄文土器	A[35.0] B(15.9)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて，内彎気味に立ち上がる。口縁部は横位ナデを施している。以下は，単節縄文を施文している。	砂粒・スコリア 褐色 普通	P101　10% SK－1207覆土中 (加曽利ＥⅢ式)
26	異形土器 縄文土器	B(6.1)	脚部から口縁部片。三条の隆起帯縄文が巡り，二条と三条の隆起帯間に瘤が貼られている。貫通孔を有する。	砂粒・長石 褐色 普通	P102　20%　PL43 SK－1209覆土中 (安行Ⅱ式)
27	異形土器 縄文土器	B(3.4)	脚部から口縁部片。三条の隆起帯縄文が巡り，二条と三条の隆起帯間に瘤を貼り付けている。貫通孔を有する。	砂粒・長石 褐色 普通	P103　10% SK－1209覆土中 (安行Ⅱ式)
第152図 28	深鉢形土器 縄文土器	A 27.0 B(27.7) C　8.0	底部から口縁部片。キャリパー状をしている。口縁部は，横位のナデを施している。胴部は単節縄文を地文に，二本単位の幅の広い沈線が垂下する。底面から２cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒 暗褐色 普通	P104　40%　PL45 SK－1215覆土中 (加曽利ＥⅢ式)
29	鉢形土器 縄文土器	B(7.8) C　7.0	底部から胴部片。底部から胴部下位にかけて，外傾する。外面は，単節縄文を施文している。	砂粒・長石 橙色 普通	P105　10% SK－1215覆土中 (加曽利ＥⅢ式)
30	深鉢形土器 縄文土器	B(16.6) C　8.4	底部から胴部片。胴部は内彎気味に立ち上がる。胴部外面は，単節縄文を施文している。底面から２cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア にぶい赤褐色　普通	P106　50%　PL44 SK－1218覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
31	深鉢形土器 縄文土器	B(16.6) C 10.0	底部から胴部片。平底。底部から胴部下位にかけて，やや内彎気味に立ち上がる。胴部下位は，撚糸文を施文している。底面から５cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色　普通	P107　10% SK－1218覆土中 (加曽利ＥⅠ式)
32	深鉢形土器 縄文土器	A[16.8] B 20.5 C[10.4]	底部から口縁部片。平底。底部から口縁部にかけて外反気味に外傾する。口縁部外面は，丁寧な磨きを施している。胴部上位は上下を沈線によって区画され，区画内に幾何学状，菱形などの磨消縄文の文様を描いている。下位は，丁寧な磨きを施している。	砂粒・雲母・ スコリア にぶい褐色 良好	P110　50%　PL45 SK－1219覆土中 (堀之内Ⅱ式)
33	深鉢形土器 縄文土器	B(9.1)	口縁部片。内・外面に隆帯と沈線による文様を描いている。貫通孔が二つ認められる。大木８ａ式の影響がある。	砂粒・長石・雲母 明赤褐色 普通	P111　10%　PL43 SK－1225覆土中 (阿玉台Ⅳ式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第152図 34	深鉢形土器 縄文土器	B(4.8) C 6.4	底部片。	砂粒・長石・ スコリア にぶい橙色　普通	P112　10% SK−1226覆土中 (加曽利EⅢ式)
35	深鉢形土器 縄文土器	A[29.2] B(9.4)	口縁部片。口縁部文様帯は，交互刺突文が二条巡る。以下に撚糸文を施している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色　普通	P113　5%　PL45 SK−1227覆土中 (中峠式)
第153図 36	深鉢形土器 縄文土器	B(10.6) C 11.8	底部から胴部片。平底。底部から胴部下位は，縦位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色　普通	P114　30%　PL46 SK−1230覆土中 (加曽利EⅢ式)
37	深鉢形土器 縄文土器	A[28.0] B(24.0)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて，外傾する。口縁部無文帯をキザミ目を施した隆帯で区画している。以下に，条線文を施している。綱取Ⅰ式の影響がある。	砂粒・長石・ スコリア 橙色　普通	P115　20%　PL45 SK−1242覆土中 (堀之内Ⅰ式)
38	浅鉢形土器 縄文土器	A 24.2 B 15.4	口縁部に小突起を有する。外面に単節縄文を施文している。外面に煤付着。	砂粒・長石・雲母・ 石英 浅黄橙色　普通	P116　40%　PL46 SK−1242覆土中 (堀之内Ⅰ式)
39	深鉢形土器 縄文土器	B(33.3) C 9.4	底部から胴部片。平底。底部から胴部にかけて，外傾して立ち上がる。胴部上位に単節縄文を施文している。胴部中位から下位は，ナデを施している。	砂粒・雲母・長石・ スコリア 橙色　普通	P122　50%　PL46 SK−1246覆土中 (堀之内式)
第154図 40	深鉢形土器 縄文土器	A 22.0 B(43.2) C 8.8	底部から口縁部片。平底。胴部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部文様帯は，交互刺突文，キザミ目を施した隆帯が巡る。胴部は，複列の隆帯と沈線で区画し，区画内に幅の広い沈線を施している。	砂粒・長石・雲母・ 石英 暗褐色　普通	P123　80%　PL46 SK−1246覆土中 (中峠式)
41	深鉢形土器 縄文土器	B(13.3)	胴部片。外面に単節縄文を施文している。	砂粒・長石・ スコリア 橙色　普通	P124　10%　PL47 SK−1246覆土中 (堀之内式)
42	深鉢形土器 縄文土器	A[27.8] B(23.3)	胴部から口縁部片。波状口縁。口縁部無文。胴部は内彎気味に立ち上がり，上位でくびれる。口縁部は，やや外傾する。口縁直下に縄文を施した隆帯で楕円形を区画し，区画内の上位に交互刺突文を施し，下位に縦位の沈線を施している。胴部は，単節縄文RLを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 橙色 普通	P126　30%　PL46 SK−1247覆土中 (中峠式)
43	深鉢形土器 縄文土器	B(4.4) C[9.2]	底部片。平底。胴部下位は，単節縄文RLを横位回転で施文している。底面から3cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒 橙色 普通	P127　10% SK−1248覆土中 (加曽利EⅠ式)
44	深鉢形土器 縄文土器	B(8.1) C 9.0	底部片。平底。	砂粒・雲母・ スコリア にぶい橙色　普通	P134　20% SK−1274覆土中 (加曽利E式)
45	ミニチュア 縄文土器	A 5.9 B 6.8 C 2.0	口縁部一部欠損。外面は，縦位のナデ整形を施している。	砂粒・長石 褐色 普通	P135　90%　PL46 SK−1275覆土中 (中期)
46	深鉢形土器 縄文土器	B(10.4)	把手片。橋状把手。	砂粒・長石 褐色 普通	P136　5%　PL47 SK−1278覆土中 (加曽利EⅣ式)
47	深鉢形土器 縄文土器	B(7.2) C[11.4]	底部片。平底。胴部下位は，縦位のナデ整形を施している。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P139　10% SK−1289覆土中 (加曽利EⅢ式)
第155図 48	深鉢形土器 縄文土器	B(28.8)	胴部片。単節縄文を地文にし，斜位の沈線を施している。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P142　10% SK−1310覆土中 (堀之内Ⅰ式)
49	深鉢形土器 縄文土器	A 5.9 B 6.8 C 2.0	平底。底部から胴部中位にかけて外傾し，上位で内彎する。中位で最大径をもつ。口縁部で大きく外傾する。口縁部無文。胴部には，櫛歯状工具による斜位の条線文が交差する。底面から14cmほどまでは，縦位ナデを施している。	砂粒・長石・ スコリア 橙色 普通	P143　60%　PL47 SK−1313覆土中 (称名寺Ⅱ式 or 堀之内Ⅳ式)
50	深鉢形土器 縄文土器	A[25.0] B(19.3)	胴部から口縁部片。キャリパー状をしている。口縁部無文帯を微隆線で区画し，以下に単節縄文RLを横位回転で施文している。	砂粒・長石・ スコリア にぶい黄褐色　普通	P144　20%　PL47 SK−1314覆土中 (加曽利EⅣ式)
51	深鉢形土器 縄文土器	B(7.5) C 6.2	底部片。平底。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P145　15%　PL47 SK−1314覆土中 (加曽利EⅢ式)
52	深鉢形土器 縄文土器	A[37.6] B(15.9)	胴部から口縁部片。胴部上位から口縁部にかけて外傾する。外面に太い沈線によるパネル的な区画が描かれている。	砂粒・雲母・長石・ スコリア 明黄褐色　普通	P146　5%　PL47 SK−1315覆土中 (称名寺Ⅰ式)
53	深鉢形土器 縄文土器	A[30.0] B(9.3)	口縁部片。波状口縁。波頂部に沈線と刺突を組み合わせて装飾している。以下に，横位ナデを施している。	砂粒・長石 橙色 普通	P147　5%　PL47 SK−1319覆土中 (堀之内Ⅰ式)
54	深鉢形土器 縄文土器	B(4.8) C[6.8]	底部片。平底。外面に磨きを施している。	砂粒 橙色 普通	P148　10%　PL47 SK−1329覆土中 (加曽利EⅣ式)
第156図 55	深鉢形土器 縄文土器	B(8.7) C 10.0	底部から胴部片。平底。胴部下位は，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・ 石英 橙色　普通	P149　40%　PL48 SK−1332覆土中 (加曽利EⅠ式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第156図 56	深鉢形土器 縄文土器	B(8.9)	把手。	砂粒・長石・雲母・石英 橙色　普通	P150　5％　PL48 SK－1333覆土中 (阿玉台Ⅲ式)
57	深鉢形土器 縄文土器	B(5.0) C 10.2	底部から胴部片。平底。底部から胴部下位にかけて外傾する。底部下位はナデ整形を施している。	砂粒・長石・雲母・石英 黒褐色　普通	P151　20% SK－1336覆土中 (加曽利EⅡ式)
58	深鉢形土器 縄文土器	B(13.6)	胴部から頸部片。胴部外面は，単節縄文RLを横位回転で施文している。	雲母・石英・スコリア 橙色　普通	P152　10%　PL48 SK－1337覆土中 (加曽利EⅠ式)
59	深鉢形土器 縄文土器	A 17.2 B(12.1)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて，やや外反気味に立ち上がる。外面に単節縄文RLを施文している。	砂粒・長石・スコリア 橙色　普通	P153　30%　PL48 SK－1337覆土中 (加曽利EⅠ式)
60	深鉢形土器 縄文土器	B(13.6) C 9.8	底部から胴部片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。外面は，単節縄文を施文している。底面から3cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色　普通	P154　30%　PL48 SK－1339覆土中 (加曽利EⅠ式)
61	深鉢形土器 縄文土器	A[28.0] B(14.8)	胴部から口縁部片。有孔把手を有する。把手から口縁部にかけて，沈線と円形刺突文を施している。以下は，太い沈線によるパネル的な区画を施している。	砂粒・雲母 明褐色 良好	P157　5％　PL48 SK－1344覆土中 (称名寺Ⅰ式)
62	深鉢形土器 縄文土器	A[34.3] B(7.8)	口縁部片。波状口縁。口縁部文様帯は隆帯による渦巻文を描き，楕円形の区画内には単節縄文を施文している。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色　普通	P158　10%　PL49 SK－1376覆土中 (加曽利EⅢ式)
63	深鉢形土器 縄文土器	B(7.7)	把手。上面の周囲に沈線が巡り，内側に刺突文を施している。外面には，隆帯と沈線による渦巻文を描いている。	砂粒・長石・雲母・石英 にぶい褐色　普通	P159　5％　PL49 SK－1377覆土中 (加曽利EⅠ式)
64	深鉢形土器 縄文土器	B(8.0) C 10.8	底部片。平底。	砂粒・長石・雲母・スコリア 淡橙色　普通	P160　5％ SK－1382覆土中 (加曽利EⅠ式)
第157図 65	深鉢形土器 縄文土器	A[26.8] B(13.3)	胴部から口縁部片。胴部上位は外反しながら立ち上がり，口縁部は内彎気味に立ち上がる。口縁部無文帯は，複列の沈線によって区画され，以下に曲線的な条線文を施している。	砂粒・長石・雲母・スコリア 黒色　普通	P161　15% SK－1383覆土中 (阿玉台Ⅳ式)
66	深鉢形土器 縄文土器	A[24.0] B(8.6)	口縁部片。波状口縁。口唇部に沈線と爪形文が巡る。口縁部は，単節縄文を施文している。以下に,3本単位の沈線が巡る。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P162　10%　PL48 SK－1384覆土中 (加曽利EⅠ式)
67	深鉢形土器 縄文土器	A[29.0] B 34.4 C 10.0	口縁部一部欠損。平底。底部から胴部上位にかけてやや内彎気味に立ち上がり，口縁部で大きく外反する。口唇部に沈線が巡る。胴部は，単節縄文を地文に波状沈線や直線的な沈線を施している。底面から3cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・石英 橙色 普通	P167　70%　PL49 SK－1393覆土中 (加曽利EⅠ式)
68	深鉢形土器 縄文土器	A[23.7] B(20.0)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は外傾し，口縁部は外反する。口唇部に沈線を施している。口縁部無文帯を3本単位の沈線が区画している。以下は，単節縄文RLの横位回転を地文に，波状沈線を施している。	砂粒・長石・スコリア 灰褐色 普通	P168　20%　PL49 SK－1393覆土中 (加曽利EⅠ式)
69	深鉢形土器 縄文土器	B(20.8)	胴部片。胴部は外傾する。上位に幅の広い隆帯が巡る。以下は，単節縄文に複列の蛇行沈線を施している。	砂粒・長石・雲母・石英 褐色　普通	P169　30%　PL49 SK－1411覆土中 (加曽利EⅠ式)
70	深鉢形土器 縄文土器	B(15.1) C 8.0	底部から胴部片。平底。胴部下位は内彎気味に立ち上がり，中位はほぼ垂直に立ち上がる。胴部は，単節縄文RLを横位回転で施文している。底面から5cmほどまでは，横位ナデを施している。中峠式の影響を受ける。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P170　25%　PL49 SK－1411覆土中 (加曽利EⅠ式)
71	深鉢形土器 縄文土器	B(14.6) C[8.6]	底部一部欠損。底部から胴部にかけて，内彎気味に立ち上がる。胴部は，単節縄文RLを横位回転で施文している。底面から3cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・スコリア 赤褐色　普通	P171　40%　PL50 SK－1434覆土中 (加曽利EⅠ式)
第158図 72	深鉢形土器 縄文土器	B(14.6) C[8.0]	胴部一部欠損。平底。底部から胴部にかけて内彎気味に立ち上がる胴部は，無節縄文Lを横位回転で施文している。底面から5cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P172　40%　PL50 SK－1437覆土中 (加曽利EⅡ式)
73	注口土器 縄文土器	注口部径 1.7～2.2 長さ 5.2	注口部片。外面は，ナデ整形を施している。	長石・スコリア 灰褐色 普通	P178　10% SK－1461覆土中 (加曽利B式)
74	深鉢形土器 縄文土器	A[20.8] B(13.8)	胴部から口縁部片。口縁部に1単位の突起が認められる。キャリパー状をしている。口唇部に幅の広い沈線が巡る。口縁部文様帯は，幅の広い沈線を施した隆帯によって，蕨手文が描かれている。胴部は，単節縄文LRの縦位回転を地文に幅の広い沈線を施している。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P179　15%　PL50 SK－1463覆土中 (加曽利EⅠ式)
75	深鉢形土器 縄文土器	B(9.9) C[9.0]	底部から胴部片。胴部は内彎する。胴部は，単節縄文RLの横位回転を地文に複列の沈線と波状沈線が垂下する。底面から3cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P180　30%　PL50 SK－1464覆土中 (加曽利EⅠ式)
76	深鉢形土器 縄文土器	A 20.2 B 24.5 C 11.6	口縁部一部欠損。胴部は内彎気味に外傾し，上位で内彎する。口縁部は，わずかに外傾する。口縁部外面に単節縄文を施している。胴部上位は，隆起帯縄文上に瘤が貼られている。以下は，ナデを施している。胴部中位に直径6～7cmの円形の孔が確認される。	砂粒・長石・スコリア にぶい橙色 普通	P181　95%　PL49 SK－1471覆土中 (安行Ⅲb式)

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第159図 77	深鉢形土器 縄文土器	A[26.6] B(24.5)	胴部から口縁部片。波状口縁。口縁部文様帯は，隆起帯縄文と瘤の貼付により構成されている。胴部には，連弧文を施している。地文には，単節縄文ＬＲを縦位回転で施文している。胴部下位は，斜位のナデを施している。	砂粒・長石・石英・スコリア 浅黄橙色 普通	P182　30%　PL49 ＳＫ－1471覆土中 (安行Ⅲｂ式)
78	深鉢形土器 縄文土器	B(17.2)	胴部片。胴部は内彎しながら立ち上がる。上位でほぼ垂直に立ち上がる。上位に複列の刺突文が巡る。中位に連弧文が描かれている。地文に複節縄文を施文している。	砂粒・雲母・スコリア　内面黒褐色 外面赤褐色　普通	P183　30%　PL50 ＳＫ－1471覆土中 (安行Ｉ式)
79	深鉢形土器 縄文土器	B(17.2) C　5.5	底部から胴部片。平底。底部から胴部にかけて外傾する。外面は削の後，縦位ナデを施している。	砂粒・長石・ スコリア にぶい橙色　普通	P184　30% ＳＫ－1471覆土中 (安行Ⅲｂ式)
80	深鉢形土器 縄文土器	A[24.4] B　(6.9)	口縁部片。口縁部文様帯は，隆帯によって渦巻文を描き，楕円文を区画している。区画内には複節縄文を充填している。以下は直線的な磨消帯が垂下し，区画内は複節縄文を横位回転で充填している。	砂粒・長石・ スコリア 褐色　普通	P185　5%　PL49 ＳＫ－1476覆土中 (加曽利ＥⅡ式)
81	有孔鍔付土器 縄文土器	A[24.0] B(13.8)	肩部から口縁部片。肩部と口縁部は，内彎する。口縁部無文。鍔部の隆帯に縦の孔が二つ認められる。肩部に隆帯による渦巻文を描いている。外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P187　10%　PL49 ＳＫ－1483覆土中 (加曽利ＥⅢ式)
第160図 82	深鉢形土器 縄文土器	A[13.8] B 19.9 C　8.2	底部から口縁部片。平底。底部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。口縁部無文帯は爪形文を巡らし区画している。以下は,3本単位の沈線が垂下し，間に爪形文と半截竹管による刺突文を施している。底面から３cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P193　50%　PL51 ＳＫ－1513覆土中 (勝坂式)
83	深鉢形土器 縄文土器	B(19.6) C 10.0	底部から口縁部片。平底。波状口縁。口縁部は隆帯で区画し，隆帯の内側に爪形文を施している。区画内には，単節縄文を充填している。胴部は単節縄文を地文に隆帯を貼り付け,隆帯の両側に爪形文を施している。底面から３cmほどまでは，横位ナデを施している。底面に網代痕が残る。	砂粒・長石・雲母・石英 にぶい橙色 普通	P194　40%　PL50 ＳＫ－1513覆土中 (阿玉台Ⅲ式)
84	深鉢形土器 縄文土器	A[24.0] B(15.1)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は外反し，口縁部は内彎しながら立ち上がる。口縁部文様帯は，単節縄文を施した隆帯を貼りつけて構成している。以下は，横位ナデを施している。胴部は，単節縄文ＲＬを横位回転で施文している。	長石・雲母・石英・スコリア 赤褐色 普通	P195　10%　PL52 ＳＫ－1513覆土中 (阿玉台Ⅳ式)
第161図 85	浅鉢形土器 縄文土器	A[28.0] B 22.8 C 13.6	底部から口縁部片。平底。胴部中位までは直線的に外傾し，上位で内彎する。口縁部はわずかに外傾する。口縁部無文。胴部上位は，隆帯と波状や直線状の沈線で文様が描かれている。胴部は，ナデを施している。胴部上位と口縁部に赤彩を施している。	砂粒・長石・ スコリア 暗赤褐色 良好	P196　50%　PL51 ＳＫ－1516覆土中 (加曽利ＥＩ式)
86	深鉢形土器 縄文土器	A[15.2] B(12.7)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて，内彎気味に立ち上がる。口縁部無文。以下に交互刺突文が巡る。胴部は，幅の広い沈線を施している。地文に単節縄文ＬＲを横位回転で施文している。	砂粒・長石・石英・スコリア 橙色　普通	P218　15%　PL51 ＳＫ－1620覆土中 (勝坂式)
87	ミニチュア 縄文土器	A　5.2 B　2.2 C　2.8	丸底。内面に指頭痕が認められる。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P219　100%　PL51 ＳＫ－1640覆土中
88	深鉢形土器 縄文土器	A[34.0] B(47.5)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部上位は内彎しながら外傾し，口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は隆起帯縄文上に，形状がブタ鼻に似ている瘤を貼り付けている。胴部上位は，弧線文に単節縄文を施文している。以下は，ナデを施している。	砂粒・長石 灰褐色 普通	P220　30%　PL51 ＳＫ－1650覆土中 (安行Ⅲａ式)
第162図 89	深鉢形土器 縄文土器	A[30.0] B(17.5)	胴部から口縁部片。胴部から口縁部にかけて外傾しながら立ち上がる。口縁部内面に稜をもつ。口縁部外面は無文。胴部は，単節縄文ＲＬを縦位回転で施文している。	砂粒・長石・石英・スコリア 褐色　普通	P223　25% ＳＫ－1667覆土中 (阿玉台Ⅳ式)
90	注口土器 縄文土器	A　8.0 B 11.1 C　7.1	頸部に縄文を施文している。胴部上位に磨消縄文が認められる。下位は，横位ナデを施している。注口部の元に二つの瘤を貼り付けている。	砂粒・長石 にぶい橙色 良好	P226　100%　PL52 ＳＫ－1715覆土中 (安行Ⅲｂ式)
91	器　台 縄文土器	径[23.0] 厚　2.4	台部片。ナデ整形を施している。足部が付く。	砂粒・長石・雲母・スコリア 黒褐色　普通	P227　30%　PL52 ＳＫ－1751覆土中 (勝坂式)

図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
第163図92	土製円板	3.8	3.3	0.9	(10.0)	90	貫通孔	DP18 SK－1336 覆土中 PL56
93	土製円板	4.1	4.1	0.9	(10.0)	80		DP21 SK－1352 覆土中 PL56
94	土製円板	3.6	3.6	1.0	(10.0)	80		DP22 SK－1379 覆土中 PL56
95	土器片錘	6.4	4.6	1.3	50.0	100		DP17 SK－1233 覆土中 PL56
96	土器片錘	4.2	3.5	0.9	20.0	100		DP19 SK－1342 PL56
97	耳　栓	[9.4]	2.4	0.9	(10.0)	20	表面に沈線によって文様を描いている。	DP26 SK－1537 覆土中 PL56
98	耳　栓	[7.0]	2.5	0.3	(3.0)	20	無文。内面に１単位の瘤が確認できる。	DP44 SK－1755 確認面
99	不明土製品	4.8	3.0	2.4	20.0	100	顔面を描いている？	DP23 SK－1410 覆土中 PL56

図版番号	種別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備考
		最大長	最大幅	最大厚				
第163図100	土偶	(6.5)	5.9	1.8	(60.0)	40	脚部から胴部。胴部に沈線により文様を描いている。	DP20 SK−1342 安行Ⅲc PL56
101	土偶	(3.5)	3.1	1.8	(10.0)	10	頭部。沈線を施している。	DP24 SK−1468 覆土中 PL56
102	土偶	(4.1)	2.3	2.3	(20.0)	10	脚部。刺突文を施している。	DP25 SK−1468 覆土中 PL56

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 103	内耳鍋 土師質土器	A[32.0] B(16.5)	体部から口縁部片。耳部欠損。体部から口縁部は外傾して立ち上がる。	内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・石英 褐色　普通	P186　20% SK−1482表採 外面煤付着
104	皿 土師質土器	A　9.2 B　2.7 C　3.6	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は直線的に外傾する。底部は，やや突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色　普通	P268　95%　PL52 SK−1483表採
105	皿 土師質土器	A　8.6 B　3.5 C　4.0	平底。体部は内彎しながら外傾し口縁部は直線的に外傾する。底部は，やや突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P267　100%　PL52 SK−1483表採
106	皿 土師質土器	A　9.0 B　3.5 C　3.5	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は外傾する。底部は，突出気味。	ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り。	石英・スコリア 橙色 普通	P266　100%　PL52 SK−1483表採
107	皿 土師質土器	A[7.0] B　3.0 C[2.0]	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P197　40%　PL52 SK−1532覆土中 口唇部油煙付着 内外面煤付着
108	皿 土師質土器	A　5.6 B　1.6 C　2.5	平底。底部内面が円盤状に盛り上がる。体部・口縁部は外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石 橙色 普通	P198　80%　PL52 SK−1533覆土中
109	皿 土師質土器	A　9.0 B　2.9 C　4.4	平底。体部・口縁部内彎気味に外傾する。底部は突出気味。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア にぶい褐色　普通	P215　98%　PL52 SK−1579覆土中
110	皿 土師質土器	A　6.0 B　1.7 C　4.0	平底。体部・口縁部内彎気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア にぶい赤褐色　普通	P216　80%　PL52 SK−1579覆土中
111	皿 土師質土器	A　6.7 B　2.0 C　3.7	平底。体部から口縁部は直線的に外傾する。底部は突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・スコリア にぶい褐色　普通	P269　100%　PL52 SK−1688表採
112	皿 土師質土器	A　6.6 B　1.9 C　3.7	平底。体部・口縁部は内彎気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P225　75%　PL52 SK−1701表採
113	皿 陶器	B(3.2) C　5.8	底部から体部片。高台は，低く直立する。体部は外傾する。	削り出し高台。	明赤褐色 普通	P230　10%　PL52 SK−1779覆土中
114	皿 陶器	A[12.4] B　2.3 C[7.6]	高台は大変低い。体部は内彎しながら立ち上がり，口縁部は外方に開く。底部外面無釉。	ロクロ成形。削り出し高台。	黄灰色 (釉)灰色 良好	P192　80%　PL52 SK−1506覆土中 瀬戸・美濃系(志野)(17C)
115	白天目碗 陶器	A 10.8 B　7.1 D　4.8	高台は低く直立する。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部はやや外反する。いわゆる，スッポン口作り。内・外面に透明感のある釉をかけている。底部外面無釉。	ロクロ成形。削り出し高台。	灰白色 (釉)明緑灰色 良好	P270　80%　PL52 SK−1781表採 美濃系 (17C後半〜18C初頭)
116	天目碗 陶器	B　6.8 C　4.4	高台は低く直立する。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部はやや外反する。いわゆる，スッポン口作り。内・外面に鉄釉を施している。底部外面無釉。	ロクロ成形。削り出し高台。	褐色 (釉)茶褐色 良好	P231　30%　PL52 SK−1781覆土中 瀬戸・美濃系 (18C前半)

土坑出土石器観察表

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考	
第164図117	磨石	(5.8)	5.5	4.5	(210.0)	安山岩	Q44 SK－1182覆土中 一部欠損	PL59
118	磨石	(4.6)	5.7	3.5	(130.0)	安山岩	Q45 SK－1182覆土中 半欠	
119	磨石	(6.7)	6.5	4.2	(180.0)	安山岩	Q46 SK－1184覆土中 半欠	
120	磨石	(6.0)	6.2	3.5	(220.0)	安山岩	Q48 SK－1193覆土中 半欠	
121	磨石	11.2	6.0	3.5	(400.0)	安山岩	Q50 SK－1205覆土中 一部欠損 敲石転用	PL59
122	磨石	12.5	11.4	7.4	(1440.0)	安山岩	Q52 SK－1231覆土中 一部欠損	
123	磨石	6.8	7.0	(2.7)	(170.0)	安山岩	Q55 SK－1248覆土中 一部欠損	
124	磨石	12.0	9.2	4.1	610.0	砂岩	Q56 SK－1249覆土中	
125	磨石	7.4	7.2	4.3	330.0	安山岩	Q57 SK－1260覆土中	
第165図126	磨石	8.5	6.3	5.3	370.0	安山岩	Q58 SK－1260覆土中 敲石転用	PL59
127	磨石	6.7	6.6	3.9	280.0	安山岩	Q59 SK－1260覆土中	PL59
128	磨石	6.7	7.0	3.8	270.0	安山岩	Q60 SK－1260覆土中	PL59
129	磨石	6.3	5.7	3.7	210.0	安山岩	Q61 SK－1260覆土中	PL59
130	磨石	11.7	6.2	2.6	280.0	安山岩	Q64 SK－1339覆土中	
131	磨石	6.8	6.7	4.3	(310.0)	安山岩	Q65 SK－1342(第8号地下式壙)覆土中一部欠損	PL59
132	磨石	5.4	5.1	3.6	150.0	安山岩	Q66 SK－1342(第8号地下式壙)覆土中	PL59
133	磨石	8.3	6.9	4.6	430.0	安山岩	Q69 SK－1357覆土中	PL59
134	磨石	11.0	7.0	4.2	500.0	安山岩	Q70 SK－1357覆土中	PL59
135	磨石	9.9	6.8	4.5	500.0	安山岩	Q71 SK－1357覆土中	PL59
136	磨石	8.8	7.2	4.4	480.0	安山岩	Q72 SK－1357覆土中	PL59
137	磨石	7.9	7.0	4.8	490.0	安山岩	Q73 SK－1357覆土中	PL59
第166図138	磨石	6.3	5.6	3.9	270.0	安山岩	Q74 SK－1357覆土中	PL59
139	磨石	9.1	7.1	4.5	430.0	安山岩	Q75 SK－1357覆土中	PL59
140	磨石	7.7	7.0	4.2	420.0	安山岩	Q76 SK－1357覆土中	PL59
141	磨石	8.9	5.3	1.9	140.0	砂岩	Q78 SK－1377覆土中	
142	磨石	(4.0)	6.7	3.3	(130.0)	安山岩	Q82 SK－1384覆土中 半欠	
143	磨石	(7.9)	6.7	3.8	(260.0)	安山岩	Q85 SK－1386(第9号地下式壙)覆土中 半欠	
144	磨石	8.7	7.1	4.8	420.0	安山岩	Q86 SK－1386(第9号地下式壙)覆土中 敲石転用	PL59
145	磨石	11.5	7.1	4.9	590.0	安山岩	Q87 SK－1388覆土中	PL59
146	磨石	9.3	6.9	3.7	460.0	安山岩	Q88 SK－1388覆土中	PL59
147	磨石	8.0	7.9	4.2	480.0	安山岩	Q89 SK－1386（第９号地下式壙）覆土中	PL59
148	磨石	7.1	6.5	4.8	260.0	安山岩	Q90 SK－1388覆土中	
149	磨石	7.6	6.9	4.6	290.0	安山岩	Q91 SK－1431覆土中	
第167図150	磨石	9.7	6.3	4.2	390.0	安山岩	Q92 SK－1434覆土中	
151	磨石	7.8	6.9	4.5	(380.0)	安山岩	Q94 SK－1437覆土中 一部欠損	
152	磨石	5.8	5.8	3.2	190.0	安山岩	Q100 SK－1464覆土中	
153	磨石	7.2	6.5	4.8	310.0	安山岩	Q106 SK－1516覆土中	
154	磨石	6.5	6.1	3.9	220.0	安山岩	Q116 SK－1751覆土中	PL59
155	石錘	7.9	3.8	1.2	50.0	安山岩	Q41 SK－1171表採	
156	石錘	(6.7)	5.3	1.3	(70.0)	安山岩	Q42 SK－1180覆土中 半欠	PL60
157	石錘	3.5	2.4	0.6	8.3	砂岩	Q51 SK－1205覆土中	PL60
158	石錘	8.9	4.1	1.3	70.0	砂岩	Q53 SK－1233覆土中	PL60
159	磨製石斧	(6.2)	5.5	3.1	(160.0)	砂岩	Q40 SK－1170覆土中 刃部片	PL57
160	磨製石斧	(5.2)	5.2	2.5	(120.0)	砂岩	Q80 SK－1380覆土中 刃部片	PL57
161	磨製石斧	(9.5)	4.8	2.9	(200.0)	砂岩	Q105 SK－1513覆土中 刃部片	PL57
162	磨製石斧	10.1	5.0	2.4	190.0	凝灰岩	Q112 SK－1607覆土中	PL57
163	磨製石斧	(5.1)	3.6	2.1	(50.0)	凝灰岩	Q113 SK－1608覆土中 刃部片	PL57
164	打製石斧	(4.8)	6.2	2.1	(80.0)	安山岩	Q63 SK－1260覆土中 一部欠損	PL57
165	打製石斧	(7.9)	4.1	2.6	(100.0)	砂岩	Q81 SK－1382覆土中 一部欠損	PL57
第168図166	打製石斧	13.8	5.5	2.6	260.0	泥質片岩	Q93 SK－1435覆土中	PL57
167	打製石斧	9.9	5.1	2.1	90.0	粘板岩	Q95 SK－1444表採	PL57
168	打製石斧	10.8	4.5	1.3	90.0	泥質片岩	Q114 SK－1608覆土中	PL57
169	礫石斧	12.2	6.0	3.3	350.0	安山岩	Q38 SK－1159覆土中	PL57
170	礫石斧	8.0	5.3	2.3	110.0	粘板岩	Q39 SK－1170覆土中	PL57

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
第168図171	磨製石斧	2.7	1.3	0.6	3.6	粘板岩	Q96 SK－1449 覆土中 PL57
172	垂れ飾り	2.9	1.1	0.6	3.1	滑石	Q68 SK－1351 覆土中 穿孔 PL57
173	尖頭器	(5.5)	2.3	0.5	(10.0)	安山岩	Q103 SK－1495 覆土中 一部欠損 PL58
174	石鏃	3.2	2.0	0.4	(1.8)	黒曜石	Q43 SK－1181 覆土中 一部欠損 PL58
175	石鏃	2.2	1.1	0.4	0.6	チャート	Q62 SK－1263 覆土中 PL58
176	石鏃	2.0	1.2	0.5	0.9	チャート	Q101 SK－1476 覆土中 PL57
177	石錐	(3.6)	1.6	0.9	(3.0)	頁岩	Q115 SK－1638 覆土中一部欠損 PL57
178	石器	4.4	3.0	1.2	10.0	黒曜石	Q79 SK－1379 覆土中 PL58
179	石器	4.0	3.4	1.3	20.0	黒曜石	Q47 SK－1191 覆土中
180	石皿	(24.8)	(17.3)	6.4	(3340.0)	雲母片岩	Q54 SK－1237 覆土中 一部欠損 凹石転用 PL58
第169図181	石皿	(16.7)	(10.0)	9.0	(1450.0)	安山岩	Q67 SK－1342（第8号地下式壙）覆土中 一部欠損
182	凹石	(7.4)	(10.0)	(5.0)	(310.0)	雲母片岩	Q77 SK－1361 覆土中 一部欠損
183	石皿	(9.9)	(9.4)	4.0	(280.0)	安山岩	Q84 SK－1386 覆土中 一部欠損 凹石転用
184	浮子	(5.3)	(9.4)	2.0	(20.0)	流紋岩	Q99 SK－1461 覆土中 半欠 PL57
185	石棒	(12.0)	4.8	3.2	(320.0)	砂岩	Q98 SK－1453 覆土中 一部欠損 PL58
186	石棒	(15.3)	9.1	9.1	(1850.0)	砂岩	Q195 SK－1622 覆土中 一部欠損 PL58
187	化石	(12.0)	5.9	4.5	(420.0)		Q97 SK－1453 覆土中 一部欠損 PL57
188	砥石	(11.1)	4.2	3.8	(200.0)	凝灰岩	Q104 SK－1497 覆土中 一部欠損 PL61
第170図189	石臼	(10.6)	7.8	8.9	(790.0)	安山岩	Q102 SK－1482 覆土中 一部欠損 下臼
190	硯	(9.5)	4.8	1.3	(80.0)	凝灰岩	Q111 SK－1573 覆土中 一部欠損 PL61

表5 前田村遺跡D区土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1158	C16i6	N－7°－E	楕円形	1.70 × 0.80	72	外傾	起伏	人為	縄文土器，人骨，P49,50,51,52	縄文時代中期の墓壙，SI－215と重複
1159	C17d5	N－80°－W	楕円形	2.22 × 1.60	50	外傾	平坦	人為	縄文土器，P53,Q38	
1160	C17d3	N－15°－W	楕円形	2.28 × 1.90	54	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1161	C17e5		円形	2.20 × 2.20	40	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1162	C17f5	N－0°	楕円形	1.50 × 1.13	－	－	－	－	縄文土器	
1163	C17e4	N－17°－W	楕円形	1.41 × 1.16	－	－	－	－	縄文土器	
1164	C17e8		円形	1.60 × 1.60	－	－	－	－		
1165	C17f4		円形	1.18 × 1.00	16	緩斜	凹凸	人為	縄文土器	
1166	C17f5	N－0°	楕円形	1.18 × 1.06	－	－	－	－	縄文土器，P54,55	
1167	C17g4	N－84°－E	楕円形	2.14 × 1.70	46	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1168	C17j4	N－90°－W	[楕円形]	3.40 ×[2.40]	42	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI－246と重複
1169	C17i4	N－0°	楕円形	1.52 × 1.40	64	内傾	平坦	自然	縄文土器，P56,57,58	SI－245と重複
1170	C17i3		円形	1.85 × 1.82	92	内傾	平坦	人為	縄文土器，P59,60,61,62,63,DP14,Q39,40	袋状土坑，SI－245と重複
1171	C16d0	N－67°－W	[楕円形]	[2.57]× 1.76	84	緩斜	平坦	自然	縄文土器，P64,65,68,69,Q41	SI－243,244と重複
1172	C16c0	N－19°－E	楕円形	0.96 × 0.66	105	内傾	平坦	人為	縄文土器	袋状土坑，SI－243,244と重複
1173	C17c1		円形	1.36 × 1.27	60	外傾	平坦	自然		SI－243と重複
1174	C16b0		[円形]	1.30 ×(0.70)	94	内傾	平坦	人為	縄文土器，P66,67,DP15	袋状土坑
1175	D17a4		[円形]	1.30 ×[1.28]	60	外傾	平坦	自然		SI－246と重複
1176	C17i7	N－0°	円形	1.30 × 1.25	162	内傾	平坦	人為		
1177	C17e6	N－62°－E	楕円形	1.42 × 1.20	46	外傾	平坦	人為		
1178	C17j5	N－73°－W	楕円形	3.06 × 1.40	66	外傾	平坦	自然	縄文土器，P70,71,72,73	SI－252と重複
1179	C16b8	N－63°－E	楕円形	2.30 × 1.82	116	内傾	平坦	人為	縄文土器，P74	袋状土坑
1180	D17a7	N－32°－W	楕円形	2.66 × 1.90	80	外傾	平坦	自然	縄文土器，Q42	SI－248と重複
1181	D17a7	N－47°－W	楕円形	2.30 × 2.08	82	垂直	平坦	自然	縄文土器，Q43	SI－248と重複
1182	C17j6	N－46°－W	楕円形	1.85 × 1.66	90	垂直	平坦	自然	縄文土器，P75,Q44,45	SI－253と重複
1183	D17a6	N－60°－E	楕円形	1.83 × 1.50	86	外傾	平坦	自然	縄文土器，P76	SI－253,257と重複

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1184	D17d3		円形	2.00 × 2.00	22	外傾	平坦	自然	縄文土器, Q46	SI－301と重複
1185	C17h8	N－13°－E	楕円形	1.24 × 0.93	152	内傾	皿状	人為	縄文土器, DP16	袋状土坑, SI－255と重複
1187	D17b6		円形	1.54 × 1.54	34	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1188	D17a3	N－15°－W	楕円形	1.84 × 1.60	56	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1189	D17b3	N－77°－W	楕円形	1.60 × 1.44	128	内傾	平坦	人為	縄文土器, P80, 81, 82, 83, 84, 85, 86	袋状土坑
1190	D17b4	N－45°－E	楕円形	2.04 × 1.60	40	緩斜	平坦	－		SI－250と重複
1191	D17b1		円形	3.00 × 2.90	74	外傾	平坦	人為	縄文土器, P87, Q47	
1192	D17b2	N－40°－E	楕円形	1.60 × 1.30	48	外傾	平坦	人為		
1193	C16b9	N－82°－W	楕円形	1.72 × 1.32	100	外傾	平坦	人為	縄文土器, P88, 89, Q48	
1194	D17c5		円形	1.38 × 1.35	69	内傾	平坦	人為	縄文土器, P90, 91, 92, 93, Q49	袋状土坑
1195	D17d5	N－70°－W	楕円形	1.80 × 1.60	90	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1196	C17h9		円形	1.04 × 1.02	－	－	－	－	縄文土器	
1197	C17h9		円形	1.10 × 1.04	138	垂直	平坦	人為		
1198	C17j9		円形	1.18 × 1.20	－	－	－	－	縄文土器	
1199	C17g0	N－44°－E	楕円形	2.56 × 1.92	76	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1200	C18h2	N－6°－E	楕円形	1.78 × 1.62	42	外傾	平坦	人為	縄文土器, P95, 96	
1201	C18g1	N－5°－E	楕円形	2.36 × 1.68	72	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1202	D18a2		円形	1.62 × 1.58	44	垂直	平坦	人為		
1203	D17b5	N－3°－E	不整形	2.00 × 1.86	58	垂直	平坦	自然	縄文土器, P98	SI－250と重複
1204	C16b0		[円形]	[1.60 × 1.58]	80	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1205	D17a5	N－68°－W	楕円形	[1.52]× 1.10	58	外傾	平坦	自然	縄文土器, Q50, 51	SI－250と重複
1206	D17b5		円形	1.86 × 1.74	76	垂直	平坦	自然	縄文土器, P99, 100	SI－250と重複
1207	C16b9		[円形]	[1.10 × 1.08]	－	－	－	－	縄文土器, P101	
1208	C16c9	N－25°－E	楕円形	1.98 × 1.58	97	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI－244と重複
1209	D17c2	N－65°－W	楕円形	1.40 × 1.02	90	垂直	平坦	人為	縄文土器, P102, 103	
1211	D17b6	N－0°	[楕円形]	[2.58 × 2.00]	－	－	－	－	縄文土器	
1212	C17h4	N－25°－E	楕円形	1.58 × 1.04	46	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI－245と重複
1214	C17e6		円形	0.80 × 0.78	－	－	－	－	縄文土器	
1215	D18a4	N－41°－E	楕円形	2.20 × 1.80	86	外傾	平坦	人為	縄文土器, P104, 105	
1216	D18a3		円形	0.64 × 0.64	104	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1217	C18f5	N－44°－E	楕円形	2.46 × 2.12	66	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI－285と重複
1218	C18h4	N－9°－W	不整楕円形	2.44 × 1.60	58	垂直	平坦	自然	縄文土器, P106, 107	SI－245と重複
1220	D18b2		円形	1.32 × 1.20	－	－	－	－	縄文土器	
1221	D18c6		円形	1.97 × 1.90	70	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SI－264と重複
1223	C18h4		円形	1.83 × 1.70	80	垂直	段状	人為		SI－245と重複
1225	C18j5	N－40°－E	楕円形	2.12 × 1.58	－	－	－	－	縄文土器, P111	SI－285と重複
1226	D18c4		円形	1.60 × 1.50	－	－	－	－	縄文土器, P112	
1227	C17i8		円形	1.20 × 1.10	114	内傾	平坦	人為	縄文土器, P113	SI－255の炉と重複
1228	C17i4	N－76°－W	楕円形	1.64 × 0.80	24	緩斜	平坦	自然		SI－245と重複
1230	D18a6	N－36°－E	[楕円形]	2.70 ×[2.28]	56	外傾	平坦	人為	縄文土器, P114	SK－1243, 1257と重複
1231	C17i8	N－65°－E	楕円形	1.08 × 0.92	118	外傾	皿状	人為	縄文土器 Q52	SI－255と重複
1232	D17a6	N－66°－E	楕円形	1.80 × 1.40	－	－	－	－	縄文土器	
1233A	D18a6		円形	0.74 × 0.70	100	垂直	平坦	人為	縄文土器, DP17, Q53	SK－1233B,C と重複
1233B	D18a6	N－20°－E	[楕円形]	1.18 ×[1.00]	41	垂直	平坦	人為	縄文土器	SK－1233A,C と重複
1233C	D18a6	N－20°－E	[楕円形]	1.04 ×[0.80]	68	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1233A,B と重複
1234	D18d3	N－76°－E	楕円形	2.56 × 1.94	－	－	－	－	縄文土器	

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1235	C16c0	N−30°−E	楕円形	1.62 × 1.35	69	外傾	平坦	人為		SI−244, SK−1171と重複
1236	C17h9	N−90°−E	楕円形	1.18 × 1.04	96	垂直	皿状	人為		SI−255と重複
1237	D18c5	N−0°	楕円形	2.10 × 1.82	66	緩斜	皿状	人為	縄文土器, Q54	SI−261と重複
1238	D18c3	N−10°−E	楕円形	1.24 × 1.00	18	緩斜	皿状	自然	縄文土器	SI−266と重複
1239	D18c2	N−78°−E	不整楕円形	1.86 × 1.36	75	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI−266と重複
1240	D18c2	N−56°−W	楕円形	1.38 × 1.04	58	外傾	起伏	自然	縄文土器	SI−266と重複
1241	D18d5		円形	1.10 × 1.08	46	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI−261, SK−1274と重複
1242	D18e5	N−46°−E	楕円形	1.60 × 1.40	−	−	−	−	縄文土器, P115, 116	
1243	D18a5	N−37°−E	[楕円形]	[1.14 × 0.90]	54	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SK−1230, 1257と重複
1244	D18i7	N−65°−W	楕円形	1.72 × 1.42	88	内傾	平坦	人為	縄文土器, P117, 118, 119, 120, 121	袋状土坑, SD−45と重複
1245	D18f6	N−67°−W	楕円形	1.90 × 1.72	36	緩斜	凹凸	人為	縄文土器	
1246	D18e4	N−90°−E	楕円形	2.70 × 2.46	84	外傾	平坦	人為	縄文土器, P122, 123, 124	
1247	D17c8	N−81°−W	楕円形	2.02 × 1.36	62	外傾	平坦	人為	縄文土器, P126	
1248	D17d5	N−49°−E	楕円形	2.22 × 1.82	36	緩斜	平坦	自然	縄文土器, P127, Q55	
1249	D18f5	N−14°−W	楕円形	2.16 × 1.80	94	垂直	平坦	人為	縄文土器, Q56	
1250	D18f3	N−18°−E	楕円形	4.20 × 2.60	70	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1251	D18a4	N−25°−E	楕円形	1.30 × 1.00	48	垂直	平坦	自然	縄文土器	SI−262と重複
1252	D18b3	N−46°−E	不整形	1.08 × 0.98	83	垂直	皿状	自然	縄文土器	SI−262と重複
1253	D18b3	N−90°−W	楕円形	1.48 × 1.16	46	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI−262と重複
1254	D17d4	N−90°−E	不整円形	1.34 × 1.22	70	内傾	平坦	人為	縄文土器, P128, 129, 130, 131, 132, 133	袋状土坑
1255	C18g2		円形	1.42 × 1.40	174	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1256	C18g1		円形	1.20 × 1.10	41	外傾	平坦	人為		
1257	C18i6	N−40°−E	[楕円形]	[1.60 × 1.28]	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI−285, SK−1230, 1243と重複
1258	D17e6	N−24°−W	楕円形	1.34 × 1.10	54	外傾	起伏	−	縄文土器	
1259	C17f0	N−42°−W	楕円形	1.62 × 1.40	40	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1260	D17d5	N−17°−E	楕円形	2.44 × 1.90	52	外傾	平坦	自然	縄文土器, Q57, 58, 59, 60, 61, 63	
1261	D18c2		円形	1.00 × 0.92	64	外傾	平坦	自然		SI−266と重複
1262	D17d5		円形	1.00 × 1.04	70	垂直	平坦	自然		
1263	D18e4	N−5°−E	楕円形	2.50 × 1.30	70	外傾	平坦	自然	縄文土器, Q62	
1264	D18f4		円形	2.30 × 2.30	48	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1265	D18f3	N−82°−E	[楕円形]	[1.24 × 1.00]	88	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1266	D18b1	N−25°−E	楕円形	1.14 × 1.04	24	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1267	C17f9	N−59°−W	楕円形	0.58 × 0.50	58	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1268	D18e4		円形	1.18 × 1.10	76	外傾	起伏	自然	縄文土器	
1269	D18e4	N−10°−E	楕円形	2.68 × 1.63	8	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1270	D18d1		円形	1.42 × 1.32	74	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1271	D18b6	N−13°−E	楕円形	0.98 × 0.72	76	外傾	起伏	自然	縄文土器	SI−260と重複
1272	D18b6	N−72°−W	楕円形	1.00 × 0.82	46	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI−260と重複
1273	D18e2	N−0°	楕円形	1.70 × 0.90	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI−269と重複
1274	D18a5	N−67°−W	[楕円形]	1.46 ×[1.20]	46	緩斜	−	自然	縄文土器, P134	SI−261, SK−1241と重複
1275	D17d3		[円形]	[1.88]× 1.73	46	緩斜	平坦	人為	縄文土器, P135	SI−293と重複
1276	D17e3	N−80°−W	[楕円形]	[2.06]× 1.68	30	外傾	平坦	人為		SI−293, 296と重複
1277	D18b6	N−20°−W	不整楕円形	1.20 × 0.64	50	垂直	起伏	人為	縄文土器	SI−260と重複
1278	C17j4		円形	1.50 × 1.50	50	外傾	平坦	自然	縄文土器, P136	SI−252と重複
1279	D17d4	N−30°−E	楕円形	2.20 × 1.36	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI−293, SK−1254と重複
1280	D18b6		円形	1.20 × 1.10	36	緩斜	起伏	人為	縄文土器	SI−260と重複

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1281	D18f3	N－37°－E	楕円形	2.68 × 2.60	73	内傾	平坦	自然	縄文土器	SI－269と重複
1282	D18h6	N－40°－E	不整円形	2.82 × 2.76	29	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1340と重複，小竪穴状遺構
1283	D18a5	N－40°－E	楕円形	2.50 × 1.88	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI－285と重複
1284	C18j6		円形	1.08 × 1.06	56	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1285	C18j5	N－58°－W	楕円形	1.36 × 1.08	32	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI－285と重複
1286	D18b8	N－72°－E	楕円形	1.46 × 1.14	62	段状	平坦	人為	縄文土器	SI－283と重複
1287	D18g6	N－85°－E	楕円形	1.58 × 1.46	60	垂傾	平坦	自然		SI－268と重複
1288	D18g6	N－5°－W	楕円形	1.43 × 1.24	100	内傾	平坦	人為	縄文土器，P137,138	袋状土坑，SI－268と重複
1289	C18j5	N－15°－W	楕円形	1.26 × 0.82	30	外傾	平坦	自然	縄文土器，P139	SI－285と重複
1290	D18b6	N－55°－W	楕円形	0.94 × 0.75	40	緩斜	皿状	自然	縄文土器	SI－260と重複
1291	D18a3	N－26°－W	楕円形	1.18 × 1.08	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI－262と重複
1292	D18b4	N－56°－E	楕円形	3.50 × 2.08	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1293	D18d7	N－50°－W	楕円形	1.20 × 0.93	86	垂直	平坦	人為	縄文土器	SI－273と重複
1295	D18e4	N－0°	楕円形	0.80 × 0.70	86	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1296	D18d7	N－33°－E	楕円形	1.30 × 1.11	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1297	C18j4	N－60°－W	楕円形	1.52 × 1.34	30	緩斜	平坦	自然		SI－285と重複
1298	D18a4	N－0°	楕円形	1.78 × 1.50	52	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI－285と重複
1299	D18d6	N－90°－E	楕円形	2.42 × 1.32	51	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1300	D18d5	N－24°－E	楕円形	1.51 × 1.18	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1301	D18d6		円形	0.87 × 0.80	40	垂直	平坦	自然	縄文土器	SI－273と重複
1302	D18e6		円形	0.88 × 0.86	46	外傾	平坦	自然		SI－271,272と重複
1303	D18f7	N－10°－E	楕円形	1.02 × 0.80	72	内傾	皿状	人為	縄文土器，P140,141	袋状土坑
1304	D18d8	N－40°－W	楕円形	1.24 × 1.09	42	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1305	D18e7	N－83°－W	不整形	1.34 × 1.20	62	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI－272と重複
1306	D18e7		円形	1.00 × 0.92	48	段状	皿状	人為	縄文土器	SI－272と重複
1307	D18f7	N－72°－W	楕円形	1.70 × 1.30	28	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1308	D18e6	N－90°－E	楕円形	2.61 × 1.95	19	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1309	D18c8	N－48°－W	楕円形	1.16 × 0.95	51	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1310	D18c8	N－46°－W	楕円形	1.20 × 0.89	60	外傾	平坦	自然	縄文土器，P142	
1311	D18j6		円形	1.00 × 0.93	30	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
1312	D18j6	N－60°－W	楕円形	0.66 × 0.52	84	外傾	平坦	－		
1313	D18d5	N－19°－E	楕円形	1.28 × 1.15	19	外傾	平坦	人為	縄文土器，P143	
1314	D18f5	N－63°－E	楕円形	1.95 × 1.40	78	外傾	平坦	人為	縄文土器，P144,145	
1315	D18e5	N－31°－E	楕円形	1.42 × 0.97	25	外傾	平坦	自然	縄文土器，P146	
1316	D18d6	N－46°－W	楕円形	1.43 × 1.26	60	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1317	D18d7	N－15°－E	楕円形	0.80 × 0.68	80	垂直	平坦	人為	縄文土器	SI－272と重複
1319	D18e6	N－32°－W	楕円形	1.33 × 1.02	26	外傾	凹凸	人為	縄文土器，P147	
1321	D18d8	N－68°－W	楕円形	(1.20)× 1.22	104	内傾	平坦	人為		袋状土坑，SI－291と重複
1322	D18c8	N－28°－E	楕円形	1.25 × 0.92	84	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1323	D18d6	N－48°－W	楕円形	1.32 × 0.89	58	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1324	D18d6	N－0°	楕円形	1.47 × 0.98	31	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1325	D18e7		円形	1.15 × 1.06	28	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI－272と重複
1326	D18a5	N－45°－W	楕円形	1.75 × 1.20	20	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1327	D18c8	N－20°－W	楕円形	0.91 × 0.80	65	外傾	平坦	－		
1328	D18d8	N－45°－E	楕円形	1.46 × 1.23	51	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1329	D 18e4	N－6°－W	楕円形	2.19 × 1.30	82	外傾	平坦	人為	縄文土器，P148	

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1330	D18a5	N－40°－E	楕円形	1.34 × 0.99	50	緩斜	段状	人為	縄文土器	
1331	D18c7	N－18°－E	楕円形	1.19 × 0.92	70	外傾	平坦	自然		SI－285と重複
1332	D18d8	N－26°－E	(楕円形)	(1.25 × 0.80)	58	外傾	平坦	人為	縄文土器, P149	SI－273, SK－1333と重複
1333	D18d8	N－40°－E	楕円形	2.39 × 1.65	65	外傾	平坦	人為	縄文土器, P150	SI－273, SK－1332と重複
1335	D18g7		円形	1.58 × 1.48	57	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1336	D17a5	N－72°－W	楕円形	2.00 × 1.24	97	内傾	平坦	人為	縄文土器, P151, DP18	SI－259と重複
1337	D18i6	N－57°－W	(楕円形)	(1.42 × 1.90)	57	垂直	平坦	人為	縄文土器, P152, 153	
1338	D18f7	N－0°	楕円形	0.78 × 0.70	76	垂直	平坦	－		
1339	D17e1		円形	2.88 × 2.80	60	外傾	平坦	人為	縄文土器, P154, Q64	
1340	D18h6	N－90°－E	[楕円形]	[1.20]× 0.98	－	－	－	－	縄文土器	SK－1282と重複
1341	D17h5	N－18°－W	[不整形]	[1.50 × 1.50]	51	外傾	凹凸	人為		
1343	D17f8		円形	0.95 × 0.86	40	外傾	平坦	自然		
1344	D17f7	N－28°－W	楕円形	1.26 × 1.06	25	外傾	起伏	自然	縄文土器, P157	
1346	D17i8	N－88°－W	楕円形	1.16 × 0.94	48	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI－294と重複
1347	D17f8	N－38°－E	楕円形	1.09 × 0.95	35	垂直	平坦	自然		
1348	D17f7	N－29°－E	楕円形	2.30 × 1.55	50	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1349	D17f6	N－38°－W	楕円形	1.09 × 0.95	35	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1350	D17f7	N－61°－E	楕円形	2.25 × 1.80	52	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1371と重複
1351	D17d2	N－65°－E	楕円形	1.94 × 1.50	21	緩斜	平坦	人為	縄文土器, Q68	SI－288と重複
1352	D17d1	N－26°－E	楕円形	1.90 × 1.41	22	緩斜	平坦	自然	縄文土器, DP21	SI－288と重複
1353	D17d1		円形	1.10 × 1.04	22	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI－288と重複
1354	D17d1		円形	1.28 × 1.24	150	垂直	平坦	人為	縄文土器	SI－288と重複
1355	D17f6		(円形)	(1.31 × 1.25)	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1371と重複
1356	D17g4	N－42°－W	楕円形	1.52 × 1.26	36	外傾	－	人為	縄文土器	SI－297と重複
1357	D17f5	N－22°－E	不整楕円形	3.08 × 2.19	30	外傾	平坦	人為	縄文土器, Q69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76	
1358	D17h5	N－45°－W	不整形	2.41 × 0.70	42	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1359	D17h6	N－9°－W	楕円形	2.31 × 1.84	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1368と重複
1360	D17g7	N－30°－E	楕円形	1.58 × 1.43	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1361	D17g3	N－58°－W	楕円形	1.60 × 1.31	24	外傾	平坦	自然	縄文土器, Q77	
1362	D17g4	N－68°－E	楕円形	2.54 × 1.66	54	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI－297と重複
1363	D17f3	N－0°	楕円形	2.10 × 1.84	26	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1364	D17g5		円形	1.16 × 1.10	38	緩斜	起伏	自然	縄文土器	
1365	D17g4	N－4°－E	楕円形	1.16 × 0.94	46	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI－297と重複
1366	D17g5	N－40°－E	楕円形	1.45 × 1.13	24	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1406と重複
1367	D17f6		円形	2.68 × 2.52	34	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1368	D17g6		円形	1.33 × 1.28	26	緩斜	平坦	－		SK－1359と重複
1369	D17g6	N－90°－E	楕円形	1.90 × 1.72	90	段状	平坦	人為	縄文土器	
1371	D17f6		円形	1.15 × 1.05	51	垂直	平坦	人為	縄文土器	SK－1350と重複
1372	D17f4	N－13°－W	楕円形	0.95 × 0.80	48	外傾	皿状	人為		SI－289と重複
1373	D17f4		円形	0.98 × 0.90	30	外傾	皿状	人為	縄文土器	SI－289と重複
1374	D17f4	N－0°	楕円形	1.80 × 1.44	25	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI－289, 297と重複
1375	D17i6	N－51°－W	(楕円形)	2.48 ×(2.32)	28	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1342と重複
1376	D17h5	N－7°－W	楕円形	3.30 × 2.82	34	外傾	平坦	自然	縄文土器, P158	SK－1377と重複
1377	D17h5	N－68°－E	楕円形	1.80 × 1.45	94	外傾	平坦	自然	縄文土器, P159, Q78	SK－1376と重複
1379	D17g1		円形	2.26 × 2.22	34	外傾	平坦	人為	縄文土器, DP22, Q79	
1380	D17h8	N－65°－E	楕円形	1.96 × 1.44	30	外傾	平坦	自然	縄文土器, Q80	SI－294と重複

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1381	D17h8	N−76°−E	楕円形	1.54 × 1.36	20	垂直	平坦	自然	縄文土器	SI−294と重複
1382	D17g2	N−35°−W	楕円形	1.19 × 1.05	93	内傾	平坦	人為	縄文土器, P160, Q81	
1383	D17f1	N−0°	楕円形	2.15 × 1.86	38	外傾	平坦	人為	縄文土器, P161	SI−295と重複
1384	D17g2	N−24°−W	楕円形	2.63 × 2.26	32	外傾	平坦	人為	縄文土器, P162, Q82	
1385	D17f5		円形	0.94 × 0.92	91	外傾	平坦	−	縄文土器	SI−297と重複
1387	D17f0	N−26°−E	楕円形	1.21 × 1.01	38	外傾	平坦	自然		SK−1390と重複
1388	D17g3	N−36°−W	楕円形	3.61 × 2.02	28	緩斜	平坦	人為	縄文土器, Q87, 88, 90	SI−310と重複
1390	D17f9	N−8°−W	楕円形	1.62 × 1.39	34	垂直	平坦	−		SK−1387と重複
1391	D17j5		円形	2.21 × 2.02	10	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1392	D17i5	N−65°−W	楕円形	1.64 × 1.96	32	外傾	起伏	自然	縄文土器	
1393	D17i5		[円形]	1.86 ×[1.80]	54	外傾	起伏	自然	縄文土器, P167, 168	SK−1376と重複
1394	D18g1		円形	1.14 × 1.08	−	−	−	−	縄文土器	
1395	D17f0	N−8°−W	楕円形	1.90 × 1.60	66	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1396	D17g0	N−17°−E	楕円形	1.94 × 1.72	38	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1397	D17h0	N−38°−W	楕円形	1.30 × 1.15	26	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1398	D17g9	N−15°−W	楕円形	1.60 × 1.44	38	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1399	D17h0	N−60°−W	楕円形	1.01 × 0.90	44	垂直	皿状	人為	縄文土器	
1400	D18f1	N−70°−W	楕円形	1.91 × 1.75	84	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1401	D17i0	N−22°−E	楕円形	1.95 × 1.55	40	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1402	D17h0	N−27°−E	楕円形	1.08 × 0.63	42	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1403	D18h7		[円形]	1.10 ×(0.55)	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI−268と重複
1404	D18i4	N−0°	楕円形	1.22 × 0.86	30	外傾	凹凸	自然		
1405	D18h6	N−18°−W	楕円形	1.25 × 1.06	62	外傾	平坦	−	縄文土器	
1406	D17g5	N−39°−E	楕円形	2.11 × 1.40	32	緩斜	平坦	−		
1407	D17g9	N−63°−W	楕円形	2.45 × 2.22	10	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1408	D18f1		円形	0.80 × 0.78	−	−	−	−		SD−45と重複
1409	D18h3	N−58°−W	楕円形	0.76 × 0.68	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1410	D18g3	N−50°−W	不整円形	2.50 × 2.36	58	外傾	平坦	人為	縄文土器, DP23	
1411	D17g4		円形	0.90 × 0.76	82	緩斜	皿状	人為	縄文土器, P169, 170	SI−290, 297と重複
1412	D18g1	N−32°−W	楕円形	1.37 × 1.25	44	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1413	D18g2	N−60°−W	楕円形	1.16 × 0.98	26	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
1415	D18j4	N−18°−E	楕円形	1.78 × 1.15	100	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1416	D18i5	N−27°−E	楕円形	0.80 × 0.72	24	外傾	平坦	自然		
1417	D18j5	N−8°−E	楕円形	1.13 × 1.00	14	垂直	平坦	自然		
1418	D18g2	N−26°−W	不整楕円形	1.60 × 1.25	44	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1419	D18i5	N−63°−W	不整形	2.15 × 1.76	76	段状	皿状	人為	縄文土器	
1420	D18j6	N−17°−W	不整形	2.55 × 1.96	54	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1421	D18j6		円形	1.34 × 1.23	−	−	−	−	縄文土器	
1422	E18a5	N−90°−W	楕円形	1.21 × 0.91	96	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1423	D18j3	N−24°−E	楕円形	1.87 × 1.53	36	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1424	D17h1	N−16°−W	楕円形	2.49 × 2.11	24	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1426	D18j6		円形	0.75 × 0.73	66	外傾	皿状	自然	縄文土器	
1427A	D18j6	N−27°−W	[楕円形]	[0.84 × 0.63]	56	外傾	平坦	−	縄文土器	SK−1428と重複
1427B	D18j6	N−85°−W	[楕円形]	[0.84 × 0.63]	56	外傾	平坦	−	縄文土器	SK−1428と重複
1428	D18j6	N−16°−E	[楕円形]	[1.22 × 0.85]	60	垂直	平坦	−	縄文土器	SK−1427と重複
1429	D18j2	N−90°−W	楕円形	1.25 × 1.12	113	垂直	平坦	人為	縄文土器	SI−299と重複

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1430	D17c1	N－35°－E	[楕円形]	[2.55 × 1.96]	42	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1431	E17a9		円形	1.70 × 1.59	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器，Q91	
1432	D18i1	N－36°－W	楕円形	1.29 × 1.15	30	外傾	平坦	自然		
1434	E17a3	N－24°－E	楕円形	3.14 × 3.00	36	外傾	平坦	人為	縄文土器，P171，Q92	
1435	E17a5	N－68°－E	不整形	4.35 × 3.55	85	段状	凹凸	人為	馬骨，歯，Q93	馬の墓壙？
1436	E17a2		円形	1.50 × 1.42	34	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1437	D16c0		[円形]	[1.18 × 1.10]	54	外傾	平坦	人為	縄文土器，P172，Q94	
1439	D17f4	N－24°－W	不整形	2.28 × 1.34	64	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SI－289と重複
1440	D17f3	N－50°－E	不整形	2.10 × 2.00	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	SI－289と重複
1441	D16f0	N－52°－W	楕円形	0.94 × 0.70	60	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1442	D16g0	N－0°－E	不整形	1.58 × 1.57	18	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1444	D18i3		円形	1.20 × 1.12	80	垂直	平坦	－	縄文土器，Q95	SI－299，300A と重複
1446	D18j4		円形	1.00 × 0.94	20	外傾	平坦	自然		
1447	D18j5	N－45°－W	不整形	1.95 × 0.60	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1448	D16g0	N－20°－W	楕円形	2.95 × 2.07	8	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1449	E18a5	N－90°－W	楕円形	0.91 × 0.78	30	外傾	平坦	自然	縄文土器，Q96	
1450	E18a5	N－90°－E	不整形	1.25 × 0.73	20	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
1451	D16h0	N－24°－W	楕円形	2.63 × 2.30	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1452	D17c3	N－28°－W	楕円形	1.22 × 1.04	40	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI－301と重複
1454	D16g0	N－18°－W	不整形	1.75 × 1.20	34	緩斜	凹凸	人為	縄文土器	
1455	D17c2	N－58°－E	楕円形	1.30 × 1.00	97	－	－	人為	縄文土器	
1456A	D17c1	N－50°－E	[楕円形]	1.14 ×[0.90]	48	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1456B と重複
1456B	D17c1		[円形]	[0.70]× 0.74	47	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1456A と重複
1457	D16h9	N－22°－E	楕円形	0.94 × 0.87	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1458	D17f4		円形	0.94 × 0.88	26	緩斜	平坦	自然		
1459	D17j5	N－55°－W	楕円形	2.54 × 2.04	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1460	D18j4	N－12°－W	[楕円形]	[1.42 × 1.10]	108	垂直	平坦	自然	縄文土器	SK－1414と重複
1462	D17h1	N－83°－W	楕円形	1.04 × 0.70	55	外傾	皿状	人為	縄文土器	
1463	D17j3		円形	2.58 × 2.40	22	外傾	平坦	人為	縄文土器，P179	
1464	D17c1		円形	2.62 × 2.50	52	垂直	平坦	自然	縄文土器，P180，Q100	SK－1464，1472と重複
1465	D16h9	N－21°－W	楕円形	0.88 × 0.68	62	外傾	皿状	人為		
1466A	D17d1	N－90°－E	楕円形	0.77 × 0.64	92	外傾	皿状	人為	縄文土器	
1466B	D17d1		円形	0.60 × 0.56	－	－	－	－	縄文土器	
1467	D16d0	N－34°－W	楕円形	0.81 × 0.70	66	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1468	D16b0	N－46°－W	[楕円形]	[1.35 × 1.20]	70	外傾	平坦	人為	縄文土器，DP24，25	
1469	E17a5	N－43°－W	楕円形	1.30 × 0.94	10	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1470	D17i4		円形	2.46 × 2.30	16	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SI－290と重複
1471	D16d0	N－76°－W	楕円形	1.44 × 1.24	183	垂直	平坦	人為	縄文土器，P181，182，183，184	
1472	D17c1	N－50°－W	楕円形	2.30 × 1.64	58	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SK－1464，1472と重複
1473	D17h3		[円形]	[2.00 × 2.00]	16	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1474	D17i4	N－73°－E	楕円形	1.70 × 0.66	17	緩斜	平坦	人為		SI－290と重複
1475	D17j1		円形	0.96 × 0.88	102	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1476と重複
1476	D17j1	N－68°－W	隅丸長方形	2.60 × 2.22	28	垂直	平坦	人為	縄文土器，P185，Q101	SK－1475，1489と重複
1477	D17i1	N－48°－W	[楕円形]	[2.06]× 1.84	28	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1478	E17c1	N－9°－E	楕円形	3.20 × 2.04	60	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1480	D16d0	N－15°－E	楕円形	1.28 × 0.95	58	外傾	平坦	自然		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1481	E17b4	N－90°－E	楕円形	0.78 × 0.60	44	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1483	E16a0		円形	3.20 × 2.92	54	垂直	平坦	自然	縄文土器, P187,266,267,268	SD－47と重複
1485	D16j0	N－85°－W	楕円形	1.06 × 0.84	28	外傾	平坦	人為		
1487	E17c8		円形	2.00 × 1.80	40	外傾	平坦	自然	縄文土器, 灰	SK－1549と重複
1488	E16a0	N－35°－E	楕円形	1.94 × 1.68	14	緩斜	平坦	人為		
1489	D17j1	N－24°－W	楕円形	0.78 × 0.68	78	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1476と重複
1491	E17c9	N－20°－E	楕円形	1.36 × 1.10	60	外傾	起伏	人為		
1492	E17c8		円形	1.00 × 0.99	42	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1493	E17b1	N－22°－W	不整形	0.76 × 0.68	52	垂直	平坦	人為	人骨, 歯	墓壙, SD－48と重複
1494	E16b0	N－51°－E	隅丸長方形	2.04 × 1.56	44	外傾	平坦	人為	縄文土器	SD－48と重複
1495	E17a9	N－63°－W	楕円形	3.38 × 2.50	56	緩斜	起伏	人為	獣骨,縄文土器,土師質土器,陶磁器,Q103	
1496	E16b0	N－90°－W	隅丸長方形	1.43 × 1.12	42	緩斜	平坦	自然		SD－48と重複
1497	E16b0	N－73°－W	楕円形	0.90 × 0.78	28	外傾	平坦	自然	Q104	
1498	E17a0	N－75°－W	楕円形	2.00 × 1.72	56	緩斜	起伏	自然	縄文土器	SD－50と重複
1499	E16c9	N－25°－E	[楕円形]	[3.60]× 2.20	56	外傾	平坦	－	縄文土器, 陶器	SK－1486, SD－48と重複
1500	E17d0	N－25°－E	楕円形	3.04 × 1.34	22	緩斜	平坦	人為		
1501	D16d9		[円形]	1.74 ×[1.65]	50	外傾	平坦	人為	縄文土器, 陶器	SK－1502と重複
1502	D16d9	N－42°－W	楕円形	1.26 × 1.05	－	－	－	－	縄文土器	SK－1501と重複
1503	E17b7		円形	1.18 × 1.12	22	緩斜	起伏	自然	縄文土器	SK－1546と重複
1504	E17c6	N－90°－W	不整形	3.74 × 1.14	8	外傾	平坦	人為		
1505	E17e8	N－15°－W	不整楕円形	2.20 × 1.26	76	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1506	E17e0	N－44°－W	不整形	1.17 × 0.94	－	－	－	－	P192	
1507	E17d6	N－85°－W	不整形	2.28 × 2.06	12	外傾	凹凸	人為	縄文土器	
1508	E17e8	N－53°－W	楕円形	1.56 × 1.14	20	緩斜	平坦	人為	縄文土器, 土師質土器	
1509	E17d8		円形	0.88 × 0.84	60	外傾	平坦	自然	土師質土器	
1510	E17e8	N－45°－W	楕円形	1.25 × 0.67	45	外傾	凹坦	人為	縄文土器, 陶器	
1511	E17e9	N－37°－E	楕円形	1.75 × 1.08	25	外傾	平坦	人為		SK－1512, 1556と重複
1512	E17e9	N－45°－E	楕円形	1.20 × 0.95	38	外傾	平坦	自然		SK－1511, 1556と重複
1513	D17f2	N－18°－W	楕円形	2.86 × 2.20	86	内傾	平坦	人為	縄文土器, P193,194,195,Q105	SI－310, SK－1516と重複
1514	E18b1	N－56°－W	楕円形	1.84 × 1.12	25	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1515	E18c1	N－32°－E	楕円形	1.02 × 0.86	20	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1516	D17f2	N－18°－W	不整楕円形	2.71 × 1.98	56	外傾	－	人為	縄文土器, P196, Q106	SI－310, SK－1513と重複
1517	E16c8	N－71°－E	楕円形	1.39 × 1.23	77	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1518	E16d8	N－30°－W	楕円形	1.05 × 0.80	25	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1519	E17b0	N－66°－W	楕円形	1.75 × 1.02	28	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
1520	E16e6	N－42°－W	[楕円形]	[3.10 × 2.96]	－	－	－	－	縄文土器, 石棒	
1521	D16c0		円形	0.94 × 0.90	74	段状	皿状	－	縄文土器	
1522	E16b9	N－35°－W	楕円形	1.08 × 0.79	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1544と重複
1523	E17d0	N－22°－E	楕円形	1.51 × 1.04	7	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1524	E16d7	N－45°－W	楕円形	1.04 × 0.90	50	外傾	平坦	人為		
1525	E17e0	N－90°－W	不整形	1.65 × 0.71	－	－	－	－		
1526	E17e0	N－38°－W	不整形	0.90 × 0.65	－	－	－	－		
1527	E16g5	N－83°－E	楕円形	1.90 × 1.10	86	－	－	人為	縄文土器	SD－49と重複
1528	E16g4	N－40°－E	楕円形	0.81 × 0.73	－	－	－	－	縄文土器	
1529	E16g4	N－76°－W	楕円形	0.91 × 0.68	－	－	－	－		
1531	E16d7	N－49°－E	楕円形	1.41 × 1.00	20	緩斜	皿状	自然		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1532	E17d6	N−72°−E	不整形	1.43 × 0.39	35	外傾	皿状	自然	縄文土器, P197	
1533	E17d9	N−28°−E	楕円形	2.05 × 1.24	50	外傾	平坦	人為	縄文土器, P198	
1534	E17d8	N−44°−W	不整形	1.08 × 0.68	75	外傾	皿状	−		
1535	E18c1	N−76°−W	楕円形	1.60 × 1.33	45	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1536	E18b1	N−38°−E	楕円形	1.55 × 0.81	32	外傾	平坦	人為		
1537	E18d1	N−24°−E	楕円形	1.98 × 1.66	6	外傾	平坦	人為	縄文土器, DP26	SK−1611と重複
1538	E16g6	N−6°−W	楕円形	1.20 × 0.84	42	外傾	起伏	人為	人骨, 縄文土器	墓壙
1540	E16g4		円形	0.80 × 0.79	−	−	−	−		
1541	E18e1	N−74°−E	楕円形	1.13 × 0.94	−	−	−	−		
1542	E18d2		円形	1.72 × 1.70	168	垂直	凹凸	人為	縄文土器	
1543	E16a5	N−7°−E	楕円形	3.11 × 2.46	13	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1544	E16h9	N−44°−E	不整形	2.27 × 1.28	24	緩斜	平坦	人為		
1545	E16b9	N−72°−E	不整形	1.67 × 1.02	40	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1547	D18f4	N−70°−E	楕円形	0.94 × 0.80	118	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1548	D18h3	N−90°−W	楕円形	1.16 × 1.02	85	垂直	平坦	−	縄文土器	
1549	E18b5	N−44°−W	楕円形	1.00 × 0.88	60	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1551	E17f3	N−13°−E	不整形	1.80 × 0.85	55	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
1552	E17e4	N−84°−E	不整形	2.05 × 0.83	45	外傾	皿状	人為	縄文土器	
1554	E17e5	N−85°−W	不整形	3.80 × 1.63	13	緩斜	平坦	人為	縄文土器, 土師質土器	
1555	E17f4	N−10°−W	楕円形	1.57 × 1.18	20	外傾	平坦	自然		
1556	E17d9		円形	0.70 × 0.65	50	外傾	皿状	−		SK−1511, 1512と重複
1557	E17f4	N−48°−E	楕円形	1.32 × 0.95	20	外傾	平坦	人為		
1558	E17f5	N−68°−W	不整形	2.36 × 0.76	20	外傾	平坦	自然		
1559	E17g5		円形	0.97 × 0.89	23	外傾	平坦	人為		
1560	E18b3	N−0°	楕円形	0.70 × 0.52	6	外傾	平坦	−	獣骨	
1561	E16g3		円形	0.98 × 0.94	8	緩斜	凹凸	人為		粘土張り遺構, SD−49と重複
1562	E16d4	N−8°−W	楕円形	1.44 × 0.92	26	緩斜	平坦	人為		SD−49と重複
1566	E16b0		円形	0.74 × 0.66	55	垂直	平坦	−		
1567	E17e0	N−32°−E	楕円形	1.36 × 1.09	47	外傾	平坦	自然		
1569	E16h6	N−0°	不整形	2.08 × 1.96	46	垂直	皿状	人為	縄文土器	SK−1648, 1672と重複
1570	E17e2	N−16°−E	楕円形	1.68 × 1.34	58	外傾	平坦	人為		
1571	E17e7	N−90°−E	楕円形	1.05 × 0.88	−	−	−	−		
1572	E18h1		円形	0.94 × 0.90	48	垂直	平坦	人為		SK−1639と重複
1573A	E17i1	N−46°−W	不整形	1.06 × 0.90	40	緩斜	凹凸	人為	Q111	SK−1573B と重複
1573B	E17i1	N−38°−W	[楕円形]	[1.20 × 0.68]	8	緩斜	皿状	人為	獣骨, 縄文土器, 土師質土器	SK−1573A と重複
1574	E16e7	N−29°−W	楕円形	1.07 × 0.62	12	外傾	平坦	人為		
1575	E16e7	N−49°−W	楕円形	1.11 × 0.80	15	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1577	E16g0	N−42°−W	楕円形	0.80 × 0.72	58	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK−1600と重複
1578	E 17g2	N−69°−W	楕円形	0.70 × 0.53	47	垂直	平坦	人為	縄文土器	SK−1671と重複
1579	F17c7	N−12°−W	楕円形	0.95 × 0.59	35	外傾	皿状	人為	縄文土器, 土師質土器, P215, 216	
1580	F17c7	N−46°−W	楕円形	1.51 × 1.39	45	外傾	皿状	人為	縄文土器, 土師質土器	
1583	E18f1	N−20°−W	楕円形	1.25 × 0.96	52	外傾	皿状	人為	縄文土器	SK−1591と重複
1584	E17h3	N−64°−W	隅丸長方形	1.04 × 1.00	18	緩斜	平坦	人為		粘土張り遺構, SD−52と重複
1585	E17h5	N−50°−E	楕円形	1.29 × 1.16	15	緩斜	皿状	自然		
1586	E17h4	N−70°−W	楕円形	1.56 × 1.30	30	外傾	平坦	人為		
1587	E17g9	N−0°	隅丸長方形	2.32 × 1.35	10	垂直	平坦	自然		

土坑番号	位置	長径方向(長軸方向)	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1588	E17f6	N−14°−E	楕円形	1.58 × 1.10	10	外傾	平坦	人為	縄文土器，陶器	
1589	E17f6	N−42°−E	不整形	1.40 × 1.25	32	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1590	E18f3	N−44°−E	楕円形	2.58 × 2.20	32	外傾	平坦	人為		
1591	E18f1		円形	1.14 × 1.09	88	外傾	皿状	人為	縄文土器	
1592	E17g6	N−14°−E	隅丸長方形	2.38 × 1.54	110	垂直	平坦	人為	縄文土器，灰	中世の方形竪穴状遺構
1593	E17g7	N−24°−E	不整形	3.37 × 2.25	105	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1594	E17h5		円形	1.68 × 1.57	20	緩斜	凹凸	自然		
1595	E17h4	N−85°−E	[隅丸長方]	[1.32 × 0.70]	28	緩斜	皿状	人為		
1596	E17h6	N−10°−W	楕円形	1.80 × 1.15	20	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
1597	E17h5		円形	1.10 × 1.10	8	緩斜	平坦	自然		
1600	E16g0	N−90°−E	楕円形	0.98 × 0.92	20	緩斜	皿状	人為		SK−1577と重複
1602	F17a8	N−50°−E	不整形	1.55 × 0.78	40	外傾	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	
1604	E15b9	N−27°−W	[楕円形]	[1.28]× 1.06	20	外傾	平坦	人為	人骨	墓壙，SK−1609と重複
1605	E17g1	N−18°−E	楕円形	1.32 × 0.96	60	外傾	平坦	人為	人骨，土師質土器，P217	墓壙
1606	F17b7	N−56°−W	楕円形	1.40 × 1.17	34	緩斜	皿状	自然	土師質土器	
1608	F17b4	N−69°−W	隅丸長方形	2.52 × 1.00	20	外傾	平坦	自然	縄文土器，土師質土器，陶器，Q113，114	
1609	E15b9		円形	1.12 × 1.02	48	外傾	平坦	人為	人骨，土師質土器	墓壙，SK−1604と重複
1610	E15b9	N−27°−E	不整形	1.42 × 1.36	38	垂直	皿状	人為	人骨，土師質土器	墓壙
1611	E18d1	N−10°−E	楕円形	1.04 × 0.78	10	外傾	皿状	人為	人骨	墓壙，SK−1537と重複
1612	E17f3	N−90°−W	隅丸長方形	1.34 × 1.20	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	粘土張り遺構，SK−1553と重複
1613	E15b8		円形	0.90 × 0.88	12	緩斜	凹凸	人為		
1614	E17e5	N−90°−E	隅丸長方形	1.30 × 1.04	12	外傾	平坦	自然		
1615	E18e2		円形	0.82 × 0.78	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1616	E18b4	N−37°−W	不整形	1.50 × 1.45	64	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1617	E18f2		円形	1.08 × 1.08	15	外傾	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	粘土張り遺構
1618	E18c5	N−35°−E	楕円形	2.00 × 1.56	70	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK−1666と重複
1619	E18c5	N−64°−W	楕円形	1.20 × 0.92	125	段状	平坦	人為		
1620	E18b6		[円形]	[1.20 × 0.82]	76	内傾	平坦	人為	縄文土器，P218	SD−56と重複
1621	E18b4	N−58°−W	楕円形	1.16 × 1.03	85	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1622	E18b5	N−17°−E	楕円形	2.45 × 1.50	70	垂直	平坦	人為	縄文土器，Q195	
1623	E18b3	N−41°−E	楕円形	2.47 × 1.82	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1624	E18b4	N−56°−W	不整形	2.98 × 1.86	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1625	E18d3		円形	1.35 × 1.24	48	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1626	E16h8	N−78°−W	楕円形	1.56 × 1.08	47	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK−1627と重複
1627	E16h8	N−0°	隅丸長方形	1.55 × 1.25	32	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK−1626と重複
1628	E16i8		円形	1.23 × 1.18	25	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1629	E16i8		円形	0.85 × 0.83	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1630	E16i0		円形	1.40 × 1.35	50	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1631	E17i5	N−66°−W	隅丸長方形	2.62 × 1.20	30	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SK−1632と重複
1632	E17i5	N−66°−W	隅丸長方形	1.15 × 1.00	35	緩斜	平坦	人為	縄文土器	SK−1631と重複
1633	E17i5	N−56°−W	楕円形	1.62 × 1.35	33	緩斜	皿状	人為	縄文土器，土師質土器，陶器	
1634	E17i5	N−44°−E	不整形	1.45 × 0.85	15	緩斜	皿状	人為		
1635	E17i8	N−26°−E	楕円形	1.25 × 0.84	28	外傾	凹凸	自然	縄文土器，土師質土器，陶器	
1636	E17g3	N−65°−W	楕円形	1.30 × 1.10	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	粘土張り遺構，SK−1637，1638と重複
1637	E17h3		[円形]	[1.12 × 1.12]	10	外傾	平坦	人為	縄文土器	粘土張り遺構，SK−1636と重複
1638	E17g3	N−10°−E	長方形	1.30 × 0.92	34	垂直	平坦	人為	縄文土器，Q115	粘土張り遺構，SK−1636と重複

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1639	E18h1	N－40°－E	[隅丸長方形]	[1.40]× 0.90	26	外傾	皿状	人為	縄文土器，貝	粘土張り遺構，SK－1572，1640と重複
1640	E17h0	N－58°－W	[楕円形]	1.60 ×[1.38]	28	緩斜	平坦	人為	縄文土器，P219	SK－1639と重複
1641	E17g4	N－40°－E	隅丸長方形	1.88 × 1.08	56	外傾	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	SK－1642，1645と重複
1642	E17f4	N－5°－E	隅丸長方形	1.70 × 0.93	30	外傾	平坦	人為		SK－1641と重複
1645	E17g4	N－38°－E	隅丸長方形	3.92 × 1.33	32	緩斜	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	SK－1641と重複
1646	E16h0	N－65°－E	楕円形	1.24 × 1.00	30	垂直	平坦	人為	縄文土器	
1647	E16h0		円形	1.04 × 1.02	14	垂直	平坦	人為	縄文土器，陶器	粘土張り遺構
1648	E16h7	N－8°－W	[楕円形]	[3.06 × 2.75]	13	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1569，1672と重複
1649	E16h8	N－0°	隅丸長方形	2.05 × 1.37	64	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1651	E15a8	N－10°－W	不整形	1.67 × 0.95	82	外傾	凹凸	人為		
1652	E15b8	N－15°－W	不整形	2.00 × 0.88	30	外傾	凹凸	人為	縄文土器，陶器	
1653	E17c5	N－52°－W	隅丸長方形	2.25 × 1.06	26	外傾	平坦	人為		
1654	E17b2	N－50°－W	隅丸長方形	1.95 × 0.72	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1657	E17h7	N－49°－E	楕円形	2.12 × 1.82	42	外傾	凹凸	人為	縄文土器，土師質土器	粘土張り遺構
1658	E17i6	N－23°－W	楕円形	1.16 × 1.02	22	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1660	E17i7		円形	1.08 × 1.06	56	垂直	平坦	自然	縄文土器	
1662	E16g0		円形	1.11 × 0.99	32	外傾	平坦	自然		
1663	E18b5	N－77°－E	楕円形	1.25 × 1.00	42	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1664	E18c4	N－26°－E	不整形	1.15 × 0.97	62	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1665と重複
1665	E18b4	N－26°－E	不整形	1.19 × 1.10	79	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK－1664と重複
1666	E18c5	N－70°－E	[楕円形]	[0.50]× 0.46	47	垂直	平坦	人為	縄文土器	SK－1618と重複
1667	E18b5	N－15°－W	[楕円形]	[1.36 × 1.10]	12	緩斜	平坦	人為	縄文土器，P223	
1668	E18c4	N－45°－W	楕円形	1.08 × 0.92	66	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1669	E18b6		円形	1.57 × 1.45	82	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1670	E17f1		円形	1.02 × 0.93	39	外傾	平坦	自然		
1671	E17g2		円形	1.06 × 0.87	15	緩斜	皿状	人為	人骨，歯	墓壙，SK－1578と重複
1672	E16h7		円形	0.73 × 0.72	94	垂直	平坦	－	縄文土器	SK－1569，1648と重複
1673	E18d3	N－78°－W	不整形	1.10 × 0.90	76	外傾	平坦	人為		
1675	E18e4		円形	1.62 × 1.56	160	垂直	段状	人為	縄文土器	
1676	E18e5	N－17°－E	楕円形	1.10 × 0.98	43	外傾	平坦	人為		
1677	E16e9	N－8°－E	楕円形	0.75 × 0.65	62	外傾	皿状	自然	縄文土器，土師質土器	
1678	E16e8		円形	1.33 × 1.25	60	段状	皿状	自然		
1679	E17g1	N－30°－W	楕円形	1.28 × 0.82	23	外傾	起伏	人為	人骨，古銭，縄文土器	墓壙
1680	E16g0	N－68°－E	楕円形	1.82 × 1.20	32	外傾	平坦	人為	縄文土器，陶器	粘土張り遺構
1681	F17a1	N－81°－W	不整形	1.28 × 0.70	63	段状	平坦	人為		SK－1697と重複
1682	F17c6	N－20°－W	不整形	2.76 × 2.30	36	緩斜	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	
1683	F17c5	N－53°－W	不整形	2.18 × 1.40	－	－	平坦	人為	縄文土器，土師質土器，須恵器	
1684	E17i5	N－32°－W	[楕円形]	[1.81]× 0.77	13	緩斜	平坦	人為		
1688	E17g9	N－30°－W	不整形	1.52 × 1.52	70	外傾	凹凸	－	縄文土器，土師質土器，P269	
1689	E17g0		[円形]	[2.45 × 2.28]	70	外傾	凹凸	人為	縄文土器，土師質土器	
1690	E15c8	N－27°－W	楕円形	1.69 × 0.98	63	外傾	平坦	人為	人骨，縄文土器，土師質土器	墓壙
1692	E17g0	N－66°－W	楕円形	1.43 × 1.25	60	緩斜	凹凸	自然	縄文土器，土師質土器	
1694	E15f8	N－58°－W	不整形	1.25 × 0.95	74	外傾	凹凸	人為	縄文土器，土師質土器	SK－1695と重複
1695	E15f8	N－64°－W	不整形	1.23 × 1.03	76	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK－1694と重複
1696	E18f9	N－30°－W	不整形	1.28 × 0.57	70	外傾	凹凸	人為	縄文土器	SK－1695と重複
1697	F17a1	N－90°－E	不整形	1.59 × 1.38	86	外傾	凹凸	自然		SK－1681と重複

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1698	F17a7	N－37°－W	楕円形	1.58 × 0.90	10	外傾	平坦	人為		
1699	F17i6	N－57°－W	隅丸長方形	1.38 × 0.67	25	外傾	平坦	人為		
1700	E17j6	N－48°－W	不整形	2.61 × 1.25	35	緩斜	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	
1701	E17j6		円形	1.15 × 1.07	15	外傾	平坦	人為	P225	
1703	F17a7	N－58°－E	不整形	1.63 × 1.35	25	緩斜	平坦	人為		
1704	E17h9	N－10°－E	楕円形	2.20 × 1.28	42	緩斜	平坦	人為		
1705	E17i7	N－30°－W	[楕円形]	[1.60 × 1.15]	32	緩斜	平坦	人為		SK－1706と重複
1706	E17i6	N－65°－E	[不整形]	[1.98 × 1.55]	30	緩斜	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	SK－1705と重複
1708	E17i7	N－12°－E	不整形	2.15 × 1.41	50	外傾	凹凸	人為	縄文土器，土師質土器	
1709	E17h8	N－46°－E	不整形	1.04 × 0.85	75	外傾	凹凸	人為		
1710	E16i4		円形	1.70 × 1.67	20	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1711	E16i4	N－0°	楕円形	3.10 × 2.52	26	外傾	平坦	人為	縄文土器，陶器	
1714	F16a4		円形	1.59 × 1.55	165	段状	平坦	自然	縄文土器	
1715	E16i3	N－39°－E	楕円形	3.56 × 2.88	15	緩斜	平坦	自然	縄文土器，P226	
1716	E16j2	N－2°－E	楕円形	1.60 × 1.45	27	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1717	E15c9	N－30°－W	楕円形	1.08 × 0.86	48	外傾	平坦	人為	人骨	墓壙，SK－1718と重複
1718	E15c9	N－10°－W	[楕円形]	[0.90 × 0.79]	38	外傾	平坦	人為		SK－1717と重複
1719	E15b8	N－12°－E	不整形	1.95 × 1.72	73	外傾	凹凸	人為		
1720	E17j7		円形	1.64 × 1.53	25	外傾	平坦	人為		
1721	E17i6	N－9°－E	[楕円形]	[0.96]× 0.83	9	外傾	平坦	人為	縄文土器	粘土張り遺構，SK－1706と重複
1722	F17c7	N－80°－W	隅丸長方形	2.11 × 1.25	45	外傾	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	
1723	E17j6	N－48°－W	[楕円形]	[2.65 × 0.93]	20	外傾	平坦	人為		
1724	E17i9	N－52°－E	隅丸長方形	2.75 × 1.58	90	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1725	F17a5	N－37°－E	楕円形	1.20 × 1.03	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1726	E17i8	N－35°－E	[楕円形]	[2.08 × 1.74]	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1730	F16a6		円形	0.80 × 0.75	35	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1731	F16a6	N－57°－E	楕円形	1.30 × 1.05	38	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1732	F17b8		円形	[1.80 × 1.78]	77	外傾	平坦	人為	縄文土器，人骨	墓壙
1733	E18i1	N－24°－W	楕円形	1.15 × 0.62	42	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1734	E18i1	N－37°－E	不整形	5.23 × 2.80	20	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
1736	F17b7	N－40°－W	不整形	1.22 × 0.97	10	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1738	F17b8	N－6°－E	不整形	1.85 × 0.95	20	外傾	平坦	自然		
1740	F17b6	N－34°－E	隅丸長方形	1.45 × 0.81	25	外傾	皿状	人為	縄文土器	粘土張り遺構
1741	E17g0		円形	0.37 × 0.37	49	外傾	皿状	－		
1743	E18h2	N－77°－E	楕円形	1.64 × 0.92	19	外傾	平坦	自然		
1744	F17a8	N－58°－W	不整形	1.25 × 0.91	40	外傾	凹凸	人為		
1745	E16j3	N－39°－E	楕円形	1.49 × 1.35	55	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1746	F16a3	N－46°－W	[楕円形]	[2.67 × 1.89]	22	垂直	平坦	自然		
1747	E16j2	N－23°－E	[楕円形]	[1.53 × 1.03]	95	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1748と重複
1748	E16j2	N－54°－E	不整形	2.10 × 1.35	43	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1747と重複
1750	E17i4	N－74°－E	不整形	1.36 × 0.85	55	緩斜	平坦	人為		
1751	F16a2	N－61°－W	楕円形	2.85 × 2.10	51	垂直	平坦	人為	縄文土器，P227，Q116	SK－1752と重複
1752	F16a2		円形	1.49 × 1.40	165	外傾	平坦	人為	縄文土器	SK－1751と重複
1753	F 16a6		円形	1.85 × 1.85	55	外傾	平坦	人為		
1754	F16a6		[円形]	[1.40 × 1.31]	47	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1755	F16a7	N－7°－E	楕円形	1.86 × 1.45	41	外傾	平坦	人為	DP44	

土坑番号	位置	長径方向（長軸方向）	平面形	規模 長径×短径(m)	規模 深さ(cm)	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
1757	E17j1	N－40°－E	隅丸長方形	1.96 × 1.48	40	外傾	平坦	人為	縄文土器，P228,229	粘土張り遺構
1758	E17h2	N－34°－E	楕円形	2.93 × 1.02	25	外傾	平坦	人為		
1759	F17a5	N－58°－W	隅丸長方形	1.85 × 1.05	33	外傾	平坦	自然	縄文土器	
1760	F17a5	N－57°－W	隅丸長方形	1.22 × 1.07	6	－	－	－		
1761	E17j6	N－31°－E	楕円形	1.32 × 0.97	17	外傾	凹凸	人為	縄文土器	粘土張り遺構
1762	E17i7		[円形]	[1.40 × 1.28]	18	外傾	平坦	人為		SD－57と重複
1763	F16a8	N－78°－W	[楕円形]	[2.65 × 1.35]	30	外傾	平坦	人為		
1764	E17i9	N－80°－W	[隅丸長方形]	[1.90 × 1.53]	35	緩斜	平坦	－		SK－1765,1766と重複
1765	E17i9	N－65°－W	[隅丸長方形]	[1.65 × 1.05]	60	緩斜	平坦	－		SK－1764,1766と重複
1766	E17i9	N－36°－E	[隅丸長方形]	[2.88 × 2.65]	32	緩斜	平坦	－		SK－1724,1726,1764,1765と重複
1767	E17j5	N－47°－E	不整形	0.97 × 0.29	66	外傾	平坦	人為		
1768	E16i2		円形	0.86 × 0.80	65	外傾	平坦	－		
1769	E17j2	N－54°－W	不整形	2.00 × 1.49	25	外傾	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	
1771	E16i3		円形	0.45 × 0.45	－	－	－	－	縄文土器	
1772	E17i5	N－13°－E	不整形	1.67 × 1.06	18	緩斜	平坦	人為		
1773	E17j5	N－21°－E	楕円形	2.63 × 1.39	24	緩斜	平坦	人為		
1775	E17j4	N－32°－W	不整形	1.39 × 1.00	－	－	－	－		
1776	F17a3	N－14°－W	楕円形	1.82 × 1.00	－	－	－	－		
1777	E17j2	N－9°－W	不整形	1.45 × 1.07	60	外傾	凹凸	自然		
1778	E17j3	N－10°－E	不整形	1.54 × 0.55	41	外傾	平坦	人為	縄文土器	
1779	E17j2	N－49°－E	楕円形	3.10 × 0.93	－	－	－	－	縄文土器，陶器，P230	
1781	F17a3		円形	1.03 × 1.00	－	－	－	－	縄文土器，土師質土器，P231,270	
1782	E17f7	N－73°－W	隅丸長方形	2.05 × 0.85	11	外傾	平坦	人為	縄文土器，土師質土器	粘土張り遺構
1783	E17h7	N－30°－E	不整形	2.00 × 1.29	20	外傾	皿状	人為	縄文土器，土師質土器	粘土張り遺構
1784	E18i1		円形	0.77 × 0.73	13	緩斜	平坦	人為		
1785	E18i0		円形	0.85 × 0.80	10	外傾	平坦	人為		
1786	E17j1	N－75°－E	不整形	1.05 × 0.78	10	緩斜	平坦	人為	陶器	
1787	E17h7	N－20°－E	不整形	1.93 × 1.06	33	緩斜	凹凸	人為	縄文土器，土師質土器	

3　井戸

当遺跡から井戸８基を検出した。当初は，土坑として調査したが，調査の結果井戸と判断した。

第７号井戸［SK－1186］（第171図）

位置　C17i_9区。

重複関係　第255号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.67m，短径1.55mの円形で，確認面から1.0mの深さまで傾斜をもち，そこから下は円筒状に掘り込まれている。

覆土　各層ともロームブロックを含み，人為堆積である。１層から縄文土器片が多量に出土している。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	褐		色	ローム小・中ブロック中量
3	暗	褐	色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4	褐		色	ローム中・大ブロック多量
5	暗	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，炭化粒子少量

遺物　覆土中から混入したと思われる第174図１，２，３の深鉢形土器，縄文土器片が出土している。

所見　本跡が第255号住居跡を掘り込んでいるため，出土している縄文土器は，第255号住居跡に伴う遺物の可能性が高い。出土遺物の時期も第255号住居跡と同時期である。本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第８号井戸［SK－1539］（第171図）

位置　E16g_6区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.26m，短径1.12mの楕円形で，確認面から0.4mの深さまで傾斜をもち，そこから下は円筒状に掘り込まれている。

長径方向　N―５°－W

覆土　各層ともロームブロックを含み，人為堆積である。６層から縄文土器片が出土している。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗	褐	色	ローム小・中ブロック中量，褐色土少量
3	暗	褐	色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4	褐		色	ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量
5	褐		色	ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，粘土ブロック少量
6	暗	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，炭化粒子少量
7	粘	土	層	
8	黒	褐	色	褐色土中量，ハードローム中・大ブロック少量
9	黒	褐	色	褐色土中量，粘土ブロック・ハードローム中・大ブロック少量
10	暗	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック中量
11	暗	褐	色	褐色土・ローム粒子・ローム小・中ブロック中量
12	褐		色	ローム小・中ブロック中量
13	褐		色	ローム粒子・ローム中・大ブロック多量
14	黒	褐	色	褐色土中量，粘土ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。３層から獣骨片が出土している。

所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明である。

第９号井戸［SK－1553］（第171図）

位置　E17f_4区。

重複関係　第1612号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.9m，短径1.7mの円形で，確認面から2.0mの深さまで傾斜をもち，そこから下は円筒状に掘り込まれている。

覆土　各層ともロームブロックを含み，人為堆積である。８層から下層は水分を含む。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム小・中ブロック中量，褐色土少量，炭化物
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量
5　褐　　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化物
6　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，褐色土少量，炭化物
8　暗　褐　色　褐色土中量，焼土粒子中量，粘土ブロック・ハードローム中・大ブロック少量

遺物　覆土中層から第174・175図4と5の土師質土器（皿），6と7の擂鉢，下層から8と9の土師質土器（内耳鍋），14と15の砥石，10と11の常滑の甕，混入したと思われる12の石斧，13の磨石，及び縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中世と考えられる。

第10号井戸［SK－1576］（第171図）

位置　E17h_9区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.44m，短径1.32mの楕円形で，確認面から1.2mの深さまで傾斜をもち，そこから下は円筒状に掘り込まれている。

長径方向　N—40°—E

覆土　各層ともローム ブロックを含み，人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・ローム小・中ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，褐色土少量，炭化物
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，褐色土少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中・大ブロック中量，褐色土少量
5　褐　　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化物

遺物　覆土中から第175図16の土師質土器（皿），17の瓦質土器の高台部，土師質土器片，混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中近世と考えられる。

第11号井戸［SK－1598］（第172図）

位置　E17i_2区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.64m，短径1.5mの楕円形で，確認面から1.0mの深さまで傾斜をもち，そこから下は円筒状に掘り込まれている。

長径方向　N—90°－E

覆土　各層ともローム ブロックを含み，人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・ローム小・中ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，褐色土少量，炭化物
3　褐　　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，粘土ブロック少量，炭化物

遺物　覆土中から土師質土器片，陶器片，混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中近世と考えられる。

第12号井戸［SK－1607］（第172図）

位置　E16h_9区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径4.8m，短径4.6mの円形で，確認面から2.8mの深さまで傾斜をもち，そこから下は円筒状に掘り込まれている。

覆土　1～7層は，自然的な堆積をしている。8～16層は，ロームブロックを含み，人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
7　明　褐　色　ローム粒子多量，褐色土中量
8　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・暗褐色土少量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　ローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
11　暗　褐　色　ローム小・中ブロック中量，炭化物
12　暗　褐　色　ローム小・中ブロック多量，黒色土中量
13　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
14　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・ブロック少量
15　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土粒子・暗褐色土少量
16　褐　　色　ローム小・中ブロック中量

遺物　覆土中から土師質土器片，陶器片，混入したと思われる縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中近世と考えられる。

第13号井戸［SK－1661］（第173図）

位置　E16i_9区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径3.8m，短径3.32mの楕円形で，確認面から2.0mの深さまで傾斜をもち，そこから下は一辺約1.0mの方形に掘り込まれている。

長径方向　N—90°—W

覆土　各層ともロームブロックを含み，人為堆積である。

土層解説

1　明　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック・ローム小・中ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，褐色土少量
3　褐　　色　ローム粒子・ローム中・大ブロック多量，粘土ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量，粘土ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・大ブロック・粘土ブロック多量
6　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・粘土ブロック中量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック中量
8　褐　　色　ローム粒子・ソフトローム小・中ブロック中量
9　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中・大ブロック中量
10　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中ブロック中量，炭化粒子少量
11　褐　　色　ローム粒子多量，ハードローム小・中ブロック中量，炭化粒子・暗褐色土少量
12　明　褐　色　粘土ブロック少量
13　にぶい褐色　ローム粒子多量，粘土ブロック少量
14　褐　　色　ローム粒子多量，ソフトローム小・中ブロック中量，炭化粒子極少量

遺物　覆土中層から第176図18の土師質土器（皿），19の土師質土器（擂鉢），20の土師質土器（内耳鍋），土師質土器片，陶器片，混入したと思われる須恵器片，縄文土器片が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から判断して，中近世と考えられる。

第16号井戸［SK－1713］（第172図）

位置　E16a_4区。

規模と形状　掘り方は，上面が長径1.3m，短径1.26mの楕円形で，確認面から2.2mの深さまで傾斜をもつ。

長径方向　N—58°－E

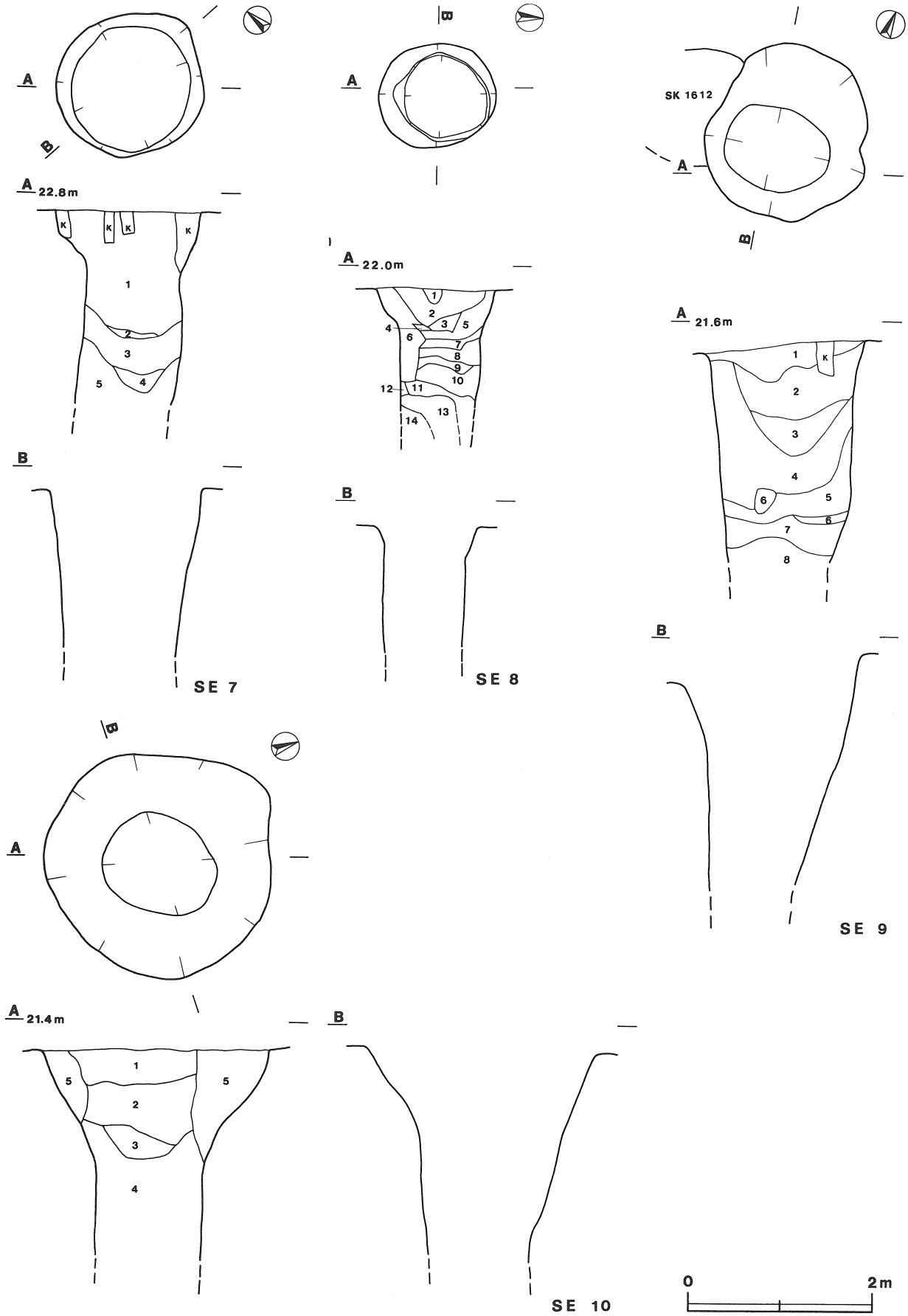
覆土　人為堆積である。堆積状況から判断して，一挙に埋め戻したものと考えられる。

土層解説

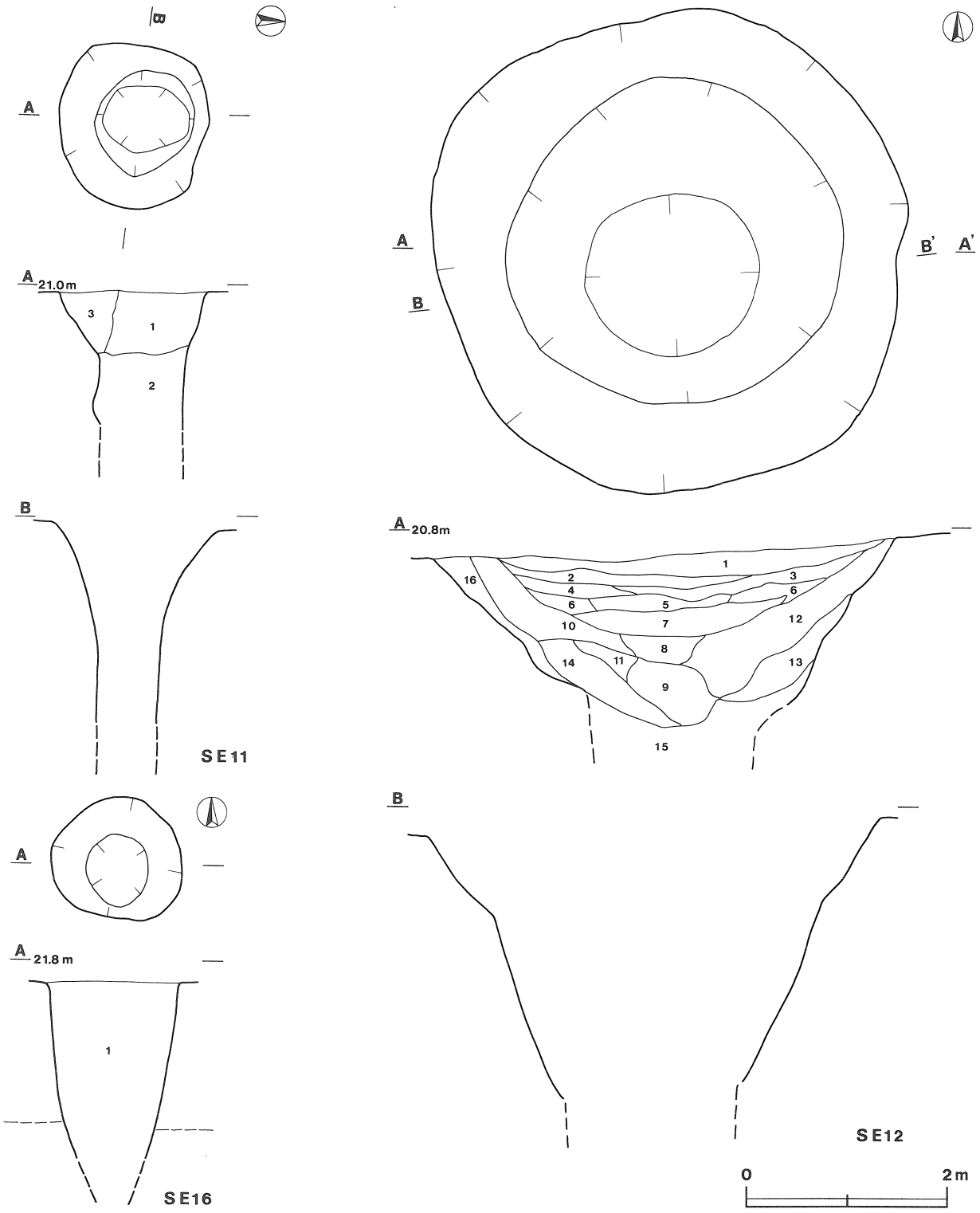
1　褐　　色　ローム粒子多量，粘土ブロック中量，ローム小・中ブロック少量

遺物　覆土中から混入したと思われる縄文土器片が出土している。

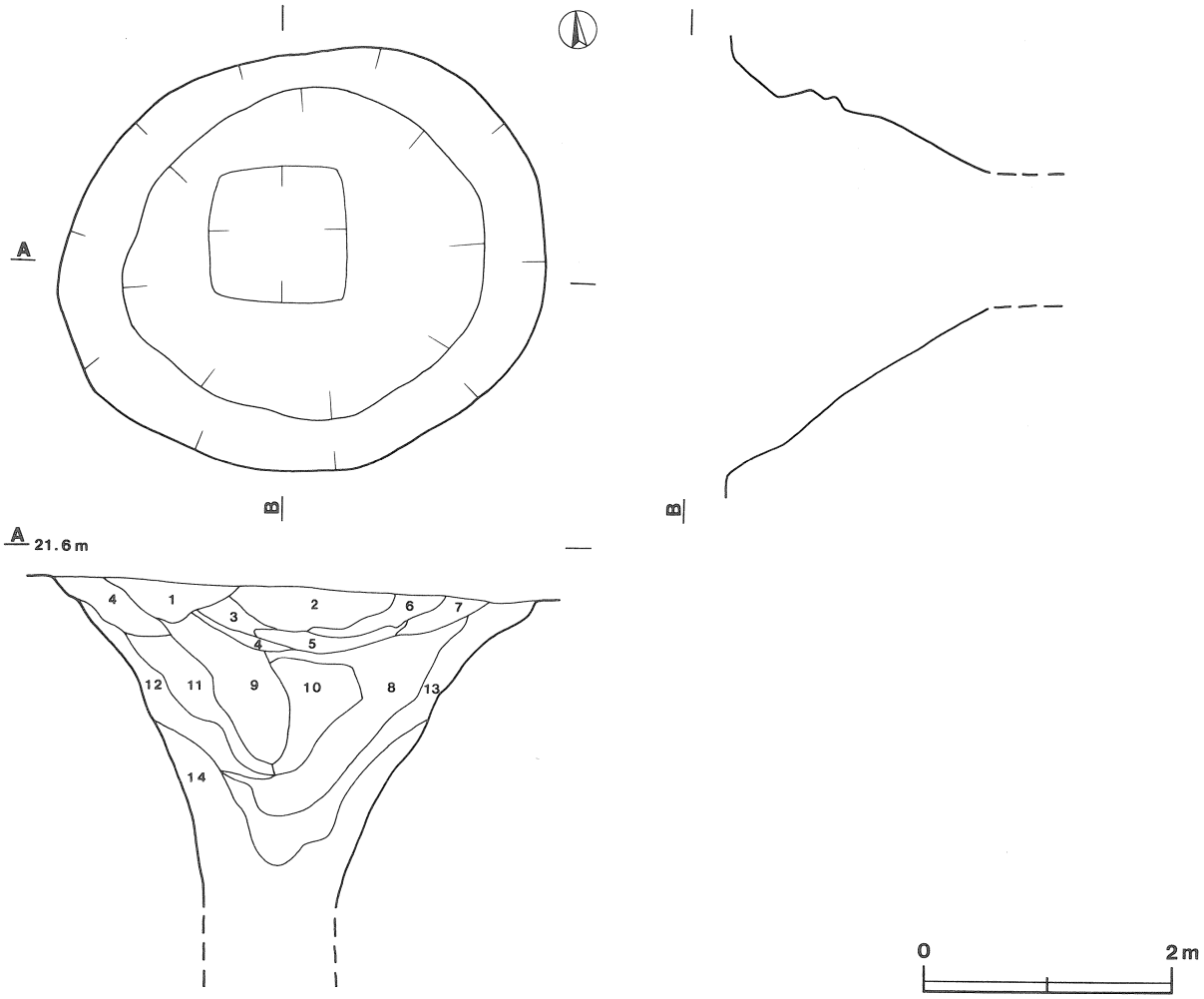
所見　本跡の時期は，判断する出土遺物がないため不明である。



第171図　第7・8・9・10号井戸実測図



第172図　第11・12・16号井戸実測図



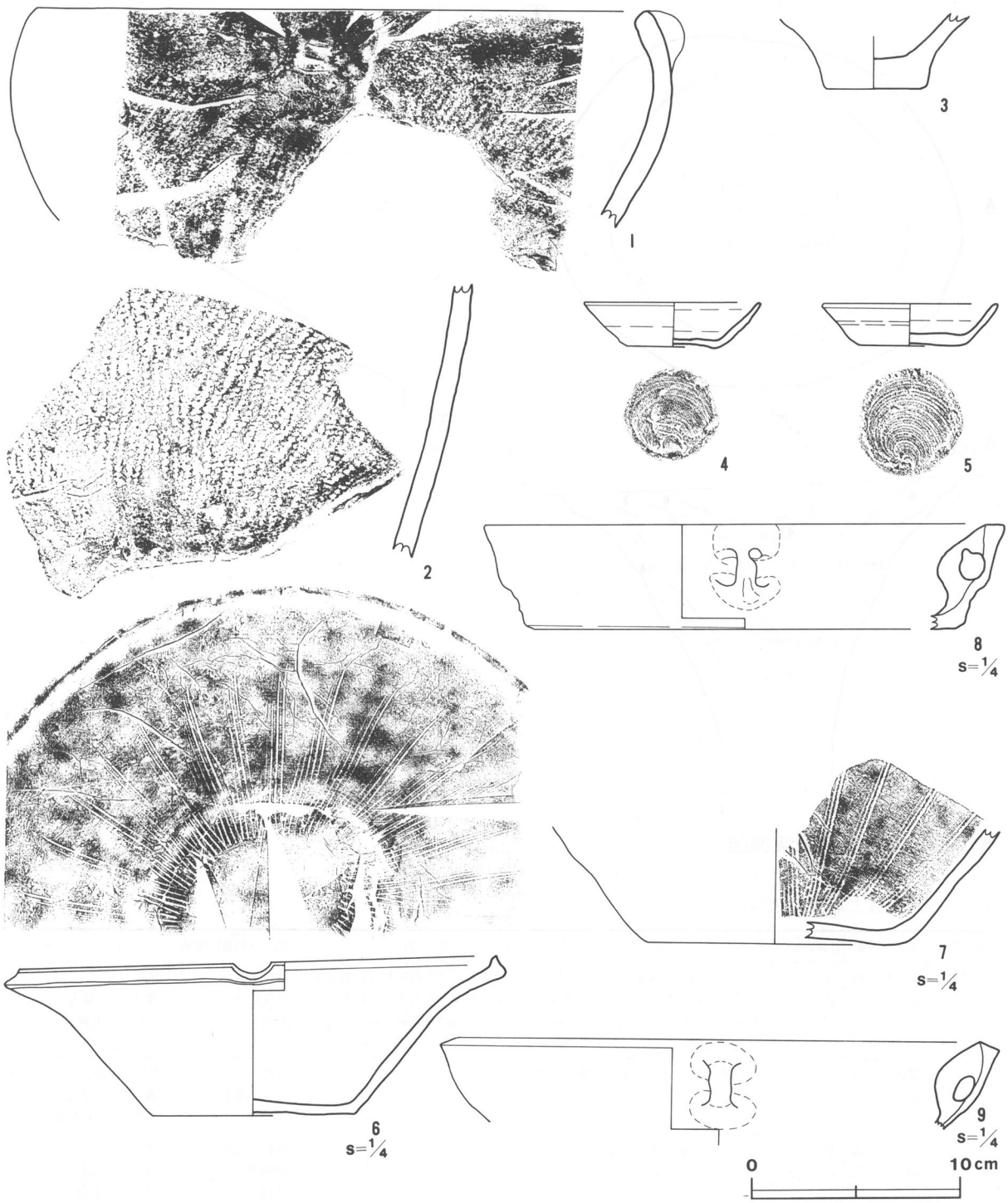
第173図　第13号井戸実測図

第７号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第174図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 29.0 B(10.4)	胴部上位から口縁部片。胴部上位から口縁部にかけて内彎しながら立ち上がる。口縁部は，無文帯で摘み上げたような突起を有する。以下に，微隆線で逆U字状のモチーフを描き，モチーフ内に単節縄文RLを縦位回転で充塡している。外面は磨滅が甚だしい。	砂粒・長石・石英 浅黄橙色 普通	P77　25%　PL53 覆土中（混入） （加曽利EⅣ式）
2	深鉢形土器 縄文土器	B(13.0)	胴部片。外面に単節縄文を施文している。	砂粒・スコリア にぶい黄橙色 普通	P78　10% 覆土中（混入） （加曽利EⅣ式）
3	深鉢形土器 縄文土器	B(3.5) C　4.8	底部片。外面はナデを施している。	砂粒・長石 明褐色 普通	P78　10% 覆土中（混入） （加曽利EⅣ式）

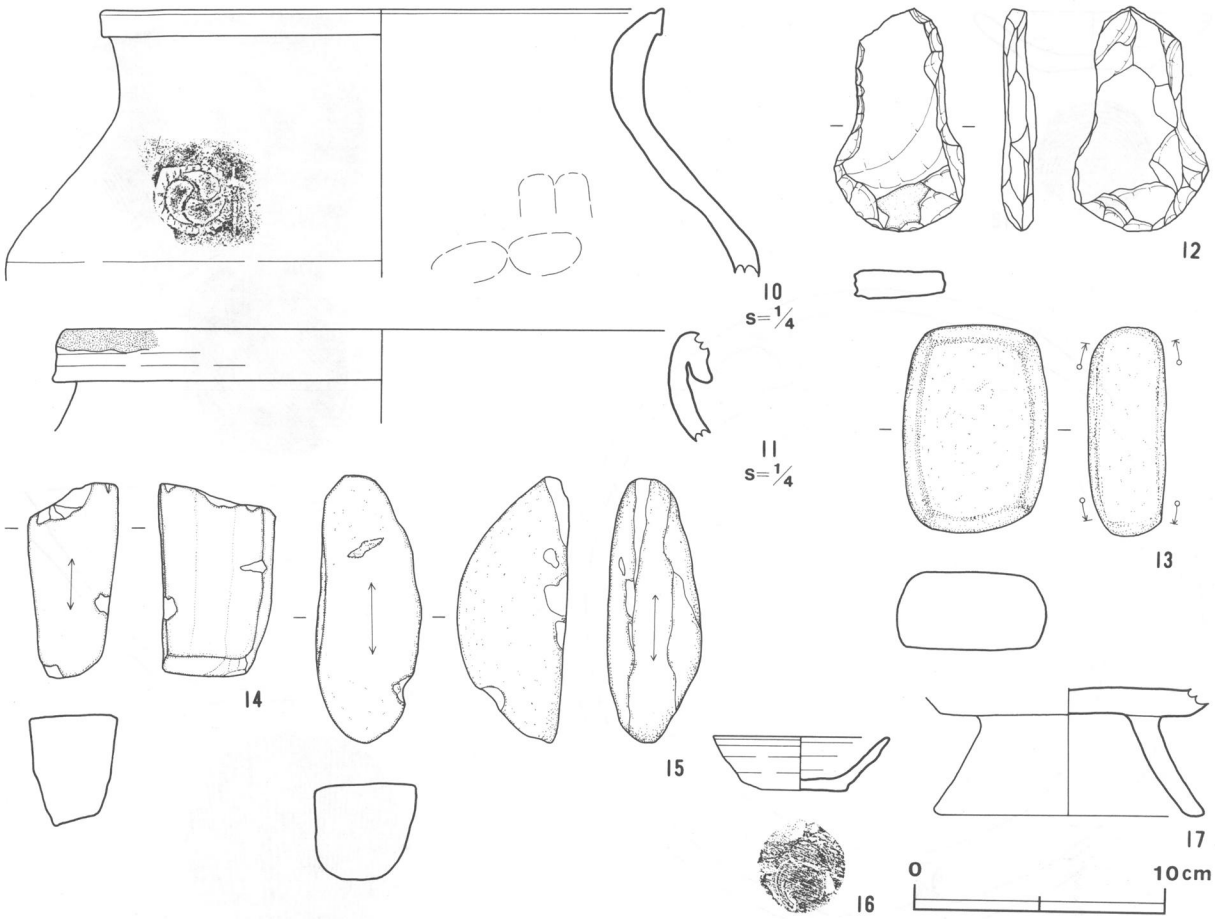
第９号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第174図 4	皿 土師質土器	A　8.6 B　2.1 C　4.4	平底。体部・口縁部は，内彎気味に外傾する。底部内面が円盤状に盛り上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 明褐灰色　普通	P199　90%　PL53 覆土中層 口唇部油煙付着
5	皿 土師質土器	A　8.3 B　2.0 C　5.0	平底。体部は外傾し，口縁部は内彎気味に外傾する。底部内面が円盤状に盛り上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P200　100%　PL53 覆土中層
6	擂鉢 土師質土器	A 30.3 B 10.0 C 12.8	平底。体部から口縁部にかけて強く外反し，口縁部上端が内側に立ち上がる。片口を有する。	体部・口縁部内・外面横ナデ。底部から体部にかけて，内面に５本単位の櫛目を施している。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P201　95%　PL53 覆土中層 （15C後半）



第174図　第7・9号井戸出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第174図 7	擂　鉢 土師質土器	B(5.5) C[12.5]	底部から体部片。平底。体部下位は，外傾する。	底部から体部にかけて，4本単位の櫛目を施している。	砂粒・雲母・スコリア にぶい橙色	P202　10%　PL53 覆土中層
8	内耳鍋 土師質土器	A[33.0] B　6.7 C[27.0]	底部から口縁部片。口縁部は，内彎しながら立ち上がる。耳部上位に吊したと考えられる紐ずれ痕が認められる。	内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英　内面明褐色 外面暗褐色 普通	P203　5% 覆土下層
9	内耳鍋 土師質土器	A[33.0] B(5.4)	口縁部片。口縁部は，内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 明赤褐色　普通	P204　5%　覆土下層 外面煤付着



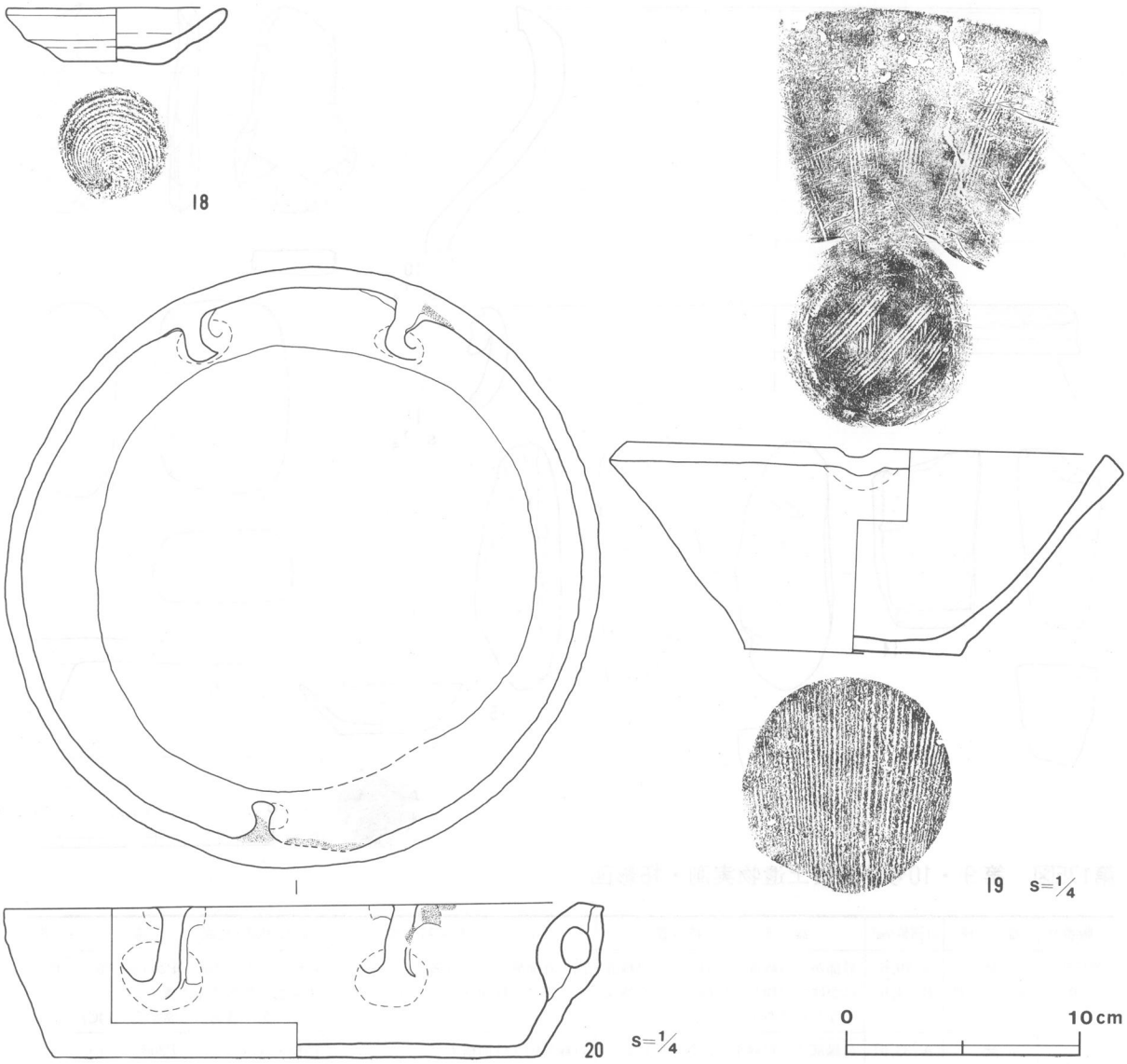
第175図　第９・10号井戸出土遺物実測・拓影図

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第175図 10	甕 陶器	A[29.6] B(14.0)	肩部から口縁部片。肩部から口縁部にかけて内傾し，口縁部はやや外反しながら立ち上がる。	内・外面横ナデ。肩部に「巴」文のスタンプが押印されている。	砂粒・長石　内面灰褐色　外面灰オリーブ色　普通	P205　10%　PL53 覆土下層 常滑産（14C）
11	甕 陶器	A[33.0] B(6.8)	口縁部片。口縁部は，N字状に折り返されている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 暗赤褐色 普通	P206　5% 覆土下層 常滑産（14C後半）

図版番号	種　別	計測値				石　質	出土地点	備　考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第175図12	打製石斧	8.9	5.3	1.4	70.0	砂　岩	覆土中層	Q107（混入）	PL57
13	磨　石	8.4	5.8	3.2	260.0	安山岩	覆土中層	Q108（混入）	PL59
14	砥　石	(7.8)	4.7	3.6	(160.0)	凝灰岩	覆土中層	Q109一部欠損	PL61
15	砥　石	10.6	4.5	4.2	170.0	凝灰岩	覆土中層	Q110	PL61

第10号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第175図 16	皿 土師質土器	A　7.0 B　2.1 C　3.5	平底。体部は，内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。底部は突出気味。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P213　95%　PL53 覆土中
17	台付鉢 瓦質土器	B(5.0) D[10.7] E　5.0	高台部片。高台は，「ハ」の字状に開く。	内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 黒褐色 普通	P214　15%　PL53 覆土中



第176図　第13号井戸出土遺物実測・拓影図

第13号井戸出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第176図 18	皿 土師質土器	A 9.2 B 2.3 C 4.6	平底。体部・口縁部は外傾する。器肉は厚い。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色　普通	P221　70%　PL53 覆土中層
19	擂　鉢 土師質土器	A[27.1] B 11.6 C 12.2	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。片口を有する。	内・外面ナデ。底部から体部内面にかけて6本単位の櫛目を施している。底面に敷物による圧痕が残る。	砂粒・雲母・長石・スコリア 赤褐色　普通	P222　50%　PL54 覆土中層
20	内耳鍋 土師質土器	A 30.6 B 8.7 C 27.4	平底。体部は外傾し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。三耳を有する。耳部の上位に吊したと考えられる紐ずれ痕が認められる。	体部・口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・スコリア 赤褐色 普通	P274　90%　PL54 覆土中層 外面煤付着

4　溝（付図２）

調査区から溝16条を検出した。調査の結果，ほとんどの溝が中近世の墓域の内に確認できた。時期や性格は不明である。特に，第45，49号溝に関しては，中近世の墓域を区画するかのように位置している。ここでは，溝16条について，一覧表で記載する。また，出土遺物については実測図でその一部を掲載する。

溝出土遺物観察表

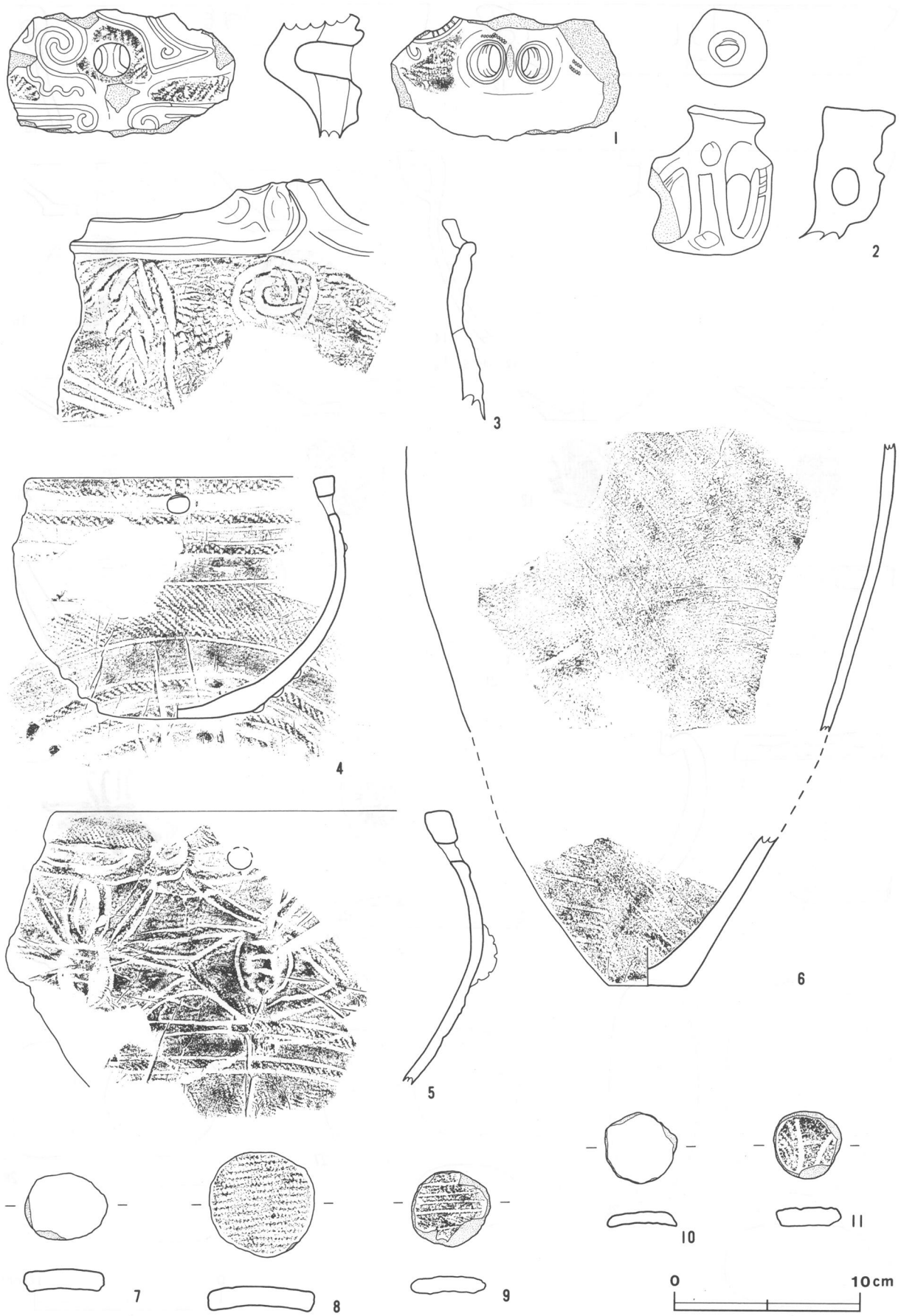
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第177図 1	深鉢形土器 縄文土器	B(6.8)	口縁部片。外面に一つの孔を有する。孔の周囲に沈線によって，渦巻文，波状文，蕨手文を描いている。内面に眼鏡状把手を有する。	砂粒・長石・スコリア にぶい黄橙色　普通	P234　5％　PL54 SD－45覆土中 （中峠式）
2	深鉢形土器 縄文土器	B(5.2)	把手片。橋状把手の上部に円形刺突文を施している。	砂粒・長石・雲母 橙色 普通	P235　5％　PL55 SD－45覆土中 （堀之内Ⅰ式）
3	深鉢形土器 縄文土器	A[19.6] B(10.8)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部は無文で，以下に沈線が巡る。胴部は無節縄文を地文に，幅の広い沈線による文様を描いている。	砂粒・長石・雲母・石英 にぶい黄橙色　普通	P233　10％　PL55 SD－45覆土中 （堀之内Ⅰ式）
4	鉢形土器 縄文土器	A[16.4] B 13.0 C　8.4	丸底。胴部から口縁部にかけて内彎する。口縁部に１単位の有孔が認められる。胴部中位に縄文帯をもち，上下に沈線が巡る。隆起帯縄文を多段に配す。	砂粒・長石・雲母 褐灰色 普通	P232　70％　PL54 SD－45覆土中 （安行Ⅰ式）
5	鉢形土器 縄文土器	A[21.2] B(14.7)	胴部から口縁部片。波状口縁。胴部から口縁部にかけて内彎する。口縁部に一つの有孔が認められる。胴部には，キザミ目を施した貼付文が２単位認められ，沈線による菱形文や三角文を描いている。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P244　20％　PL55 SD－50覆土中 （安行Ⅱ式）
6	深鉢形土器 縄文土器	B(23.5) C　4.3	底部から胴部片。平底。粗製土器。胴部下位は直線的に外傾し，中位は内彎気味に立ち上がる。底部外面は，斜位の条線文を施している。	長石・雲母・石英・スコリア 橙色　普通	P239　20％ SD－49覆土中 （安行Ⅲa 式）

図版番号	種　別	計測値（cm）			重　量（g）	現存率（％）	備　考
		最大長	最大幅	最大厚			
第177図7	土製円板	3.6	4.4	1.2	20.0	100	DP28　SD－49覆土中　無文　PL56
8	土製円板	5.7	4.4	1.3	50.0	100	DP29　SD－54覆土中　PL56
9	土製円板	4.1	4.2	0.9	(20.0)	90	DP27　SD－45覆土中　PL56
10	土製円板	4.0	3.9	0.7	10.0	100	DP30　SD－54覆土中　無文　PL56
11	土製円板	3.7	4.2	1.0	(10.0)	90	DP31　SD－59覆土中　PL56

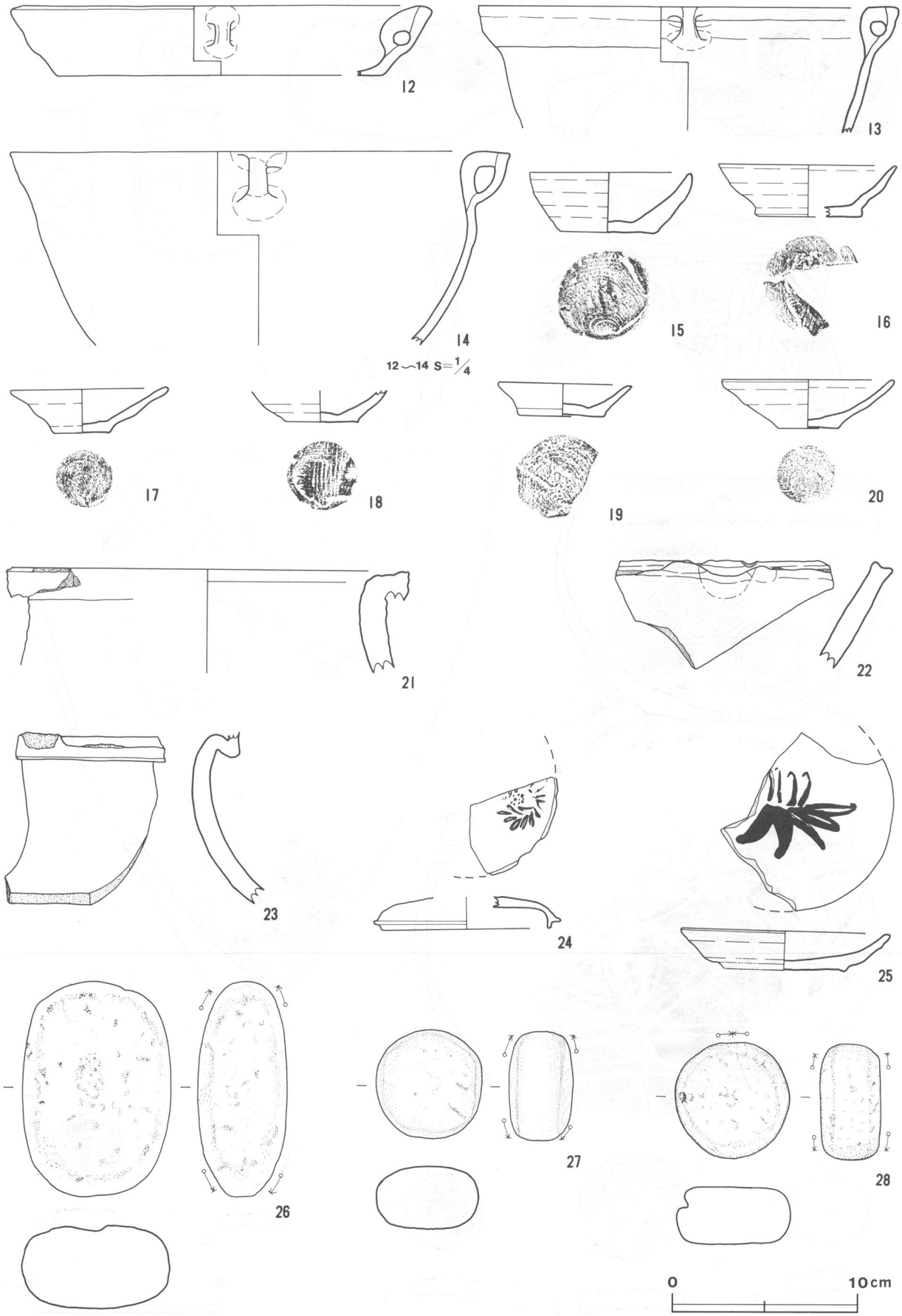
図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第178図 12	内耳鍋 土師質土器	A[28.4] B　5.1 C[23.6]	体部から口縁部片。体部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。耳部はやや小さい。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母・石英・スコリア にぶい赤褐色　普通	P236　10％ SD－45覆土中 体部外面煤付着
13	内耳鍋 土師質土器	A[29.8] B(9.1)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は内彎しながら立ち上がる。耳部は小さい。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P240　10％ SD－49覆土中 外面煤付着
14	内耳鍋 土師質土器	A[35.5] B(14.0)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり，口縁部との境にくびれをもつ。	口縁部・体部外面横ナデ。	雲母・石英・スコリア にぶい赤褐色　普通	P245　20％　PL54 SD－54覆土中 体部外面煤付着
15	皿 土師質土器	A　8.8 B　3.3 C　5.0	平底。底部内面に円盤状の盛り上がりがある。体部は外傾し，口縁部は内彎気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 淡橙色　普通	P246　90％　PL54 SD－54覆土中
16	皿 土師質土器	A　9.6 B　2.8 C　5.6	底部一部欠損。平底。体部は外傾し，口縁部は外反する。底部は突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色　普通	P247　85％　PL54 SD－54覆土中
17	皿 土師質土器	A[8.5] B　2.3 C　3.0	平底。体部は外傾し，口縁部はやや外反する。底部は突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	石英・スコリア 橙色 普通	P248　65％　PL54 SD－54覆土中
18	皿 土師質土器	B(1.7) C　3.8	底部から体部片。平底。底部内面は，円盤状に盛り上がる。体部は外傾する。底部は突出気味。	ロクロ成形。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P249　70％　PL54 SD－59覆土中

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第178図 19	皿 土師質土器	A[7.2] B 1.7 C 4.6	平底。底部内面が円盤状に盛り上がる。体部・口縁部は外傾する。 底部は突出気味。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア 橙色　普通	P250　50%　PL54 SD－59覆土中
20	皿 土師質土器	A[9.4] B 2.7 C 3.2	平底。体部・口縁部は外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・スコリア 淡黄橙色　普通	P251　50%　PL54 SD－59覆土中
21	広口壺 陶器	A[21.0] B(5.4)	口縁部片。口縁部はN字状の折り返しである。		暗赤色 普通	P237　5％ SD－45覆土中常滑産（13C）
22	擂鉢 陶器	B(5.8)	口縁部片。片口を有する。	内・外面横ナデ。	砂粒	P241　5％ SD－49覆土中常滑産
23	甕 陶器	B(9.3)	口縁部片。口縁部はN字状の折り返しである。		黄灰色 普通	P242　5％ SD－49覆土中常滑産（13C）
24	蓋 磁器	A[10.0] B(1.8)	小物の蓋の破片。染付。上面に上絵（グリーン・白・赤）で草花文を描いている。	ロクロ成形。	灰白色 (釉)緑色 良好	P238　20%　PL54 SD－45覆土中 京焼系（18C）
25	皿 陶器	A[11.3] B 2.2 C[6.5]	底部から口縁部片。高台は低い。 口縁部は外傾する。内面底部に花の文様を描いている。	ロクロ成形。削り出し高台。	にぶい黄橙色 (釉)透明 良好	P243　60%　PL54 SD－49覆土中 瀬戸・美濃系

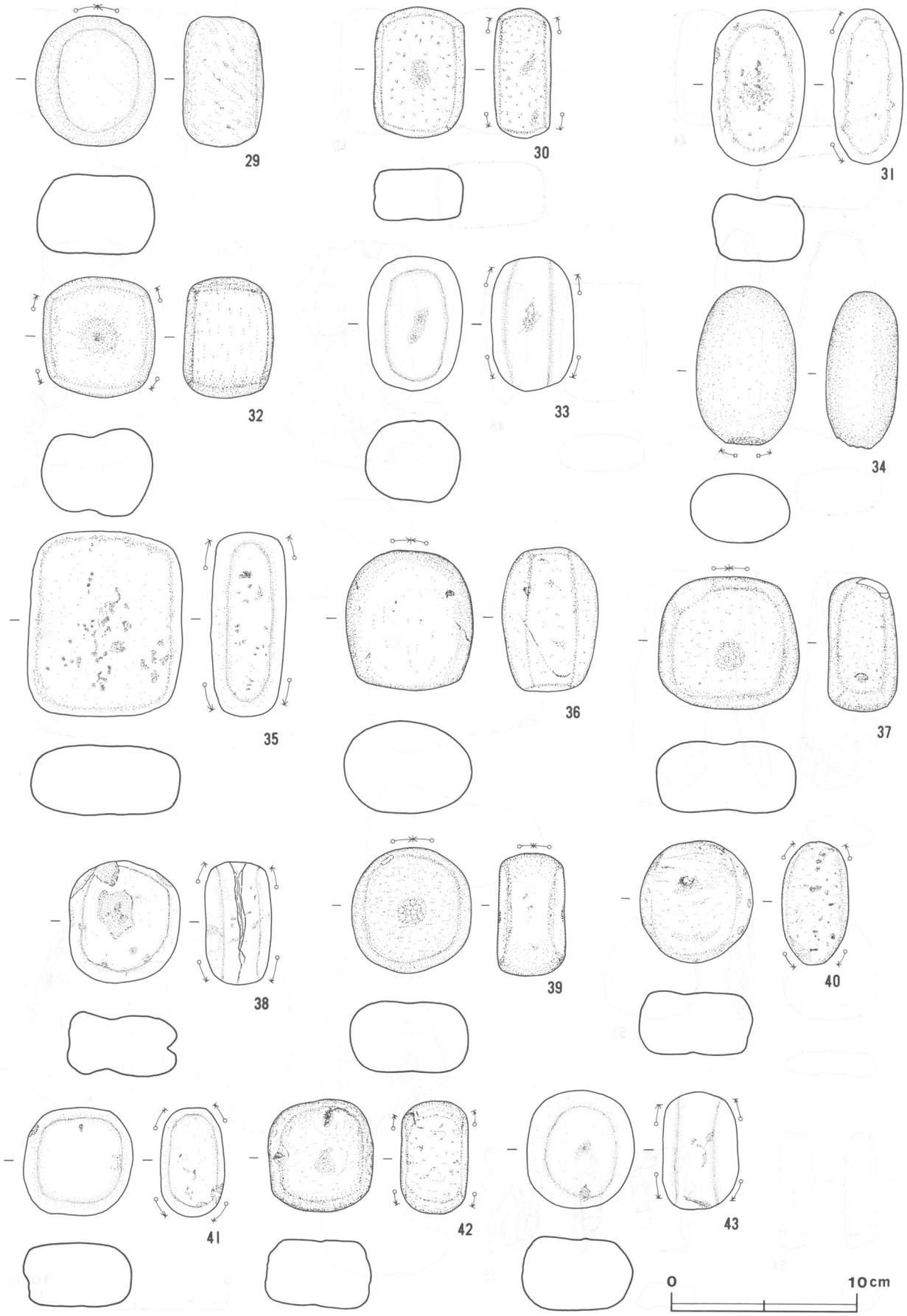
図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第178図26	磨　石	11.6	8.0	4.8	640.0	安山岩	Q123　SD－45覆土中　PL59
27	磨　石	5.9	5.6	3.4	180.0	安山岩	Q124　SD－45覆土中　PL59
28	磨　石	6.2	6.2	3.3	200.0	安山岩	Q125　SD－45覆土中　PL59
第179図29	磨　石	7.0	6.4	4.3	310.0	安山岩	Q126　SD－45覆土中　PL59
30	磨　石	7.1	5.0	3.1	170.0	安山岩	Q127　SD－45覆土中　PL59
31	磨　石	8.4	5.0	3.8	220.0	安山岩	Q128　SD－45覆土中　PL59
32	磨　石	6.5	6.0	4.8	300.0	安山岩	Q129　SD－45覆土中　PL59
33	磨　石	7.4	5.2	4.5	250.0	安山岩	Q130　SD－45覆土中　PL59
34	敲　石	8.4	5.3	3.9	280.0	砂　岩	Q131　SD－45覆土中　PL59
35	磨　石	9.9	8.4	4.0	550.0	安山岩	Q139　SD－54覆土中　PL59
36	磨　石	7.7	6.9	5.1	440.0	砂　岩	Q140　SD－54覆土中　PL59
37	磨　石	7.1	7.7	3.9	390.0	砂　岩	Q141　SD－54覆土中　PL60
38	磨　石	6.7	6.0	3.5	210.0	安山岩	Q142　SD－54覆土中　PL60
39	磨　石	6.7	6.5	3.5	270.0	安山岩	Q143　SD－54覆土中　PL60
40	磨　石	6.6	6.1	3.6	200.0	安山岩	Q144　SD－54覆土中　PL60
41	磨　石	5.9	5.8	3.5	190.0	安山岩	Q145　SD－54覆土中　PL60
42	磨　石	6.1	5.7	3.6	200.0	安山岩	Q146　SD－54覆土中　PL60
43	磨　石	6.4	5.9	4.1	240.0	安山岩	Q147　SD－54覆土中　PL60
第180図44	磨　石	6.3	6.8	3.0	210.0	安山岩	Q148　SD－59覆土中　PL60
45	磨　石	6.8	6.0	3.8	260.0	安山岩	Q149　SD－59覆土中　PL60
46	磨製石斧	(11.3)	5.2	2.6	(240.0)	安山岩	Q118　SD－45覆土中　刃部欠　PL57
47	磨製石斧	(4.6)	5.1	2.6	(80.0)	泥　岩	Q119　SD－45覆土中　刃部片　PL57
48	磨製石斧	(6.4)	4.8	2.5	(110.0)	砂　岩	Q134　SD－49覆土中　刃部片　PL57
49	打製石斧	11.7	4.2	2.0	120.0	泥質片岩	Q133　SD－49覆土中　PL57
50	打製石斧	12.5	8.8	2.7	270.0	砂　岩	Q138　SD－54覆土中　PL57
51	礫石斧	5.9	5.2	1.5	70.0	砂　岩	Q120　SD－45覆土中　PL57
52	石　皿	(8.9)	(9.7)	6.4	(700.0)	安山岩	Q122　SD－45覆土中　一部欠損　凹石転用
53	石　皿	(11.1)	(6.9)	7.1	(260.0)	安山岩	Q121　SD－45覆土中　一部欠損　凹石転用
54	石　棒	(6.4)	2.0	1.7	(30.0)	砂　岩	Q136　SD－49覆土中　一部欠損　PL58
55	石　器	5.7	3.5	1.5	40.0	頁　岩	Q137　SD－49覆土中　PL58
第181図56	石　鏃	2.0	1.6	0.4	1.0	チャート	Q132　SD－49覆土中　PL58
57	石　鏃	2.1	1.5	0.4	0.9	黒曜石	Q117　SD－45覆土中　PL58
58	砥　石	7.6	3.6	3.4	90.0	凝灰岩	Q135　SD－49覆土中　PL61



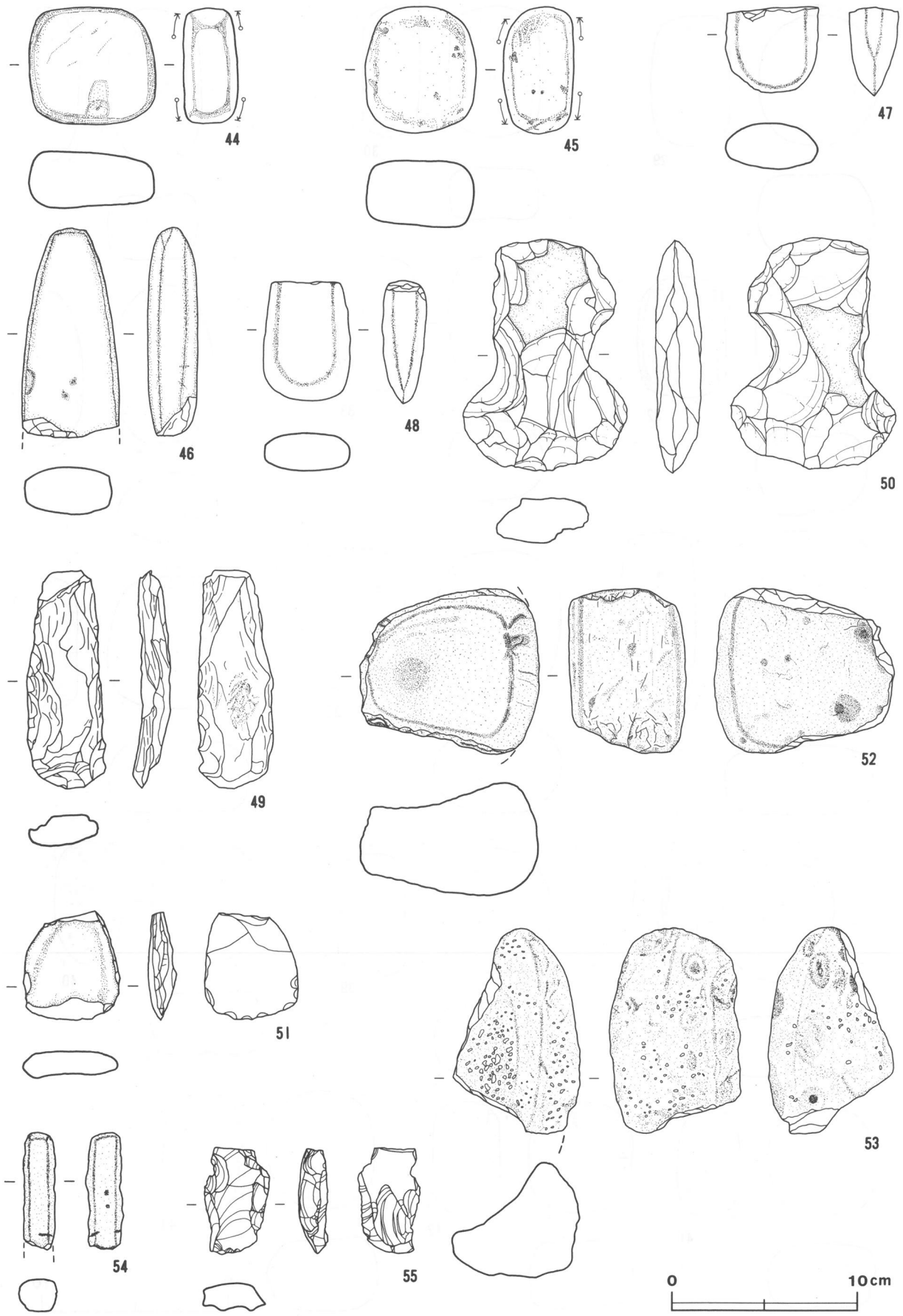
第177図　溝出土遺物実測・拓影図(1)



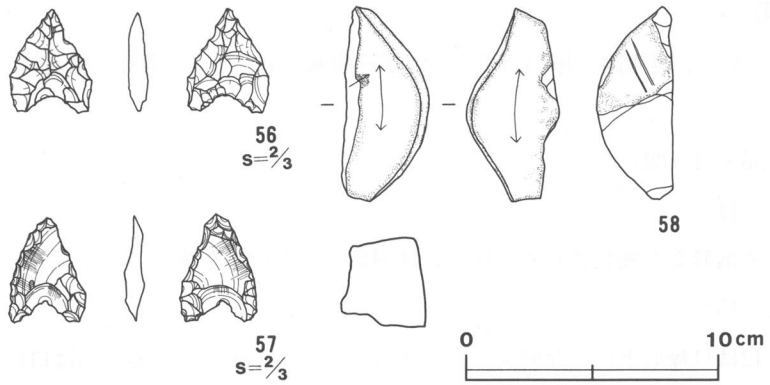
第178図　溝出土遺物実測・拓影図(2)



第179図　溝出土遺物実測図(3)



第180図　溝出土遺物実測図(4)



第181図　溝出土遺物実測図(5)

表6　前田村遺跡D区溝一覧表

溝番号	位置	主軸方向	断面	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					
43	C18	N−56°−W	U	23.4	−	−	0.8	段状	−	自然	縄文土器, 磁器	調査区域外にかかる, SX−6と重複
44	C18	N−50°−W	U	14.0	−	−	0.3	垂直	平坦	自然	縄文土器	調査区域外にかかる, SK−1255, 1256と重複
45	D16	N−34°−E	U	112.0	1.0〜2.0	0.2〜0.7	0.4〜0.5	緩傾	凹凸	自然	縄文土器, 土師質土器, P232〜238, Q117〜131, DP27	SI−293, 296, SK−1244, 1275, 1276, 1318, SD−46と重複
46	D16	N−26°−E	U	42.0	−	−	−	−	−	−	縄文土器	
47	E17	N−70°−W	U	25.0	1.2〜1.4	0.6	0.5	外傾	皿状	−	縄文土器, 土師質土器, 陶器	SK−1483, 1517と重複
48	E17	N−27°−E	U	26.3	1.1	0.8	0.2	緩斜	平坦	−	縄文土器, 土師質土器, 陶器	SK−1486, 1494, 1499と重複
49	E16	N−0°	U	36.5	1.6〜2.5	−	0.5	緩斜	凹凸	自然	縄文土器, 土師質土器, 陶器, P239〜243, DP28, Q132〜137	
50	E18	N−65°−W	U	7.3	0.5〜1.7	0.3〜1.5	0.2	垂直	平坦	−	縄文土器, P244	SK−1498と重複
51	E17	N−83°−W	U	5.7	1.4〜1.6	1.0〜1.1	0.3	緩斜	凹凸	−	縄文土器	
52	E17	N−58°−W	U	4.2	1.0〜1.2	0.8〜0.9	0.3	緩斜	皿状	−	縄文土器	SK−1584, 1595と重複
53	D15	N−85°−E	U	32.0	0.5〜1.2	0.2〜0.6	0.2	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
54	F17	N−70°−W	U	17.5	1.3〜3.6	0.9〜2.6	0.3	緩斜	皿状	−	縄文土器, 土師質土器, 陶器, P245〜248, DP29・30, Q138〜147	SK−1608, 1653, 1654, 1681, 1683と重複
55	F16	N−90°	U	7.0	0.5〜1.0	0.1〜0.4	0.3	緩斜	皿状	−	縄文土器	
56	E18	N−20°−E	U	22.0	−	−	0.3	緩斜	皿状	−		SK−1620と重複
57	E17	N−40°−E	U	7.0	0.8	0.6	0.2	緩斜	平坦	−		SK−1657, 1701, 1705, 1706, 1762と重複
59	F18	N−60°−W	U	21.0	0.6〜0.8	0.2〜0.5	0.3	緩斜	皿状	−	縄文土器, 土師質土器, 陶器, P249〜251, Q148・149, DP31	SK−1598, 1682, 1779と重複

5　遺構外出土遺物（第182～192図）

調査区内の遺構外から出土した遺物について，実測図・拓影図でその一部を掲載する。縄文土器片の解説は，次のとおりである。

第１群　縄文時代中期中葉の土器（９～26・31・32）

Ａ類　勝坂式に比定される土器（９～11）

９は口縁部片で隆帯に沿って爪形文を施している。10と11は胴部片で爪形文を施している。

Ｂ類　中峠式に比定される土器（12～15）

12～15は口縁部片である。12は口縁直下に交互刺突による連続コの字文を施している。13は口縁直下に交互刺突文が巡り，以下に単節縄文を地文にキザミ目を施した隆帯を貼り付けている。14は隆帯による渦巻文を描いている。15は口縁直下に一条の沈線が巡り，以下に横位や縦位の沈線を施している。

Ｃ類　加曽利ＥⅠ式に比定される土器（16～18）

16～18は胴部片である。16は幅の広い沈線を描いている。18は交互刺突文と単節縄文を施している。

Ｄ類　加曽利ＥⅡ式に比定される土器（19～26）

19～22は口縁部片である。19は隆帯により楕円区画し，区画内に複節縄文を施文している。以下に，幅の広い磨消帯が垂下する。20と22は単節縄文を施文している。21は口縁部無文帯を幅の広い沈線により区画し，以下に単節縄文ＬＲの横位回転を施文している。23～26は胴部片である。23と25は単節縄文ＲＬの横位回転を地文に磨消帯が垂下する。24は単節縄文を施文している。26は赤彩されている。

Ｅ類　大木８ａ式に比定される土器（29・30）

29・30は胴部片である。いずれも単節縄文を地文に沈線を描いている。

第２群　縄文時代中期後葉の土器（27・28）

Ａ類　加曽利ＥⅢ式に比定される土器（27・28）

27は口縁部片で口縁直下に半截竹管による刺突文が巡る。28は胴部片で上位は隆帯を施し，以下に条線文を施している。

第３群　縄文時代後期前葉の土器（33～50）

Ａ類　称名寺式に比定される土器（33・34）

33は口縁部片で口縁部無文帯を沈線で区画し，以下に単節縄文ＬＲを横位回転で施文している。34は胴部片で太い沈線により磨消縄文を区画している。

Ｂ類　堀之内Ⅰ式に比定される土器（35～42）

35～41は口縁部片である。35と36は縄文を充填している。37は口縁直下に押圧を施した隆帯を貼り付けている。単節縄文ＲＬの縦位回転を地文とする。38は沈線を施している。39は口縁部に縦位の沈線と刺突文を施し，以下に沈線を施している。波状口縁で口唇部に刺突文を施し，口縁部に縦位の沈線を施している。41は沈線による文様を描いている。42は胴部片で単節縄文を地文に，沈線により区画された磨消帯を施している。

Ｃ類　堀之内Ⅱ式に比定される土器（43・44）

43と44は口縁部片である。43は単節縄文を施文している。44は沈線を施している。

D類　堀之内式に比定される土器（45～50）

45～50は胴部片である。45は無節縄文を地文に沈線が垂下する。46は単節縄文を地文に沈線を施している。47～49は沈線を施している。50は鉢形土器の胴部片で，上位は斜位の沈線や同心円を施している。下位は丁寧に磨いている。

第4群　縄文時代後期中葉の土器（51～53）

A類　加曽利B式に比定される土器（51・52）

51と52は口縁部片である。いずれも口縁部に押圧を施し，以下に斜位の沈線を施している。

B類　加曽利BⅢ式に比定される土器（53）

53は口縁部の突起部である。突起部に刺突文が巡り，以下に単節縄文を施文している。

第5群　縄文時代後期後葉の土器（54～72）

A類　安行Ⅰ式に比定される土器（54）

54は口縁部片で口縁直下に刺突文が巡る。

B類　安行Ⅱ式に比定される土器（55～72）

55～72は口縁部片である。55～68は粗製土器である。55と56は口縁直下に爪形文が巡り，以下に斜位の沈線を施している。57と59は口縁部文様帯に単節縄文を施文している。58は条線文を地文に幅の広い斜位の沈線を施している。60はヘラ状のものでナデを施している。61～66は条線文を施している。67は口縁直下に爪形文が巡り，以下に直線的な沈線を施している。68は横位の条線文を施している。69と70は隆起帯縄文を施している。71は隆起帯縄文上に形状がブタの鼻に似ている突起貼付文や横位のキザミ目を施した瘤状のものを施している。72はキザミ目を施した隆起線上に形状がブタの鼻に似ている突起貼付文を施している。

第6群　縄文時代晩期前葉の土器（73～91）

A類　安行Ⅲａ式に比定される土器（73～78）

73～78は口縁部片である。73～76は沈線による連弧文を描いている。73は隆起帯縄文を施している。78は縄文を地文にし，沈線により磨消縄文を区画している。

B類　安行Ⅲｂ式に比定される土器（79～89）

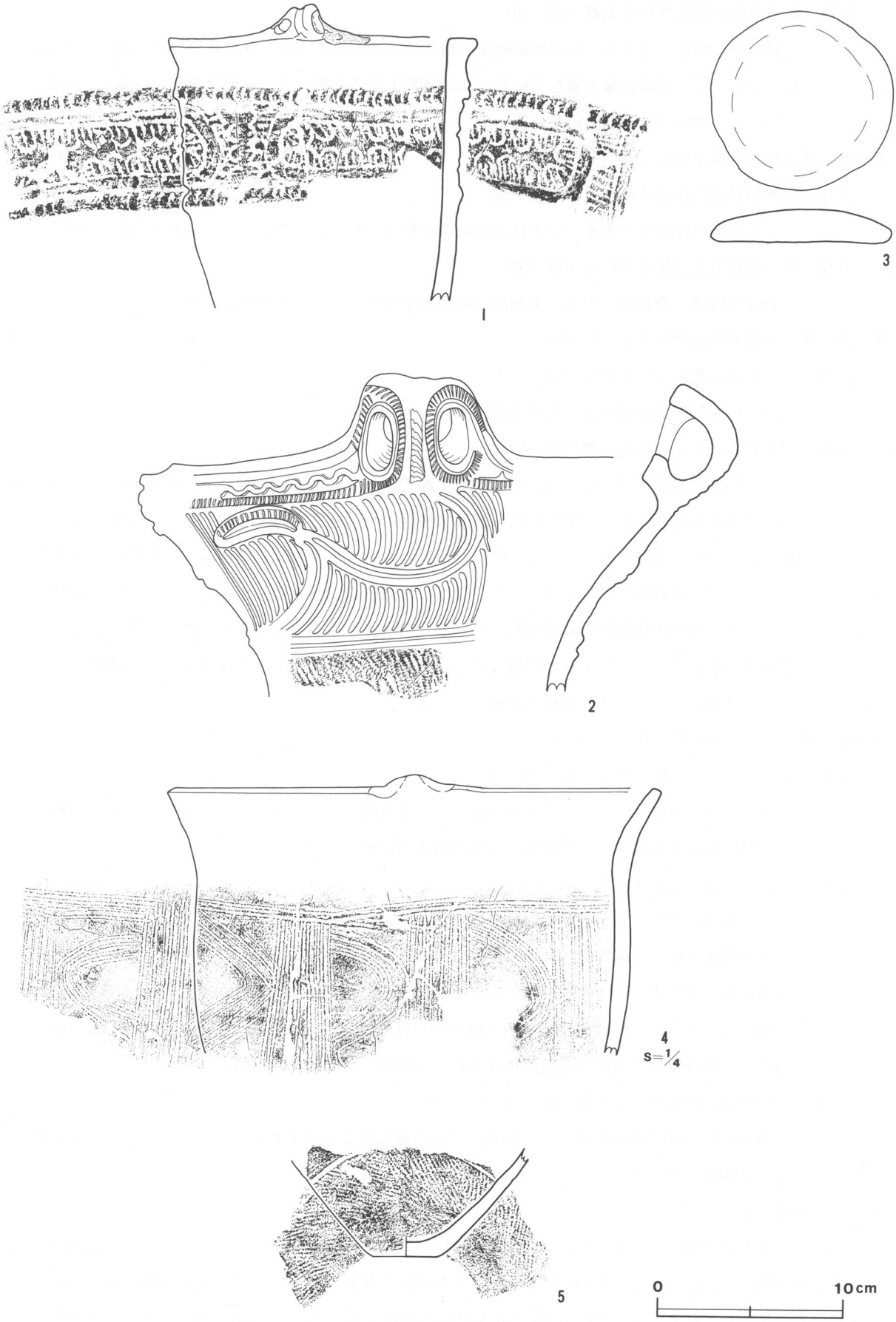
79～89は口縁部片である。79は波状口縁で波頂部に2単位の瘤を貼り付けている。口縁部は沈線により構成され，沈線間を磨り消している。80は口縁直下に縦位のキザミ目が巡り，以下に斜位の沈線を施している。81は沈線を施している。82～86は単節縄文を地文にし沈線で構成され，沈線間を磨り消している。87は口唇部に粘土紐を貼り付けている。以下に，二条の沈線が巡る。88と89は胴部片で単節縄文を地文に沈線で構成され，沈線間を磨り消している。

C類　安行Ⅲ式に比定される土器（90・91）

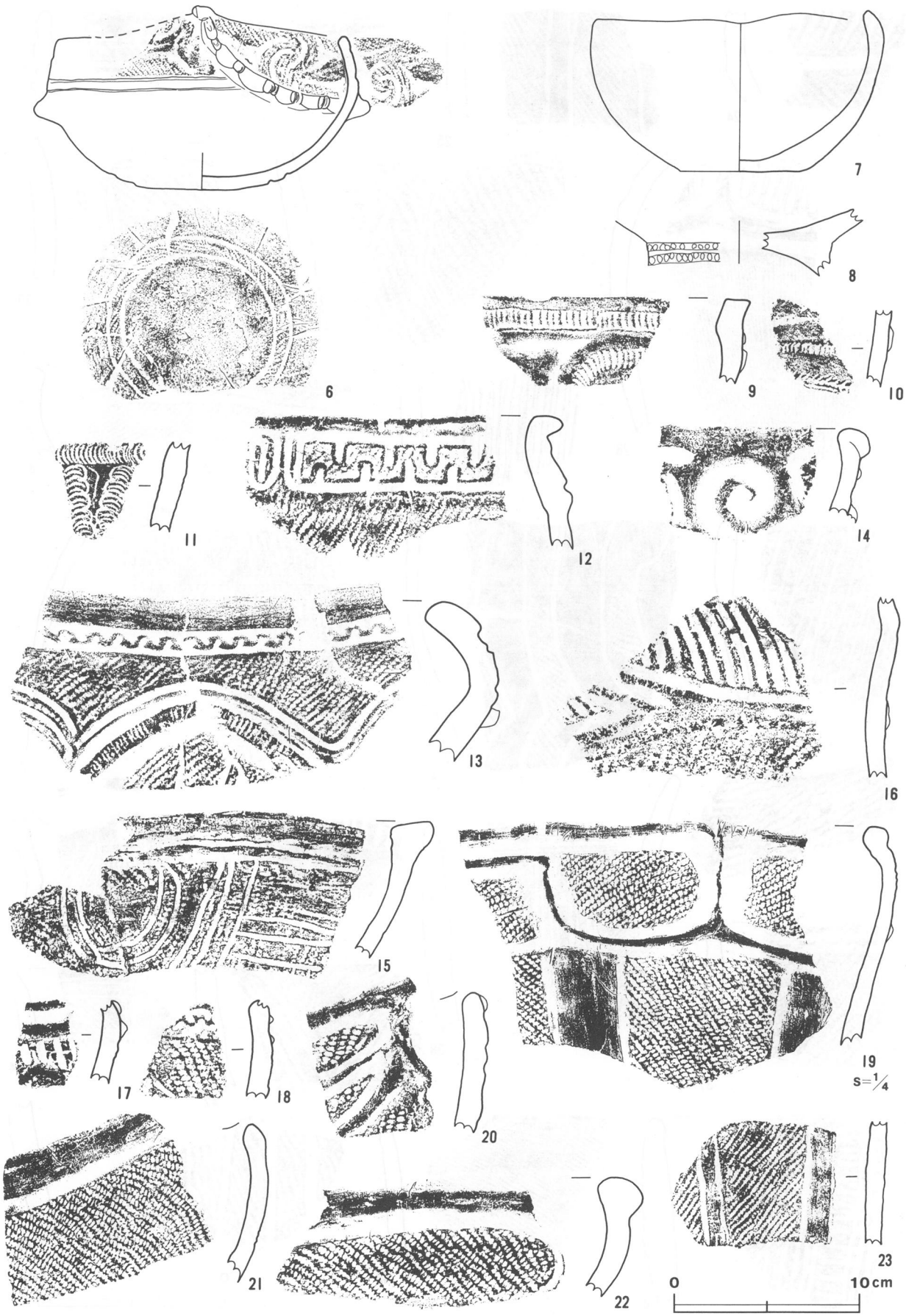
90は波状口縁で隆起帯縄文上に形状がブタの鼻に似ている突起貼付文を施している。91は粗製土器の口縁部片である。

中世の土師質土器（162～168）

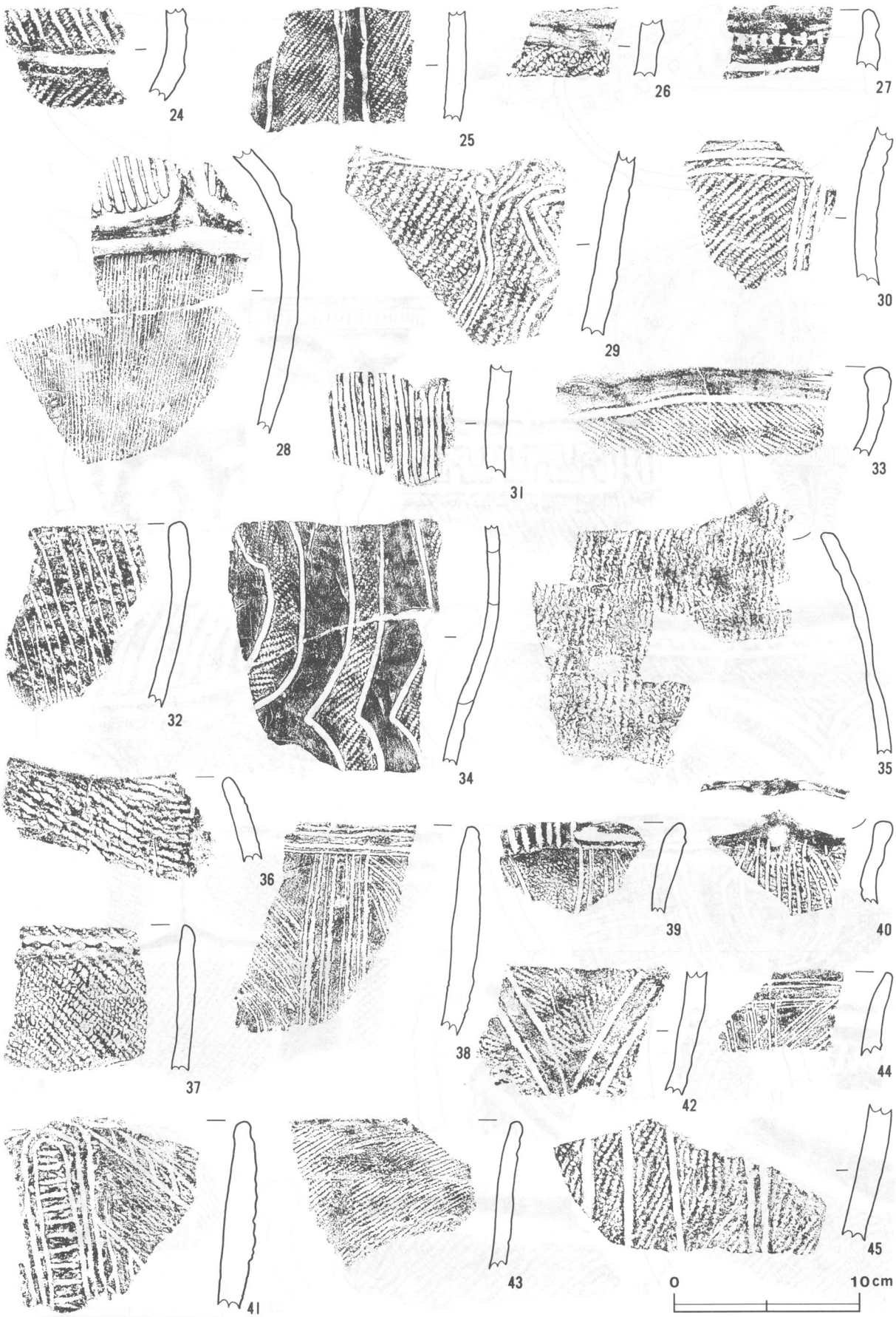
162～168は擂鉢の破片である。162～164は口縁部片である。165～168は体部片である。163は体部内面に8本単位の櫛目を施している。164は体部内面に5本単位の櫛目を施している。165と166は体部内面に1本単位の櫛目を施している。167は体部内面に6本単位の櫛目を施している。168は体部内面に3本単位の櫛目を施している。



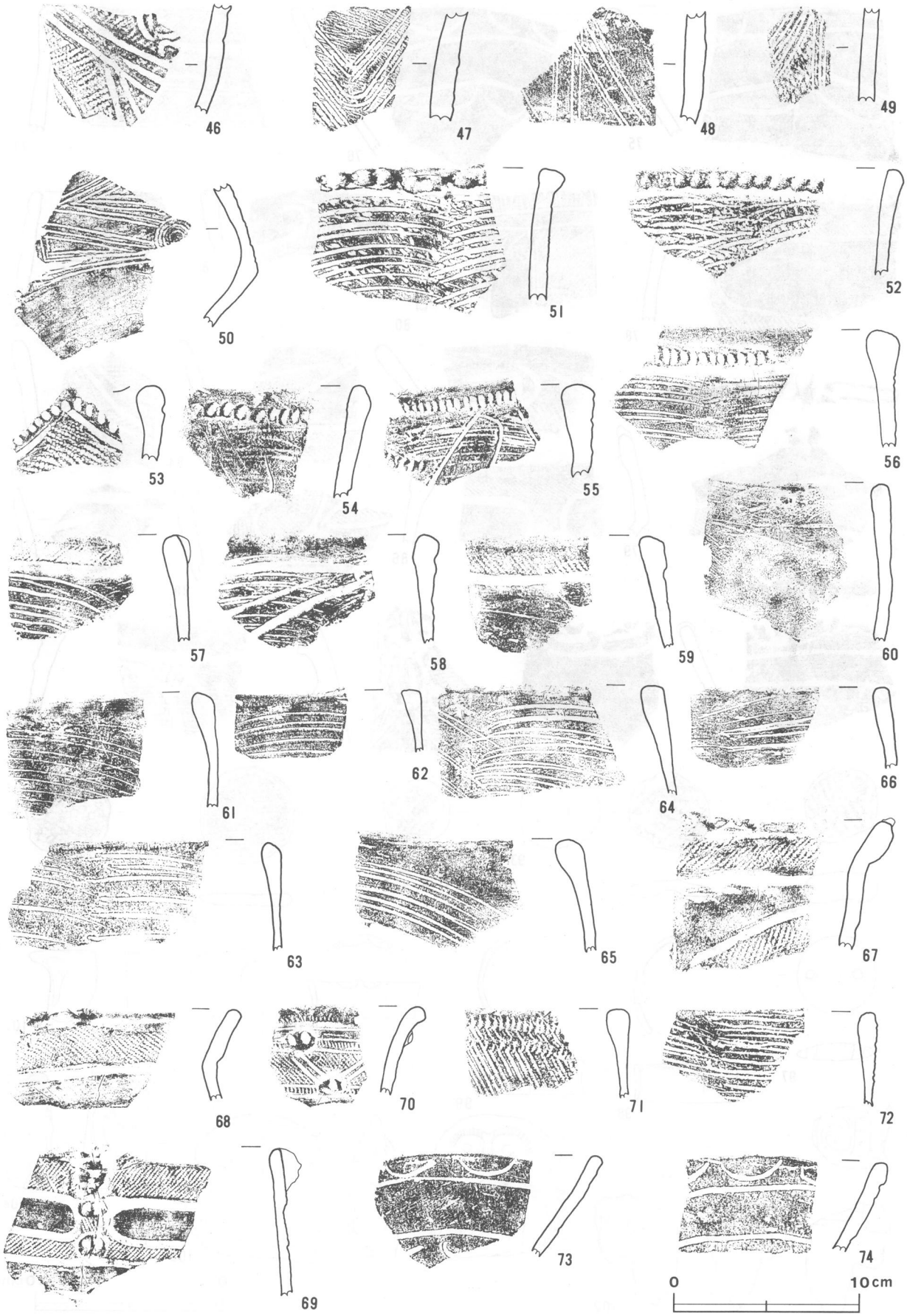
第182図　遺構外出土遺物実測・拓影図(1)



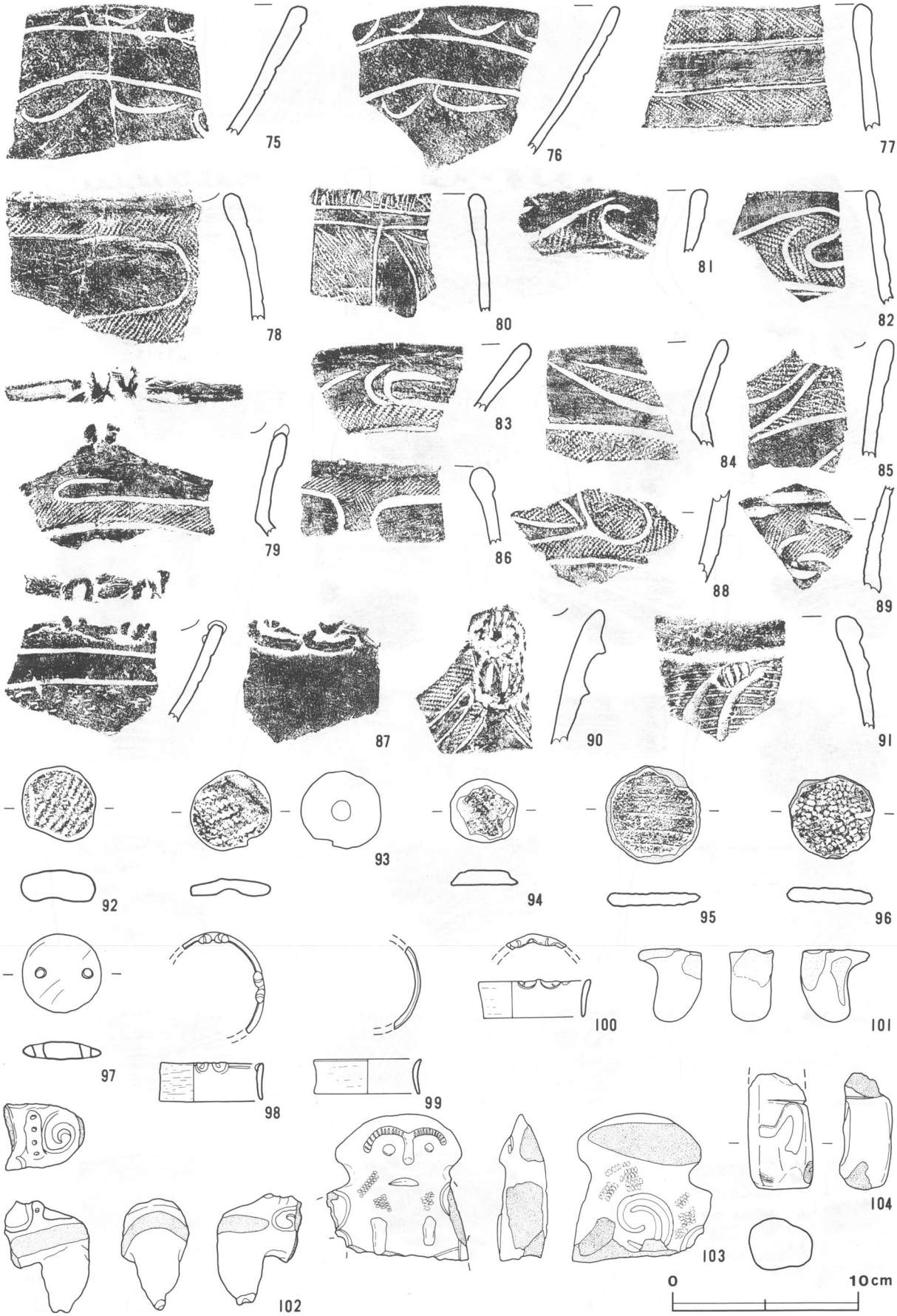
第183図　遺構外出土遺物実測・拓影図(2)



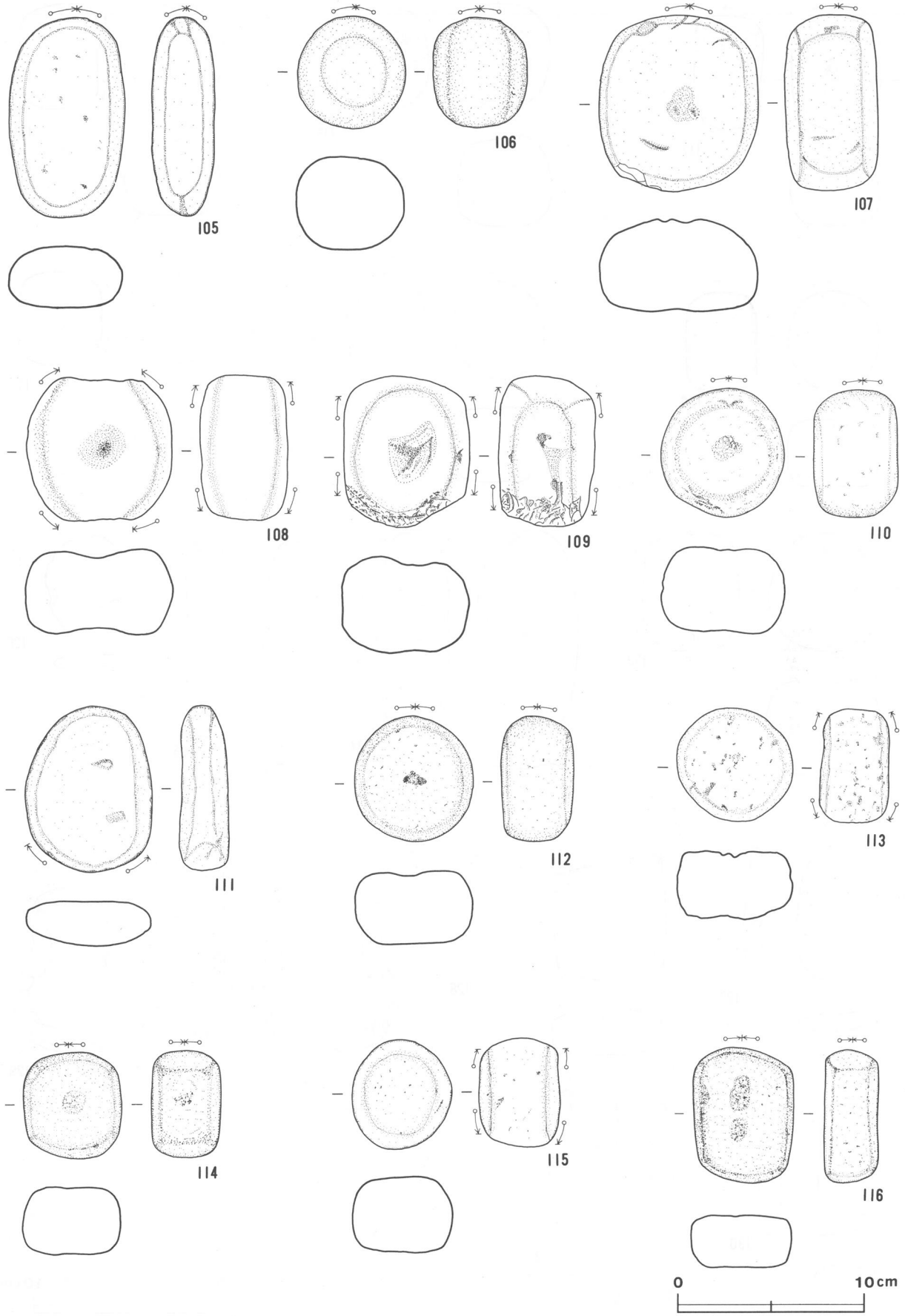
第184図　遺構外出土遺物実測・拓影図(3)



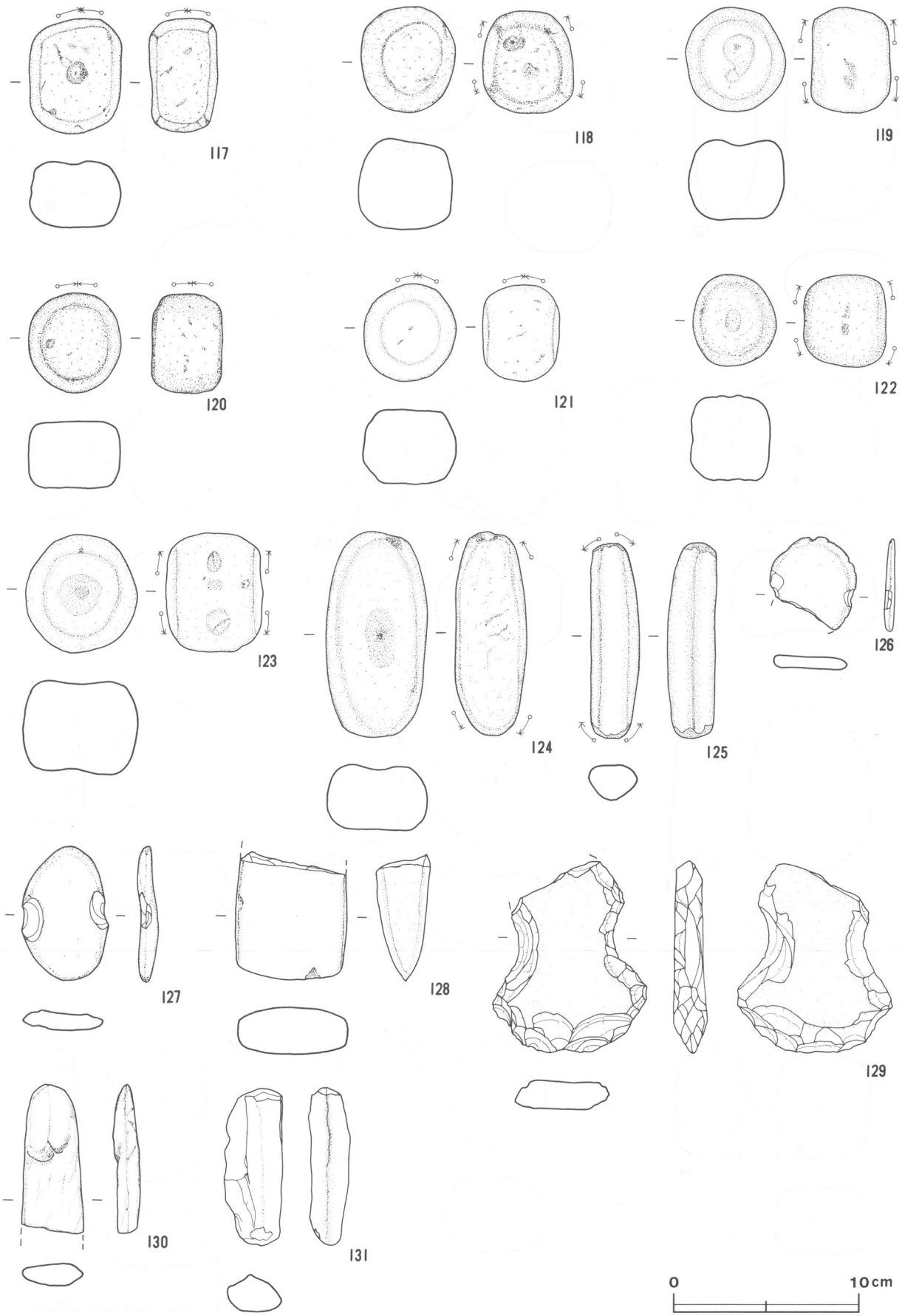
第185図　遺構外出土遺物実測・拓影図(4)



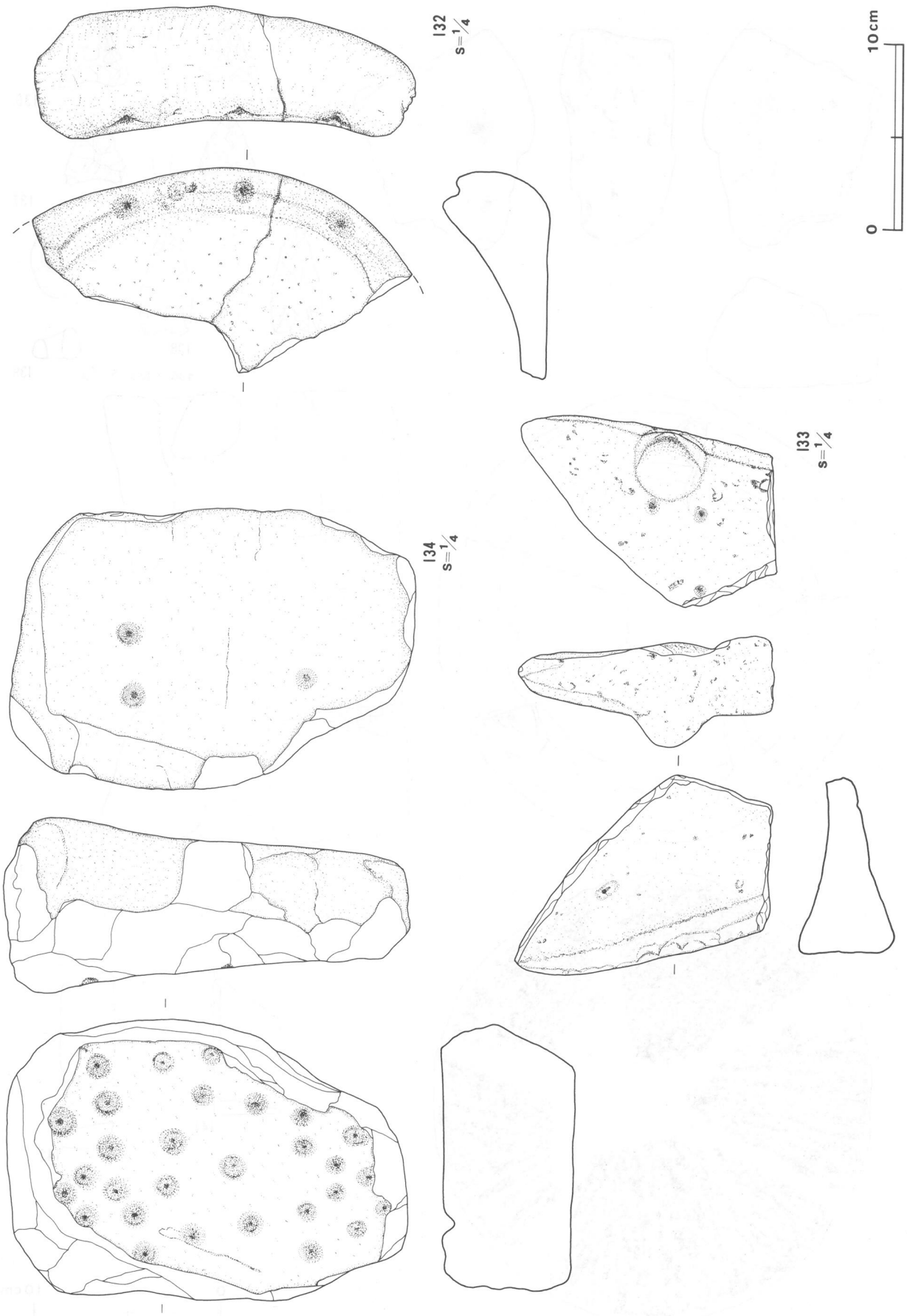
第186図　遺構外出土遺物実測・拓影図(5)



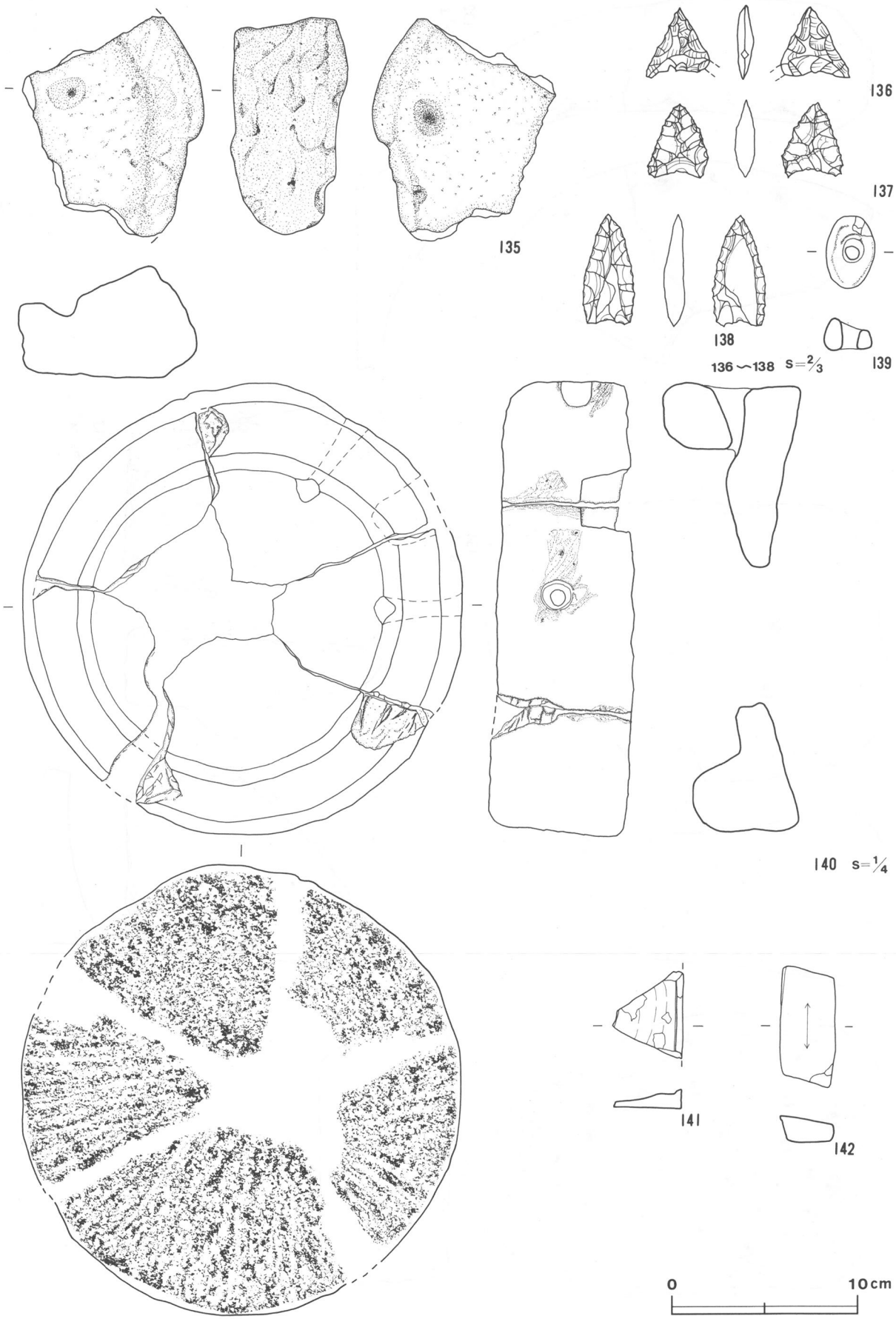
第187図　遺構外出土遺物実測図(6)



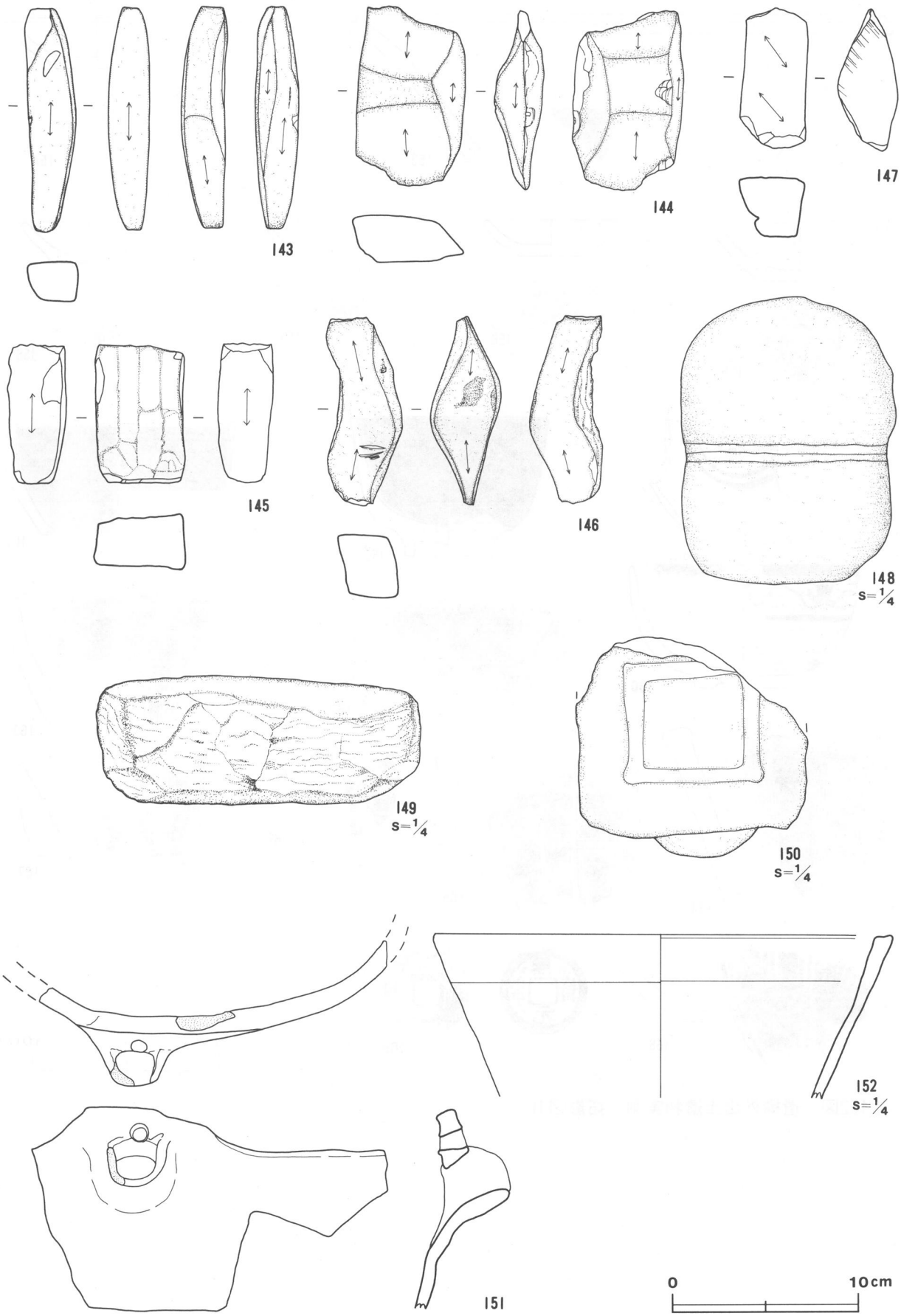
第188図　遺構外出土遺物実測図(7)



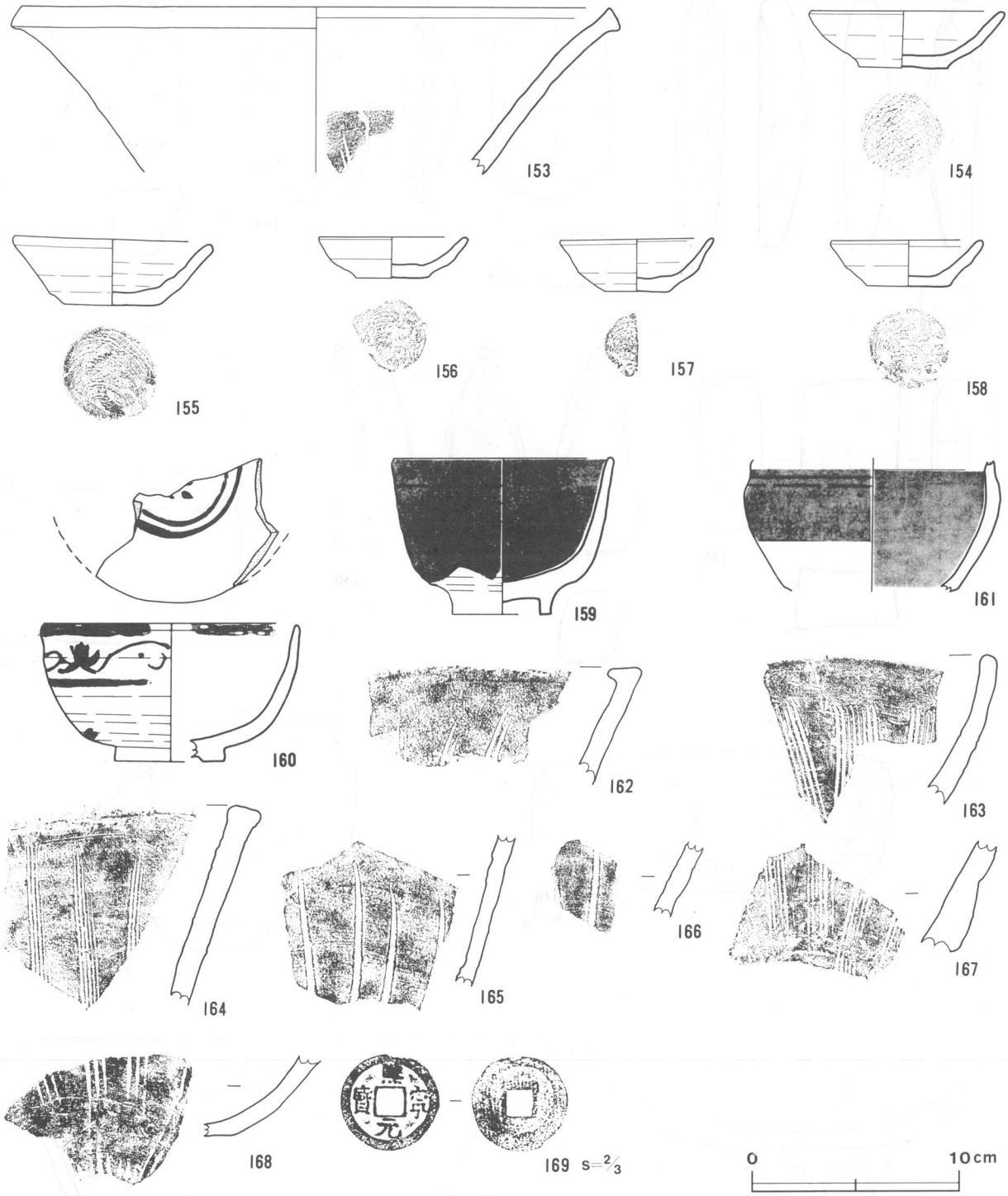
第189図　遺構外出土遺物実測図(8)



第190図　遺構外出土遺物実測・拓影図(9)



第191図　遺構外出土遺物実測図(10)



第192図　遺構外出土遺物実測・拓影図(11)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第182図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 16.5 B(14.5)	底部欠損。口縁部に2単位の突起を有する。胴部から口縁部はほぼ直立する。口縁部無文。胴部上位は爪形文を施した隆帯で区画し，区画内に沈線と半截竹管による連続刺突文を施している。下位は，横位ナデを施している。	砂粒・長石・ スコリア 暗褐色 普通	P260　40%　PL55 表採 (勝坂式)
2	深鉢形土器 縄文土器	A[26.0] B(16.3)	胴部から口縁部片。胴部上位は外傾し，口縁部は内彎する。口唇部に眼鏡状把手を有する。孔の周囲にキザミ目が巡る。口縁部は一部分に交互刺突文を施している。胴部上位には，背割り沈線を施した隆帯によるクランク文や縦位の沈線を施している。	砂粒・雲母 橙色 普通	P261　10%　PL55 表採 (中峠式)
3	蓋 縄文土器	A 9.8 B 1.8	ナデ整形を施している。	砂粒・長石・雲母 赤褐色　普通	P165　100%　PL55 表採(加曽利EⅢ～Ⅳ式)
4	深鉢形土器 縄文土器	A 34.0 B(19.0)	胴部から口縁部片。口縁部に小突起が1単位認められる。胴部上位は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部無文。胴部は沈線によって文様を描いている。	砂粒・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P108　40%　PL55 表採 (堀之内Ⅰ式)
5	深鉢形土器 縄文土器	B(5.8) C 3.6	底部から胴部片。胴部下位は，外傾する。胴部に単節縄文RLの縦位回転を地文に沈線で区画している。区画外は，磨り消している。底面から3cmほどまでは，横位ナデを施している。	砂粒・長石・雲母・ スコリア 赤褐色　普通	P252　20%　PL55 包含層 (安行Ⅰ式)
第183図 6	鉢形土器 縄文土器	A[14.8] B 9.9	丸底。胴部から口縁部は内彎する。口縁部文様帯は，単節縄文RLの縦位回転を地文に，沈線によって渦巻文を描いている。以下を押圧を加えた隆帯で区画している。底部は複列の沈線が円を描き，円内に単節縄文を充塡している。	砂粒・石英 橙色 普通	P259　50%　PL55 表採 (安行Ⅲa式)
7	鉢形土器 縄文土器	A 15.0 B 8.7 C 5.5	胴部から口縁部にかけて内彎しながら立ち上がる。外面は無文で，ヘラによるナデを施している。内面はナデを施している。	砂粒・長石・石英・ 雲母・スコリア 黄橙色　普通	P258　100%　PL55 表採 (安行Ⅲb式)
8	台付鉢形土器 縄文土器	B 2.4	底部片。外面に複列の円形刺突文が巡る。	砂粒・雲母・ スコリア にぶい赤褐色　普通	P263　5%　PL55 表採(安行Ⅲb式)

図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
第186図92	土製円板	4.0	4.0	1.6	(30.0)	80		DP39　表採　PL56
93	土製円板	4.3	4.2	0.9	(20.0)	90	裏面に未貫通孔。	DP40　表採　PL56
94	土製円板	3.3	3.6	0.9	(10.0)	90	無文。	DP41　表採　PL56
95	土製円板	5.2	5.1	0.6	20.0	100		DP37　表採　PL56
96	土製円板	4.9	4.5	0.8	20.0	100		DP38　表採　PL56
97	蓋	4.2	4.3	0.9	20.0	100	2単位の孔を有する。	DP36　表採　PL56
98	耳　栓	[6.0]	2.1	0.35	(10.0)	50	内面に装飾を施し，内・外面丁寧な磨きを施している。	DP42　表採　PL56
99	耳　栓	[5.6]	1.9	0.3	(10.0)	30	無文。内・外面丁寧な磨きを施している。	DP43　表採
100	耳　栓	[6.0]	2.0	0.3	(3.3)	20	内面に装飾を施している。	DP45　表採

図版番号	種　別	計測値(cm)			重量(g)	現存率(%)	器形及び文様の特徴	備　考
		最大長	最大幅	最大厚				
第186図101	土　偶	(3.5)	(3.4)	2.4	(30.0)	10	脚部。　無文。	DP35　表採　PL56
102	土　偶	5.9	4.5	3.7	(60.0)	10	右腕部。肩部に刺突文と沈線による渦巻文を施している。	DP34　表採　PL56 遮光器土偶
103	土　偶	(8.0)	7.5	2.4	(150.0)	40	胴部から頭部。粘土紐を貼り付け眉と鼻を，瘤を貼り付け目を表現し，口はキザミで表現している。胸部は粘土を貼り付け乳房を表現している。	DP33　表採　PL56 山形土偶
104	土　偶？	(6.2)	3.5	2.7	(60.0)	－	脚部？　無文。	DP32　表採

図版番号	種　別	計測値				石　質	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第187図105	磨　石	10.6	6.1	3.3	370.0	安山岩	Q150　表採　PL60
106	磨　石	6.0	5.9	5.0	240.0	安山岩	Q151　表採　PL60

図版番号	種別	計測値				石質	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第187図107	磨石	9.5	8.5	5.0	650.0	安山岩	Q165 表採	PL60
108	磨石	7.7	7.9	4.7	470.0	安山岩	Q166 表採	PL60
109	磨石	8.2	6.9	5.2	480.0	安山岩	Q167 表採	PL60
110	磨石	6.9	6.7	4.6	340.0	安山岩	Q168 表採	PL60
111	磨石	8.9	6.6	2.7	220.0	安山岩	Q169 表採	PL60
112	磨石	6.7	6.3	4.0	290.0	安山岩	Q170 表採	PL60
113	磨石	6.3	6.1	3.6	200.0	安山岩	Q171 表採	PL60
114	磨石	5.7	5.2	3.7	190.0	安山岩	Q172 表採	PL60
115	磨石	5.9	4.5	4.3	180.0	安山岩	Q173 表採	PL60
116	磨石	7.2	5.3	3.0	190.0	安山岩	Q174 表採	PL60
第188図117	磨石	6.1	4.9	3.7	160.0	安山岩	Q175 表採	PL60
118	磨石	5.7	5.1	4.9	200.0	安山岩	Q176 表採	PL60
119	磨石	5.5	5.3	4.3	200.0	安山岩	Q177 表採	PL60
120	磨石	5.4	5.0	3.9	150.0	安山岩	Q178 表採	PL60
121	磨石	5.2	5.0	4.1	160.0	安山岩	Q179 表採	PL60
122	磨石	4.9	4.4	4.6	100.0	安山岩	Q180 表採	PL60
123	磨石	6.4	6.2	5.3	280.0	安山岩	Q181 表採	PL60
124	磨石	11.0	5.5	3.9	370.0	安山岩	Q182 表採	PL60
125	敲石	10.5	2.6	1.9	90.0	粘板岩	Q154 表採	PL58
126	石錘	(5.0)	4.7	0.6	(20.0)	ホルンフェルス	Q191 表採 一部欠損	PL60
127	石錘	7.3	4.7	1.2	40.0	砂石	Q155 表採	PL60
128	磨製石斧	(6.8)	6.0	2.9	(180.0)	砂岩	Q164 表採 刃部片	PL57
129	打製石斧	(10.2)	8.3	1.8	(190.0)	ホルンフェルス	Q163 表採 一部欠損	PL57
130	石棒	(8.0)	3.4	1.5	(60.0)	緑泥片岩	Q189 表採 一部欠損	PL58
131	石棒	(8.5)	3.1	2.1	(80.0)	砂岩	Q190 表採 一部欠損	PL58
第189図132	石皿	(27.0)	(14.7)	9.5	(2680.0)	安山岩	Q183 表採 一部欠損 凹石転用	
133	石皿	(18.2)	(14.4)	8.1	(1220.0)	安山岩	Q184 表採 一部欠損 凹石転用	
134	石皿	(28.6)	(20.3)	12.7	(9320.0)	安山岩	Q194 表採 一部欠損 凹石転用	
第190図135	石皿	(15.9)	(13.0)	8.2	(1100.0)	安山岩	Q18 表採 一部欠損 凹石転用	
136	石鏃	1.9	1.7	0.4	0.8	黒曜石	Q160 表採	PL58
137	石鏃	2.0	1.7	0.5	1.1	チャート	Q161 表採	PL58
138	石鏃	3.0	1.4	0.5	1.8	メノウ	Q162 表採	PL58
139	垂れ飾り	1.9	1.3	0.8	3.5	翡翠	Q192 表採	PL57
140	石臼	32.0	−	10.3	6300.0	安山岩	Q193 表採 上臼	PL62
141	硯	(4.7)	(3.7)	1.0	(10.0)	凝灰岩	Q156 表採	
142	砥石	(6.4)	3.0	1.4	(40.0)	凝灰岩	Q188 表採 一部欠損	
第191図143	砥石	12.0	2.7	2.2	(90.0)	凝灰岩	Q187 表採 一部欠損	
144	砥石	9.7	5.8	2.5	140.0	凝灰岩	Q186 表採	
145	砥石	(7.4)	4.9	3.1	(180.0)	凝灰岩	Q185 表採 一部欠損	
146	砥石	10.1	4.0	3.7	140.0	凝灰岩	Q153 表採	PL61
147	砥石	(7.6)	3.5	3.3	(100.0)	凝灰岩	Q152 表採 一部欠損	PL61
148	五輪塔	20.5	15.3	−	5980.0	花崗岩	Q157 墓域表採 空風輪	PL61
149	五輪塔	23.1	23.0	−	7780.0	花崗岩	Q159 墓域表採 火輪	PL61
150	宝篋印塔	(15.8)	(16.5)	−	(4570.0)	花崗岩	Q158 墓域表採 一部欠損 塔身	PL61

図版番号	器　種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第191図 151	鍋 土師質土器	B(10.8)	口縁部片。注口を有する。注口部の上部に一つの孔を有する。	内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 にぶい赤褐色 普通	P262　10%　PL56 表採
152	内耳鍋 土師質土器	A[32.6] B(9.8)	体部から口縁部片。体部は外傾しながら立ち上がり，口縁部はやや内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面は縦位のナデ。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P264　10% 表採 体部外面煤付着
第192図 153	擂鉢 土師質土器	A[28.4] B(8.0)	体部から口縁部片。体部上位は外反し，口縁部は大きく外反する。	内・外面横ナデ。体部内面に3本単位の櫛目が認められる。	砂粒・長石・雲母・スコリア にぶい褐色　普通	P265　10% 表採
154	皿 土師質土器	A　9.1 B　2.8 C　4.3	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は外傾する。底部はやや突出する。	ロクロ形。底部回転糸切り。	雲母 にぶい黄橙色 普通	P253　80%　PL56 包含層
155	皿 土師質土器	A　9.6 B　3.2 C　4.4	平底。口縁部一部欠損。体部・口縁部は直線的に外傾する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 浅黄橙色　普通	P254　70%　PL56 包含層
156	皿 土師質土器	A[7.2] B　1.9 C[3.6]	平底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は外傾する。底部は突出気味。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・石英・スコリア 橙色　普通	P255　40%　PL56 包含層
157	皿 土師質土器	A[7.4] B　2.5 C[3.2]	平底。体部は，内彎気味に外傾する。口縁部はやや外反する。底部は少し突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・スコリア 橙色 普通	P256　40%　PL56 包含層
158	皿 土師質土器	A　7.3 B　2.2 C　3.8	平底。体部・口縁部は内彎気味に外傾する。底部は少し突出する。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	砂粒・長石・雲母・スコリア　橙色 普通	P257　80%　PL56 包含層
159	碗 陶　器	A[10.6] B　7.5 C　4.8 D　0.8	高台はやや外反する。体部・口縁部は内彎しながら立ち上がる。内外面に釉をかけている。底部外面は無釉。	ロクロ成形。削り出し高台。	浅黄色 (釉)オリーブ黄色 良好	P271　40%　PL56 包含層
160	碗 磁　器	A[10.6] B　6.5 C　5.2 D　0.7	染付の碗。高台は低く直立する。体部から口縁部は内彎しながら立ち上がる。外面に花唐草を描いている。畳付は露胎。	ロクロ成形。削り出し高台。	灰色 (釉)灰白色 良好	P272　30%　PL56 表採 美濃系(志野焼)(17C)
161	天目碗 陶　器	B(6.5)	体部から口縁部片。体部は外傾しながら立ち上がる。口縁部はやや外反する。いわゆる，スッポン口作り。内・外面には鉄釉を施している。体部外面下半露胎。	ロクロ成形。	淡黄色 (釉)極暗赤褐色 良好	P273　30%　PL56 表採 瀬戸・美濃系 (18C前半)

図版番号	鋳名	初鋳年（西暦）	鋳造地名	備考
第192図169	熙寧元宝	1068	北宋	M1　調査区西側表採　PL61

茨城県教育財団文化財調査報告第127集

伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3
高野台遺跡
前田村遺跡D・F区
(上巻)

平成9(1997)年9月30日　印刷
平成9(1997)年9月30日　発行
発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310 水戸市見和1丁目356番地2号
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029－225－6587
印刷　富士オフセット印刷株式会社
〒310 水戸市根本3丁目1534－2
TEL 029－231－4241